OMRON

マシンオートメーションコントローラ

NJ/NX シリーズ

CPU ユニット／NX ユニット イベント集

SYSMAC always in control

SBCA-489B

おことわり

- 本資料には安全に関する注意事項を含め、使用する際の詳細内容については記載していません。必ず、本資料で使用する各機器のマニュアルや取扱説明書を入手し、「安全上の注意」、「安全上の要点」、「使用上の注意」などの安全に関する注意事項を含め、内容を確認した上で使用してください。
- 本資料の内容の一部または全部を、オムロン株式会社の許可なしに複写、複製、転載することを禁じます。
- 本資料の内容に関しては、改良のため予告なしに仕様などを変更することがあります。あらかじめご了承ください。
- 本資料の内容に関しては、万全を期しておりますが、万一ご不審な点や誤りなど、お気づきのことがありましたら、お手数ですが担当者までご連絡ください。

商標

- Sysmac は、オムロン株式会社 FA 機器製品の日本およびその他の国における商標または登録商標です。
- Microsoft、Windows、Excel、Visual Basic、Microsoft Edge は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- EtherCAT®は、ドイツ Beckhoff Automation GmbH によりライセンスされた特許取得済み技術であり登録商標です。
- ODVA、CIP、CompoNet、DeviceNet、EtherNet/IP は ODVA の商標です。
- SD、SDHC ロゴは、SD-3C,LLC の商標です。

その他、本文中に掲載している会社名および製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

著作権

- 本製品にはサードパーティ製のソフトウェアが組み込まれています。このソフトウェアに関連するライセンスと著作権については、http://www.fa.omron.co.jp/nj_info_j/ をご覧ください。

はじめに

目的

本書は、NJ/NX シリーズのイベントの詳細説明だけをを 1 冊にまとめたものです。発生したイベントの詳細を確認する場合に使用します。

適用範囲

以下の製品のイベントを掲載しています。

- NJ/NX シリーズ CPU ユニット（DB 接続 CPU ユニットを含む）

（注）次の CPU ユニットだけで発生するイベントは掲載していません。
NJ シリーズ SECS/GEM 搭載 CPU ユニット（形 NJ501-1340）
NJ シリーズ NJ Robotics CPU ユニット形 NJ501-4□□□
NJ シリーズ ロボット統合 CPU ユニット（形 NJ501-R□□□）
NJ シリーズ NC 統合コントローラ（形 NJ501-5300）

- NX ユニット
  a）NX シリーズ デジタル I/O ユニット
  b）NX シリーズ アナログ I/O ユニット（温度入力ユニット、ヒータ断線検知ユニット、高速アナログユニット）
  c）NX シリーズ システムユニット
  d）NX シリーズ 位置インタフェースユニット
  e）NX シリーズ コミュニケーションインタフェースユニット
  f） NX シリーズ セーフティ CPU ユニット
  g）NX シリーズ セーフティ I/O ユニット
  h）NX シリーズ ロードセル入力ユニット
  i） NX シリーズ IO-Link マスタユニット

（注）NX シリーズ温度調節ユニット（形 NX-TC□□□□）は掲載していません。

（注）EtherCAT スレーブのイベントは掲載していません。

対象読者

本書は、以下のような読者を対象としています。

- NJ/NX シリーズの異常管理方法およびイベントについて理解している。

目次構成

1 NJ/NX シリーズ CPU ユニットのイベント

2 NX ユニットのイベント

目次

はじめに **1**
目的 1
適用範囲 1
対象読者 1

目次構成 **3**

改訂履歴 **6**

第 1 章　NJ/NX シリーズ CPU ユニットのイベント

1-1　PLC 機能モジュール **1-2**
1-1-1　自己診断関連 1-2
1-1-2　CJ ユニット構成関連 1-22
1-1-3　内蔵 I/O、オプションボード関連 1-32
1-1-4　タスク関連 1-35
1-1-5　コントローラ操作関連 1-40
1-1-6　FINS 通信関連 1-112
1-1-7　命令関連 1-118

1-2　NX バス機能モジュール **1-262**
1-2-1　NX バス関連 1-262

1-3　X バス機能モジュールの異常 **1-275**
1-3-1　X バス関連 1-275

1-4　X バスユニット共通機能モジュールの異常 **1-284**
1-4-1　X バスユニット共通関連 1-284

1-5　モーション制御機能モジュール **1-300**
1-5-1　モーション制御機能関連 1-300
1-5-2　モーション制御命令関連 1-332

1-6　EtherNet/IP 機能モジュール **1-397**
1-6-1　内蔵 EtherNet/IP 関連 1-397

1-7　EtherCAT マスタ機能モジュール **1-437**
1-7-1　異常の説明 内蔵 EtherCAT ポート関連 1-437

1-8　OPC UA 機能 **1-494**
1-8-1　OPC UA サーバ機能関連 1-494
1-8-2　OPC UA 命令関連 1-504

1-9　DB 接続サービス機能 **1-506**
1-9-1　DB 接続サービス関連 1-507
1-9-2　DB 接続命令関連 1-518

第 2 章　NX ユニットのイベント

2-1　NX シリーズデジタル I/O ユニット **2-2**
2-1-1　デジタル I/O ユニット関連 2-2

2-2　NX シリーズアナログ I/O ユニット **2-10**
2-2-1　アナログ I/O ユニット関連 2-10
2-2-2　温度入力ユニット関連 2-31
2-2-3　ヒータ断線検知ユニット関連 2-44
2-2-4　高速アナログ入力ユニット関連 2-55

2-3　NX シリーズシステムユニット **2-73**
2-3-1　システムユニット関連 2-73

2-4 NX シリーズ位置インタフェースユニット 2-75
2-4-1 位置インタフェースユニット関連 2-75
2-5 NX シリーズコミュニケーションインタフェースユニット 2-88
2-5-1 コミュニケーションインタフェースユニット関連 2-88
2-6 NX シリーズセーフティ CPU ユニット 2-98
2-6-1 システム異常 2-98
2-6-2 通信機能に関する異常 2-99
2-6-3 プログラム実行機能に関する動作継続異常 2-107
2-6-4 プログラム実行機能に関する動作停止異常 2-116
2-6-5 設定に関する異常 2-118
2-6-6 その他の異常 2-121
2-6-7 ユーザアクセスに関するログ 2-122
2-6-8 リストア機能に関する異常 2-123
2-7 NX シリーズセーフティ I/O ユニット 2-129
2-7-1 システム異常 2-129
2-7-2 通信機能に関する異常 2-130
2-7-3 セーフティ入出力機能に関する異常 2-135
2-7-4 その他の異常 2-142
2-7-5 ユーザアクセスに関するログ 2-142
2-8 NX シリーズロードセル入力ユニット 2-144
2-8-1 ロードセル入力ユニット関連 2-144
2-9 NX シリーズ IO-Link マスタユニット 2-158
2-9-1 IO-Link マスタユニット関連 2-158

改訂履歴

改訂記号は、表表紙・裏表紙に記載されている資料番号の後尾に付記されます。

改訂記号	改訂年月	改訂理由・改訂ページ
A	2021 年 1 月	初版
B	2024 年 7 月	誤記修正

1

NJ/NX シリーズ CPU ユニットのイベント

1-1 PLC 機能モジュール 1-2
1-1-1 自己診断関連 1-2
1-1-2 CJ ユニット構成関連 1-22
1-1-3 内蔵 I/O、オプションボード関連 1-32
1-1-4 タスク関連 1-35
1-1-5 コントローラ操作関連 1-40
1-1-6 FINS 通信関連 1-112
1-1-7 命令関連 1-118

1-2 NX バス機能モジュール 1-262
1-2-1 NX バス関連 1-262

1-3 X バス機能モジュールの異常 1-275
1-3-1 X バス関連 1-275

1-4 X バスユニット共通機能モジュールの異常 1-284
1-4-1 X バスユニット共通関連 1-284

1-5 モーション制御機能モジュール 1-300
1-5-1 モーション制御機能関連 1-300
1-5-2 モーション制御命令関連 1-332

1-6 EtherNet/IP 機能モジュール 1-397
1-6-1 内蔵 EtherNet/IP 関連 1-397

1-7 EtherCAT マスタ機能モジュール 1-437
1-7-1 異常の説明 内蔵 EtherCAT ポート関連 1-437

1-8 OPC UA 機能 1-494
1-8-1 OPC UA サーバ機能関連 1-494
1-8-2 OPC UA 命令関連 1-504

1-9 DB 接続サービス機能 1-506
1-9-1 DB 接続サービス関連 1-507
1-9-2 DB 接続命令関連 1-518

1-1 PLC 機能モジュール

1-1-1 自己診断関連

イベント名	ディップスイッチ設定エラー			**イベントコード**	00090000Hex	
内容	ディップスイッチの設定の誤りを検出しました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	電源投入時／コントローラリセット時
異常の属性	**重要度**	全停止フォールト	**復旧方法**	電源再投入	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	停止	**動作**	停止		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		―		―	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	ディップスイッチの設定の誤り		ディップスイッチをすべて OFF にしてください		ディップスイッチの設定について正しく運用してください	
付属情報	付属情報 1：ディップスイッチの読出値：0000 0000Hex～0000 000FHex					
注意点／備考	なし					

イベント名	内部バスチェックエラー			**イベントコード**	000D0000Hex	
内容	内部バスで致命的なエラーが発生しました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	全停止フォールト	**復旧方法**	電源再投入	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	停止	**動作**	停止。Sysmac Studio 接続不可の可能性あり		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		―		―	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	導電性異物混入		周囲に導電性異物がある場合には、CPU ユニット内部をエアブローしてください		制御盤付近での金属加工作業を実施しないでください。またごみ･粉塵の少ない環境で作業を実施してください。 また制御盤は閉めてください	
	ノイズ • バス信号のデータ化け • バス I/F 回路部の誤動作		上記の処置で本異常が解除されない場合は、FG、電源ラインなど侵入経路を調査して、ノイズ対策を実施してください		ノイズ対策を実施してください	
	CPU ユニット故障 • 内部バスの断線		上記 2 つの処置を行っても本異常が解除されない場合は、CPU ユニットを交換してください		なし	
付属情報	付属情報 1：システム情報					
注意点／備考	本異常発生時、CPU ユニットは停止しますが、本異常はイベントログに記録されます。コントローラを電源再投入して本異常が解除されれば、イベントログを確認することで本異常の発生を確認することができます。 ただし、異常発生箇所によっては、再起動できない場合もあります					

イベント名	不揮発性メモリ寿命			**イベントコード**	000E0000Hex	
内容	不揮発性メモリの消去回数が規定値をオーバーしました。またはメモリの不良ブロック数が規定値をオーバーしました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	電源投入時／コントローラリセット時／定期的
異常の属性	**重要度**	全停止フォールト	**復旧方法**	電源再投入	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	停止	**動作**	停止		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	不揮発性メモリの寿命		CPU ユニットを交換してください		ユーザプログラムやアプリケーションによっては、不揮発性メモリの寿命を早めてしまう可能性があります。下記(1)、(2)について確認してください。 (1) システム定義変数や専用命令による SD メモリカードバックアップ処理の実行頻度 (2) MC_SaveCamTable 命令や ChangeIPAdr 命令など不揮発性メモリに書き込みを行う命令の実行頻度 上記(1)、(2)の実行が失敗する場合は、その要因を除去した後に再実行するようにしてください。失敗する要因が除去されていないままリトライすると、不揮発性メモリの消去回数が増加し、不揮発性メモリの寿命を早めてしまう可能性があります。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	CPU ユニット内部温度オーバー（運転停止）			**イベントコード**	00110000Hex	
内容	CPU ユニット内部の温度が高温になったため、運転を停止しました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	全停止フォールト	**復旧方法**	電源再投入／コントローラリセット	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	停止	**動作**	停止。Sysmac Studio 接続不可。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	使用周囲温度が高い		使用周囲温度を 0～55℃に入るように、周囲環境を整備してください • 通風スペースを十分とってください • ヒータ、トランス、大容量の抵抗など発熱量の高い機器の真上に取り付けることは避けてください • 周囲温度が 55℃以上になるときは、強制ファンまたはクーラを設置してください		常に周囲温度が 0～55℃になるように周囲環境を整備してください	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	メインメモリチェックエラー			**イベントコード**	00130000Hex *1	
内容	CPU ユニット内部のメインメモリのチェックでエラーを検出しました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	全停止フォールト	**復旧方法**	電源再投入／コントローラリセット	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	停止	**動作**	停止		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	導電性異物混入		周囲に導電性異物がある場合は、CPU ユニット内部をエアブローしてください		制御盤付近での金属加工作業を実施しないでください。 制御盤は閉めた状態で使用してください	
	ノイズ • メモリデータ化け • マイコン暴走 • メモリ書き込み回路誤動作		上記の要因でない場合は、コントローラを電源再投入し、本異常が解除されるか確認してください。 本異常が頻発する場合は、FG、電源ラインなどノイズ侵入経路を調査し、ノイズ対策を実施してください		ノイズ対策を実施してください	
	ソフトエラー • 宇宙線／放射能によるデータ化け		上記の要因でなく、CPU ユニットを電源再投入またはコントローラリセットしても本異常が解除されない場合は CPU ユニットを交換してください		なし	
	CPU ユニット故障 • メモリ素子故障 • メモリ周辺回路故障				定期点検を行ってください	
付属情報	付属情報 1：システム情報 付属情報 2：システム情報					
注意点／備考	なし					

*1. 以下の CPU ユニットで発生するイベントです。
- 形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニット：Ver.1.13 以降
- 形 NX502 CPU ユニット：Ver.1.60 以降
- 形 NX701、形 NJ5 ハードウェアリビジョン Rev.B：Ver.1.16 以降
- 形 NJ3 ハードウェアリビジョン Rev.A：Ver.1.17 以降
- 形 NJ1 ハードウェアリビジョン Rev.A：Ver.1.17 以降

イベント名	不揮発性メモリ修復あり			**イベントコード**	10010000Hex	
内容	不揮発性メモリのチェックでエラーを検出し、ファイルシステムの修復またはフォーマットを実行しました。ただし、以前のファイルが削除された可能性があります					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	電源投入時／コントローラリセット時
異常の属性	**重要度**	全停止フォールト	**復旧方法**	電源再投入／コントローラリセット	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	停止	**動作**	停止		

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	―	―

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	BUSY LED 点灯中に、コントローラの電源を OFF にした	Sysmac Studio でプロジェクトを照合し、照合一致している場合は電源再投入またはコントローラリセットして本異常が解除されるか確認してください。解除された場合は、装置が正しく動作するか確認してください。 照合不一致または異常解除されない場合、装置が正しく動作しない場合は、Sysmac Studio からメモリオールクリアした後、プロジェクトを再ダウンロードしてください。 電源再投入またはコントローラリセットしても本異常が解除されない場合は、メモリが壊れていますので CPU ユニットを交換してください。 なお、プロジェクトを再ダウンロードせずにコントローラを電源再投入またはコントローラリセットすると、意図しない動作をする可能性があり非常に危険です	BUSY LED 点灯中は電源を OFF にしないでください
	BUSY LED 点灯中に、瞬停によりコントローラに電断が発生した		電源事情が悪い場所では、定格の電圧・周波数の電源が供給できるようにしてください

付属情報	付属情報 1：修復内容 • 0000 0000Hex：ファイルシステム修復成功 • 0000 0001Hex：フォーマット実行
注意点／備考	必ずプロジェクトの照合一致の確認と装置の動作確認、またはプロジェクトの再転送を行ってください。これを行わずにコントローラの電源再投入またはコントローラリセットを行うと、意図しない動作をする可能性があり非常に危険です

イベント名	不揮発性メモリデータ破壊			イベントコード	10020000Hex	
内容	不揮発性メモリに存在すべきファイルがないか、破壊されています					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	なし	検出タイミング	電源投入時／コントローラリセット時
異常の属性	重要度	全停止フォールト	復旧方法	電源再投入／コントローラリセット	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	停止	動作	停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	BUSY LED 点灯中に、コントローラの電源を OFF にした		Sysmac Studio からメモリオールクリアした後、プロジェクトをダウンロードしてください		BUSY LED 点灯中は電源を OFF にしないでください	
	BUSY LED 点灯中に、瞬停によりコントローラに電断が発生した				電源事情が悪い場所では、定格の電圧・周波数の電源が供給できるようにしてください	
	CPU ユニットの故障		上記の処置で本異常が解除されない場合は、CPU ユニットを交換してください		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	メインメモリチェックエラー			イベントコード	10080000Hex	
内容	CPU ユニット内部のメインメモリのチェックでエラーを検出しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	なし	検出タイミング	常時
異常の属性	重要度	全停止フォールト	復旧方法	電源再投入	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	停止	動作	停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	導電性異物混入		周囲に導電性異物がある場合は、CPU ユニット内部をエアブローしてください		制御盤付近での金属加工作業を実施しないでください。 制御盤は閉めた状態で使用してください	
	ノイズ • メモリデータ化け • マイコン暴走 • メモリ書き込み回路誤動作		上記の要因でない場合は、コントローラを電源再投入し、本異常が解除されるか確認してください。 本異常が頻発する場合は、FG、電源ラインなどノイズ侵入経路を調査し、ノイズ対策を実施してください		ノイズ対策を実施してください	
	ソフトエラー • 宇宙線／放射能によるデータ化け		上記の要因でなく、CPU ユニットを電源再投入またはコントローラリセットしても本異常が解除されない場合は CPU ユニットを交換してください		なし	
	CPU ユニット故障 • メモリ素子故障 • メモリ周辺回路故障				定期点検を行ってください	
付属情報	付属情報 1：システム情報					
注意点／備考	なし					

イベント名	バッテリバックアップメモリへの保存未実行			**イベントコード**	100A0000Hex *1	
内容	ソフトウェアにエラーが発生したため、電断時処理のバッテリバックアップメモリへの保存処理が実行できませんでした					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	電源投入時／コントローラリセット時
異常の属性	**重要度**	全停止フォールト	**復旧方法**	電源再投入	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	停止	**動作**	停止。保持属性を持つ変数、CJ シリーズユニット用メモリ DM/EM/HR が前回の電断直前の値ではないため、処置対策を実施していない場合は、次回の電源投入時にユーザプログラムやユニットが正常動作しない可能性あり		

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	_RetainUnexec*2	BOOL	電断保持未実行フラグ

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	ソフトウェアにエラーが発生した	以下を行ってください • 保持変数と CJ ユニット用メモリの保持エリアの値を確認し、正しい値に変更してください • 絶対値エンコーダ付きサーボモータを使用している場合、電源投入後、サーボ ON し、軸のフィードバック現在位置を確認してください • 処置が完了したら、電断保持未実行フラグ(_RetainUnexec)を FALSE にしてください	なし

付属情報	なし
注意点／備考	本異常が発生した場合、以下の値は、前回の電源投入時の値となります。 • 保持変数（保持属性あり、または保持エリアに AT 指定された変数） • CJ ユニット用メモリの保持エリア • 絶対値エンコーダ原点位置オフセットデータ 処置完了後に電断保持未実行フラグ(_RetainUnexec)を FALSE にしてください 保持変数と CJ ユニット用メモリの保持エリアの現在値や絶対値エンコーダ原点位置オフセットデータが意図しない値でユーザプログラムが動作しないよう、必要に応じて、電断保持未実行フラグ(_RetainUnexec)をインタロック条件としてユーザプログラムにて対策を行ってください

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.10 以降で発生するイベントです。
*2. 以下の CPU ユニットで使用できるシステム定義変数です。
- NJ シリーズ、形 NX502、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニット：Ver.1.64 以降
- 形 NX701 CPU ユニット：Ver.1.35 以降

イベント名	不揮発性メモリデータ破壊			イベントコード	100B0000Hex	
内容	不揮発性メモリに存在すべきファイルがないか、破壊されています					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	なし	検出タイミング	電源投入時／コントローラリセット時
異常の属性	重要度	全停止フォールト	復旧方法	電源再投入／コントローラリセット	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	停止	動作	停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	BUSY LED 点灯中に、コントローラの電源を OFF にした		Sysmac Studio からメモリオールクリアした後、プロジェクトをダウンロードしてください		BUSY LED 点灯中は電源を OFF にしないでください	
	BUSY LED 点灯中に、瞬停によりコントローラに電断が発生した				電源事情が悪い場所では、定格の電圧・周波数の電源が供給できるようにしてください	
	CPU ユニットの故障		上記の処置で本異常が解除されない場合は、CPU ユニットを交換してください		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	イベント重要度設定異常			イベントコード	100C0000Hex	
内容	イベント重要度設定ファイルの内容が不正です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	なし	検出タイミング	電源投入時／コントローラリセット時
異常の属性	重要度	全停止フォールト	復旧方法	電源再投入／コントローラリセット	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	停止	動作	停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	イベント重要度設定のダウンロード中にコントローラを電断／SysmacStudio との通信を切断したためイベント重要度設定が不正		メモリオールクリアを実行した後、イベント重要度設定ファイルを再転送してください		ダウンロード中にコントローラを電断／SysmacStudio との通信を切断しないでください	
	メモリオールクリア中にコントローラを電断したためイベント重要度設定が不正				メモリオールクリア中にコントローラを電断しないでください	
	不揮発性メモリの故障		上記の処置を行っても本異常が頻発する場合は、CPU ユニットを交換してください		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	保持変数の現在値復元失敗			**イベントコード**	100F0000Hex	
内容	起動時に保持変数の現在値の復元に失敗し、初期化されました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	電源投入時／コントローラリセット時
異常の属性	**重要度**	全停止フォールト	**復旧方法**	電源再投入／コントローラリセット	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	停止	**動作**	停止。 保持属性を持つ変数、CJ シリーズユニット用メモリ DM/EM/HR が破壊されたため、ユーザプログラムやユニットが正常動作しない可能性あり（形 NX1P2 の場合） 保持属性を持つ変数が破壊されたため、ユーザプログラムやユニットが正常動作しない可能性あり（NY シリーズの場合）		

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	_RetainFail	BOOL	電断保持失敗フラグ
	_RetainUnexec*1	BOOL	電断保持未実行フラグ

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	• ソフトウェアにエラーが発生した • バックアップメモリの故障	以下を行ってください • 保持変数と CJ ユニット用メモリの保持エリアの値を確認し、正しい値に変更してください • 処置が完了したら、電断保持未実行フラグ(_RetainUnexec)を FALSE にしてください（形 NX502、形 NX102、および形 NX1P2 の場合） • 本異常が再発する場合は、CPU ユニットを交換してください	なし

付属情報	なし
注意点／備考	以下の値は、初期値となっています • 保持変数（保持属性あり、または保持エリアに AT 指定された変数） • CJ ユニット用メモリの保持エリア （以下、形 NX502、形 NX102、および形 NX1P2 の場合） • 処置完了後に電断保持未実行フラグ(_RetainUnexec)を FALSE にしてください • 保持変数と CJ ユニット用メモリの保持エリアの現在値が意図しない値でユーザプログラムが動作しないよう、必要に応じて、電断保持未実行フラグ(_RetainUnexec)をインタロック条件としてユーザプログラムにて対策を行ってください

*1. 以下の CPU ユニットで使用できるシステム定義変数です。
- NJ シリーズ、形 NX502、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニット：Ver.1.64 以降
- 形 NX701 CPU ユニット：Ver.1.35 以降

イベント名	保持変数の現在値保存未実行			**イベントコード**	10100000Hex	
内容	ソフトウェアにエラーが発生したため、電断時処理の保持変数の現在値の保存処理が実行できませんでした(形 NX502、形 NX102 および形 NX1P2 の場合) 強制シャットダウンされた、またはソフトウェアにエラーが発生したため、電断時処理の保持変数の現在値の保存処理が実行できませんでした(NY シリーズの場合)					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	電源投入時／コントローラリセット時
異常の属性	**重要度**	全停止フォールト	**復旧方法**	電源再投入	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	停止	**動作**	停止。 保持属性を持つ変数、CJ シリーズユニット用メモリ DM/EM/HR が前回の電断直前の値でないため、ユーザプログラムやユニットが正常動作しない可能性あり(形 NX502、形 NX102 および形 NX1P2 の場合) 保持属性を持つ変数が前回の電断直前の値でないため、ユーザプログラムやユニットが正常動作しない可能性あり(NY シリーズの場合)		

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	_RetainUnexec*1	BOOL	電断保持未実行フラグ

発生要因とその処置	**発生要因(推定原因)**	**処置対策**	**再発防止**
	• ソフトウェアにエラーが発生した(形 NX502、形 NX102 および形 NX1P2 の場合) • 強制シャットダウンされた(NY シリーズの場合)	以下を行ってください。 • 保持変数の値を確認し、正しい値に変更してください(NY シリーズの場合) • 絶対値エンコーダ付きサーボモータを使用している場合、電源投入後サーボ ON し、軸のフィードバック現在位置を確認してください (以下、形 NX502、形 NX102 および形 NX1P2 の場合) • 保持変数と CJ ユニット用メモリの保持エリアの値を確認し、正しい値に変更してください • 処置が完了したら、電断保持未実行フラグ(_RetainUnexec)を FALSE にしてください	• なし(形 NX502、形 NX102 および形 NX1P2 の場合) • 強制シャットダウン以外の方法でシャットダウンしてください(NY シリーズの場合)
	ソフトウェアにエラーが発生した		なし

付属情報	なし
注意点／備考	以下の値は、前回の電源投入時の値となっています • 保持変数(保持属性ありの変数)(NY シリーズの場合) • 絶対値エンコーダ原点位置オフセットデータ (以下、形 NX502、形 NX102 および形 NX1P2 の場合) • 保持変数(保持属性あり、または保持エリアに AT 指定された変数) • CJ ユニット用メモリの保持エリア (以下、形 NX502、形 NX102 および形 NX1P2 の場合) • 処置完了後に電断保持未実行フラグ(_RetainUnexec)を FALSE にしてください • 保持変数と CJ ユニット用メモリの保持エリアの現在値や絶対値エンコーダ原点位置オフセットデータが意図しない値でユーザプログラムが動作しないよう、必要に応じて、電断保持未実行フラグ(_RetainUnexec)をインタロック条件としてユーザプログラムにて対策を行ってください

*1. 以下の CPU ユニットで使用できるシステム定義変数です。
- NJ シリーズ、形 NX502、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニット：Ver.1.64 以降
- 形 NX701 CPU ユニット：Ver.1.35 以降

イベント名	PLC システム処理異常			イベントコード	40010000Hex	
内容	PLC 機能モジュールで致命的な異常を検出しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	なし	検出タイミング	常時
異常の属性	重要度	全停止フォールト	復旧方法	電源再投入	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	停止	動作	停止。Sysmac Studio 接続不可。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	ソフトウェアにエラーが発生した		当社営業または代理店にお問い合わせください		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	PLC システム処理異常			イベントコード	40020000Hex	
内容	PLC 機能モジュールで致命的な異常を検出しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	なし	検出タイミング	常時
異常の属性	重要度	全停止フォールト	復旧方法	電源再投入	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	停止	動作	停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	ソフトウェアにエラーが発生した		当社営業または代理店にお問い合わせください		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	PLC システム処理異常			イベントコード	40030000Hex	
内容	PLC 機能モジュールで致命的な異常を検出しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	なし	検出タイミング	常時
異常の属性	重要度	全停止フォールト	復旧方法	電源再投入	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	停止	動作	停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	ソフトウェアにエラーが発生した		当社営業または代理店にお問い合わせください		なし	
付属情報	付属情報 1：システム情報					
注意点／備考	なし					

イベント名	PLC システム処理異常			イベントコード	40040000Hex	
内容	PLC 機能モジュールで致命的な異常を検出しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	なし	検出タイミング	常時
異常の属性	重要度	全停止フォールト	復旧方法	電源再投入	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	停止	動作	停止。Sysmac Studio 接続不可。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	ソフトウェアにエラーが発生した		当社営業または代理店にお問い合わせください		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	PLC システム処理異常			イベントコード	40050000Hex	
内容	PLC 機能モジュールで致命的な異常を検出しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	なし	検出タイミング	常時
異常の属性	重要度	全停止フォールト	復旧方法	電源再投入	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	停止	動作	停止。Sysmac Studio 接続不可。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	ソフトウェアにエラーが発生した		当社営業または代理店にお問い合わせください		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	時計発振停止			イベントコード	00070000Hex	
内容	時計(RTC)の発振が停止していました。時計(RTC)の時刻が不正です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	なし	検出タイミング	電源投入時／コントローラリセット時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	システム時刻が不定。CJ ユニットの記録する時刻情報も不定		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_CurrentTime		DATE_AND_TIME		システム時刻	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	バッテリの電圧低下		バッテリを交換してください。その後、時計(RTC)の時刻を合わせてください		バッテリの定期的な交換を実施してください	
	バッテリのコネクタのはずれ		コネクタが正しく嵌合しているかを確認、コネクタを再接続してください。その後、時計(RTC)の時刻を合わせてください		衝撃・振動の影響を確認してください	
	バッテリがない		バッテリを装着してください。その後、時計(RTC)の時刻を合わせてください		バッテリを装着してください	
付属情報	なし					
注意点／備考	本異常のチェックは電源投入時のみ行われます 重要度を監視情報に変更できます。監視情報に変更した場合、復旧は不要となります					

イベント名	時計故障			**イベントコード**	00080000Hex	
内容	CPU ユニットの時計(RTC)が故障しました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	電源投入時／コントローラリセット時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	電源再投入	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	システム時刻が不定。CJ ユニットの記録する時刻情報も不定		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_CurrentTime		DATE_AND_TIME		システム時刻	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	CPU ユニットの時計の故障		CPU ユニットを交換してください		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	バッテリ電圧低下			**イベントコード**	000B0000Hex	
内容	バッテリ電圧が低下しました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	異常解除	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_SelfTest_LowBattery		BOOL		バッテリ電圧低下フラグ	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	バッテリの電圧低下		バッテリを交換してください		バッテリの定期的な交換を実施してください	
	バッテリのコネクタのはずれ		コネクタが正しく嵌合しているかを確認、コネクタを再接続してください		衝撃・振動の影響を確認してください	
	バッテリがない		バッテリを装着してください		バッテリを装着してください	
付属情報	なし					
注意点／備考	NJ シリーズ CPU ユニット、形 NX701 CPU ユニットの場合、次回電断後に、ユーザデータが失われる可能性あり 形 NX1P2、形 NX102 CPU ユニットの場合、次回電断後に、時刻データが失われる可能性あり 重要度を監視情報に変更できます。監視情報に変更した場合、復旧は不要となります					

イベント名	CPU ユニット内部温度オーバー			**イベントコード**	000C0000Hex	
内容	CPU ユニット内部の温度が規定値以上になりました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	電源再投入／コントローラリセット	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_SelfTest_HighTemperature		BOOL		CPU ユニット内部温度オーバーフラグ	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	使用周囲温度が高い		使用周囲温度を 0～ 55℃に入るように、周囲環境を整備してください • 通風スペースを十分とってください • ヒータ、トランス、大容量の抵抗など発熱量の高い機器の真上に取り付けることは避けてください • 周囲温度が 55℃以上になるときは、強制ファンまたはクーラを設置してください		常に周囲温度が 0～55℃になるように周囲環境を整備してください	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	ファン回転数低下			**イベントコード**	00120000Hex	
内容	ファンの回転数が規定値以下になりました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	異常解除	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_SelfTest_LowFanRevolution		BOOL		FAN 回転数低下フラグ	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	ファンの動作を妨げる障害物がある		ファンの動作を妨げる障害物を取り除いてください		ファンの動作を妨げる障害物がない状態で使用してください	
	ファンの寿命		形 NX701 CPU ユニット：ファンユニットを交換してください *1 形 NX502 CPU ユニット：CPU ユニットを交換してください		形 NX701 CPU ユニット：ファンユニットの定期的な交換を実施してください *1 形 NX502 CPU ユニット：なし	
	ファンの故障					
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

*1. ファンユニットの交換方法や寿命については、『NX シリーズ CPU ユニット ユーザーズマニュアル ハードウェア編 (SBCA-418)』を参照してください。

イベント名	不揮発性メモリ寿命警告			**イベントコード**	00150000Hex*1	
内容	不揮発性メモリの消去回数が警告値をオーバーしました。またはメモリの不良ブロック数が警告値をオーバーしました。					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	電源投入時／コントローラリセット時／定期的
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_StorageDeteriorated		BOOL		不揮発性メモリ寿命警告フラグ	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	不揮発性メモリの寿命		不揮発性メモリの寿命が近づきました。CPU ユニットを交換してください。		ユーザプログラムやアプリケーションによっては、不揮発性メモリの寿命を早めてしまう可能性があります。下記(1)、(2)について確認してください。 (1) システム定義変数や専用命令による SD メモリカードバックアップ処理の実行頻度 (2) MC_SaveCamTable 命令や ChangeIPAdr 命令など不揮発性メモリに書き込みを行う命令の実行頻度 上記(1)、(2)の実行が失敗する場合は、その要因を除去した後に再実行するようにしてください。失敗する要因が除去されていないままリトライすると、不揮発性メモリの消去回数が増加し、不揮発性メモリの寿命を早めてしまう可能性があります。	
付属情報	なし					
注意点／備考	このままコントローラを使用し続けると、不揮発性メモリの読み書きに失敗する可能性があります。これにより、コントローラの起動失敗、ユーザプログラムの転送失敗などの異常が発生する恐れがあります。					

*1. 以下の CPU ユニットで発生するイベントです。
- 形 NJ シリーズ、形 NX102、形 NX1P2、形 NX502 CPU ユニット：Ver.1.60 以降
- 形 NX701 CPU ユニット：Ver.1.32 以降

イベント名	バッテリバックアップメモリチェックエラー			**イベントコード**	10090000Hex	
内容	CPU ユニット内部のバッテリバックアップメモリのチェックでエラーを検出しました					
発生源	PLC 機能モジュール／モーション制御機能モジュール		**発生源詳細**	PLC 機能モジュールの場 合：なし モーション制御機能モジュールの場合：MC 共通	**検出タイミング**	電源投入時／コントローラ リセット時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	異常解除	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	保持属性を持つ変数、CJ シリーズユニット用メモリ DM/EM/HR が破壊されたため、ユーザプログラムやユニットが正常動作しない可能性あり		

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	_RetainFail	BOOL	電断保持失敗フラグ
	_RetainUnexec*1	BOOL	電断保持未実行フラグ

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	バッテリの電圧低下	• バッテリを交換してください • 保持変数と CJ ユニット用メモリの保持エリアの値を確認し、正しい値に変更してください • 処置が完了したら、電断保持未実行フラグ(_RetainUnexec)を FALSE にしてください	バッテリの定期的な交換を実施してください
	バッテリのコネクタのはずれ	• コネクタが正しく嵌合しているかを確認し、コネクタを再接続してください • 保持変数と CJ ユニット用メモリの保持エリアの値を確認し、正しい値に変更してください • 処置が完了したら、電断保持未実行フラグ(_RetainUnexec)を FALSE にしてください	衝撃・振動の影響を確認してください
	バッテリがない	• バッテリを装着してください • 保持変数と CJ ユニット用メモリの保持エリアの値を確認し、正しい値に変更してください • 処置が完了したら、電断保持未実行フラグ(_RetainUnexec)を FALSE にしてください	バッテリを装着してください

付属情報	なし
注意点／備考	以下の値は、初期値となっています • 保持変数（保持属性あり、または保持エリアに AT 指定された変数） • CJ ユニット用メモリの保持エリア 処置完了後に電断保持未実行フラグ(_RetainUnexec)を FALSE にしてください 保持変数と CJ ユニット用メモリの保持エリアの現在値が意図しない値でユーザプログラムが動作しないよう、必要に応じて、電断保持未実行フラグ(_RetainUnexec)をインタロック条件としてユーザプログラムにて対策を行ってください

*1. 以下の CPU ユニットで使用できるシステム定義変数です。
- NJ シリーズ、形 NX502、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニット：Ver.1.64 以降
- 形 NX701 CPU ユニット：Ver.1.35 以降

イベント名	SD メモリカード種別不正			**イベントコード**	000F0000Hex	
内容	非対応の SD メモリカードです					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	電源投入時／コントローラリセット時／SD メモリカード装着時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	SD PWR LED は消灯。SD メモリカードへの給電停止		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_Card1Ready		BOOL		SD メモリカード使用可フラグ	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	CPU ユニットに使用できない SD メモリカードが挿入されている		SD メモリカードを形 HMC-SD291、形 HMC-SD491、または形 HMC-SD1A1 に交換してください。 以下の場合は、形 HMC-SD491、または形 HMC-SD1A1 に交換してください • CPU ユニットが形 NJ501-□□□□で、ハードウェアリビジョンが"A"、かつユニットバージョンが Ver.1.15 以降		SD メモリカードは形 HMC-SD291、形 HMC-SD491、または形 HMC-SD1A1 を使用してください。 以下の場合は、形 HMC-SD491、または形 HMC-SD1A1 を使用してください • CPU ユニットが形 NJ501-□□□□で、ハードウェアリビジョンが"A"、かつユニットバージョンが Ver.1.15 以降	
付属情報	付属情報 1：SD メモリカードが UHS-I 対応でない場合は"Not UHS-I"					
注意点／備考	なし					

イベント名	SD メモリカード寿命			**イベントコード**	00100000Hex	
内容	SD メモリカードの消去回数が規定値をオーバーしました。または不良ブロック数が規定値をオーバーしました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	電源投入時／コントローラリセット時／定期的
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_Card1Deteriorated		BOOL		SD メモリカード寿命警告フラグ	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	SD メモリカードの寿命		SD メモリカード内の必要なファイルをバックアップしてください。または SD メモリカードを交換してください		SD メモリカードの定期的な交換を実施してください	
付属情報	なし					
注意点／備考	• SD メモリカード内のデータが失われる可能性あり • ユーザプログラムが正常動作しない可能性あり • 重要度を軽度フォールトに変更できます。軽度フォールトに変更した場合の復旧方法は「異常解除」となります • SD メモリカードの寿命検知機能は CPU ユニットのユニットバージョンと SD メモリカードの組み合わせにより使用可能かどうかが決まります。『NJ/NX シリーズ CPU ユニット ユーザーズマニュアル ソフトウェア編(SBCA-467)』の「サポートする SD メモリカードおよびフォルダ／ファイル仕様」の説明を参照してください。					

イベント名	SD メモリカードフォーマット不正			**イベントコード**	10030000Hex	
内容	SD メモリカードのファイルフォーマットが FAT16／FAT32 ではありません					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	電源投入時／コントローラリセット時／SD メモリカード装着時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	SD PWR LED は消灯。Sysmac Studio から SD メモリカードのフォーマット可能		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_Card1Ready		BOOL		SD メモリカード使用可フラグ	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	CPU ユニットに装着した SD メモリカードのファイルフォーマットが FAT16／FAT32 でない		誤った SD メモリカードを CPU ユニットに装着していないか確認してください。 誤った SD メモリカードを装着している場合は、正しい SD メモリカードに交換してください。 正しい SD メモリカードを装着している場合は、正しくフォーマットして使用してください		オムロン製の SD メモリカードを使用してください。また SD メモリカードのフォーマットをパソコンで行わないでください	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	SD メモリカード修復あり			**イベントコード**	10040000Hex	
内容	ファイルシステムのチェックでエラーを検出し、ファイルシステムを修復しました。ただし、ファイルが削除された可能性があります					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	電源投入時／コントローラリセット時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	ファイルが削除された場合は、ユーザプログラムが正常動作しない可能性あり		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	SD BUSY LED 点灯中に、コントローラの電源を OFF にした		正しいファイルが存在するか、また装置が正しく動作するか確認してください。 正しいファイルが存在しない場合、または装置が正しく動作しない場合は、SD メモリカードへ正しいファイルをダウンロードしてください。CPU ユニットを電源再投入またはコントローラリセットして装置が正しく動作することを確認してください		SD BUSY LED 点灯中は電源を OFF にしないでください	
	SD BUSY LED 点灯中に、瞬停によりコントローラに電断が発生した				電源事情が悪い場所では、定格の電圧・周波数の電源が供給できるようにしてください	
	SD PWR LED 点灯中に、SD メモリカードを抜いた				SD PWR LED 点灯中に SD メモリカードを抜かないでください	
	SD メモリカードの故障		上記の発生要因でなく、本異常が発生する場合は、SD メモリカードを交換し、SD メモリカードへ正しいファイルをダウンロードしてください		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	検出タイミングの「電源投入時／コントローラリセット時」は、「電源投入時の SD メモリカード診断」を行う設定にしている場合です 重要度を軽度フォールトに変更できます。軽度フォールトに変更した場合の復旧方法は「異常解除」となります					

イベント名	SD メモリカードデータ破壊			**イベントコード**	10060000Hex	
内容	SD メモリカードに存在すべきファイルがないか、破壊されています					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	電源投入時／コントローラリセット時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	SD PWR LED は消灯。Sysmac Studio から SD メモリカードのフォーマット可能。 ユーザプログラムが正常動作しない可能性あり		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_Card1Ready		BOOL		SD メモリカード使用可フラグ	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	SD BUSY LED 点灯中に、コントローラの電源を OFF にした		SD メモリカードをフォーマットし正しいファイルをダウンロードしてください		SD BUSY LED 点灯中は電源を OFF にしないでください	
	SD BUSY LED 点灯中に、瞬停によりコントローラに電断が発生した				電源事情が悪い場所では、定格の電圧・周波数の電源が供給できるようにしてください	
	SD PWR LED 点灯中に、SD メモリカードを抜いた				SD PWR LED 点灯中に SD メモリカードを抜かないでください	
	SD メモリカードの故障		上記の処置で本異常が解除されない場合は、SD メモリカードを交換してください		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	検出タイミングの「電源投入時／コントローラリセット時」は、「電源投入時の SD メモリカード診断」を行う設定にしている場合です 重要度を軽度フォールトに変更できます。軽度フォールトに変更した場合の復旧方法は「異常解除」となります					

イベント名	SD メモリカードアクセス中電源断			**イベントコード**	10070000Hex	
内容	SD メモリカードアクセス中にコントローラの電源断が発生しました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	電源投入時／コントローラリセット時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	ファイルが壊れた場合は、ユーザプログラムに依存		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_Card1PowerFail		BOOL		SD メモリカードアクセス中電源断フラグ	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	SD BUSY LED 点灯中に、コントローラの電源を OFF にした		正しいファイルが存在するか、また装置が正しく動作するか確認してください。 正しいファイルが存在しない場合、または装置が正しく動作しない場合は、SD メモリカードへ正しいファイルをダウンロードしてください。CPU ユニットを電源再投入またはコントローラリセットして装置が正しく動作することを確認してください。 処置が完了したら、SD メモリカードアクセス中電源断フラグ(_Card1PowerFail)を FALSE にしてください		SD BUSY LED 点灯中は電源を OFF にしないでください	
	SD BUSY LED 点灯中に、瞬停によりコントローラに電断が発生した				電源事情が悪い場所では、定格の電圧・周波数の電源が供給できるようにしてください	
付属情報	なし					
注意点／備考	処置完了後に SD メモリカードアクセス中電源断フラグを FALSE にしてください					

イベント名	PLC システム情報			**イベントコード**	10130000Hex	
内容	PLC 機能モジュールの内部情報です					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	PLC 機能モジュールの内部情報です。他イベントの追加情報として記録しています		－		－	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	SD メモリカードの不正な取り外し			**イベントコード**	10310000Hex	
内容	SD メモリカードの取り外し処理が失敗しました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	SD メモリカード取り外し時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	SD PWR LED 点灯中に SD メモリカードを取り外した		SD メモリカード内のファイルが正しいか確認してください。ファイルが正しくない場合は、SD メモリカードへ正しいファイルをダウンロードしてください		給電停止ボタンを押し、SD PWR LED が消灯したことを確認してから SD メモリカードを取り出してください	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

1-1-2 CJ ユニット構成関連

イベント名	I/O バスチェックエラー			**イベントコード**	04010000Hex	
内容	CPU ユニットと各スロットに接続されたユニット間のデータ伝送にエラーが発生しました。 または、コントローラの電源投入時、すべての高機能 I/O ユニットおよび CPU 機能ユニットに対する認識を完了できませんでした					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	I/O バスマスタ	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	全停止フォールト	**復旧方法**	電源再投入	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	停止	**動作**	停止		

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	―	―

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	I/O 接続ケーブルの抜け・はずれ、断線	I/O 接続ケーブルのコネクタが正しく嵌合しているかを確認、コネクタを再接続してください。I/O ケーブルが断線している場合は、I/O 接続ケーブルを交換してください	稼動時に確実に嵌合していることを確認してください。 振動・衝撃の影響を確認してください
	導電性異物混入	周囲に導電性異物がある場合は、各ユニット内部をエアブローしてください	制御盤付近での金属加工作業を実施しないようにしてください。 制御盤は閉めた状態で使用してください
	異物のコネクタ内部への侵入によるコネクタ接触不良	コネクタに異物が付着している場合は、コネクタを脱着するなどして異物を取り除いてください	ごみ・粉塵の少ない環境で作業を実施してください
	ノイズ • バス信号のデータ化け • バス I/F 回路部の誤動作	上記の要因でない場合は、コントローラを電源再投入し、本異常が解除されるか確認してください。 本異常が頻発する場合は、FG、電源ライン、I/O 接続ケーブルなどノイズ侵入経路を調査し、ノイズ対策を実施してください	ノイズ対策を実施してください
	ユニット故障 • CPU ユニット • 高機能 I/O ユニット • CPU 高機能ユニット • I/O 接続ケーブル	上記の要因でなく、CPU ユニットを電源再投入またはコントローラリセットしても本異常が解除されない場合は、取り付けているユニットまたは CPU ユニットを交換してください	定期点検を行ってください

付属情報	なし
注意点／備考	なし

イベント名	未サポートユニット接続			イベントコード	24010000Hex	
内容	サポート外の CJ ユニット／電源ユニットが装着されています					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	I/O バスマスタ	検出タイミング	電源投入時／コントローラリセット時
異常の属性	重要度	全停止フォールト	復旧方法	電源再投入	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	停止	動作	停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	サポート外の CJ ユニット／電源ユニットを検出した		サポート外の CJ ユニット／電源ユニットを取りはずすか、必要なサポートされているユニットに交換してください		本 CPU ユニットでサポートされているユニットを使用してください	
付属情報	付属情報 1：異常を検知したラック No.：0～3 付属情報 2：異常を検知したスロット No.：0～9 付属情報 3：ユニット種別を表すプロファイルコード					
注意点／備考	増設ラックに接続された未サポート電源ユニットに対しては本異常は発生しません。増設ラックに接続する電源ユニットについてはサポートされていることを十分に確認のうえ使用してください					

イベント名	I/O 点数オーバー			イベントコード	24020000Hex	
内容	接続されている CJ ユニットの I/O 総点数が、CPU ユニットの最大既定値を超えています					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	I/O バスマスタ	検出タイミング	電源投入時／コントローラリセット時
異常の属性	重要度	全停止フォールト	復旧方法	電源再投入	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	停止	動作	停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	CJ シリーズ基本 I/O ユニットの I/O 総点数が 2560 点を超えている		CJ シリーズ基本 I/O ユニットの総点数を 2560 点以下としてください		CJ シリーズ基本 I/O ユニットの総点数を 2560 点以下としてください	
付属情報	付属情報 1：CJ シリーズ基本 I/O ユニットの総点数					
注意点／備考	なし					

イベント名	エンドカバー未接続			**イベントコード**	24030000Hex	
内容	CPU ラックまたは増設ラックの右端にエンドカバーが接続されていません					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	I/O バスマスタ	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	全停止フォールト	**復旧方法**	電源再投入	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	停止	**動作**	停止		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		–		–	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	CPU ラックまたは増設ラックの右端にエンドカバーが装着されていない		エンドカバーが正しく接続されているか取付状態や破損などを確認し、エンドカバーを正しく接続してください		エンドカバーを含むユニット構成で構築してください	
	エンドカバーの接続が不良				エンドカバーの接続時に正しく接続されていることを確認してください	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	ユニット／増設ラック接続不正			**イベントコード**	24040000Hex	
内容	ユニットまたは増設ラックの接続台数が CPU ユニットの既定値を超えています。 または、割込入力ユニットを、範囲外のスロットまたは増設ラックに装着しています					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	I/O バスマスタ	**検出タイミング**	電源投入時／コントローラリセット時
異常の属性	**重要度**	全停止フォールト	**復旧方法**	電源再投入	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	停止	**動作**	停止		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		–		–	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	1 ラックに 11 台以上のユニットを接続している		1 ラックに接続するユニット数を 10 台以下としてください		接続上限数を確認し、その範囲内で構成を構築してください	
	増設ラックの接続台数が 3 台を超えている		増設ラックを 3 台以下としてください			
	割込入力ユニットの装着台数が 2 台を超えている		割込入力ユニットを 2 台以下としてください			
	割込入力ユニットを範囲外のスロットまたは増設ラックに装着している		割込入力ユニットを CPU ラックのスロット No.0～4 に装着してください			
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	ユニット番号重複			イベントコード	24050000Hex	
内容	高機能ユニットの号機 No.／ユニット番号が重複しています					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	I/O バスマスタ	検出タイミング	電源投入時／コントローラリセット時
異常の属性	重要度	全停止フォールト	復旧方法	電源再投入	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	停止	動作	停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	高機能ユニットの号機 No.／ユニット番号が重複している		各高機能ユニット前面のロータリスイッチで設定されている号機 No.／ユニット番号に重複がないかを目視確認し、重複がある場合は、重複しているユニットの号機 No.／ユニット番号を変更してください		ユニット構成の構築時に号機 No.／ユニット番号が重複しないようにしてください。複数号機分占有する高機能 I/O ユニットが構成に含まれる場合には、その占有分が重複しないように特に注意してください	
	複数号機分占有する高機能 I/O ユニットと他の高機能 I/O ユニットの号機 No.が重複している		複数号機分占有する高機能 I/O ユニットが構成に含まれるか確認し、含まれる場合は、その高機能ユニットが占有する号機 No.に重複がないかを確認し、重複がある場合は、重複しているユニットの号機 No.／ユニット番号を変更してください			
付属情報	付属情報 1：異常を検知したラック No.：0〜3 付属情報 2：異常を検知したスロット No.：0〜9 付属情報 3：高機能 I/O ユニットの場合：重複した号機 No.+20Hex CPU 高機能ユニットの場合：重複したユニット番号+10Hex					
注意点／備考	高機能 I/O ユニットは機種によって、1〜4 号機分を占有しますので注意してください					

イベント名	I/O 設定チェックエラー			イベントコード	34010000Hex	
内容	CPU ユニット内のユニット構成上のユニットの機種と実際に接続されているユニットの機種が不一致です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	I/O バスマスタ	検出タイミング	電源投入時／コントローラリセット時／ユニット構成・設定の転送時
異常の属性	重要度	全停止フォールト	復旧方法	電源再投入／コントローラリセット	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	停止	動作	停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	CPU ユニット内のユニット構成に登録されているユニットと、実際に接続されているユニットの機種または高機能ユニットの号機 No.が異なっている		CPU ユニット内のユニット構成と実際のユニット構成が一致するように、CPU ユニット内のユニット構成の設定を変更、または実際のユニット構成を変更してください		CPU ユニット内のユニット構成と実際のユニット構成が一致するようにしてください	
付属情報	付属情報 1：CPU ラックで異常を検出した最も若いスロット No.：0〜9、CPU ラック正常時は 10 付属情報 2：増設ラック 1 で異常を検出した最も若いスロット No.：0〜9、増設ラック 1 正常時は 10 付属情報 3：増設ラック 2 で異常を検出した最も若いスロット No.：0〜9、増設ラック 2 正常時は 10 付属情報 4：増設ラック 3 で異常を検出した最も若いスロット No.：0〜9、増設ラック 3 正常時は 10					
注意点／備考	なし					

イベント名	PLC 機能処理異常			**イベントコード**	44400000Hex	
内容	PLC 機能モジュールで致命的な異常を検出しました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	I/O バスマスタ	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	全停止フォールト	**復旧方法**	電源再投入	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	停止	**動作**	停止		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	ソフトウェアにエラーが発生した		当社営業または代理店にお問い合わせください		なし	
付属情報	付属情報 1：システム情報 付属情報 2：システム情報 付属情報 3：システム情報 付属情報 4：システム情報					
注意点／備考	なし					

イベント名	高機能ユニットアクセス不可			**イベントコード**	64010000Hex	
内容	CPU ユニットと高機能ユニット間のデータ交換に異常が発生しました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	CJ シリーズユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	異常解除／電源再投入／コントローラリセット	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当ユニットの停止		

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	−	−
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	高機能ユニットのロータリスイッチまたはディップスイッチの設定誤り • ノードアドレスの誤り • 通信モードの誤り • 通信速度の誤り	該当ユニットのロータリスイッチまたはディップスイッチの設定を修正してください。該当ユニットの 7 セグ LED の表示で設定誤りの内容を確認することができます	高機能ユニットのロータリスイッチ、ディップスイッチを正しく設定してください
	高機能ユニット側のエラー	高機能ユニット側のエラー該当ユニットのマニュアルを参照してエラーの切り分けと処置を行ってください	各ユニットのマニュアルを参照し、正しく使用してください
	ユニットの接続不良	ユニットの接続不良コネクタをきちんとかみ合わせてユニット同士を接続し、上下に付いている黄色のスライダを背面側にスライドさせ、ロックしてください	ユニット同士の接続が確実に行われていることを確認してください。振動･衝撃の影響を確認してください
	ノイズ • バス信号のデータ化け	上記の要因でない場合は、コントローラを電源再投入し、本異常が解除されるか確認してください。 本異常が頻発する場合は、FG、電源ラインなどノイズ侵入経路を調査し、ノイズ対策を実施してください	ノイズ対策を実施してください
	ユニット故障	上記の要因でなく、コントローラを電源再投入またはコントローラリセットしても本異常が解除されない場合は高機能ユニットを交換してください	定期点検を行ってください
付属情報	付属情報 1： • 高機能 I/O ユニットの場合：異常が発生した号機 No.+20Hex • CPU 高機能ユニットの場合：異常が発生したユニット番号+10Hex 付属情報 2：システム情報		
注意点／備考	なし		

イベント名	バックアップ実行失敗（CJ ユニット）			**イベントコード**	102D0000Hex *1	
内容	CJ ユニットのバックアップが異常終了しました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	I/O バスマスタ	**検出タイミング**	バックアップ実行中
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	－	－
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	ユニット構成に関連する異常が発生している （付属情報 1：異常の詳細が 4 のとき）	ユニット構成に関連する異常を取り除いてください	ユニット構成に関連する異常が発生していない状態でバックアップを行ってください
	高機能ユニットに関連する異常が発生している （付属情報 1：異常の詳細が 2 のとき）	高機能ユニットに関連する異常を取り除いてください	高機能ユニットに関連する異常を取り除いてください
	高機能ユニットがリスタート中である （付属情報 1：異常の詳細が 2 のとき）	高機能ユニットのリスタートを指示していない状態で再度バックアップを行ってください	バックアップ中は、高機能ユニットのリスタート操作を行わないでください。リスタート中にバックアップを行わないでください
	CPU ユニット内のユニット構成に登録されているユニットと、実際に接続されているユニットの機種または高機能ユニットの号機 No.が異なっている （付属情報 1：異常の詳細が 5 のとき）	CPU ユニット内のユニット構成と実際のユニット構成が一致するように、CPU ユニット内のユニット構成の設定を変更、または実際のユニット構成を変更してください	CPU ユニット内のユニット構成と実際のユニット構成が一致している状態でバックアップを行ってください
	CPU ユニット／CJ ユニットの故障（付属情報 1：異常の詳細が 1 のとき）	上記の要因でない場合は、CPU ユニットまたは CJ ユニットを交換してください	なし
付属情報	付属情報 1：異常の詳細 • 1：バックアップファイルの作成に失敗した • 2：高機能ユニットとの通信に失敗した • 4：CJ ユニットの認識に失敗した • 5：CPU ユニット内のユニット構成と実際のユニット構成が一致していない 付属情報 2：異常を検知したラック No.：0～3（異常の詳細が 2 のとき） 付属情報 3：異常を検知したスロット No.：0～9（異常の詳細が 2 のとき） 付属情報 4：システム情報（異常の詳細が 2 のとき）		
注意点／備考	なし		

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.03 以降で発生するイベントです。

イベント名	リストア実行失敗（CJ ユニット）			**イベントコード**	102E0000Hex *1	
内容	CJ ユニットのリストアが異常終了しました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	I/O バスマスタ	**検出タイミング**	リストア実行中
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	－	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	ユニット構成に関連する異常が発生している（付属情報 1：異常の詳細が 4 のとき）		ユニット構成に関連する異常を取り除いてください		ユニット構成に関連する異常が発生していない状態でリストアを行ってください	
	高機能ユニットに関連する異常が発生している（付属情報 1：異常の詳細が 2 のとき）		高機能ユニットに関連する異常を取り除いてください		高機能ユニットに関連する異常が発生していない状態でリストアを行ってください	
	バックアップファイル内のユニット構成と実際のユニット構成が異なっている（付属情報 1：異常の詳細が 5 のとき）		バックアップしたときのユニット構成と実際のユニット構成が一致するようにしてください		バックアップしたときのユニット構成と実際のユニット構成が一致していることを確認してからリストアを行ってください	
	高機能ユニットがリスタート中である（付属情報 1：異常の詳細が 2 のとき）		高機能ユニットのリスタートを指示していない状態で再度リストアを行ってください		リストア中は、高機能ユニットのリスタート操作を行わないでください。リスタート中にリストアを行わないでください	
	高機能ユニットの固有のリストア条件を満たしていない（付属情報 1：異常の詳細が 3 のとき）		高機能ユニットのマニュアルでリストア条件を確認し、そのリストア条件に従ってください		高機能ユニットのマニュアルでリストア条件を確認し、そのリストア条件に従ってください	
	バックアップファイルが壊れている（付属情報 1：異常の詳細が 3 のとき）		SD メモリカードを Sysmac Studio でフォーマットし、バックアップファイルを格納してください		SD BUSY LED 点灯中に SD メモリカードを抜いたり電源断をしたりしないでください。また、書込回数制限にもとづき定期的に SD メモリカードを交換してください	
	CPU ユニット／CJ ユニットの故障（付属情報 1：異常の詳細が 1 のとき）		上記の要因でない場合は、CPU ユニットまたは CJ ユニットを交換してください		なし	
付属情報	付属情報 1：異常の詳細 • 1：バックアップファイルの読出に失敗した • 2：高機能ユニットとの通信に失敗した • 3：高機能ユニットのリストアに失敗した • 4：CJ ユニットの認識に失敗した • 5：バックアップファイル内のユニット構成と実際のユニット構成が一致していない 付属情報 2：異常を検知したラック No.：0～3（異常の詳細が 2, 3 のとき） 付属情報 3：異常を検知したスロット No.：0～9（異常の詳細が 2, 3 のとき） 付属情報 4：システム情報（異常の詳細が 2 のとき）					
注意点／備考	なし					

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.03 以降で発生するイベントです。

イベント名	未サポートのユニット設定			イベントコード	30200000Hex *1	
内容	サポート外の高機能ユニット設定になっています					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	I/O バスマスタ	検出タイミング	常時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	CPU ユニットでサポートされていない高機能ユニット設定にした		CPU ユニットでサポートされていない高機能ユニット設定にならないように、異常が発生しているユニットの高機能ユニット設定を変更してください		CPU ユニットのマニュアルを参照し、サポートされている高機能ユニット設定だけを使用してください	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.02 以降で発生するイベントです。

イベント名	不正パケット破棄			イベントコード	80010000Hex	
内容	メッセージ通信で不正パケットを受信し、破棄しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	I/O バスマスタ	検出タイミング	常時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	ノイズ • バス信号のデータ化け		コントローラを電源再投入し、本異常が発生しないか確認してください。本異常が頻発する場合は、FG、電源ラインなどノイズ侵入経路を調査し、ノイズ対策を実施してください		ノイズ対策を実施してください	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	PLC システム情報			イベントコード	04020000Hex	
内容	PLC 機能モジュールの内部情報です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	I/O バスマスタ	検出タイミング	常時
異常の属性	重要度	一般情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	PLC 機能モジュールの内部情報です。他イベントの追加情報として記録しています。		−		−	
付属情報	付属情報 1：システム情報 付属情報 2：システム情報 付属情報 3：システム情報 付属情報 4：システム情報					
注意点／備考	なし					

イベント名	PLC システム情報			**イベントコード**	44410000Hex	
内容	PLC 機能モジュールの内部情報です					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	I/O バスマスタ	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	一般情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	PLC 機能モジュールの内部情報です。他イベントの追加情報として記録しています。		－		－	
付属情報	付属情報 1：システム情報 付属情報 2：システム情報 付属情報 3：システム情報 付属情報 4：システム情報					
注意点／備考	なし					

1-1-3 内蔵 I/O、オプションボード関連

イベント名	オプションボード異常			**イベントコード**	05440000Hex	
内容	動作中にオプションボードが外れた、装着された、またはオプションボードのハードウェア異常が発生しました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	オプションボード: Slot1,Slot2	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	電源再投入／コントローラリセット	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	エラーが発生したスロットは動作不可		

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	_PLC_OptBoardSta	ARRAY[1..2] OF _sOPTBOARD_STA	オプションボードステータス

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	動作中にオプションボードが外れた、または、装着された	コントローラの電源を OFF し、オプションボードを正しく取り付けてください	動作中は、オプションボードを外したり装着したりしないでください
	オプションボードのハードウェアで異常を検知した	コントローラの電源を OFF し、オプションボードを正しく取り付けてください。本異常が再発する場合は、エラーが発生したスロットのオプションボードを交換してください	なし

付属情報	付属情報 1: 異常要因 • 1: 動作中にオプションボードが外れた • 2: 動作中にオプションボードが装着された • 3: オプションボードのハードウェア異常 付属情報 2: システム情報
注意点／備考	なし

イベント名	オプションボード構成照合異常			**イベントコード**	35940000Hex	
内容	オプションボード構成設定と実構成が異なっています					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	オプションボード: Slot1,Slot2	**検出タイミング**	電源投入時／ダウンロード時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	異常解除	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	構成不一致のスロットは動作不可		

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	_PLC_OptBoardSta	ARRAY[1..2] OF _sOPTBOARD_STA	オプションボードステータス

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	オプションボード構成設定と実構成が異なっている	オプションボード構成設定と実構成が一致するように、オプションボード構成設定、または実構成を変更してください。オプションボード構成設定を変更した場合、コントローラへのダウンロードを行ってください	同左
	オプションボードが正しく取り付けられていない	コントローラの電源を OFF し、オプションボードを正しく取り付けてください	同左

付属情報	なし
注意点／備考	なし

イベント名	未サポートオプションボード装着			**イベントコード**	35950000Hex	
内容	実構成上に未サポートのオプションボードがあります					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	オプションボード: Slot1,Slot2	**検出タイミング**	電源投入時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	電源再投入／コントローラリセット	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	エラーが発生したスロットは動作不可		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_PLC_OptBoardSta		ARRAY[1..2] OF _sOPTBOARD_STA		オプションボードステータス	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	実構成上に未サポートのオプションボードがある		サポート外のオプションボードを取り外してください		サポート対象のオプションボードを使用してください	
付属情報	付属情報 1: システム情報					
注意点／備考	なし					

イベント名	アナログオプションボード起動異常			**イベントコード**	88130000Hex	
内容	アナログオプションボードの起動時にエラーが発生しました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	オプションボード: Slot1,Slot2	**検出タイミング**	電源投入時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	電源再投入／コントローラリセット	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	エラーが発生したスロットは動作不可		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_PLC_OptBoardSta		ARRAY[1..2] OF _sOPTBOARD_STA		オプションボードステータス	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	アナログオプションボードが正しく取り付けられていない。または、アナログオプションボードが故障している		コントローラの電源を OFF し、オプションボードを正しく取り付けてください。本異常が再発する場合は、エラーが発生したスロットのオプションボードを交換してください		同左	
付属情報	付属情報 1: システム情報					
注意点／備考	なし					

イベント名	アナログオプションボード通信異常			**イベントコード**	88140000Hex	
内容	アナログオプションボードの動作中に通信エラーが発生しました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	オプションボード: Slot1,Slot2	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	電源再投入／コントローラリセット	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	エラーが発生したスロットは動作不可。異常解除し、通信が正常に戻ると動作を再開		

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	_PLC_OptBoardSta	ARRAY[1..2] OF _sOPTBOARD_STA	オプションボードステータス

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	アナログオプションボード上の LED が点滅の場合、動作中にアナログオプションボードとの通信でエラーが発生した	異常解除してください。異常解除しても本異常が発生する場合は、コントローラの電源を OFF し、オプションボードを正しく取り付けてください。その後も発生する場合は、エラーが発生したスロットのオプションボードを交換してください	同左
	アナログオプションボード上の LED が点灯の場合、アナログオプションボードが WDT エラーとなった	コントローラの電源を OFF し、オプションボードを正しく取り付けてください。本異常が再発する場合は、エラーが発生したスロットのオプションボードを交換してください	同左

付属情報	付属情報 1: システム情報
注意点／備考	なし

1-1-4　タスク関連

イベント名	タスク実行タイムアウト			**イベントコード**	60020000Hex	
内容	タスクの実行がタイムアウト検出時間を超えました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	全停止フォールト	**復旧方法**	電源再投入／コントローラリセット	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	停止	**動作**	停止		

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	_<タスク名称>_Exceeded	BOOL	タスク周期超過フラグ
	_<タスク名称>_ExceedCount	UDINT	タスク周期超過回数
	_<タスク名称>_LastExecTime	TIME	前回タスク実行時間
	_<タスク名称>_MaxExecTime	TIME	タスク実行時間最大値

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	タイムアウト検出時間の設定が短すぎる	タイムアウト検出時間を大きな値に変更してください	あらかじめ、処置対策の内容を考慮してタスク設計してください
	タスク周期の設定が短すぎる	タスク周期を大きな値に変更してください	
	ユーザプログラムの規模が大きい	短い周期の実行が必要ない処理を、より優先度の低い周期タスクへ移動するなど、タスク内の処理の分割を行ってください	
	処理の繰り返し回数が、意図しない大きな値になっている	プログラム中で繰り返し回数が不正に大きくなっている箇所があれば、繰り返し回数が正しくなるようにプログラムを修正してください。繰り返し回数を確認するには、ユーザプログラム内にトラップを仕掛け、実行回数をモニタします	
	タスク優先度の誤り	該当タスクのタスク優先度を高く設定してください。または他のタスク優先度を低く設定してください	
	イベントタスクの実行頻度が高い	イベントタスクの実行頻度が小さくなるようにしてください。またはイベントタスクのタスク優先度を低く設定してください	

付属情報	付属情報 1：異常が発生したタスク名
注意点／備考	なし

イベント名	I/O リフレッシュ周期オーバー			**イベントコード**	60030000Hex	
内容	プライマリ定周期タスク、定周期タスクのタスク周期内に I/O リフレッシュが完了しない状態が連続して発生しました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	全停止フォールト	**復旧方法**	電源再投入／コントローラリセット	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	停止	**動作**	停止		

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	_<タスク名称>_Exceeded	BOOL	タスク周期超過フラグ
	_<タスク名称>_ExceedCount	UDINT	タスク周期超過回数
	_<タスク名称>_LastExecTime	TIME	前回タスク実行時間
	_<タスク名称>_MaxExecTime	TIME	タスク実行時間最大値

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	タスク周期の設定が短すぎる	タスク実行時間を確認し、タスク周期をそれに合った値に変更してください	あらかじめ、処置対策の内容を考慮してタスク設計してください
	周期タスク、イベントタスクのタスク優先度の誤り	周期タスクのタスク優先度を高く設定してください。またはイベントタスクのタスク優先度を周期タスクよりも低く設定してください	
	タスクの周期で I/O リフレッシュするユニット／スレーブ数が多い	タスク内の I/O リフレッシュ処理を他のタスクへ移動するなど、タスク内の I/O リフレッシュの処理の分割を行ってください	
	イベントタスクの実行頻度が高い	イベントタスクの実行頻度が小さくなるようにしてください。またはイベントタスクのタスク優先度を低く設定してください	

付属情報	付属情報 1：異常が発生したタスク名
注意点／備考	なし

イベント名	システムサービス時間不足			**イベントコード**	60040000Hex	
内容	設定されているシステムサービス実行時間を確保できませんでした					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	全停止フォールト	**復旧方法**	電源再投入／コントローラリセット	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	停止	**動作**	停止		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_<タスク名称>_Exceeded		BOOL		タスク周期超過フラグ	
	_<タスク名称>_ExceedCount		UDINT		タスク周期超過回数	
	_<タスク名称>_LastExecTime		TIME		前回タスク実行時間	
	_<タスク名称>_MaxExecTime		TIME		タスク実行時間最大値	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	タスク実行、タグデータリンクサービスの空き時間がない		タスク実行の空き時間とタグデータリンク設定を確認し、タスク実行とタグデータリンクサービスの時間を確保するためにタスク周期、またはタグデータリンク設定のパケットインターバル（RPI）を大きな値に変更してください		あらかじめ、処置対策の内容を考慮してシステムサービス監視設定の設定を行ってください	
	システムサービス監視設定で、システムサービス実行間隔が短すぎる、または、システムサービス実行時間割合が長すぎる		システムサービスで実行する処理への影響を実動作で確認した上で、システムサービス実行間隔を長い値に変更するか、システムサービス実行時間割合を小さい値に変更してください			
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	タスク周期オーバー			**イベントコード**	60010000Hex	
内容	プライマリ定周期タスク、定周期タスクにおいて、設定周期内にタスクの実行が終わりませんでした					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	異常解除	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	設定周期内にタスクの実行が完了しない場合、I/O リフレッシュ動作は以下となります • CJ ユニット：I/O リフレッシュは実行しません。タスクの実行が完了した後、次の周期で I/O リフレッシュを実行します • EtherCAT スレーブ：出力リフレッシュは前回の出力リフレッシュと同じ値を出力します 設定周期内にタスクの実行が終了しなかった場合、装置全体の制御が不能となる可能性がありますのでご注意ください		

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	_<タスク名称>_Exceeded	BOOL	タスク周期超過フラグ
	_<タスク名称>_ExceedCount	UDINT	タスク周期超過回数
	_<タスク名称>_LastExecTime	TIME	前回タスク実行時間
	_<タスク名称>_MaxExecTime	TIME	タスク実行時間最大値

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	タスク周期の設定が短すぎる	タスク実行時間を確認し、タスク周期をそれに合った値に変更してください	あらかじめ、処置対策の内容を考慮してタスク設計してください
	ユーザプログラムの規模が大きい	短い周期の実行が必要ない処理を、より優先度の低い周期タスクへ移動するなど、タスク内の処理の分割を行ってください	
	処理の繰り返し回数が、意図しない大きな値になっている	プログラム中で繰り返し回数が不正に大きくなっている箇所があれば、繰り返し回数が正しくなるようにプログラムを修正してください。繰り返し回数を確認するには、ユーザプログラム内にトラップを仕掛け、実行回数をモニタします	
	周期タスク、イベントタスクのタスク優先度の誤り	周期タスクのタスク優先度を高く設定してください。またはイベントタスクのタスク優先度を周期タスクよりも低く設定してください	
	イベントタスクの実行頻度が高い	イベントタスクの実行頻度が小さくなるようにしてください。またはイベントタスクのタスク優先度を低く設定してください	

付属情報	付属情報 1：異常が発生したタスク名
注意点／備考	タスク設定により異常の重要度を「監視情報」に変更することができます

イベント名	タスク周期オーバー			**イベントコード**	60050000Hex	
内容	プライマリ定周期タスク、定周期タスクにおいて、設定周期内にタスクの実行が終わりませんでした					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	−	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	設定周期内にタスクの実行が完了しない場合、I/O リフレッシュ動作は以下となります • CJ ユニット：I/O リフレッシュは実行しません。タスクの実行が完了した後、次の周期で I/O リフレッシュを実行します • EtherCAT スレーブ：出力リフレッシュは前回の出力リフレッシュと同じ値を出力します 設定周期内にタスクの実行が終了しなかった場合、装置全体の制御が不能となる可能性がありますのでご注意ください		

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	_<タスク名称>_Exceeded	BOOL	タスク周期超過フラグ
	_<タスク名称>_ExceedCount	UDINT	タスク周期超過回数
	_<タスク名称>_LastExecTime	TIME	前回タスク実行時間
	_<タスク名称>_MaxExecTime	TIME	タスク実行時間最大値

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	タスク周期の設定が短すぎる	タスク実行時間を確認し、タスク周期をそれに合った値に変更してください	あらかじめ、処置対策の内容を考慮してタスク設計してください
	ユーザプログラムの規模が大きい	短い周期の実行が必要ない処理を、より優先度の低い周期タスクへ移動するなど、タスク内の処理の分割を行ってください	
	処理の繰り返し回数が、意図しない大きな値になっている	プログラム中で繰り返し回数が不正に大きくなっている箇所があれば、繰り返し回数が正しくなるようにプログラムを修正してください。繰り返し回数を確認するには、ユーザプログラム内にトラップを仕掛け、実行回数をモニタします	
	周期タスク、イベントタスクのタスク優先度の誤り	周期タスクのタスク優先度を高く設定してください。またはイベントタスクのタスク優先度を周期タスクよりも低く設定してください	
	イベントタスクの実行頻度が高い	イベントタスクの実行頻度が小さくなるようにしてください。またはイベントタスクのタスク優先度を低く設定してください	

付属情報	付属情報 1：異常が発生したタスク名
注意点／備考	タスク設定により異常の重要度を「監視情報」に変更した場合の異常です

1-1-5　コントローラ操作関連

イベント名	ユーザプログラム／コントローラ構成・設定転送エラー			**イベントコード**	10200000Hex	
内容	ユーザプログラムまたはコントローラ構成・設定を正しく転送できませんでした					
発生源	PLC 機能モジュール NX バス機能モジュール EtherCAT マスタ機能モジュール		**発生源詳細**	なし、I/O バスマスタ	**検出タイミング**	電源投入時／コントローラリセット時
異常の属性	**重要度**	全停止フォールト	**復旧方法**	電源再投入／コントローラリセット	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	停止	**動作**	停止		

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	－	－

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	ユーザプログラムまたはコントローラ構成･設定のダウンロード中にコントローラを電断したためプログラムまたはコントローラ構成･設定が不正	Sysmac Studio からメモリオールクリアした後、プロジェクトをダウンロードしてください。 付属情報が登録されている場合はコントローラの電源を再投入した後、上記対策を実施してください。 Sysmac Studio からメモリオールクリアを実行できない場合は、SD メモリカードからのリストアにより、コントローラにプロジェクトを転送してください	ユーザプログラムまたはコントローラ構成･設定のダウンロード中にコントローラを電断しないでください
	オンラインエディット操作中にコントローラを電断したためプログラムまたはコントローラ構成･設定が不正		オンラインエディット操作中にコントローラを電断しないでください
	メモリオールクリア中にコントローラを電断したためプログラムまたはコントローラ構成･設定が不正		メモリオールクリア中にコントローラを電断しないでください
	リストア中にコントローラを電断したためプログラムまたはコントローラ構成・設定が不正		リストア中にコントローラを電断しないでください
	メモリオールクリアのあとに必要なコントローラの電源再投入が実施されていない	コントローラの電源を再投入後、コントローラにプロジェクトを転送してください	設定ユニットバージョン Ver.1.40 以降のプロジェクトがダウンロードされたコントローラをメモリオールクリアしたあとに、Sysmac Studio Ver.1.29 未満で設定ユニットバージョン Ver.1.40 未満のプロジェクトをダウンロードする場合は、メモリオールクリアしたあとにコントローラの電源を再投入してください
	不揮発性メモリの故障	上記の処置を行っても本異常が頻発する場合は、CPU ユニットを交換してください	なし

付属情報	付属情報 1：発生要因詳細 • なし：ダウンロード中の電断、またはオンラインエディット中の電断、リストア中の電断 • Downloading/preDownloading：上記以外の要因の場合の異常発生タイミング（転送中／転送準備中）
注意点／備考	なし

イベント名	ユーザプログラム実行用 ID 不正			イベントコード	10210000Hex	
内容	ユーザプログラムと CPU ユニットに設定されたユーザプログラム実行用 ID が一致していません					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	なし	検出タイミング	ユーザプログラムのダウンロード時／電源投入時／コントローラリセット時
異常の属性	重要度	全停止フォールト	復旧方法	電源再投入／コントローラリセット	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	停止	動作	停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	ユーザプログラムおよび CPU ユニットに設定されたユーザプログラム実行用 ID が一致していない		ユーザプログラムと CPU ユニットのユーザプログラム実行用 ID が同じになるように設定を修正してください		ユーザプログラムと CPU ユニットのユーザプログラム実行用 ID は同じものを設定してください。 ユーザプログラムおよび CPU ユニットに設定されたユーザプログラム実行用 ID は表示されないため、記録しておいてください	
	CPU ユニットにユーザプログラム実行用 ID が設定されているが、ユーザプログラムには設定されていない		ユーザプログラムにユーザプログラム実行用 ID を設定しない場合は、CPU ユニットに対してメモリオールクリアを行い、CPU ユニットに設定されたユーザプログラム実行用 ID をクリアしてください			
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	不正なユーザプログラム			イベントコード	10240000Hex	
内容	ユーザプログラムが不正です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	なし	検出タイミング	ダウンロード時／電源投入時／コントローラリセット時
異常の属性	重要度	全停止フォールト	復旧方法	電源再投入／コントローラリセット	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	停止	動作	停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	ファンクションブロック／ファンクションのネスティングの階層が制限を超えている		ファンクションブロック／ファンクションのネスティングの階層が制限を超えている箇所を調べて、制限以下になるようにユーザプログラムを修正してください。その後、再度ユーザプログラムをダウンロードしてください		ファンクションブロック／ファンクションのネスティングの階層が制限以下になるようにユーザプログラムを作成してください。 Sysmac Studio でプログラムチェックを行うことでネスティングの階層が制限以下であることをチェックすることができます	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	ユーザプログラム／コントローラ構成・設定不正			**イベントコード**	10250000Hex	
内容	使用メモリが上限をオーバーしているか、ユーザプログラムまたはコントローラ構成・設定データが壊れています					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	ダウンロード時／電源投入時／コントローラリセット時
異常の属性	**重要度**	全停止フォールト	**復旧方法**	電源再投入／コントローラリセット	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	停止	**動作**	停止		

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	−	−

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	データ量の上限値オーバー	本異常と同時に個数制限に関するイベントが発生している場合は、そのイベントの処置対策に従って使用個数が範囲内になるようプログラム･設定を修正してダウンロードしてください	なし
	メインメモリ容量オーバー	本異常と同時に個数制限に関するイベントが発生していない場合は、メモリオールクリアして電源再投入し、本異常が解除されるか確認してください。解除される場合はプロジェクトのプログラムを共通化するなどサイズを削減してダウンロードしてください	
	不揮発性メモリの劣化、故障	2 つ目の処置対策で本異常が再度発生する場合は CPU ユニットを交換してください	

付属情報	なし
注意点／備考	なし

イベント名	自動転送開始エラー			イベントコード	10270000Hex *1	
内容	自動転送の実行前チェックで異常を検出しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	なし	検出タイミング	電源投入時
異常の属性	重要度	全停止フォールト	復旧方法	電源再投入／コントローラリセット	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	停止	動作	停止		

システム定義変数	変数名	データ型	名称
	なし	−	−

発生要因とその処置	発生要因（推定原因）	処置対策	再発防止
	SD メモリカードが未装着	SD メモリカードを装着してください	SD メモリカードを装着してください
	SD メモリカードが種別不正	SD または SDHC の SD メモリカードに交換してください	SD または SDHC の SD メモリカードを使用してください
	SD メモリカードのフォーマット不正	SD メモリカードを Sysmac Studio でフォーマット後、「autoload」フォルダを作成し、バックアップファイルを格納してください	フォーマットされた SD メモリカードを使用し、「autoload」フォルダを作成後、「autoload」フォルダにバックアップファイルを格納しておいてください。 また、SD BUSY LED 点灯中に SD メモリカードを抜いたり電源断をしたりしないでください
	SD メモリカードに「autoload」フォルダが存在しない	SD メモリカードに「autoload」フォルダを作成し、バックアップファイルを格納してください	
	SD メモリカードの「autoload」フォルダにバックアップファイルが存在しない	「autoload」フォルダにバックアップファイルを格納してください	
	SD メモリカードの「autoload」フォルダのバックアップファイルが壊れている、または、必ず転送するデータが SD メモリカードのバックアップファイルに存在しない	「autoload」フォルダに再度バックアップファイルを格納してください。この処置を行っても再度本異常が発生する場合は再度バックアップを取り直して「autoload」フォルダに格納してください	
	転送先の CPU ユニットのユニットバージョンが SD メモリカードのバックアップファイルのユニットバージョンより古い	バックアップを実行した CPU ユニットのユニットバージョンと同じか新しい CPU ユニットに交換してください。または、使用する CPU ユニットのバージョンに合ったバックアップファイルを「autoload」フォルダに格納してください	CPU ユニットのユニットバージョンとバックアップファイルのユニットバージョンが合うようにしてください
	転送先の CPU ユニットの形式が SD メモリカードのバックアップファイルの CPU ユニットの形式と一致しない	バックアップを実行した CPU ユニットの形式と一致する CPU ユニットに交換してください。または、使用する CPU ユニットの形式に一致するバックアップファイルを「autoload」フォルダに格納してください	CPU ユニットの形式とバックアップファイルの CPU ユニットの形式が一致するようにしてください
	SD メモリカードの修復が実行された	「autoload」フォルダにバックアップファイル、自動転送コマンドファイルがない場合は、再度ファイルを格納してください	なし
	CPU ユニットの書込プロテクト機能が有効	自動転送機能を使用する場合は、CPU ユニットの［電源投入時の書込プロテクト］を「しない」に設定してください	自動転送機能を使用する場合は、CPU ユニットの［電源投入時の書込プロテクト］を「しない」に設定してください
	自動転送コマンドファイル(AutoloadCommand.ini)の記述内容が不正	自動転送コマンドファイルの記述内容で、転送必須のファイルの転送を「yes」に設定してください	自動転送コマンドファイルの記述内容で、転送必須のファイルの転送を「yes」に設定してください

	SD メモリカードの故障またはフォーマット不正により、自動転送対象データの読み出しに失敗した	「SD メモリカードのフォーマット不正」、「SD メモリカードの故障」の場合と同じ処置対策を実施してください	「SD メモリカードのフォーマット不正」、「SD メモリカードの故障」の場合と同じ再発防止を実施してください
	SD メモリカードの故障	上記の要因でない場合は SD メモリカードを交換してください	SD BUSY LED 点灯中に SD メモリカードを抜いたり電源断をしたりしないでください。また、書込回数制限にもとづき定期的に SD メモリカードを交換してください
	転送先の CPU ユニットの DB 接続サービスのバージョンが SD メモリカードのバックアップファイルの DB 接続サービスのバージョンより古い	バックアップを実行した CPU ユニットの DB 接続サービスのバージョンと同じか新しい CPU ユニットに交換してください。または、使用する CPU ユニットの DB 接続サービスのバージョンに合ったバックアップファイルを「autoload」フォルダに格納してください	CPU ユニットの DB 接続サービスのバージョンとバックアップファイルの DB 接続サービスのバージョンが合うようにしてください
	転送先の CPU ユニットの Robot バージョンが SD メモリカードのバックアップファイルの Robot バージョンより古い	バックアップを実行した CPU ユニットの Robot バージョンと同じか新しい CPU ユニットに交換してください。または、使用する CPU ユニットの Robot バージョンに合ったバックアップファイルを「autoload」フォルダに格納してください	CPU ユニットの Robot バージョンとバックアップファイルの Robot バージョンが合うようにしてください
付属情報	付属情報 1：異常の詳細 • 0001Hex：SD メモリカード未装着 • 0002Hex：SD メモリカードの故障、フォーマット不正、種別不正 • 0004Hex：SD メモリカードの修復実行 • 0101Hex：「autoload」フォルダが存在しない • 0102Hex：「autoload」フォルダにバックアップファイルが存在しない • 0103Hex：バックアップファイルが壊れている • 0104Hex：自動転送コマンドファイルの記述内容が不正 • 0105Hex：バックアップファイルに、必ず転送するデータが存在しない • 0201Hex：CPU ユニットのユニットバージョンが古い • 0202Hex：CPU ユニットの形式が一致しない • 0203Hex：CPU ユニットの書込プロテクト機能が有効 • 0211Hex：CPU ユニットの DB 接続サービスのバージョンまたは Robot バージョンが古い • 0301Hex：自動転送対象データの読出失敗、SD メモリカードの故障		
注意点／備考	なし		

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.03 以降で発生するイベントです。

イベント名	自動転送実行エラー			**イベントコード**	10280000Hex *1	
内容	自動転送が異常終了しました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	電源投入時
異常の属性	**重要度**	全停止フォールト	**復旧方法**	電源再投入／コントローラリセット	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	停止	**動作**	停止		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	自動転送対象データの読み出しに失敗した		SD メモリカードを Sysmac Studio でフォーマットし、「autoload」フォルダを作成後、「autoload」フォルダにバックアップファイルを格納してください		SD BUSY LED 点灯中に SD メモリカードを抜いたり電源断をしたりしないでください。また、書込回数制限にもとづき定期的に SD メモリカードを交換してください	
	自動転送中に SD メモリカードが抜き取られた		「autoload」フォルダにバックアップファイルが格納された SD メモリカードを装着して、再度電源投入して自動転送を実行してください		自動転送中に SD メモリカードを抜き取らないでください	
	SD メモリカードの「autoload」フォルダにバックアップファイルが存在しない		SD メモリカードに「autoload」フォルダを作成し、バックアップファイルを格納してください		フォーマットされた SD メモリカードを使用し、「autoload」フォルダを作成後、「autoload」フォルダにバックアップファイルを格納しておいてください。 また、SD BUSY LED 点灯中に SD メモリカードを抜いたり電源断をしたりしないでください	
	SD メモリカードの「autoload」フォルダのバックアップファイルが壊れている		「autoload」フォルダに再度バックアップファイルを格納してください。この処置を行っても再度本異常が発生する場合は再度バックアップを取り直して「autoload」フォルダに格納してください			
	SD メモリカードの故障		上記の要因でない場合は、SD メモリカードを交換してください		SD BUSY LED 点灯中に SD メモリカードを抜いたり電源断をしたりしないでください。また、書込回数制限にもとづき定期的に SD メモリカードを交換してください	
	ロボット統合 CPU ユニットの場合は、以下もご確認ください					
	SD メモリカードがライトプロテクトされている		SD メモリカードのライトプロテクトを解除してください		SD メモリカードのライトプロテクトは解除した状態で使用してください	
	SD メモリカードの容量が不足している		十分な空き容量のある SD メモリカードに交換してください		十分な空き容量のある SD メモリカードを使用してください	
	SD メモリカードのファイルシステムで扱うことのできるファイル、またはディレクトリの最大数を超えた		SD メモリカードの不要なファイル、ディレクトリを削除してください		SD メモリカードの不要なファイル、ディレクトリは定期的に削除してください	
付属情報	付属情報 1：異常の詳細 • 0001Hex：SD メモリカードが抜き取られた • 0003Hex：SD メモリカードがライトプロテクトされている（ロボット統合 CPU ユニットの場合） • 0005Hex：SD メモリカードの容量不足（ロボット統合 CPU ユニットの場合） • 0006Hex：ファイル、またはディレクトリの最大数を超過（ロボット統合 CPU ユニットの場合） • 0102Hex：「autoload」フォルダにバックアップファイルが存在しない • 0103Hex：バックアップファイルが壊れている • 0301Hex：自動転送対象データの読出失敗、SD メモリカードの故障					
注意点／備考	なし					

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.03 以降で発生するイベントです。

イベント名	SD メモリカードプログラム転送実行前エラー			**イベントコード**	10330000Hex *1	
内容	SD メモリカードプログラム転送の実行前チェックで異常を検出しました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	コントローラリセット後の、SD メモリカードプログラム転送の実行前
異常の属性	**重要度**	全停止フォールト	**復旧方法**	電源再投入／コントローラリセット	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	停止	**動作**	停止		

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	_Card1PrgTransferSta	_sPRGTRANSFER_STA	SD メモリカード　プログラム転送ステータス

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	SD メモリカードが未装着	SD メモリカードを装着してください	SD メモリカードを装着してください
	SD メモリカードが種別不正	SD または SDHC の SD メモリカードに交換してください	SD または SDHC の SD メモリカードを使用してください
	SD メモリカードのフォーマット不正	SD メモリカードを SysmacStudio でフォーマット後、システム定義変数「_Card1PrgTransferCmd.DirName」で指定するフォルダを作成し、バックアップファイルを格納してください	フォーマットされた SD メモリカードを使用し、システム定義変数「_Card1PrgTransferCmd.DirName」で指定するフォルダを作成後、システム定義変数「_Card1PrgTransferCmd.DirName」で指定するフォルダにバックアップファイルを格納しておいてください。 また、SD BUSY LED 点灯中に SD メモリカードを抜いたり電源断をしたりしないでください
	SD メモリカードに、システム定義変数「_Card1PrgTransferCmd.DirName」で指定するフォルダが存在しない	SD メモリカードに、システム定義変数「_Card1PrgTransferCmd.DirName」で指定するフォルダを作成し、バックアップファイルを格納してください	
	SD メモリカードに、システム定義変数「_Card1PrgTransferCmd.DirName」で指定するフォルダにバックアップファイルが存在しない		
	SD メモリカードの、システム定義変数「_Card1PrgTransferCmd.DirName」で指定するフォルダのバックアップファイルが壊れている、または、必ず転送するデータが SD メモリカードのバックアップファイルに存在しない	システム定義変数「_Card1PrgTransferCmd.DirName」で指定するフォルダに再度バックアップファイルを格納してください。 この処置を行っても再度本異常が発生する場合は再度バックアップを取り直してシステム定義変数「_Card1PrgTransferCmd.DirName」で指定するフォルダに格納してください	
	転送先の CPU ユニットのユニットバージョンが SD メモリカードのバックアップファイルのユニットバージョンより古い	バックアップを実行した CPU ユニットのユニットバージョンと同じか新しい CPU ユニットに交換してください。 または、使用する CPU ユニットのバージョンに合ったバックアップファイルをシステム定義変数「_Card1PrgTransferCmd.DirName」で指定するフォルダに格納してください	CPU ユニットのユニットバージョンとバックアップファイルのユニットバージョンが合うようにしてください

	転送先の CPU ユニットの形式が SD メモリカードのバックアップファイルの CPU ユニットの形式と一致しない	バックアップを実行した CPU ユニットの形式と一致する CPU ユニットに交換してください。 または、使用する CPU ユニットの形式に一致するバックアップファイルをシステム定義変数「_Card1PrgTransferCmd.DirName」で指定するフォルダに格納してください	CPU ユニットの形式とバックアップファイルの CPU ユニットの形式が一致するようにしてください
	CPU ユニットの書込プロテクト機能が有効	SD メモリカードプログラム転送機能を使用する場合は、CPU ユニットの［電源投入時の書込プロテクト］を「しない」に設定してください	SD メモリカードプログラム転送機能を使用する場合は、CPU ユニットの［電源投入時の書込プロテクト］を「しない」に設定してください
	システム定義変数「_Card1PrgTransferCmd」で、転送必須のファイルが転送対象になっていない	システム定義変数「_Card1PrgTransferCmd」で、転送必須のファイルの転送を「TRUE」に設定してください	システム定義変数「_Card1PrgTransferCmd」で、転送必須のファイルの転送を「TRUE」に設定してください
	SD メモリカードの故障またはフォーマット不正により、自動転送対象データの読み出しに失敗した	「SD メモリカードのフォーマット不正」、「SD メモリカードの故障」の場合と同じ処置対策を実施してください	「SD メモリカードのフォーマット不正」、「SD メモリカードの故障」の場合と同じ再発防止を実施してください
	SD メモリカードの故障	上記の要因でない場合は SD メモリカードを交換してください	SD BUSY LED 点灯中に SD メモリカードを抜いたり電源断をしたりしないでください。また、書込回数制限にもとづき定期的に SD メモリカードを交換してください
	転送先の CPU ユニットの DB 接続サービスのバージョンが SD メモリカードのバックアップファイルの DB 接続サービスのバージョンより古い	バックアップを実行した CPU ユニットの DB 接続サービスのバージョンと同じか新しい CPU ユニットに交換してください。または、使用する CPU ユニットの DB 接続サービスのバージョンに合ったバックアップファイルをシステム定義変数「_Card1PrgTransferCmd.DirName」で指定するフォルダに格納してください	CPU ユニットの DB 接続サービスのバージョンとバックアップファイルの DB 接続サービスのバージョンが合うようにしてください
	転送先の CPU ユニットの Robot バージョンが SD メモリカードのバックアップファイルの Robot バージョンより古い	バックアップを実行した CPU ユニットの Robot バージョンと同じか新しい CPU ユニットに交換してください。または、使用する CPU ユニットの Robot バージョンに合ったバックアップファイルをシステム定義変数「_Card1PrgTransferCmd.DirName」で指定するフォルダに格納してください	CPU ユニットの Robot バージョンとバックアップファイルの Robot バージョンが合うようにしてください

付属情報	付属情報 1：異常の詳細 • 0001Hex：SD メモリカード未装着 • 0002Hex：SD メモリカードの故障、フォーマット不正、種別不正 • 0004Hex：SD メモリカードの修復実行 • 0101Hex：SD メモリカードに、システム定義変数「_Card1PrgTransferCmd.DirName」で指定するフォルダが存在しない • 0102Hex：SD メモリカードに、システム定義変数「_Card1PrgTransferCmd.DirName」で指定するフォルダにバックアップファイルが存在しない • 0103Hex：バックアップファイルが壊れている • 0104Hex：システム定義変数「_Card1PrgTransferCmd」で、転送必須のファイルが転送対象になっていない • 0105Hex：バックアップファイルに、必ず転送するデータが存在しない • 0201Hex：CPU ユニットのユニットバージョンが古い • 0202Hex：CPU ユニットの形式が一致しない • 0203Hex：CPU ユニットの書込プロテクト機能が有効 • 0211Hex：CPU ユニットの DB 接続サービスのバージョンまたは Robot バージョンが古い • 0214Hex：CPU ユニットのディップスイッチ設定が、SD メモリカードプログラム転送を開始可能な設定ではない • 0301Hex：プログラム転送対象データの読出失敗、SD メモリカードの故障
注意点／備考	なし

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.11 以降で発生するイベントです。

イベント名	SD メモリカードプログラム転送実行エラー			**イベントコード**	10340000Hex *1	
内容	SD メモリカードプログラム転送が異常終了しました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	SD メモリカードプログラム転送の実行中
異常の属性	**重要度**	全停止フォールト	**復旧方法**	電源再投入／コントローラリセット	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	停止	**動作**	停止		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_Card1PrgTransferSta		_sPRGTRANSFER_STA		SD メモリカード　プログラム転送ステータス	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	SD メモリカードプログラム転送対象データの読み出しに失敗した		SD メモリカードを Sysmac Studio でフォーマットし、システム定義変数「_Card1PrgTransferCmd.DirName」で指定するフォルダを作成後、システム定義変数「_Card1PrgTransferCmd.DirName」で指定するフォルダにバックアップファイルを格納してください		SD BUSY LED 点灯中に SD メモリカードを抜いたり電源断をしたりしないでください。また、書込回数制限にもとづき定期的に SD メモリカードを交換してください	
	SD メモリカードププログラム転送中に SD メモリカードが抜き取られた		システム定義変数「_Card1PrgTransferCmd.DirName」で指定するフォルダにバックアップファイルが格納された SD メモリカードを装着して、再度 SD メモリカードプログラム転送を実行してください		SD メモリカードプログラム転送中に SD メモリカードを抜き取らないでください	
	SD メモリカードに、システム定義変数「_Card1PrgTransferCmd.DirName」で指定するフォルダにバックアップファイルが存在しない		SD メモリカードに、システム定義変数「_Card1PrgTransferCmd.DirName」で指定するフォルダを作成し、バックアップファイルを格納してください		フォーマットされた SD メモリカードを使用し、システム定義変数「_Card1PrgTransferCmd.DirName」で指定するフォルダを作成後、システム定義変数「_Card1PrgTransferCmd.DirName」で指定するフォルダにバックアップファイルを格納しておいてください。 また、SD BUSY LED 点灯中に SD メモリカードを抜いたり電源断をしたりしないでください	
	SD メモリカードの、システム定義変数「_Card1PrgTransferCmd.DirName」で指定するフォルダのバックアップファイルが壊れている		システム定義変数「_Card1PrgTransferCmd.DirName」で指定するフォルダに再度バックアップファイルを格納してください。この処置を行っても再度本異常が発生する場合は再度バックアップを取り直してシステム定義変数「_Card1PrgTransferCmd.DirName」で指定するフォルダに格納してください			
	SD メモリカードの故障		上記の要因でない場合は、SD メモリカードを交換してください		SD BUSY LED 点灯中に SD メモリカードを抜いたり電源断をしたりしないでください。また、書込回数制限にもとづき定期的に SD メモリカードを交換してください	

	ロボット統合 CPU ユニットの場合は、以下もご確認ください		
	SD メモリカードがライトプロテクトされている	SD メモリカードのライトプロテクトを解除してください	SD メモリカードのライトプロテクトは解除した状態で使用してください
	SD メモリカードの容量が不足している	十分な空き容量のある SD メモリカードに交換してください	十分な空き容量のある SD メモリカードを使用してください
	SD メモリカードのファイルシステムで扱うことのできるファイル、またはディレクトリの最大数を超えた	SD メモリカードの不要なファイル、ディレクトリを削除してください	SD メモリカードの不要なファイル、ディレクトリは定期的に削除してください
付属情報	付属情報 1：異常の詳細 • 0001Hex：SD メモリカードが抜き取られた • 0003Hex：SD メモリカードがライトプロテクトされている（ロボット統合 CPU ユニットの場合） • 0005Hex：SD メモリカードの容量不足（ロボット統合 CPU ユニットの場合） • 0006Hex：ファイル、またはディレクトリの最大数を超過（ロボット統合 CPU ユニットの場合） • 0102Hex：SD メモリカードに、システム定義変数「_Card1PrgTransferCmd.DirName」で指定するフォルダにバックアップファイルが存在しない • 0103Hex：バックアップファイルが壊れている • 0301Hex：SD メモリカードプログラム転送対象データの読出失敗、SD メモリカードの故障		
注意点／備考	なし		

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.11 以降で発生するイベントです。

イベント名	PLC 機能処理異常			**イベントコード**	40110000Hex	
内容	PLC 機能モジュールで致命的な異常を検出しました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	全停止フォールト	**復旧方法**	電源再投入	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	停止	**動作**	停止		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		—		—	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	ソフトウェアにエラーが発生した		当社営業または代理店にお問い合わせください		なし	
付属情報	付属情報 1：システム情報 付属情報 2：システム情報 付属情報 3：システム情報 付属情報 4：システム情報					
注意点／備考	なし					

イベント名	セーフモード			イベントコード	40160000Hex *1	
内容	コントローラをセーフモードで起動しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	なし	検出タイミング	電源投入時／コントローラリセット時
異常の属性	重要度	全停止フォールト	復旧方法	電源再投入／コントローラリセット	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	停止	動作	停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	CPU ユニットのディップスイッチをセーフモードに設定してコントローラの電源を ON した		−		−	
付属情報	なし					
注意点／備考	セーフモードでコントローラを起動した場合は、コントローラの電源投入時の動作モードが「運転モード」の場合でも、ユーザプログラムは実行されません					

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.02 以前で発生するイベントです。

イベント名	PLC 機能処理異常			イベントコード	44420000Hex *1	
内容	PLC 機能モジュールで致命的な異常を検出しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	なし	検出タイミング	常時
異常の属性	重要度	全停止フォールト	復旧方法	電源再投入／コントローラリセット	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	停止	動作	停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	ソフトウェアにエラーが発生した		当社営業または代理店にお問い合わせください		なし	
付属情報	付属情報 1：システム情報 付属情報 2：システム情報 付属情報 3：システム情報 付属情報 4：システム情報					
注意点／備考	なし					

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.05 以降で発生するイベントです。

イベント名	オートメーションプレイバック起動異常			イベントコード	35EF0000Hex *1	
内容	オートメーションプレイバック機能が起動できません					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	なし	検出タイミング	CPU ユニットの起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	オートメーションプレイバック機能を使用しない設定に変更し、Sysmac Studio の同期機能で設定を転送する	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_APB_Status		_sAPB_STATUS		APB サービスステータス	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	オートメーションプレイバック機能が利用できない CPU ユニットで、オートメーションプレイバック機能を使う設定がされている		オートメーションプレイバック機能を使用しない設定に変更し、Sysmac Studio の同期画面で転送してください		オートメーションプレイバック機能が利用できる CPU ユニットで、オートメーションプレイバック機能を使う設定をしてください	
付属情報	付属情報 1：CPU ユニットの形式 付属情報 2：CPU ユニットのユニットバージョン					
注意点／備考	なし					

*1.　形 NX502 CPU ユニットバージョン Ver.1.63 以降で発生するイベントです。

イベント名	PLC 機能処理異常			イベントコード	40120000Hex	
内容	PLC 機能モジュールで致命的な異常を検出しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	なし	検出タイミング	常時
異常の属性	重要度	部分停止フォールト	復旧方法	電源再投入	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	停止	動作	停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	ソフトウェアにエラーが発生した		当社営業または代理店にお問い合わせください		なし	
付属情報	付属情報 1：システム情報 付属情報 2：システム情報 付属情報 3：システム情報 付属情報 4：システム情報					
注意点／備考	なし					

イベント名	PLC 機能処理異常			**イベントコード**	40130000Hex	
内容	PLC 機能モジュールの一部で致命的な異常を検出しました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	電源再投入／コントローラリセット	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	ソフトウェアにエラーが発生した		当社営業または代理店にお問い合わせください		なし	
付属情報	付属情報 1：システム情報[*1] 付属情報 2：システム情報 付属情報 3：システム情報 付属情報 4：システム情報					
注意点／備考	なし					

*1. 「devb-mmcsd」と格納されていた場合、SD メモリカードを交換し、CPU ユニットの電源を再投入してください。

<table>
<tr><td>イベント名</td><td colspan="2">変数のサンプリング上限</td><td>イベントコード</td><td colspan="2">95770000Hex *1</td></tr>
<tr><td>内容</td><td colspan="5">変数のサンプリング可能な上限値に達しました</td></tr>
<tr><td>発生源</td><td colspan="2">PLC 機能モジュール</td><td>発生源詳細</td><td>なし</td><td>検出タイミング</td><td>変数のサンプリング開始時</td></tr>
<tr><td rowspan="2">異常の属性</td><td>重要度</td><td>軽度フォールト</td><td>復旧方法</td><td>オートメーションプレイバック機能で収集対象を変更し、Sysmac Studio の同期機能で設定を転送する</td><td>ログカテゴリ</td><td>システム</td></tr>
<tr><td>発生の影響</td><td>ユーザプログラム</td><td>継続</td><td>動作</td><td colspan="3">影響なし</td></tr>
<tr><td rowspan="2">システム定義変数</td><td colspan="2">変数名</td><td colspan="2">データ型</td><td colspan="2">名称</td></tr>
<tr><td colspan="2">_APB_Status</td><td colspan="2">_sAPB_STATUS</td><td colspan="2">APB サービスステータス</td></tr>
<tr><td rowspan="2">発生要因とその処置</td><td colspan="2">発生要因（推定原因）</td><td colspan="2">処置対策</td><td colspan="2">再発防止</td></tr>
<tr><td colspan="2">変数のサンプリング可能な数量、サイズもしくは処理能力が上限を超えた</td><td colspan="2">以下の処置にて、変数のサンプリングが動作可能な収集設定に調整してください。
• 収集対象のプログラム POU を減らす
• タスク周期時間を伸ばす
• 軸変数をサンプリング対象から除外する（プライマリ定周期タスクの場合のみ）</td><td colspan="2">収集対象を、変数ログに残す必要のある変数を含むプログラム POU に限定する</td></tr>
<tr><td>付属情報</td><td colspan="6">付属情報 1：サンプリングが実行できないタスク種別
• 0：プライマリ定周期タスク
• 1：定周期タスク
付属情報 2：要因の種別
• 0：変数の合計数が上限を超えた
• 1：変数の合計サイズが上限を超えた
• 2：処理能力が上限を超えた
付属情報 3
• 付属情報 2 が 0：サンプリング対象に設定されている変数の合計数
• 付属情報 2 が 1：サンプリング対象に設定されている変数の合計サイズ（バイト）
• 付属情報 2 が 2：0 固定
付属情報 4：異常が発生した際の収集設定番号</td></tr>
<tr><td>注意点／備考</td><td colspan="6">• 変数のサンプリングは停止します</td></tr>
</table>

*1. 形 NX502 CPU ユニットバージョン Ver.1.63 以降 Ver.1.65 未満で発生するイベントです。

イベント名	変数のサンプリング上限			イベントコード	95790000Hex *1	
内容	変数のサンプリング可能な上限値に達しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	なし	検出タイミング	変数のサンプリング開始時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	オートメーションプレイバック機能で収集対象を変更し、Sysmac Studio の同期機能で設定を転送する	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_APB_Status		_sAPB_STATUS		APB サービスステータス	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	変数のサンプリング可能な数量、サイズもしくは処理能力が上限を超えた		以下の処置にて、変数のサンプリングが動作可能な収集設定に調整してください。 • 収集対象のプログラム POU を減らす • タスク周期時間を伸ばす • 軸変数をサンプリング対象から除外する（プライマリ定周期タスクの場合のみ）		収集対象を、変数ログに残す必要のある変数を含むプログラム POU に限定する	
付属情報	付属情報 1：サンプリングが実行できないタスク種別 • 0：プライマリ定周期タスク • 1：定周期タスク 付属情報 2：要因の種別 • 0：変数の合計数が上限を超えた • 1：変数の合計サイズが上限を超えた • 2：処理能力が上限を超えた 付属情報 3 • 付属情報 2 が 0：サンプリング対象に設定されている変数の合計数 • 付属情報 2 が 1：サンプリング対象に設定されている変数の合計サイズ（KB） • 付属情報 2 が 2：0 固定 付属情報 4：異常が発生した際の収集設定番号					
注意点／備考	• 変数のサンプリングは停止します • 重要度を監視情報に変更できます。監視情報に変更した場合、復旧は不要となります					

*1. 形 NX502 CPU ユニットバージョン Ver.1.65 以降で発生するイベントです。

イベント名	イベントログ保存失敗			**イベントコード**	10230000Hex	
内容	イベントログの保存に失敗しました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	電源投入時／コントローラリセット時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	開始	**動作**	影響なし。ただし、過去のイベントログの一部、または全部の読み出し不可		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	バッテリ電圧低下による電断保持失敗（NJ/NX シリーズの場合）		バッテリを交換してください		バッテリの定期的な交換	
	強制シャットダウンされた（NY シリーズの場合）		なし		強制シャットダウン以外の方法でシャットダウンしてください	
	イベントログエリアのデータが不正（NY シリーズの場合）		産業用 PC を電源再投入しても本異常が再発する場合は、イベントログエリアのハードウェア故障の可能性があります。産業用 PC のイベントログ機能を使用する場合は、産業用 PC を交換してください		なし	
	イベントログエリアのデータが不正		CPU ユニットを電源再投入しても本異常が再発する場合は、イベントログエリアのハードウェア故障の可能性があります。CPU ユニットのイベントログ機能を使用する場合は、CPU ユニットを交換してください		なし	
付属情報	付属情報 1：異常の詳細 • 0：全カテゴリのログの保存に失敗 • 1：システムイベントログの保存に失敗 • 2：アクセスイベントログの保存に失敗 • 100：ユーザイベントログの保存に失敗					
注意点／備考	なし					

イベント名	トレース設定転送失敗			**イベントコード**	10260000Hex	
内容	トレース設定の転送中に電断が発生しました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	電源投入時／コントローラリセット時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	電源再投入／コントローラリセット	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	トレース設定の転送中に電断した		トレース設定を再転送してください		トレース設定の転送中に電断しないでください	
付属情報	なし					
注意点／備考	本異常発生時にはすべてのトレース設定が初期化されます					

イベント名	バックアップ開始失敗			イベントコード	10290000Hex *1	
内容	バックアップの実行前チェックで異常を検出しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	なし	検出タイミング	ユーザからのバックアップ指示時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	SD メモリカードが未装着		SD メモリカードを装着してください		SD メモリカードを装着してください	
	SD メモリカードが種別不正		SD または SDHC の SD メモリカードに交換してください		SD または SDHC の SD メモリカードを使用してください	
	SD メモリカードのフォーマット不正		SD メモリカードを Sysmac Studio でフォーマットしてください		フォーマットされた SD メモリカードを使用してください。 また、SD BUSY LED 点灯中に SD メモリカードを抜いたり電源断をしたりしないでください	
	SD メモリカードがライトプロテクトされている		SD メモリカードのライトプロテクトを解除してください		SD メモリカードのライトプロテクトは解除した状態で使用してください	
	[SD メモリカードへのバックアップ禁止] 設定が「禁止する」に設定されている		[SD メモリカードへのバックアップ禁止] 設定を解除してください		[SD メモリカードへのバックアップ禁止] 設定を使用しないでください	
	他のバックアップ機能が動作中である		他のバックアップ機能の実行が完了してから再度バックアップ操作を行ってください		他のバックアップ機能の実行中はバックアップ操作を行わないでください	
	同期、オンラインエディットまたはメモリオールクリアが実行中である		同期、オンラインエディット、メモリオールクリアが完了してから再度バックアップ操作を行ってください		同期、オンラインエディット、メモリオールクリアの実行中はバックアップ操作を行わないでください	
	ユーザ操作によりバックアップを中止した		なし		なし	
	Sysmac Studio とのオンライン接続が切断した		ケーブルの接続を確認してください。いったんオフラインにし、再度オンライン接続してからバックアップを実行してください		ケーブルが断線していないことを確認してください。ケーブルが確実に接続されていることを確認してください	
	SD メモリカードの故障		上記の要因でない場合は、SD メモリカードを交換してください		SD BUSY LED 点灯中に SD メモリカードを抜いたり電源断をしたりしないでください。また、書込回数制限にもとづき定期的に SD メモリカードを交換してください	

付属情報	付属情報 1：操作種別 • 0101Hex：コントローラ→SD メモリカード（CPU ユニット前面スイッチ操作による指示） • 0102Hex：コントローラ→SD メモリカード（システム変数による指示） • 0103Hex：コントローラ→SD メモリカード（Sysmac Studio 操作による指示、または各機能モジュール固有のトリガ） • 0104Hex：コントローラ→SD メモリカード（命令による指示） • 0201Hex：コントローラ→パソコン 付属情報 2：異常の詳細 • 0001Hex：SD メモリカード未装着 • 0002Hex：SD メモリカードの故障、フォーマット不正、種別不正 • 0003Hex：SD メモリカードがライトプロテクトされている • 0204Hex：「SD メモリカードへのバックアップ禁止」設定が「禁止する」に設定されている • 0205Hex：他のバックアップ機能が実行中 • 0206Hex：同期、オンラインエディット、メモリオールクリアが実行中 • 0207Hex：システム定義変数で指定したディレクトリ名に禁止文字を使用している • 0401Hex：ユーザ操作によりバックアップを中止した • 0501hex：Sysmac Studio とのオンライン接続が切断した
注意点／備考	なし

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.03 以降で発生するイベントです。

イベント名	バックアップ実行失敗			**イベントコード**	102A0000Hex *1	
内容	バックアップが異常終了しました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	バックアップ実行中
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	−	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	−	−
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	SD メモリカードの容量が不足している	十分な空き容量のある SD メモリカードに交換してください	十分な空き容量のある SD メモリカードを使用してください
	バックアップ対象データの保存に失敗した	CPU ユニットへの書込操作を行わない状態で再度バックアップを行ってください	バックアップ中は、CPU ユニットへの書込操作を行わないでください
	バックアップ中に SD メモリカードが抜き取られた	SD メモリカードを装着してください	SD メモリカードを装着してください
	ユニット／スレーブのバックアップに失敗した	「バックアップ実行失敗(CJ ユニット)」(102D0000Hex)または「バックアップ実行失敗 (EtherCAT スレーブ)」(102F0000Hex)の処置対策を参照してください	「バックアップ実行失敗(CJ ユニット)」(102D0000Hex)または「バックアップ実行失敗 (EtherCAT スレーブ)」(102F0000Hex)の再発防止を参照してください
	ユーザ操作によりバックアップを中止した	なし	なし
	カムテーブル保存命令、または CPU ユニット名称の更新が実行中である	カムテーブル保存命令、または CPU ユニット名称の更新が完了してから操作してください	カムテーブル保存命令、または CPU ユニット名称の更新中は、バックアップを行わないでください
	Sysmac Studio とのオンライン接続が切断した	ケーブルの接続を確認してください。いったんオフラインにし、再度オンライン接続してからバックアップを実行してください	ケーブルが断線していないことを確認してください。ケーブルが確実に接続されていることを確認してください
	パソコンへのバックアップ対象データの保存に失敗した	パソコンのハードディスクの空き容量を増やしてください	ハードディスクの空き容量が十分であることを確認してからバックアップを行ってください
	SD メモリカードの故障	上記の要因でない場合は、SD メモリカードを交換してください	SD BUSY LED 点灯中に SD メモリカードを抜いたり電源断をしたりしないでください。書込回数制限にもとづき定期的に SD メモリカードを交換してください
	ロボット統合 CPU ユニットの場合は、以下もご確認ください		
	SD メモリカードのフォーマット不正	SD メモリカードを Sysmac Studio でフォーマットしてください	フォーマットされた SD メモリカードを使用してください
	SD メモリカードがライトプロテクトされている	SD メモリカードのライトプロテクトを解除してください	SD メモリカードのライトプロテクトは解除した状態で使用してください
	バックアップ対象データである SD メモリカードの/D フォルダが存在しない	CPU ユニットを電源再投入し、/D フォルダを工場出荷時状態に戻す、または Sysmac Studio からダウンロードを行ってください	SD メモリカードの/D フォルダを削除しないでください

付属情報	付属情報 1：操作種別 • 0101Hex：コントローラ→SD メモリカード（CPU ユニット前面スイッチ操作による指示） • 0102Hex：コントローラ→SD メモリカード（システム変数による指示） • 0103Hex：コントローラ→SD メモリカード（Sysmac Studio 操作による指示、または各機能モジュール固有のトリガ） • 0104Hex：コントローラ→SD メモリカード（命令による指示） • 0201Hex：コントローラ→パソコン 付属情報 2：異常の詳細 • 0001Hex：SD メモリカードが抜き取られた • 0001Hex：SD メモリカードが抜きとられた、またはフォーマット不正（ロボット統合 CPU ユニットの場合で、操作種別が 0201Hex のとき） • 0003Hex：SD メモリカードがライトプロテクトされている（ロボット統合 CPU ユニットの場合） • 0005Hex：SD メモリカードの容量不足 • 0006Hex：ファイル、またはディレクトリの最大数を超過 • 0106Hex：SD メモリカードに/D フォルダが見つからない（ロボット統合 CPU ユニットの場合） • 0206Hex：カムテーブル保存命令、または CPU ユニット名称の更新が実行中 • 0210Hex：指定ディレクトリと同名のファイルが存在 • 0302Hex：バックアップ対象データの保存失敗、SD メモリカードの故障 • 0304Hex：ユニット／スレーブのバックアップに失敗した • 0401Hex：ユーザ操作によりバックアップを中止した • 0501Hex：Sysmac Studio とのオンライン接続が切断した • 0502Hex：パソコンへのバックアップ対象データの保存に失敗した
注意点／備考	なし

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.03 以降で発生するイベントです。

イベント名	リストア開始失敗			**イベントコード**	102B0000Hex *1	
内容	リストアの実行前チェックで異常を検出しました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	ユーザからのリストア指示時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	－	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	システム定義変数による指示の場合					
	_Card1RestoreSta		_sRESTORE_STA		SD メモリカード　リストアステータス	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	SD メモリカードが未装着		SD メモリカードを装着してください		SD メモリカードを装着してください	
	SD メモリカードが種別不正		SD または SDHC の SD メモリカードに交換してください		SD または SDHC の SD メモリカードを使用してください	
	SD メモリカードのフォーマット不正		SD メモリカードを Sysmac Studio でフォーマット後、バックアップファイルを格納してください		フォーマットされた SD メモリカードを使用し、バックアップファイルを格納しておいてください。 また、SD BUSY LED 点灯中に SD メモリカードを抜いたり電源断をしたりしないでください	
	SD メモリカードにバックアップファイルが存在しない		SD メモリカードの指定したフォルダにバックアップファイルを格納してください			
	SD メモリカードのバックアップファイルが壊れている、または、必ずリストアするデータが SD メモリカードのバックアップファイルに存在しない		再度バックアップを取り直してしてください			
	リストア先の CPU ユニットのユニットバージョンが SD メモリカードのバックアップファイルのユニットバージョンより古い		バックアップを実行した CPU ユニットのユニットバージョンと同じか新しい CPU ユニットに交換してください。または、使用する CPU ユニットのバージョンに合ったバックアップファイルを指定してください		CPU ユニットのユニットバージョンとバックアップファイルのユニットバージョンが合うようにしてください	
	リストア先の CPU ユニットの形式が SD メモリカードのバックアップファイルの CPU ユニットの形式と一致しない		バックアップを実行した CPU ユニットの形式と一致する CPU ユニットに交換してください。または、使用する CPU ユニットの形式に一致するバックアップファイルを指定してください		CPU ユニットの形式とバックアップファイルの CPU ユニットの形式が一致するようにしてください	
	SD メモリカードの修復が実行された		SD メモリカードの指定したフォルダにバックアップファイル、リストアコマンドファイルがない場合は、再度ファイルを格納してください		なし	
	CPU ユニットの書込プロテクト機能が有効		リストア機能を使用する場合は、CPU ユニットの［電源投入時の書込プロテクト］を「しない」に設定してください		リストア機能を使用する場合は、CPU ユニットの［電源投入時の書込プロテクト］を「しない」に設定してください	
	リストアコマンドファイル(RestoreCommand.ini)の記述内容が不正		リストアコマンドファイルの記述内容で、リストア必須のファイルの転送を「yes」に設定してください		リストアコマンドファイルの記述内容で、リストア必須のファイルの転送を「yes」に設定してください	
	他のバックアップ機能が動作中である		他のバックアップ機能の実行が完了してから再度リストア操作を行ってください		他のバックアップ機能の実行中はリストア操作を行わないでください	
	同期、オンラインエディットまたはメモリオールクリアが実行中である		同期、オンラインエディット、メモリオールクリアが完了してから再度リストア操作を行ってください		同期、オンラインエディット、メモリオールクリアの実行中はリストア操作を行わないでください	

	Sysmac Studio とのオンライン接続が切断した	ケーブルの接続を確認してください。いったんオフラインにし、再度オンライン接続してからバックアップを実行してください	ケーブルが断線していないことを確認してください。ケーブルが確実に接続されていることを確認してください
	SD メモリカードの故障またはフォーマット不正により、リストア対象データの読み出しに失敗した	「SD メモリカードのフォーマット不正」、「SD メモリカードの故障」の場合と同じ処置対策を実施してください	「SD メモリカードのフォーマット不正」、「SD メモリカードの故障」の場合と同じ再発防止を実施してください
	SD メモリカードの故障	上記の要因でない場合は、SD メモリカードを交換してください	SD BUSY LED 点灯中に SD メモリカードを抜いたり電源断をしたりしないでください。また、書込回数制限にもとづき定期的に SD メモリカードを交換してください
	リストア先の CPU ユニットの DB 接続サービスのバージョンが SD メモリカードのバックアップファイルの DB 接続サービスのバージョンより古い	バックアップを実行した CPU ユニットの DB 接続サービスのバージョンと同じか新しい CPU ユニットに交換してください。または、使用する CPU ユニットの DB 接続サービスのバージョンに合ったバックアップファイルを指定してください	CPU ユニットの DB 接続サービスのバージョンとバックアップファイルの DB 接続サービスのバージョンが合うようにしてください
	リストア先の CPU ユニットの Robot バージョンが SD メモリカードのバックアップファイルの Robot バージョンより古い	バックアップを実行した CPU ユニットの Robot バージョンと同じか新しい CPU ユニットに交換してください。または、使用する CPU ユニットの Robot バージョンに合ったバックアップファイルを指定してください	CPU ユニットの Robot バージョンとバックアップファイルの Robot バージョンが合うようにしてください
	システム定義変数による指示の場合は、以下もご確認ください		
	コントローラ設定の「システム定義変数によるリストア」が「使用しない」に設定されている	コントローラ設定の「システム定義変数によるリストア」を「使用する」にしてください	コントローラ設定の「システム定義変数によるリストア」を「使用する」にしてください
	コントローラ設定の「システム定義変数によるリストア」の「パスワード」と、システム定義変数 _Card1RestoreCmd.Password とが一致しない	コントローラ設定の「システム定義変数によるリストア」の「パスワード」を、システム定義変数 _Card1RestoreCmd.Password に設定してください	コントローラ設定の「システム定義変数によるリストア」の「パスワード」を、システム定義変数 _Card1RestoreCmd.Password に設定してください
	CPU ユニットのディップスイッチ設定が、SD メモリカードバックアップ機能のリストアをシステム定義変数による指示で開始可能な設定ではない	CPU ユニットのディップスイッチ設定を、すべて OFF にしてから、SD メモリカードバックアップ機能のリストアをシステム定義変数による指示で開始してください	CPU ユニットのディップスイッチ設定を、すべて OFF にしてから、SD メモリカードバックアップ機能のリストアをシステム定義変数による指示で開始してください
	システム定義変数で指定するフォルダが存在しない	システム定義変数で指定するフォルダを作成し、バックアップファイルを格納してください	システム定義変数で指定するフォルダを作成し、バックアップファイルを格納してください
	システム定義変数で、転送必須のファイルが転送対象になっていない	システム定義変数で、転送必須のファイルの転送を「TRUE」に設定してください	システム定義変数で、転送必須のファイルの転送を「TRUE」に設定してください
	ロボット統合 CPU ユニットの場合は、以下もご確認ください		
	SD メモリカードがライトプロテクトされている	SD メモリカードのライトプロテクトを解除してください	SD メモリカードのライトプロテクトは解除した状態で使用してください
	SD メモリカードの容量が不足している	十分な空き容量のある SD メモリカードに交換してください	十分な空き容量のある SD メモリカードを使用してください

付属情報	付属情報 1：操作種別 • 0101Hex：SD メモリカード→コントローラ（CPU ユニット前面スイッチ操作による指示） • 0102Hex：SD メモリカード→コントローラ（システム定義変数による指示） • 0201Hex：パソコン→コントローラ 付属情報 2：異常の詳細 • 0001Hex：SD メモリカード未装着 • 0002Hex：SD メモリカードの故障、フォーマット不正、種別不正 • 0003Hex：SD メモリカードがライトプロテクトされている（ロボット統合 CPU ユニットの場合） • 0004Hex：SD メモリカードの修復実行 • 0005Hex：SD メモリカードの容量不足（ロボット統合 CPU ユニットの場合） • 0101Hex：SD メモリカードに、システム定義変数_Card1RestoreCmd.DirName で指定するフォルダが存在しない • 0102Hex：バックアップファイルが存在しない • 0103Hex：バックアップファイルが壊れている • 0104Hex：リストアコマンドファイルの記述内容が不正、または、システム定義変数で、転送必須のファイルが転送対象になっていない • 0105Hex：バックアップファイルに、必ず転送するデータが存在しない • 0201Hex：CPU ユニットのユニットバージョンが古い • 0202Hex：CPU ユニットの形式が一致しない • 0203Hex：CPU ユニットの書込プロテクト機能が有効 • 0205Hex：他のバックアップ機能が実行中 • 0206Hex：同期、オンラインエディット、メモリオールクリアが実行中 • 0211Hex：CPU ユニットの DB 接続サービスのバージョンまたは Robot バージョンが古い • 0212Hex：コントローラ設定の「システム定義変数によるリストア」が「使用しない」に設定されている • 0213Hex：コントローラ設定の「システム定義変数によるリストア」の「パスワード」と、システム定義変数_Card1RestoreCmd.Password とが一致しない • 0214Hex：CPU ユニットのディップスイッチ設定が、SD メモリカードバックアップ機能のリストアをシステム定義変数による指示で開始可能な設定ではない • 0301Hex：リストア対象データの読出失敗、SD メモリカードの故障 • 0501Hex：Sysmac Studio とのオンライン接続が切断した
注意点／備考	なし

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.03 以降で発生するイベントです。

イベント名	リストア実行失敗			**イベントコード**	102C0000Hex *1	
内容	リストアが異常終了しました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	リストア実行中
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	－	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_Card1RestoreSta		_sRESTORE_STA		SD メモリカード　リストアステータス	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	リストア対象データの読み出しに失敗した		SD メモリカードを Sysmac Studio でフォーマットし、バックアップファイルを格納してください		SD BUSY LED 点灯中に SD メモリカードを抜いたり電源断をしたりしないでください。また、書込回数制限にもとづき定期的に SD メモリカードを交換してください	
	リストア中に SD メモリカードが抜き取られた		バックアップファイルが格納された SD メモリカードを装着して、再度リストアを実行してください		リストア中に SD メモリカードを抜き取らないでください	
	ユニット／スレーブのリストアに失敗した		「リストア実行失敗(CJ ユニット)」(102E0000Hex)または「リストア実行失敗（EtherCAT スレーブ)」(10300000Hex)の処置対策を参照してください		「リストア実行失敗(CJ ユニット)」(102E0000Hex)または「リストア実行失敗（EtherCAT スレーブ)」(10300000Hex)の再発防止を参照してください	
	SD メモリカードの故障		上記の要因でない場合は、SD メモリカードを交換してください		SD BUSY LED 点灯中に SD メモリカードを抜いたり電源断をしたりしないでください。また、書込回数制限にもとづき定期的に SD メモリカードを交換してください	
	ロボット統合 CPU ユニットの場合は、以下もご確認ください					
	SD メモリカードがライトプロテクトされている		SD メモリカードのライトプロテクトを解除してください		SD メモリカードのライトプロテクトは解除した状態で使用してください	
	SD メモリカードの容量が不足している		十分な空き容量のある SD メモリカードに交換してください		十分な空き容量のある SD メモリカードを使用してください	
	SD メモリカードのファイルシステムで扱うことのできるファイル、またはディレクトリの最大数を超えた		SD メモリカードの不要なファイル、ディレクトリを削除してください		SD メモリカードの不要なファイル、ディレクトリは定期的に削除してください	
付属情報	付属情報 1：操作種別 • 0101Hex：SD メモリカード→コントローラ（CPU ユニット前面スイッチ操作による指示） • 0102Hex：SD メモリカード→コントローラ（システム定義変数による指示） • 0201Hex：パソコン→コントローラ 付属情報 2：異常の詳細 • 0001Hex：SD メモリカードが抜き取られた • 0003Hex：SD メモリカードがライトプロテクトされている（ロボット統合 CPU ユニットの場合） • 0005Hex：SD メモリカードの容量不足（ロボット統合 CPU ユニットの場合） • 0006Hex：ファイル、またはディレクトリの最大数を超過（ロボット統合 CPU ユニットの場合） • 0102Hex：バックアップファイルが存在しない • 0103Hex：バックアップファイルが壊れている • 0301Hex：リストア対象データの読出失敗、SD メモリカードの故障 • 0303Hex：ユニット／スレーブのリストアに失敗した					
注意点／備考	なし					

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.03 以降で発生するイベントです。

イベント名	SD メモリカードプログラム転送開始失敗		イベントコード	10320000Hex *1		
内容	SD メモリカードプログラム転送の開始前チェックで異常を検出しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	なし	検出タイミング	SD メモリカードプログラム転送の開始時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	−	動作	影響なし		

システム定義変数	変数名	データ型	名称
	_Card1PrgTransferSta	_sPRGTRANSFER_STA	SD メモリカード　プログラム転送ステータス

発生要因とその処置	発生要因（推定原因）	処置対策	再発防止
	コントローラ設定の「システム定義変数によるプログラム転送」が「使用しない」に設定されている	コントローラ設定の「システム定義変数によるプログラム転送」を「使用する」に設定してください	コントローラ設定の「システム定義変数によるプログラム転送」を「使用する」に設定してください
	コントローラ設定の「システム定義変数による転送」の「パスワード」と、システム定義変数 _Card1PrgTransferCmd.Password とが一致しない	コントローラ設定の「システム定義変数によるプログラム転送」の「パスワード」を、システム定義変数 _Card1PrgTransferCmd.Password に設定してください	コントローラ設定の「システム定義変数によるプログラム転送」の「パスワード」を、システム定義変数 _Card1PrgTransferCmd.Password に設定してください
	CPU ユニットのディップスイッチ設定が、SD メモリカードプログラム転送を開始可能な設定ではない	CPU ユニットのディップスイッチ設定を、すべて OFF にしてから、SD メモリカードプログラム転送を開始してください	CPU ユニットのディップスイッチ設定を、すべて OFF にしてから、SD メモリカードプログラム転送を開始してください
	SD メモリカードが未装着	SD メモリカードを装着してください	SD メモリカードを装着してください
	SD メモリカードが種別不正	SD または SDHC の SD メモリカードに交換してください	SD または SDHC の SD メモリカードを使用してください
	SD メモリカードのフォーマット不正	SD メモリカードを Sysmac Studio でフォーマット後、システム定義変数「_Card1PrgTransferCmd.DirName」で指定するフォルダを作成し、バックアップファイルを格納してください	フォーマットされた SD メモリカードを使用し、システム定義変数「_Card1PrgTransferCmd.DirName」で指定するフォルダを作成後、システム定義変数「_Card1PrgTransferCmd.DirName」で指定するフォルダにバックアップファイルを格納しておいてください。 また、SD BUSY LED 点灯中に SD メモリカードを抜いたり電源断をしたりしないでください
	SD メモリカードに、システム定義変数「_Card1PrgTransferCmd.DirName」で指定するフォルダが存在しない	SD メモリカードに、システム定義変数「_Card1PrgTransferCmd.DirName」で指定するフォルダを作成し、バックアップファイルを格納してください	
	SD メモリカードに、システム定義変数「_Card1PrgTransferCmd.DirName」で指定するフォルダにバックアップファイルが存在しない		
	SD メモリカードの、システム定義変数「_Card1PrgTransferCmd.DirName」で指定するフォルダのバックアップファイルが壊れている、または、必ず転送するデータが SD メモリカードのバックアップファイルに存在しない	システム定義変数「_Card1PrgTransferCmd.DirName」で指定するフォルダに再度バックアップファイルを格納してください。 この処置を行っても再度本異常が発生する場合は再度バックアップを取り直してシステム定義変数「_Card1PrgTransferCmd.DirName」で指定するフォルダに格納してください	

	転送先の CPU ユニットのユニットバージョンが SD メモリカードのバックアップファイルのユニットバージョンより古い	バックアップを実行した CPU ユニットのユニットバージョンと同じか新しい CPU ユニットに交換してください。 または、使用する CPU ユニットのバージョンに合ったバックアップファイルをシステム定義変数「_Card1PrgTransferCmd.DirName」で指定するフォルダに格納してください	CPU ユニットのユニットバージョンとバックアップファイルのユニットバージョンが合うようにしてください
	転送先の CPU ユニットの形式が SD メモリカードのバックアップファイルの CPU ユニットの形式と一致しない	バックアップを実行した CPU ユニットの形式と一致する CPU ユニットに交換してください。 または、使用する CPU ユニットの形式に一致するバックアップファイルをシステム定義変数「_Card1PrgTransferCmd.DirName」で指定するフォルダに格納してください	CPU ユニットの形式とバックアップファイルの CPU ユニットの形式が一致するようにしてください
	CPU ユニットの書込プロテクト機能が有効	SD メモリカードプログラム転送機能を使用する場合は、CPU ユニットの［電源投入時の書込プロテクト］を「しない」に設定してください	SD メモリカードプログラム転送機能を使用する場合は、CPU ユニットの［電源投入時の書込プロテクト］を「しない」に設定してください
	他のバックアップ機能が動作中である	他のバックアップ機能の実行が完了してから再度バックアップ操作を行ってください	他のバックアップ機能の実行中はバックアップ操作を行わないでください
	同期、オンラインエディットまたはメモリオールクリアが実行中である	同期、オンラインエディット、メモリオールクリアが完了してから再度バックアップ操作を行ってください	同期、オンラインエディット、メモリオールクリアの実行中はバックアップ操作を行わないでください
	システム定義変数「_Card1PrgTransferCmd」で、転送必須のファイルが転送対象になっていない	システム定義変数「_Card1PrgTransferCmd」で、転送必須のファイルの転送を「TRUE」に設定してください	システム定義変数「_Card1PrgTransferCmd」で、転送必須のファイルの転送を「TRUE」に設定してください
	SD メモリカードの故障またはフォーマット不正により、SD メモリカードプログラム転送対象データの読み出しに失敗した	「SD メモリカードのフォーマット不正」、「SD メモリカードの故障」の場合と同じ処置対策を実施してください	「SD メモリカードのフォーマット不正」、「SD メモリカードの故障」の場合と同じ再発防止を実施してください
	SD メモリカードの故障	上記の要因でない場合は、SD メモリカードを交換してください	SD BUSY LED 点灯中に SD メモリカードを抜いたり電源断をしたりしないでください。また、書込回数制限にもとづき定期的に SD メモリカードを交換してください
	転送先の CPU ユニットの DB 接続サービスのバージョンが SD メモリカードのバックアップファイルの DB 接続サービスのバージョンより古い	バックアップを実行した CPU ユニットの DB 接続サービスのバージョンと同じか新しい CPU ユニットに交換してください。 または、使用する CPU ユニットの DB 接続サービスのバージョンに合ったバックアップファイルをシステム定義変数「_Card1PrgTransferCmd.DirName」で指定するフォルダに格納してください	CPU ユニットの DB 接続サービスのバージョンとバックアップファイルの DB 接続サービスのバージョンが合うようにしてください

	転送先の CPU ユニットの Robot バージョンが SD メモリカードのバックアップファイルの Robot バージョンより古い	バックアップを実行した CPU ユニットの Robot バージョンと同じか新しい CPU ユニットに交換してください。 または、使用する CPU ユニットの Robot バージョンに合ったバックアップファイルをシステム定義変数「_Card1PrgTransferCmd.DirName」で指定するフォルダに格納してください	CPU ユニットの Robot バージョンとバックアップファイルの Robot バージョンが合うようにしてください
付属情報	付属情報 1：異常の詳細 • 0001Hex：SD メモリカード未装着 • 0002Hex：SD メモリカードの故障、フォーマット不正、種別不正 • 0004Hex：SD メモリカードの修復実行 • 0101Hex：SD メモリカードに、システム定義変数「_Card1PrgTransferCmd.DirName」で指定するフォルダが存在しない • 0102Hex：SD メモリカードに、システム定義変数「_Card1PrgTransferCmd.DirName」で指定するフォルダにバックアップファイルが存在しない • 0103Hex：バックアップファイルが壊れている • 0104Hex：システム定義変数「_Card1PrgTransferCmd」で、転送必須のファイルが転送対象になっていない • 0105Hex：バックアップファイルに、必ず転送するデータが存在しない • 0201Hex：CPU ユニットのユニットバージョンが古い • 0202Hex：CPU ユニットの形式が一致しない • 0203Hex：CPU ユニットの書込プロテクト機能が有効 • 0205Hex：他のバックアップ機能が実行中 • 0206Hex：同期、オンラインエディット、メモリオールクリアが実行中 • 0211Hex：CPU ユニットの DB 接続サービスのバージョンまたは Robot バージョンが古い • 0212Hex：コントローラ設定の「システム定義変数によるプログラム転送」が「使用しない」に設定されている • 0213Hex：コントローラ設定の「システム定義変数による転送」の「パスワード」と、システム定義変数 _Card1PrgTransferCmd.Password とが一致しない • 0214Hex：CPU ユニットのディップスイッチ設定が、SD メモリカードプログラム転送を開始可能な設定ではない • 0301Hex：プログラム転送対象データの読出失敗、SD メモリカードの故障		
注意点／備考	なし		

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.11 以降で発生するイベントです。

イベント名	リストア実行前チェック失敗			**イベントコード**	103E0000Hex*1	
内容	SD メモリカードリストアのシステム定義変数による指示の実行前チェックで異常を検出しました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	システム定義変数によるリストアでの、コントローラリセット後のリストア実行前
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	−	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	_Card1RestoreSta	_sRESTORE_STA	SD メモリカード　リストアステータス

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	SD メモリカードが未装着	SD メモリカードを装着してください	SD メモリカードを装着してください
	SD メモリカードが種別不正	SD または SDHC の SD メモリカードに交換してください	SD または SDHC の SD メモリカードを使用してください
	SD メモリカードのフォーマット不正	SD メモリカードを Sysmac Studio でフォーマット後、システム定義変数 _Card1RestoreCmd.DirName で指定するフォルダを作成し、バックアップファイルを格納してください	フォーマットされた SD メモリカードを使用し、システム定義変数 _Card1RestoreCmd.DirName で指定するフォルダを作成後、システム定義変数 _Card1RestoreCmd.DirName で指定するフォルダにバックアップファイルを格納しておいてください。 また、SD BUSY LED 点灯中に SD メモリカードを抜いたり電源断をしたりしないでください
	SD メモリカードに、システム定義変数 _Card1RestoreCmd.DirName で指定するフォルダが存在しない	SD メモリカードに、システム定義変数 _Card1RestoreCmd.DirName で指定するフォルダを作成し、バックアップファイルを格納してください	
	SD メモリカードの、システム定義変数 _Card1RestoreCmd.DirName で指定するフォルダにバックアップファイルが存在しない		
	SD メモリカードの、システム定義変数 _Card1RestoreCmd.DirName で指定するフォルダのバックアップファイルが壊れている、または、必ず転送するデータが SD メモリカードのバックアップファイルに存在しない	システム定義変数 _Card1RestoreCmd.DirName で指定するフォルダに再度バックアップファイルを格納してください。この処置を行っても再度本異常が発生する場合は再度バックアップを取り直してシステム定義変数 _Card1RestoreCmd.DirName で指定するフォルダに格納してください	
	転送先の CPU ユニットのユニットバージョンが SD メモリカードのバックアップファイルのユニットバージョンより古い	バックアップを実行した CPU ユニットのユニットバージョンと同じか新しい CPU ユニットに交換してください。 または、使用する CPU ユニットのバージョンに合ったバックアップファイルをシステム定義変数 _Card1RestoreCmd.DirName で指定するフォルダに格納してください	CPU ユニットのユニットバージョンとバックアップファイルのユニットバージョンが合うようにしてください

	転送先の CPU ユニットの形式が SD メモリカードのバックアップファイルの CPU ユニットの形式と一致しない	バックアップを実行した CPU ユニットの形式と一致する CPU ユニットに交換してください。 または、使用する CPU ユニットの形式に一致するバックアップファイルをシステム定義変数 _Card1RestoreCmd.DirName で指定するフォルダに格納してください	CPU ユニットの形式とバックアップファイルの CPU ユニットの形式が一致するようにしてください
	CPU ユニットの書込プロテクト機能が有効	SD メモリカードプログラム転送機能を使用する場合は、CPU ユニットの「電源投入時の書込プロテクト」を「しない」に設定してください	SD メモリカードプログラム転送機能を使用する場合は、CPU ユニットの「電源投入時の書込プロテクト」を「しない」に設定してください
	システム定義変数で、転送必須のファイルが転送対象になっていない	システム定義変数で、転送必須のファイルの転送を「TRUE」に設定してください	システム定義変数で、転送必須のファイルの転送を「TRUE」に設定してください
	SD メモリカードの故障またはフォーマット不正により、SD メモリカードプログラム転送対象データの読み出しに失敗した	「SD メモリカードのフォーマット不正」、「SD メモリカードの故障」の場合と同じ処置対策を実施してください	「SD メモリカードのフォーマット不正」、「SD メモリカードの故障」の場合と同じ再発防止を実施してください
	SD メモリカードの故障	上記の要因でない場合は SD メモリカードを交換してください	SD BUSY LED 点灯中に SD メモリカードを抜いたり電源断をしたりしないでください。 また、書込回数制限にもとづき定期的に SD メモリカードを交換してください
	転送先の CPU ユニットの DB 接続サービスのバージョンが SD メモリカードのバックアップファイルの DB 接続サービスのバージョンより古い	バックアップを実行した CPU ユニットの DB 接続サービスのバージョンと同じか新しい CPU ユニットに交換してください。または、使用する CPU ユニットの DB 接続サービスのバージョンに合ったバックアップファイルを指定してください	CPU ユニットの DB 接続サービスのバージョンとバックアップファイルの DB 接続サービスのバージョンが合うようにしてください
	転送先の CPU ユニットの Robot バージョンが SD メモリカードのバックアップファイルの Robot バージョンより古い	バックアップを実行した CPU ユニットの Robot バージョンと同じか新しい CPU ユニットに交換してください。または、使用する CPU ユニットの Robot バージョンに合ったバックアップファイルを指定してください	CPU ユニットの Robot バージョンとバックアップファイルの Robot バージョンが合うようにしてください
付属情報	付属情報 1：操作種別 • 0102Hex：SD メモリカード→コントローラ（システム定義変数による指示） 付属情報 2：異常の詳細 • 0001Hex：SD メモリカード未装着 • 0002Hex：SD メモリカードの故障、フォーマット不正、種別不正 • 0004Hex：SD メモリカードの修復実行 • 0101Hex：SD メモリカードに、システム定義変数_Card1RestoreCmd.DirName で指定するフォルダが存在しない • 0102Hex：SD メモリカードに、システム定義変数_Card1RestoreCmd.DirName で指定するフォルダにバックアップファイルが存在しない • 0103Hex：バックアップファイルが壊れている • 0104Hex：システム定義変数で、転送必須のファイルが転送対象になっていない • 0105Hex：バックアップファイルに、必ず転送するデータが存在しない • 0201Hex：CPU ユニットのユニットバージョンが古い • 0202Hex：CPU ユニットの形式が一致しない • 0203Hex：CPU ユニットの書込プロテクト機能が有効 • 0211Hex：CPU ユニットの DB 接続サービスのバージョンまたは Robot バージョンが古い • 0214Hex：CPU ユニットのディップスイッチ設定が、SD メモリカードリストア　システム定義変数による指示を開始可能な設定ではない • 0301Hex：プログラム転送対象データの読出失敗、SD メモリカードの故障		

注意点／備考	なし

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.14 以降で発生するイベントです。

イベント名	オンラインエディット転送失敗			**イベントコード**	103F0000Hex	
内容	オンラインエディット転送に失敗しました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	オンラインエディット転送時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	変数の数の上限値超過		メモリ使用状況を確認し、保持変数定義数および非保持変数定義数が上限値を超過しないように再設計してください		プログラム作成時、メモリ使用状況を確認し、保持変数定義数および非保持変数定義数が上限値を超過しないように設計してください	
	変数の初期値あり／なしを変更した		変数の初期値あり／なしの変更をやめてオンラインエディット転送してください		変数の初期値あり／なしの変更は同期で行うようにしてください	
付属情報	付属情報 1：失敗要因 • 0001Hex:変数の数の上限値超過 • 0002Hex:変数初期値あり／なし変更					
注意点／備考						

イベント名	変数ログ保存失敗			**イベントコード**	152C0000Hex *1	
内容	変数ログが保存できませんでした					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	変数ログ保存条件の成立時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	異常要因を除去し、異常解除する	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_APB_LogStatus		ARRAY[1..2][1..2] OF _sAPB_LOG_STATUS		APB ログ出力ステータス	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	変数ログの保存条件が成立しましたが、以下の要因により変数ログが生成できませんでした • 保存先のストレージが何らかの理由で使用できない • 保存先のストレージが書き込み禁止になっている • 保存先ストレージのファイル数、ディレクトリ数が最大数である		変数ログ保存先のストレージを利用可能な状態にしてください		変数ログ保存先のストレージが利用可能な状態であることを確認の上、変数ログを出力するようにしてください	
付属情報	付属情報 1：ストレージ種別 1：SD メモリカード 付属情報 2：異常要因 • 1400Hex：保存先のストレージが何らかの理由で使用できない • 1401Hex：保存先のストレージが書き込み禁止になっている • 1402Hex：保存先ストレージのファイル数、ディレクトリ数が最大数である 付属情報 3：変数ログ出力設定名					
注意点／備考	異常解除を実行すると、変数ログの保存を再度試みます					

*1.　形 NX502 CPU ユニットバージョン Ver.1.63 以降で発生するイベントです。

イベント名	セーフティデータロギング開始失敗			**イベントコード**	10630000Hex *1	
内容	セーフティデータロギングの開始に失敗しました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	セーフティデータロギング開始時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	ＳＤメモリカードが未装着		ＳＤメモリカードを装着してください。		SD メモリカードの装着を確認してから、ロギングを開始してください。	
	ロギング設定ファイルが存在しない		ロギング設定ファイルをＳＤメモリカードの所定の位置“/SFLog/”に格納してください。		ロギング設定ファイルを所定の位置“/SFLog/”に格納してください。	
	ロギング設定ファイルのロギング設定番号が重複		必要のないロギング設定ファイルを削除してください。		重複したロギング設定番号のロギング設定ファイルを置かないようにしてください。	
	ロギング設定ファイルのロギング設定番号が仕様範囲外		ロギング実行環境に転送されたプロジェクトにて、再度ロギング設定ファイルを作成してください。		Sysmac Studio のプロジェクトを変更した場合は、ロギング設定を転送しなおしてください。Sysmac Studio が生成したロギング設定ファイルを他の方法で編集しないでください。	
	ロギング設定ファイルが不正		ロギング実行環境に転送されたプロジェクトにて、再度ロギング設定ファイルを作成してください。		Sysmac Studio のプロジェクトを変更した場合は、ロギング設定を転送しなおしてください。Sysmac Studio が生成したロギング設定ファイルを他の方法で編集しないでください。	
	セーフティマスタコネクションが全て確立していない		セーフティマスタコネクションが全て確立してからセーフティデータロギングを開始してください。		セーフティマスタコネクションが全て確立してからセーフティデータロギングを開始してください。	
	ロギング設定ファイルで指定されたロギング対象変数へのアクセスが不可		ロギング実行環境に転送されたプロジェクトにて、再度ロギング設定ファイルを作成してください。		Sysmac Studio のプロジェクトを変更した場合は、ロギング設定を転送しなおしてください。Sysmac Studio が生成したロギング設定ファイルを他の方法で編集しないでください。	
付属情報	付属情報 1：失敗要因 • 0001Hex：SD メモリカード未装着 • 0002Hex：ロギング設定ファイルなし • 0003Hex：ロギング設定番号重複 • 0004Hex：ロギング設定番号が仕様範囲外 • 0005Hex：ロギング設定ファイル不正 • 0006Hex：セーフティマスタコネクション未確立 • 0007Hex：ロギング対象変数へのアクセス不可					
注意点／備考	セーフティ CPU ユニットが妥当性未確認の状態ではセーフティデータロギングを開始できません。					

*1. 形 NX502 CPU ユニットバージョン Ver.1.60 以降、形 NX102 CPU ユニットバージョン Ver.1.31 以降で発生するイベントです。

イベント名	セーフティデータログファイル保存失敗			イベントコード	10640000Hex *1	
内容	セーフティデータロギングのログファイル保存に失敗しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	なし	検出タイミング	セーフティデータロギングファイル保存処理実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	ロギング開始後、ＳＤメモリカードを抜き出した。		SD メモリカードを装着してください。		ロギング実行中にＳＤメモリカードを抜かないでください。	
	SD メモリカードがライトプロテクトされている。		ＳＤメモリカードのライトプロテクトを解除してください。		ＳＤメモリカードのライトプロテクトは解除した状態でロギングを開始してください。	
	ＳＤメモリカードの空き容量が不足している。		十分な空き容量のあるＳＤメモリカードに交換してください。		十分な空き容量のある SD メモリカードを使用してください。	
	ＳＤメモリカードのファイル数が最大数を超えた。		SD メモリカードに格納されたファイルを削除し、ファイル数を削減してください。		定期的にファイルを削除し、ファイル数を削減してください。	
	ＳＤメモリカードの故障。		上記の要因でない場合は、SD メモリカードを交換してください。		書込回数制限にもとづき定期的に SD メモリカードを交換してください。	
付属情報	付属情報 1：失敗要因 • 0001Hex：SD メモリカード未装着 • 0002Hex：ライトプロテクト • 0003Hex：空き容量不足 • 0004Hex：ファイル最大数超過 • 0005Hex：その他 付属情報 2：保存失敗したログファイル名					
注意点／備考	なし					

*1. 形 NX502 CPU ユニットバージョン Ver.1.60 以降、形 NX102 CPU ユニットバージョン Ver.1.31 以降で発生するイベントです。

イベント名	PLC システム情報			イベントコード	40140000Hex	
内容	PLC 機能モジュールの内部情報です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	なし	検出タイミング	常時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	PLC 機能モジュールの内部情報です。他イベントの追加情報として記録しています。		－		－	
付属情報	付属情報 1：システム情報 付属情報 2：システム情報 付属情報 3：システム情報 付属情報 4：システム情報					
注意点／備考	なし					

イベント名	セーフモード			**イベントコード**	40170000Hex *1	
内容	コントローラをセーフモードで起動しました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	電源投入時／コントローラリセット時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	−	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	停止	**動作**	−		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	コントローラをセーフモードで起動した		−		−	
付属情報	なし					
注意点／備考	セーフモードでコントローラを起動した場合は、コントローラの電源投入時の動作モードが「運転モード」の場合でも、「プログラムモード」で動作します					

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.03 以降で発生するイベントです。

イベント名	変数ログ保存先容量警告			**イベントコード**	64050000Hex *1	
内容	変数ログの保存先ストレージの空き容量が、設定値で指定した容量を下回りました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	変数のサンプリング実行中
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	異常解除を実行する	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	変数ログの保存先ストレージの空き容量が、設定値で指定した容量以下になった		なし		なし	
付属情報	付属情報 1：ストレージ種別 1：SD メモリカード 付属情報 2：設定値(MB)					
注意点／備考	• 本イベントはストレージの空き容量が不足しつつある状況を通知するイベントです。変数ログの出力を制御するものではありません • 空き容量の確認は変数ログを出力する際に実施されます					

*1. 形 NX502 CPU ユニットバージョン Ver.1.63 以降で発生するイベントです。

イベント名	変数ログの同時性なし			**イベントコード**	64060000Hex *1	
内容	変数のサンプリングが終了するまでに次のタスク周期のタスクが開始したため、現在の状態で変数ログの出力をすると、変数ログのデータの同時性が確保できません					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	変数のサンプリング実行中
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	オートメーションプレイバック機能の設定を変更したプロジェクトを、Sysmac Studio の同期機能で転送する	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_APB_Status		_sAPB_STATUS		APB サービスステータス	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	以下の要因により、変数のサンプリングが終了するまでに次のタスク周期のタスクが開始した • サンプリング対象の変数が多い • タスク周期におけるタスク実行時間の比率が高い		以下の処置にて、変数のサンプリングがタスク周期内で完了するように調整してください • 収集対象のプログラム POU を減らす • タスク周期時間を伸ばす • 軸変数をサンプリング対象から除外する（プライマリ定周期タスクの場合のみ）		収集対象を、変数ログに残す必要のある変数を含むプログラム POU に限定する	
付属情報	付属情報 1：タスク周期内にサンプリングが完了できなかったタスク種別 • 0：プライマリ定周期タスク • 1：定周期タスク 付属情報 2：当該タスクのサンプリング対象変数の数 付属情報 3：当該タスクのサンプリングが開始し、終了するまでに要した最大時間（μs） 付属情報 4：対処が必要な収集設定の収集設定番号					
注意点／備考	• 変数のサンプリングは継続します • 同時性が確保できない変数ログを出力しないよう、変数のサンプリングを停止する設定ができます • 本イベントは一度発生すると、変数のサンプリングが停止するまで再発しません					

*1. 形 NX502 CPU ユニットバージョン Ver.1.63 以降で発生するイベントです。

イベント名	変数のサンプリング未実施周期の発生			**イベントコード**	64070000Hex *1	
内容	変数のサンプリングが省略された周期が発生しました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	変数のサンプリング実行中
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	オートメーションプレイバック機能の設定を変更したプロジェクトを、Sysmac Studio の同期機能で転送する	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_APB_Status		_sAPB_STATUS		APB サービスステータス	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	以下の要因により、変数のサンプリングが省略される周期が発生した • サンプリング対象の変数が多い • タスク周期における空き時間が短い		以下の処置にて、変数のサンプリングがタスク周期内で完了するように調整してください • 収集対象のプログラム POU を減らす • タスク周期時間を伸ばす • 軸変数をサンプリング対象から除外する（プライマリ定周期タスクの場合のみ）		収集対象を、変数ログに残す必要のある変数を含むプログラム POU に限定する	
付属情報	付属情報 1：サンプリングが省略された周期があるタスク種別 • 0：プライマリ定周期タスク • 1：定周期タスク 付属情報 2：当該タスクのサンプリング対象変数の数 付属情報 3：当該タスクのサンプリングが開始し、終了するまでに要した最大時間（μs） 付属情報 4：対処が必要な収集設定の収集設定番号					
注意点／備考	• 変数のサンプリングは継続します • 本イベントが発生した場合、設定により変数のサンプリングを停止し、変数ログを出力しないようにすることができます • 本イベントは一度発生すると、変数のサンプリングが停止するまで再発しません					

*1. 形 NX502 CPU ユニットバージョン Ver.1.63 以降で発生するイベントです。

イベント名	NX メッセージ通信異常			**イベントコード**	80230000Hex *1	
内容	メッセージ通信で異常が発生しています					
発生源	PLC 機能モジュール EtherCAT マスタ機能モジュール EtherNet/IP 機能モジュール NX バス機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	NX メッセージ送受信時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	－		

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	－	－

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	通信ケーブルの断線	通信ケーブルが断線していないか確認し、断線している場合は、ケーブルを交換してください	使用する通信ケーブルが断線していないことを確認してください
	通信ケーブルのコネクタのはずれ	コネクタが正しく嵌合しているかを確認、コネクタを再接続してください	通信ケーブルが確実に接続されていることを確認してください
	NX メッセージ通信の負荷が高い	NX メッセージを送信する命令の使用頻度を減らしてください。 または、命令の入力変数「TimeOut」の値を大きくしてください。 複数の Sysmac Studio を接続している場合は、同時操作の頻度を減らしてください	NX メッセージを送信する命令の使用頻度を減らしてください。 または、命令の入力変数「TimeOut」の値を大きくしてください。 複数の Sysmac Studio を接続している場合は、同時操作の頻度を減らしてください

付属情報	付属情報 1：システム情報 付属情報 2：通信の種類 • 0：NX バス • 1：EtherCAT • 65535：ユニット内部（ルーティング処理）
注意点／備考	なし

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.05 以降で発生するイベントです。

イベント名	セーフティデータロギング中断			イベントコード	90470000Hex *1	
内容	実行中のセーフティデータロギングが中断されました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	なし	検出タイミング	セーフティデータロギング実行中
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_PLC_SFLogSta		ARRAY[0..1] OF _sSFLOG_STA		セーフティデータロギングステータス	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	セーフティデータロギング実行中にサービススイッチ操作により中断された		－		－	
	セーフティマスタコネクションの通信異常が発生した、または、セーフティ CPU ユニットがセーフティプロセスデータ通信の継続ができない動作モードに遷移した		直近で発生しているセーフティプロセスデータ通信関連イベントを確認し、必要な処置・対策を実施してください。または、セーフティ CPU ユニットをセーフティプロセスデータ通信の実行が可能な動作モードに変更してください。		セーフティプロセスデータ通信が意図せず途絶しない状況で、セーフティデータロギングを実行してください。	
	NX バスがリスタートされた		－		－	
	コントローラの設定またはプログラムが変更された		－		－	
付属情報	付属情報 1：中断したロギング設定番号 付属情報 2：出力ログファイル名 付属情報 3:中断要因 • 1：サービススイッチの押下 • 2：セーフティマスタコネクション未確立 • 3：NX バスのリスタート • 4：コントローラ設定またはプログラムの変更					
注意点／備考	• 中断されたセーフティデータロギングは中断要因が解除されても自動で再開しません。 • 保存されるログデータは、トリガ後比率設定に関係なく、中断要因発生以前のデータだけです。					

*1. 形 NX502 CPU ユニットバージョン Ver.1.60 以降、形 NX102 CPU ユニットバージョン Ver.1.31 以降で発生するイベントです。

イベント名	変数ログの上書き実施			イベントコード	95760000Hex *1	
内容	古い変数ログを消去し、新しい変数ログを保存しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	なし	検出タイミング	変数ログ保存条件の成立時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	異常解除を実行する	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	変数ログの保存先ストレージの空き容量が不足している、または指定した容量以下になった		なし		なし	
付属情報	付属情報 1：ストレージ種別 1：SD メモリカード 付属情報 2：設定値(MB)					
注意点／備考	本イベントが発生すると、古い変数ログは削除されています					

*1. 形 NX502 CPU ユニットバージョン Ver.1.63 以降で発生するイベントです。

イベント名	PLC システム情報			**イベントコード**	40150000Hex	
内容	PLC 機能モジュールの内部情報です					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	一般情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	PLC 機能モジュールの内部情報です。他イベントの追加情報として記録しています。		－		－	
付属情報	付属情報 1：システム情報 付属情報 2：システム情報 付属情報 3：システム情報 付属情報 4：システム情報					
注意点／備考	なし					

イベント名	PLC システム情報			**イベントコード**	44430000Hex *1	
内容	PLC 機能モジュールの内部情報です					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	一般情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	PLC 機能モジュールの内部情報です。他イベントの追加情報として記録しています。		－		－	
付属情報	付属情報 1：システム情報 付属情報 2：システム情報 付属情報 3：システム情報 付属情報 4：システム情報					
注意点／備考	なし					

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.05 以降で発生するイベントです。

イベント名	時刻の変更			**イベントコード**	90010000Hex	
内容	時刻を変更しました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	ユーザからの指示時
異常の属性	**重要度**	一般情報	**復旧方法**	−	**ログカテゴリ**	アクセス
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_CurrentTime		DATE_AND_TIME		システム時刻	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	時刻を変更した		−		−	
付属情報	付属情報 1：接続方法 • 1：USB 直接接続 • 2：Ethernet 直接接続 • 3：USB リモート接続または Ethernet HUB 接続 付属情報 2：付属情報 1 が 2 か 3 の場合、接続元の IP アドレス。Proxy 経由の場合、Proxy の IP アドレス 付属情報 3：変更前時刻					
注意点／備考	NTP 機能、または NTP 時計補正命令(SetTime)による時刻の変更はイベントログに記録されません 本イベントのタイムスタンプは、時刻変更後の時刻になります					
アクセスログのユーザ名*1	ユーザ認証機能を使用している場合　：ユーザ名 ユーザ認証機能を使用していない場合：NULL					

*1. 以下の CPU ユニットで登録する項目です。
- 形 NJ シリーズ、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニット：Ver.1.49 以降
- 形 NX502 CPU ユニット：Ver.1.60 以降
- 形 NX701 CPU ユニット：Ver.1.29 以降

イベント名	タイムゾーンの変更			**イベントコード**	90020000Hex	
内容	タイムゾーンを変更しました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	ダウンロード時
異常の属性	**重要度**	一般情報	**復旧方法**	−	**ログカテゴリ**	アクセス
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_CurrentTime		DATE_AND_TIME		システム時刻	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	タイムゾーンを変更した		−		−	
付属情報	付属情報 1：接続方法 • 1：USB 直接接続 • 2：Ethernet 直接接続 • 3：USB リモート接続または Ethernet HUB 接続 付属情報 2：付属情報 1 が 2 か 3 の場合、接続元の IP アドレス。Proxy 経由の場合、Proxy の IP アドレス					
注意点／備考	なし					
アクセスログのユーザ名*1	ユーザ認証機能を使用している場合　：ユーザ名 ユーザ認証機能を使用していない場合：NULL					

*1. 以下の CPU ユニットで登録する項目です。
- 形 NJ シリーズ、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニット：Ver.1.49 以降
- 形 NX502 CPU ユニット：Ver.1.60 以降
- 形 NX701 CPU ユニット：Ver.1.29 以降

イベント名	オンライン接続開始			イベントコード	90030000Hex*1	
内容	Sysmac Studio のオンライン接続を開始しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	なし	検出タイミング	オンライン接続開始時
異常の属性	重要度	一般情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	アクセス
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	Sysmac Studio のオンライン接続を開始した		－		－	
付属情報	付属情報 1：接続方法 • 1：USB 直接接続 • 2：Ethernet 直接接続 • 3：USB リモート接続または Ethernet HUB 接続 付属情報 2：付属情報 1 が 2 か 3 の場合、接続元の IP アドレス。Proxy 経由の場合、Proxy の IP アドレス					
注意点／備考	Sysmac Studio の Ver.1.50 以降を使用した際に登録します。					
アクセスログのユーザ名	ユーザ認証機能を使用している場合　：ユーザ名 ユーザ認証機能を使用していない場合：NULL					

*1. 以下の CPU ユニット、かつ Sysmac Studio Ver.1.50 以降の組み合わせでで発生するイベントです。
- 形 NJ シリーズ、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニット：Ver.1.49 以降
- 形 NX502 CPU ユニット：Ver.1.60 以降
- 形 NX701 CPU ユニット：Ver.1.29 以降

イベント名	オンライン接続終了			イベントコード	90040000Hex*1	
内容	Sysmac Studio のオンライン接続を終了しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	なし	検出タイミング	オンライン接続終了時
異常の属性	重要度	一般情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	アクセス
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	Sysmac Studio のオンライン接続を終了した		－		－	
付属情報	付属情報 1：接続方法 • 1：USB 直接接続 • 2：Ethernet 直接接続 • 3：USB リモート接続または Ethernet HUB 接続 付属情報 2：付属情報 1 が 2 か 3 の場合、接続元の IP アドレス。Proxy 経由の場合、Proxy の IP アドレス					
注意点／備考	Sysmac Studio の Ver.1.50 以降を使用した際に登録します。					
アクセスログのユーザ名	ユーザ認証機能を使用している場合　：ユーザ名 ユーザ認証機能を使用していない場合：NULL					

*1. 以下の CPU ユニット、かつ Sysmac Studio Ver.1.50 以降の組み合わせでで発生するイベントです。
- 形 NJ シリーズ、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニット：Ver.1.49 以降
- 形 NX502 CPU ユニット：Ver.1.60 以降
- 形 NX701 CPU ユニット：Ver.1.29 以降

イベント名	ユーザプログラム／コントローラ構成・設定のダウンロード			**イベントコード**	90050000Hex *1	
内容	ユーザプログラム／コントローラ構成・設定をダウンロードしました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	ユーザプログラム／コントローラ構成・設定のダウンロード時
異常の属性	**重要度**	一般情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	アクセス
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	ダウンロードされたユーザプログラム／コントローラ設定にしたがい動作開始		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	ユーザプログラム／コントローラ構成・設定をダウンロードした		－		－	
付属情報	付属情報 1：接続方法 • 1：USB 直接接続 • 2：Ethernet 直接接続 • 3：USB リモート接続または Ethernet HUB 接続 付属情報 2：付属情報 1 が 2 か 3 の場合、接続元の IP アドレス。Proxy 経由の場合、Proxy の IP アドレス 付属情報 3：デバイス出力保持状態 • 1：保持 • 2：非保持					
注意点／備考	なし					
アクセスログのユーザ名*2	ユーザ認証機能を使用している場合　：ユーザ名 ユーザ認証機能を使用していない場合：NULL					

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.10 以降で発生するイベントです。
*2. 以下の CPU ユニットで登録する項目です。
- 形 NJ シリーズ、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニット：Ver.1.49 以降
- 形 NX502 CPU ユニット：Ver.1.60 以降
- 形 NX701 CPU ユニット：Ver.1.29 以降

イベント名	オンラインエディット転送			**イベントコード**	90070000Hex *1	
内容	ユーザプログラムをオンラインエディットしました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	オンラインエディットの転送開始時
異常の属性	**重要度**	一般情報	**復旧方法**	−	**ログカテゴリ**	アクセス
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	変更されたユーザプログラムにしたがい動作		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	ユーザプログラムをオンラインエディットし、コントローラに反映した		−		−	
付属情報	付属情報 1：接続方法 • 1：USB 直接接続 • 2：Ethernet 直接接続 • 3：USB リモート接続または Ethernet HUB 接続 付属情報 2：付属情報 1 が 2 か 3 の場合、接続元の IP アドレス。Proxy 経由の場合、Proxy の IP アドレス					
注意点／備考	なし					
アクセスログのユーザ名*2	ユーザ認証機能を使用している場合　：ユーザ名 ユーザ認証機能を使用していない場合：NULL					

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.10 以降で発生するイベントです。
*2. 以下の CPU ユニットで登録する項目です。
- 形 NJ シリーズ、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニット：Ver.1.49 以降
- 形 NX502 CPU ユニット：Ver.1.60 以降
- 形 NX701 CPU ユニット：Ver.1.29 以降

イベント名	強制値リフレッシュのセット			**イベントコード**	90080000Hex	
内容	強制値リフレッシュのセットが指定されました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	ユーザからの指示時
異常の属性	**重要度**	一般情報	**復旧方法**	−	**ログカテゴリ**	アクセス
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	強制値リフレッシュにしたがい動作		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	ユーザが強制値リフレッシュのセットを指定した		−		−	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	強制値リフレッシュのリセット			イベントコード	90090000Hex	
内容	強制値リフレッシュのリセットが指定されました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	なし	検出タイミング	ユーザからの指示時
異常の属性	重要度	一般情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	アクセス
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	強制値リフレッシュにしたがい動作		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	ユーザが強制値リフレッシュのリセットを指定した		－		－	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	強制値リフレッシュの全解除			イベントコード	900A0000Hex	
内容	強制値リフレッシュのすべての解除が指定されました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	なし	検出タイミング	ユーザからの指示時
異常の属性	重要度	一般情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	アクセス
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	強制値リフレッシュをすべて解除し、元のユーザプログラムにしたがい動作		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	ユーザが強制値リフレッシュのすべての解除を指定した		－		－	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	メモリオールクリア			イベントコード	900B0000Hex	
内容	メモリオールクリアを実行しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	なし	検出タイミング	ユーザからの指示時
異常の属性	重要度	一般情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	アクセス
発生の影響	ユーザプログラム	－	動作	工場出荷状態に戻ります		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	管理者権限をもつユーザがメモリオールクリアした		－		－	
付属情報	付属情報 1：接続方法 • 1：USB 直接接続 • 2：Ethernet 直接接続 • 3：USB リモート接続または Ethernet HUB 接続 付属情報 2：付属情報 1 が 2 か 3 の場合、接続元の IP アドレス。Proxy 経由の場合、Proxy の IP アドレス					
注意点／備考	なし					
アクセスログのユーザ名*1	ユーザ認証機能を使用している場合　：ユーザ名 ユーザ認証機能を使用していない場合：NULL					

*1. 以下の CPU ユニットで登録する項目です。
- 形 NJ シリーズ、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニット：Ver.1.49 以降
- 形 NX502 CPU ユニット：Ver.1.60 以降
- 形 NX701 CPU ユニット：Ver.1.29 以降

イベント名	イベントログのクリア			**イベントコード**	900C0000Hex	
内容	イベントログをクリアしました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	ユーザからの指示時
異常の属性	**重要度**	一般情報	**復旧方法**	−	**ログカテゴリ**	アクセス
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	ユーザがイベントログをクリアした		−		−	
付属情報	付属情報 1：接続方法 • 1：USB 直接接続 • 2：Ethernet 直接接続 • 3：USB リモート接続または Ethernet HUB 接続 付属情報 2：付属情報 1 が 2 か 3 の場合、接続元の IP アドレス。Proxy 経由の場合、Proxy の IP アドレス 付属情報 3：クリア対象 • 0：全カテゴリのログをクリア • 1：システムイベントログをクリア • 2：アクセスイベントログをクリア • 100：ユーザイベントログをクリア					
注意点／備考	なし					
アクセスログのユーザ名*1	ユーザ認証機能を使用している場合　：ユーザ名 ユーザ認証機能を使用していない場合：NULL					

*1.　以下の CPU ユニットで登録する項目です。
- 形 NJ シリーズ、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニット：Ver.1.49 以降
- 形 NX502 CPU ユニット：Ver.1.60 以降
- 形 NX701 CPU ユニット：Ver.1.29 以降

イベント名	自動転送完了			**イベントコード**	900F0000Hex *1	
内容	自動転送を完了しました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	電源投入時
異常の属性	**重要度**	一般情報	**復旧方法**	−	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	自動転送されたユーザコントローラ構成・設定にしたがい動作開始		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	自動転送を完了した		−		−	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.03 以降で発生するイベントです。

イベント名	電源投入			**イベントコード**	90110000Hex	
内容	電源投入されました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	電源投入時
異常の属性	**重要度**	一般情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	－	**動作**	動作開始		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	電源投入された		－		－	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	電源断			**イベントコード**	90120000Hex	
内容	電源断されました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	電源断時
異常の属性	**重要度**	一般情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	停止	**動作**	全停止		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	電源断された		－		－	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	運転開始			**イベントコード**	90130000Hex	
内容	運転開始しました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	運転モードへの移行時
異常の属性	**重要度**	一般情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	開始	**動作**	ユーザプログラム実行開始		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	運転開始を受け付けた		－		－	
付属情報	付属情報 1：デバイス出力保持状態 • 1：保持 • 2：非保持					
注意点／備考	なし					

イベント名	運転停止			**イベントコード**	90140000Hex	
内容	運転停止しました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	プログラムモードへの移行時
異常の属性	**重要度**	一般情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	停止	**動作**	ユーザプログラム停止		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	運転停止を受け付けた		－		－	
付属情報	付属情報 1：デバイス出力保持状態 • 1：保持 • 2：非保持					
注意点／備考	なし					

イベント名	リセット実行			**イベントコード**	90150000Hex	
内容	リセットを実行しました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	ユーザからの指示時
異常の属性	**重要度**	一般情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	アクセス
発生の影響	**ユーザプログラム**	－	**動作**	リセット後、動作開始		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	リセット指示を受け付けた		－		－	
付属情報	付属情報 1：接続方法 • 1：USB 直接接続 • 2：Ethernet 直接接続 • 3：USB リモート接続または Ethernet HUB 接続 付属情報 2：付属情報 1 が 2 か 3 の場合、接続元の IP アドレス。Proxy 経由の場合、Proxy の IP アドレス					
注意点／備考	なし					
アクセスログのユーザ名*1	ユーザ認証機能を使用している場合　：ユーザ名 ユーザ認証機能を使用していない場合：NULL					

*1. 以下の CPU ユニットで登録する項目です。
- 形 NJ シリーズ、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニット：Ver.1.49 以降
- 形 NX502 CPU ユニット：Ver.1.60 以降
- 形 NX701 CPU ユニット：Ver.1.29 以降

イベント名	ユーザプログラム実行用 ID 書込			**イベントコード**	90160000Hex	
内容	CPU ユニットにユーザプログラム実行用 ID が設定または変更されました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	ダウンロード時
異常の属性	**重要度**	一般情報	**復旧方法**	−	**ログカテゴリ**	アクセス
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	管理者権限をもつユーザが CPU ユニットのユーザプログラム実行用 ID を変更した		−		−	
付属情報	なし					
注意点／備考	付属情報 1：接続方法 • 1：USB 直接接続 • 2：Ethernet 直接接続 • 3：USB リモート接続または Ethernet HUB 接続 付属情報 2：付属情報 1 が 2 か 3 の場合、接続元の IP アドレス。Proxy 経由の場合、Proxy の IP アドレス					
アクセスログのユーザ名[*1]	ユーザ認証機能を使用している場合　：ユーザ名 ユーザ認証機能を使用していない場合：NULL					

*1. 以下の CPU ユニットで登録する項目です。
- 形 NJ シリーズ、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニット：Ver.1.49 以降
- 形 NX502 CPU ユニット：Ver.1.60 以降
- 形 NX701 CPU ユニット：Ver.1.29 以降

イベント名	認証設定の転送			**イベントコード**	90170000Hex[*1]	
内容	認証設定が転送されました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	ユーザアカウント設定変更時
異常の属性	**重要度**	一般情報	**復旧方法**	−	**ログカテゴリ**	アクセス
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	認証設定が転送された		−		−	
付属情報	付属情報 1：接続方法 • 1：USB 直接接続 • 2：Ethernet 直接接続 • 3：USB リモート接続または Ethernet HUB 接続 付属情報 2：付属情報 1 が 2 か 3 の場合、接続元の IP アドレス。Proxy 経由の場合、Proxy の IP アドレス					
注意点／備考	Sysmac Studio の Ver.1.50 以降を使用した際に登録します。					
アクセスログのユーザ名	ユーザ認証機能を使用している場合　：ユーザ名 ユーザ認証機能を使用していない場合：NULL					

*1. 以下の CPU ユニット、かつ Sysmac Studio Ver.1.50 以降の組み合わせでで発生するイベントです。
- 形 NJ シリーズ、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニット：Ver.1.49 以降
- 形 NX502 CPU ユニット：Ver.1.60 以降
- 形 NX701 CPU ユニット：Ver.1.29 以降

イベント名	発生中コントローラ異常の全解除			イベントコード	90180000Hex	
内容	発生中異常を全解除しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	なし	検出タイミング	ユーザからの指示時
異常の属性	重要度	一般情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	アクセス
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	異常要因が除去されている異常の解除		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	ユーザが発生中異常を全解除した		－		－	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	強制値リフレッシュの解除			イベントコード	90190000Hex	
内容	強制値リフレッシュの解除が指定されました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	なし	検出タイミング	ユーザからの指示時
異常の属性	重要度	一般情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	アクセス
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	強制値リフレッシュを解除し、元のユーザプログラムにしたがい動作		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	ユーザが強制値リフレッシュの解除を指定した		－		－	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	バックアップ開始			イベントコード	901A0000Hex *1	
内容	バックアップを開始しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	なし	検出タイミング	バックアップ開始時
異常の属性	重要度	一般情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	バックアップを開始した		－		－	
付属情報	付属情報 1：操作種別 • 0101Hex：コントローラ→SD メモリカード（CPU ユニット前面スイッチ操作による指示） • 0102Hex：コントローラ→SD メモリカード（システム変数による指示） • 0103Hex：コントローラ→SD メモリカード（Sysmac Studio 操作による指示、または各機能モジュール固有のトリガ） • 0104Hex：コントローラ→SD メモリカード（命令による指示） • 0201Hex：コントローラ→パソコン					
注意点／備考	なし					

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.03 以降で発生するイベントです。

イベント名	バックアップ完了			**イベントコード**	901B0000Hex *1	
内容	バックアップを正常終了しました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	バックアップ処理正常終了時
異常の属性	**重要度**	一般情報	**復旧方法**	−	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	バックアップを正常終了した		−		−	
付属情報	付属情報 1：操作種別 • 0101Hex：コントローラ→SD メモリカード（CPU ユニット前面スイッチ操作による指示） • 0102Hex：コントローラ→SD メモリカード（システム変数による指示） • 0103Hex：コントローラ→SD メモリカード（Sysmac Studio 操作による指示、または各機能モジュール固有のトリガ） • 0104Hex：コントローラ→SD メモリカード（命令による指示） • 0201Hex：コントローラ→パソコン					
注意点／備考	なし					

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.03 以降で発生するイベントです。

イベント名	リストア開始			**イベントコード**	901C0000Hex *1	
内容	リストアを開始しました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	リストア開始時
異常の属性	**重要度**	一般情報	**復旧方法**	−	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	−	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	リストアを開始した		−		−	
付属情報	付属情報 1：操作種別 • 0101Hex：SD メモリカード→コントローラ（CPU ユニット前面スイッチ操作による指示） • 0102Hex：SD メモリカード→コントローラ（システム定義変数による指示） • 0201Hex：パソコン→コントローラ					
注意点／備考	なし					

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.03 以降で発生するイベントです。

イベント名	リストア完了			イベントコード	901D0000Hex *1	
内容	リストアを正常終了しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	なし	検出タイミング	リストア処理正常終了時
異常の属性	重要度	一般情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	−	動作	リストア完了後は、運転を開始できません。コントローラの電源を OFF した後、CPU ユニットのディップスイッチをすべて OFF にしてから、電源を再投入すると、リストアされたユーザプログラム／設定に従い動作を開始します		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_Card1RestoreSta		_sRESTORE_STA		SD メモリカード　リストアステータス	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	リストアを正常終了した		−		−	
付属情報	付属情報 1：操作種別 • 0101Hex：SD メモリカード→コントローラ（CPU ユニット前面スイッチ操作による指示） • 0102Hex：SD メモリカード→コントローラ（システム定義変数による指示） • 0201Hex：パソコン→コントローラ					
注意点／備考	なし					

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.03 以降で発生するイベントです。

イベント名	SD メモリカードプログラム転送開始			イベントコード	90200000Hex *1	
内容	SD メモリカードプログラム転送を開始しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	なし	検出タイミング	SD メモリカードプログラム転送開始時
異常の属性	重要度	一般情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	−	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	SD メモリカードプログラム転送を開始した		−		−	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.11 以降で発生するイベントです。

イベント名	SD メモリカードプログラム転送完了			イベントコード	90210000Hex *1	
内容	SD メモリカードプログラム転送を完了しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	なし	検出タイミング	SD メモリカードプログラム転送完了時
異常の属性	重要度	一般情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	−	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_Card1PrgTransferSta		_sPRGTRANSFER_STA		SD メモリカード　プログラム転送ステータス	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	SD メモリカードプログラム転送を完了した		−		−	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.11 以降で発生するイベントです。

イベント名	設定ユニットバージョンの変更			イベントコード	90290000Hex *1	
内容	設定ユニットバージョンが変更されました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	なし	検出タイミング	ダウンロード時／リストア時／メモリオールクリア時
異常の属性	重要度	一般情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	アクセス
発生の影響	ユーザプログラム	−	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_ProjectUnitVersion *2		ARRAY[0..1] OF USINT		設定ユニットバージョン	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	転送／リストア先のコントローラ内のプロジェクトの設定ユニットバージョンと、転送／リストア元のプロジェクトの設定ユニットバージョンが異なった		−		−	
	出荷状態またはメモリオールクリア状態からプロジェクトの転送／リストアを実施した		−		−	
付属情報	付属情報 1：変更前設定ユニットバージョン メジャーバージョンとマイナーバージョンを表示する。出荷状態およびメモリオールクリア状態の場合は、0 を表示する 例）出荷状態の場合:0 付属情報 2：変更後設定ユニットバージョン メジャーバージョンとマイナーバージョンを表示する。メモリオールクリア状態の場合は、0 を表示する 例）Ver.1.21 の場合:121					
注意点／備考	なし					

*1.　形 NX102-□□□□の CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.32 以降、および形 NX701-□□00、形 NX1P2-□□□□□□、形 NJ501-□□□□（形 NJ501-□□20 を除く）、形 NJ301-□□□□、形 NJ101-□□00 の CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.21 以降で発生するイベントです。

*2.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.40 以降で使用できるシステム定義変数です。

イベント名	運転モードへの変更指示			イベントコード	902A0000Hex*1	
内容	運転モードへの変更指示を受けました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	なし	検出タイミング	ユーザからの指示時
異常の属性	重要度	一般情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	アクセス
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	運転モードへの変更指示を受けた		－		－	
付属情報	付属情報 1：接続方法 • 1：USB 直接接続 • 2：Ethernet 直接接続 • 3：USB リモート接続または Ethernet HUB 接続 付属情報 2：付属情報 1 が 2 か 3 の場合、接続元の IP アドレス。Proxy 経由の場合、Proxy の IP アドレス					
注意点／備考	なし					
アクセスログのユーザ名	ユーザ認証機能を使用している場合　：ユーザ名 ユーザ認証機能を使用していない場合：NULL					

*1. 以下の CPU ユニットで発生するイベントです。
- 形 NJ シリーズ、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニット：Ver.1.49 以降
- 形 NX502 CPU ユニット：Ver.1.60 以降
- 形 NX701 CPU ユニット：Ver.1.29 以降

イベント名	プログラムモードへの変更指示			イベントコード	902B0000Hex*1	
内容	プログラムモードへの変更指示を受けました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	なし	検出タイミング	ユーザからの指示時
異常の属性	重要度	一般情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	アクセス
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	プログラムモードへの変更指示を受けた		－		－	
付属情報	付属情報 1：接続方法 • 1：USB 直接接続 • 2：Ethernet 直接接続 • 3：USB リモート接続または Ethernet HUB 接続 付属情報 2：付属情報 1 が 2 か 3 の場合、接続元の IP アドレス。Proxy 経由の場合、Proxy の IP アドレス					
注意点／備考	なし					
アクセスログのユーザ名	ユーザ認証機能を使用している場合　：ユーザ名 ユーザ認証機能を使用していない場合：NULL					

*1. 以下の CPU ユニットで発生するイベントです。
- 形 NJ シリーズ、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニット：Ver.1.49 以降
- 形 NX502 CPU ユニット：Ver.1.60 以降
- 形 NX701 CPU ユニット：Ver.1.29 以降

イベント名	アクセス権強制解放			**イベントコード**	902C0000Hex*1	
内容	アクセス権が強制解放されました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	ユーザからの指示時
異常の属性	**重要度**	一般情報	**復旧方法**	−	**ログカテゴリ**	アクセス
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	アクセス権が強制解放された		−		−	
付属情報	付属情報 1：接続方法 • 1：USB 直接接続 • 2：Ethernet 直接接続 • 3：USB リモート接続または Ethernet HUB 接続 付属情報 2：付属情報 1 が 2 か 3 の場合、接続元の IP アドレス。Proxy 経由の場合、Proxy の IP アドレス					
注意点／備考	なし					
アクセスログのユーザ名	ユーザ認証機能を使用している場合　：ユーザ名 ユーザ認証機能を使用していない場合：NULL					

*1. 以下の CPU ユニットで発生するイベントです。
- 形 NJ シリーズ、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニット：Ver.1.49 以降
- 形 NX502 CPU ユニット：Ver.1.60 以降
- 形 NX701 CPU ユニット：Ver.1.29 以降

イベント名	CPU ユニット名称の変更			**イベントコード**	902D0000Hex*1	
内容	CPU ユニット名称が変更されました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	ユーザからの指示時
異常の属性	**重要度**	一般情報	**復旧方法**	−	**ログカテゴリ**	アクセス
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	CPU ユニット名称が変更された		−		−	
付属情報	付属情報 1：接続方法 • 1：USB 直接接続 • 2：Ethernet 直接接続 • 3：USB リモート接続または Ethernet HUB 接続 付属情報 2：付属情報 1 が 2 か 3 の場合、接続元の IP アドレス。Proxy 経由の場合、Proxy の IP アドレス					
注意点／備考	なし					
アクセスログのユーザ名	ユーザ認証機能を使用している場合　：ユーザ名 ユーザ認証機能を使用していない場合：NULL					

*1. 以下の CPU ユニットで発生するイベントです。
- 形 NJ シリーズ、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニット：Ver.1.49 以降
- 形 NX502 CPU ユニット：Ver.1.60 以降
- 形 NX701 CPU ユニット：Ver.1.29 以降

イベント名	CPU ユニットへの書込プロテクト設定			**イベントコード**	902E0000Hex*1	
内容	CPU ユニットへの書込プロテクトが設定されました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	ユーザからの指示時
異常の属性	**重要度**	一般情報	**復旧方法**	−	**ログカテゴリ**	アクセス
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	CPU ユニットへの書込プロテクトが設定された		−		−	
付属情報	付属情報 1：接続方法 • 1：USB 直接接続 • 2：Ethernet 直接接続 • 3：USB リモート接続または Ethernet HUB 接続 付属情報 2：付属情報 1 が 2 か 3 の場合、接続元の IP アドレス。Proxy 経由の場合、Proxy の IP アドレス					
注意点／備考	なし					
アクセスログのユーザ名	ユーザ認証機能を使用している場合　：ユーザ名 ユーザ認証機能を使用していない場合：NULL					

*1. 以下の CPU ユニットで発生するイベントです。
- 形 NJ シリーズ、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニット：Ver.1.49 以降
- 形 NX502 CPU ユニット：Ver.1.60 以降
- 形 NX701 CPU ユニット：Ver.1.29 以降

イベント名	運転モード書替設定の書き込み			**イベントコード**	902F0000Hex*1	
内容	運転モード書替設定が書き込みされました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	ユーザからの指示時
異常の属性	**重要度**	一般情報	**復旧方法**	−	**ログカテゴリ**	アクセス
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	運転モード書替設定が書き込みされた		−		−	
付属情報	付属情報 1：接続方法 • 1：USB 直接接続 • 2：Ethernet 直接接続 • 3：USB リモート接続または Ethernet HUB 接続 付属情報 2：付属情報 1 が 2 か 3 の場合、接続元の IP アドレス。Proxy 経由の場合、Proxy の IP アドレス					
注意点／備考	Sysmac Studio の Ver.1.50 以降を使用した際に登録します。					
アクセスログのユーザ名	ユーザ認証機能を使用している場合　：ユーザ名 ユーザ認証機能を使用していない場合：NULL					

*1. 以下の CPU ユニット、かつ Sysmac Studio Ver.1.50 以降の組み合わせでで発生するイベントです。
- 形 NJ シリーズ、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニット：Ver.1.49 以降
- 形 NX502 CPU ユニット：Ver.1.60 以降
- 形 NX701 CPU ユニット：Ver.1.29 以降

イベント名	バックアップ開始指示			イベントコード	90300000Hex*1	
内容	Sysmac Studio からのバックアップの開始指示を受けました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	なし	検出タイミング	ユーザからの指示時
異常の属性	重要度	一般情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	アクセス
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	Sysmac Studio からのバックアップの開始指示を受けた		−		−	
付属情報	付属情報 1：接続方法 • 1：USB 直接接続 • 2：Ethernet 直接接続 • 3：USB リモート接続または Ethernet HUB 接続 付属情報 2：付属情報 1 が 2 か 3 の場合、接続元の IP アドレス。Proxy 経由の場合、Proxy の IP アドレス					
注意点／備考	なし					
アクセスログのユーザ名	ユーザ認証機能を使用している場合　：ユーザ名 ユーザ認証機能を使用していない場合：NULL					

*1. 以下の CPU ユニットで発生するイベントです。
- 形 NJ シリーズ、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニット：Ver.1.49 以降
- 形 NX502 CPU ユニット：Ver.1.60 以降
- 形 NX701 CPU ユニット：Ver.1.29 以降

イベント名	リストア開始指示			イベントコード	90310000Hex*1	
内容	Sysmac Studio からのリストアの開始指示を受けました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	なし	検出タイミング	ユーザからの指示時
異常の属性	重要度	一般情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	アクセス
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	Sysmac Studio からのリストアの開始指示を受けた		−		−	
付属情報	付属情報 1：接続方法 • 1：USB 直接接続 • 2：Ethernet 直接接続 • 3：USB リモート接続または Ethernet HUB 接続 付属情報 2：付属情報 1 が 2 か 3 の場合、接続元の IP アドレス。Proxy 経由の場合、Proxy の IP アドレス					
注意点／備考	なし					
アクセスログのユーザ名	ユーザ認証機能を使用している場合　：ユーザ名 ユーザ認証機能を使用していない場合：NULL					

*1. 以下の CPU ユニットで発生するイベントです。
- 形 NJ シリーズ、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニット：Ver.1.49 以降
- 形 NX502 CPU ユニット：Ver.1.60 以降
- 形 NX701 CPU ユニット：Ver.1.29 以降

イベント名	ファームウェアアップデート禁止設定の変更			イベントコード	90320000Hex*1	
内容	ファームウェアアップデート禁止設定が変更されました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	なし	検出タイミング	ダウンロード時
異常の属性	重要度	一般情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	ファームウェアアップデート禁止設定が変更された		−		−	
付属情報	付属情報 1：設定内容 • 1：ファームウェアアップデートの実行を禁止 • 2：ファームウェアアップデートの実行を許可					
注意点／備考	なし					

*1. 以下の CPU ユニットで発生するイベントです。
- 形 NJ シリーズ、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニット：Ver.1.60 以降
- 形 NX701 CPU ユニット：Ver.1.32 以降

イベント名	オムロン保守の開始指示			イベントコード	90330000Hex*1	
内容	オムロン保守担当者による保守作業が開始されました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	なし	検出タイミング	オムロン保守担当者からの指示時
異常の属性	重要度	一般情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	アクセス
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	オムロンの保守担当者による保守作業が開始された		−		−	
付属情報	付属情報 1：作業者の名前					
注意点／備考	なし					

*1. 以下の CPU ユニットで発生するイベントです。
- 形 NJ シリーズ、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニット：Ver.1.49 以降
- 形 NX502 CPU ユニット：Ver.1.60 以降
- 形 NX701 CPU ユニット：Ver.1.29 以降

イベント名	オムロン保守の終了指示			イベントコード	90340000Hex*1	
内容	オムロン保守担当者による保守作業が終了されました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	なし	検出タイミング	オムロン保守担当者からの指示時
異常の属性	重要度	一般情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	アクセス
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	オムロンの保守担当者による保守作業が終了された		－		－	
付属情報	付属情報 1：作業者の名前					
注意点／備考	なし					

*1. 以下の CPU ユニットで発生するイベントです。
- 形 NJ シリーズ、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニット：Ver.1.49 以降
- 形 NX502 CPU ユニット：Ver.1.60 以降
- 形 NX701 CPU ユニット：Ver.1.29 以降

イベント名	セーフティデータロギング開始			イベントコード	90460000Hex *1	
内容	セーフティデータロギングを開始しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	なし	検出タイミング	セーフティデータロギング開始時
異常の属性	重要度	一般情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_PLC_SFLogSta		ARRAY[0..1] OF _sSFLOG_STA		セーフティデータロギングステータス	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	セーフティデータロギングが開始条件を満たして開始された		－		－	
付属情報	付属情報 1：開始したロギング設定番号					
注意点／備考	なし					

*1. 形 NX502 CPU ユニットバージョン Ver.1.60 以降、形 NX102 CPU ユニットバージョン Ver.1.31 以降で発生するイベントです。

イベント名	セーフティデータロギング終了			**イベントコード**	90480000Hex *1	
内容	実行中のセーフティデータロギングがトリガ条件を満たして終了しました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	セーフティデータロギング終了時
異常の属性	**重要度**	一般情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_PLC_SFLogSta		ARRAY[0..1] OF _sSFLOG_STA		セーフティデータロギングステータス	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	セーフティデータロギング設定で指定されたトリガ条件が発生し、セーフティデータロギングが終了した		－		－	
付属情報	付属情報 1：終了したロギング設定番号 付属情報 2：出力ログファイル名					
注意点／備考	複数のセーフティデータロギングが実行されている場合、SD メモリカードの抜き挿しはすべてのセーフティデータロギングが完了し、SD メモリカードへの保存が完了したことを確認してから行ってください					

*1. 形 NX502 CPU ユニットバージョン Ver.1.60 以降、形 NX102 CPU ユニットバージョン Ver.1.31 以降で発生するイベントです。

イベント名	ユーザ認証の有効化			**イベントコード**	90A20000Hex*1	
内容	ユーザ認証を有効にしました。					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	ユーザアカウント設定変更時
異常の属性	**重要度**	一般情報		**ログカテゴリ**	アクセス	
	復旧方法	－				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	ユーザ認証を有効化した。		なし		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	Sysmac Studio の Ver.1.50 以降を使用した際に登録します。					
アクセスログのユーザ名	ユーザ名					

*1. 以下の CPU ユニットで発生するイベントです。
- 形 NJ シリーズ、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニット：Ver.1.49 以降
- 形 NX502 CPU ユニット：Ver.1.60 以降
- 形 NX701 CPU ユニット：Ver.1.29 以降

イベント名	ユーザ認証の無効化			**イベントコード**	90A30000Hex*1	
内容	ユーザ認証を無効にしました。					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	ユーザアカウント設定変更時
異常の属性	**重要度**	一般情報		**ログカテゴリ**	アクセス	
	復旧方法	−				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	ユーザ認証を無効化した。		なし		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	Sysmac Studio の Ver.1.50 以降を使用した際に登録します。					
アクセスログのユーザ名	ユーザ名					

*1. 以下の CPU ユニットで発生するイベントです。
- 形 NJ シリーズ、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニット：Ver.1.49 以降
- 形 NX502 CPU ユニット：Ver.1.60 以降
- 形 NX701 CPU ユニット：Ver.1.29 以降

イベント名	ユーザ追加			**イベントコード**	90A40000Hex*1	
内容	ユーザを追加しました。					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	ユーザアカウント設定変更時
異常の属性	**重要度**	一般情報		**ログカテゴリ**	アクセス	
	復旧方法	−				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	ユーザを追加した。		なし		なし	
付属情報	付属情報 1：設定された権限 • 0： 管理者 • 1： 設計者 • 2： 保全者 • 3： 操作者 • 4： 観察者 付属情報 2： 追加されたユーザの名前					
注意点／備考	Sysmac Studio の Ver.1.50 以降を使用した際に登録します。					
アクセスログのユーザ名	ユーザ名					

*1. 以下の CPU ユニットで発生するイベントです。
- 形 NJ シリーズ、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニット：Ver.1.49 以降
- 形 NX502 CPU ユニット：Ver.1.60 以降
- 形 NX701 CPU ユニット：Ver.1.29 以降

イベント名	ユーザ削除			**イベントコード**	90A50000Hex*1	
内容	ユーザを削除しました。					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	ユーザアカウント設定変更時
異常の属性	**重要度**	一般情報		**ログカテゴリ**	アクセス	
	復旧方法	－				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	ユーザを削除した。		なし		なし	
付属情報	付属情報 1：削除されたユーザの名前					
注意点／備考	Sysmac Studio の Ver.1.50 以降を使用した際に登録します。					
アクセスログのユーザ名	ユーザ名					

*1. 以下の CPU ユニットで発生するイベントです。
- 形 NJ シリーズ、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニット：Ver.1.49 以降
- 形 NX502 CPU ユニット：Ver.1.60 以降
- 形 NX701 CPU ユニット：Ver.1.29 以降

イベント名	ユーザ権限変更			**イベントコード**	90A60000Hex*1	
内容	ユーザの権限を変更しました。					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	ユーザアカウント設定変更時
異常の属性	**重要度**	一般情報		**ログカテゴリ**	アクセス	
	復旧方法	－				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	ユーザの権限を変更した。		なし		なし	
付属情報	付属情報 1：設定された権限 • 0： 管理者 • 1： 設計者 • 2： 保全者 • 3： 操作者 • 4： 観察者 付属情報 2： 権限が変更されたユーザの名前					
注意点／備考	Sysmac Studio の Ver.1.50 以降を使用した際に登録します。					
アクセスログのユーザ名	ユーザ名					

*1. 以下の CPU ユニットで発生するイベントです。
- 形 NJ シリーズ、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニット：Ver.1.49 以降
- 形 NX502 CPU ユニット：Ver.1.60 以降
- 形 NX701 CPU ユニット：Ver.1.29 以降

イベント名	ユーザパスワード変更			**イベントコード**	90A70000Hex*1	
内容	ユーザパスワードを変更しました。					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	ユーザアカウント設定変更時
異常の属性	**重要度**	一般情報		**ログカテゴリ**	アクセス	
	復旧方法	−				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	ユーザパスワードを変更した。		なし		なし	
付属情報	付属情報 1：パスワードが変更されたユーザの名前					
注意点／備考	Sysmac Studio の Ver.1.50 以降を使用した際に登録します。					
アクセスログのユーザ名	ユーザ名					

*1. 以下の CPU ユニットで発生するイベントです。
- 形 NJ シリーズ、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニット：Ver.1.49 以降
- 形 NX502 CPU ユニット：Ver.1.60 以降
- 形 NX701 CPU ユニット：Ver.1.29 以降

イベント名	ユーザパスワード有効期限管理の有効化			**イベントコード**	90A80000Hex*1	
内容	ユーザパスワードの有効期限管理を有効にしました。					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	ユーザアカウント設定変更時
異常の属性	**重要度**	一般情報		**ログカテゴリ**	アクセス	
	復旧方法	−				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	ユーザパスワードの有効期限管理を有効化した。		なし		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	Sysmac Studio の Ver.1.50 以降を使用した際に登録します。					
アクセスログのユーザ名	ユーザ名					

*1. 以下の CPU ユニットで発生するイベントです。
- 形 NJ シリーズ、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニット：Ver.1.49 以降
- 形 NX502 CPU ユニット：Ver.1.60 以降
- 形 NX701 CPU ユニット：Ver.1.29 以降

イベント名	ユーザパスワード有効期限管理の無効化			**イベントコード**	90A90000Hex*1	
内容	ユーザパスワードの有効期限管理を無効にしました。					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	ユーザアカウント設定変更時
異常の属性	**重要度**	一般情報		**ログカテゴリ**	アクセス	
	復旧方法	−				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	ユーザパスワードの有効期限管理を無効化した。		なし		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	Sysmac Studio の Ver.1.50 以降を使用した際に登録します。					
アクセスログのユーザ名	ユーザ名					

*1. 以下の CPU ユニットで発生するイベントです。
- 形 NJ シリーズ、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニット：Ver.1.49 以降
- 形 NX502 CPU ユニット：Ver.1.60 以降
- 形 NX701 CPU ユニット：Ver.1.29 以降

イベント名	ユーザパスワード有効期間変更			**イベントコード**	90AA0000Hex*1	
内容	ユーザパスワードの有効期間を変更しました。					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	ユーザアカウント設定変更時
異常の属性	**重要度**	一般情報		**ログカテゴリ**	アクセス	
	復旧方法	−				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	ユーザパスワードの有効期間を変更した。		なし		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	Sysmac Studio の Ver.1.50 以降を使用した際に登録します。					
アクセスログのユーザ名	ユーザ名					

*1. 以下の CPU ユニットで発生するイベントです。
- 形 NJ シリーズ、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニット：Ver.1.49 以降
- 形 NX502 CPU ユニット：Ver.1.60 以降
- 形 NX701 CPU ユニット：Ver.1.29 以降

イベント名	ユーザ認証の操作ロック有効化			**イベントコード**	90AB0000Hex*1	
内容	ユーザ認証の操作ロックを有効にしました。					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	ユーザアカウント設定変更時
異常の属性	**重要度**	一般情報		**ログカテゴリ**	アクセス	
	復旧方法	－				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	ユーザ認証の操作ロックを有効化した。		なし		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	Sysmac Studio の Ver.1.50 以降を使用した際に登録します。					
アクセスログのユーザ名	ユーザ名					

*1. 以下の CPU ユニットで発生するイベントです。
- 形 NJ シリーズ、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニット：Ver.1.49 以降
- 形 NX502 CPU ユニット：Ver.1.60 以降
- 形 NX701 CPU ユニット：Ver.1.29 以降

イベント名	ユーザ認証の操作ロック無効化			**イベントコード**	90AC0000Hex*1	
内容	ユーザ認証の操作ロックを無効にしました。					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	ユーザアカウント設定変更時
異常の属性	**重要度**	一般情報		**ログカテゴリ**	アクセス	
	復旧方法	－				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	ユーザ認証の操作ロックを無効化した。		なし		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	Sysmac Studio の Ver.1.50 以降を使用した際に登録します。					
アクセスログのユーザ名	ユーザ名					

*1. 以下の CPU ユニットで発生するイベントです。
- 形 NJ シリーズ、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニット：Ver.1.49 以降
- 形 NX502 CPU ユニット：Ver.1.60 以降
- 形 NX701 CPU ユニット：Ver.1.29 以降

イベント名	ユーザ認証の操作ロック時間変更			**イベントコード**	90AD0000Hex*1	
内容	ユーザ認証の操作ロック時間を変更しました。					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	ユーザアカウント設定変更時
異常の属性	**重要度**	一般情報		**ログカテゴリ**	アクセス	
	復旧方法	－				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	ユーザ認証の操作ロック時間を変更した。		なし		なし	
付属情報	付属情報 1：設定時間					
注意点／備考	Sysmac Studio の Ver.1.50 以降を使用した際に登録します。					
アクセスログのユーザ名	ユーザ名					

*1. 以下の CPU ユニットで発生するイベントです。
- 形 NJ シリーズ、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニット：Ver.1.49 以降
- 形 NX502 CPU ユニット：Ver.1.60 以降
- 形 NX701 CPU ユニット：Ver.1.29 以降

イベント名	操作権限認証の有効化			**イベントコード**	90AE0000Hex*1	
内容	操作権限認証を有効にしました。					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	操作権限認証設定変更時
異常の属性	**重要度**	一般情報		**ログカテゴリ**	アクセス	
	復旧方法	－				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	操作権限認証を有効化した。		なし		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	Sysmac Studio の Ver.1.50 以降を使用した際に登録します。					
アクセスログのユーザ名	ユーザ認証機能を使用している場合　：ユーザ名 ユーザ認証機能を使用していない場合：NULL					

*1. 以下の CPU ユニットで発生するイベントです。
- 形 NJ シリーズ、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニット：Ver.1.49 以降
- 形 NX502 CPU ユニット：Ver.1.60 以降
- 形 NX701 CPU ユニット：Ver.1.29 以降

イベント名	操作権限認証の無効化			**イベントコード**	90AF0000Hex*1	
内容	操作権限認証を無効にしました。					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	操作権限認証設定変更時
異常の属性	**重要度**	一般情報		**ログカテゴリ**	アクセス	
	復旧方法	−				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	操作権限認証を無効化した。		なし		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	Sysmac Studio の Ver.1.50 以降を使用した際に登録します。					
アクセスログのユーザ名	ユーザ認証機能を使用している場合　：ユーザ名 ユーザ認証機能を使用していない場合：NULL					

*1. 以下の CPU ユニットで発生するイベントです。
- 形 NJ シリーズ、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニット：Ver.1.49 以降
- 形 NX502 CPU ユニット：Ver.1.60 以降
- 形 NX701 CPU ユニット：Ver.1.29 以降

イベント名	操作権限パスワード変更			**イベントコード**	90B00000Hex*1	
内容	操作権限パスワードを変更しました。					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	操作権限認証設定変更時
異常の属性	**重要度**	一般情報		**ログカテゴリ**	アクセス	
	復旧方法	−				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	操作権限パスワードを変更した。		なし		なし	
付属情報	付属情報 1：パスワード変更された権限 • 0： 管理者 • 1： 設計者 • 2： 保全者 • 3： 操作者 • 4： 観察者					
注意点／備考	Sysmac Studio の Ver.1.50 以降を使用した際に登録します。					
アクセスログのユーザ名	ユーザ認証機能を使用している場合　：ユーザ名 ユーザ認証機能を使用していない場合：NULL					

*1. 以下の CPU ユニットで発生するイベントです。
- 形 NJ シリーズ、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニット：Ver.1.49 以降
- 形 NX502 CPU ユニット：Ver.1.60 以降
- 形 NX701 CPU ユニット：Ver.1.29 以降

イベント名	パスワード入力省略時の操作権限変更		**イベントコード**	90B10000Hex*1	
内容	パスワード入力省略時の操作権限を変更しました。				
発生源	PLC 機能モジュール	**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	操作権限認証設定変更時
異常の属性	**重要度**	一般情報	**ログカテゴリ**	アクセス	
	復旧方法	−			
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし	
システム定義変数	**変数名**		**データ型**	**名称**	
	なし		−	−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**	**再発防止**	
	パスワード入力省略時の操作権限を変更した。		なし	なし	
付属情報	付属情報 1：設定された権限 • 0： 管理者 • 1： 設計者 • 2： 保全者 • 3： 操作者 • 4： 観察者				
注意点／備考	Sysmac Studio の Ver.1.50 以降を使用した際に登録します。				
アクセスログのユーザ名	ユーザ認証機能を使用している場合　：ユーザ名 ユーザ認証機能を使用していない場合：NULL				

*1. 以下の CPU ユニットで発生するイベントです。
- 形 NJ シリーズ、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニット：Ver.1.49 以降
- 形 NX502 CPU ユニット：Ver.1.60 以降
- 形 NX701 CPU ユニット：Ver.1.29 以降

イベント名	操作権限認証の操作ロック有効化		**イベントコード**	90B20000Hex*1	
内容	操作権限認証の操作ロックを有効にしました。				
発生源	PLC 機能モジュール	**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	操作権限認証設定変更時
異常の属性	**重要度**	一般情報	**ログカテゴリ**	アクセス	
	復旧方法	−			
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし	
システム定義変数	**変数名**		**データ型**	**名称**	
	なし		−	−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**	**再発防止**	
	操作権限認証の操作ロックを有効化した。		なし	なし	
付属情報	なし				
注意点／備考	Sysmac Studio の Ver.1.50 以降を使用した際に登録します。				
アクセスログのユーザ名	ユーザ認証機能を使用している場合　：ユーザ名 ユーザ認証機能を使用していない場合：NULL				

*1. 以下の CPU ユニットで発生するイベントです。
- 形 NJ シリーズ、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニット：Ver.1.49 以降
- 形 NX502 CPU ユニット：Ver.1.60 以降
- 形 NX701 CPU ユニット：Ver.1.29 以降

イベント名	操作権限認証の操作ロック無効化			**イベントコード**	90B30000Hex*1	
内容	操作権限認証の操作ロックを無効にしました。					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	操作権限認証設定変更時
異常の属性	**重要度**	一般情報		**ログカテゴリ**	アクセス	
	復旧方法	－				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	操作権限認証の操作ロックを無効化した。		なし		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	Sysmac Studio の Ver.1.50 以降を使用した際に登録します。					
アクセスログのユーザ名	ユーザ認証機能を使用している場合　：ユーザ名 ユーザ認証機能を使用していない場合：NULL					

*1. 以下の CPU ユニットで発生するイベントです。
- 形 NJ シリーズ、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニット：Ver.1.49 以降
- 形 NX502 CPU ユニット：Ver.1.60 以降
- 形 NX701 CPU ユニット：Ver.1.29 以降

イベント名	操作権限認証の操作ロック時間変更			**イベントコード**	90B40000Hex*1	
内容	操作権限認証の操作ロック時間を変更しました。					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	操作権限認証設定変更時
異常の属性	**重要度**	一般情報		**ログカテゴリ**	アクセス	
	復旧方法	－				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	操作権限認証の操作ロック時間を変更した。		なし		なし	
付属情報	付属情報 1：設定時間					
注意点／備考	Sysmac Studio の Ver.1.50 以降を使用した際に登録します。					
アクセスログのユーザ名	ユーザ認証機能を使用している場合　：ユーザ名 ユーザ認証機能を使用していない場合：NULL					

*1. 以下の CPU ユニットで発生するイベントです。
- 形 NJ シリーズ、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニット：Ver.1.49 以降
- 形 NX502 CPU ユニット：Ver.1.60 以降
- 形 NX701 CPU ユニット：Ver.1.29 以降

イベント名	ユーザパスワード期日前通知の有効化			**イベントコード**	90B50000Hex*1	
内容	ユーザパスワード期日前通知を有効にしました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	ユーザ認証設定変更時
異常の属性	**重要度**	一般情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	アクセス
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	ユーザパスワード期日前通知を有効にした		－		－	
付属情報	なし					
注意点／備考	Sysmac Studio の Ver.1.50 以降を使用した際に登録します。					
アクセスログのユーザ名	ユーザ名					

*1. 以下の CPU ユニットで発生するイベントです。
- 形 NJ シリーズ、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニット：Ver.1.49 以降
- 形 NX502 CPU ユニット：Ver.1.60 以降
- 形 NX701 CPU ユニット：Ver.1.29 以降

イベント名	ユーザパスワード期日前通知の無効化			**イベントコード**	90B60000Hex*1	
内容	ユーザパスワード期日前通知を無効にしました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	ユーザ認証設定変更時
異常の属性	**重要度**	一般情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	アクセス
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	ユーザパスワード期日前通知を無効にした		－		－	
付属情報	なし					
注意点／備考	Sysmac Studio の Ver.1.50 以降を使用した際に登録します。					
アクセスログのユーザ名	ユーザ名					

*1. 以下の CPU ユニットで発生するイベントです。
- 形 NJ シリーズ、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニット：Ver.1.49 以降
- 形 NX502 CPU ユニット：Ver.1.60 以降
- 形 NX701 CPU ユニット：Ver.1.29 以降

イベント名	ユーザパスワード期日前通知日数変更			**イベントコード**	90B70000Hex*1	
内容	ユーザパスワードの期日前通知日数を変更しました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	ユーザアカウント設定変更時
異常の属性	**重要度**	一般情報	**復旧方法**	−	**ログカテゴリ**	アクセス
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	ユーザパスワードの期日前通知日数を変更した		−		−	
付属情報	なし					
注意点／備考	Sysmac Studio の Ver.1.50 以降を使用した際に登録します。					
アクセスログのユーザ名	ユーザ名					

*1. 以下の CPU ユニットで発生するイベントです。
- 形 NJ シリーズ、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニット：Ver.1.49 以降
- 形 NX502 CPU ユニット：Ver.1.60 以降
- 形 NX701 CPU ユニット：Ver.1.29 以降

イベント名	オートメーションプレイバック設定変更			**イベントコード**	95720000Hex *1	
内容	オートメーションプレイバック機能の設定が変更されました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	Sysmac Studio と同期した時
異常の属性	**重要度**	一般情報	**復旧方法**	−	**ログカテゴリ**	アクセス
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_APB_Status		_sAPB_STATUS		APB サービスステータス	
	_APB_LogStatus		ARRAY[1..2][1..2] OF _sAPB_LOG_STATUS		APB ログ出力ステータス	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	設定を変更したプロジェクトで同期した		なし		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					
アクセスログのユーザ名	ユーザ認証機能を使用している場合　：ユーザ名 ユーザ認証機能を使用していない場合：NULL					

*1. 形 NX502 CPU ユニットバージョン Ver.1.63 以降で発生するイベントです。

イベント名	変数のサンプリング開始			イベントコード	95730000Hex *1	
内容	変数のサンプリングが開始しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	なし	検出タイミング	変数のサンプリング開始時
異常の属性	重要度	一般情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_APB_Status		_sAPB_STATUS		APB サービスステータス	
	_APB_LogStatus		ARRAY[1..2][1..2] OF _sAPB_LOG_STATUS		APB ログ出力ステータス	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	変数のサンプリング開始条件が成立した		なし		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

*1. 形 NX502 CPU ユニットバージョン Ver.1.63 以降で発生するイベントです。

イベント名	変数のサンプリング停止			イベントコード	95740000Hex *1	
内容	変数のサンプリングが停止しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	なし	検出タイミング	変数のサンプリング停止時
異常の属性	重要度	一般情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_APB_Status		_sAPB_STATUS		APB サービスステータス	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	変数のサンプリング停止条件が成立した		なし		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

*1. 形 NX502 CPU ユニットバージョン Ver.1.63 以降で発生するイベントです。

イベント名	変数ログ出力完了			イベントコード	95750000Hex *1	
内容	変数ログの出力が完了しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	なし	検出タイミング	変数ログの出力完了
異常の属性	重要度	一般情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_APB_LogStatus		ARRAY[1..2][1..2] OF _sAPB_LOG_STATUS		APB ログ出力ステータス	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	変数ログの保存条件が成立し、出力が完了した		なし		なし	
付属情報	付属情報 1：ストレージ種別 1：SD メモリカード 付属情報 2：変数ログ出力設定名 付属情報 3：変数ログの収集時間（秒） 付属情報 4：サンプリング対象変数容量（バイト）					
注意点／備考	なし					

*1. 形 NX502 CPU ユニットバージョン Ver.1.63 以降 Ver.1.65 未満で発生するイベントです。

イベント名	変数ログ出力完了			**イベントコード**	95780000Hex *1	
内容	変数ログの出力が完了しました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	変数ログの出力完了
異常の属性	**重要度**	一般情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_APB_LogStatus		ARRAY[1..2][1..2] OF _sAPB_LOG_STATUS		APB ログ出力ステータス	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	変数ログの保存条件が成立し、出力が完了した		なし		なし	
付属情報	付属情報 1：ストレージ種別 1：SD メモリカード 付属情報 2：変数ログ出力設定名 付属情報 3：変数ログの収集時間（秒） 付属情報 4：サンプリング対象変数容量（KB）					
注意点／備考	なし					

*1.　形 NX502 CPU ユニットバージョン Ver.1.65 以降で発生するイベントです。

1-1-6 FINS 通信関連

イベント名	CPU 高機能ユニットシステム設定エリアエラー			**イベントコード**	14010000Hex	
内容	CPU 高機能ユニットシステム設定エリアのメモリチェックでエラーを検出しました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	電源投入時／コントローラリセット時／CPU 高機能ユニットシステム設定エリアの書込時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	異常解除／電源再投入	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	CPU 高機能ユニットが停止する可能性あり		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	CPU 高機能ユニットシステム設定のダウンロード中にコントローラを電断／Sysmac Studio との通信を切断		メモリオールクリア、または CPU 高機能ユニットシステム設定を再度ダウンロードしてください。本異常が再発する場合は、CPU ユニットを交換してください		CPU 高機能ユニットシステム設定のダウンロード時にはコントローラを電断／Sysmac Studio との通信を切断しないでください	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	IP アドレステーブル設定エラー			**イベントコード**	34100000Hex	
内容	IP アドレステーブルの設定が不正です					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	電源投入時／コントローラリセット時／内蔵 EtherNet/IP ポートリスタート時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	異常解除	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	FINS/UDP 通信機能使用不可		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	IP アドレス変換方式が「併用方式」、「IP アドレステーブル方式」に設定されているが、IP アドレステーブルの設定が不正		IP アドレステーブルの設定を修正してください		IP アドレステーブルを正しく設定してください	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	FINS/TCP コネクションテーブル設定エラー			イベントコード	34130000Hex	
内容	FINS/TCP コネクションテーブルが不正です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	なし	検出タイミング	電源投入時／コントローラリセット時／内蔵 EtherNet/IP ポートリスタート時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	FINS/TCP 通信機能使用不可		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	FINS/TCP コネクションテーブルのダウンロード中にコントローラを電断／Sysmac Studio との通信を切断した		FINS/TCP コネクションテーブルを再度ダウンロードしてください		FINS/TCP コネクションテーブルのダウンロード中にコントローラを電断／Sysmac Studio との通信を切断しないでください	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	送信先ノード不明			イベントコード	34110000Hex	
内容	送信先ノードが不明です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	なし	検出タイミング	FINS メッセージ送信時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし。パケットは破棄		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	FINS メッセージを送信する時に送信先ノードが見つからなかった		FINS/UDP 通信方式の送信先ノードの設定を修正してください。または、送信元の FINS メッセージを確認し、送信先ノードアドレスを修正してください		FINS/UDP 通信方式の送信先ノードを正しく設定してください。または、送信元の FINS メッセージの送信先ノードアドレスが正しいことを確認してください	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	パケット破棄			**イベントコード**	80100000Hex	
内容	パケットを破棄しました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	FINS メッセージ受信時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	CPU ユニット宛の FINS レスポンスを受信した		送信元の FINS メッセージ内容を修正してください		FINS メッセージを正しく設定してください	
	FINS レスポンス送信先ユニットが存在しない					
付属情報	付属情報 1：パケット破棄要因 • 01Hex：CPU ユニット宛 FINS レスポンス受信 • 02Hex：レスポンス送信失敗					
注意点／備考	なし					

イベント名	パケット破棄			**イベントコード**	80110000Hex	
内容	パケットを破棄しました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	FINS メッセージ受信時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	1： 2002byte を超える FINS レスポンスを配信しようとした		2002byte を超える FINS レスポンスを配信しないようにしてください		送信元の FINS メッセージを正しく設定してください	
	2： 2002byte を超える FINS レスポンスをルーチングした					
	3： ルーチングエラー「該当号機なし」のパケットを受信した		送信元の FINS メッセージを確認し、レスポンスフレーム、または応答不要のコマンドフレームで指定する号機番号を、存在する号機番号に修正してください			
	4： ルーチングエラー「ルーチング異常」のパケットを受信した		送信元の FINS メッセージを確認し、レスポンスフレーム、または応答不要のコマンドフレームで指定する号機番号をルーチングテーブルに存在する号機番号に修正してください			
	5： ルーチングエラー「ルーチングテーブル未登録」のパケットを受信した		送信元の FINS メッセージを確認し、ルーチングテーブルに送信先ネットワークアドレスが登録されるように修正してください			
	6： ルーチングエラー「イベントエリアサイズオーバー」のパケットを受信した		送信元の FINS メッセージを確認し、レスポンスフレーム、または応答不要のコマンドフレームがイベントエリアのサイズ以下になるように修正してください			
	7： 内部バッファに空き容量がなくなった		送信元の FINS メッセージの発行頻度を減らしてください		FINS メッセージの発行頻度をなるべく少なくするようにしてください	
	8： 高負荷により FINS メッセージのルーチングに失敗した					
付属情報	付属情報 1：パケット破棄要因 1：01 Hex、2：02 Hex、3：03 Hex、4：04 Hex、5：05 Hex、 6：06 Hex、7：07 Hex、8：08 Hex 各番号は上記発生要因の番号に対応					
注意点／備考	なし					

イベント名	パケット破棄			**イベントコード**	80120000Hex	
内容	パケットを破棄しました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	なし	**検出タイミング**	FINS メッセージ受信時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	－	－

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	1： 送信先ネットワークアドレス（DNA）=自ネット、送信先ノードアドレス（DA1）≠自ノードの FINS レスポンスを受信した	IP アドレステーブルの設定を修正してください	IP アドレステーブルの設定が正しいことを確認してください
	2： 送信先ネットワークアドレス（DNA）≧80Hex のハブネットワークアドレス指定の FINS コマンドまたは FINS レスポンスを受信した	送信元の FINS メッセージが、送信先ネットワークアドレス（DNA）≧80Hex のハブネットワークアドレスを指定しないように修正してください	送信元の FINS メッセージが、送信先ネットワークアドレス（DNA）≧80Hex のハブネットワークアドレスを指定しないことを確認してください
	3：内部バッファに空き容量がなくなった	送信元の FINS メッセージの発行頻度を減らしてください	FINS メッセージの発行頻度をなるべく少なくするようにしてください
	4： 最小コマンド長に満たない FINS コマンドを受信した	送信元の FINS コマンドが最小コマンド長以上になるように修正してください	送信元の FINS コマンドを最小コマンド長以上になるようにしてください
	5： 最大コマンド長を超える FINS コマンドを受信した	送信元の FINS コマンドが最大コマンド長以下になるように修正してください	送信元の FINS コマンドを最大コマンド長以下になるようにしてください
	6： パケット送信に失敗した	送信先ノードがネットワークに加入していない場合は、加入させてください	送信先ノードがネットワークに加入していることを確認してください
	7： 高負荷により FINS メッセージのルーチングに失敗した。または、送信元ネットワークアドレス（SNA）=0 である、内蔵 EtherNet/IP ポート宛のコマンドを受信した	送信元の FINS メッセージの発行頻度を減らしてください。または、送信元の FINS メッセージの送信元ネットワークアドレス（SNA）を修正してください	FINS メッセージの発行頻度をなるべく少なくするようにしてください。または、送信元の FINS メッセージの送信元ネットワークアドレス（SNA）を正しく設定してください
	8： 内蔵 EtherNet/IP ポート宛の FINS レスポンスを受信した	送信元の FINS メッセージ内容を修正してください	FINS メッセージを正しく設定してください
	9：ルーチングテーブルが未登録のときに、FINS レスポンスまたは応答不要コマンドを受信した	ルーチングテーブルを登録してください	ルーチングテーブルを登録してください
	A：ルーチングテーブルの異常が発生しているときに、FINS レスポンスまたは応答不要コマンドを受信した	ルーチングテーブルを登録しなおしてください。ルーチングテーブルに異常がある場合は、「ユーザプログラム／コントローラ構成・設定不正」（10250000Hex）が発生します	なし
	B： 中継回数オーバーの FINS レスポンスまたは応答不要コマンドを受信した	送信元のルーチングテーブルのゲートウェイカウンタの設定値を大きくしてください	送信元のルーチングテーブルのゲートウェイカウンタをシステムの構成に合わせて設定してください
	C：ルーチングテーブルに宛先アドレスが未設定のため送信不可	ルーチングテーブルに宛先アドレスを登録してください	ルーチングテーブルに宛先アドレスを登録してください
	D： [内蔵 EtherNet/IP ポート設定]の[FINS ノードアドレス設定]が 0 または 255 のためルーチングできない	Sysmac Studio で[内蔵 EtherNet/IP ポート設定]の[FINS ノードアドレス設定]を 0 または 255 以外にしてください	[内蔵 EtherNet/IP ポート設定]の[TCP/IP 設定]で IP アドレスの下位 8 ビットを 0 または 255 としている場合は、[IP アドレス⇔FINS ノードアドレス変換方式]で[自動生成方式]以外を選択してください

付属情報	付属情報 1：パケット破棄要因 1：01 Hex、2：02 Hex、3：03 Hex、4：04 Hex、5：05 Hex、 6：06 Hex、7：07 Hex、8：08 Hex、9：09 Hex、A：0A Hex、 B：0B Hex、 C：0C Hex、 D：0D Hex 各番号は上記発生要因の番号に対応
注意点／備考	なし

1-1-7　命令関連

命令で発生する異常（イベントコード）の詳細情報を示します。イベントコードの下位 4 けたが命令のエラーコード(ErrorID)を表します。各エラーコードの説明は、対応するイベントコードの説明を参照してください。たとえば、命令のエラーコードが 16#0400 の場合は、54010400Hex のイベントコードの説明を参照してください。
命令のイベントコードは CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.02 以降でサポートされています。

イベント名	ファームウェア異常			**イベントコード**	54010415Hex	
内容	命令実行時に異常を検出しました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	命令	**検出タイミング**	命令実行時
異常の属性	**重要度**	部分停止フォールト	**復旧方法**	異常解除不可	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	ソフトウェアにエラーが発生した		当社営業または代理店にお問い合わせください		なし	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：通常表示なし。表示ありの場合は異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	入力値範囲外			**イベントコード**	54010400Hex	
内容	命令の入力パラメータが入力変数の範囲を超えています。 または、整数 0 で除算／剰余演算を行いました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	命令	**検出タイミング**	命令実行時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲を超えている。または、整数 0 で除算／剰余演算を行った		該当命令の入力変数の範囲を確認し、入力パラメータが範囲を超えないよう、または整数 0 で除算／剰余演算しないようにしてください		命令への入力パラメータの値が入力範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：通常表示なし。表示ありの場合は異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	数値関係不正			イベントコード	54010401Hex	
内容	命令の入力パラメータの値の関係が条件を満たしていません。 または、命令実行演算中／結果の数値が条件を満たしませんでした					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	入力パラメータの値の関係が条件を満たしていない		該当命令の入力変数の意味と関係を確認し、入力パラメータの値の関係が満たされるように修正してください		命令への入力パラメータの値が入力変数の関係を満たすようにしてください	
	命令実行演算中／結果の数値が条件を満たしていない		該当命令の処理を確認し、不適切な演算結果を招かないような入力パラメータの値にしてください		命令の処理を確認し、処理演算で本異常の発生要因を生じない入力パラメータにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：通常表示なし。表示ありの場合は異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	浮動小数点数エラー			イベントコード	54010402Hex	
内容	命令の浮動小数点数の入力パラメータに対して数値以外が入力されました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の浮動小数点数の入力パラメータに対して数値以外が入力された		該当命令の浮動小数点数の入力パラメータに数値を入力するように修正してください		命令の浮動小数点数の入力パラメータは数値にしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：通常表示なし。表示ありの場合は異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	非 BCD			**イベントコード**	54010403Hex	
内容	命令の BCD の入力パラメータに対して BCD データでない値が入力されました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	命令	**検出タイミング**	命令実行時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	命令の BCD の入力パラメータに対して 16 進数の A、B、C、D、E、F が入力されました		該当命令の BCD の入力パラメータに BCD データを入力するように修正してください		命令の BCD の入力パラメータは BCD データにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：通常表示なし。表示ありの場合は異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	符号付き BCD エラー			**イベントコード**	54010404Hex	
内容	命令の符号付き BCD データの入力パラメータに対して最上位けたに不正な値が入力されました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	命令	**検出タイミング**	命令実行時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	命令の符号付き BCD データの入力パラメータに対して最上位けたに不正な値が入力された。 • BCD フォーマットに「_BCD0」が指定されている場合は、最上位けたが 2～F になっている。 • BCD フォーマットに「_BCD2」が指定されている場合は、最上位けたが A,B,C,D,E のいずれかとなっている。 • BCD フォーマットに「_BCD3」が指定されている場合は、最上位けたが B,C,D,E となっている。		該当命令の BCD の入力パラメータに正しい符号付き BCD データを入力するように修正してください		命令の符号付き BCD データの入力パラメータの最上位けたに正しい値を指定してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：通常表示なし。表示ありの場合は異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	指定ビット位置不正			イベントコード	54010405Hex	
内容	命令で指定されたビット位置が不正です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令で指定されたビット位置が指定されたデータの範囲を超えている		該当命令で指定されるビット位置が、指定されたデータの範囲に収まるように修正してください		命令で指定されるビット位置が指定されたデータの範囲に収まるようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：通常表示なし。表示ありの場合は異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	領域範囲外指定			イベントコード	54010406Hex	
内容	命令で指定されたデータのメモリアドレスやデータサイズが不適切です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令で指定されたデータのメモリアドレスが、有効範囲外である。または、命令で指定されたデータのサイズが、有効範囲を超えている。変数のデータ型とデータサイズとが合っていないことなどが考えられる		該当命令で指定されるデータのメモリアドレスやデータサイズを、有効範囲内に収めるように修正してください		命令で指定されるデータのメモリアドレスやデータサイズが、有効範囲内に収まるようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：通常表示なし。表示ありの場合は異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	領域オーバー			**イベントコード**	54010407Hex	
内容	命令の演算結果が、出力パラメータのデータ領域の範囲を超えています					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	命令	**検出タイミング**	命令実行時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	配列要素数など、命令の処理結果が出力パラメータのデータ領域の範囲を超えている		該当命令の処理結果が出力パラメータのデータ領域の範囲に収まるような入力パラメータになるように修正してください		命令の処理結果が出力パラメータのデータ領域の範囲に収まるような入力パラメータにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：通常表示なし。表示ありの場合は異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	コントローラ異常解除失敗			**イベントコード**	54010409Hex	
内容	コントローラ異常未発生の状態で、コントローラ異常解除命令を実行しました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	命令	**検出タイミング**	命令実行時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当命令を仕様どおりに終了。出力やユニットの動作への影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	コントローラ異常未発生の状態で、コントローラ異常解除命令を実行した		コントローラ異常が発生しているときに該当命令を実行するようにプログラムを修正してください		コントローラ異常が発生しているときに該当命令を実行するようなプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：通常表示なし。表示ありの場合は異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	ユーザ異常解除失敗			**イベントコード**	5401040BHex	
内容	ユーザ異常未発生の状態で、ユーザ異常解除命令を実行しました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	命令	**検出タイミング**	命令実行時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	−	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当命令を仕様どおりに終了。出力やユニットの動作への影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	ユーザ異常未発生の状態で、ユーザ異常解除命令を実行した		ユーザ異常が発生しているときに該当命令を実行するようにプログラムを修正してください		ユーザ異常が発生しているときに該当命令を実行するようなプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：通常表示なし。表示ありの場合は異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	ユーザ異常最大件数			**イベントコード**	5401040CHex	
内容	ユーザ異常命令で最大件数を超えるユーザ異常を発生させようとしました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	命令	**検出タイミング**	命令実行時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	−	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当命令を仕様どおり終了。出力やユニットの動作への影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	ユーザ異常命令で最大件数を超えるユーザ異常を発生させようとした		ユーザ異常解除命令を実行してください。 ユーザ異常件数を確認するには、システム定義変数のユーザ異常件数をモニタします		ユーザ異常命令を呼ぶ条件にユーザ異常件数をチェックするようなプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：通常表示なし。表示ありの場合は異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	指定ユニット不正			イベントコード	5401040DHex	
内容	命令で指定されたユニットが存在しません					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了。出力やユニットの動作への影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	ユニット構成情報として存在しないユニットを指定した		該当命令で指定される号機 No.／ユニット番号が、ユニット構成に存在し、かつ実体が存在するユニットを指定するように修正してください		命令で指定される号機 No.／ユニット番号は、ユニット構成に存在し、かつ実体が存在するユニットを指定するようにしてください	
	ユニット構成情報に存在するが実体が存在しないユニットを指定した					
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：通常表示なし。表示ありの場合は異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	ユニットリスタート失敗			イベントコード	5401040FHex	
内容	高機能ユニットのリスタートに失敗しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了。出力やユニットの動作への影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	高機能ユニットが処理中		しばらくしてから、再度高機能ユニットをリスタートしてください		高機能ユニットのステータスが処理中でないことを確認してから、高機能ユニットをリスタートするよう、プログラムを変更してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：通常表示なし。表示ありの場合は異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	文字列フォーマット異常			イベントコード	54010410Hex	
内容	命令に入力された文字列が正しい文字列ではありません					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	文字列を数値に変換する命令の入力文字列が数値を表す文字列または正の数値を表す文字列でない		該当命令に入力されている文字列がその命令に適した文字列になるように修正してください		文字列を数値に変換する命令の場合は、変換する入力文字列が数値を表すようにしてください。正数の条件がある場合は正数を表すようにしてください	
	入力文字列が NULL 文字で終わっていない		該当命令に入力されている文字列が NULL 文字で終わるように修正してください		文字列を数値に変換する命令の場合は、入力文字列が NULL 文字で終わるようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：通常表示なし。表示ありの場合は異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	指定プログラム不正			イベントコード	54010411Hex	
内容	命令で指定されたプログラムが存在しません					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	該当命令で指定されたプログラムが存在していないか削除された		該当命令で指定されるプログラムが、存在しているプログラムになるように修正してください。 または、該当命令で指定されているプログラムを追加してください		命令で指定されるプログラムは、存在しているプログラムにしてください。 または、使用するプログラムを削除しないように注意してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：通常表示なし。表示ありの場合は異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	メモリ非アドレス指定			イベントコード	54010413Hex	
内容	CJ ユニット用メモリで指定する必要がある変数が CJ ユニット用メモリに指定されていません					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	CJ ユニット用メモリで指定する必要がある変数が CJ ユニット用メモリに AT 指定されていません		CJ ユニット用メモリで指定する必要がある変数を AT 指定で CJ ユニット用メモリに指定するよう修正してください		CJ ユニット用メモリで指定する必要がある変数を AT 指定で CJ ユニット用メモリに指定するようプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：通常表示なし。表示ありの場合は異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	スタックアンダーフロー			イベントコード	54010414Hex	
内容	スタックにデータが存在しません					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	データが存在しないスタックからデータを取り出そうとした		スタックにデータを格納後に、データを取り出すよう、プログラムを修正してください		スタックにデータを格納後に、データを取り出すよう、プログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：通常表示なし。表示ありの場合は異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	配列の要素数・次元数不正			イベントコード	54010416Hex	
内容	命令の配列の入出力パラメータに対して、要素数・次元数が範囲を超えています					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の配列の入出力パラメータに対して、要素数・次元数が範囲を超えた		命令の配列の入出力パラメータに対して、要素数・次元数が範囲内に収まるように修正してください		命令の配列の入出力パラメータに対して、要素数・次元数が範囲内になるようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：通常表示なし。表示ありの場合は異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	指定タスク不正			イベントコード	54010417Hex	
内容	命令で指定されたタスクが存在しません					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	指定したタスクが存在しない		存在するタスクを指定するようプログラムを修正してください		存在するタスクを指定するようプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：通常表示なし。表示ありの場合は異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	指定タスク不許可			イベントコード	54010418Hex	
内容	命令で指定されたタスクが指定を許可されていません					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	自タスクを指定した、またはプライマリ周期タスクおよび周期タスクを指定した		イベントタスクかつ自タスク以外を指定するようプログラムを修正してください		イベントタスクかつ他のタスクを指定するようプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：通常表示なし。表示ありの場合は異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	データ型不正			イベントコード	54010419Hex	
内容	命令で使用できない型のデータが入力／入出力に指定されています					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令で使用できない型のデータを入力／入出力に指定した		該当命令の入力／入出力変数の型を確認し、入力するデータを使用できる型に修正してください		該当命令の入力／入出力変数の型を確認し、使用できる型でデータを入力してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：通常表示なし。表示ありの場合は異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	命令多重起動			イベントコード	5401041AHex	
内容	多重起動できない命令を多重起動しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおり終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	多重起動できない命令を複数同時に実行しようとした		多重起動できない命令では、実行しているインスタンスが完了してから別のインスタンスを実行するようにプログラムを修正してください		多重起動できない命令では、実行しているインスタンスが完了してから別のインスタンスを実行するようにプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：通常表示なし。表示ありの場合は異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	データ容量超過			イベントコード	5401041BHex *1	
内容	命令に渡されたデータが大きすぎて処理できません					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおり終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令が処理できる容量よりも大きいデータが命令に渡された		該当命令に渡せるデータ容量以下の大きさのデータを命令に渡すようにプログラムを修正してください		命令が処理できるデータ容量を確認し、それ以下の大きさのデータを命令に渡してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：通常表示なし。表示ありの場合は異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.02 以降で発生するエラーコード（16#041B）です。

イベント名	データサイズ不一致			イベントコード	5401041CHex *1	
内容	命令の入力／入出力で指定されたデータが対象パラメータのサイズと一致しません					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおり終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	対象パラメータのサイズと一致しないサイズのデータを命令の入力/入出力に指定した		対象パラメータのサイズを確認し、入力するデータのサイズが一致するようにプログラムを修正してください		対象パラメータのサイズを確認し、入力するデータのサイズが一致するようにプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：通常表示なし。表示ありの場合は異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.04 以降で発生するエラーコード（16#041C）です。

イベント名	命令同時実行リソースオーバ			イベントコード	5401041DHex *1	
内容	同時に実行できる該当命令群のリソースを超えて命令が実行されました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおり終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	同時に実行できる個数を超えて該当命令が実行された。		同時に実行する該当命令が最大個数以下になるようにプログラムを修正してください		同時に実行する該当命令が最大個数以下になるようにプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：通常表示なし。表示ありの場合は異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.05 以降で発生するエラーコード（16#041D）です。

イベント名	プログラムハッシュコード取得失敗			イベントコード	54010421Hex*1	
内容	プログラムハッシュコードの取得に失敗しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおり終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	ユーザプログラムの転送に失敗した		ユーザプログラムを再度転送してください		なし	
	CPU ユニットにダウンロードしたプロジェクトに、命令が必要とする情報が含まれていなかった		ユーザプログラムをリビルドし、再度転送してください		なし	
	不揮発性メモリの故障		上記の処置を行っても本異常が発生する場合は、CPU ユニットを交換してください		なし	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：通常表示なし。表示ありの場合は異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1.　以下の CPU ユニットで発生するエラーコード(16#0421)です。
- 形 NJ シリーズ、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニット：Ver.1.50 以降
- 形 NX701 CPU ユニット：Ver.1.32 以降

イベント名	FINS 異常			イベントコード	54010800Hex	
内容	FINS コマンドの送受信で異常が発生しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおり終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	FINS コマンドの送受信で異常が発生した		該当命令の出力変数「ErrorIDEx」の値を確認し、本マニュアルで該当命令の拡張エラーコード「ErrorIDEx」の説明を参照してください		命令の「ErrorIDEx」の説明をあらかじめ参照してプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	FINS ポート使用不可			イベントコード	54010801Hex	
内容	FINS ポートが使用中です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおり終了。通信出力、ユニットの動作への影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	FINS ポートが使用中		入力条件として、「_Port_isAvailable」を a 接点で挿入するようプログラムを修正してください		入力条件として、「_Port_isAvailable」を a 接点で挿入するようプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	シリアル通信モード不正			イベントコード	54010C00Hex	
内容	シリアルコミュニケーションユニットが、命令の実行に必要なシリアル通信モードになっていません					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおり終了。通信出力は命令の仕様にしたがいます。ユニットの動作への影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	シリアルコミュニケーションユニットのシリアル通信ポートが、命令が前提とするモードに設定されていません		命令が実行に必要なシリアル通信モードに設定を変更してください。または設定してあるモードで実行可能な命令だけを使用するようにプログラムを修正してください		シリアルコミュニケーションユニットを、命令が実行に必要なシリアル通信モードに設定しておいてください。または設定してあるモードで実行可能な命令だけを使用するようにプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	受信バッファフル			イベントコード	54010C03Hex *1	
内容	受信バッファがフルの状態になりました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了。本異常で終了した場合でも、受信データ格納先に格納可能なサイズのデータ格納は行います		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	以下の要因により、受信バッファがフルになりました • 相手デバイスの送信頻度が高い • 伝送速度が速すぎる • バッファからの受信処理頻度が低い		以下の対策のいずれか、またはすべてを行って、受信バッファがフルの状態が発生しないようにしてください • 相手デバイスの送信頻度を低くする • 伝送速度を遅くする • バッファからの受信処理頻度を上げる		以下の 4 つの要素を考慮し、受信バッファがフルの状態が発生しないように使用してください • 相手デバイスの送信頻度 • 伝送速度 • バッファからの受信処理頻度 • フロー制御の採用	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.11 以降で発生するエラーコード（16#0C03）です。

イベント名	ポート多重起動			イベントコード	54010C04Hex *1	
内容	同時に実行できないシリアル通信命令が実行されました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了。通信出力は命令の仕様にしたがいます		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	同時に実行できない命令の実行中に、当該命令が起動された		同時に実行できない命令との排他処理を行うようプログラムを修正してください		同時に実行できない命令との排他処理を行うようプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	• 異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります • 同時に実行できないシリアル通信命令については、各命令の説明を参照してください					

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.11 以降で発生するエラーコード（16#0C04）です。

イベント名	パリティエラー			イベントコード	54010C05Hex *1	
内容	受信データにパリティエラーが発生しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了。通信出力は命令の仕様にしたがいます。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	通信設定、伝送速度の設定が相手デバイスと合っていない		通信設定、伝送速度の設定を相手デバイスと合わせてください		通信設定、伝送速度の設定を相手デバイスと合わせてください	
	ノイズ		ノイズ対策を行ってください		ノイズ対策を行ってください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.11 以降で発生するエラーコード（16#0C05）です。

イベント名	フレーミングエラー			イベントコード	54010C06Hex *1	
内容	受信データにフレーミングエラーが発生しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了。通信出力は命令の仕様にしたがいます		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	通信設定、伝送速度の設定が相手デバイスと合っていない		通信設定、伝送速度の設定を相手デバイスと合わせてください		通信設定、伝送速度の設定を相手デバイスと合わせてください	
	ノイズ		ノイズ対策を行ってください		ノイズ対策を行ってください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.11 以降で発生するエラーコード（16#0C06）です。

イベント名	オーバーランエラー			イベントコード	54010C07Hex *1	
内容	受信データにオーバーランエラーが発生しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了。通信出力は命令の仕様にしたがいます		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	伝送速度が速すぎるため、受信処理中に次のデータを受信した		伝送速度を小さくしてください		伝送速度を小さくしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.11 以降で発生するエラーコード（16#0C07）です。

イベント名	CRC 不一致			イベントコード	54010C08Hex *1	
内容	受信データの CRC が一致しませんでした					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了。通信出力は命令の仕様にしたがいます		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	誤ったメッセージを受信した		相手デバイス側の CRC 生成方法が意図したとおりになるようにしてください		相手デバイス側の CRC 生成方法が意図したとおりであるか確認してください	
	ノイズ		受信し直してください。またはノイズ対策を行ってください		ノイズ対策を行ってください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.11 以降で発生するエラーコード（16#0C08）です。

イベント名	シリアル通信タイムアウト			イベントコード	54010C0BHex *1	
内容	シリアル通信でタイムアウトが発生しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了。通信出力は命令の仕様にしたがいます		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	相手デバイスとの配線ができていない		相手デバイスとの配線に問題がないかを確認し、問題がある場合は配線を修正してください		相手デバイスとの配線ができていることを確認してください	
	相手デバイスの電源が入っていない		相手デバイスの電源を ON してください		相手デバイスの電源が ON になっていることを確認してください	
	通信設定、伝送速度の設定が相手デバイスと合っていない		通信設定、伝送速度の設定を相手デバイスと合わせてください		通信設定、伝送速度の設定を相手デバイスと合わせてください	
	ノイズ		ノイズ対策を行ってください		ノイズ対策を行ってください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.11 以降で発生するエラーコード（16#0C0B）です。

イベント名	対象外ポートへの命令実行			イベントコード	54010C0CHex *1	
内容	本命令の対象となっていないポートを指定して、命令を実行しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了。通信出力は命令の仕様にしたがいます		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	本命令の対象となっていないポートを指定して、命令を実行した		本命令の対象となっているポートをデバイスポート構造体により指定して命令を実行してください		本命令の対象となっているポートをデバイスポート構造体により指定して命令を実行してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.11 以降で発生するエラーコード（16#0C0C）です。

イベント名	CIF ユニット初期化			イベントコード	54010C0DHex *1	
内容	CIF ユニットが初期化されたため、CIF ユニットにバッファされていた送受信データが消失しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了。通信出力は命令の仕様にしたがいます		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	CIF ユニットが初期化された		必要によりデータの送信または受信をやり直してください		CIF ユニットに送受信データをバッファするプログラムの実行中には、CIF ユニットのリスタートを行わないでください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.13 以降で発生するエラーコード（16#0C0D）です。

イベント名	Modbus 例外レスポンス			イベントコード	54010C10Hex *1	
内容	Modbus のスレーブから例外コードが返ってきました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了。通信出力は命令の仕様にしたがいます		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	Modbus スレーブで異常を検出ました		ErrorIDEx の値 16#0000_00xx の xx を確認し、Modbus 規約書を参照して原因を特定し対策を行ってください。 Modbus 規約書の参照先は該当命令の説明を参照してください		相手デバイスも含めて、Modbus 規約に従ってユーザプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.11 以降で発生するエラーコード（16#0C10）です。

イベント名	Modbus レスポンス不正			イベントコード	54010C11Hex *1	
内容	Modebus スレーブからのレスポンスが想定外のものでした					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了。通信出力は命令の仕様にしたがいます		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	Modebus スレーブからのレスポンスの Function Code またはデータサイズが不正		オプションの送信ディレイや受信監視時間など、相手デバイスとの送受信のシーケンスを見直してください		レスポンスが返ってくる前に次のコマンドを送信しないようユーザプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.11 以降で発生するエラーコード（16#0C11）です。

イベント名	SD メモリカード使用不可			イベントコード	54011400Hex	
内容	命令実行時に SD メモリカードへのアクセスに失敗しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了。ユニットの動作への影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	SD メモリカードが取り付けられていないか正しく挿入されていない		SD メモリカードを確実に取り付けてください		SD メモリカードが確実に取り付けられていることを確認してください	
	SD メモリカードが壊れている		正常が確認されている SD メモリカードに交換してください		なし	
	SD メモリカードスロットが壊れている		上記 2 つの処置を行っても本異常が再発する場合は、CPU ユニットを交換してください		なし	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	SD メモリカードライトプロテクト			イベントコード	54011401Hex	
内容	命令実行時に、ライトプロテクトされている SD メモリカードへ書込を行おうとしました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了。ユニットの動作への影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	ライトプロテクトされている SD メモリカードへ書込を行おうとした		SD メモリカードのライトプロテクトを解除してください。解除するには SD メモリカード側面のツマミをロック位置（LOCK）から書込可能位置に移動します		SD メモリカードへ書込を行う場合は、ライトプロテクトされていない SD メモリカードを使用してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	SD メモリカード容量不足			イベントコード	54011402Hex	
内容	命令実行中の SD メモリカードへの書込時に、SD メモリカードの容量不足が発生しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了。ユニットの動作への影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	SD メモリカードの容量不足が発生した		十分な空き容量のある SD メモリカードに交換してください		SD メモリカードへ追加で書込を行う場合は、十分な空き容量のある SD メモリカードを使用してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	• 異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります • SD メモリカードのアクセス中に SD メモリカードを取りはずさないでください。SD メモリカードやそのデータが壊れることがあります					

イベント名	指定ファイル不正			**イベントコード**	54011403Hex	
内容	命令で指定されたファイルが存在しません。または、指定されたファイルが破損しています					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	命令	**検出タイミング**	命令実行時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当命令を仕様どおりに終了。ユニットの動作への影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	指定されたファイルが存在しない		該当命令で指定されるファイル名が存在するファイル名になるように修正してください。またはファイル名を命令で指定された名称に修正してください		命令で指定されるファイル名は、存在するファイル名にしてください	
	指定されたファイルが破損している		別のファイル名を指定してください		なし	
	接触不良などにより、SD カードに正常にアクセスできない		SD カードを再挿入、または交換してください		なし	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	ファイル・ディレクトリ最大数超過			**イベントコード**	54011404Hex	
内容	命令実行中のファイル／ディレクトリ作成時に、ファイル／ディレクトリ数が最大数を超えました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	命令	**検出タイミング**	命令実行時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当命令を仕様どおりに終了。ユニットの動作への影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	ファイル／ディレクトリ数が最大数を超えた		不要なファイル／ディレクトリを削除してください。または、ファイル／ディレクトリ数が FAT16 / FAT32 での最大数に対して十分余裕のある SD メモリカードに交換してください		ファイル／ディレクトリ数が多くなりすぎないように、不要になったファイル／ディレクトリは適宜削除してください。 また、ファイルが増え続ける運用をする場合は、定期的に SD メモリカードの交換を行うようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	ファイルアクセス中			イベントコード	54011405Hex	
内容	命令で指定したファイルが使用中のためアクセスできませんでした					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了。ユニットの動作への影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	他の命令によりアクセス中のファイルに、別の命令で書込や読出を行おうとした		ファイルにアクセスする他の命令の出力変数「Busy」が FALSE であることを条件として該当命令を実行するようにプログラムを修正してください		ファイルにアクセスする複数の命令を実行する場合は、それらの出力変数「Busy」を命令の実行条件に使用して命令が同時に実行されないようなプログラムを作成します	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	オープンモード不一致			イベントコード	54011406Hex	
内容	命令でのファイル操作がファイルのオープンモードと一致していません					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了。ユニットの動作への影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	ファイルオープン命令で指定されたファイルのオープンモードと、その後の SD メモリカード用命令によるファイル操作に不整合がある		ファイルオープン命令で指定されるオープンモードを、ファイル操作に合ったモードになるように修正してください		ファイルオープン命令で指定されるオープンモードは、その後のファイル操作に合ったモードになるようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	オフセット範囲外			**イベントコード**	54011407Hex	
内容	命令で指定したオフセットで指定されるアドレスにアクセスできません					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	命令	**検出タイミング**	命令実行時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	−	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当命令を仕様どおりに終了。ユニットの動作への影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	ファイルサイズを超えてアクセスしようとした		該当命令で指定されるオフセットを小さくしてください		ファイルフォーマットの識別情報などをファイル内に含めておき、そのチェックをして適切にファイルシークするプログラムに変更してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	空ディレクトリ以外			**イベントコード**	54011408Hex	
内容	ディレクトリ削除命令を実行、またはディレクトリの名称を変更しようとしましたが、ディレクトリの中身が空ではありません					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	命令	**検出タイミング**	命令実行時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	−	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当命令を仕様どおりに終了。ユニットの動作への影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	ディレクトリ削除命令を実行しようとしたが、ディレクトリの中身が空でない		該当ディレクトリ内のファイルをすべて削除してください		ディレクトリを削除する命令を使用する場合、またはディレクトリの名称を変更する場合は、事前にディレクトリの中身を確認しておいてください	
	ディレクトリの名称を変更しようとしたが、ディレクトリの中にディレクトリが存在する		該当ディレクトリ内のディレクトリをすべて削除してください			
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	同一ファイル名あり			イベントコード	54011409Hex	
内容	命令で指定されたファイルと同一名のファイルが存在するため、命令を実行できませんでした					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了。ユニットの動作への影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令で指定された作成ファイルと同一名のファイルがすでに存在している		該当命令で指定されるファイル名がすでに存在するファイル名と重複しないように修正してください。または、あらかじめ該当ファイルを削除してください		ファイルを作成する命令を使用する場合は、命令で指定されるファイル名がすでに存在するファイル名と重複しないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	• 異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります • ファイルを削除する場合は、必要なファイルでないことを確認してから削除してください					

イベント名	指定ファイル書込禁止			イベントコード	5401140AHex	
内容	命令実行時に、ライトプロテクトされているファイルまたはディレクトリへ書込を行おうとしました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了。ユニットの動作への影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令で指定された書込ファイルまたはディレクトリにライトプロテクトがかかっている		該当命令で指定している書込ファイルのライトプロテクトを解除してください。または、書込ファイル名を変更してください		書込ファイルにはライトプロテクトをかけないでください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	• 異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります • ファイルのライトプロテクトを解除する場合は、そのファイルが上書しても良いファイルであることを確認してください					

イベント名	ファイルオープン最大数超過			**イベントコード**	5401140BHex	
内容	命令実行中のファイルオープン時に、オープンしているファイル数が最大数を超えました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	命令	**検出タイミング**	命令実行時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	−	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当命令を仕様どおりに終了。ユニットの動作への影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	命令実行中のファイルオープン時に、オープンしているファイル数が最大数を超えた		同時にオープンするファイル数を減らすようにプログラムを修正してください		使用するファイル数を少なくしてください。または、同時にオープンするファイル数が多くなりすぎないように、オープンが不要になったファイルはクローズするようなプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	指定ディレクトリ不正			**イベントコード**	5401140CHex	
内容	命令で指定されたディレクトリが存在しません					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	命令	**検出タイミング**	命令実行時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	−	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当命令を仕様どおりに終了。ユニットの動作への影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	命令で指定されたディレクトリが存在しない		該当命令で指定されるディレクトリが存在するディレクトリになるように修正してください。または、該当ディレクトリを事前に作成してください		ディレクトリを参照する命令を使用する場合は、命令で指定されるディレクトリは、存在しているディレクトリになるようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	ファイル・ディレクトリ名最大長超過			イベントコード	5401140DHex	
内容	命令で指定されたファイル名またはディレクトリ名が長すぎます					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了。ユニットの動作への影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令で指定された作成ファイル名または作成ディレクトリ名が長すぎる		該当命令で指定されるファイル名またはディレクトリ名が FAT16 / FAT32 の制限以内になるようにプログラムを修正してください		指定されるファイル名またはディレクトリ名が FAT16 / FAT32 の制限以内になるようにプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	SD メモリカードアクセス失敗			イベントコード	5401140EHex	
内容	SD メモリカードのアクセスに失敗しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了。ユニットの動作への影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	SD メモリカードが壊れている		SD メモリカードを交換してください		なし	
	SD メモリカードスロットが壊れている		上記の処置を行っても本異常が発生する場合は、CPU ユニットを交換してください		なし	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	バックアップ機能既実行			イベントコード	5401140FHex *1	
内容	他のバックアップ機能が動作しています					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了。ユニットの動作への影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	他のバックアップ機能が動作している		他のバックアップ機能の実行が完了してから、再度、命令を実行してください		他のバックアップ機能の実行中に、バックアップを行わないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.08 以降で発生するエラーコード（16#140F）です。

イベント名	バックアップ実行不可			イベントコード	54011410Hex *1	
内容	他の機能が実行中のためバックアップが実行できませんでした					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了。ユニットの動作への影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	オンラインエディットの実行中に命令を実行した		オンラインエディットが完了してから、再度、命令を実行してください		オンラインエディットの実行中に、バックアップを行わないようにしてください	
	カムテーブル保存命令の実行中に命令を実行した		カムテーブル保存命令が完了してから、再度、命令を実行してください		カムテーブル保存命令の実行中に、バックアップを行わないようにしてください	
	CPU ユニット名称更新の実行中に命令を実行した		CPU ユニット名称更新が完了してから、再度、命令を実行してください		CPU ユニット名称更新の実行中に、バックアップを行わないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.08 以降で発生するエラーコード（16#1410）です。

イベント名	ユニット／スレーブバックアップ失敗			イベントコード	54011411Hex *1	
内容	ユニット／スレーブのバックアップに失敗しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了。ユニットの動作への影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	ユニット／スレーブのバックアップに失敗した		「バックアップ実行失敗（CJ ユニット）」（102D0000Hex）または「バックアップ実行失敗（EtherCAT スレーブ）」（102F0000Hex）の処置対策を参照してください		「バックアップ実行失敗（CJ ユニット）」（102D0000Hex）または「バックアップ実行失敗（EtherCAT スレーブ）」（102F0000Hex）の再発防止を参照してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.08 以降で発生するエラーコード（16#1411）です。

イベント名	EtherCAT 通信エラー			イベントコード	54011800Hex	
内容	命令実行時に、EtherCAT ネットワークへのアクセスに失敗しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	EtherCAT ネットワークが実行可能状態でない		EtherCAT マスタ状態のステータスで EtherCAT ネットワークの動作状態を確認し、必要な処置を行って要因を取り除いてください		異常の内容に依存	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	EtherCAT スレーブ不在			イベントコード	54011801Hex	
内容	命令実行時に、対象スレーブへのアクセスに失敗しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	対象スレーブが存在しない		存在するノードアドレスを指定してください		対象スレーブには、存在するノードアドレスを指定してください	
	対象スレーブが実行可能状態ではない		対象スレーブのステータスを確認し、対象スレーブを実行可能状態にしてください		対象スレーブは実行可能状態にしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	EtherCAT タイムアウト			イベントコード	54011802Hex	
内容	命令実行時に、EtherCAT スレーブへのアクセスがタイムアウトしました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	対象スレーブとの通信がタイムアウトした		対象スレーブの動作状態を確認し、必要な処置を行って要因を取り除いてください		異常の内容に依存	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	受信バッファオーバー			イベントコード	54011803Hex	
内容	命令実行時に、EtherCAT スレーブからの受信データが受信バッファをオーバーしました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了。スレーブからのデータ受信不可		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	スレーブからの受信データサイズが受信バッファをオーバーした		受信バッファのサイズをスレーブからの受信データサイズ以上に設定してください		受信バッファのサイズはスレーブからの受信データサイズ以上に設定してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	SDO アボートエラー			イベントコード	54011804Hex	
内容	命令実行時に、EtherCAT スレーブから SDO アボートエラーを受信しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	スレーブ仕様に依存		スレーブのマニュアルを参照して処置を行ってください		スレーブのマニュアルを参照して防止策を行ってください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	パケットモニタ保存中			イベントコード	54011805Hex	
内容	EtherCAT のパケットモニタファイル保存中にパケットモニタ操作関連命令が実行されました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	EtherCAT のパケットモニタの保存中にパケットモニタ操作関連命令が実行された		パケットモニタ保存完了後にパケットモニタ操作関連命令を実行してください。パケットモニタの保存が完了したかどうかは、パケットモニタ保存中ステータスで確認することができます		パケットモニタ操作関連命令はパケットモニタ保存完了後に実行してください。パケットモニタの保存が完了したかどうかは、パケットモニタ保存中ステータスで確認することができます	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	パケットモニタ機能未開始			イベントコード	54011806Hex	
内容	EtherCAT のパケットモニタ停止中にパケットモニタ停止命令が実行されました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	EtherCAT のパケットモニタ機能の停止中にパケットモニタ停止命令が実行された		パケットモニタ機能の開始後にパケットモニタ停止命令を実行してください。パケットモニタ機能動作中かどうかは、パケットモニタ機能動作ステータスで確認することができます		パケットモニタ停止命令はパケットモニタ機能の開始後に実行してください。パケットモニタ機能動作中かどうかは、パケットモニタ機能動作ステータスで確認することができます	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	パケットモニタ機能動作中			**イベントコード**	54011807Hex	
内容	EtherCAT のパケットモニタ動作中にパケットモニタ開始命令が実行されました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	命令	**検出タイミング**	命令実行時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	−	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	EtherCAT のパケットモニタ機能の動作中に再度パケットモニタ開始命令が実行された		パケットモニタ機能の停止後にパケットモニタ開始命令を実行してください。パケットモニタ機能停止中かどうかは、パケットモニタ機能動作ステータスで確認することができます		パケットモニタ開始命令はパケットモニタ機能の停止後に実行してください。パケットモニタ機能停止中かどうかは、パケットモニタ機能動作ステータスで確認することができます	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	通信リソースオーバー			**イベントコード**	54011808Hex	
内容	同時に 32 個を超える EtherCAT 通信命令／IO-Link 通信命令が実行されました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	命令	**検出タイミング**	命令実行時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当命令を仕様どおりに終了		

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	－	－

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	同時に 32 個を超える EtherCAT 通信命令／IO-Link 通信命令が実行された。EtherCAT 通信命令／IO-Link 通信命令は以下のとおり • EC_CoESDOWrite 命令 • EC_CoESDORead 命令 • EC_ConnectSlave 命令 • EC_DisconnectSlave 命令 • EC_ChangeEnableSetting 命令 • EC_StartMon 命令 • EC_SaveMon 命令 • EC_StopMon 命令 • EC_CopyMon 命令 • IOL_ReadObj 命令 • IOL_WriteObj 命令 • EC_GetMasterStatistics 命令 • EC_ClearMasterStatistics 命令 • EC_GetSlaveStatistics 命令 • EC_ClearSlaveStatistics 命令	同時に実行する EtherCAT 通信命令／IO-Link 通信命令が 32 個以下になるようにプログラムを修正してください	同時に実行する EtherCAT 通信命令／IO-Link 通信命令が 32 個以下になるようにプログラムを作成してください

付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります

イベント名	パケットモニタ機能非サポート			**イベントコード**	54011809Hex *1	
内容	パケットモニタ機能は、使用できません					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	命令	**検出タイミング**	命令実行時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	−	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	パケットモニタ機能を搭載していない CPU ユニットに対して、パケットモニタ機能の命令が実行された		EC_StartMon,EC_SaveMon,EC_StopMon,EC_CopyMon 命令を実行しないでください。 パケットモニタを使用する場合は、パケットモニタ機能を搭載した CPU ユニットの機種を使用してください		パケットモニタ機能を搭載していない CPU ユニットの機種に対して、パケットモニタ機能の命令を実行しないでください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.01 以降で発生するエラーコード（16#1809）です。

イベント名	対象スレーブへの命令実行不可			**イベントコード**	5401180AHex *1	
内容	命令が実行できない状態のスレーブに対して命令を実行しました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	命令	**検出タイミング**	命令実行時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当命令を仕様どおりに終了		

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	－	－

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	無効状態のスレーブに対して、EC_DisconnectSlave 命令または EC_ConnectSlave 命令を実行した	無効状態のスレーブに対して、EC_DisconnectSlave 命令および EC_ConnectSlave 命令を実行しないようにプログラムを修正してください	無効状態のスレーブに対して、EC_DisconnectSlave 命令および EC_ConnectSlave 命令を実行しないようにプログラムを作成してください
	離脱状態のスレーブに対して、EC_ChangeEnableSetting 命令を実行した	離脱状態のスレーブに対して、EC_ChangeEnableSetting 命令を実行しないようにプログラムを修正してください	離脱状態のスレーブに対して、EC_ChangeEnableSetting 命令を実行しないようにプログラムを作成してください
	リングトポロジ上のスレーブに対して、EC_DisconnectSlave 命令または EC_ChangeEnableSetting 命令を実行した	リングトポロジ上のスレーブに対して、EC_DisconnectSlave 命令および EC_ChangeEnableSetting 命令を実行しないようにプログラムを修正してください	リングトポロジ上のスレーブに対して、EC_DisconnectSlave 命令および EC_ChangeEnableSetting 命令を実行しないようにプログラムを作成してください

付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.40 以降で発生するエラーコード（16#180A）です。

イベント名	診断・統計情報ログ機能実行中			イベントコード	5401180DHex*1	
内容	診断・統計情報ログ機能が動作中のため、マスタ／スレーブ診断・統計情報命令が実行できません					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_EC_StatisticsLogBusy		BOOL		診断統計情報ログ実行状態フラグ	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	診断・統計情報ログ機能が動作中に、マスタ診断・統計情報命令（EC_GetMasterStatistics,EC_ClearMasterStatistics）、またはスレーブ診断・統計情報命令（EC_GetSlaveStatistics,EC_ClearSlaveStatistics）が実行された		診断・統計情報ログ機能が実行されているときは、マスタ診断・統計情報命令、またはスレーブ診断・統計情報命令を実行しないようにプログラムを修正してください		システム定義変数「_EC_StatisticsLogBusy」がFALSE の状態のときに、マスタ診断・統計情報命令、またはスレーブ診断・統計情報命令を実行するようにプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.64 以降かつ設定ユニットバージョン Ver.1.64 以降で発生するイベントです。

イベント名	マスタ診断・統計情報命令多重起動不可			イベントコード	5401180EHex*1	
内容	同時に複数のマスタ診断・統計情報命令を実行したため、マスタ診断・統計情報命令が実行できません					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	マスタ診断・統計情報命令（EC_GetMasterStatistics,EC_ClearMasterStatistics）を実行中に、同時にマスタ診断・統計情報命令を実行した		マスタ診断・統計情報命令を実行中に、同時にマスタ診断・統計情報命令を実行しないようにプログラムを修正してください		マスタ診断・統計情報命令を実行中に、同時にマスタ診断・統計情報命令を実行しないようにプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.64 以降かつ設定ユニットバージョン Ver.1.64 以降で発生するイベントです。

イベント名	スレーブ診断・統計情報命令多重起動不可		イベントコード	5401180FHex*1		
内容	同時に複数のスレーブ診断・統計情報命令を実行したため、スレーブ診断・統計情報命令が実行できません					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	スレーブ診断・統計情報命令（EC_GetSlaveStatistics,EC_ClearSlaveStatistics）を実行中に、同時にスレーブ診断・統計情報命令を実行した		スレーブ診断・統計情報命令を実行中に、同時にスレーブ診断・統計情報命令を実行しないようにプログラムを修正してください		スレーブ診断・統計情報命令を実行中に、同時にスレーブ診断・統計情報命令を実行しないようにプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.64 以降かつ設定ユニットバージョン Ver.1.64 以降で発生するイベントです。

イベント名	Explicit 異常		イベントコード	54011C00Hex		
内容	CIP 通信命令にて Explicit メッセージでエラーレスポンスコードが返ってきました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	異常の内容に依存		該当命令の出力変数「ErrorIDEx」の値を確認し、本マニュアルの CIP メッセージ異常コードの説明を参照してください		異常の内容に依存します。本マニュアルの CIP メッセージ異常コードの説明を参照してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	ルートパス不正			イベントコード	54011C01Hex	
内容	CIP 通信命令で指定したルートパスのフォーマットが不正です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	CIP 通信命令で指定したルートパスのフォーマットが不正		該当命令で指定するルートパスが正しくなるようにプログラムを修正してください		命令で指定するルートパスが正しくなるようにプログラムを作成してください	
	CIP 通信命令で指定したホスト名のアドレス解決に失敗した		「アドレス解決失敗」(54012002Hex)の処置対策を参照してください		「アドレス解決失敗」(54012002Hex)の再発防止を参照してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	CIP ハンドル不正			イベントコード	54011C02Hex	
内容	CIP 通信命令で指定したハンドルが不正です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	CIP 通信命令で指定したハンドルが不正		該当命令で指定するハンドルが CIPOpen 命令で取得したハンドルになるようにプログラムを修正してください		命令で指定するハンドルが CIPOpen 命令で取得したハンドルになるようにプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	CIP 通信リソースオーバー			**イベントコード**	54011C03Hex	
内容	同時に実行できる CIP 通信命令のリソースを超えて命令が実行されました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	命令	**検出タイミング**	命令実行時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	同時に 32 個を超える CIP 通信命令が実行された		同時に実行する CIP 通信命令が 32 個以下になるようにプログラムを修正してください		同時に実行する CIP 通信命令が 32 個以下になるようにプログラムを作成してください	
	同時に 32 個を超えるハンドルを使用しようとした		同時に使用するハンドルが 32 個以下になるようにプログラムを修正してください		同時に使用するハンドルが 32 個以下になるようにプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	CIP タイムアウト			**イベントコード**	54011C04Hex	
内容	CIP 通信命令の実行中にタイムアウトが発生しました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	命令	**検出タイミング**	命令実行時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	―	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当命令を仕様どおりに終了		

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	―	―
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	指定した IP アドレスのデバイスが存在しない	指定する IP アドレスと相手デバイスの IP アドレスが一致するように修正してください	指定する IP アドレスと送信先のデバイスの IP アドレスが一致するようにしてください
	指定したハンドルの CIP コネクションがタイムアウトしたため閉じられている	コネクションのタイムアウト時間以内に該当命令を実行してください。またはコネクションのタイムアウト時間を長くしてください	コネクションのタイムアウト時間以内に該当命令を実行するようにしてください
	相手デバイスの電源 OFF	相手デバイスの状態を確認し、正常に起動してください	相手デバイスの状態を確認し、正常に起動してください
	相手デバイスの通信停止		
	相手デバイスの CIP メッセージ通信停止	正常に CIP メッセージ通信を開始させてください	正常に CIP メッセージ通信を開始させて、該当命令を実行するようにしてください
	EtherNet/IP の Ethernet ケーブルのコネクタのはずれ	コネクタが正しく嵌合しているかを確認し、再接続してください	コネクタを確実に接続してください
	EtherNet/IP の Ethernet ケーブルの断線	Ethernet ケーブルを交換してください	なし
	相手デバイスおよび経路上の機器の Firewall 機能、Packet Filter 機能で、該当命令のパケットが許可されていない	相手デバイスおよび経路上の機器の Firewall 機能、Packet Filter 機能で、該当命令のパケットを許可してください	相手デバイスおよび経路上の機器の Firewall 機能、Packet Filter 機能で、該当命令のパケットを許可して、該当命令を実行するようにしてください
	ノイズ	ノイズが多い場合はノイズ対策を行ってください	ノイズが多い場合はノイズ対策を行ってください

付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります

イベント名	Class3 コネクション確立失敗			イベントコード	54011C05Hex *1	
内容	CIP 通信命令で、Class3 コネクションの確立に失敗しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	Class3（Large_Forward_Open）に対応していないデバイスに対して、CIPOepn 命令を実行した		Class3（Large_Forward_Open）に対応していないデバイスに対しては、CIPOpenWithDataSize 命令を使用し、データサイズが 509 バイト以下になるようにプログラムを修正してください		Class3（Large_Forward_Open）に対応していないデバイスに対しては、CIPOpenWithDataSize 命令を使用し、データサイズが 509 バイト以下になるようにプログラムを作成してください	
	Class3（Large_Forward_Open）に対応していないデバイスに対して、データサイズを 510 バイト以上に設定して CIPOpenWithDataSize 命令を実行した		Class3（Large_Forward_Open）に対応していないデバイスに対しては、CIPOpenWithDataSize 命令のデータサイズが 509 バイト以下になるようにプログラムを修正してください		Class3（Large_Forward_Open）に対応していないデバイスに対しては、CIPOpenWithDataSize 命令のデータサイズが 509 バイト以下になるようにプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.06 以降で発生するエラーコード（16#1C05）です。

イベント名	CIP 通信データサイズオーバー			イベントコード	54011C06Hex *1	
内容	CIP 通信命令で、送信可能なデータサイズを超える Class3 Explicit メッセージを送信しようとしました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	CIPRead 命令、CIPWrite 命令、CIPSend 命令の入力変数で設定したデータサイズが、CIPOpenWithDataSize 命令で設定したデータサイズを超えた		該当命令のデータサイズが CIPOpenWithDataSize 命令で設定したデータサイズ以下となるように、プログラムを修正してください。 または、該当命令のデータサイズ以上となるように、CIPOpenWithDataSize 命令のデータサイズを設定して、コネクションを確立してください		該当命令のデータサイズが、CIPOpenWithDataSize 命令で設定したデータサイズ以下となるように、プログラムを作成してください。 または、該当命令のデータサイズ以上となるように、CIPOpenWithDataSize 命令のデータサイズを設定して、コネクションを確立してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.06 以降で発生するエラーコード（16#1C06）です。

イベント名	自 IP アドレス設定エラー			イベントコード	54012000Hex	
内容	自 IP アドレスの設定エラーが発生している状態で、命令を実行しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	自 IP アドレスの設定エラーが発生している状態で、命令を実行した		該当命令実行時に「TCP/IP 基本設定エラー」（IP アドレスの設定エラー）が発生しています。「TCP/IP 基本設定エラー」の処置対策を行い、異常を取り除いてください		「TCP/IP 基本設定異常」（IP アドレスの設定エラー）が発生しないように正しく IP アドレスの設定を行ってください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	TCP/UDP ポート使用不可			イベントコード	54012001Hex	
内容	命令実行時に、UDP または、TCP ポートがすでに使用されています					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	UDP または、TCP ポートがすでに使用されている		該当命令で指定しているポート番号を未使用のポート番号になるようにプログラムを修正してください		使用されているポート番号を命令で指定しないようにプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	アドレス解決失敗			**イベントコード**	54012002Hex	
内容	命令でホスト名指定した相手ノードのアドレス解決に失敗しました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	命令	**検出タイミング**	命令実行時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	該当命令で指定したホスト名が間違っている		該当命令で指定するホスト名を正しいホスト名に修正してください		命令で正しいホスト名を指定していることを確認してください	
	コントローラの hosts 設定／DNS 設定が間違っている		コントローラの hosts 設定／DNS 設定を修正してください		コントローラの hosts 設定／DNS 設定に間違いがないことを確認してください	
	DNS サーバの設定が間違っている		DNS サーバの設定を修正してください		DNS サーバの設定に間違いがないことを確認してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	ソケット状態異常			イベントコード	54012003Hex	
内容	ソケットサービス命令実行時の状態が適切ではありません					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	• SktUDPCreate 命令の場合 入力変数「SrcUdpPort」で指定した UDP ポートが下記のいずれか • すでにオープン済み • クローズ処理中 • SktUDPRcv 命令の場合 • 指定したソケットが受信処理中 • 指定したソケットがクローズされた • SktUDPSend 命令の場合 • 指定したソケットが送信処理中 • 指定したソケットがクローズされた • SktTCPAccept 命令の場合 指定した TCP ポートが下記のいずれか • オープン処理中 • クローズ処理中 • 同一の IP アドレス、TCP ポートから、本命令がすでにコネクション確立している • SktTCPConnect 命令の場合 • 入力変数「SrcTcpPort」で指定した TCP ポートがすでにオープン済み • 入力変数「DstAdr」で指定した相手ノードが存在しない • 入力変数「DstAdr」、「DstTcpPort」で指定した相手ノードがコネクト待ちでない • SktTCPRcv 命令の場合 • 指定したソケットが受信処理中 • 指定したソケットがクローズされた • 指定したソケットハンドルが既にセキュアソケット通信に使用されている		該当命令に対応する本異常の発生要因を取り除いてください		発生要因の状態で命令を実行しないようにしてください	

	• SktTCPSend 命令の場合 • 指定したソケットが送信処理中 • 指定したソケットがクローズされた • 指定したソケットの送信バッファがいっぱいである（接続先が電源 OFF、回線切断等） • 指定したソケットハンドルが既にセキュアソケット通信に使用されている • SktClearBuf の場合 • 指定したソケットハンドルが既にセキュアソケット通信に使用されている • [形 NX102, 形 NX1P2 CPU ユニットバージョン Ver.1.50 以降、および形 NX502 Ver.1.60 以降] SktTLSConnect の場合 • 指定したソケットハンドルが既にセキュアソケット通信に使用されている • [形 NX102, 形 NX502] ModbusTCPCmd の場合 • ソケット処理中の場合 • ソケットが閉じられている場合 • 指定したソケットハンドルが既にセキュアソケット通信に使用されている • [形 NX102, 形 NX502] ModbusTCPRead の場合 • ソケット処理中の場合 • ソケットが閉じられている場合 • 指定したソケットハンドルが既にセキュアソケット通信に使用されている • [形 NX102, 形 NX502] ModbusTCPWrite の場合 • ソケット処理中の場合 • ソケットが閉じられている場合 • 指定したソケットハンドルが既にセキュアソケット通信に使用されている • SktSetOption 命令の場合 • 指定したソケットが既に送受信を開始している • 指定したソケットが対応していないオプションタイプを指定した		
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000		
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります		

イベント名	自 IP アドレス未決定			**イベントコード**	54012004Hex	
内容	ソケットサービス命令実行時に自 IP アドレスが決定されていません					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	命令	**検出タイミング**	命令実行時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	−	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	BOOTP サーバの設定異常		BOOTP サーバの設定に誤りがある場合は設定を修正してください		BOOTP サーバの設定に誤りがないことを確認してください	
	BOOTP サーバが不在		BOOTP サーバが正常にネットワークに接続されているか、正常に起動しているかを確認し、BOOTP サーバに接続できるようにしてください		BOOTP サーバが正常にネットワークに接続され、正常に起動していることを確認してください	
	起動直後で自 IP アドレスが未決定		自 IP アドレスが決定されるのを待ってからソケットサービス命令を実行してください		自 IP アドレスが決定されるのを待ってからソケットサービス命令を実行してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	ソケットタイムアウト			**イベントコード**	54012006Hex	
内容	ソケットサービス命令でタイムアウトが発生しました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	命令	**検出タイミング**	命令実行時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当命令を仕様どおりに終了		

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	－	－

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	SktTCPAccept 命令：ユーザの指定したタイムアウト時間以内に相手ノードからのコネクション要求がなかった	該当命令を実行してからタイムアウトまでの間に、相手ノードからコネクション要求が実施されるようにシステムやプログラムを修正してください。またはタイムアウト時間を大きくしてください	命令を実行してからタイムアウトまでの間に、相手ノードからコネクション要求が実施されるようにシステムやプログラムを作成してください
		コントローラの Packet Filter 設定に相手ノードからのパケットを許可してください*1	コントローラの Packet Filter 設定に相手ノードからのパケットを許可して、命令を実行するようにしてください
	SktTCPRcv 命令、SktUDPRcv 命令：ユーザの指定したタイムアウト時間以内に相手ノードからのデータが受信できなかった	該当命令を実行してからタイムアウトまでの間に、相手ノードからデータ送信が実施されるようにシステムやプログラムを修正してください。またはタイムアウト時間を大きくしてください	命令を実行してからタイムアウトまでの間に、相手ノードからデータ送信が実施されるようにシステムやプログラムを作成してください
		コントローラの Packet Filter 設定に相手ノードからのパケットを許可してください*1	コントローラの Packet Filter 設定に相手ノードからのパケットを許可して、命令を実行するようにしてください

付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります

*1.　以下の CPU ユニットでの処置対策です。
- 形 NJ シリーズ、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニット：Ver.1.49 以降
- 形 NX701 CPU ユニット：Ver.1.29 以降

イベント名	ソケットハンドル不正			イベントコード	54012007Hex	
内容	ソケットサービス命令で指定したハンドルが不正です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	ソケットサービス命令で指定したハンドルが不正		該当命令で指定するソケットハンドルが以下のいずれかの命令で取得されたハンドルになるようにプログラムを修正してください • SktUDPCreate 命令 • SktTCPConnect 命令 • SktTCPAccept 命令 ただし、セキュアソケットサービス命令では、以下の命令で取得されたハンドルを指定するようにプログラムを修正してください • SktTCPConnect 命令		該当命令で指定するソケットハンドルが以下のいずれかの命令で取得されたハンドルになるようにプログラムを作成してください • SktUDPCreate 命令 • SktTCPConnect 命令 • SktTCPAccept 命令 ただし、セキュアソケットサービス命令では、以下の命令で取得されたハンドルを指定するようにプログラムを修正してください • SktTCPConnect 命令	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	ソケット通信リソースオーバー			イベントコード	54012008Hex	
内容	同時に実行できるソケットサービス命令のリソースを超えて命令が実行されました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	同時に 32 個（形 NX102 は 64 個）を超えるソケットサービス命令が実行された		同時に実行するソケットサービス命令が 32 個（形 NX102 は 64 個）以下になるようにプログラムを修正してください		同時に実行するソケットサービス命令が 32 個（形 NX102 は 64 個）以下になるようにプログラムを作成してください	
	同時に 30 個（形 NX102 では 60 個、CPU ユニット Ver.1.02 以前では 16 個）を超えるソケットハンドルを使用しようとした		同時に使用するソケットハンドルが 30 個（形 NX102 では 60 個、CPU ユニット Ver.1.02 以前では 16 個）以下になるようにプログラムを修正してください		同時に使用するソケットハンドルが 30 個（形 NX102 では 60 個、CPU ユニット Ver.1.02 以前では 16 個）以下になるようにプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	TLS セッション名不正			イベントコード	5401200AHex*1	
内容	指定した TLS セッション名がセキュアソケット設定にありません					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	セキュアソケット設定に指定された TLS セッション名が設定されていない		セキュアソケット設定で設定した TLS セッション名を指定するようにプログラムを修正してください		セキュアソケット設定で設定した TLS セッション名を指定するようにプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1. 形 NX502 CPU ユニットバージョン Ver.1.60 以降、形 NX102-□□00、形 NX1P2-□□□□□□の CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.46 以降、形 NX102-□□20 の CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.37 以降で発生するエラーコード（16#200A）です。

イベント名	証明書アクセス失敗			イベントコード	5401200BHex*1	
内容	証明書およびセキュアソケット設定が転送されていないか、証明書にパスワードが設定されているため、証明書にアクセスできませんでした					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	コントローラにクライアント証明書が転送されていない		セキュアソケット設定コマンドを使用してクライアント証明書をコントローラへ転送してください		セキュアソケット設定コマンドを使用してクライアント証明書をコントローラへ転送してから命令を実行してください	
	転送されたクライアント証明書にパスワードが設定されている		セキュアソケット設定コマンドを使用してパスワードが設定されていないクライアント証明書をコントローラへ再送してください		パスワードが設定されていないクライアント証明書を使用してください	
	セキュアソケット設定が存在しない、もしくはセキュアソケット設定ファイルの内容が誤っている		セキュアソケット設定コマンドを使用してセキュアソケット設定を作成または修正し、コントローラへ転送してください		セキュアソケット設定コマンドを使用してセキュアソケット設定を作成し、 コントローラへ転送してから命令を実行してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1. 形 NX502 CPU ユニットバージョン Ver.1.60 以降、形 NX102-□□00、形 NX1P2-□□□□□□の CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.46 以降、形 NX102-□□20 の CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.37 以降で発生するエラーコード（16#200B）です。

イベント名	TLS セッション確立エラー			イベントコード	5401200CHex*1	
内容	TLS セッションの確立に失敗しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	クライアント証明書の内容が不正		セキュアソケット設定コマンドを使用して、クライアント証明書をコントローラへ再送してください		クライアント証明書に誤りがないことを確認してください	
	クライアント秘密鍵の内容が不正		セキュアソケット設定コマンドを使用して、クライアント秘密鍵をコントローラへ再送してください		クライアント秘密鍵に誤りがないこと確認してください	
	セキュアソケット通信の確立に失敗しました		セキュアソケット通信ログの出力を有効にして、ログの内容を確認し、対策を実施してください		セキュアソケット通信ログの出力を有効にして、セキュア通信が正常であることを確認してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1. 形 NX502 CPU ユニットバージョン Ver.1.60 以降、形 NX102-□□00、形 NX1P2-□□□□□□の CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.46 以降、形 NX102-□□20 の CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.37 以降で発生するエラーコード（16#200C）です。

イベント名	TLS セッションハンドル不正			イベントコード	5401200EHex*1	
内容	セキュアソケットサービス命令で指定した TLS セッションハンドルが不正です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	セキュアソケットサービス命令で指定した TLS セッションハンドルが不正		該当命令で指定するソケットハンドルが、SktTLSConnect 命令で取得されたソケットハンドルになるようにプログラムを修正してください		該当命令で指定するソケットハンドルが、SktTLSConnect 命令で取得されたソケットハンドルになるようにプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1. 形 NX502 CPU ユニットバージョン Ver.1.60 以降、形 NX102-□□00、形 NX1P2-□□□□□□の CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.46 以降、形 NX102-□□20 の CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.37 以降で発生するエラーコード（16#200E）です。

イベント名	TLS のエラー			イベントコード	5401200FHex *1	
内容	セキュアソケット通信中にエラーが発生しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	セキュアソケット通信中にエラーが発生した		セキュアソケット通信ログの出力を有効にして、ログの内容を確認し、対策を実行してください		セキュアソケット通信ログの出力を有効にして、セキュア通信が正常であることを確認してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1. 形 NX502 CPU ユニットバージョン Ver.1.60 以降、形 NX102-□□00、形 NX1P2-□□□□□□の CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.46 以降、形 NX102-□□20 の CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.37 以降で発生するエラーコード（16#200F）です。

<table>
<tr><td>イベント名</td><td colspan="2">実行権限なし</td><td>イベントコード</td><td colspan="2">54012400Hex *1</td></tr>
<tr><td>内容</td><td colspan="5">実行が不可能な状態で EtherNet/IP ポートの設定を変更する命令を実行しました</td></tr>
<tr><td>発生源</td><td>PLC 機能モジュール</td><td>発生源詳細</td><td>命令</td><td>検出タイミング</td><td>命令実行時</td></tr>
<tr><td>異常の属性</td><td>重要度</td><td>監視情報</td><td>復旧方法</td><td>－</td><td>ログカテゴリ</td><td>システム</td></tr>
<tr><td>発生の影響</td><td>ユーザプログラム</td><td>継続</td><td>動作</td><td colspan="3">影響なし</td></tr>
<tr><td>システム定義変数</td><td>変数名</td><td colspan="2">データ型</td><td colspan="2">名称</td></tr>
<tr><td></td><td>なし</td><td colspan="2">－</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>発生要因とその処置</td><td>発生要因（推定原因）</td><td colspan="2">処置対策</td><td colspan="2">再発防止</td></tr>
<tr><td></td><td>EtherNet/IP ポート、または Ethernet ポートのリスタート中に、EtherNet/IP ポート、Ethernet ポート、または CJ シリーズ EtherNet/IP ユニットの設定を変更する命令を実行した</td><td colspan="2" rowspan="4">EtherNet/IP ポート、Ethernet ポート、CJ シリーズ EtherNet/IP ユニットのリスタートや設定変更が終了してから設定を変更する命令を実行してください</td><td colspan="2" rowspan="4">EtherNet/IP ポート、Ethernet ポート、CJ シリーズ EtherNet/IP ユニットのリスタート、設定変更が行われていないときに設定を変更する命令を実行してください</td></tr>
<tr><td>CJ シリーズ EtherNet/IP ユニットのリスタート中に、そのユニットの設定を変更する命令を実行した</td></tr>
<tr><td>命令または CIP メッセージによる EtherNet/IP ポート、または Ethernet ポートの設定変更中に、EtherNet/IP ポート、Ethernet ポート、または CJ シリーズ EtherNet/IP ユニットの設定を変更する命令を実行した</td></tr>
<tr><td>命令または CIP メッセージによる CJ シリーズ EtherNet/IP ユニットの設定変更中に、そのユニットの設定を変更する命令を実行した</td></tr>
<tr><td></td><td>命令で指定したユニット（または、号機番号）が EtherNet/IP ポート、または Ethernet ポート、CJ シリーズ EtherNet/IP ユニットでない</td><td colspan="2">EtherNet/IP ポート、Ethernet ポート、または CJ シリーズ EtherNet/IP ユニットの号機番号を命令で指定するようにしてください。ユニット構成が間違っている場合は、ユニット構成を正しくしてください</td><td colspan="2">EtherNet/IP ポート、Ethernet ポート、または CJ シリーズ EtherNet/IP ユニットの号機番号を命令で指定するようにしてください</td></tr>
<tr><td>付属情報</td><td colspan="5">付属情報 1：異常の発生箇所
付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号
付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし
付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000</td></tr>
<tr><td>注意点／備考</td><td colspan="5">異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります</td></tr>
</table>

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.02 以降で発生するエラーコード（16#2400）です。

イベント名	設定反映失敗			イベントコード	54012401Hex *1	
内容	CJ シリーズ EtherNet/IP ユニットで変更された設定が反映できませんでした					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因その処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	CJ シリーズ EtherNet/IP ユニットの設定を変更する命令の実行中に、そのユニットまたは内蔵 EtherNet/IP ポートがリスタートした		CJ シリーズ EtherNet/IP ユニット、内蔵 EtherNet/IP ポートのリスタートが終了してから、設定を変更する命令を再度実行してください		CJ シリーズ EtherNet/IP ユニットの設定を変更する命令の実行中に、そのユニットや内蔵 EtherNet/IP ポートをリスタートしないでください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.02 以降で発生するエラーコード（16#2401）です。

イベント名	命令同時実行数オーバー			イベントコード	54012402Hex *1	
内容	コントローラ通信設定の命令が、同時に実行可能な数を超えて実行されました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	同時に 2 つ以上のコントローラ通信設定の命令が実行された		同時に実行するコントローラ通信設定の命令が 1 つになるようにプログラムを修正してください		同時に実行するコントローラ通信設定の命令が 1 つになるようにプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.02 以降で発生するエラーコード（16#2402）です。

イベント名	FTP クライアント実行数オーバー			イベントコード	54012403Hex *1	
内容	FTP クライアント通信命令が、同時に実行可能な数を超えて実行されました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	同時に 4 つ以上の FTP クライアント通信命令が実行された		同時に実行する FTP クライアント通信命令が 3 つ以下になるようにプログラムを修正してください		同時に実行する FTP クライアント通信命令が 3 つ以下になるようにプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.08 以降で発生するエラーコード（16#2403）です。

イベント名	ファイル数制限オーバー			イベントコード	54012404Hex *1	
内容	FTP クライアント通信命令で、ワイルドカード指定の対象となるファイルが 1000 個を超えています					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	FTP クライアント通信命令で、ファイル名をワイルドカード指定した場合に、対象となるファイルが 1000 個を超えている		FTP クライアント通信命令で、ワイルドカードの対象となるファイル数が 1000 個以下になるようにプログラムを修正してください		FTP クライアント通信命令で、ワイルドカードの対象となるファイル数が 1000 個以下になるようにプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.08 以降で発生するエラーコード（16#2404）です。

イベント名	指定ディレクトリ不正（FTP）			イベントコード	54012405Hex *1	
内容	FTP クライアント通信命令で、指定したディレクトリがコントローラに存在しないか、または不正なパスを指定しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	FTP クライアント通信命令で、指定したディレクトリがコントローラに存在しないか、または不正なパスを指定した		FTP クライアント通信命令で、SD メモリカードに存在するディレクトリを指定するようにプログラムを修正してください		FTP クライアント通信命令で、SD メモリカードに存在するディレクトリを指定するようにプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.08 以降で発生するエラーコード（16#2405）です。

イベント名	FTP サーバ接続失敗			イベントコード	54012406Hex *1	
内容	FTP クライアント通信命令で、指定した接続先 FTP サーバが、ネットワーク上に存在しないか FTP サービスを停止しています					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	FTP クライアント通信命令で、指定した接続先 FTP サーバがネットワーク上に存在しない		FTP クライアント通信命令で、ネットワーク上に存在する FTP サーバを指定するようにプログラムを修正してください		FTP クライアント通信命令で、ネットワーク上に存在する FTP サーバを指定するようにプログラムを作成してください	
	FTP クライアント通信命令で、指定した接続先 FTP サーバが FTP サービスを停止している		指定した接続先 FTP サーバの FTP サービスを起動し、再度、命令を実行してください		指定した接続先 FTP サーバの FTP サービスが停止していないことを確認してから、命令を実行するようにしてください	
	指定した接続先 FTP サーバおよび経路上の機器の Firewall 機能、Packet Filter 機能で、FTP 通信が許可されていない		指定した接続先 FTP サーバおよび経路上の機器の Firewall 機能、Packet Filter 機能で、FTP 通信を許可してください		指定した接続先 FTP サーバおよび経路上の機器の Firewall 機能、Packet Filter 機能で、FTP 通信を許可してから、命令を実行するようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.08 以降で発生するエラーコード（16#2406）です。

イベント名	接続先 FTP サーバ実行失敗			**イベントコード**	54012407Hex *1	
内容	FTP クライアント通信命令で、接続先 FTP サーバからエラーが返ってきました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	命令	**検出タイミング**	命令実行時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	−	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	FTP クライアント通信命令で、接続先 FTP サーバに要求した処理が、接続先 FTP サーバ側で実行に失敗した		接続先 FTP サーバからのレスポンスコードを、該当命令の出力変数「ErrorIDEx」の値で確認し、本マニュアルで該当命令の拡張エラーコード「ErrorIDEx」の説明を参照してください		命令の「ErrorIDEx」の説明をあらかじめ参照してプログラムを作成してください	
	コントローラの Packet Filter 機能が有効の場合に FTP サーバからのパケットが許可されていない*2		コントローラの Packet Filter 設定に FTP サーバからのパケットを許可してください		コントローラの Packet Filter 設定に FTP サーバからのパケットを許可してから、命令を実行するようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.08 以降で発生するエラーコード（16#2407）です。
*2. 以下の CPU ユニットで発生する要因です。
- 形 NJ シリーズ、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニット：Ver.1.49 以降
- 形 NX701 CPU ユニット：Ver.1.29 以降

イベント名	SD メモリカードアクセス失敗（FTP）			イベントコード	54012408Hex *1	
内容	FTP クライアントから SD メモリカードへのアクセスに失敗しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	SD メモリカードが未装着		SD メモリカードを装着し、再度、命令を実行してください		SD メモリカードを装着してください	
	FTP クライアント通信命令の実行中に SD メモリカードが抜き取られた		SD メモリカードを装着し、再度、命令を実行してください		FTP クライアント通信命令の実行中に SD メモリカードを抜き取らないでください	
	SD メモリカードの容量が不足している		十分な空き容量のある SD メモリカードに交換してください		十分な空き容量のある SD メモリカードを使用してください	
	SD メモリカードがライトプロテクトされている		SD メモリカードのライトプロテクトを解除してください		SD メモリカードのライトプロテクトは解除した状態で使用してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.08 以降で発生するエラーコード（16#2408）です。

イベント名	指定ファイル不在			イベントコード	54012409Hex *1	
内容	FTP クライアント通信命令で、指定したファイルが存在しません					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	FTP クライアント通信命令で、指定したファイルが存在しない		FTP クライアント通信命令で、存在するファイルを指定するようにプログラムを修正してください		FTP クライアント通信命令で、存在するファイルを指定するようにプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.08 以降で発生するエラーコード（16#2409）です。

イベント名	指定ファイル上書き禁止			イベントコード	5401240AHex *1	
内容	FTP クライアント通信命令で、同名のファイルを上書きしない指定としているため転送しませんでした					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	FTP クライアント通信命令で、上書き指定が「ファイルを上書きしない」であり、指定したファイル名と同名のファイルが転送先に存在しているため転送しなかった		FTP クライアント通信命令で、上書き指定を「ファイルを上書きする」とし、再度、命令を実行してください。 または、転送先か転送元のいずれかのファイル名を変更し、再度、命令を実行してください		FTP クライアント通信命令で、上書き指定を「ファイルを上書きする」としてください。 または、転送先と転送元のファイル名が異なるようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.08 以降で発生するエラーコード（16#240A）です。

イベント名	指定ファイル削除失敗			イベントコード	5401240BHex *1	
内容	FTP クライアント通信命令で、転送済みファイルを削除できませんでした					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	FTP クライアント通信命令で、転送後ファイル削除指定が「転送済みファイルを削除する」となっているが、指定したファイルの属性が読み取り専用のため削除できなかった		FTP クライアント通信命令で、転送後ファイル削除指定を「転送済みファイルを削除しない」とし、再度、命令を実行してください。 または、転送元のファイルの属性を書き込み可能となるように変更し、再度、命令を実行してください		FTP クライアント通信命令で、転送後ファイル削除指定を「転送済みファイルを削除しない」としてください。 または、転送元のファイルの属性を読み取り専用にしないでください	
	FTP クライアント通信命令で、指定したファイルが他のアプリケーションで使用されているため削除できなかった		FTP クライアント通信命令で、指定したファイルが他のアプリケーションで使用されていないときに、命令を実行してください		FTP クライアント通信命令で、指定したファイルを、他のアプリケーションで使用しないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.08 以降で発生するエラーコード（16#240B）です。

イベント名	指定ファイルアクセス失敗			**イベントコード**	5401240CHex *1	
内容	FTP クライアント通信命令で、ファイルのアクセスに失敗したため、FTP 転送に失敗しました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	命令	**検出タイミング**	命令実行時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	FTP クライアント通信命令で、指定したファイルが他のアプリケーションで使用されている		FTP クライアント通信命令で、指定したファイルが他のアプリケーションで使用されていないときに、命令を実行してください		FTP クライアント通信命令で、指定したファイルを、他のアプリケーションで使用しないようにしてください	
	FTP クライアント通信命令で、指定した書込ファイルまたはディレクトリにライトプロテクトがかかっている		FTP クライアント通信命令で、指定した書込ファイルのライトプロテクトを解除してください。または、書込ファイル名を変更してください		FTP クライアント通信命令で、指定する書込ファイルにはライトプロテクトをかけないでください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.08 以降で発生するエラーコード（16#240C）です。

イベント名	IP アドレス設定不正			イベントコード	5401240DHex *1	
内容	命令で指定されたポートの IP アドレス設定と他ポート設定との間で設定不正があるため、命令を実行できませんでした					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令で指定されたポートのネットワークアドレスが、他ポートのネットワークアドレスと重複している		該当命令で指定されるネットワークアドレスが、他ポートのネットワークアドレスと重複しないように修正してください。 または、あらかじめ他ポートのネットワークアドレスを変更してください。		IP アドレスを変更する命令を使用する場合は、命令で指定されるネットワークアドレスが、他ポートのネットワークアドレスと重複しないようにしてください	
	命令で指定されたポートと他ポートの設定がすべて未使用となっている		該当命令で指定するポートの設定を「使用しない」以外に修正してください。 または、あらかじめ他ポートの未使用設定を変更してください。		IP アドレスを変更する命令を使用する場合は、命令で指定されるポートと他ポートの設定がすべて未使用とならないようにしてください	
付属情報	付属情報 1: 異常の発生箇所 付属情報 2: 異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3: 異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.10 以降で発生するエラーコード（16#240D）です。

イベント名	NX メッセージ異常			イベントコード	54012C00Hex *1	
内容	NX メッセージでエラーレスポンスコードが返ってきました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	異常の内容に依存		該当命令の出力変数「ErrorIDEx」の値を確認し、本マニュアルの NX メッセージ異常コードの説明を参照してください		異常の内容に依存します。本マニュアルの NX メッセージ異常コードの説明を参照してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.05 以降で発生するエラーコード（16#2C00）です。

イベント名	NX メッセージリソースオーバー			イベントコード	54012C01Hex *1	
内容	同時に実行できる NX メッセージ命令のリソースを超えて命令が実行されました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	同時に 32 個を超える NX メッセージ命令が実行された		同時に実行する NX メッセージ命令が 32 個以下になるようにプログラムを修正してください		同時に実行する NX メッセージ命令が 32 個以下になるようにプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.05 以降で発生するエラーコード（16#2C01）です。

イベント名	NX メッセージタイムアウト			イベントコード	54012C02Hex *1	
内容	NX メッセージの実行中にタイムアウトが発生しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	指定した NX ユニットが存在しない		ユニット指定と相手ユニットの構成などが一致するように修正してください		ユニット指定と相手ユニットの構成などが一致するようにしてください	
	NX メッセージがタイムアウトしたため閉じられている		該当命令の入力変数「TimeOut」で指定されているレスポンス監視時間を長くしてください		適切なレスポンス監視時間を入力変数「TimeOut」に指定してから命令を実行してください	
	相手ユニットの電源 OFF		相手ユニットの状態を確認し、正常に起動してください		相手ユニットの状態を確認し、正常に起動してください	
	相手ユニットの通信停止					
	通信ケーブルのコネクタのはずれ		コネクタが正しく嵌合しているかを確認し、再接続してください		コネクタを確実に接続してください	
	通信ケーブルの断線		通信ケーブルを交換してください		なし	
	ノイズ		ノイズが多い場合はノイズ対策を行ってください		ノイズが多い場合はノイズ対策を行ってください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.05 以降で発生するエラーコード（16#2C02）です。

イベント名	NX メッセージ長不正			イベントコード	54012C03Hex *1	
内容	NX メッセージの長さが不正です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	WriteDat または Path で指定したサイズが長すぎる		WriteDat または Path で指定したサイズが制限以内になるようにプログラムを修正してください		WriteDat または Path で指定したサイズが制限以内になるようにプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.05 以降で発生するエラーコード（16#2C03）です。

イベント名	NX メッセージネットワーク異常（EtherCAT）			イベントコード	54012C05Hex *1	
内容	NX メッセージの経路上の EtherCAT 通信で異常が発生しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	NX メッセージの経路のうち EtherCAT 通信で異常が発生している		EtherCAT 通信で発生している異常を確認し、異常を解除してから該当命令を実行してください		異常の内容に依存	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.05 以降で発生するエラーコード（16#2C05）です。

イベント名	指定ユニット外部リスタート既実行			イベントコード	54012C06Hex *1	
内容	命令実行時に、すでに Sysmac Studio からリスタートが実行されています					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令実行時に、すでに Sysmac Studio からリスタートが実行されている		すでに Sysmac Studio からリスタートが実行されている場合は、命令からリスタートする必要はありません		運転中に Sysmac Studio からリスタートしないでください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.05 以降で発生するエラーコード（16#2C06）です。

イベント名	命令対象外ユニット指定			イベントコード	54012C07Hex *1	
内容	指定したユニットのスレーブノードアドレスに、該当命令の対象外のスレーブが接続されています					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	指定したユニットのスレーブノードアドレスに、該当命令の対象外のスレーブが接続されている		ネットワーク構成情報で指定されている該当命令の対象ユニットを接続してください		指定したユニットのスレーブノードアドレスに、該当命令の対象外のスレーブを接続しないでください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.05 以降で発生するエラーコード（16#2C07）です。

イベント名	累積通電時間記録不正			イベントコード	54012C08Hex *1	
内容	累積通電時間の読み出しに失敗しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	不揮発性メモリの故障		累積通電時間の読み出しに失敗したユニットを交換してください		なし	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.10 以降で発生するエラーコード（16#2C08）です。

イベント名	プロセスデータオブジェクト設定不足			イベントコード	54013461Hex	
内容	PDO マッピングが正しくありません					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	モーション命令で必要な PDO マッピングがされていない		該当命令で必要な PDO マッピングを行ってください。 必要な PDO マッピングについては、該当命令の「機能説明」を参照してください		使用する命令で必要な PDO マッピングを行ってください。 各命令で必要な PDO マッピング（サーボドライバの設定）については、『NJ/NX シリーズ ユーザーズマニュアル　モーション制御編（SBCE-433）』を参照してください	
	該当命令に対応するオブジェクトを持たない対象機器に対して該当命令を実行した		該当命令に対応する機能を持たない対象機器があります。 対象機器のマニュアルを参照して、該当命令に対応しているか確認し、対応していない命令を実行しないようにプログラムを修正してください		対象機器のマニュアルを参照し、対応していない命令を実行しないようにプログラムを作成してください	
	オムロン製 EtherCAT エンコーダスレーブ GX-EC02□□をマッピングした軸に対して、トリガ条件として Z 相（_mcEncoderMark）を指定してモーション命令を起動した		オムロン製 EtherCAT エンコーダスレーブ GX-EC02□□をマッピングした軸では、トリガ条件に外部入力（_mcEXT）を使用してください		オムロン製 EtherCAT エンコーダスレーブ GX-EC02□□をマッピングした軸では、トリガ条件に外部入力（_mcEXT）を使用してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	デバイスエラー受信			イベントコード	54014800Hex *1	
内容	デバイスからのエラーレスポンスを受信しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	デバイスからエラーレスポンスを受信した		デバイスが返信したエラーコードが命令の出力変数 ErrorType に出力されます。対象デバイスのマニュアルでエラーの内容を確認して処置を行ってください		デバイスのマニュアルでエラー原因を確認してプログラム作成、命令実行してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorType）					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.12 以降で発生するエラーコード（16#4800）です。

イベント名	指定ユニット不在			イベントコード	54014801Hex *1	
内容	指定したユニットが存在しません					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	指定した位置に IO-Link マスタユニットが接続／装着されていない		指定した位置に IO-Link マスタユニットを接続／装着してください。または、IO-Link マスタユニットが接続／装着されている位置を指定してください		指定する位置に IO-Link マスタユニットを接続／装着してください。または、IO-Link マスタユニットが接続／装着されている位置を指定してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorType）					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.12 以降で発生するエラーコード（16#4801）です。

イベント名	メッセージ処理数オーバー			イベントコード	54014802Hex *1	
内容	IO-Link マスタが他のアプリケーションからのメッセージを処理中なので命令を実行できません					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	IO-Link マスタが他のアプリケーション（命令実行または、ツール接続）からのメッセージを処理中のため、命令を実行できない		再度命令を実行してください		アプリケーション（命令実行または、ツール接続）でメッセージの排他制御処理をするか、または、リトライ回数を大きくしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorType）					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.12 以降で発生するエラーコード（16#4802）です。

イベント名	指定ユニット状態異常			イベントコード	54014803Hex *1	
内容	指定したユニットがメッセージを受け付けられる状態ではありません					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	指定したユニットがメッセージを受け付けられる状態でない		再度命令を実行してください		本異常が発生した場合には、再度命令を実行するようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorType）					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.12 以降で発生するエラーコード（16#4803）です。

イベント名	同時実行数オーバー			**イベントコード**	54014804Hex *1	
内容	同時に実行できる命令数を超えています					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	命令	**検出タイミング**	命令実行時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当命令を仕様どおりに終了。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	同時に実行する NX メッセージ命令と EtherCAT 通信命令の合計数が 32 個を超えた		同時に実行する NX メッセージ命令と EtherCAT 通信命令の合計数が 32 個以下になるようにプログラムを修正してください		同時に実行する NX メッセージ命令と EtherCAT 通信命令の合計数が 32 個以下になるようにプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorType）					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.12 以降で発生するエラーコード（16#4804）です。

イベント名	通信タイムアウト			**イベントコード**	54014805Hex *1	
内容	通信実行中にタイムアウトが発生しました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	命令	**検出タイミング**	命令実行時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当命令を仕様どおりに終了。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	メッセージ応答時間より通信タイムアウト時間が小さい		メッセージ応答時間を計算し、メッセージ応答時間より大きな通信タイムアウト時間を設定してください		メッセージ応答時間を計算し、メッセージ応答時間より大きな通信タイムアウト時間を設定してください	
	EtherCAT または IO-Link のケーブルの断線		ケーブルを交換してください		なし	
	ノイズ		ノイズ対策を行ってください		ノイズ対策を行ってください	
	デバイスの故障		該当デバイスを交換してください		なし	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorType）					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.12 以降で発生するエラーコード（16#4805）です。

イベント名	モード不正			イベントコード	54014806Hex *1	
内容	指定した IO-Link マスタのポートが IO-Link モードではありません					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	指定した IO-Link マスタのポートが IO-Link モードでない		指定した IO-Link マスタのポートを IO-Link モードにしてから、再度命令を実行してください		指定する IO-Link マスタのポートを IO-Link モードにしてから、命令を実行してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorType）					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.12 以降で発生するエラーコード（16#4806）です。

イベント名	I/O 電源 OFF 状態			イベントコード	54014807Hex *1	
内容	指定した IO-Link マスタのポートに I/O 電源が供給されていません					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	指定した IO-Link マスタのポートに I/O 電源が供給されていない		指定した IO-Link マスタのポートに I/O 電源を供給してから命令を実行してください		指定した IO-Link マスタのポートに I/O 電源が供給されていることを確認してから命令を実行してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorType）					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.12 以降で発生するエラーコード（16#4807）です。

イベント名	照合異常発生			イベントコード	54014808Hex *1	
内容	指定した IO-Link マスタのポートに照合異常または通信異常が発生しています					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	指定した IO-Link マスタのポートに照合異常または通信異常が発生している		異常を解消してから、再度命令を実行してください		異常が発生していない状態で、命令を実行してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorType）					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.12 以降で発生するエラーコード（16#4808）です。

イベント名	デバイスポート設定不正			イベントコード	54014809Hex *1	
内容	デバイスポートの設定が正しくありません					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	デバイスポートの設定が正しくない		IO-Link マスタユニットの種別を確認し、デバイスポートのデバイスタイプ、指定ユニット、指定スレーブ、ポート番号を確認してください		IO-Link マスタユニットの種別に合わせて、デバイスポートのデバイスタイプ、指定ユニット、指定スレーブ、ポート番号を設定してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorType）					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.12 以降で発生するエラーコード（16#4809）です。

イベント名	電子ギア分子設定範囲外			イベントコード	54015420Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「RatioNumerator」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	電子ギア分母設定範囲外			イベントコード	54015421Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「RatioDenominator」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	目標速度設定範囲外			イベントコード	54015422Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「Velocity」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸グループ 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	加速度設定範囲外			イベントコード	54015423Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「Acceleration」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸グループ 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	減速度設定範囲外			イベントコード	54015424Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「Deceleration」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸グループ 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	ジャーク設定範囲外			イベントコード	54015425Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「Jerk」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸グループ 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	トルク傾斜設定範囲外			イベントコード	54015427Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「TorqueRamp」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	主軸係数設定範囲外			イベントコード	54015428Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「MasterScaling」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	従軸係数設定範囲外			イベントコード	54015429Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「SlaveScaling」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	定寸速度設定範囲外			イベントコード	5401542AHex	
内容	モーション制御命令の入力変数「FeedVelocity」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	定寸速度（入力変数「FeedVelocity」）が初期値のまま（0）である		定寸速度（入力変数「FeedVelocity」）に正の値を指定してください		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	バッファモード選択範囲外			イベントコード	5401542BHex	
内容	モーション制御命令の入力変数「BufferMode」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸グループ 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	座標系選択範囲外			イベントコード	5401542CHex	
内容	モーション制御命令の入力変数「CoordSystem」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸グループ 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	円弧補間モード選択範囲外			イベントコード	5401542DHex	
内容	モーション制御命令の入力変数「CircMode」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸グループ 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	方向選択範囲外			イベントコード	5401542EHex	
内容	モーション制御命令の入力変数「Direction」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	経路選択範囲外			イベントコード	5401542FHex	
内容	モーション制御命令の入力変数「PathChoice」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸グループ 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	位置種別選択範囲外			イベントコード	54015430Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「ReferenceType」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_COM.MFaultLvl.Active		BOOL		MC 共通 軽度フォールト発生中	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	移動方法選択範囲外			イベントコード	54015431Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「MoveMode」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸グループ 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	トランジションモード選択範囲外			イベントコード	54015432Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「TransitionMode」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸グループ 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください	
	［BufferMode］で「_mcAborting」、「_mcBuffered」を指定かつ［TransitionMode］を「_mcTMCornerSuperimposed」に指定		［BufferMode］で「_mcAborting」、「_mcBuffered」を指定する場合は［TransitionMode］を「_mcTMNone」に指定、［TransitionMode］を「_mcTMCornerSuperimposed」に指定する場合には［BufferMode］で「_mcBlendingLow」、「_mcBlendingPrevious」、「_mcBlendingNext」、「_mcBlendingHigh」を指定してください		［BufferMode］で「_mcAborting」、「_mcBuffered」を指定する場合は［TransitionMode］を「_mcTMNone」に指定、［TransitionMode］を「_mcTMCornerSuperimposed」に指定する場合には［BufferMode］で「_mcBlendingLow」、「_mcBlendingPrevious」、「_mcBlendingNext」、「_mcBlendingHigh」を指定してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	継続方法選択範囲外			イベントコード	54015433Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「Continuous （Reserved)」の値が変更されました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	入力変数「Continuous （Reserved)」の値が変更された		入力変数「Continuous （Reserved)」の値を変更しないようにプログラムを修正してください		入力変数「Continuous （Reserved)」の値を変更しないようにプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	加減算方法選択範囲外			**イベントコード**	54015434Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「CombineMode」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	命令	**検出タイミング**	命令起動時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	同期開始条件指定範囲外			**イベントコード**	54015435Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「LinkOption」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	命令	**検出タイミング**	命令起動時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	主軸従軸同一			**イベントコード**	54015436Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「Master」と「Slave」に指定された軸が同じです					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	命令	**検出タイミング**	命令起動時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_MC_COM.MFaultLvl.Active		BOOL		MC 共通 軽度フォールト発生中	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	命令の入力変数「Master」と「Slave」のパラメータが同一		該当命令の入力変数「Master」と「Slave」に指定される軸が異なるようにパラメータを修正してください		命令の入力変数「Master」と「Slave」には異なる軸を指定してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	主軸補助軸同一			イベントコード	54015437Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「Master」と「Auxiliary」に指定された軸が同じです					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	ー	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力変数「Master」と「Auxiliary」のパラメータが同一		該当命令の入力変数「Master」と「Auxiliary」に指定される軸が異なるようにパラメータを修正してください		命令の入力変数「Master」と「Auxiliary」には異なる軸を指定してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	主軸／従軸　軸番号非昇順			イベントコード	54015438Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「Master」と「Slave」に指定された軸番号が昇順ではありません					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	ー	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力変数「ReferenceType」で「_mcLatestCommand」指定時、命令の入力変数「Master」と「Slave」のパラメータが非昇順		該当命令の入力変数「ReferenceType」で「_mcLatestCommand」を指定する場合には、該当命令の入力変数「Master」と「Slave」に指定される軸番号が昇順になるようにパラメータを修正してください。または、主軸位置種別選択で「_mcCommand」を指定してください		変数「ReferenceType」で「_mcLatestCommand」を指定する場合には、入力変数の主軸と従軸が昇順になるように指定してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	カムテーブル指定不正			イベントコード	54015439Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「CamTable」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		

システム定義変数	変数名	データ型	名称
	_MC_COM.MFaultLvl.Active	BOOL	MC 共通 軽度フォールト発生中
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active	BOOL	軸 軽度フォールト発生中

発生要因とその処置	発生要因（推定原因）	処置対策	再発防止
	命令の入力変数「CamTable」にカムデータ変数以外を指定	該当命令の入力変数「CamTable」に指定されるパラメータがカムデータ変数になるようにパラメータを修正してください	命令の入力変数の「CamTable」にはカムデータ変数を指定してください

付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります

イベント名	同期停止中			イベントコード	5401543AHex	
内容	モーション制御の同期制御命令が実行されましたが、実行可能な条件ではありません					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		

システム定義変数	変数名	データ型	名称
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active	BOOL	軸 軽度フォールト発生中

発生要因とその処置	発生要因（推定原因）	処置対策	再発防止
	• MC_CamOut（カム動作解除）命令が実行されたが、MC_CamIn（カム動作開始）命令実行中でない • MC_GearOut（ギア動作解除）命令が実行されたが MC_GearIn（ギア動作開始）命令、MC_GearInPos（位置指定ギア動作）命令実行中でない • MC_Phasing（主軸相対値位相補正）命令が実行されたが、MC_CamIn（カム動作開始）命令、MC_GearIn（ギア動作開始）命令、MC_GearInPos（位置指定ギア動作）命令、MC_MoveLink（台形パターンカム）命令が実行中でない	該当命令の実行時に実行可能な条件になるようにプログラムを修正してください	同期制御命令の実行時には実行可能な条件になるようにしてください

付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります

イベント名	モーション命令再起動不可			イベントコード	5401543BHex	
内容	再起動できないモーション制御命令の再起動を行いました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_COM.MFaultLvl.Active		BOOL		MC 共通 軽度フォールト発生中	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸グループ 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	再起動できないモーション制御命令の再起動		該当命令の出力変数「Busy」が FALSE になるまで入力変数「Execute」が立ち上がらないようにプログラムを修正してください		再起動できない命令を使用する場合は、入力変数「Execute」の立上げ条件にその命令の出力変数「Busy」が FALSE であること含むようにしてください。または、再度命令を起動する前に一旦命令を停止するようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	モーション命令多重起動不可			イベントコード	5401543CHex	
内容	同じ対象（MC 共通／軸／軸グループ）に対して同時に実行できない機能を複数実行しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令多重起動開始時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_COM.MFaultLvl.Active		BOOL		MC 共通 軽度フォールト発生中	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸グループ 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	同じ対象（MC 共通／軸）に対して同時に実行できない機能を複数実行		該当命令の多重起動の仕様を確認し、同時に実行できない命令を同時に実行しないようにプログラムを修正してください		使用する命令の多重起動の仕様を確認し、同時に実行できない命令を同時に実行しないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	軸種別不適合			イベントコード	5401543DHex	
内容	エンコーダ軸に対して動作命令を実行しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	エンコーダ軸に対して動作命令を実行		該当命令の軸種別設定にサーボ軸または仮想サーボ軸を指定するか、エンコーダ軸に対して該当動作命令を実行しないようにプログラムを修正してください		動作命令はサーボ軸または仮想サーボ軸に対して実行するようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	多軸協調動作中の命令起動不可			イベントコード	5401543EHex	
内容	• 多軸協調動作中の軸または軸グループに対して動作命令を実行しました • 軸グループ有効状態で使用できないロボット命令を実行しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令多重起動開始時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸グループ 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	多軸協調動作中の軸または軸グループに対して動作命令を実行		該当軸や該当軸グループが多軸協調動作中でないときに該当命令を実行するようにプログラムを修正してください		多軸協調動作中でない軸または軸グループに軸動作命令を実行するようにしてください	
	軸グループ有効状態の軸グループに対して、MC_SetKinTransform（キネマティクス変換設定）命令を実行		軸グループ無効時に、該当命令を実行するようにプログラムを修正してください		軸グループ無効時に、該当命令を実行するようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	軸グループ無効状態での多軸協調命令起動			イベントコード	5401543FHex	
内容	軸グループ無効状態の軸グループに対して、多軸協調命令を起動しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸グループ 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	軸グループ無効状態の軸グループに対して、多軸協調命令を起動		軸グループを有効状態にした後に該当命令を実行するようにプログラムを修正してください。軸グループを有効状態にするには MC_GroupEnable（軸グループ有効）命令を実行してください		軸グループを有効にしてから多軸協調動作命令を実行してください。軸グループを有効状態にするには MC_GroupEnable（軸グループ有効）命令を実行してください	
	軸グループ無効状態の軸グループに対して、次の命令を起動 • MC_MoveTimeAbsolute（時間指定絶対値位置指令）命令 • MC_SyncLinearConveyor（コンベア同期動作開始）命令 • MC_SyncOut（同期動作解除）命令 • MC_RobotJog（軸グループジョグ送り）命令					
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	軸グループ有効不可			イベントコード	54015440Hex	
内容	MC_GroupEnable（軸グループ有効）命令の実行に失敗しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸グループ 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	MC_GroupEnable（軸グループ有効）命令実行時、構成軸の中に停止中でない軸が存在した		構成軸のすべてが停止中のときに、MC_GroupEnable（軸グループ有効）命令を実行するようにプログラムを修正してください。軸変数の「Status.Disabled」または「Status.Standstill」が TRUE のとき、その軸は停止中です		構成軸のすべてが停止中のときに、MC_GroupEnable（軸グループ有効）命令を実行するようにプログラムを作成してください。軸変数の「Status.Disabled」または「Status.Standstill」が TRUE のとき、その軸は停止中です	
	MC_GroupEnable（軸グループ有効）命令実行時、構成軸の中に MC_TouchProbe（外部ラッチ有効）命令実行中の軸が存在した		構成軸のすべてで MC_TouchProbe（外部ラッチ有効）命令が実行されていないときに MC_GroupEnable（軸グループ有効）命令を実行するようにプログラムを修正してください		構成軸のすべてで MC_TouchProbe（外部ラッチ有効）命令が実行されていないときに MC_GroupEnable（軸グループ有効）命令を実行するようなプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	運転不可（サーボ OFF）軸動作指示			イベントコード	54015441Hex	
内容	サーボ OFF 中の軸に対して動作命令を実行しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		

システム定義変数	変数名	データ型	名称
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active	BOOL	軸 軽度フォールト発生中
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active	BOOL	軸グループ 軽度フォールト発生中

発生要因とその処置	発生要因（推定原因）	処置対策	再発防止
	サーボ OFF 中の軸に対して動作命令を実行	サーボ ON 後に該当命令を実行するようにプログラムを修正してください	サーボ ON 後に軸動作命令を実行するようにしてください
	MC_Home（原点復帰）命令、または MC_HomeWithParameter（パラメータ指定原点復帰）命令による原点プリセットを EtherCAT のプロセスデータ通信が未確立の軸に対して実行した	EtherCAT マスタのシステム定義変数「_EC_PDSlavTbl」（プロセスデータ通信中スレーブテーブル）が FALSE になっている場合は、その要因を取り除き、「_EC_PDSlavTbl」が TRUE になった後に、MC_Home（原点復帰）命令、または MC_HomeWithParameter（パラメータ指定原点復帰）命令による原点プリセットを実行してください	コントローラの電源 ON やダウンロード直後、またはスレーブの通信異常の解除、離脱、再加入、無効、有効直後に MC_Home（原点復帰）命令、または MC_HomeWithParameter（パラメータ指定原点復帰）命令による原点プリセットを実行する場合は、EtherCAT マスタのシステム定義変数の「_EC_PDSlavTbl」（プロセスデータ通信中スレーブテーブル）が TRUE になったことを確認してから実行するようにプログラムを作成してください

付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります

イベント名	構成軸強制停止中エラー			イベントコード	54015442Hex	
内容	構成軸に対して MC_Stop（強制停止）命令が実行されている軸グループに動作命令を実行しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		

システム定義変数	変数名	データ型	名称
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active	BOOL	軸グループ 軽度フォールト発生中

発生要因とその処置	発生要因（推定原因）	処置対策	再発防止
	構成軸に対して MC_Stop（強制停止）命令が実行されている軸グループに動作命令を実行した	構成軸の強制停止命令の入力変数「Execute」を FALSE にして実行を止め、異常解除を実行した後に動作指令を与えるようにしてください	構成軸の強制停止命令の入力変数「Execute」を FALSE にして終了させてから軸グループの動作命令を実行するようにしてください

付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります

イベント名	モーション命令多重起動数オーバー			イベントコード	54015443Hex	
内容	バッファモード Buffered, Blending によりバッファリングされるモーション制御命令のバッファリング数が限界を超えました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令多重起動開始時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸グループ 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	軸命令で、実行中の命令とバッファ中の命令の合計数が「2」を超えた		該当命令実行時にバッファリング数が上限を超えないようにプログラムを修正してください		軸命令の場合は、実行中の命令とバッファ中の命令の合計数が「2」を超えないようにしてください	
	軸グループ命令で、実行中の命令とバッファ中の命令の合計数が「8」を超えた				軸グループ命令の場合は、実行中の命令とバッファ中の命令の合計数が「8」を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	移動量不足			イベントコード	54015444Hex	
内容	位置決め命令の多重起動／再起動時に指定された減速度または加速度で指定通りの動作を実行できません					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸グループ 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	［加減速オーバー］を「異常として停止する」に設定しているときに、位置決め命令の多重起動／再起動時に指定された減速度／加速度での目標位置停止ができない		該当命令の動作仕様に基づき、位置決め動作が多重起動／再起動するタイミングで指定した減速度、または加速度で目標位置を超過しないようにプログラムを修正してください。 または、［加減速オーバー］を「異常として停止する」以外の設定に変更してください		使用する命令の動作仕様を確認しておき、本異常が発生しないようにプログラムを作成してください。 または、［加減速オーバー］を「異常として停止する」以外の設定にしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	ブレンディング中継速度に到達するための移動量不足			**イベントコード**	54015445Hex	
内容	中継速度に加減速するための移動量が不足しています					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	命令	**検出タイミング**	命令多重起動開始時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸グループ 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	［加減速オーバー］に「異常として停止する」が設定されているときに、現指令を中継速度に加減速するための移動量が不足した		該当命令の動作仕様に基づき、移動量が不足しないようにプログラムを修正してください。 または、［加減速オーバー］を「異常として停止する」以外の設定に変更してください		使用する命令の動作仕様を確認しておき、本異常が発生しないようにプログラムを作成してください。 または、［加減速オーバー］を「異常として停止する」以外の設定にしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	台形パターンカム等速移動量不足			**イベントコード**	54015446Hex	
内容	主軸の等速移動量が「0」未満です					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	命令	**検出タイミング**	命令起動時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	MC_MoveLink（台形パターンカム）命令において、主軸の等速移動量が「0」未満		（主軸移動距離≧主軸加速移動距離＋主軸減速移動距離）となるようプログラムを修正してください		使用する命令の動作仕様を確認しておき、本異常が発生しないようにプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	位置指定ギア動作目標速度不足			イベントコード	54015447Hex	
内容	MC_GearInPos（位置指定ギア動作）命令において、従軸の［目標速度］が小さいため、必要な速度に到達しません					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	MC_GearInPos（位置指定ギア動作）命令において、入力変数「Velocity（目標速度）」の値が（命令起動時の主軸速度×ギア比）より小さい		該当命令の動作仕様に基づき、（命令起動時の主軸速度×ギア比）より大きくなるように入力変数「Velocity（目標速度）」の値を設定してください		使用する命令の動作仕様を確認しておき、本異常が発生しないようにプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	円弧補間始点終点同一			イベントコード	54015448Hex	
内容	MC_MoveCircular2D（2 軸円弧補間）命令において、半径指定方式の指定時に始点と終点が同じ位置です。または、通過点指定方式の指定時に始点と終点と通過点が同じ位置です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸グループ 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	MC_MoveCircular2D（2 軸円弧補間）命令において、半径指定方式が指定され、始点と終点の位置が同一		該当命令の始点と終点の位置が同一の状態で半径指定方式を指定しないようにプログラムを修正してください		半径指定方式の円弧補間を実行する場合は、始点と終点が同一にならないようにしてください	
	MC_MoveCircular2D（2 軸円弧補間）命令において、通過点指定方式が指定され、始点と終点と通過点の位置が同一		該当命令の始点と終点と通過点の位置が同一の状態で通過点指定方式を指定しないようにプログラムを修正してください		通過点指定方式の円弧補間を実行する場合は、始点と終点と通過点が同一にならないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	円弧補間中心点指定位置範囲外			イベントコード	54015449Hex	
内容	MC_MoveCircular2D（2 軸円弧補間）命令において、中心点指定方式の指定時に、中心点の位置指定が許容範囲を超えています					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸グループ 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	MC_MoveCircular2D（2 軸円弧補間）命令において、中心点指定方式が指定され、始点と中心点の距離と、終点と中心点の距離の差が、軸グループ設定の［中心点補正許容率］で指定した許容範囲を超えた		始点と中心点の距離と、終点と中心点の距離の差が、軸グループ設定の［中心点補正許容率］で指定した許容範囲よりも小さくなるような中心点が設定されるように修正してください		始点と中心点の距離と、終点と中心点の距離の差が、軸グループ設定の［中心点補正許容率］で指定した許容範囲以下になるようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	カウントモード設定による命令起動異常			イベントコード	5401544AHex	
内容	カウントモードがロータリモードに設定されている軸に対してロータリモードで使用できない命令を実行しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸グループ 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	カウントモードがロータリモードに設定されている軸をロータリモードで使用できない命令で使用		該当命令で指定している該当軸のカウントモードの設定をリニアモードに変更してください		使用する命令が実行できるカウントモードを確認して軸のカウントモードを設定してください。	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	パラメータ選択範囲外			イベントコード	5401544CHex	
内容	モーション制御命令の入力変数「ParameterNumber」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_COM.MFaultLvl.Active		BOOL		MC 共通 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	停止方法選択範囲外			イベントコード	5401544DHex	
内容	モーション制御命令の入力変数「StopMode」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	トリガ入力条件のラッチ ID 選択範囲外			イベントコード	5401544EHex	
内容	モーション制御命令の入力変数「TriggerInput::LatchID」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	MC 設定書込の設定範囲外			イベントコード	5401544FHex	
内容	モーション制御命令の入力変数「SettingValue」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_COM.MFaultLvl.Active		BOOL		MC 共通 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください	
	パラメータ指定と設定値のデータ型が一致していない		パラメータ指定と設定値のデータ型が一致するように修正してください		パラメータ指定と設定値のデータ型は一致させてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	トリガ入力条件のモード選択範囲外			イベントコード	54015450Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「TriggerInput::Mode」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	トリガ入力条件のドライブトリガ入力信号選択範囲外			イベントコード	54015451Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「TriggerInput::InputDrive」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	モーション命令再起動不可（軸指定）			イベントコード	54015453Hex	
内容	モーション制御命令の再起動時に変更できない入力変数「Axis」のパラメータを変更しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令再起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令再起動時に変更できない入力変数のパラメータを変更した		該当命令の再起動時に該当入力変数のパラメータが変わらないようにプログラムを修正してください		使用するモーション制御命令の各入力変数が再起動時に変更可能かをマニュアルで確認し、変更不可能な入力変数では再起同時に入力パラメータが変化しないようにプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	モーション命令再起動不可（バッファモード選択）			イベントコード	54015454Hex	
内容	モーション制御命令の再起動時に変更できない入力変数「BufferMode」のパラメータを変更しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令再起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸グループ 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令再起動時に変更できない入力変数のパラメータを変更した		該当命令の再起動時に該当入力変数のパラメータが変わらないようにプログラムを修正してください		使用するモーション制御命令の各入力変数が再起動時に変更可能かをマニュアルで確認し、変更不可能な入力変数では再起同時に入力パラメータが変化しないようにプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	モーション命令再起動不可（方向選択）			イベントコード	54015455Hex	
内容	モーション制御命令の再起動時に変更できない入力変数「Direction」のパラメータを変更しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令再起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令再起動時に変更できない入力変数のパラメータを変更した		該当命令の再起動時に該当入力変数のパラメータが変わらないようにプログラムを修正してください		使用するモーション制御命令の各入力変数が再起動時に変更可能かをマニュアルで確認し、変更不可能な入力変数では再起同時に入力パラメータが変化しないようにプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	モーション命令再起動不可（繰り返しモード）			イベントコード	54015456Hex	
内容	モーション制御命令の再起動時に変更できない入力変数「Periodic」のパラメータを変更しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令再起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令再起動時に変更できない入力変数のパラメータを変更した		該当命令の再起動時に該当入力変数のパラメータが変わらないようにプログラムを修正してください		使用するモーション制御命令の各入力変数が再起動時に変更可能かをマニュアルで確認し、変更不可能な入力変数では再起同時に入力パラメータが変化しないようにプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	モーション命令再起動不可（軸グループ指定）			イベントコード	54015457Hex	
内容	モーション制御命令の再起動時に変更できない入力変数「AxesGroup」のパラメータを変更しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令再起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸グループ 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令再起動時に変更できない入力変数のパラメータを変更した		該当命令の再起動時に該当入力変数のパラメータが変わらないようにプログラムを修正してください		使用するモーション制御命令の各入力変数が再起動時に変更可能かをマニュアルで確認し、変更不可能な入力変数では再起同時に入力パラメータが変化しないようにプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	モーション命令再起動不可（躍動設定）			イベントコード	54015458Hex	
内容	モーション制御命令の再起動時に変更できない入力変数「Jerk」のパラメータを変更しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令再起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸グループ 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令再起動時に変更できない入力変数のパラメータを変更した		該当命令の再起動時に該当入力変数のパラメータが変わらないようにプログラムを修正してください		使用するモーション制御命令の各入力変数が再起動時に変更可能かをマニュアルで確認し、変更不可能な入力変数では再起同時に入力パラメータが変化しないようにプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	モーション命令再起動不可（主軸）			イベントコード	54015459Hex	
内容	モーション制御命令の再起動時に変更できない入力変数「Master」のパラメータを変更しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令再起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令再起動時に変更できない入力変数のパラメータを変更した		該当命令の再起動時に該当入力変数のパラメータが変わらないようにプログラムを修正してください		使用するモーション制御命令の各入力変数が再起動時に変更可能かをマニュアルで確認し、変更不可能な入力変数では再起同時に入力パラメータが変化しないようにプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	モーション命令再起動不可（MasterOffset）			イベントコード	5401545AHex	
内容	モーション制御命令の再起動時に変更できない入力変数「MasterOffset」のパラメータを変更しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令再起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令再起動時に変更できない入力変数のパラメータを変更した		該当命令の再起動時に該当入力変数のパラメータが変わらないようにプログラムを修正してください		使用するモーション制御命令の各入力変数が再起動時に変更可能かをマニュアルで確認し、変更不可能な入力変数では再起同時に入力パラメータが変化しないようにプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	モーション命令再起動不可（MasterScaling）			イベントコード	5401545BHex	
内容	モーション制御命令の再起動時に変更できない入力変数「MasterScaling」のパラメータを変更しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令再起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令再起動時に変更できない入力変数のパラメータを変更した		該当命令の再起動時に該当入力変数のパラメータが変わらないようにプログラムを修正してください		使用するモーション制御命令の各入力変数が再起動時に変更可能かをマニュアルで確認し、変更不可能な入力変数では再起同時に入力パラメータが変化しないようにプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	モーション命令再起動不可（MasterStartDistance）			イベントコード	5401545CHex	
内容	モーション制御命令の再起動時に変更できない入力変数「MasterStartDistance」のパラメータを変更しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令再起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令再起動時に変更できない入力変数のパラメータを変更した		該当命令の再起動時に該当入力変数のパラメータが変わらないようにプログラムを修正してください		使用するモーション制御命令の各入力変数が再起動時に変更可能かをマニュアルで確認し、変更不可能な入力変数では再起同時に入力パラメータが変化しないようにプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	モーション命令再起動不可（Continuous）			イベントコード	5401545DHex	
内容	モーション制御命令の再起動時に変更できない入力変数「Continuous」のパラメータを変更しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令再起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令再起動時に変更できない入力変数のパラメータを変更した		該当命令の再起動時に該当入力変数のパラメータが変わらないようにプログラムを修正してください		使用するモーション制御命令の各入力変数が再起動時に変更可能かをマニュアルで確認し、変更不可能な入力変数では再起同時に入力パラメータが変化しないようにプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	モーション命令再起動不可（MoveMode）			イベントコード	5401545EHex	
内容	モーション制御命令の再起動時に変更できない入力変数「MoveMode」のパラメータを変更しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令再起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令再起動時に変更できない入力変数のパラメータを変更した		該当命令の再起動時に該当入力変数のパラメータが変わらないようにプログラムを修正してください		使用するモーション制御命令の各入力変数が再起動時に変更可能かをマニュアルで確認し、変更不可能な入力変数では再起同時に入力パラメータが変化しないようにプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	補助軸指定不正			イベントコード	5401545FHex	
内容	モーション制御命令の入力変数「Auxiliary」に指定された軸が存在していません					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力変数「Auxiliary」に指定された軸が存在しない変数		該当命令で指定されている軸を存在する変数に修正してください		命令への入力パラメータに変数を指定する場合は存在する変数を指定してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	軸指定不正			イベントコード	54015460Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「Axis」に指定された軸が存在していません					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_COM.MFaultLvl.Active		BOOL		MC 共通 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力変数「Axis」に指定された軸が存在しない変数		該当命令で指定されている軸を存在する変数に修正してください		命令への入力パラメータに変数を指定する場合は存在する変数を指定してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	軸グループ指定不正			イベントコード	54015461Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「AxesGroup」に指定された軸グループが存在していないか、使用軸グループではありません					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_COM.MFaultLvl.Active		BOOL		MC 共通 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力変数「AxesGroup」に指定された軸グループが存在しない変数		該当命令で指定されている軸グループを存在する軸グループ変数に修正してください		命令への入力パラメータに変数を指定する場合は存在する変数を指定してください	
	命令の入力変数「AxesGroup」に指定された軸グループが使用軸グループに設定されていない		該当命令で指定されている軸グループを使用軸グループに設定してください		入力変数「AxesGroup」に指定する軸グループは使用軸グループに設定してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	主軸指定不正			イベントコード	54015462Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「Master」に指定された軸が不正です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_COM.MFaultLvl.Active		BOOL		MC 共通 軽度フォールト発生中	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力変数「Master」に指定された軸が存在しない変数		該当命令で指定されている軸を存在する変数に修正してください		命令への入力パラメータに変数を指定する場合は存在する変数を指定してください	
	MC_Phasing（主軸相対値位相補正）命令の場合に、入力変数「Master」に指定された軸が同期主軸でない		MC_Phasing（主軸相対値位相補正）命令の入力変数「Master」に入力されている変数を同期制御命令の主軸に指定されている軸に修正してください		MC_Phasing（主軸相対値位相補正）命令の入力変数「Master」に入力されている変数は、同期制御命令の主軸に指定されている軸にしてください	
	主軸と従軸を割り付けているタスクが同一でない		該当命令の入力変数「Master」と入力変数「Slave」に入力している軸を、同一タスクに割り付けてください		主軸と従軸には、同一タスクに割り付けられている軸を指定してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	モーション命令再起動不可（SlaveOffset）			イベントコード	54015463Hex	
内容	モーション制御命令の再起動時に変更できない入力変数「SlaveOffset」を変更しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令再起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令再起動時に変更できない入力変数のパラメータを変更した		該当命令の再起動時に該当入力変数のパラメータが変わらないようにプログラムを修正してください		使用するモーション制御命令の各入力変数が再起動時に変更可能かをマニュアルで確認し、変更不可能な入力変数では再起動時に入力パラメータが変化しないようにプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	モーション命令再起動不可（SlaveScaling）			イベントコード	54015464Hex	
内容	モーション制御命令の再起動時に変更できない入力変数「SlaveScaling」を変更しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令再起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令再起動時に変更できない入力変数のパラメータを変更した		該当命令の再起動時に該当入力変数のパラメータが変わらないようにプログラムを修正してください		使用するモーション制御命令の各入力変数が再起動時に変更可能かをマニュアルで確認し、変更不可能な入力変数では再起同時に入力パラメータが変化しないようにプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	モーション命令再起動不可（StartPosition）			イベントコード	54015465Hex	
内容	モーション制御命令の再起動時に変更できない入力変数「StartPosition」を変更しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令再起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令再起動時に変更できない入力変数のパラメータを変更した		該当命令の再起動時に該当入力変数のパラメータが変わらないようにプログラムを修正してください		使用するモーション制御命令の各入力変数が再起動時に変更可能かをマニュアルで確認し、変更不可能な入力変数では再起同時に入力パラメータが変化しないようにプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	原点未確定状態での命令起動異常			イベントコード	54015466Hex	
内容	原点未確定状態で高速原点復帰または補間命令が実行されました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸グループ 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	原点未確定状態で高速原点復帰が実行された		原点復帰によって原点を確定してから該当する高速原点復帰を実行してください		原点復帰により原点確定した状態にしてから高速原点復帰命令を実行してください	
	原点未確定状態を含む構成軸に対して補間命令が実行された		原点復帰によってすべての構成軸の原点を確定してから該当する補間命令を実行してください		原点復帰によりすべての構成軸の原点を確定してから補間命令を実行してください	
	原点未確定状態の論理軸を含む軸グループに対して、次のロボット命令が実行された • MC_SetKinTransform（キネマティクス変換設定）命令 • MC_MoveTimeAbsolute（時間指定絶対値位置指令）命令 • MC_SyncLinearConveyor（コンベア同期動作開始）命令 • MC_SyncOut（同期動作解除）命令 • MC_GroupMon（軸グループモニタ）命令 • MC_RobotJog（軸グループジョグ送り）命令					
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	• 異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります • 原点復帰実行後でも、「現在位置変更」命令を実行した場合、原点未確定状態になるため、改めて原点復帰の実行により原点確定状態にすることが必要です					

イベント名	モーション命令再起動不可（位置種別）			イベントコード	54015467Hex	
内容	モーション制御命令の再起動時に変更できない入力変数「ReferenceType」を変更しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令再起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令再起動時に変更できない入力変数のパラメータを変更した		該当命令の再起動時に該当入力変数のパラメータが変わらないようにプログラムを修正してください		使用するモーション制御命令の各入力変数が再起動時に変更可能かをマニュアルで確認し、変更不可能な入力変数では再起同時に入力パラメータが変化しないようにプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	未使用軸指定（主軸）			イベントコード	54015468Hex	
内容	モーション制御命令で指定された主軸が未使用軸です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	モーション制御命令で指定された主軸が未使用軸		該当命令で指定されている主軸を使用軸に修正してください		モーション制御命令で指定する主軸には使用軸を指定してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	開始位置設定範囲外			イベントコード	54015469Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「FirstPosition」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	終了位置設定範囲外			イベントコード	5401546AHex	
内容	モーション制御命令の入力変数「LastPosition」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	開始位置／終了位置・大小関係不正（リニアモード）			イベントコード	5401546BHex	
内容	モーション制御命令の入力変数「LastPosition」に指定されたパラメータが入力変数「FirstPosition」に指定されたパラメータよりも小さい値です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	カウントモードがリニアモードの時、命令の入力パラメータで［LastPosition］の値が「FirstPosition」の値よりも小さい		該当命令で指定されている［LastPosition］の値が「FirstPosition」の値以上となるように修正してください。 または、カウントモードをロータリモードに変更してください		該当命令で指定されている［LastPosition］の値が「FirstPosition」の値以上となるようにプログラムを作成してください。または、該当軸のカウントモードがロータリモードになっていることを確認してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	主軸同期位置設定範囲外			イベントコード	5401546CHex	
内容	モーション制御命令の入力変数「MasterSyncPosition」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	従軸同期位置設定範囲外			イベントコード	5401546DHex	
内容	モーション制御命令の入力変数「SlaveSyncPosition」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	トリガ入力条件のラッチ ID 重複			イベントコード	5401546EHex	
内容	モーション制御命令で指定されたラッチ ID が複数の命令で重複しています					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	MC_TouchProbe（外部ラッチ有効）命令、MC_MoveLink（台形パターンカム）命令、MC_MoveFeed（割り込み定寸位置決め）命令で同じラッチ ID が同時に使用されている		同じラッチ ID が該当命令と他の命令で同時に使用されないようにプログラムを修正してください。異なるラッチ ID を使用するようにするか、同じラッチ ID を使用する命令を同時に実行しないようにしてください。なお、MC_Home（原点復帰）命令、または MC_HomeWithParameter（パラメータ指定原点復帰）命令の実行中はラッチ機能 1/2 とも使用中の扱いとなります		MC_TouchProbe（外部ラッチ有効）命令、MC_MoveLink（台形パターンカム）命令、MC_MoveFeed（割り込み定寸位置決め）命令で同時に同じラッチ ID を使用しないようにしてください	
	MC_TouchProbe（外部ラッチ有効）命令以外で使用中のラッチを MC_AbortTrigger（外部ラッチ無効）命令で中止しようとした		外部ラッチ有効命令以外で使用中のラッチを外部ラッチ無効命令で中止しないようにしてください		外部ラッチ有効命令以外で使用中のラッチは、外部ラッチ無効命令を実行しないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	• 異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります • ラッチ ID を変更する場合、他の命令でそのラッチ ID が同時に使用されていないことを確認してください					

イベント名	ジャークオーバーライド値範囲外			イベントコード	5401546FHex	
内容	モーション制御命令の入力変数「JerkFactor」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	加減速度オーバーライド値範囲外			イベントコード	54015470Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「AccFactor」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	開始位置方式指定範囲外			イベントコード	54015471Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「StartMode」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	モーション命令再起動不可（開始位置方式）			イベントコード	54015472Hex	
内容	モーション制御命令の再起動時に変更できない入力変数「StartMode」のパラメータを変更しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令再起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令再起動時に変更できない入力変数のパラメータを変更した		該当命令の再起動時に該当入力変数のパラメータが変わらないようにプログラムを修正してください		使用するモーション制御命令の各入力変数が再起動時に変更可能かをマニュアルで確認し、変更不可能な入力変数では再起同時に入力パラメータが変化しないようにプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	未使用軸指定（補助軸）			イベントコード	54015474Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「Auxiliary」に指定された軸が未使用軸です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力変数「Auxiliary」に指定された軸が未使用軸		該当命令で指定されている軸を使用軸に設定してください。または使用軸を指定するようにパラメータを修正してください		命令で指定する軸は使用軸にしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	位置指定ギア指定値異常			イベントコード	54015475Hex	
内容	モーション制御命令に入力された速度／加速度／減速度では同期動作できません					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令に入力された速度／加速度／減速度では指定された同期の動作を行えない		MC_GearInPos（位置指定ギア動作）命令の動作仕様に基づき、同期動作可能な設定になるようにプログラムを修正してください		使用する命令の処理を確認し、同期動作可能な設定になるように設定してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	位置指定ギア主軸速度ゼロ			イベントコード	54015476Hex	
内容	モーション制御命令の起動時に主軸の速度が「0」です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の起動時に主軸の速度が「0」		該当命令の起動時に主軸の速度が「0」にならないようにプログラムを修正してください		命令の実行時に主軸の速度が「0」にならないようにプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	目標位置設定範囲外			イベントコード	54015478Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「Position」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸グループ 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください	
	ロータリモードの軸において、目標位置がリング設定の範囲外		ロータリモードの軸においては、目標位置をリング設定の範囲内になるように修正してください		ロータリモードの軸においては、目標位置をリング設定の範囲内になるようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	移動距離範囲外			イベントコード	54015479Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「Distance」に指定されたパラメータが範囲外、または「Distance」の値を加算した目標位置が範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸グループ 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータの絶対値をパルス単位に変換したときに、40 ビットの範囲を超えている		該当命令の入力変数「Distance」で指定される入力パラメータを移動距離や目標位置が範囲外にならないように修正してください		命令で移動距離や目標位置が範囲外にならないようにプログラムを作成してください	
	リニアモードの軸において、移動距離を加算した目標位置をパルス単位に変換したときに、符号付き 40 ビットの範囲を超えている					
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	カムテーブル始点位置設定範囲外			イベントコード	5401547AHex	
内容	モーション制御命令の入力変数「StartPosition」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	カム動作（主軸追従）開始位置設定範囲外			イベントコード	5401547BHex	
内容	モーション制御命令の入力変数「MasterStartDistance」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	円弧補間半径指定異常			イベントコード	5401547CHex	
内容	MC_MoveCircular2D（2 軸円弧補間）命令において、半径指定方式の指定時に指定された半径で円弧の軌跡が作成できません					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸グループ 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	MC_MoveCircular2D（2 軸円弧補間）命令において、半径指定方式が指定され、指定された半径では円弧の軌跡が作成できない		円弧の軌跡が作成できるように半径を修正してください		使用する命令の処理を確認し、円弧の軌跡が作成できるような半径を設定してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	円弧補間半径オーバーフロー			イベントコード	5401547DHex	
内容	MC_MoveCircular2D（2 軸円弧補間）命令において、通過点指定方式／中心点指定方式のときに、円弧の半径が最大値を超えました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸グループ 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	MC_MoveCircular2D（2 軸円弧補間）命令において、通過点指定方式／中心点指定方式のときに、円弧の半径をパルス単位に変換したときに 40 ビットの範囲を超えた		該当命令を動作仕様に基づき、円弧の半径をパルス単位に変換したときに 40 ビットの範囲を超えないように入力パラメータを修正してください。 通過点指定の場合： 始点、通過点、終点 中心点指定の場合： 始点、終点、中心点		使用する命令の処理を確認し、円弧の半径をパルス単位に変換したときに 40 ビットの範囲を超えないような入力パラメータにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	• 異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります • 半径指定方式の場合に半径が最大値を超えたときは、「通過点位置／中心位置／半径指定範囲外」異常が出ます					

イベント名	円弧軸指定範囲外			イベントコード	5401547EHex	
内容	モーション制御命令の入力変数「CircAxes」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸グループ 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください		該当命令に入力されているパラメータを入力変数の範囲を超えないようにしてください	
	「CircAxes」に指定された軸が軸グループ設定の構成軸に含まれていない		「CircAxes」に指定する軸を軸グループ構成に含むように設定を変更してください		「CircAxes」に指定する軸を軸グループ構成に含めておいてください	
	「CircAxes」の 2 軸に同一の軸を指定している		「CircAxes」に指定する 2 軸が異なる軸になるように修正してください		「CircAxes」で指定する 2 軸が異なるようにプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	補助軸／従軸・軸番号非昇順			イベントコード	5401547FHex	
内容	モーション制御命令で指定された入力変数「Auxiliary」と「Slave」のパラメータの値が昇順に並んでいません					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力変数「Auxiliary」と「Slave」のパラメータが非昇順		該当命令の「Auxiliary」と「Slave」の入力パラメータに指定する軸番号が昇順になるように修正してください		「Auxiliary」と「Slave」に指定する軸番号が昇順になるようにプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	カムテーブルプロパティ更新中データ昇順異常			イベントコード	54015480Hex	
内容	有効データ数計算中に位相が昇順になっていないことが判明しました。または、計算した結果、有効データ数が「0」であることが判明しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行中
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_COM.MFaultLvl.Active		BOOL		MC 共通 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	有効データ数計算中に位相が昇順になっていないことが判明した		カムデータを位相が昇順になるように修正してください		カムテーブルデータの位相が昇順になるようにしてください	
	計算した結果、有効データ数が「0」であることが判明した		カムテーブルのデータを「0」以外の位相も含むように修正してください		カムテーブルのデータを「0」以外の位相も含むようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	MC 設定書込の対象範囲外			イベントコード	54015481Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「Target」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_COM.MFaultLvl.Active		BOOL		MC 共通 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	主軸移動距離指定範囲外			イベントコード	54015482Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「MasterDistance」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	主軸加速移動距離指定範囲外			イベントコード	54015483Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「MasterDistanceInACC」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	主軸減速移動距離指定範囲外			イベントコード	54015484Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「MasterDistanceInDEC」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	実行モード選択範囲外			イベントコード	54015487Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「ExecutionMode」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	軸間偏差許容値範囲外			イベントコード	54015488Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「PermittedDeviation」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_COM.MFaultLvl.Active		BOOL		MC 共通 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	通過点位置／中心位置／半径指定範囲外			イベントコード	54015489Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「AuxPoint」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸グループ 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	通過点指定または中心指定の場合、「AuxPoint」の値をパルス単位に変換したときに、符号付き 40 ビットの範囲を超えている		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください	
	半径指定の場合、「AuxPoint[0]」の絶対値をパルス単位に変換したときに、40 ビットの範囲を超えている					
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	終点指定範囲外			イベントコード	5401548AHex	
内容	モーション制御命令の入力変数「EndPoint」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸グループ 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータをパルス単位に変換したときに符号付き 40 ビットの範囲を超えている		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	従軸移動距離指定範囲外			イベントコード	5401548BHex	
内容	モーション制御命令の入力変数「SlaveDistance」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータをパルス単位に変換したときに 40 ビットの範囲を超えている		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	位相補正量範囲外			イベントコード	5401548CHex	
内容	モーション制御命令の入力変数「PhaseShift」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータの絶対値をパルス単位に変換したときに 40 ビットの範囲を超えている		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	定寸距離範囲外			イベントコード	5401548DHex	
内容	モーション制御命令の入力変数「FeedDistance」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータの絶対値をパルス単位に変換したときに 40 ビットの範囲を超えている		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	補助軸／従軸同一			イベントコード	5401548EHex	
内容	モーション制御命令の入力変数「Auxiliary」と「Slave」に指定された軸が同じです					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力変数「Auxiliary」と「Slave」のパラメータが同一		該当命令の入力変数「Auxiliary」と「Slave」に指定される軸が異なるようにパラメータを修正してください		命令の入力変数の補助軸と従軸には異なる軸を指定してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	相対位置選択範囲外			イベントコード	5401548FHex	
内容	モーション制御命令の入力変数「Relative」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	カムトランジション指定選択範囲外			イベントコード	54015490Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「CamTransition」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	同期制御解除モード選択範囲外			イベントコード	54015491Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「OutMode」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	外部ラッチ有効命令実行不可			イベントコード	54015492Hex	
内容	エンコーダ軸に対して、入力変数「StopMode」に「_mcImmediateStop（即停止）」を指定してドライバモードの MC_TouchProbe（外部ラッチ有効）命令を実行しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	エンコーダ軸に対して、入力変数「StopMode」に「_mcImmediateStop（即停止）」を指定してドライバモードの MC_TouchProbe（外部ラッチ有効）命令を実行した		エンコーダ軸に対して「StopMode」に「_mcImmediateStop（即停止）」を指定しないようプログラムを修正してください		「_mcImmediateStop（即停止）」を指定してドライバモードの外部ラッチ有効命令を実行する場合は、サーボ軸に対し実行するようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	主軸オフセット設定範囲外			イベントコード	54015493Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「MasterOffset」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータをパルス単位に変換したときに符号付き 40 ビットの範囲を超えている		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	従軸オフセット設定範囲外			イベントコード	54015494Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「SlaveOffset」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータをパルス単位に変換したときに符号付き 40 ビットの範囲を超えている		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	指令現在位置カウント選択範囲外			イベントコード	54015495Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「CmdPosMode」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	主軸ギア比分子範囲外			イベントコード	54015496Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「RatioNumeratorMaster」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	主軸ギア比分母範囲外			イベントコード	54015497Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「RatioDenominatorMaster」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	補助軸ギア比分子範囲外			イベントコード	54015498Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「RatioNumeratorAuxiliary」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	補助軸ギア比分母範囲外			イベントコード	54015499Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「RatioDenominatorAuxiliary」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	主軸位置種別選択範囲外			イベントコード	5401549AHex	
内容	モーション制御命令の入力変数「ReferenceTypeMaster」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	補助軸位置種別選択範囲外			イベントコード	5401549BHex	
内容	モーション制御命令の入力変数「ReferenceTypeAuxiliary」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	目標位置リングカウンタ範囲外			イベントコード	5401549CHex	
内容	実行された命令の目標位置がリングカウンタの範囲外のため、動作することができません					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	リングカウンタの範囲に 0 が含まれない設定のときに、高速原点復帰が実行された		リングカウンタの範囲に 0 が含まれない設定のときは、高速原点復帰を実行することはできません。高速原点復帰を行わないようにプログラムを修正してください。または該当軸のリングカウンタの範囲に 0 が含まれる設定になるよう変更してください		リングカウンタの範囲に 0 が含まれない設定のときは、高速原点復帰を実行することはできません。高速原点復帰を行わないようにプログラムを作成してください。または該当軸のリングカウンタの範囲に 0 が含まれる設定になるようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	軸グループ構成軸設定範囲外			イベントコード	5401549DHex *1	
内容	モーション制御命令の入力変数「Axes」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸グループ 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください	
	軸グループの構成軸を割り付けているタスクが同一でない		該当命令の入力変数「Axes」で指定される軸を、すべて同一タスクに割り付けてください		軸グループの構成軸には、同一タスクに割り付けられている軸を指定してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.01 以降で発生するエラーコード（16#549D）です。

イベント名	軸使用設定範囲外			イベントコード	5401549EHex *1	
内容	モーション制御命令の入力変数「AxisUse」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_COM.MFaultLvl.Active		BOOL		MC 共通 軽度フォールト発生中	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.04 以降で発生するエラーコード（16#549E）です。

イベント名	原点復帰パラメータ設定範囲外			イベントコード	54015700Hex *1	
内容	モーション制御命令の入力変数「HomingParameter」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_COM.MFaultLvl.Active		BOOL		MC 共通 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.03 以降で発生するエラーコード（16#5700）です。

イベント名	軸未使用切り替え異常			イベントコード	54015702Hex *1	
内容	停止中でない、または指令速度飽和中の軸に対して MC_ChangeAxisUse（軸使用変更）命令を実行しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	停止中でない、または指令速度飽和中の軸に対して MC_ChangeAxisUse（軸使用変更）命令を実行した		異常解除を実行し、軸が停止しているとき、指令速度飽和中でないときに MC_ChangeAxisUse（軸使用変更）命令を実行してください。 軸変数の「Status.Disabled」または「Status.Standstill」が TRUE のとき、その軸は停止中です。軸変数の「Details.VelLimit」が TRUE のとき、その軸は指令速度飽和中です		軸が停止しているとき、指令速度飽和中でないときに MC_ChangeAxisUse（軸使用変更）命令を実行してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.04 以降で発生するエラーコード（16#5702）です。

イベント名	軸使用切り替え不可			イベントコード	54015703Hex *1	
内容	使用実軸最大数または使用モーション制御サーボ軸最大数を超えるように MC_ChangeAxisUse（軸使用変更）命令を実行しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_COM.MFaultLvl.Active		BOOL		MC 共通 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	使用実軸最大数を超えるように MC_ChangeAxisUse（軸使用変更）命令を実行した		使用している CPU ユニットの使用実軸最大数を超えないようにプログラムを修正してください		使用している CPU ユニットの使用実軸最大数を超えないようにプログラムを作成してください	
	使用モーション制御サーボ軸最大数を超えるように MC_ChangeAxisUse（軸使用変更）命令を実行した		使用している CPU ユニットの使用モーション制御サーボ軸最大数を超えないようにプログラムを修正してください		使用している CPU ユニットの使用モーション制御サーボ軸最大数を超えないようにプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.06 以降で発生するエラーコード（16#5703）です。

イベント名	軸使用切り替え時モーション制御パラメータ設定異常			イベントコード	54015720Hex *1	
内容	使用軸に切り替えた軸のモーション制御パラメータ設定が不正です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_COM.MFaultLvl.Active		BOOL		MC 共通 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	MC_ChangeAxisUse（軸使用変更）命令で、未使用軸から使用軸に切り替えた軸のモーション制御パラメータ設定が正しくない		Sysmac Studio を使用して、異常が発生した軸の［軸使用］を［使用軸］に変更し、異常箇所を確認して修正してください。異常が発生しなければ［未使用軸］に再変更してダウンロードしてください		［使用軸］の設定で正常に動作することを確認してから、［未使用軸］としてダウンロードしてください	
	モーション制御パラメータ設定のダウンロード中に電源断した		Sysmac Studio からモーション制御パラメータ設定をダウンロードしてください		パラメータ設定の保存中に電源断しないでください	
	不揮発性メモリの故障、または不揮発性メモリの寿命		上記の処置で本異常が解除されない場合は、CPU ユニットを交換してください		なし	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.04 以降で発生するエラーコード（16#5720）です。

イベント名	軸使用切り替え時必須プロセスデータオブジェクト未設定			イベントコード	54015721Hex *1	
内容	使用軸に切り替えた軸の軸種別の必須オブジェクトが設定されていません					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_COM.MFaultLvl.Active		BOOL		MC 共通 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	使用軸に切り替えた軸の軸種別の必須オブジェクトが PDO マッピング設定に設定されていない		Sysmac Studio の［PDO マッピング設定の編集］で、異常が発生した軸の必須オブジェクトを設定してください。 必須オブジェクトについては、『NJ/NX シリーズ コマンドリファレンスマニュアル モーション編（SBCE-434）』を参照してください。		［使用軸］の設定で正常に動作することを確認してから、［未使用軸］としてダウンロードしてください	
	モーション制御パラメータ設定のダウンロード中に電源断した		Sysmac Studio からモーション制御パラメータ設定をダウンロードしてください		パラメータ設定の保存中に電源断しないでください	
	不揮発性メモリの故障、または不揮発性メモリの寿命		上記の処置で本異常が解除されない場合は、CPU ユニットを交換してください		なし	
	［軸使用］が［未使用軸（使用軸に切替不可）］に設定されている軸に対して MC_ChangeAxisUse（軸使用変更）命令が実行された		［軸使用］が［未使用軸（使用軸に切替不可）］に設定されている軸に対して MC_ChangeAxisUse（軸使用変更）命令を実行しないようにプログラムを修正してください		［軸使用］が［未使用軸（使用軸に切替不可）］に設定されている軸に対して MC_ChangeAxisUse（軸使用変更）命令を実行しないようにプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.04 以降で発生するエラーコード（16#5721）です。

イベント名	フィードバック位置オーバーフロー／アンダーフロー発生中			イベントコード	54015722Hex *1	
内容	フィードバック位置オーバーフロー／アンダーフロー発生中に、実行できない命令を起動しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].Obsr.Active		BOOL		軸 監視情報発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	フィードバック位置オーバーフローまたはアンダーフローの発生中に、実行できない命令を起動した		異常解除を実行し、「現在位置変更」または「原点復帰」により、オーバーフローまたはアンダーフロー状態を解除してください		オーバーフローまたはアンダーフローが発生しないようにプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.06 以降で発生するエラーコード（16#5722）です。

イベント名	スイッチ構造体のトラック番号設定範囲外			イベントコード	54015723Hex *1	
内容	モーション制御命令の入出力変数「Switches」に指定した「TrackNumber」の値が範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].Obsr.Active		BOOL		軸 監視情報発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入出力変数に指定した構造体型変数のメンバの値が範囲外		該当命令の入出力変数に指定した構造体型変数のメンバが有効範囲を超えないように値を修正してください		命令の入出力変数に指定する構造体型変数のメンバの値が有効範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.06 以降で発生するエラーコード（16#5723）です。

イベント名	スイッチ構造体の ON 開始位置設定範囲外			イベントコード	54015724Hex *1	
内容	モーション制御命令の入出力変数「Switches」に指定した「FirstOnPosition」の値が範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].Obsr.Active		BOOL		軸 監視情報発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入出力変数に指定した構造体型変数のメンバの値が範囲外		該当命令の入出力変数に指定した構造体型変数のメンバが有効範囲を超えないように値を修正してください		命令の入出力変数に指定する構造体型変数のメンバの値が有効範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.06 以降で発生するエラーコード（16#5724）です。

イベント名	スイッチ構造体の ON 終了位置設定範囲外			イベントコード	54015725Hex *1	
内容	モーション制御命令の入出力変数「Switches」に指定した「LastOnPosition」の値が範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].Obsr.Active		BOOL		軸 監視情報発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入出力変数に指定した構造体型変数のメンバの値が範囲外		該当命令の入出力変数に指定した構造体型変数のメンバが有効範囲を超えないように値を修正してください		命令の入出力変数に指定する構造体型変数のメンバの値が有効範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.06 以降で発生するエラーコード（16#5725）です。

イベント名	スイッチ構造体の方向選択範囲外			イベントコード	54015726Hex *1	
内容	モーション制御命令の入出力変数「Switches」に指定した「AxisDirection」の値が範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].Obsr.Active		BOOL		軸 監視情報発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入出力変数に指定した構造体型変数のメンバの値が範囲外		該当命令の入出力変数に指定した構造体型変数のメンバが有効範囲を超えないように値を修正してください		命令の入出力変数に指定する構造体型変数のメンバの値が有効範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.06 以降で発生するエラーコード（16#5726）です。

イベント名	スイッチ構造体のスイッチモード選択範囲外			イベントコード	54015727Hex *1	
内容	モーション制御命令の入出力変数「Switches」に指定した「CamSwitchMode」の値が範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].Obsr.Active		BOOL		軸 監視情報発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入出力変数に指定した構造体型変数のメンバの値が範囲外		該当命令の入出力変数に指定した構造体型変数のメンバが有効範囲を超えないように値を修正してください		命令の入出力変数に指定する構造体型変数のメンバの値が有効範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.06 以降で発生するエラーコード（16#5727）です。

イベント名	スイッチ構造体の ON 時間設定範囲外			イベントコード	54015728Hex *1	
内容	モーション制御命令の入出力変数「Switches」に指定した「Duration」の値が範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].Obsr.Active		BOOL		軸 監視情報発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入出力変数に指定した構造体型変数のメンバの値が範囲外		該当命令の入出力変数に指定した構造体型変数のメンバが有効範囲を超えないように値を修正してください		命令の入出力変数に指定する構造体型変数のメンバの値が有効範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.06 以降で発生するエラーコード（16#5728）です。

イベント名	トラックオプション構造体の ON 時刻補正設定範囲外			イベントコード	54015729Hex *1	
内容	モーション制御命令の入出力変数「TrackOptions」に指定した「OnCompensation」の値が範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].Obsr.Active		BOOL		軸 監視情報発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入出力変数に指定した構造体型変数のメンバの値が範囲外		該当命令の入出力変数に指定した構造体型変数のメンバが有効範囲を超えないように値を修正してください		命令の入出力変数に指定する構造体型変数のメンバの値が有効範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.06 以降で発生するエラーコード（16#5729）です。

イベント名	トラックオプション構造体の OFF 時刻補正設定範囲外			イベントコード	5401572AHex *1	
内容	モーション制御命令の入出力変数「TrackOptions」に指定した「OffCompensation」の値が範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].Obsr.Active		BOOL		軸 監視情報発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入出力変数に指定した構造体型変数のメンバの値が範囲外		該当命令の入出力変数に指定した構造体型変数のメンバが有効範囲を超えないように値を修正してください		命令の入出力変数に指定する構造体型変数のメンバの値が有効範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.06 以降で発生するエラーコード（16#572A）です。

イベント名	スイッチ構造体型変数の配列要素数範囲外			イベントコード	5401572BHex *1	
内容	モーション制御命令の入出力変数「Switches」に指定した構造体型変数の配列の要素数が範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].Obsr.Active		BOOL		軸 監視情報発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入出力変数に指定した構造体型変数の配列の要素数が範囲外		該当命令の入出力変数に指定した構造体型変数の配列の要素数が範囲を超えないように修正してください		命令の入出力変数に指定する構造体型変数の配列の要素数が範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.06 以降で発生するエラーコード（16#572B）です。

イベント名	出力信号構造体型変数の配列要素数範囲外		イベントコード	5401572CHex *1		
内容	モーション制御命令の入出力変数「Outputs」に指定した構造体型変数の配列の要素数が範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].Obsr.Active		BOOL		軸 監視情報発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入出力変数に指定した構造体型変数の配列の要素数が範囲外		該当命令の入出力変数に指定した構造体型変数の配列の要素数が範囲を超えないように修正してください		命令の入出力変数に指定する構造体型変数の配列の要素数が範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.06 以降で発生するエラーコード（16#572C）です。

イベント名	トラックオプション構造体型変数の配列要素数範囲外		イベントコード	5401572DHex *1		
内容	モーション制御命令の入出力変数「TrackOptions」に指定した構造体型変数の配列の要素数が範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].Obsr.Active		BOOL		軸 監視情報発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入出力変数に指定した構造体型変数の配列の要素数が範囲外		該当命令の入出力変数に指定した構造体型変数の配列の要素数が範囲を超えないように修正してください		命令の入出力変数に指定する構造体型変数の配列の要素数が範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.06 以降で発生するエラーコード（16#572D）です。

イベント名	出力信号とトラックオプションの配列要素数不一致			イベントコード	5401572EHex *1	
内容	モーション制御命令の入出力変数「Outputs」と「TrackOptions」に指定した構造体型変数の配列の要素数が一致していません					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].Obsr.Active		BOOL		軸 監視情報発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入出力変数に指定した出力信号構造体型変数とトラックオプション構造体型変数の配列の要素数が一致していない		該当命令の入出力変数に指定した出力信号構造体型変数とトラックオプション構造体型変数の配列の要素数が一致するように修正してください		命令の入出力変数に指定する出力信号構造体型変数とトラックオプション構造体型変数の配列の要素数が一致するようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.06 以降で発生するエラーコード（16#572E）です。

イベント名	モーション命令多重起動不可（主軸）			イベントコード	5401572FHex *1	
内容	命令多重起動時に変更できない入出力変数「Master」を変更しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令多重起動時に変更できない入出力変数「Master」を変更		該当命令の多重起動時に入出力変数「Master」の値を変更しないようにプログラムを修正してください		該当命令の多重起動時に入出力変数「Master」の値を変更しないようにプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.06 以降で発生するエラーコード（16#572F）です。

イベント名	モーション命令多重起動不可（位置種別選択）			**イベントコード**	54015730Hex *1	
内容	命令多重起動時に変更できない入出力変数「ReferenceType」を変更しました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	命令	**検出タイミング**	命令起動時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	命令多重起動時に変更できない入出力変数「ReferenceType」を変更		該当命令の多重起動時に入出力変数「ReferenceType」の値を変更しないようにプログラムを修正してください		該当命令の多重起動時に入出力変数「ReferenceType」の値を変更しないようにプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.06 以降で発生するエラーコード（16#5730）です。

イベント名	スイッチ構造体の同一トラック指定数範囲外			**イベントコード**	54015731Hex *1	
内容	モーション制御命令の入出力変数「Switches」に指定した「TrackNumber」の同一トラック番号の数が範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	命令	**検出タイミング**	命令起動時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_MC_AX[*].Obsr.Active		BOOL		軸 監視情報発生中	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	命令の入出力変数に指定したスイッチ構造体型変数の「TrackNumber」に指定した同一トラック番号の数が 1 トラックに指定可能な個数の範囲外		「TrackNumber」に指定した同一トラック番号の数が 1 トラックに指定可能な個数を超えないように値を修正してください		「TrackNumber」に指定した同一トラック番号の数が 1 トラックに指定可能な個数を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.06 以降で発生するエラーコード（16#5731）です。

イベント名	軸パラメータ書込不可			イベントコード	5401573AHex *1	
内容	未使用軸以外の軸に対して該当命令を起動しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_COM.MFaultLvl.Active		BOOL		MC 共通 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	使用軸または未作成軸に対して該当命令を起動した		MC_ChangeAxisUse（軸使用変更）命令で、対象軸を未使用軸に変更した後に該当命令を起動するようにプログラムを修正してください		該当命令の起動時に、対象軸が未使用軸となるようにプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.08 以降で発生するエラーコード（16#573A）です。

イベント名	軸パラメータ設定範囲外			イベントコード	5401573BHex *1	
内容	モーション制御命令の入力変数「AxisParameter」に指定されたパラメータが有効範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_COM.MFaultLvl.Active		BOOL		MC 共通 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力変数「AxisParameter」に指定されたパラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。 範囲を超えているパラメータまたはパラメータ間の不整合事項は付属情報で確認できます		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。 入力変数の有効範囲は MC_WriteAxisParameter（軸パラメータ書込）命令を参照してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.08 以降で発生するエラーコード（16#573B）です。

イベント名	カムプロパティ設定範囲外			イベントコード	5401573CHex *1	
内容	モーション制御命令の入力変数「CamProperty」に指定されたパラメータが有効範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_COM.MFaultLvl.Active		BOOL		MC 共通 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力変数「CamProperty」に指定されたパラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。 範囲を超えているパラメータは付属情報で確認できます		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.08 以降で発生するエラーコード（16#573C）です。

イベント名	カムノード設定範囲外			イベントコード	5401573DHex *1	
内容	モーション制御命令の入力変数「CamNodes」に指定されたパラメータが有効範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_COM.MFaultLvl.Active		BOOL		MC 共通 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力変数「CamNodes」に指定されたパラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。 範囲を超えているパラメータは付属情報で確認できます		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.08 以降で発生するエラーコード（16#573D）です。

イベント名	カムノード型指定不正			**イベントコード**	5401573EHex *1	
内容	モーション制御命令の入力変数「CamNodes」に指定されたパラメータが_sMC_CAM_NODE 型の配列変数以外です					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	命令	**検出タイミング**	命令起動時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	−	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_MC_COM.MFaultLvl.Active		BOOL		MC 共通 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	命令の入力変数「CamNodes」に指定されたパラメータが_sMC_CAM_NODE 型の配列変数以外		該当命令の入力変数に sMC_CAM_NODE 型の配列変数を指定するようにプログラムを修正してください		該当命令の入力変数に sMC_CAM_NODE 型の配列変数を指定するようにプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.08 以降で発生するエラーコード（16#573E）です。

イベント名	カムテーブル生成ノード数不足			**イベントコード**	5401573FHex *1	
内容	モーション制御命令の入力変数「CamNodes」に指定されたパラメータの配列変数で、要素番号 0 の Phase の値が「0」です					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	命令	**検出タイミング**	命令起動時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	−	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_MC_COM.MFaultLvl.Active		BOOL		MC 共通 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	命令の入力変数「CamNodes」に指定されたパラメータの配列変数で、要素番号 0 の Phase（主軸位相）の値が「0」		入力変数「CamNodes」に指定するパラメータの配列変数で、要素番号 0 の Phase（主軸位相）の値が「0」以外となるようにプログラムを修正してください		入力変数「CamNodes」に指定するパラメータの配列変数で、要素番号 0 の Phase（主軸位相）の値が「0」以外となるようにプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.08 以降で発生するエラーコード（16#573F）です。

イベント名	カムノード主軸位相非昇順			イベントコード	54015740Hex *1	
内容	モーション制御命令の入力変数「CamNodes」に指定されたパラメータの配列変数で、Phase の値が要素番号順に昇順となっていません					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_COM.MFaultLvl.Active		BOOL		MC 共通 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力変数「CamNodes」に指定されたパラメータの配列変数で、Phase（主軸位相）の値が要素番号順に昇順となっていない。または、有効桁 8 桁め以降の切り捨ての結果、非昇順となった		入力変数「CamNodes」に指定するパラメータの配列変数で、Phase（主軸位相）の値が要素番号順に昇順となるようにプログラムを修正してください		入力変数「CamNodes」に指定するパラメータの配列変数で、Phase（主軸位相）の値が要素番号順に昇順となるようにプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.08 以降で発生するエラーコード（16#5740）です。

イベント名	カムテーブル生成データ点数過多			イベントコード	54015741Hex *1	
内容	生成するカムデータ数が、モーション制御命令の入力変数「CamTable」で指定したカムデータ変数の配列の要素数を超えています					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_COM.MFaultLvl.Active		BOOL		MC 共通 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	生成するカムテーブルのカムデータ数が、命令の入力変数「CamTable」で指定したカムデータ変数の配列の要素数を超えている		生成するカムテーブルのカムデータ数が、命令の入力変数「CamTable」で指定したカムデータ変数の配列の要素数を超えないようにプログラムを修正してください。 生成するカムテーブルのカムデータ数は MC_GenerateCamTable（カムテーブル生成）命令を参照してください		生成するカムテーブルのカムデータ数が、命令の入力変数「CamTable」で指定したカムデータ変数の配列の要素数を超えないようにプログラムを作成してください。 生成するカムテーブルのカムデータ数は MC_GenerateCamTable（カムテーブル生成）命令を参照してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.08 以降で発生するエラーコード（16#5741）です。

イベント名	カムテーブル生成変位オーバーフロー			イベントコード	54015742Hex *1	
内容	生成するカムテーブルの Distance が REAL 型で表現できる範囲を超えています					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時／命令実行中
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_COM.MFaultLvl.Active		BOOL		MC 共通 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	生成するカムテーブルの Distance が REAL 型で表現できる範囲を超えている		入力変数「CamNodes」の Curve（曲線形状）に 3 次曲線または 5 次曲線を指定している場合、Distance がオーバーフローしないように InitVel（初期速度）、ConnectingVel（接続速度）、ConnectingAcc（接続加速度）の値を修正してください。Distance の計算方法は MC_GenerateCamTable（カムテーブル生成）命令を参照してください		入力変数「CamNodes」の Curve（曲線形状）に 3 次曲線または 5 次曲線を指定している場合、Distance がオーバーフローしないように InitVel（初期速度）、ConnectingVel（接続速度）、ConnectingAcc（接続加速度）の値を指定してください。Distance の計算方法は MC_GenerateCamTable（カムテーブル生成）命令を参照してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.08 以降で発生するエラーコード（16#5742）です。

イベント名	生成中止カムテーブルの使用			イベントコード	54015743Hex *1	
内容	該当命令の入力変数「CamTable」に生成中止されたカムデータ変数が指定されています					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_COM.MFaultLvl.Active		BOOL		MC 共通 軽度フォールト発生中	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	MC_GenerateCamTable（カムテーブル生成）命令の異常で生成中止されたカムデータ変数が、該当命令の入力変数「CamTable」に指定されている		MC_GenerateCamTable（カムテーブル生成）命令の出力変数 ErrorID（エラーコード）、ErrorParameterCode（パラメータ詳細コード）、ErrorNodePointIndex（ノードポイント要素番号）を確認し、正常なカムデータ変数を生成するようにプログラムを修正してください		MC_GenerateCamTable（カムテーブル生成）命令が正常なカムデータ変数を生成するようにプログラムを作成してください。または、MC_GenerateCamTable（カムテーブル生成）命令が正常に完了した場合だけ、該当命令を起動するようにプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.08 以降で発生するエラーコード（16#5743）です。

イベント名	実行 ID 設定範囲外			イベントコード	54015749Hex *1	
内容	モーション制御命令の入力変数「ExecID」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力変数「ExecID」に指定されたパラメータが入力変数の範囲外		命令の入力変数「ExecID」に指定される入力パラメータが範囲内になるようにプログラムを修正してください		命令の入力変数「ExecID」に指定される入力パラメータが範囲内になるようにプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1: 異常の発生箇所 付属情報 3: 異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.10 以降で発生するエラーコード（16#5749）です。

イベント名	位置オフセット範囲外			イベントコード	5401574AHex *1	
内容	モーション制御命令の入力変数「OffsetPosition」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータをパルス単位に変換したときに符号付き 40 ビットの範囲を超えている		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1: 異常の発生箇所 付属情報 3: 異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.10 以降で発生するエラーコード（16#574A）です。

イベント名	PDS 状態遷移指令選択範囲外			イベントコード	5401574BHex *1	
内容	モーション制御命令の入力変数「TransitionCmd」に指定されたパラメータが範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください	
付属情報	付属情報 1: 異常の発生箇所 付属情報 3: 異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.10 以降で発生するエラーコード（16#574B）です。

イベント名	単軸位置制御軸モーション命令起動不可			イベントコード	5401574CHex *1	
内容	単軸位置制御軸に対し実行できない動作命令を実行しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	単軸位置制御軸に対し、実行できない動作命令を実行した		命令で指定している軸の軸基本設定の制御機能に「0: すべて」を設定してください。 または、軸基本設定の制御機能に「0: すべて」が設定されている軸を指定するようにしてください		同左	
付属情報	付属情報 1: 異常の発生箇所 付属情報 3: 異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.13 以降で発生するエラーコード（16#574C）です。

イベント名	カムモニタモード選択設定範囲外			イベントコード	54015751Hex *1	
内容	モーション制御命令の入力変数「CamMonitorMode」に指定されたカムモニタモード選択が範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	カムモニタモード選択が設定の範囲外		正しいカムモニタモード選択に修正してください		カムモニタモード選択を正しく設定してください	
付属情報	付属情報 1: 異常の発生箇所 付属情報 3: 異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1. 形 NX102-□□□□の CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.32 以降、および形 NX701-□□00、形 NX1P2-□□□□□□、形 NJ501-□□□□（形 NJ501-□□20 を除く）、形 NJ301-□□□□、形 NJ101-□□00 の CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.21 以降で発生するエラーコード(16#5751)です。

イベント名	カムモニタ値データ型不一致			イベントコード	54015752Hex *1	
内容	モーション制御命令の入出力変数「CamMonitorValue」に指定されたカムモニタ値変数のデータ型がカムモニタモード選択と不一致です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	カムモニタ値に指定した変数のデータ型がカムモニタモード選択と不一致		正しいカムモニタ値に指定した変数のデータ型に修正してください		カムモニタ値に指定した変数のデータ型を正しく設定してください	
付属情報	付属情報 1: 異常の発生箇所 付属情報 3: 異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

*1. 形 NX102-□□□□の CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.32 以降、および形 NX701-□□00、形 NX1P2-□□□□□□、形 NJ501-□□□□（形 NJ501-□□20 を除く）、形 NJ301-□□□□、形 NJ101-□□00 の CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.21 以降で発生するエラーコード(16#5752)です。

イベント名	X バスユニット不在			イベントコード	54015800Hex	
内容	指定したユニットが存在しません					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	指定した X バスユニットが存在しない		ユニット指定と相手ユニットの構成などが一致するように修正してください		ユニット指定と相手ユニットの構成などが一致するようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx)。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	なし					

イベント名	レスポンスタイムアウト			イベントコード	54015801Hex	
内容	指定したユニットからの応答がありませんでした					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	X バスユニット起動異常、X バスユニット通信異常、X バス機能処理異常発生のいずれかにより、指定したユニットとの通信が停止		指定したユニットの異常状態を復旧し、正常に起動してください		指定したユニットに異常がないことを確認し、実施してください	
	指定されたレスポンス監視時間が短い		レスポンス監視時間の値を見直してください		なし	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	なし					

イベント名	指定ユニット/ポート番号実行不可			イベントコード	54015C00Hex	
内容	実行が不可能な状態でタグデータリンク制御命令を実行しました。または、指定ユニット、ポート番号で指定した EtherNet/IP ポートが存在しません					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	• EtherNet/IP ポートのリスタート中、または Network Configurator からタグデータリンク設定をダウンロード中に命令が実行された • 指定ユニット、ポート番号で指定した EtherNet/IP ポートが存在しない		• EtherNet/IP ポートのリスタートや設定変更が終了してから命令を実行してください • X バスユニットの構成設定に存在する指定ユニット、ポート番号を指定してください • 該当命令で指定されるユニットが正しく接続されていることを確認してください		• EtherNet/IP ポートのリスタートや設定変更が行われていないときに命令を実行してください • X バスユニットの構成設定に存在する指定ユニット、ポート番号を指定してください • 該当命令で指定されるユニットを正しく接続してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	なし					

イベント名	命令同時実行数オーバー			イベントコード	54015C01Hex	
内容	タグデータリンク制御命令が、同時に実行可能な数を超えて実行されました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	同時に 2 つ以上のタグデータリンク制御命令が実行された		同時に実行するタグデータリンク制御命令が 1 つになるようにプログラムを修正してください		同時に実行するタグデータリンク制御命令が 1 つになるようにプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	なし					

イベント名	ターゲットノード IP アドレス不在			イベントコード	54015C03Hex	
内容	指定ユニット、ポート番号で指定した EtherNet/IP ポートにターゲットノード IP アドレスとのコネクション設定が存在しません					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	指定ユニット、ポート番号で指定した EtherNet/IP ポートにターゲットノード IP アドレスとのコネクション設定が存在しない		該当命令で指定される EtherNet/IP ポートのコネクション設定に存在するターゲットノード IP アドレスを指定してください		該当命令で指定される EtherNet/IP ポートのコネクション設定に存在するターゲットノード IP アドレスを指定してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	なし					

イベント名	コネクション通信異常			イベントコード	54015C04Hex	
内容	ターゲットノード IP アドレスで指定したターゲットノードと通信できません					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	• ターゲットノードが正しく接続されていない • ターゲットノードの電源が入っていない • Ethernet ケーブルの断線、はずれ • ノイズ		• ターゲットノードが正しく接続されていることを確認してください。 • ターゲットノードの電源が入っていることを確認してください • Ethernet ケーブルが断線していないこと、はずれていないことを確認してください • ノイズが発生していないことを確認してください		• ターゲットノードが正しく接続された状態にしてください • ターゲットノードの電源が入った状態にしてください • Ethernet ケーブルを交換し、確実に接続された状態にしてください • ノイズが多い場合はノイズ対策を行ってください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	なし					

イベント名	コネクション設定異常			イベントコード	54015C05Hex	
内容	ターゲットノードから異常レスポンスを受信しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	コネクション設定が間違っている		コネクション設定を修正し、Network Configurator や Sysmac Studio からダウンロードしてください		正しいコネクション設定を作成し、Network Configurator や Sysmac Studio からダウンロードしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	なし					

イベント名	目標位置正方向ソフトウェアリミットオーバー		**イベントコード**	54016440Hex		
内容	指定した位置が正方向ソフトウェアリミットの範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	命令	**検出タイミング**	命令起動時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当命令を仕様どおりに終了		

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active	BOOL	軸 軽度フォールト発生中
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active	BOOL	軸グループ 軽度フォールト発生中

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	命令の入力変数「Position」に指定されたパラメータが正方向ソフトウェアリミットの範囲外	該当命令の入力変数「Position」で指定されているパラメータを正方向ソフトウェアリミットの範囲内になるように修正してください	命令の入力変数「Position」に指定される入力パラメータが正方向ソフトウェアリミットの範囲内になるようにしてください
	開始位置が正方向ソフトウェアリミットの範囲外で、ソフトウェアリミットの範囲とは反対の方向への動作を指定した命令を実行	該当命令での移動方向が正方向ソフトウェアリミット範囲内に向かう方向になるようにプログラムを修正してください	開始位置が正方向ソフトウェアリミット範囲外の場合は、移動方向が正方向ソフトウェアリミット範囲内に向かう方向になるようにプログラムを作成してください
	通過点指定されている MC_MoveCircular2D（2 軸円弧補間）命令の入力変数「AuxPoint」に指定されたパラメータが正方向ソフトウェアリミットの範囲外	該当命令の入力変数「AuxPoint」で指定されているパラメータを正方向ソフトウェアリミットの範囲内になるように修正してください	通過点指定されている MC_MoveCircular2D（2 軸円弧補間）命令の入力変数「AuxPoint」で指定されているパラメータが正方向ソフトウェアリミットの範囲内になるようにしてください

付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります

イベント名	目標位置負方向ソフトウェアリミットオーバー			イベントコード	54016441Hex	
内容	指定した位置が負方向ソフトウェアリミットの範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸グループ 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力変数「Position」に指定されたパラメータが負方向ソフトウェアリミットの範囲外		該当命令の入力変数「Position」で指定されているパラメータを負方向ソフトウェアリミットの範囲内になるように修正してください		命令の入力変数「Position」に指定される入力パラメータが負方向ソフトウェアリミットの範囲内になるようにしてください	
	開始位置が負方向ソフトウェアリミットの範囲外で、ソフトウェアリミットの範囲とは反対の方向への動作を指定した命令を実行		該当命令での移動方向が負方向ソフトウェアリミット範囲内に向かう方向になるようにプログラムを修正してください		開始位置が負方向ソフトウェアリミット範囲外の場合は、移動方向が負方向ソフトウェアリミット範囲内に向かう方向になるようにプログラムを作成してください	
	通過点指定されている MC_MoveCircular2D（2 軸円弧補間）命令の入力変数「AuxPoint」に指定されたパラメータが負方向ソフトウェアリミットの範囲外		該当命令の入力変数「AuxPoint」で指定されているパラメータを負方向ソフトウェアリミットの範囲内になるように修正してください		通過点指定されている MC_MoveCircular2D（2 軸円弧補間）命令の入力変数「AuxPoint」で指定されているパラメータが負方向ソフトウェアリミットの範囲内になるようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	指令位置オーバーフロー／アンダーフロー発生中			イベントコード	54016442Hex	
内容	指令位置オーバーフロー／アンダーフロー発生中に、位置決め、オーバーフロー／アンダーフロー方向への命令、または方向を特定できない命令を実行しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	指令位置オーバーフロー／アンダーフロー発生中に以下を行った • 位置決めの指令を実行した • オーバーフロー／アンダーフロー方向への連続制御指令を実行した • 方向を特定できない指令（同期機能、トルク制御）を実行した		異常解除を実行し、原点復帰あるいは現在位置プリセットにより、オーバーフロー／アンダーフロー状態を解除してください		オーバーフロー／アンダーフローを発生させないようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	正方向限界入力中			イベントコード	54016443Hex	
内容	正方向限界入力が「ON」の状態で正方向に動作する命令を実行しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸グループ 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	正方向限界入力が「ON」の状態で正方向に動作する命令を実行、または正方向限界入力が「ON」の状態で動作方向を指定しない命令を実行。正方向限界入力が「ON」の状態で軸グループ動作命令を実行		異常解除を実行し、負方向への復帰動作を行ってください。軸グループ動作命令の実行中に異常が発生した場合は、異常が発生した軸グループを無効にしたうえで上記復帰動作を行なってください。再度本異常が発生する場合は、正方向限界信号の接続、正方向限界入力の論理設定、起動指令の実行条件を確認し、間違いを修正してください。 論理設定は軸パラメータとスレーブ側の設定の両方を確認してください		正方向限界信号の接続、正方向限界入力の論理設定、起動命令の実行条件に間違いがないことを確認してください。 論理設定は軸パラメータとスレーブ側の設定の両方を確認してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	負方向限界入力中			イベントコード	54016444Hex	
内容	負方向限界入力が「ON」の状態で負方向に動作する命令を実行しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸グループ 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	負方向限界入力が「ON」の状態で負方向に動作する命令を実行、または負方向限界入力が「ON」の状態で動作方向を指定しない命令を実行。負方向限界入力が「ON」の状態で軸グループ動作命令を実行		異常解除を実行し、正方向への復帰動作を行ってください。軸グループ動作命令の実行中に異常が発生した場合は、異常が発生した軸グループを無効にしたうえで上記復帰動作を行なってください。再度本異常が発生する場合は、負方向限界信号の接続、負方向限界入力の論理設定、起動指令の実行条件を確認し、間違いを修正してください。 論理設定は軸パラメータとスレーブ側の設定の両方を確認してください		負方向限界信号の接続、負方向限界入力の論理設定、起動命令の実行条件に間違いがないことを確認してください。 論理設定は軸パラメータとスレーブ側の設定の両方を確認してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

イベント名	サーボ主回路電源オフ状態			**イベントコード**	54017422Hex	
内容	サーボドライバの主回路電源が「OFF」の状態で、サーボ ON を実行しました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	命令	**検出タイミング**	命令起動時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	ー	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	サーボドライバの主回路電源「OFF」状態で、サーボ ON 実行		本異常が発生している軸のサーボドライバの主回路電源を「ON」してからサーボ ON を実行してください		サーボドライバの主回路電源を「ON」してからサーボ ON を実行してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります					

1-2 NX バス機能モジュール

1-2-1 NX バス関連

イベント名	NX バスコントローラ異常			**イベントコード**	04100000Hex	
内容	NX バスでエラーが発生しました					
発生源	NX バス機能モジュール		**発生源詳細**	マスタ	**検出タイミング**	CPU ユニットの電源投入時／コントローラリセット時／NX バス通信中
異常の属性	**重要度**	部分停止フォールト	**復旧方法**	CPU ユニットの電源再投入／コントローラリセット	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	I/O 通信不可、メッセージ不可		

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	−	−
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	CPU ユニットと NX ユニットの間で I/O 通信異常が発生した	CPU ユニットを電源再投入してください。本異常が再発する場合は CPU ユニットを交換してください	なし
付属情報	付属情報 1：システム情報		
注意点／備考	なし		

イベント名	NX バスハードウェア異常			**イベントコード**	04110000Hex	
内容	NX バス機能モジュールでハードウェアの異常を検出しました					
発生源	NX バス機能モジュール		**発生源詳細**	マスタ	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	部分停止フォールト	**復旧方法**	CPU ユニットの電源再投入／コントローラリセット	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	I/O 通信不可、メッセージ不可		

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	−	−
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	NX バスに関するハードウェアの異常を検知した	CPU ユニットを電源再投入してください。本異常が再発する場合は CPU ユニットを交換してください	なし
付属情報	付属情報 1：システム情報 付属情報 2：システム情報 付属情報 3：システム情報 付属情報 4：システム情報		
注意点／備考	なし		

イベント名	NX バスメモリチェックエラー			**イベントコード**	10600000Hex	
内容	NX バス機能モジュール内部のメモリチェックでエラーを検出しました					
発生源	NX バス機能モジュール		**発生源詳細**	マスタ	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	部分停止フォールト	**復旧方法**	CPU ユニットの電源再投入／コントローラリセット	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	I/O 通信不可、メッセージ不可		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	内部保護回路のメモリチェックにより、エラーを検出した		CPU ユニットを電源再投入してください。本異常が再発する場合は CPU ユニットを交換してください		なし	
付属情報	付属情報 1：システム情報					
注意点／備考	なし					

イベント名	NX ユニット動作設定の読み出し失敗			**イベントコード**	10610000Hex	
内容	NX ユニット動作設定の読み出し処理に失敗しました。 CPU ユニットを電源再投入すると、前回正常に保存完了したときの設定値となります					
発生源	NX バス機能モジュール		**発生源詳細**	マスタ	**検出タイミング**	CPU ユニットの電源投入時／コントローラリセット時／NX バスのリスタート時
異常の属性	**重要度**	部分停止フォールト	**復旧方法**	CPU ユニットの電源再投入／コントローラリセット／NX バスのリスタート	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	I/O 通信不可、メッセージ可		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	CPU ユニットに NX ユニット動作設定が正しく保存できていない		NX ユニット動作設定を確認し、正しい設定に変更してください		CPU ユニットへのユニット動作設定の転送中や NX_SaveParam 命令の実行中に、CPU ユニットを電源断しないでください	
付属情報	付属情報 1：システム情報					
注意点／備考	なし					

イベント名	NX ユニット装着台数超過			イベントコード	24D00000Hex	
内容	NX ユニットの装着台数が CPU ユニットの規定値を超えています					
発生源	NX バス機能モジュール		発生源詳細	マスタ	検出タイミング	CPU ユニットの電源投入時／コントローラリセット時／NX バスのリスタート時
異常の属性	重要度	部分停止フォールト	復旧方法	CPU ユニットの電源再投入／コントローラリセット	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	• 上限装着台数以内の位置にある NX ユニットは、I/O 通信不可、メッセージ可 • 上限装着台数を超える位置にある NX ユニットは、I/O 通信不可、メッセージ不可		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	CPU ユニットに規定台数を超える NX ユニットを装着している		CPU ユニットに装着する NX ユニットを規定台数以下にしてください		規定台数の範囲内で NX ユニットを装着してください	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	NX ユニット総 I/O データサイズ超過			イベントコード	24D20000Hex	
内容	装着されている NX ユニットの総 I/O データサイズが、CPU ユニットの最大規定値を超えています					
発生源	NX バス機能モジュール		発生源詳細	マスタ	検出タイミング	CPU ユニットの電源投入時／コントローラリセット時／NX バスのリスタート時
異常の属性	重要度	部分停止フォールト	復旧方法	CPU ユニットの電源再投入／コントローラリセット	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	I/O 通信不可、メッセージ可		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	装着されている NX ユニットの総 I/O データサイズが、CPU ユニットの最大規定値を超えている		CPU ユニットに装着する NX ユニットを減らすことにより、総 I/O データサイズを最大規定値以下にしてください		CPU ユニットに装着する NX ユニットを減らすことにより、総 I/O データサイズを最大規定値以下にしてください	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	パラメータ転送未実行			イベントコード	356D0000Hex *1	
内容	NX ユニットのパラメータが転送されていません					
発生源	NX バス機能モジュール		発生源詳細	マスタ	検出タイミング	電源投入時／コントローラリセット時／運転モード変更時
異常の属性	重要度	部分停止フォールト	復旧方法	CPU ユニットの電源再投入／コントローラリセット	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	I/O 通信不可、メッセージ可		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	NX ユニットのパラメータが転送されていない		Sysmac Studio で NX ユニットのパラメータを転送後、電源再投入またはコントローラリセットをしてください		コントローラのリセットが必要なダウンロードを実施した場合には、NX ユニットのパラメータ転送が必要です。Sysmac Studio のメッセージの表示内容に従い、ダウンロードをしてください	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.40 以降で発生するイベントです。

イベント名	NX ユニットバージョン不整合			イベントコード	35900000Hex	
内容	CPU ユニットに登録されているユニット構成情報より古い NX ユニットが装着されています					
発生源	NX バス機能モジュール		発生源詳細	マスタ	検出タイミング	CPU ユニットの電源投入時／コントローラリセット時／NX バスのリスタート時
異常の属性	重要度	部分停止フォールト	復旧方法	CPU ユニットの電源再投入／コントローラリセット／NX バスのリスタート	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	• 異常が発生している NX ユニットは、I/O 通信不可、メッセージ不可 • 異常が発生していない NX ユニットは、I/O 通信不可、メッセージ可		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	実構成で装着されている NX ユニットのバージョンが、CPU ユニットに登録されているユニット構成情報のユニットバージョンより古い		実構成にユニット構成情報を合わせる場合は、実構成で装着されている NX ユニットのバージョンを用いたユニット構成情報を CPU ユニットにダウンロードしてください。ユニット構成情報に実構成を合わせる場合は、実構成の NX ユニットをユニット構成情報のユニットバージョン以上のものに交換してください		Sysmac Studio の比較・マージ画面での比較結果が「互換なし」と表示されていないことが確認できたユニット構成情報を、CPU ユニットにダウンロードしてください	
付属情報	付属情報 1：異常が発生している NX ユニットのユニット番号 付属情報 2：異常が発生している NX ユニットのユニット構成情報でのユニットバージョン					
注意点／備考	なし					

イベント名	未登録 NX ユニット装着			**イベントコード**	35910000Hex	
内容	CPU ユニットに登録されているユニット構成情報に存在しない NX ユニットが装着されています。 本イベントに該当する NX ユニットが複数存在する場合、CPU ユニットから一番近い NX ユニットだけがイベント登録されます					
発生源	NX バス機能モジュール		**発生源詳細**	マスタ	**検出タイミング**	CPU ユニットの電源投入時／コントローラリセット時／NX バスのリスタート時
異常の属性	**重要度**	部分停止フォールト	**復旧方法**	CPU ユニットの電源再投入／コントローラリセット／NX バスのリスタート	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	• 異常が発生している NX ユニットは、I/O 通信不可、メッセージ不可 • 異常が発生していない NX ユニットは、I/O 通信不可、メッセージ可		

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	—	—

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	CPU ユニットに登録されているユニット構成情報には存在しないユニットが装着されている	実構成にユニット構成情報を合わせる場合は、該当する NX ユニットを追加したユニット構成情報を CPU ユニットにダウンロードしてください。ユニット構成情報に実構成を合わせる場合は、該当する NX ユニットを取り外してください	CPU ユニットにダウンロードしたプロジェクトと、システム構成を一致させてください
	NX ユニットの装着設定が「無効」のユニットが装着されている	実構成にユニット構成情報を合わせる場合は、該当する NX ユニットの装着設定を「有効」にしたユニット構成情報を CPU ユニットにダウンロードしてください。ユニット構成情報に実構成を合わせる場合は、該当する NX ユニットを取り外してください	

付属情報	付属情報 1：異常が発生している NX ユニットの装着位置
注意点／備考	なし

イベント名	NX ユニットのシリアル番号不一致			**イベントコード**	35930000Hex	
内容	CPU ユニットに登録されているユニット構成情報とは異なるシリアル番号の NX ユニットが装着されています					
発生源	NX バス機能モジュール		**発生源詳細**	マスタ	**検出タイミング**	CPU ユニットの電源投入時／コントローラリセット時／NX バスのリスタート時
異常の属性	**重要度**	部分停止フォールト	**復旧方法**	CPU ユニットの電源再投入／コントローラリセット／NX バスのリスタート	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	• 異常が発生している NX ユニットは、I/O 通信不可、メッセージ不可 • 異常が発生していない NX ユニットは、I/O 通信不可、メッセージ可		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	CPU ユニットに登録されているユニット構成情報で設定したシリアル番号の NX ユニットが装着されていない		ユニット構成情報に実構成を合わせる場合は、該当する NX ユニットのシリアル番号を一致させてください。実構成にユニット構成情報を合わせる場合は、該当する NX ユニットのシリアル番号を設定したユニット構成情報を CPU ユニットにダウンロードしてください		シリアル番号照合「有効」への設定は、実際に装着したユニットのシリアル番号を Sysmac Studio のプロジェクトに読み出したうえで、行ってください	
付属情報	付属情報 1：異常が発生している NX ユニットのユニット番号 付属情報 2：異常が発生している NX ユニットのユニット構成情報でのシリアル番号					
注意点／備考	なし					

イベント名	NX バス機能処理異常			**イベントコード**	44440000Hex	
内容	NX バス機能モジュールで致命的な異常を検出しました					
発生源	NX バス機能モジュール		**発生源詳細**	マスタ	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	部分停止フォールト	**復旧方法**	CPU ユニットの電源再投入	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	I/O 通信不可、メッセージ不可		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	ソフトウェアにエラーが発生した		当社営業または代理店にお問い合わせください		なし	
付属情報	付属情報 1：システム情報 付属情報 2：システム情報 付属情報 3：システム情報 付属情報 4：システム情報					
注意点／備考	なし					

イベント名	他のイベントによる NX バスの I/O 通信停止			イベントコード	85540000Hex	
内容	NX バスの I/O 通信を実施できない異常が発生したため、NX バスの I/O 通信を停止しました					
発生源	NX バス機能モジュール		発生源詳細	マスタ	検出タイミング	常時
異常の属性	重要度	部分停止フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	I/O 通信不可、メッセージ可		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	縮退運転対象である軽度フォールトの異常（他のイベント）が発生しており、縮退運転設定が「停止する」となっているため、I/O 通信を停止した		本イベントの発生要因となった他のイベントの異常を取り除いてください		縮退運転の対象となる異常が発生したときに I/O 通信を継続させたい場合は、縮退運転設定を「縮退する」に変更してください	
	「登録 NX ユニット未装着」が発生しており、実構成が I/O 通信を開始できない構成となっているため、I/O 通信を停止した					
付属情報	付属情報 1：本イベントの発生要因となったイベントコード 付属情報 2：システム情報					
注意点／備考	なし					

イベント名	登録 NX ユニット未装着			イベントコード	35920000Hex	
内容	CPU ユニットに登録されているユニット構成情報に存在する NX ユニットが装着されていません。 本イベントに該当する NX ユニットが複数存在する場合、CPU ユニットから一番近い NX ユニットだけがイベント登録されます					
発生源	NX バス機能モジュール		発生源詳細	マスタ	検出タイミング	CPU ユニットの電源投入時／コントローラリセット時／NX バスのリスタート時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	CPU ユニットの電源再投入／コントローラリセット／NX バスのリスタート	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	異常が発生している NX ユニットは、I/O 通信不可、メッセージ不可		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	CPU ユニットに登録されているユニット構成情報に存在する NX ユニットが装着されていない		ユニット構成情報に実構成を合わせる場合は、該当する NX ユニットを装着してください。実構成にユニット構成情報を合わせる場合は、該当する NX ユニットを削除したユニット構成情報を CPU ユニットにダウンロードしてください		CPU ユニットにダウンロードしたプロジェクトとシステム構成を一致させてください	
	NX ユニット電源追加供給ユニットの電源が ON していない		NX ユニット電源追加供給ユニットの電源を ON してください		CPU ラックへのユニット電源の供給は、同一のユニット電源から配線するようにしてください	
付属情報	付属情報 1：異常が発生している NX ユニットのユニット番号					
注意点／備考	なし					

イベント名	NX バス通信異常			イベントコード	85500000Hex	
内容	NX バス通信を正常に行えない通信の異常を検出しました。 本イベントに該当する NX ユニットが複数存在する場合、CPU ユニットから一番近い NX ユニットだけがイベント登録されます					
発生源	NX バス機能モジュール		発生源詳細	マスタ	検出タイミング	常時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	CPU ユニットの電源再投入／コントローラリセット／NX バスのリスタート	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	異常が発生している NX ユニット以降の位置にある NX ユニットは、I/O 通信不可、メッセージ不可		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	振動／衝撃による NX バスコネクタの接触不良		NX ユニット、エンドカバーを確実に取り付け、エンドプレートで固定してください		ユーザーズマニュアルに従った設置をしてください	
	NX バスコネクタへの過度のノイズ印加		ユーザーズマニュアルに沿ってノイズ対策を実施してください			
	NX ユニットが外れた		外れた NX ユニットを再度取り付けてください			
	NX ユニットの異常		該当の NX ユニットを電源再投入してください。本異常が再発する場合は NX ユニットを交換してください		なし	
付属情報	付属情報 1：異常が発生している NX ユニットのユニット番号					
注意点／備考	なし					

イベント名	NX ユニット通信タイムアウト			イベントコード	85510000Hex	
内容	NX ユニットへの I/O データ通信で異常が発生しました					
発生源	NX バス機能モジュール		発生源詳細	マスタ	検出タイミング	常時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	異常が発生している NX ユニットは、I/O 通信不可、メッセージ可		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	イベント「NX バス通信異常」が発生している		「NX バス通信異常」の処置対策を行ってください		「NX バス通信異常」の再発防止を行ってください	
	NX ユニットの異常		該当の NX ユニットを電源再投入してください。本異常が再発する場合は NX ユニットを交換してください		なし	
付属情報	付属情報 1：異常が発生している NX ユニットのユニット番号 付属情報 2：システム情報					
注意点／備考	なし					

イベント名	NX ユニット初期化異常			イベントコード	85520000Hex	
内容	NX ユニットの初期化に失敗しました					
発生源	NX バス機能モジュール		発生源詳細	マスタ	検出タイミング	CPU ユニットの電源投入時／コントローラリセット時／NX バスのリスタート時／異常解除時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	異常が発生している NX ユニットは、I/O 通信不可、メッセージ可		

システム定義変数	変数名	データ型	名称
	なし	−	−

発生要因とその処置	発生要因（推定原因）	処置対策	再発防止
	CPU ユニットに保存されているユニット構成情報での初期処理に失敗した	Sysmac Studio を接続して、CPU ユニットへユニット構成情報を再設定してください	CPU ユニットおよび NX ユニットにユニット構成情報をダウンロードしてください
	イベント「NX バス通信異常」が発生している	「NX バス通信異常」の処置対策を行ってください	「NX バス通信異常」の再発防止を行ってください
	アナログユニットの全チャネルの有効/無効設定が「無効」に設定されている	最低 1 つのチャネルの有効/無効設定を「有効」に設定してください	アナログユニットは、最低 1 つのチャネルの有効/無効設定を「有効」に設定してください
	NX ユニットが初期処理に失敗した	該当の NX ユニットを電源再投入してください。本異常が再発する場合は NX ユニットを交換してください	アナログユニットは、最低 1 つのチャネルの有効/無効設定を「有効」に設定してください

付属情報	付属情報 1：異常が発生している NX ユニットのユニット番号 付属情報 2：システム情報
注意点／備考	なし

イベント名	NX ユニット起動異常			イベントコード	85530000Hex	
内容	NX ユニットの起動に失敗しました					
発生源	NX バス機能モジュール		発生源詳細	マスタ	検出タイミング	CPU ユニットの電源投入時／コントローラリセット時／NX バスのリスタート時／異常解除時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	CPU ユニットの電源再投入／コントローラリセット	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	異常が発生している NX ユニットは、I/O 通信不可、メッセージ不可		

システム定義変数	変数名	データ型	名称
	なし	−	−

発生要因とその処置	発生要因（推定原因）	処置対策	再発防止
	NX ユニットで起動異常が発生した	該当の NX ユニットを電源再投入してください。本異常が再発する場合は NX ユニットを交換してください	なし

付属情報	付属情報 1：異常が発生している NX ユニットの装着位置 付属情報 2：システム情報
注意点／備考	なし

イベント名	バックアップ実行失敗（NX ユニット）			**イベントコード**	103C0000Hex	
内容	NX ユニットのバックアップが異常終了しました					
発生源	NX バス機能モジュール		**発生源詳細**	マスタ	**検出タイミング**	バックアップ実行時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	−	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	ほかに NX バス機能モジュールに関する異常が発生している		NX バス機能モジュールに関する異常を確認し、処置対策を行ってください		NX バスに関連する異常が発生していない状態でバックアップを行ってください	
	イベント「NX バス通信異常」が発生している		「NX バス通信異常」の処置対策を実施してください			
	NX ユニットからバックアップデータを受信できない		該当の NX ユニットの異常を解除してください			
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 • 0:NX バスマスタ • 1 以上:NX ユニットのユニット番号 付属情報 2：異常要因 • 1:NX バス機能モジュールに関する異常が発生 • 2:NX ユニットとの通信に失敗 付属情報 3：システム情報					
注意点／備考	なし					

イベント名	リストア実行失敗（NX ユニット）			イベントコード	103D0000Hex	
内容	NX ユニットのリストアが異常終了しました					
発生源	NX バス機能モジュール		発生源詳細	マスタ	検出タイミング	リストア実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	ほかに NX バス機能モジュールに関する異常が発生している		NX バス機能モジュールに関する異常を確認し、処置対策を行ってください		NX バスに関連する異常が発生しない状態でリストアを行ってください	
	イベント「NX バス通信異常」が発生している		「NX バス通信異常」の処置対策を実施してください			
	NX ユニットへバックアップデータを送信できない		該当の NX ユニットの異常を解除してください			
	バックアップファイルと実際のユニット構成が不一致		NX ユニットのリビジョンはバックアップ時と同等か、それ以上としてください。シリアル番号チェック基準を「設定値= 実機」としてスレーブを交換する場合は、リストア機能を使わずに、Sysmac Studio でネットワーク構成を変更し、ダウンロード、およびスレーブパラメータの転送を行ってください			
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 • 0:NX バスマスタ • 1 以上:NX ユニットのユニット番号 付属情報 2：異常要因 • 1:NX バス機能モジュールに関する異常が発生 • 2:NX ユニットとの通信に失敗 • 3:バックアップファイルと実際のユニット構成が不一致 付属情報 3：システム情報					
注意点／備考	なし					

イベント名	NX ユニット用イベントログの保存失敗			イベントコード	10620000Hex	
内容	NX ユニット用イベントログの保存または読み出しに失敗しています。 このまま継続運転しても制御に支障はありませんが、CPU ユニットの電源断時にイベントログが保存されない可能性があります					
発生源	NX バス機能モジュール		発生源詳細	マスタ	検出タイミング	CPU ユニットの電源投入時／コントローラリセット時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	過去のイベントログの一部、または全部の読み出し不可		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	NX ユニット用イベントログエリアのデータが不正		CPU ユニットを電源再投入しても本異常が再発する場合は、NX ユニット用イベントログエリアのハードウェア故障の可能性があります。CPU ユニットのイベントログ機能を使用する場合は、CPU ユニットを交換してください		なし	
付属情報	付属情報 1：システム情報					
注意点／備考	なし					

イベント名	NX バスシステム情報			イベントコード	44450000Hex	
内容	NX バス機能モジュールの内部情報です					
発生源	NX バス機能モジュール		発生源詳細	マスタ	検出タイミング	常時
異常の属性	重要度	一般情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	NX バス機能モジュールの内部情報です		−		−	
付属情報	付属情報 1：システム情報 付属情報 2：システム情報 付属情報 3：システム情報 付属情報 4：システム情報					
注意点／備考	なし					

イベント名	NX バスのリスタート実行			イベントコード	95800000Hex	
内容	NX バスのリスタートを実行しました					
発生源	NX バス機能モジュール		発生源詳細	マスタ	検出タイミング	NX バスのリスタート時／NX ユニットのリスタート時
異常の属性	重要度	一般情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	アクセス
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_NXB_UnitIOActiveTbl		ARRAY [0..n] OF BOOL *1		NX ユニット I/O データ通信中ステータス	
	_NXB_UnitMsgActiveTbl		ARRAY [0..n] OF BOOL *1		NX ユニットメッセージ通信可能ステータス	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	NX バスのリスタート指示を受け付けた		−		−	
付属情報	付属情報 1：リスタート種別 • 0:NX バスのリスタート • 1:NX ユニットのリスタート 付属情報 2：リスタートを実行したユニットのユニット番号 • 0:NX バスマスタ • 1 以上:NX ユニット					
注意点／備考	なし					

*1. n は形 NX1P2 では 8、形 NX102 では 32 です。

イベント名	NX ユニットのメモリオールクリア実行			**イベントコード**	95810000Hex *1	
内容	NX ユニットの動作設定を初期化しました					
発生源	NX バス機能モジュール		**発生源詳細**	マスタ	**検出タイミング**	NX ユニットのメモリオールクリア時
異常の属性	**重要度**	一般情報	**復旧方法**	−	**ログカテゴリ**	アクセス
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_NXB_UnitIOActiveTbl		ARRAY [0..32] OF BOOL		NX ユニット I/O データ通信中ステータス	
	_NXB_UnitMsgActiveTbl		ARRAY [0..32] OF BOOL		NX ユニットメッセージ通信可能ステータス	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	NX ユニットのメモリオールクリア操作を受け付けた		メモリオールクリアを実行した NX ユニットのユニット動作設定を、必要に応じて設定してください。 付属情報 2 が 0 以外の場合は、NX バス機能モジュールおよび対象 NX ユニットで発生している軽度フォールト以上の異常を確認し、必要な処置対策を実施してください。		−	
付属情報	付属情報 1：メモリオールクリアを実行した NX ユニットのユニット番号 付属情報 2：メモリオールクリアの実行結果 • 0: 成功 • 1: ハードウェア異常 • 2: 初期化失敗 • 3: 初期化不可					
注意点／備考	なし					

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.18 以降で発生するイベントです。

1-3 X バス機能モジュールの異常

X バス機能モジュールで発生する異常（イベント）を記載します。

1-3-1 X バス関連

イベント名	X バスユニット構成設定異常			イベントコード	15100000Hex	
内容	不揮発性メモリに保存していた X バスユニット構成設定を消失しました					
発生源	X バス機能モジュール		発生源詳細	マスタ	検出タイミング	電源投入時／コントローラリセット時／X バスユニット構成情報のダウンロード時
異常の属性	重要度	部分停止フォールト	復旧方法	X バスユニット構成情報ダウンロード	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	−		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	• X バスユニット構成設定のダウンロード中またはメモリクリア中に、電断または Sysmac Studio との通信が切断された • 不揮発性メモリの故障		Sysmac Studio から X バスユニット構成設定とすべての X バスユニット設定をダウンロードしてください。 上記の処置を行っても本異常が再発する場合は、不揮発性メモリの故障です。CPU ユニットを交換後、Sysmac Studio から全設定をダウンロードしてください		ダウンロード中またはメモリクリア中に電源を切らないようにしてください	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	X バスユニット装着台数超過			イベントコード	24C00000Hex	
内容	X バスユニットの接続台数が CPU ユニットの既定値を超えています					
発生源	X バス機能モジュール		発生源詳細	マスタ	検出タイミング	電源投入時／コントローラリセット時
異常の属性	重要度	部分停止フォールト	復旧方法	電源再投入／コントローラリセット	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	−		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	既定台数を超える X バスユニットを接続している		接続する X バスユニットを既定台数以下にしてください。 本異常解消後は全 X バスユニットの設定をダウンロードしてください		接続上限数の範囲内でユニット構成を行ってください	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	未対応 X バスユニット装着			イベントコード	24C10000Hex	
内容	サポート外の X バスユニットが装着されています					
発生源	X バス機能モジュール		発生源詳細	マスタ	検出タイミング	電源投入時／コントローラリセット時
異常の属性	重要度	部分停止フォールト	復旧方法	電源再投入／コントローラリセット	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	－		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	サポート外の X バスユニットを検出した		サポート外の X バスユニットを取りはずしてください。 本異常解消後は全 X バスユニットの設定をダウンロードしてください		CPU ユニットでサポートされている X バスユニットを使用してください	
付属情報	付属情報 1：異常を検知した X バスユニットの No.：1～4					
注意点／備考	なし					

イベント名	X バス機能処理異常			イベントコード	44300000Hex	
内容	X バス機能モジュールで致命的な異常を検出しました					
発生源	X バス機能モジュール		発生源詳細	マスタ	検出タイミング	常時
異常の属性	重要度	部分停止フォールト	復旧方法	電源再投入／コントローラリセット	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	－		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	ソフトウェアにエラーが発生した		当社営業または代理店にお問い合わせください		なし	
付属情報	付属情報 1：システム情報 付属情報 2：システム情報 付属情報 3：システム情報 付属情報 4：システム情報					
注意点／備考	なし					

イベント名	X バスユニットバージョン不整合			イベントコード	35600000Hex	
内容	CPU ユニットに登録されているユニット構成情報より古い X バスユニットが装着されています					
発生源	X バス機能モジュール		発生源詳細	マスタ	検出タイミング	電源投入時／コントローラリセット時／X バスユニット構成情報のダウンロード時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	電源再投入／コントローラリセット／X バスユニット構成情報ダウンロード／X バスユニットリスタート（X バスユニットリスタート機能搭載バージョンのみ）	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	－		

システム定義変数	変数名	データ型	名称
	なし	－	－

発生要因とその処置	発生要因（推定原因）	処置対策	再発防止
	実構成で装着されている X バスユニットのバージョンが、CPU ユニットに登録されているユニット構成情報のユニットバージョンより古い	実構成にユニット構成情報を合わせる場合は、実構成で装着されている X バスユニットのバージョンを用いたユニット構成情報を CPU ユニットにダウンロードしてください。ユニット構成情報に実構成を合わせる場合は、実構成の X バスユニットをユニット構成情報のユニットバージョン以上のものに交換してください。 本異常解消後は全 X バスユニットの設定をダウンロードしてください	比較・マージ画面での比較結果が「互換なし」と表示されていないことが確認できたユニット構成情報を、CPU ユニットにダウンロードしてください

付属情報	付属情報 1：異常を検知した X バスユニットの No.：1～4 付属情報 2：ユニット構成情報のユニットバージョン
注意点／備考	なし

イベント名	未登録 X バスユニット装着			**イベントコード**	35610000Hex	
内容	CPU ユニットに登録されているユニット構成情報に存在しない X バスユニットが装着されています。 該当するすべての X バスユニットごとにイベントが登録されます					
発生源	X バス機能モジュール		**発生源詳細**	マスタ	**検出タイミング**	電源投入時／コントローラリセット時／X バスユニット構成情報のダウンロード時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	電源再投入／コントローラリセット／X バスユニット構成情報ダウンロード／X バスユニットリスタート（X バスユニットリスタート機能搭載バージョンのみ）	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	－		

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	－	－

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	• CPU ユニットに登録されているユニット構成情報には存在しないユニットが装着されている • X バスユニットの装着設定が「無効」のユニットが装着されている	• 実構成にユニット構成情報を合わせる場合は、該当する X バスユニットを追加したユニット構成情報を CPU ユニットにダウンロードしてください。ユニット構成情報に実構成を合わせる場合は、該当する X バスユニットを取り外してください • 実構成にユニット構成情報を合わせる場合は、該当する X バスユニットの装着設定を「有効」にしたユニット構成情報を CPU ユニットにダウンロードしてください。ユニット構成情報に実構成を合わせる場合は、該当する X バスユニットを取り外してください 本異常解消後は全 X バスユニットの設定をダウンロードしてください	CPU ユニットにダウンロードしたプロジェクトとシステム構成を一致させてください

付属情報	付属情報 1： 1～4：X バスユニットの装着位置
注意点／備考	なし

イベント名	登録 X バスユニット未装着			**イベントコード**	35620000Hex	
内容	CPU ユニットに登録されているユニット構成情報に存在する X バスユニットが装着されていません。 該当するすべての X バスユニットごとにイベントが登録されます					
発生源	X バス機能モジュール		**発生源詳細**	マスタ	**検出タイミング**	電源投入時／コントローラリセット時／X バスユニット構成情報のダウンロード時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	電源再投入／コントローラリセット／X バスユニット構成情報ダウンロード／X バスユニットリスタート（X バスユニットリスタート機能搭載バージョンのみ）	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	−		

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	−	−

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	CPU ユニットに登録されているユニット構成情報の X バスユニットが装着されていない	ユニット構成情報に実構成を合わせる場合は、該当する X バスユニットを装着してください。実構成にユニット構成情報を合わせる場合は、該当する X バスユニットを削除したユニット構成情報を CPU ユニットにダウンロードしてください。 本異常解消後は全 X バスユニットの設定をダウンロードしてください	CPU ユニットにダウンロードしたプロジェクトとシステム構成を一致させてください。

付属情報	付属情報 1：異常を検知した X バスユニットの No.：1～4
注意点／備考	なし

イベント名	X バスユニットのシリアル番号不一致			**イベントコード**	35630000Hex	
内容	CPU ユニットに登録されているユニット構成情報とは異なるシリアル番号の X バスユニットが装着されています					
発生源	X バス機能モジュール		**発生源詳細**	マスタ	**検出タイミング**	電源投入時／コントローラリセット時／X バスユニット構成情報のダウンロード時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	電源再投入／コントローラリセット／X バスユニット構成情報ダウンロード／X バスユニットリスタート（X バスユニットリスタート機能搭載バージョンのみ）	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	－		

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	－	－

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	CPU ユニットに登録されているユニット構成情報で設定したシリアル番号の X バスユニットが装着されていない	ユニット構成情報に実構成を合わせる場合は、該当する X バスユニットのシリアル番号を一致させてください。実構成にユニット構成情報を合わせる場合は、該当する X バスユニットのシリアル番号を設定したユニット構成情報を CPU ユニットにダウンロードしてください。 本異常解消後は全 X バスユニットの設定をダウンロードしてください	シリアル番号照合「有効」への設定は、実際に装着したユニットのシリアル番号を Sysmac Studio のプロジェクトに読み出したうえで、行ってください

付属情報	付属情報 1：異常を検知した X バスユニットの No.：1～4 付属情報 2：ユニット構成情報のシリアル番号
注意点／備考	なし

イベント名	X バスユニット起動異常			イベントコード	85A00000Hex	
内容	X バスユニットの起動に失敗しました					
発生源	X バス機能モジュール		発生源詳細	マスタ	検出タイミング	電源投入時／コントローラリセット時／X バスユニット構成情報のダウンロード時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	電源再投入／コントローラリセット／X バスユニット構成情報ダウンロード／X バスユニットリスタート（X バスユニットリスタート機能搭載バージョンのみ）	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	−		

システム定義変数	変数名	データ型	名称
	なし	−	−

発生要因とその処置	発生要因（推定原因）	処置対策	再発防止
	X バスユニットで起動異常が発生した	電源再投入してください。本異常が再発する場合は X バスユニットを交換してください	なし

付属情報	付属情報 1：異常を検知した X バスユニットの No.：1～4 付属情報 2：システム情報
注意点／備考	なし

イベント名	X バスユニット通信異常			**イベントコード**	85A10000Hex	
内容	X バス通信を正常に行えない通信の異常を検出しました。 該当するすべての X バスユニットごとにイベントが登録されます					
発生源	X バス機能モジュール		**発生源詳細**	マスタ	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	電源再投入／コントローラリセット／X バスユニット構成情報ダウンロード／X バスユニットリスタート（X バスユニットリスタート機能搭載バージョンのみ）	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	－		

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	－	－

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	振動／衝撃による X バスコネクタの接触不良	X バスユニットを確実に取り付け、エンドプレートで固定してください	ユーザーズマニュアルに従った設置をしてください
	X バスコネクタへの過度のノイズ印加	ユーザーズマニュアルに沿ってノイズ対策を実施してください	ユーザーズマニュアルに従った設置をしてください
	X バスユニットが外れた	外れた X バスユニットを再度取り付けてください	ユーザーズマニュアルに従った設置をしてください
	X バスユニットの異常	電源再投入してください。本異常が再発する場合は X バスユニットを交換してください	なし

付属情報	付属情報 1：異常を検知した X バスユニットの No.：1～4 付属情報 2：システム情報
注意点／備考	なし

イベント名	X バスユニットバックアップ実行失敗			**イベントコード**	15110000Hex	
内容	X バスユニットのバックアップに失敗しました					
発生源	X バス機能モジュール		**発生源詳細**	マスタ	**検出タイミング**	バックアップ実行中
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	－		

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	－	－

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	CPU ユニットに登録されているユニット構成情報と実構成が一致しない	ユニット構成情報に実構成を合わせる、または実構成にユニット構成情報を合わせた上で、バックアップしてください	ユニット構成情報と実構成が一致している状態でバックアップしてください

付属情報	付属情報 1：システム情報
注意点／備考	なし

イベント名	X バスユニットリストア実行失敗			**イベントコード**	15120000Hex	
内容	X バスユニットのリストアに失敗しました					
発生源	X バス機能モジュール		**発生源詳細**	マスタ	**検出タイミング**	リストア実行中
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	－		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	バックアップファイルのユニット構成情報と実構成が一致しない		バックアップファイルのユニット構成情報に実構成を合わせる、または実構成と同じユニット構成情報を持つバックアップファイルを使用し、リストアしてください		バックアップファイルのユニット構成情報と実構成が一致している状態でリストアしてください	
付属情報	付属情報 1：システム情報					
注意点／備考	なし					

1-4 X バスユニット共通機能モジュールの異常

X バスユニット共通機能モジュールで発生する異常（イベント）を記載します。

1-4-1 X バスユニット共通関連

イベント名	メインメモリチェックエラー			**イベントコード**	00640000Hex	
内容	X バスユニット内部のメインメモリのチェックでエラーを検出しました					
発生源	X バスユニット共通機能モジュール		**発生源詳細**	1～4：X バスユニットの装着位置	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	電源再投入／コントローラリセット／X バスユニットリスタート（X バスユニットリスタート機能搭載バージョンのみ）	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	－	**動作**	停止		

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	－	－

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	導電性異物混入	周囲に導電性異物がある場合は、X バスユニット内部をエアブローしてください	制御盤付近での金属加工作業を実施しないでください。 制御盤は閉めた状態で使用してください
	ノイズ • メモリデータ化け • マイコン暴走 • メモリ書き込み回路誤動作	上記の要因でない場合は、コントローラを電源再投入し、本異常が解除されるか確認してください。 本異常が頻発する場合は、FG、電源ラインなどノイズ侵入経路を調査し、ノイズ対策を実施してください	ノイズ対策を実施してください
	ソフトエラー • 宇宙線／放射能によるデータ化け		なし
	X バスユニット故障 • メモリ素子故障 • メモリ周辺回路故障	不揮発性メモリの寿命が近づきました。X バスユニットを交換してください	定期点検を行ってください

付属情報	付属情報 1：システム情報 付属情報 2：システム情報
注意点／備考	なし

イベント名	不揮発性メモリ寿命警告			**イベントコード**	00650000Hex	
内容	不揮発性メモリの消去回数が警告値をオーバーしました。またはメモリの不良ブロック数が警告値をオーバーしました					
発生源	X バスユニット共通機能モジュール		**発生源詳細**	1～4：X バスユニットの装着位置	**検出タイミング**	電源投入時／コントローラリセット時／ユニットリスタート時（ユニットリスタート機能搭載バージョンのみ）／定期的
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	－	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	不揮発性メモリの寿命		不揮発性メモリの寿命が近づきました。X バスユニットを交換してください		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	X バスユニット設定転送エラー			**イベントコード**	11000000Hex	
内容	ユニット設定を正しく転送できませんでした					
発生源	X バスユニット共通機能モジュール		**発生源詳細**	1～4：X バスユニットの装着位置	**検出タイミング**	電源投入時／コントローラリセット時／ユニットリスタート時（ユニットリスタート機能搭載バージョンのみ）
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	電源再投入／コントローラリセット／X バスユニットリスタート（X バスユニットリスタート機能搭載バージョンのみ）	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	－	**動作**	停止		

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	－	－
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	• ユニット設定のダウンロード中にコントローラを電断したためユニット設定が不正 • メモリオールクリア中にコントローラを電断したためユニット設定が不正 • リストア中にコントローラを電断したためユニット設定が不正	Sysmac Studio からメモリオールクリアした後、プロジェクトをダウンロードしてください。 付属情報が登録されている場合はコントローラの電源を再投入した後、上記対策を実施してください。 Sysmac Studio からメモリーオールクリアが実行できない場合は、SD メモリカードからのリストアにより、ユニット設定を転送してください	• ユニット設定のダウンロード中にコントローラを電断しないでください • メモリオールクリア中にコントローラを電断しないでください • リストア中にコントローラを電断しないでください
	不揮発性メモリの故障	上記の処置を行っても本異常が頻発する場合は、ユニットを交換してください	なし
付属情報	付属情報 1：発生要因詳細 なし： ダウンロード中の電断、リストア中の電断 Downloading/preDownloading： 上記以外の要因の場合の異常発生タイミング（転送中／転送準備中）		
注意点／備考	なし		

イベント名	X バスユニット設定不正			イベントコード	110C0000Hex	
内容	使用メモリが上限をオーバーしているか、X バスユニット設定データが壊れています					
発生源	X バスユニット共通機能モジュール		発生源詳細	なし／1～4：X バスユニットの装着位置	検出タイミング	ダウンロード時／電源投入時／コントローラリセット時／ユニットリスタート時（ユニットリスタート機能搭載バージョンのみ）
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	電源再投入／コントローラリセット	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	－	動作	停止		

システム定義変数	変数名	データ型	名称
	なし	－	－

発生要因とその処置	発生要因（推定原因）	処置対策	再発防止
	データ量の上限値オーバー	本異常と同時に個数制限に関するイベントが発生している場合は、そのイベントの処置対策に従って使用個数が範囲内になるようプログラム・設定を修正してダウンロードしてください	なし
	メインメモリ容量オーバー	本異常と同時に個数制限に関するイベントが発生していない場合は、メモリオールクリアして電源再投入し、本異常が解除されるか確認してください。 解除される場合はプロジェクトのプログラムを共通化するなどサイズを削減してダウンロードしてください	
	不揮発性メモリの劣化、故障	2 つ目の処置対策で本異常が再度発生する場合は X バスユニットを交換してください	

付属情報	なし
注意点／備考	なし

イベント名	保持変数の現在値保存未実行			**イベントコード**	110D0000Hex	
内容	ソフトウェアにエラーが発生したため、電断時処理の保持変数の現在値の保存処理が実行できませんでした					
発生源	X バスユニット共通機能モジュール		**発生源詳細**	1～4：X バスユニットの装着位置	**検出タイミング**	電源投入時／コントローラリセット時／ユニットリスタート時（ユニットリスタート機能搭載バージョンのみ）
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	電源再投入	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	－	**動作**	停止		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	ソフトウェアにエラーが発生した		コントローラを電源再投入またはコントローラリセットしても本異常が解除されない場合は X バスユニットを交換してください		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	不揮発性メモリ修復あり			イベントコード	110E0000Hex	
内容	不揮発性メモリのチェックでエラーを検出し、ファイルシステムの修復またはフォーマットを実行しました。ただし、以前のファイルが削除された可能性があります					
発生源	X バスユニット共通機能モジュール		発生源詳細	1～4：X バスユニットの装着位置	検出タイミング	電源投入時／コントローラリセット時／ユニットリスタート時（ユニットリスタート機能搭載バージョンのみ）
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	電源再投入／コントローラリセット／X バスユニットリスタート（X バスユニットリスタート機能搭載バージョンのみ）	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	－	動作	停止		

システム定義変数	変数名	データ型	名称
	なし	－	－

発生要因とその処置	発生要因（推定原因）	処置対策	再発防止
	BUSY LED 点灯中に、コントローラの電源を OFF にした	Sysmac Studio でプロジェクトを照合し、照合一致している場合は、電源再投入／コントローラリセット／ユニットリスタートのいずれかを実行して本異常が解除されるかを確認してください。解除された場合は、装置が正しく動作するかを確認してください。 照合不一致または異常解除されない場合や、装置が正しく動作しない場合は、Sysmac Studio からイベント発生源詳細の X バスユニットに対してメモリオールクリアをした後、X バスユニットに対して設定を再ダウンロードしてください。 電源再投入／コントローラリセット／ユニットリスタートのいずれかを実行しても本異常が解除されない場合は、メモリが壊れていますので X バスユニットを交換してください。 なお、プロジェクトを再ダウンロードせずに電源再投入／コントローラリセット／ユニットリスタートのいずれかを実行すると、意図しない動作をする可能性があり非常に危険です	BUSY LED 点灯中は電源を OFF にしないでください
	BUSY LED 点灯中の瞬停により、コントローラに電断が発生した		電源事情が悪い場所では、定格の電圧・周波数の電源が供給できるようにしてください

付属情報	付属情報 1：修復内容 00000000Hex：ファイルシステム修復成功、00000001Hex：フォーマット実行
注意点／備考	必ずプロジェクトの照合一致の確認と装置の動作確認、またはプロジェクトの再転送を行ってください。 上記を行わずにコントローラの電源再投入またはコントローラリセットを行うと、意図しない動作をする可能性があり非常に危険です

イベント名	不揮発性メモリデータ破壊			**イベントコード**	110F0000Hex	
内容	不揮発性メモリに存在すべきファイルがないか、破壊されています					
発生源	X バスユニット共通機能モジュール		**発生源詳細**	1～4：X バスユニットの装着位置	**検出タイミング**	電源投入時／コントローラリセット時／ユニットリスタート時（ユニットリスタート機能搭載バージョンのみ）
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	電源再投入／コントローラリセット／X バスユニットリスタート（X バスユニットリスタート機能搭載バージョンのみ）	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	－	**動作**	停止		

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	－	－
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	BUSY LED 点灯中に、コントローラの電源を OFF にした	Sysmac Studio からメモリオールクリアした後、プロジェクトをダウンロードしてください	BUSY LED 点灯中は電源を OFF にしないでください
	BUSY LED 点灯中に、瞬停によりコントローラに電断が発生した		電源事情が悪い場所では、定格の電圧・周波数の電源が供給できるようにしてください
	X バスユニットの故障	上記の処置で本異常が解除されない場合は、X バスユニットを交換してください	なし
付属情報	なし		
注意点／備考	なし		

イベント名	メインメモリチェックエラー			イベントコード	11100000Hex	
内容	X バスユニット内部のメインメモリのチェックでエラーを検出しました					
発生源	X バスユニット共通機能モジュール		発生源詳細	1～4：X バスユニットの装着位置	検出タイミング	常時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	電源再投入	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	－	動作	停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	導電性異物混入		周囲に導電性異物がある場合は、X バスユニット内部をエアブローしてください		制御盤付近での金属加工作業を実施しないでください。 制御盤は閉めた状態で使用してください	
	ノイズ • メモリデータ化け • マイコン暴走 • メモリ書き込み回路誤動作		上記の要因でない場合は、コントローラを電源再投入し、本異常が解除されるか確認してください。 本異常が頻発する場合は、FG、電源ラインなどノイズ侵入経路を調査し、ノイズ対策を実施してください		ノイズ対策を実施してください	
	ソフトエラー • 宇宙線／放射能によるデータ化け				なし	
	X バスユニット故障 • メモリ素子故障 • メモリ周辺回路故障		上記の要因でなく、コントローラを電源再投入またはコントローラリセットしても本異常が解除されない場合は X バスユニットを交換してください		定期点検を行ってください	
付属情報	付属情報 1：システム情報					
注意点／備考	なし					

イベント名	X バスユニット共通機能処理異常			イベントコード	41000000Hex	
内容	X バスユニット共通機能モジュールで致命的な異常を検出しました					
発生源	X バスユニット共通機能モジュール		発生源詳細	1～4：X バスユニットの装着位置	検出タイミング	常時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	電源再投入	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	－	動作	停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	ソフトウェアにエラーが発生した		当社営業または代理店にお問い合わせください		なし	
付属情報	付属情報 1：システム情報 付属情報 2：システム情報 付属情報 3：システム情報 付属情報 4：システム情報					
注意点／備考	なし					

イベント名	Xバスユニット共通機能処理異常			イベントコード	41010000Hex	
内容	Xバスユニット共通機能モジュールで致命的な異常を検出しました					
発生源	Xバスユニット共通機能モジュール		発生源詳細	1～4：Xバスユニットの装着位置	検出タイミング	常時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	電源再投入	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	－	動作	停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	ソフトウェアにエラーが発生した		当社営業または代理店にお問い合わせください		なし	
付属情報	付属情報1：システム情報 付属情報2：システム情報 付属情報3：システム情報 付属情報4：システム情報					
注意点／備考	なし					

イベント名	Xバスユニット共通機能処理異常			イベントコード	41020000Hex	
内容	Xバスユニット共通機能モジュールで致命的な異常を検出しました					
発生源	Xバスユニット共通機能モジュール		発生源詳細	1～4：Xバスユニットの装着位置	検出タイミング	常時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	電源再投入／コントローラリセット／Xバスユニットリスタート（Xバスユニットリスタート機能搭載バージョンのみ）	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	－	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	ソフトウェアにエラーが発生した		当社営業または代理店にお問い合わせください		なし	
付属情報	付属情報1：システム情報 付属情報2：システム情報 付属情報3：システム情報 付属情報4：システム情報					
注意点／備考	なし					

イベント名	X バスユニット共通機能処理異常			イベントコード	41050000Hex	
内容	PLC 機能モジュールで致命的な異常を検出しました					
発生源	X バスユニット共通機能モジュール		発生源詳細	1～4：X バスユニットの装着位置	検出タイミング	常時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	電源再投入	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	－	動作	停止 Sysmac Studio 接続不可		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	ソフトウェアにエラーが発生した		当社営業または代理店にお問い合わせください		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	X バスユニット共通機能処理異常			イベントコード	41060000Hex	
内容	X バスユニット共通機能モジュールで致命的な異常を検出しました					
発生源	X バスユニット共通機能モジュール		発生源詳細	1～4：X バスユニットの装着位置	検出タイミング	常時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	電源再投入	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	－	動作	停止 Sysmac Studio 接続不可		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	ソフトウェアにエラーが発生した		当社営業または代理店にお問い合わせください		なし	
付属情報	付属情報 1：システム情報					
注意点／備考	なし					

イベント名	I/O リフレッシュ周期オーバー			イベントコード	65900000Hex	
内容	プライマリ定周期タスク、定周期タスクのタスク周期内に I/O リフレッシュが完了しない状態が連続して発生しました					
発生源	X バスユニット共通機能モジュール		発生源詳細	1～4：X バスユニットの装着位置	検出タイミング	常時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	電源再投入／コントローラリセット	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	タスクの周期で I/O リフレッシュするタグデータリンク通信が多い		タスク内のタグデータリンク通信の割り当ては、変数のタスク間排他制御設定で他のタスクへ移動するなど、タスク内の I/O リフレッシュの処理の分割を行ってください		あらかじめ、処置対策の内容を考慮してタスク設計してください	
付属情報	付属情報 1：異常が発生したタスク名。以下のいずれか PrimaryTask：プライマリ定周期タスク PeriodicTask0：定周期タスク					
注意点／備考	なし					

イベント名	イベントログ保存失敗			**イベントコード**	11010000Hex	
内容	イベントログの保存に失敗しました					
発生源	X バスユニット共通機能モジュール		**発生源詳細**	1～4：X バスユニットの装着位置	**検出タイミング**	電源投入時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	－	**動作**	影響なし。ただし、過去のイベントログの一部、または全部の読み出し不可		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	イベントログエリアのデータが不正		コントローラを電源再投入しても本異常が再発する場合は、イベントログエリアのハードウェア故障の可能性があります。X バスユニットのイベントログ機能を使用する場合は、X バスユニットを交換してください		なし	
付属情報	付属情報 1：異常の詳細 • 0：全カテゴリのログ保存に失敗 • 1：システムログの保存に失敗 • 2：アクセスログの保存に失敗 • 100：ユーザログの保存に失敗					
注意点／備考	なし					

イベント名	X バス共通システム情報			**イベントコード**	11110000Hex	
内容	X バスユニット共通機能モジュールの内部情報です。					
発生源	X バスユニット共通機能モジュール		**発生源詳細**	1～4：X バスユニットの装着位置	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	電源再投入／コントローラリセット／X バスユニットリスタート（X バスユニットリスタート機能搭載バージョンのみ）	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	－	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	X バスユニット共通機能モジュールの内部情報です。他イベントの追加情報として記録しています		－		－	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	X バスユニットシステム情報			イベントコード	41030000Hex	
内容	X バスユニット共通機能モジュールの内部情報です					
発生源	X バスユニット共通機能モジュール		発生源詳細	1～4：X バスユニットの装着位置	検出タイミング	常時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	電源再投入／コントローラリセット／X バスユニットリスタート（X バスユニットリスタート機能搭載バージョンのみ）	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	－	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	X バスユニット共通機能モジュールの内部情報です。他イベントの追加情報として記録しています		－		－	
付属情報	付属情報 1：システム情報 付属情報 2：システム情報 付属情報 3：システム情報 付属情報 4：システム情報					
注意点／備考	なし					

イベント名	X バスユニットシステム情報			イベントコード	41040000Hex	
内容	X バスユニット共通機能モジュールの内部情報です					
発生源	X バスユニット共通機能モジュール		発生源詳細	1～4：X バスユニットの装着位置	検出タイミング	常時
異常の属性	重要度	一般情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	－	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	X バスユニット共通機能モジュールの内部情報です。他イベントの追加情報として記録しています		－		－	
付属情報	付属情報 1：システム情報 付属情報 2：システム情報 付属情報 3：システム情報 付属情報 4：システム情報					
注意点／備考	なし					

イベント名	X バスユニット設定のダウンロード			**イベントコード**	91000000Hex	
内容	ユニット設定をダウンロードしました					
発生源	X バスユニット共通機能モジュール		**発生源詳細**	1～4：X バスユニットの装着位置	**検出タイミング**	ユニット設定のダウンロード時
異常の属性	**重要度**	一般情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	アクセス
発生の影響	**ユーザプログラム**	－	**動作**	ダウンロードされたユニット設定にしたがい動作開始		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	ユニット設定をダウンロードした		－		－	
付属情報	付属情報 1：接続方法 • 1：(Reserve) • 2：Ethernet 直接接続 • 3：EthernetHUB 接続 付属情報 2：付属情報 1 が 2 か 3 の場合、接続元の IP アドレス。Proxy 経由の場合、Proxy の IP アドレス 付属情報 3：ダウンロード種別 • 1：デバイス出力保持ダウンロード • 2：デバイス出力非保持ダウンロード 付属情報 4：CPU ユニットに設定したユーザ名（ユーザ認証していない場合は NULL が入る）						
注意点／備考	なし					

イベント名	X バスユニット設定のメモリオールクリア			**イベントコード**	91020000Hex	
内容	メモリオールクリアを実行しました					
発生源	X バスユニット共通機能モジュール		**発生源詳細**	1～4：X バスユニットの装着位置	**検出タイミング**	ユーザからの指示時
異常の属性	**重要度**	一般情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	アクセス
発生の影響	**ユーザプログラム**	－	**動作**	工場出荷状態に戻る		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	管理者権限をもつユーザがメモリオールクリアした		－		－	
付属情報	付属情報 1：接続方法 • 1：(Reserve) • 2：Ethernet 直接接続 • 3：EthernetHUB 接続 付属情報 2：付属情報 1 が 2 か 3 の場合、接続元の IP アドレス。Proxy 経由の場合、Proxy の IP アドレス 付属情報 4：CPU ユニットに設定したユーザ名（ユーザ認証していない場合は NULL が入る）						
注意点／備考	なし					

イベント名	発生中異常の全解除			イベントコード	91030000Hex	
内容	発生中異常を全解除しました					
発生源	X バスユニット共通機能モジュール		発生源詳細	1～4：X バスユニットの装着位置	検出タイミング	ユーザからの指示時
異常の属性	重要度	一般情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	アクセス
発生の影響	ユーザプログラム	－	動作	異常要因が除去されている異常の解除		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	ユーザが発生中異常を全解除した		－		－	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	イベントログのクリア			イベントコード	91040000Hex	
内容	イベントログをクリアしました					
発生源	X バスユニット共通機能モジュール		発生源詳細	1～4：X バスユニットの装着位置	検出タイミング	ユーザからの指示時
異常の属性	重要度	一般情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	アクセス
発生の影響	ユーザプログラム	－	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	ユーザがイベントログをクリアした		－		－	
付属情報	付属情報 1：接続方法 • 1：(Reserve) • 2：Ethernet 直接接続 • 3：EthernetHUB 接続 付属情報 2：付属情報 1 が 2 か 3 の場合、接続元の IP アドレス。Proxy 経由の場合、Proxy の IP アドレス 付属情報 3：クリア対象 • 0：全カテゴリのログをクリア • 1：システムイベントログをクリア • 2：アクセスイベントログをクリア • 100：ユーザイベントログをクリア 付属情報 4：CPU ユニットに設定したユーザ名（ユーザ認証していない場合は NULL が入る）					
注意点／備考	なし					

イベント名	電源投入			イベントコード	91050000Hex	
内容	電源投入されました					
発生源	X バスユニット共通機能モジュール		発生源詳細	1～4：X バスユニットの装着位置	検出タイミング	電源投入時
異常の属性	重要度	一般情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	－	動作	動作開始		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	電源投入された		－		－	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	電源断			イベントコード	91060000Hex	
内容	電源断されました					
発生源	X バスユニット共通機能モジュール		発生源詳細	1～4：X バスユニットの装着位置	検出タイミング	電源断時
異常の属性	重要度	一般情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	－	動作	全停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	電源断された		－		－	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	アクセス権強制解放			イベントコード	910F0000Hex	
内容	アクセス権が強制解放されました					
発生源	X バスユニット共通機能モジュール		発生源詳細	1～4：X バスユニットの装着位置	検出タイミング	ユーザからの指示時
異常の属性	重要度	一般情報	復旧方法	なし	ログカテゴリ	アクセス
発生の影響	ユーザプログラム	－	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	アクセス権が強制解放された		－		－	
付属情報	付属情報 1 • 1：USB 直接接続 • 2：Ethernet 直接接続 • 3：USB リモート接続または EthernetHUB 接続 付属情報 2：付属情報 1 が 2 か 3 の場合、接続元の IP アドレス。Proxy 経由の場合、Proxy の IP アドレス 付属情報 4：CPU ユニットに設定したユーザ名（ユーザ認証していない場合は NULL が入る）					
注意点／備考	なし					

イベント名	オムロン保守の開始指示			イベントコード	91110000Hex	
内容	オムロンの保守担当者による保守作業が開始されました					
発生源	X バスユニット共通機能モジュール		発生源詳細	1～4：X バスユニットの装着位置	検出タイミング	オムロン保守担当者からの指示時
異常の属性	重要度	一般情報	復旧方法	なし	ログカテゴリ	アクセス
発生の影響	ユーザプログラム	－	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	オムロンの保守担当者による保守作業が開始されました		－		－	
付属情報	付属情報 1：作業者の名前 付属情報 4：CPU ユニットに設定したユーザ名（ユーザ認証していない場合は NULL が入る）					
注意点／備考	なし					

イベント名	オムロン保守の終了指示			イベントコード	91120000Hex	
内容	オムロンの保守担当者による保守作業が終了されました					
発生源	X バスユニット共通機能モジュール		発生源詳細	1～4：X バスユニットの装着位置	検出タイミング	オムロン保守担当者からの指示時
異常の属性	重要度	一般情報	復旧方法	なし	ログカテゴリ	アクセス
発生の影響	ユーザプログラム	－	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	オムロンの保守担当者による保守作業が終了されました		－		－	
付属情報	付属情報 1：作業者の名前 付属情報 4：CPU ユニットに設定したユーザ名（ユーザ認証していない場合は NULL が入る）					
注意点／備考	なし					

イベント名	イベントログ保存停止			イベントコード	91130000Hex	
内容	一部イベントログの保存ができませんでした					
発生源	X バスユニット共通機能モジュール		発生源詳細	1～4：X バスユニットの装着位置	検出タイミング	電源投入時
異常の属性	重要度	一般情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	－	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	EIP ユニットの電源断によりイベント保存処理が停止しました		－		－	
付属情報	付属情報 1：保存できなかったログの種類 • 1：システムログ • 2：アクセスログ 付属情報 2：保存できなかった重要操作[*1] のアクセスログの有無 • 1：あり • 2：なし • 3：不明					
注意点／備考	なし					

*1. 重要操作とは、以下のオンライン操作を指します。
- コントローラへのオンライン操作
- 管理者、設計者、保全者だけが行える操作のうち、ユーザプログラム変更/コントローラ設定変更/コントローラ状態変更に該当する操作

1-5 モーション制御機能モジュール

1-5-1 モーション制御機能関連

バージョン関連情報

NX シリーズ CPU ユニットの場合、_MC_AX[*]で始まる変数名は、_MC1_AX[*]、_MC2_AX[*]の場合があります。同様に_MC_GRP[*]で始まる変数名は、_MC1_GRP[*]、_MC2_GRP[*]の場合があります。

イベント名	モーション制御機能処理異常			**イベントコード**	44210000Hex	
内容	モーション制御機能モジュールで致命的な異常を検出しました。					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	MC 共通	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	全停止フォールト	**復旧方法**	電源再投入	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	停止	**動作**	軸制御不可。コントローラ停止。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	ソフトウェアにエラーが発生した。		当社営業または代理店にお問い合わせください。		なし	
付属情報	付属情報 1: システム情報 付属情報 2: システム情報 付属情報 3: システム情報 付属情報 4: システム情報					
注意点／備考	なし					

<table>
<tr><td>イベント名</td><td colspan="3">絶対値エンコーダ原点位置オフセット読み出し異常</td><td>イベントコード</td><td colspan="2">14600000Hex</td></tr>
<tr><td>内容</td><td colspan="6">電源 OFF 中保持している絶対値エンコーダの現在位置を消失しました。</td></tr>
<tr><td>発生源</td><td colspan="2">モーション制御機能モジュール</td><td>発生源詳細</td><td>MC 共通</td><td>検出タイミング</td><td>電源投入時／コントローラリセット時／ダウンロード時</td></tr>
<tr><td>異常の属性</td><td>重要度</td><td>部分停止フォールト</td><td>復旧方法</td><td>異常解除</td><td>ログカテゴリ</td><td>システム</td></tr>
<tr><td>発生の影響</td><td>ユーザプログラム</td><td>継続</td><td>動作</td><td colspan="3">軸制御不可。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">システム定義変数</td><td colspan="2">変数名</td><td colspan="2">データ型</td><td colspan="2">名称</td></tr>
<tr><td colspan="2">_MC_COM.PFaultLvl.Active</td><td colspan="2">BOOL</td><td colspan="2">MC 共通 部分停止フォールト発生中</td></tr>
<tr><td rowspan="4">発生要因とその処置</td><td colspan="2">発生要因（推定原因）</td><td colspan="2">処置対策</td><td colspan="2">再発防止</td></tr>
<tr><td colspan="2">保持変数がバッテリバックアップの場合、CPU ユニットのバッテリの寿命</td><td colspan="2">CPU ユニットのバッテリを交換後、異常解除を行い、原点復帰を実行し原点を確定してください。</td><td colspan="2">保持変数がバッテリバックアップの場合、CPU ユニットのバッテリを定期的に交換してください。
バッテリの寿命については『NX シリーズ CPU ユニット ユーザーズマニュアル ハードウェア編 (SBCA-418)』、または『NJ シリーズ CPU ユニット ユーザーズマニュアル ハードウェア編 (SBCA-466)』を参照してください。</td></tr>
<tr><td colspan="2">ソフトウェアにエラーが発生した</td><td colspan="2" rowspan="2">本異常が再発する場合は、CPU ユニットを交換後、異常解除を行い、原点復帰を実行し原点を確定してください。</td><td colspan="2" rowspan="2">なし</td></tr>
<tr><td colspan="2">バックアップメモリの故障</td></tr>
<tr><td>付属情報</td><td colspan="6">なし</td></tr>
<tr><td>注意点／備考</td><td colspan="6">なし</td></tr>
</table>

イベント名	モーション制御パラメータ設定異常			イベントコード	14610000Hex	
内容	不揮発性メモリに保存していたモーション制御パラメータ設定を消失しました。または、未対応の EtherCAT スレーブが軸に割りついています。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	MC 共通	検出タイミング	電源投入時／コントローラリセット時／ダウンロード時
異常の属性	重要度	部分停止フォールト	復旧方法	電源再投入／コントローラリセット	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	軸制御不可。		

システム定義変数	変数名	データ型	名称
	_MC_COM.PFaultLvl.Active	BOOL	MC 共通 部分停止フォールト発生中

発生要因とその処置	発生要因（推定原因）	処置対策	再発防止
	モーション制御パラメータ設定のダウンロード中またはメモリクリア中に、電断または Sysmac Studio との通信が切断された。	Sysmac Studio からモーション制御パラメータ設定をダウンロードしてください。	パラメータ設定の保存中に電源を切らないようにしてください。
	未対応の EtherCAT スレーブが軸に割りつけられている	Sysmac Studio から未対応 EtherCAT スレーブの軸割付を外して設定をダウンロードしてください。	なし
	不揮発性メモリの故障	上記の処置を行っても本異常が再発する場合は、不揮発性メモリの故障です。CPU ユニットを交換後、Sysmac Studio から軸設定を含む全設定をダウンロードしてください。	なし

付属情報	なし
注意点／備考	なし

イベント名	カムデータ読み出し異常			イベントコード	14620000Hex	
内容	不揮発性メモリに保存しているカムデータを消失しました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	MC 共通	検出タイミング	電源投入時／コントローラリセット時／ダウンロード時
異常の属性	重要度	部分停止フォールト	復旧方法	電源再投入／コントローラリセット	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	軸制御不可。		

システム定義変数	変数名	データ型	名称
	_MC_COM.PFaultLvl.Active	BOOL	MC 共通 部分停止フォールト発生中

発生要因とその処置	発生要因（推定原因）	処置対策	再発防止
	カムデータの保存中の電断	Sysmac Studio からカムデータをダウンロードしてください。	カムデータの保存中に電源を切らないようにしてください。
	不揮発性メモリの故障	上記の処置を行っても本異常が再発する場合は、不揮発性メモリの故障です。CPU ユニットを交換後、Sysmac Studio から軸設定を含む全設定をダウンロードしてください。	なし

付属情報	なし
注意点／備考	なし

イベント名	必須プロセスデータオブジェクト未設定			**イベントコード**	34600000Hex	
内容	軸種別に対して必須のオブジェクトが PDO に割り付けられていません。					
発生源	モーション制御機能モジュール		**発生源詳細**	MC 共通	**検出タイミング**	電源投入時／コントローラリセット時／ダウンロード時
異常の属性	**重要度**	部分停止フォールト	**復旧方法**	電源再投入／コントローラリセット	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	軸制御不可。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_MC_COM.PFaultLvl.Active		BOOL		MC 共通 部分停止フォールト発生中	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	軸種別がサーボ軸またはエンコーダ軸のときに対して必要な PDO マッピングがされていません。		• 該当軸種別で必要な PDO マッピングを行ってください。必要な PDO マッピングについては、ユーザーズマニュアル モーション制御編の付録にある、該当サーボドライバの設定に関する記載を参照してください。 • NX シリーズ EtherCAT カプラユニットを使用している場合は、EtherCAT カプラユニットの I/O データに、NX ユニット I/O データ通信中ステータスを設定してください。		• 使用する軸種別で必要な PDO マッピングを行ってください。必要な PDO マッピングについては、ユーザーズマニュアル モーション制御編の付録にある、該当サーボドライバの設定に関する記載を参照してください。 • NX シリーズ EtherCAT カプラユニットを使用している場合は、EtherCAT カプラユニットの I/O データに、NX ユニット I/O データ通信中ステータスを設定してください。	
	不揮発性メモリの故障		上記の処置を行っても本異常が再発する場合は、不揮発性メモリの故障です。CPU ユニットを交換後、Sysmac Studio から軸パラメータ設定を含む全設定をダウンロードしてください。		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	軸割付スレーブ無効			イベントコード	34630000Hex	
内容	軸に割り付いているスレーブが無効設定になっています。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	MC 共通	検出タイミング	電源投入時／コントローラリセット時／ダウンロード時
異常の属性	重要度	部分停止フォールト	復旧方法	電源再投入／コントローラリセット	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	軸制御不可。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_COM.PFaultLvl.Active		BOOL		MC 共通 部分停止フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	軸に割り付いているスレーブが無効設定になっている。		軸割付の該当スレーブの EtherCAT の設定であるスレーブ有効／無効設定を［有効］にしてください。 スレーブがない場合は、該当軸の［軸種別］を［仮想軸］に設定してください。		軸割付のスレーブの EtherCAT の設定であるスレーブ有効／無効設定を［有効］にしてください。 スレーブがないが、プログラムのために軸を使用する場合は、［軸種別］を［仮想軸］にしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	軸割付スレーブネットワーク構成情報未登録			イベントコード	34640000Hex	
内容	軸に割り付いているスレーブがネットワーク構成情報に登録されていません。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	MC 共通	検出タイミング	電源投入時／コントローラリセット時／ダウンロード時／サーボ ON 開始時／未使用軸から使用軸に切替時
異常の属性	重要度	部分停止フォールト	復旧方法	電源再投入／コントローラリセット	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	軸制御不可。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_COM.PFaultLvl.Active		BOOL		MC 共通 部分停止フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	軸に割り付いているスレーブが EtherCAT のネットワーク構成情報に登録されていない。		軸に割り付いているスレーブを EtherCAT のネットワーク構成情報に登録してください。または該当軸の［軸種別］を［仮想軸］に設定してください。		軸に割り付けているスレーブをネットワーク構成情報に登録してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	モーション制御初期化異常			イベントコード	44200000Hex	
内容	システムに致命的な障害が発生し、モーション制御機能モジュールの初期化に失敗しました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	MC 共通	検出タイミング	電源投入時／コントローラリセット時／ダウンロード時
異常の属性	重要度	部分停止フォールト	復旧方法	電源再投入	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	軸制御不可。モーション制御命令実行不可。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_COM.PFaultLvl.Active		BOOL		MC 共通 部分停止フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	ハード故障		CPU ユニットを交換してください。		なし	
付属情報	付属情報 1: システム情報					
注意点／備考	なし					

イベント名	モーション制御周期オーバー			イベントコード	74200000Hex	
内容	プライマリ定周期タスクの処理が 2 制御周期以内で完了しませんでした。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	MC 共通	検出タイミング	常時
異常の属性	重要度	部分停止フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	全軸の動作不可。動作中の軸は即停止。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_COM.PFaultLvl.Active		BOOL		MC 共通 部分停止フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	プライマリ定周期タスクのプログラムの処理内容が多い。		プライマリ定周期タスクのプログラムの処理内容を少なくするか、動作に問題が発生しない範囲で制御周期をより大きな値に設定してください。 タスクの周期は Sysmac Studio の「タスク周期モニタ」で確認できます。		必ず一定周期で実行したい処理だけをプライマリ定周期タスクのプログラムで記述してください。またはプライマリ定周期タスクの周期は必要十分な長さに設定してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	カムテーブル保存処理失敗			イベントコード	14630000Hex	
内容	カムテーブルのファイル保存に失敗しました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	MC 共通	検出タイミング	命令実行中
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除／電源再投入	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	不揮発性メモリに保存されているカムテーブルが壊れている可能性があるため、カムテーブル読み出し時に異常が発生する場合があります。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_COM.MFaultLvl.Active		BOOL		MC 共通 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	カムテーブルのファイル保存に失敗した。		再度保存を実行しなおしてください。再発する場合は、不揮発性メモリの故障です。CPU ユニットを交換してください。		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	カム動作中カムテーブルデータ異常			イベントコード	54770000Hex	
内容	カムテーブルの位相が昇順ではありません。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令実行中
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸の動作不可。該当軸の軸動作中は減速停止。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	カム動作中にカムテーブルの位相が昇順になっていないデータを検出した。		位相が昇順になるようにカムテーブルデータを修正してください。		カムテーブルデータは位相が昇順になるようにしてください。	
	カム動作中にカムテーブルの始点の位相と変位が「0」でないことを検出した。		始点の位相と変位が「0」になるようにカムテーブルデータを修正してください。		カムテーブルデータは始点の位相と変位が「0」になるようにしてください。	
	カム動作中に、カムテーブルの終点の位相をパルス単位に変換したときに 1 パルス以上でないことを検出した。		終点の位相をパルス単位に変換したときに 1 パルス以上になるようにカムテーブルデータを修正してください。		カムテーブルデータは終点の位相をパルス単位に変換したときに 1 パルス以上になるようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	即停止命令起動			イベントコード	54850000Hex	
内容	即停止（MC_ImmediateStop）命令が実行されました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸は、即停止命令の入力変数「StopMode（停止方法選択）」の設定に従い即停止。 該当軸が軸グループ動作中の場合、他の軸は［軸グループ停止方法］に従う。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	即停止命令が実行された。		−		−	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	軸グループ即停止命令起動			イベントコード	54860000Hex	
内容	軸グループ即停止（MC_GroupImmediateStop）命令が実行されました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸グループ	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸グループの軸は、軸パラメータの［即停止入力停止方法］の設定に従い全軸即停止。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸グループ 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	軸グループ即停止命令が実行された。		−		−	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	正方向ソフトウェアリミットオーバー			イベントコード	64450000Hex	
内容	軸が動作している途中で、位置が正方向ソフトウェアリミットを超えました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令実行中
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	［ソフトウェアリミット機能］設定に従う。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	位置が正方向ソフトウェアリミットを超えた。		ソフトウェアリミットを超えた原因を調査し適切な処置を行ってください。		（予期しない原因によりソフトウェアリミットを超えたことを検出することが目的のため、防止不要）	
付属情報	なし					
注意点／備考	正方向ソフトウェアリミットの設定を変更する場合は安全性を考慮した設定にしてください。					

イベント名	負方向ソフトウェアリミットオーバー			イベントコード	64460000Hex	
内容	軸が動作している途中で、位置が負方向ソフトウェアリミットを超えました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令実行中
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	［ソフトウェアリミット機能］設定に従う。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	位置が負方向ソフトウェアリミットを超えた。		ソフトウェアリミットを超えた原因を調査し適切な処置を行ってください。		（予期しない原因によりソフトウェアリミットを超えたことを検出することが目的のため、防止不要）	
付属情報	なし					
注意点／備考	負方向ソフトウェアリミットの設定を変更する場合は安全性を考慮した設定にしてください。					

イベント名	インポジションチェック時間オーバー			イベントコード	64470000Hex	
内容	位置決め完了チェックが監視時間内に完了しませんでした。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令実行中
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸の動作不可。該当軸の軸動作中は減速停止。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	位置決め完了までに時間がかかっている。		位置決め完了に時間がかかる原因を調査し、その原因を取り除いてください。あるいは、サーボドライバの調整、またはインポジションチェック時間、インポジション幅を調整してください。 サーボドライバを調整する場合は、ループゲインを大きくしてください。ただし、制御が発振しない適度な範囲にするよう注意してください。		位置決め動作の追従性が悪くなる要因や、振動はできる限り排除します。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	位置偏差オーバー			イベントコード	64480000Hex	
内容	指令現在位置とフィードバック現在位置の偏差が位置偏差オーバー値を超えました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令実行中
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸の動作不可。該当軸の軸動作中は減速停止。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	位置決め動作の追従性が悪く、指令に対して実際の動作が遅れている。		位置決め動作の追従性が悪くなる要因を取り除いてください。 または、［位置偏差オーバー値］を問題のない範囲で大きな値に変更してください。		位置決め動作の追従性が悪くなる要因はできる限り排除してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	即停止入力			イベントコード	64490000Hex	
内容	即停止入力が ON になりました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	常時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	［即停止入力停止方法］設定に従う。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	即停止入力信号を検知した。		即停止入力信号を OFF にしてください。		（即停止入力を検出することが目的のため、防止不要）	
	即停止信号の接続または即停止入力の論理設定が間違っている。		即停止入力信号が OFF でも異常が発生する場合は、即停止信号の接続、即停止入力の論理設定を修正してください。 論理設定は軸パラメータとスレーブ側の設定の両方を確認してください。		即停止信号の接続、即停止入力の論理設定が正しいことを確認してください。 論理設定は軸パラメータとスレーブ側の設定の両方を確認してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	異常解除するには、即停止入力を OFF にしてください。					

イベント名	正方向限界入力検出			イベントコード	644A0000Hex	
内容	正方向限界入力が ON になりました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	常時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	［限界入力停止方法］設定に従う。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	正方向限界入力信号を検知した。		異常解除を行い、正方向限界を超えない位置まで負方向への復帰動作を行ってください。軸グループ動作命令の実行中に異常が発生した場合は、異常が発生した軸グループを無効にしたうえで上記復帰動作を行なってください。 限界を超えた原因を調査し適切な処置を行ってください。		正方向限界入力を検出することが目的のため、防止不要。ただし、正方向限界入力を超えないようにプログラムを作成してください。	
	正方向限界入力信号の接続または正方向限界入力の論理設定が間違っている。		正方向限界入力信号が発生していない場合は、正方向限界信号の接続、正方向限界入力の論理設定を修正してください。 論理設定は軸パラメータとスレーブ側の設定の両方を確認してください。		正方向限界信号の接続、正方向限界入力の論理設定が正しいことを確認してください。 論理設定は軸パラメータとスレーブ側の設定の両方を確認してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	負方向限界入力検出			イベントコード	644B0000Hex	
内容	負方向限界入力が ON になりました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	常時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	［限界入力停止方法］設定に従う。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	負方向限界入力信号を検知した。		異常解除を行い、負方向限界を超えない位置まで正方向への復帰動作を行ってください。軸グループ動作命令の実行中に異常が発生した場合は、異常が発生した軸グループを無効にしたうえで上記復帰動作を行なってください。 限界を超えた原因を調査し適切な処置を行ってください。		負方向限界入力を検出することが目的のため、防止不要。ただし、負方向限界入力を超えないようにプログラムを作成してください。	
	負方向限界入力信号の接続または負方向限界入力の論理設定が間違っている。		負方向限界入力信号が発生していない場合は、負方向限界信号の接続、負方向限界入力の論理設定を確認してください。 論理設定は軸パラメータとスレーブ側の設定の両方を確認してください。		負方向限界信号の接続、負方向限界入力の論理設定が正しいことを確認してください。 論理設定は軸パラメータとスレーブ側の設定の両方を確認してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	位置偏差不正			イベントコード	64560000Hex	
内容	指令された位置とフィードバック現在位置の差をパルス単位に変換したときに 30 ビット以上となりました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	常時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸のサーボ OFF		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	指令された軸の移動量では軸の最高速度を超えるため、最高速度を超えないように指令現在位置が制限された。		最高速度を超えないようにプログラムまたは電子ギア比を修正してください。		最高速度を超えないようにプログラムを作成、電子ギア比を設定してください。	
	位置決め動作の追従性が悪く、指令に対して実際の動作が遅れている。		位置決め動作の追従性が悪くなる要因を取り除いてください。		位置決め動作の追従性が悪くなる要因はできる限り排除してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	サーボ OFF 異常			イベントコード	64570000Hex	
内容	軸グループの異常発生により、軸がサーボ OFF されました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	常時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸のサーボ OFF		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	軸グループの異常発生により、軸がサーボ OFF された。		異常の要因を確認し、対処してください。		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	本異常は、軸グループの異常発生によりサーボ OFF された軸が、MC_Power（運転可）命令により再びサーボ ON されないように、インターロックとして軸を異常とするものです。 ［軸グループ停止方法］で「即停止し、同時にサーボ OFF を実行（フリーラン停止）」を選択している場合だけ発生します。					

イベント名	絶対値エンコーダ現在位置算出不可			イベントコード	64580000Hex	
内容	電断保持している絶対値エンコーダ情報から正しく現在位置を復元できません。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	電源投入時／コントローラリセット時／ダウンロード時／サーボ ON 開始時／未使用軸から使用軸に切替時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸の動作不可。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	• 単位変換設定、リングカウンタ設定またはサーボドライバ設定のリングカウンタ設定が変更された。 • 復元した位置がパルス単位で符号付き 40 ビットの範囲を超えている。		異常解除後、原点復帰を実施してください。原点復帰は、復元した位置が符号付き 40 ビットの範囲を超えないように、絶対値エンコーダをセットアップした位置の付近で実施してください。		リングカウンタ上限設定値など位置に関連するパラメータを変更した場合は、原点復帰をやり直してください。原点復帰は、復元した位置が符号付き 40 ビットの範囲を超えないように、絶対値エンコーダをセットアップした位置の付近で実施してください。 また、MC_Power（運転可）命令の実行、未使用軸から使用軸への切替、および電断／電源投入はエンコーダの位置が符号付き 40 ビットの範囲外のときには行わないでください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	多軸協調動作中の原点未確定			**イベントコード**	64590000Hex	
内容	軸グループの動作中または減速停止中に、論理軸の原点が未確定になりました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		**発生源詳細**	軸グループ	**検出タイミング**	命令実行中
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	異常解除	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当軸グループの減速停止。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸グループ 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	軸グループの動作中または減速停止中に、論理軸の指令位置またはフィードバック位置のオーバーフローまたはアンダーフローが発生し、原点が未確定になった。		指令位置／フィードバック位置がオーバーフロー／アンダーフローしない範囲で動作するようにプログラムを修正してください。		指令位置／フィードバック位置がオーバーフロー／アンダーフローしない範囲で動作するようにプログラムを作成してください。	
	軸グループの動作中または減速停止中に、論理軸でスレーブ通信異常が発生し、原点が未確定になった。		スレーブ通信異常の処置対策を行い、原点を確定してください。		なし	
	軸グループの動作中または減速停止中に、論理軸のスレーブが離脱またはスレーブ無効化し、原点が未確定になった。		離脱またはスレーブ無効化したスレーブを再加入させ、原点を確定してください。		軸グループの動作中または減速停止中に、論理軸のスレーブを離脱またはスレーブ無効化させないでください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	サーボ主回路電源オフ検出			**イベントコード**	74210000Hex	
内容	サーボ ON 状態で、サーボドライバの主回路電源を OFF しました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		**発生源詳細**	軸	**検出タイミング**	サーボ ON 中常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	異常解除	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当軸のサーボ OFF		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	サーボ ON 状態で、サーボドライバの主回路の電源断。		本異常が発生している軸のサーボドライバの主回路電源を ON してから、異常解除を行った後、サーボ ON してください。		サーボ OFF してからサーボドライバの主回路電源を OFF してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	割り込み定寸位置決め・割り込み信号なし			イベントコード	74230000Hex	
内容	MC_MoveFeed（割り込み定寸位置決め）命令の実行中に割り込み入力がありませんでした。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令実行中
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸の減速停止。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	ラッチ有効範囲指定が不適切。		該当命令のラッチ有効範囲指定が間違っている場合はラッチ有効範囲指定を修正してください。		動作とセンサ位置の関係から適切なラッチ有効範囲を指定してください。	
	割り込み信号の配線が間違っている。		該当命令に対応する割り込み信号の配線が間違っている場合は配線を正しくしてください。		割り込み信号の配線に間違いがないことを確認してください。	
	割り込み信号を出力するセンサが故障している。		上記 2 つの原因でない場合は、割り込み信号を出力するセンサの故障です。本異常が発生している命令に対応する割り込み信号を出力するセンサなどを交換してください。		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	原点復帰逆方向限界入力検出			イベントコード	74240000Hex	
内容	原点復帰動作中に、原点復帰方向と逆方向の限界信号を検出しました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令実行中
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	原点復帰の実行状態に応じた停止方法で停止。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	正方向限界入力時動作、および負方向限界入力時動作が「反転しない」に設定されている。		限界入力時に異常としない場合は、正方向限界入力時動作、および負方向限界入力時動作を「反転する」に設定してください。		あらかじめ発生要因に記載されている内容に問題がないことを確認してください。	
	原点復帰のための入力信号センサの配置、原点復帰の設定、原点復帰開始位置が、限界信号に到達する関係になっている。		入力信号センサの配置、原点復帰の設定、原点復帰開始位置を再確認して限界信号に到達しないように修正してください。			
	入力信号センサ配線間違い、故障。		入力信号センサの配線の修正、交換を行ってください。			
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	原点復帰方向限界入力検出			イベントコード	74250000Hex	
内容	原点復帰動作中に、原点復帰方向の限界信号を検出しました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令実行中
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	原点復帰の実行状態に応じた停止方法で停止。		

システム定義変数	変数名	データ型	名称
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active	BOOL	軸 軽度フォールト発生中

発生要因とその処置	発生要因（推定原因）	処置対策	再発防止
	正方向限界入力時動作、および負方向限界入力時動作が「反転しない」に設定されている。	限界入力時に異常としない場合は、正方向限界入力時動作、および負方向限界入力時動作を「反転する」に設定してください。	あらかじめ発生要因に記載されている内容に問題がないことを確認してください。
	原点復帰のための入力信号センサの配置、原点復帰の設定、原点復帰開始位置が、限界信号に到達する関係になっている。	入力信号センサの配置、原点復帰の設定、原点復帰開始位置を再確認して限界信号に到達しないように修正してください。	
	入力信号センサ配線間違い、故障。	入力信号センサの配線の修正、交換を行ってください。	

付属情報	なし
注意点／備考	なし

イベント名	原点復帰両方向限界入力検出			イベントコード	74260000Hex	
内容	原点復帰動作中に、同時に両側の限界信号を検出しました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令実行中
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	原点復帰の実行状態に応じた停止方法で停止。		

システム定義変数	変数名	データ型	名称
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active	BOOL	軸 軽度フォールト発生中

発生要因とその処置	発生要因（推定原因）	処置対策	再発防止
	限界信号の配線間違い。	限界信号の配線を修正してください。	あらかじめ発生要因に記載されている内容に問題がないことを確認してください。
	限界センサの取り付け位置の誤り。	両側の限界信号が同時に「ON」にならないように限界センサの取り付け位置を修正してください。	
	限界信号の接点論理の誤り。	限界信号の a 接点／b 接点を修正してください。	
	限界センサの故障。	限界センサを交換してください。	

付属情報	なし
注意点／備考	なし

イベント名	原点近傍・原点復帰逆方向限界入力検出			イベントコード	74270000Hex	
内容	原点復帰動作中に、同時に原点近傍入力と、原点復帰方向と逆方向の限界信号を検出しました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令実行中
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	原点復帰の実行状態に応じた停止方法で停止。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	原点近傍信号、限界信号の配線間違い。		原点近傍信号、限界信号の配線を修正してください。		あらかじめ発生要因に記載されている内容に問題がないことを確認してください。	
	原点近傍センサ、限界センサの取り付け位置の誤り。		原点近傍入力信号と限界信号が同時に「ON」にならないように原点近傍センサまたは限界センサの取り付け位置を修正してください。			
	原点近傍信号、限界信号の接点論理の誤り。		原点近傍センサ、限界センサの a 接点／b 接点を修正してください。			
	原点近傍センサ、限界センサの故障。		原点近傍センサ、限界センサを交換してください。			
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	原点近傍・原点復帰方向限界入力検出			イベントコード	74280000Hex	
内容	原点復帰動作中に、同時に原点近傍入力と、原点復帰方向の限界信号を検出しました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令実行中
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	原点復帰の実行状態に応じた停止方法で停止。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	原点近傍信号、限界信号の配線間違い。		原点近傍信号、限界信号の配線を修正してください。		あらかじめ発生要因に記載されている内容に問題がないことを確認してください。	
	原点近傍センサ、限界センサの取り付け位置の誤り。		原点近傍入力信号と限界信号が同時に「ON」にならないように原点近傍センサまたは限界センサの取り付け位置を修正してください。			
	原点近傍信号、限界信号の接点論理の誤り。		原点近傍センサ、限界センサの a 接点／b 接点を修正してください。			
	原点近傍センサ、限界センサの故障。		原点近傍センサ、限界センサを交換してください。			
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	原点入力・原点復帰逆方向限界入力検出			イベントコード	74290000Hex	
内容	原点復帰動作中に、同時に原点入力と、原点復帰方向と逆方向の限界信号を検出しました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令実行中
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	原点復帰の実行状態に応じた停止方法で停止。		

システム定義変数	変数名	データ型	名称
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active	BOOL	軸 軽度フォールト発生中

発生要因とその処置	発生要因（推定原因）	処置対策	再発防止
	原点入力信号、限界信号の配線間違い。	原点入力信号、限界信号の配線を修正してください。	あらかじめ発生要因に記載されている内容に問題がないことを確認してください。
	原点入力センサ、限界センサの取り付け位置の誤り。	原点入力信号と限界信号が同時に「ON」にならないように原点入力センサまたは限界センサの取り付け位置を修正してください。	
	原点入力信号、限界信号の接点論理の誤り。	原点入力信号、限界センサの a 接点／b 接点を修正してください。	
	原点入力信号出力機器、限界センサの故障。	原点入力信号出力機器、限界センサを交換してください。	

付属情報	なし
注意点／備考	なし

イベント名	原点入力・原点復帰方向限界入力検出			イベントコード	742A0000Hex	
内容	原点復帰動作中に、同時に原点入力と、原点復帰方向の限界信号を検出しました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令実行中
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	原点復帰の実行状態に応じた停止方法で停止。		

システム定義変数	変数名	データ型	名称
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active	BOOL	軸 軽度フォールト発生中

発生要因とその処置	発生要因（推定原因）	処置対策	再発防止
	原点入力信号、限界信号の配線間違い。	原点入力信号、限界信号の配線を修正してください。	あらかじめ発生要因に記載されている内容に問題がないことを確認してください。
	原点入力センサ、限界センサの取り付け位置の誤り。	原点入力信号と限界信号が同時に「ON」にならないように原点入力センサまたは限界センサの取り付け位置を修正してください。	
	原点入力信号、限界信号の接点論理の誤り。	原点入力信号、限界センサの a 接点／b 接点を修正してください。	
	原点入力信号出力機器、限界センサの故障。	原点入力信号出力機器、限界センサを交換してください。	

付属情報	なし
注意点／備考	なし

イベント名	原点入力マスク量不正			イベントコード	742B0000Hex	
内容	MC_Home（原点復帰）命令、または MC_HomeWithParameter（パラメータ指定原点復帰）命令において、原点入力マスク量の設定値が適切ではありません。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令実行中
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	原点復帰の実行状態に応じた停止方法で停止。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	原点復帰動作モードが「近傍退避・原点入力マスク距離指定」の場合に、原点入力マスク距離の設定値が、原点復帰速度から原点復帰アプローチ速度に減速するための移動量として不足している。		原点入力マスク量、原点復帰速度、原点復帰アプローチ速度を確認し、MC_Home（原点復帰）命令、または MC_HomeWithParameter（パラメータ指定原点復帰）命令の動作仕様に基づき、減速のための移動量が不足しないように設定変更してください。		MC_Home（原点復帰）命令、または MC_HomeWithParameter（パラメータ指定原点復帰）命令の動作仕様を確認しておき、原点入力マスク量、原点復帰速度、原点復帰アプローチ速度を、減速のための移動量が不足しないように設定してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	原点入力なし			イベントコード	742C0000Hex	
内容	原点復帰中に原点信号入力がありません。または、原点確定入力がないまま、限界信号が検出されました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令実行中
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	原点復帰の実行状態に応じた停止方法で停止。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	• 原点復帰中に原点信号入力がない。 • 原点確定入力がないまま、限界信号が検出された。		原点入力の設定、配線を確認し、MC_Home（原点復帰）命令、または MC_HomeWithParameter（パラメータ指定原点復帰）命令の動作仕様に基づき、原点復帰動作中に原点信号が入力されるように修正してください。 または、原点入力されてから限界信号が検出されるようにしてください。		原点復帰動作中に原点信号が入力されるように設定してください。 原点入力されてから限界信号が検出されるようにしてください。 また原点入力の配線間違いがないことを確認してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	原点近傍入力なし			イベントコード	742D0000Hex	
内容	原点復帰中に原点近傍信号入力がありませんでした。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令実行中
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	原点復帰の実行状態に応じた停止方法で停止。		

システム定義変数	変数名	データ型	名称
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active	BOOL	軸 軽度フォールト発生中

発生要因とその処置	発生要因（推定原因）	処置対策	再発防止
	「原点近傍信号あり」の設定時の原点復帰中に原点近傍信号入力がなかった。	原点近傍入力の設定、配線を確認し、MC_Home（原点復帰）命令、または MC_HomeWithParameter（パラメータ指定原点復帰）命令の動作仕様に基づき、原点復帰中に原点近傍信号が入力されるように修正してください。	原点復帰動作中に原点近傍信号が入力されるように設定してください。また原点近傍入力の配線間違いがないことを確認してください。

付属情報	なし
注意点／備考	なし

イベント名	スレーブ異常検知			イベントコード	742F0000Hex	
内容	軸に割り付けられている EtherCAT スレーブ、または NX ユニットが異常を検知しました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	常時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当する軸のサーボ OFF。		

システム定義変数	変数名	データ型	名称
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active	BOOL	軸 軽度フォールト発生中

発生要因とその処置	発生要因（推定原因）	処置対策	再発防止
	軸に割り付けられている EtherCAT スレーブ、または NX ユニットが異常を検知した。	スレーブで発生している異常、または「スレーブ異常コード確定」（94220000Hex）で通知されるスレーブの異常コードを確認し必要な処置対策を行ってください。	なし

付属情報	なし
注意点／備考	なし

イベント名	軸グループ構成軸異常発生			イベントコード	74300000Hex	
内容	軸グループの構成軸に異常が発生しました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸グループ	検出タイミング	常時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	構成軸が即停止したときは、[軸グループ停止方法] 設定の動作に従います。 それ以外は補間軌跡停止します。		

システム定義変数	変数名	データ型	名称
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active	BOOL	軸グループ 軽度フォールト発生中

発生要因とその処置	発生要因（推定原因）	処置対策	再発防止
	軸グループ動作中に構成軸に異常が発生した。	軸グループを構成する軸の異常コードを確認し異常原因を除去してください。	なし

付属情報	なし
注意点／備考	軸異常の発生時は、その軸を含む軸グループは動作できません。

イベント名	MC 共通の異常発生中			イベントコード	74330000Hex	
内容	MC 共通の異常が発生しています。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	常時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸の動作不可。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	部分停止フォールトレベルの MC 共通異常が発生している。		発生している MC 共通の異常を確認してその異常要因を除去してください。		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	部分停止フォールトレベルの MC 共通異常発生時は、軸および軸グループは動作できません。					

イベント名	ラッチ位置オーバーフロー			イベントコード	74340000Hex	
内容	MC_TouchProbe（外部ラッチ有効）命令でラッチした位置がオーバーフローしています。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令実行中
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸の減速停止。 外部ラッチ有効命令はラッチ位置の取得不可。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	MC_TouchProbe（外部ラッチ有効）命令でラッチした位置がオーバーフロー。		軸位置がオーバーフローしないようにプログラムを修正してください。		軸位置がオーバーフローしないようにプログラムを作成してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	ラッチ位置アンダーフロー			イベントコード	74350000Hex	
内容	MC_TouchProbe（外部ラッチ有効）命令でラッチした位置がアンダーフローしています。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令実行中
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸の減速停止。 外部ラッチ有効命令はラッチ位置の取得不可。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	MC_TouchProbe（外部ラッチ有効）命令でラッチした位置がアンダーフロー。		軸位置がアンダーフローしないようにプログラムを修正してください。		軸位置がアンダーフローしないようにプログラムを作成してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	主軸同期方向異常			イベントコード	74360000Hex	
内容	主軸が同期方向とは逆向きに移動しつづけました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令実行中
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸の減速停止。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	主軸と従軸が同期する方向に対して、主軸が逆向きに移動しつづけオーバーフローした。		同期開始後の主軸の移動方向・移動量が同期方向になるようにプログラムを修正してください。		同期開始後の主軸の移動方向・移動量が同期方向になるようにプログラムを作成してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	サーボ ON 中スレーブ離脱			イベントコード	74370000Hex	
内容	サーボ ON 中に軸に割り付けられている EtherCAT スレーブ、または NX ユニットに対して次のいずれかが発生しました。 • 離脱／交換された • 無効化された • NX シリーズ CPU ユニットの NX バスがリスタートされた					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	サーボ ON 中常時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸のサーボ OFF。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	サーボ ON 中に軸に割り付けられている EtherCAT スレーブ、または NX ユニットに対して次のいずれかが発生した。 • 離脱／交換された • 無効化された • NX シリーズ CPU ユニットの NX バスがリスタートされた		該当軸に割り付けられている EtherCAT スレーブ、または NX ユニットを再度加入させてください。		EtherCAT スレーブ、または NX ユニットに対して以下を実行する場合は、サーボ OFF してから実行してください。 • 離脱／交換 • 無効化 • NX シリーズ CPU ユニットの NX バスのリスタート	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	定寸距離オーバーフロー			イベントコード	74380000Hex	
内容	MC_MoveFeed（割り込み定寸位置決め）命令の割り込み入力後の目標位置が、オーバーフロー／アンダーフローしました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令実行中
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸の減速停止。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	MC_MoveFeed（割り込み定寸位置決め）命令の割り込み入力後の目標位置をパルス数単位に変換したとき、符号付き 40 ビットの範囲を超えた。		割り込み入力後の目標位置のパルス数がパルス数の範囲を超えない指令位置の入力値になるようプログラムを修正してください。		割り込み入力後の目標位置をパルス数単位に変換したとき、符号付き 40 ビットの範囲を超えないようにプログラムを作成してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	サーボドライバの制御モード切替異常			イベントコード	74390000Hex	
内容	制御モード切り替え時に、処理が所定の時間内に完了しませんでした。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令実行中
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸のサーボ OFF。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	MC_SyncMoveVelocity（サイクリック同期速度制御）命令の停止時に、指令速度に「0」を出力し始めてから 10 秒以内にフィードバック現在速度が最高速度の 10%以内に 3 周期連続して収まらなかった。		発生要因にある状態にならないように、指令や負荷を調整してください。		発生要因にある状態にならないように、指令や負荷を調整してください。	
	オムロン製サーボドライバ 1S シリーズまたは G5 シリーズを使用している場合に、MC_TorqueControl（トルク制御）命令の停止時に、10 秒以内にフィードバック現在速度が最高速度の 10%以内に 3 周期連続して収まらなかった。					
	制御モード（CSP/CSV/CST）の切り替え指令後、1 秒以内にサーボドライバのモード切り替えが完了しなかった。		サーボドライバに異常が発生していないか、設定が間違っていないかを確認して必要な対処を行ってください。 制御モードを切り替えて制御する場合は、PDO マップに「csp 用参照位置」を設定してください。		サーボドライバに異常が発生していないこと、設定が間違っていないことを確認してください。 制御モードを切り替えて制御する場合は、PDO マップに「csp 用参照位置」を設定してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	主軸位置読み出し異常			イベントコード	743A0000Hex	
内容	同期制御命令の主軸の位置に異常が発生したため、同期制御命令を実行することができません。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時／命令実行中
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当従軸の動作不可。該当従軸の軸動作中は減速停止。		

システム定義変数	変数名	データ型	名称
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active	BOOL	軸 軽度フォールト発生中

発生要因とその処置	発生要因（推定原因）	処置対策	再発防止
	同期制御命令の主軸の EtherCAT のプロセスデータ通信が未確立、または NX ユニットの I/O データを制御に使用できない。	主軸の EtherCAT マスタシステム変数の_EC_PDSlavTbl（プロセスデータ通信中スレーブテーブル）が FALSE になっている場合は、主軸の異常を調査してその要因を取り除いてください。 主軸が NX ユニットの場合は、さらに NX ユニットのプロセスデータ通信中ステータスについても、同様の処置対策を行ってください。	電源 ON／ダウンロード直後、またはスレーブ通信異常の解除直後に同期制御命令を実行する場合は、EtherCAT マスタシステム変数の_EC_PDSlavTbl（プロセスデータ通信中スレーブテーブル）の主軸のノードが TRUE になったことを確認してから、同期制御命令を実行してください。 主軸が NX ユニットの場合は、さらに NX ユニットのプロセスデータ通信中ステータスについても、同様の処置対策を行ってください。
	同期制御命令の主軸でスレーブ離脱またはスレーブ無効化が発生。	主軸でスレーブの離脱またはスレーブ無効化を行っていないか確認し、行なっている場合は再加入またはスレーブを有効化させてください。	同期制御命令実行時は、主軸のスレーブ離脱またはスレーブ無効化は行なわないようにしてください。
	同期制御命令の主軸で、絶対値エンコーダ現在位置算出不可（64580000Hex）を検出。	主軸で絶対値エンコーダ現在位置算出不可（64580000Hex）を検出していないか確認し、検出している場合は、その異常の処置対策を実施して復旧してください。	絶対値エンコーダ現在位置算出不可（64580000Hex）の発生中の軸を主軸とした同期制御命令を実行しないでください。
	同期制御命令の主軸が未使用軸。	主軸を使用軸にしてください。	同期制御命令実行時は、主軸を未使用軸にしないでください。

付属情報	なし
注意点／備考	なし

イベント名	補助軸位置読み出し異常			イベントコード	743B0000Hex	
内容	同期制御命令の補助軸の位置に異常が発生したため、同期制御命令を実行することができません。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時／命令実行中
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当従軸の動作不可。該当従軸の軸動作中は減速停止。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	同期制御命令の補助軸のEtherCAT のプロセスデータ通信が未確立、または NX ユニットの I/O データを制御に使用できない。		補助軸の EtherCAT マスタシステム変数の_EC_PDSlavTbl（プロセスデータ通信中スレーブテーブル）が FALSE になっている場合は、補助軸の異常を調査してその要因を取り除いてください。 補助軸が NX ユニットの場合は、さらに NX ユニットのプロセスデータ通信中ステータスについても、同様の処置対策を行ってください。		電源 ON／ダウンロード直後、またはスレーブ通信異常の解除直後に同期制御命令を実行する場合は、EtherCAT マスタシステム変数の_EC_PDSlavTbl（プロセスデータ通信中スレーブテーブル）の補助軸のノードが TRUE になったことを確認してから、同期制御命令を実行してください。 補助軸が NX ユニットの場合は、さらに NX ユニットのプロセスデータ通信中ステータスについても、同様の処置対策を行ってください。	
	同期制御命令の補助軸でスレーブ離脱またはスレーブ無効化が発生。		補助軸でスレーブの離脱またはスレーブ無効化を行っていないか確認し、行なっている場合は再加入またはスレーブを有効化させてください。		同期制御命令実行時は、補助軸のスレーブ離脱またはスレーブ無効化は行なわないようにしてください。	
	同期制御命令の補助軸で、絶対値エンコーダ現在位置算出不可（64580000Hex）を検出。		補助軸で絶対値エンコーダ現在位置算出不可（64580000Hex）を検出していないか確認し、検出している場合は、その異常の処置対策を実施して復旧してください。		絶対値エンコーダ現在位置算出不可（64580000Hex）の発生中の軸を補助軸とした同期制御命令を実行しないでください。	
	同期制御命令の補助軸が未使用軸。		補助軸を使用軸にしてください。		同期制御命令実行時は、補助軸を未使用軸にしないでください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	スレーブ通信異常			イベントコード	84400000Hex	
内容	軸に割り付けられている EtherCAT スレーブ、または NX ユニットとの通信に異常が発生しました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	常時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸のサーボ OFF。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	軸に割り付けられている EtherCAT スレーブ、または NX ユニットとの通信に異常が発生した。		EtherCAT マスタ機能モジュールまたは NX バス機能モジュールで発生している異常をイベントログで確認し、異常原因を除去してから、本異常の解除を行ってください。		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	本異常の解除を行っても、軸に割り付けられているスレーブまたは NX ユニットが接続されている EtherCAT マスタ機能モジュールまたは NX バス機能モジュールの異常解除は行われません。EtherCAT マスタ機能モジュールまたは NX バス機能モジュールの異常が解除されていなくても本異常は解除できますが、その場合は軸無効状態を継続します。					

イベント名	モーション制御異常解除命令数過多			イベントコード	571D0000Hex *1	
内容	ResetMCError（モーション制御異常解除）命令のインスタンス数が 100 個を超えています。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	MC 共通	検出タイミング	電源投入時／コントローラリセット時／ダウンロード時／オンラインエディット時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし。		

システム定義変数	変数名	データ型	名称
	_MC_COM.Obsr.Active	BOOL	MC 共通 監視情報発生中

発生要因とその処置	発生要因（推定原因）	処置対策	再発防止
	ファンクションブロックのインスタンス内も含め、ユーザプログラムで宣言されている ResetMCError（モーション制御異常解除）命令のインスタンス数が 100 個を超えている。	ResetMCError（モーション制御異常解除）命令のインスタンス数が 100 個以下となるよう、ユーザプログラムを修正してしてください。 同じインスタンスを使用するか、異常解除対象により MC_Reset（軸エラーリセット）命令や MC_GroupReset（軸グループエラーリセット）命令を使用してください。	ResetMCError（モーション制御異常解除）命令のインスタンス数が 100 個以内におさまるようにプログラムを記述してください。

付属情報	なし
注意点／備考	なし

*1. ユニットバージョン Ver.1.02 から Ver.1.09 までの CPU ユニットで発生するイベントです。

イベント名	位置偏差警告			イベントコード	644C0000Hex	
内容	位置偏差が位置偏差警告値を超えました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令実行中
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし。		

システム定義変数	変数名	データ型	名称
	_MC_AX[*].Obsr.Active	BOOL	軸 監視情報発生中

発生要因とその処置	発生要因（推定原因）	処置対策	再発防止
	位置決め動作の追従性が悪く、指令に対して実際の動作が遅れている。	位置決め動作の追従性が悪くなる要因を取り除いてください。 または、［位置偏差警告値］を問題のない範囲で大きな値に変更してください。	位置決め動作の追従性が悪くなる要因はできる限り排除してください。

付属情報	なし
注意点／備考	なし

イベント名	速度警告			イベントコード	644D0000Hex	
内容	指令速度が速度警告値を超えました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸／軸グループ	検出タイミング	命令実行中
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].Obsr.Active		BOOL		軸 監視情報発生中	
	_MC_GRP[*].Obsr.Active		BOOL		軸グループ 監視情報発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	指令速度が速度警告値を超えた。		速度警告値を超えた原因を調査し適切な処置を行ってください。 または、［速度警告値］を問題のない範囲で大きな値に変更してください。		（速度警告値を超えたことを検出することが目的のため、防止不要）	
付属情報	なし					
注意点／備考	重要度を軽度フォールトに変更できます。軽度フォールトに変更した場合の復旧方法は「異常解除」、動作は「該当軸／軸グループの減速停止」となります。					

イベント名	加速度警告			イベントコード	644E0000Hex	
内容	指令加速度が加速度警告値を超えました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸／軸グループ	検出タイミング	命令実行中
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].Obsr.Active		BOOL		軸 監視情報発生中	
	_MC_GRP[*].Obsr.Active		BOOL		軸グループ 監視情報発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	指令加速度が加速度警告値を超えた。		加速度警告値を超えた原因を調査し適切な処置を行ってください。 または、［加速度警告値］を問題のない範囲で大きな値に変更してください。		（加速度警告値を超えたことを検出することが目的のため、防止不要）	
付属情報	なし					
注意点／備考	重要度を軽度フォールトに変更できます。軽度フォールトに変更した場合の復旧方法は「異常解除」、動作は「該当軸／軸グループの減速停止」となります。					

イベント名	減速度警告			イベントコード	644F0000Hex	
内容	指令減速度が減速度警告値を超えました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸／軸グループ	検出タイミング	命令実行中
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].Obsr.Active		BOOL		軸 監視情報発生中	
	_MC_GRP[*].Obsr.Active		BOOL		軸グループ 監視情報発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	指令減速度が減速度警告値を超えた。		減速度警告値を超えた原因を調査し適切な処置を行ってください。 または、［減速度警告値］を問題のない範囲で大きな値に変更してください。		（減速度警告値を超えたことを検出することが目的のため、防止不要）	
付属情報	なし					
注意点／備考	重要度を軽度フォールトに変更できます。軽度フォールトに変更した場合の復旧方法は「異常解除」、動作は「該当軸／軸グループの減速停止」となります。					

イベント名	正方向トルク警告			イベントコード	64500000Hex	
内容	トルク指令値が正方向トルク警告値を超えました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令実行中
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].Obsr.Active		BOOL		軸 監視情報発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	トルク指令値が正方向トルク警告値を超えた。		トルク警告値を超えた原因を調査し適切な処置を行ってください。 または、［正方向トルク警告値］を問題のない範囲で大きな値に変更してください。		（トルク警告値を超えたことを検出することが目的のため、防止不要）	
付属情報	なし					
注意点／備考	重要度を軽度フォールトに変更できます。軽度フォールトに変更した場合の復旧方法は「異常解除」、動作は「該当軸の減速停止」となります。					

イベント名	負方向トルク警告			イベントコード	64510000Hex	
内容	トルク指令値が負方向トルク警告値を超えました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令実行中
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].Obsr.Active		BOOL		軸 監視情報発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	トルク指令値が負方向トルク警告値を超えた。		トルク警告値を超えた原因を調査し適切な処置を行ってください。 または、［負方向トルク警告値］を問題のない範囲で大きな値に変更してください。		（トルク警告値を超えたことを検出することが目的のため、防止不要）	
付属情報	なし					
注意点／備考	重要度を軽度フォールトに変更できます。軽度フォールトに変更した場合の復旧方法は「異常解除」、動作は「該当軸の減速停止」となります。					

イベント名	指令位置オーバーフロー			イベントコード	64520000Hex	
内容	指令位置に対応するパルス数がオーバーフローしました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	常時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	位置は更新されないが動作継続。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].Obsr.Active		BOOL		軸 監視情報発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	リニアモード時に、指令位置をパルス単位に変換したとき、符号付き 40 ビットの上限値を超えた。		該当命令でパルス数がパルス数の範囲を超えない指令位置の入力値になるようプログラムを修正、または電子ギア比の設定を変更してください。 オーバーフローの状態から復旧するには、「現在位置変更」または「原点復帰」を行ってください。		電子ギア比の設定と目標位置の設定値を確認し、変換後のパルス数が符号付き 40 ビットの範囲を超えないように設定してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	重要度を軽度フォールトに変更できます。軽度フォールトに変更した場合の復旧方法は「異常解除」、動作は「該当軸の減速停止」となります。					

イベント名	指令位置アンダーフロー			イベントコード	64530000Hex	
内容	指令位置に対応するパルス数がアンダーフローしました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	常時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	位置は更新されないが動作継続。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].Obsr.Active		BOOL		軸 監視情報発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	リニアモード時に、指令位置をパルス単位に変換したとき、符号付き 40 ビットの下限値を超えた。		該当命令でパルス数がパルス数の範囲を超えない指令位置の入力値になるようプログラムを修正、または電子ギア比の設定を変更してください。 アンダーフローの状態から復旧するには、「現在位置変更」または「原点復帰」を行ってください。		電子ギア比の設定と目標位置の設定値を確認し、変換後のパルス数が符号付き 40 ビットの範囲を超えないように設定してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	重要度を軽度フォールトに変更できます。軽度フォールトに変更した場合の復旧方法は「異常解除」、動作は「該当軸の減速停止」となります。					

イベント名	フィードバック位置オーバーフロー			イベントコード	64540000Hex	
内容	フィードバック位置に対応するパルス数がオーバーフローしました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	常時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	位置は更新されないが動作継続。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].Obsr.Active		BOOL		軸 監視情報発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	フィードバック位置をパルス単位に変換したとき、符号付き 40 ビットの上限値を超えた。		該当命令でパルス数がパルス数の範囲を超えないフィードバック位置になるよう、目標位置がパルス数の範囲に対して余裕を持つようにプログラムを修正、または電子ギア比の設定を変更してください。 オーバーフローの状態から復旧するには、「現在位置変更」または「原点復帰」を行ってください。		電子ギア比の設定と目標位置の設定値を確認し、変換後のパルス数が符号付き 40 ビットの範囲に余裕を持って収まるように設定してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	重要度を軽度フォールトに変更できます。軽度フォールトに変更した場合の復旧方法は「異常解除」、動作は「該当軸の減速停止」となります。					

イベント名	フィードバック位置アンダーフロー			イベントコード	64550000Hex	
内容	フィードバック位置に対応するパルス数がアンダーフローしました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	常時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	位置は更新されないが動作継続。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].Obsr.Active		BOOL		軸 監視情報発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	フィードバック位置をパルス単位に変換したとき、符号付き 40 ビットの下限値を超えた。		該当命令でパルス数がパルス数の範囲を超えないフィードバック位置になるよう、目標位置がパルス数の範囲に対して余裕を持つようにプログラムを修正、または電子ギア比の設定を変更してください。 アンダーフローの状態から復旧するには、「現在位置変更」または「原点復帰」を行ってください。		電子ギア比の設定と目標位置の設定値を確認し、変換後のパルス数が符号付き 40 ビットの範囲に余裕を持って収まるように設定してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	重要度を軽度フォールトに変更できます。軽度フォールトに変更した場合の復旧方法は「異常解除」、動作は「該当軸の減速停止」となります。					

イベント名	スレーブ監視情報検知			イベントコード	74320000Hex	
内容	EtherCAT スレーブ、または NX ユニットの警告を検知しました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	常時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].Obsr.Active		BOOL		軸 監視情報発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	軸に割り付けられている EtherCAT スレーブ、または NX ユニットが警告を検知した。		スレーブのワーニングコードを確認し、異常原因を除去してください。		なし	
付属情報	付属情報 1: ドライバワーニングコード					
注意点／備考	重要度を軽度フォールトに変更できます。軽度フォールトに変更した場合の復旧方法は「異常解除」、動作は「該当軸の減速停止」となります。					

イベント名	カムテーブル保存命令実行不可			イベントコード	743C0000Hex	
内容	他操作が不揮発性メモリにアクセス中のため、カムテーブルのファイル保存が実行できませんでした。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	MC 共通	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_COM.Obsr.Active		BOOL		MC 共通 監視情報発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	他操作（Sysmac Studio による転送、データトレースなど）が不揮発性メモリにアクセス中に MC_SaveCamTable（カムテーブル保存）命令が実行された。		再度 MC_SaveCamTable（カムテーブル保存）命令を実行してください。		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	ブレンディングの中継速度到達までの移動量不足通知			イベントコード	94200000Hex	
内容	ブレンディング中継速度に加減速するための移動量が不足しています。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸／軸グループ	検出タイミング	命令多重起動開始時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし。		

システム定義変数	変数名	データ型	名称
	_MC_AX[*].Obsr.Active	BOOL	軸 監視情報発生中
	_MC_GRP[*].Obsr.Active	BOOL	軸グループ 監視情報発生中

発生要因とその処置	発生要因（推定原因）	処置対策	再発防止
	［加減速オーバー］に「加減速度を急激にする（ブレンディングをバッファードに切り替える）」が設定されている場合において、Blending 指定時、プロファイル作成の結果、加減速オーバーが発生するため Buffered 扱いに変更した。	Buffered 扱いに変更したくない場合は、［加減速オーバー］で「加減速度を急激にする（ブレンディングをバッファードに切り替える）」以外を設定してください。	Buffered 扱いに変更したくない場合は、［加減速オーバー］で「加減速度を急激にする（ブレンディングをバッファードに切り替える）」以外を設定してください。
	Blending 指定時、既に目標位置に到達しておりプロファイルが正しく描けないため、Buffered 扱いに変更した。	Buffered 扱いに変更された結果、意図しない動作となる場合は、左記の要因が発生しないようにプログラムを修正してください。	Buffered 扱いに変更された結果、意図しない動作となる場合は、左記の要因が発生しないようにプログラムを作成してください。

付属情報	なし
注意点／備考	重要度を軽度フォールトに変更できます。軽度フォールトに変更した場合の復旧方法は「異常解除」、動作は「該当軸の減速停止」となります。

イベント名	MC 試運転画面からの異常解除実行			イベントコード	94210000Hex	
内容	Sysmac Studio の試運転画面から異常解除が実行されました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	MC 共通	検出タイミング	MC 試運転異常解除時
異常の属性	重要度	一般情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし。		

システム定義変数	変数名	データ型	名称
	なし	－	－

発生要因とその処置	発生要因（推定原因）	処置対策	再発防止
	Sysmac Studio の試運転画面から異常解除が実行された。	－	－

付属情報	付属情報 1: 実行結果　0000_0000Hex: 全解除成功、0000_0001Hex: 全解除失敗
注意点／備考	なし

イベント名	スレーブ異常コード確定			**イベントコード**	94220000Hex	
内容	「スレーブ異常検知」の発生により、スレーブから異常コードが通知されました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		**発生源詳細**	軸	**検出タイミング**	「スレーブ異常検知（742F0000Hex）」の発生後
異常の属性	**重要度**	一般情報	**復旧方法**	−	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	「スレーブ異常検知（742F0000Hex）」の発生により、スレーブから異常コードが通知されました。		本異常は、「スレーブ異常検知（742F0000Hex）」に付随して発生する情報です。付属情報のスレーブ異常コードを確認して、必要な処置対策を行ってください。		なし	
付属情報	付属情報 1: スレーブ異常コード					
注意点／備考	オムロン製サーボドライバ 1S シリーズまたは G5 シリーズの場合は、付属情報の下 2 けたにサーボドライバの異常コード（エラー表示 No.のメインの番号）が表示されます。 たとえば、付属情報に「FF13」が表示された場合、エラー表示 No.13（主回路電源不足電圧）がサーボドライバで発生しています。					

1-5-2 モーション制御命令関連

モーション制御命令で発生する異常（イベント）の詳細情報を示します。イベントコードの上位 4 けたがモーション制御命令のエラーコード(ErrorID)を表します。各エラーコードの説明は、対応するイベントコードの説明を参照してください。たとえば、モーション制御命令のエラーコードが 16#3461 の場合は、34610000Hex のイベントコードの説明を参照してください。

使用上の注意

ユニットバージョン Ver.1.10 以降の CPU ユニットでは、_MC_AX[*]で始まる変数名は、_MC1_AX[*]、_MC2_AX[*]の場合があります。同様に_MC_GRP[*]で始まる変数名は、_MC1_GRP[*]、_MC2_GRP[*]の場合があります。

イベント名	プロセスデータオブジェクト設定不足			**イベントコード**	34610000Hex	
内容	PDO マッピングが正しくありません。					
発生源	モーション制御機能モジュール		**発生源詳細**	軸	**検出タイミング**	命令起動時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	異常解除	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当軸の動作不可		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	モーション命令で必要な PDO マッピングがされていない。		該当命令で必要な PDO マッピングを行ってください。 必要な PDO マッピングについては、該当命令の「機能説明」を参照してください。		使用する命令で必要な PDO マッピングを行ってください。 各命令で必要な PDO マッピング（サーボドライバの設定）については、『NJ/NX シリーズ ユーザーズマニュアル モーション制御編』を参照してください。	
	該当命令に対応するオブジェクトを持たない対象機器に対して該当命令を実行した。		該当命令に対応する機能を持たない対象機器があります。 対象機器のマニュアルを参照して、該当命令に対応しているか確認し、対応していない命令を実行しないようにプログラムを修正してください。		対象機器のマニュアルを参照し、対応していない命令を実行しないようにプログラムを作成してください。	
	オムロン製 EtherCAT エンコーダスレーブ GX-EC02□□をマッピングした軸に対して、トリガ条件として Z 相(_mcEncoderMark)を指定してモーション命令を起動した。		オムロン製 EtherCAT エンコーダスレーブ GX-EC02□□をマッピングした軸では、トリガ条件に外部入力(_mcEXT)を使用してください。		オムロン製 EtherCAT エンコーダスレーブ GX-EC02□□をマッピングした軸では、トリガ条件に外部入力(_mcEXT)を使用してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	電子ギア分子設定範囲外			イベントコード	54200000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「RatioNumerator」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当従軸の動作不可 該当従軸の軸動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	電子ギア分母設定範囲外			イベントコード	54210000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「RatioDenominator」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当従軸の動作不可 該当従軸の軸動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	目標速度設定範囲外			イベントコード	54220000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「Velocity」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸／軸グループ	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	発生源詳細が「軸」の場合: 該当軸の動作不可。該当軸の動作中は減速停止 発生源詳細が「軸グループ」の場合: 該当軸グループの動作不可。該当軸グループの動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸グループ 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	加速度設定範囲外			イベントコード	54230000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「Acceleration」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸／軸グループ	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	発生源詳細が「軸」の場合: 該当軸の動作不可。該当軸の動作中は減速停止 発生源詳細が「軸グループ」の場合: 該当軸グループの動作不可。該当軸グループの動作中は減速停止		

システム定義変数	変数名	データ型	名称
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active	BOOL	軸 軽度フォールト発生中
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active	BOOL	軸グループ 軽度フォールト発生中

発生要因とその処置	発生要因（推定原因）	処置対策	再発防止
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外	該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。	命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。

付属情報	なし
注意点／備考	なし

イベント名	減速度設定範囲外			イベントコード	54240000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「Deceleration」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸／軸グループ	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	発生源詳細が「軸」の場合: 該当軸の動作不可。該当軸の動作中は減速停止 発生源詳細が「軸グループ」の場合: 該当軸グループの動作不可。該当軸グループの動作中は減速停止		

システム定義変数	変数名	データ型	名称
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active	BOOL	軸 軽度フォールト発生中
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active	BOOL	軸グループ 軽度フォールト発生中

発生要因とその処置	発生要因（推定原因）	処置対策	再発防止
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外	該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。	命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。

付属情報	なし
注意点／備考	なし

イベント名	ジャーク設定範囲外			イベントコード	54250000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「Jerk」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸／軸グループ	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	発生源詳細が「軸」の場合: 該当軸の動作不可。該当軸の動作中は減速停止 発生源詳細が「軸グループ」の場合: 該当軸グループの動作不可。該当軸グループの動作中は減速停止		

システム定義変数	変数名	データ型	名称
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active	BOOL	軸 軽度フォールト発生中
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active	BOOL	軸グループ 軽度フォールト発生中

発生要因とその処置	発生要因（推定原因）	処置対策	再発防止
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外	該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。	命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。

付属情報	なし
注意点／備考	なし

イベント名	トルク傾斜設定範囲外			イベントコード	54270000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「TorqueRamp」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸の動作不可。該当軸の軸動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	主軸係数設定範囲外			イベントコード	54280000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「MasterScaling」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当従軸の動作不可 該当従軸の軸動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	従軸係数設定範囲外			イベントコード	54290000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「SlaveScaling」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当従軸の動作不可 該当従軸の軸動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	定寸速度設定範囲外			イベントコード	542A0000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「FeedVelocity」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸の動作不可。該当軸の軸動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	定寸速度（入力変数「FeedVelocity」）が初期値のまま(0)である。		定寸速度（入力変数「FeedVelocity」）に正の値を指定してください。		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	バッファモード選択範囲外			イベントコード	542B0000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「BufferMode」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸／軸グループ	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	発生源詳細が「軸」の場合: 該当軸の動作不可。該当軸の動作中は減速停止 発生源詳細が「軸グループ」の場合: 該当軸グループの動作不可。該当軸グループの動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸グループ 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	座標系選択範囲外			イベントコード	542C0000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「CoordSystem」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸グループ	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸グループの動作不可 該当軸グループの動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸グループ 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	円弧補間モード選択範囲外			イベントコード	542D0000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「CircMode」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸グループ	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸グループの動作不可 該当軸グループの動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸グループ 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	方向選択範囲外			イベントコード	542E0000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「Direction」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸の動作不可。該当軸の軸動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	経路選択範囲外			イベントコード	542F0000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「PathChoice」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸グループ	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸グループの動作不可 該当軸グループの動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸グループ 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	位置種別選択範囲外			イベントコード	54300000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「ReferenceType」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	MC 共通／軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸の動作不可。該当軸の軸動作中は減速停止		

システム定義変数	変数名	データ型	名称
	_MC_COM.MFaultLvl.Active	BOOL	MC 共通 軽度フォールト発生中
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active	BOOL	軸 軽度フォールト発生中

発生要因とその処置	発生要因（推定原因）	処置対策	再発防止
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外	該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。	命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。

付属情報	なし
注意点／備考	なし

イベント名	移動方法選択範囲外			イベントコード	54310000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「MoveMode」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸／軸グループ	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	発生源詳細が「軸」の場合: 該当軸の動作不可。該当軸の動作中は減速停止 発生源詳細が「軸グループ」の場合: 該当軸グループの動作不可。該当軸グループの動作中は減速停止		

システム定義変数	変数名	データ型	名称
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active	BOOL	軸 軽度フォールト発生中
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active	BOOL	軸グループ 軽度フォールト発生中

発生要因とその処置	発生要因（推定原因）	処置対策	再発防止
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外	該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。	命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。

付属情報	なし
注意点／備考	なし

イベント名	トランジションモード選択範囲外			イベントコード	54320000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「TransitionMode」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸グループ	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸グループの動作不可 該当軸グループの動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸グループ 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。	
	「BufferMode」で「_mcAborting」、「_mcBuffered」を指定かつ「TransitionMode」を「_mcTMCornerSuperimposed」に指定		「BufferMode」で「_mcAborting」、「_mcBuffered」を指定する場合は「TransitionMode」を「_mcTMNone」に指定、「TransitionMode」を「_mcTMCornerSuperimposed」に指定する場合には「BufferMode」で「_mcBlendingLow」、「_mcBlendingPrevious」、「_mcBlendingNext」、「_mcBlendingHigh」を指定してください。		「BufferMode」で「_mcAborting」、「_mcBuffered」を指定する場合は「TransitionMode」を「_mcTMNone」に指定、「TransitionMode」を「_mcTMCornerSuperimposed」に指定する場合には「BufferMode」で「_mcBlendingLow」、「_mcBlendingPrevious」、「_mcBlendingNext」、「_mcBlendingHigh」を指定してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	継続方法選択範囲外			イベントコード	54330000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「Continuous (Reserved)」の値が変更されました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸の動作不可。該当軸の軸動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	入力変数「Continuous (Reserved)」の値が変更された。		入力変数「Continuous (Reserved)」の値を変更しないようにプログラムを修正してください。		入力変数「Continuous (Reserved)」の値を変更しないようにプログラムを作成してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	加減算方法選択範囲外			イベントコード	54340000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「CombineMode」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸の動作不可。該当軸の軸動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	同期開始条件指定範囲外			イベントコード	54350000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「LinkOption」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸の動作不可。該当軸の軸動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	主軸従軸同一			イベントコード	54360000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「Master」と「Slave」に指定された軸が同じです。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	MC 共通／軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当従軸の動作不可 該当従軸の軸動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_COM.MFaultLvl.Active		BOOL		MC 共通 軽度フォールト発生中	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力変数「Master」と「Slave」のパラメータが同一		該当命令の入力変数「Master」と「Slave」に指定される軸が異なるようにパラメータを修正してください。		命令の入力変数「Master」と「Slave」には異なる軸を指定してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	主軸補助軸同一			イベントコード	54370000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「Master」と「Auxiliary」に指定された軸が同じです。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当従軸の動作不可 該当従軸の軸動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力変数「Master」と「Auxiliary」のパラメータが同一		該当命令の入力変数「Master」と「Auxiliary」に指定される軸が異なるようにパラメータを修正してください。		命令の入力変数「Master」と「Auxiliary」には異なる軸を指定してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	主軸／従軸　軸番号非昇順			イベントコード	54380000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「Master」と「Slave」に指定された軸番号が昇順ではありません。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当従軸の動作不可 該当従軸の軸動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力変数「ReferenceType」で「_mcLatestCommand」指定時、命令の入力変数「Master」と「Slave」のパラメータが非昇順		該当命令の入力変数「ReferenceType」で「_mcLatestCommand」を指定する場合には、該当命令の入力変数「Master」と「Slave」に指定される軸番号が昇順になるようにパラメータを修正してください。または、主軸位置種別選択で「_mcCommand」を指定してください。		変数「ReferenceType」で「_mcLatestCommand」を指定する場合には、入力変数の主軸と従軸が昇順になるように指定してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	カムテーブル指定不正			イベントコード	54390000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「CamTable」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	MC 共通／軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	発生源詳細が「MC 共通」の場合: 影響なし 発生源詳細が「軸」の場合: 該当従軸の動作不可		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_COM.MFaultLvl.Active		BOOL		MC 共通 軽度フォールト発生中	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力変数「CamTable」にカムデータ変数以外を指定		該当命令の入力変数「CamTable」に指定されるパラメータがカムデータ変数になるようにパラメータを修正してください。		命令の入力変数の「CamTable」にはカムデータ変数を指定してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	同期停止中			イベントコード	543A0000Hex	
内容	モーション制御の同期制御命令が実行されましたが、実行可能な条件ではありません。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当従軸の動作不可 該当従軸の軸動作中は減速停止		

システム定義変数	変数名	データ型	名称
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active	BOOL	軸 軽度フォールト発生中

発生要因とその処置	発生要因（推定原因）	処置対策	再発防止
	• MC_CamOut（カム動作解除）命令が実行されたが、MC_CamIn（カム動作開始）命令実行中でない。 • MC_GearOut（ギア動作解除）命令が実行されたが MC_GearIn（ギア動作開始）命令、MC_GearInPos（位置指定ギア動作）命令実行中でない。 • MC_Phasing（主軸相対値位相補正）命令が実行されたが、MC_CamIn（カム動作開始）命令、MC_GearIn（ギア動作開始）命令、MC_GearInPos（位置指定ギア動作）命令、MC_MoveLink（台形パターンカム）命令が実行中でない。	該当命令の実行時に実行可能な条件になるようにプログラムを修正してください。	同期制御命令の実行時には実行可能な条件になるようにしてください。

付属情報	なし
注意点／備考	なし

イベント名	モーション命令再起動不可			イベントコード	543B0000Hex	
内容	再起動できないモーション制御命令の再起動を行いました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	MC 共通／軸／軸グループ	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	発生源詳細が「MC 共通」の場合: 影響なし 発生源詳細が「軸」の場合: 該当軸の動作不可。該当軸の動作中は減速停止 発生源詳細が「軸グループ」の場合: 該当軸グループの動作不可。該当軸グループの動作中は減速停止		

システム定義変数	変数名	データ型	名称
	_MC_COM.MFaultLvl.Active	BOOL	MC 共通 軽度フォールト発生中
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active	BOOL	軸 軽度フォールト発生中
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active	BOOL	軸グループ 軽度フォールト発生中

発生要因とその処置	発生要因（推定原因）	処置対策	再発防止
	再起動できないモーション制御命令の再起動	該当命令の出力変数「Busy」が FALSE になるまで入力変数「Execute」が立ち上がらないようにプログラムを修正してください。	再起動できない命令を使用する場合は、入力変数「Execute」の立上げ条件にその命令の出力変数「Busy」が FALSE であること含むようにしてください。または、再度命令を起動する前に一旦命令を停止するようにしてください。

付属情報	なし
注意点／備考	なし

イベント名	モーション命令多重起動不可			イベントコード	543C0000Hex	
内容	同じ対象（MC 共通／軸／軸グループ）に対して同時に実行できない機能を複数実行しました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	MC 共通／軸／軸グループ	検出タイミング	命令多重起動開始時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	発生源詳細が「MC 共通」の場合: 影響なし 発生源詳細が「軸」の場合: 該当軸の動作不可。該当軸の動作中は減速停止 発生源詳細が「軸グループ」の場合: 該当軸グループの動作不可。該当軸グループの動作中は減速停止		

システム定義変数	変数名	データ型	名称
	_MC_COM.MFaultLvl.Active	BOOL	MC 共通 軽度フォールト発生中
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active	BOOL	軸 軽度フォールト発生中
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active	BOOL	軸グループ 軽度フォールト発生中

発生要因とその処置	発生要因（推定原因）	処置対策	再発防止
	同じ対象（MC 共通／軸／軸グループ）に対して同時に実行できない機能を複数実行	該当命令の多重起動の仕様を確認し、同時に実行できない命令を同時に実行しないようにプログラムを修正してください。	使用する命令の多重起動の仕様を確認し、同時に実行できない命令を同時に実行しないようにしてください。

付属情報	なし
注意点／備考	なし

イベント名	軸種別不適合			イベントコード	543D0000Hex	
内容	エンコーダ軸に対して動作命令を実行しました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸の動作不可		

システム定義変数	変数名	データ型	名称
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active	BOOL	軸 軽度フォールト発生中

発生要因とその処置	発生要因（推定原因）	処置対策	再発防止
	エンコーダ軸に対して動作命令を実行	該当命令の軸種別設定にサーボ軸または仮想サーボ軸を指定するか、エンコーダ軸に対して該当動作命令を実行しないようにプログラムを修正してください。	動作命令はサーボ軸または仮想サーボ軸に対して実行するようにしてください。

付属情報	なし
注意点／備考	なし

イベント名	多軸協調動作中の命令起動不可			**イベントコード**	543E0000Hex	
内容	• 多軸協調動作中の軸または軸グループに対して動作命令を実行しました。 • 軸グループ有効状態で使用できないロボット命令を実行しました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		**発生源詳細**	軸／軸グループ	**検出タイミング**	命令多重起動開始時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	異常解除	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	軸グループの減速停止		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸グループ 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	多軸協調動作中の軸または軸グループに対して動作命令を実行		該当軸や該当軸グループが多軸協調動作中でないときに該当命令を実行するようにプログラムを修正してください。		多軸協調動作中でない軸または軸グループに軸動作命令を実行するようにしてください。	
	軸グループ有効状態の軸グループに対して、MC_SetKinTransform（キネマティクス変換設定）命令を実行		軸グループ無効時に、該当命令を実行するようにプログラムを修正してください。		軸グループ無効時に、該当命令を実行するようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	軸グループ無効状態での多軸協調命令起動			**イベントコード**	543F0000Hex	
内容	軸グループ無効状態の軸グループに対して、多軸協調命令を起動しました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		**発生源詳細**	軸グループ	**検出タイミング**	命令起動時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	異常解除	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当軸グループの動作不可 該当軸グループの動作中は減速停止		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸グループ 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	軸グループ無効状態の軸グループに対して、多軸協調命令を起動		軸グループを有効状態にした後に該当命令を実行するようにプログラムを修正してください。軸グループを有効状態にするにはMC_GroupEnable（軸グループ有効）命令を実行してください。		軸グループを有効にしてから多軸協調動作命令を実行してください。軸グループを有効状態にするにはMC_GroupEnable（軸グループ有効）命令を実行してください。	
	軸グループ無効状態の軸グループに対して、次の命令を起動 • MC_MoveTimeAbsolute（時間指定絶対値位置指令）命令 • MC_SyncLinearConveyor（コンベア同期動作開始）命令 • MC_SyncOut（同期動作解除）命令 • MC_RobotJog（軸グループジョグ送り）命令					
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	軸グループ有効不可			イベントコード	54400000Hex	
内容	MC_GroupEnable（軸グループ有効）命令の実行に失敗しました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸グループ	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸グループの動作不可。構成軸の動作は継続		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸グループ 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	MC_GroupEnable（軸グループ有効）命令実行時、構成軸の中に停止中でない軸が存在した。		構成軸のすべてが停止中のときに、MC_GroupEnable（軸グループ有効）命令を実行するようにプログラムを修正してください。軸変数の「Status.Disabled」または「Status.Standstill」が TRUE のとき、その軸は停止中です。		構成軸のすべてが停止中のときに、MC_GroupEnable（軸グループ有効）命令を実行するようにプログラムを作成してください。軸変数の「Status.Disabled」または「Status.Standstill」が TRUE のとき、その軸は停止中です。	
	MC_GroupEnable（軸グループ有効）命令実行時、構成軸の中に MC_TouchProbe（外部ラッチ有効）命令実行中の軸が存在した。		構成軸のすべてで MC_TouchProbe（外部ラッチ有効）命令が実行されていないときに MC_GroupEnable（軸グループ有効）命令を実行するようにプログラムを修正してください。		構成軸のすべてで MC_TouchProbe（外部ラッチ有効）命令が実行されていないときに MC_GroupEnable（軸グループ有効）命令を実行するようなプログラムを作成してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	運転不可（サーボ OFF）軸動作指示			イベントコード	54410000Hex	
内容	サーボ OFF 中の軸に対して動作命令を実行しました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸／軸グループ	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	動作命令は不起動		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸グループ 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	サーボ OFF 中の軸に対して動作命令を実行		サーボ ON 後に該当命令を実行するようにプログラムを修正してください。		サーボ ON 後に軸動作命令を実行するようにしてください。	
	MC_Home（原点復帰）命令、または MC_HomeWithParameter（パラメータ指定原点復帰）命令による原点プリセットを EtherCAT のプロセスデータ通信が未確立の軸に対して実行した。		EtherCAT マスタのシステム定義変数「_EC_PDSlavTbl」（プロセスデータ通信中スレーブテーブル）が FALSE になっている場合は、その要因を取り除き、「_EC_PDSlavTbl」が TRUE になった後に、MC_Home（原点復帰）命令、または MC_HomeWithParameter（パラメータ指定原点復帰）命令による原点プリセットを実行してください。		コントローラの電源 ON やダウンロード直後、またはスレーブの通信異常の解除、離脱、再加入、無効、有効直後に MC_Home（原点復帰）命令、または MC_HomeWithParameter（パラメータ指定原点復帰）命令による原点プリセットを実行する場合は、EtherCAT マスタのシステム定義変数の「_EC_PDSlavTbl」（プロセスデータ通信中スレーブテーブル）が TRUE になったことを確認してから実行するようにプログラムを作成してください。	
付属情報	付属情報 1: 発生源詳細により異なる。 • 軸の場合: 「0」 • 軸グループの場合: 異常が発生した論理軸番号					
注意点／備考	なし					

イベント名	構成軸強制停止中エラー			イベントコード	54420000Hex	
内容	構成軸に対して MC_Stop（強制停止）命令が実行されている軸グループに動作命令を実行しました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸グループ	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸グループの動作不可		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸グループ 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	構成軸に対して MC_Stop（強制停止）命令が実行されている軸グループに動作命令を実行した。		構成軸の強制停止命令の入力変数「Execute」を FALSE にして実行を止め、異常解除を実行した後に動作指令を与えるようにしてください。		構成軸の強制停止命令の入力変数「Execute」を FALSE にして終了させてから軸グループの動作命令を実行するようにしてください。	
付属情報	付属情報 1 : 強制停止されている論理軸番号					
注意点／備考	なし					

イベント名	モーション命令多重起動数オーバー			イベントコード	54430000Hex	
内容	バッファモード Buffered, Blending によりバッファリングされるモーション制御命令のバッファリング数が限界を超えました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸／軸グループ	検出タイミング	命令多重起動開始時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	発生源詳細が「軸」の場合: 該当軸の動作不可。該当軸の動作中は減速停止 発生源詳細が「軸グループ」の場合: 該当軸グループの動作不可。該当軸グループの動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸グループ 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	軸命令で、実行中の命令とバッファ中の命令の合計数が「2」を超えた。		該当命令実行時にバッファリング数が上限を超えないようにプログラムを修正してください。		軸命令の場合は、実行中の命令とバッファ中の命令の合計数が「2」を超えないようにしてください。	
	軸グループ命令で、実行中の命令とバッファ中の命令の合計数が「8」を超えた。				軸グループ命令の場合は、実行中の命令とバッファ中の命令の合計数が「8」を超えないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	移動量不足			イベントコード	54440000Hex	
内容	位置決め命令の多重起動／再起動時に指定された減速度または加速度で指定通りの動作を実行できません。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸／軸グループ	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	発生源詳細が「軸」の場合: 該当軸の動作不可。該当軸の動作中は減速停止 発生源詳細が「軸グループ」の場合: 該当軸グループの動作不可。該当軸グループの動作中は減速停止		

システム定義変数	変数名	データ型	名称
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active	BOOL	軸 軽度フォールト発生中
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active	BOOL	軸グループ 軽度フォールト発生中

発生要因とその処置	発生要因（推定原因）	処置対策	再発防止
	［加減速オーバー］を「異常として停止する」に設定しているときに、位置決め命令の多重起動／再起動時に指定された減速度／加速度での目標位置停止ができない。	該当命令の動作仕様に基づき、位置決め動作が多重起動／再起動するタイミングで指定した減速度、または加速度で目標位置を超過しないようにプログラムを修正してください。 または、［加減速オーバー］を「異常として停止する」以外の設定に変更してください。	使用する命令の動作仕様を確認しておき、本異常が発生しないようにプログラムを作成してください。 または、［加減速オーバー］を「異常として停止する」以外の設定にしてください。

付属情報	なし
注意点／備考	なし

イベント名	ブレンディング中継速度に到達するための移動量不足			イベントコード	54450000Hex	
内容	中継速度に加減速するための移動量が不足しています。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸／軸グループ	検出タイミング	命令多重起動開始時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	発生源詳細が「軸」の場合: 該当軸の動作不可。該当軸の動作中は減速停止 発生源詳細が「軸グループ」の場合: 該当軸グループの動作不可。該当軸グループの動作中は減速停止		

システム定義変数	変数名	データ型	名称
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active	BOOL	軸 軽度フォールト発生中
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active	BOOL	軸グループ 軽度フォールト発生中

発生要因とその処置	発生要因（推定原因）	処置対策	再発防止
	［加減速オーバー］に「異常として停止する」が設定されているときに、現指令を中継速度に加減速するための移動量が不足した。	該当命令の動作仕様に基づき、移動量が不足しないようにプログラムを修正してください。 または、［加減速オーバー］を「異常として停止する」以外の設定に変更してください。	使用する命令の動作仕様を確認しておき、本異常が発生しないようにプログラムを作成してください。 または、［加減速オーバー］を「異常として停止する」以外の設定にしてください。

付属情報	なし
注意点／備考	なし

イベント名	台形パターンカム等速移動量不足			イベントコード	54460000Hex	
内容	主軸の等速移動量が「0」未満です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸の動作不可。該当軸の軸動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	MC_MoveLink（台形パターンカム）命令において、主軸の等速移動量が「0」未満		（主軸移動距離≧主軸加速移動距離＋主軸減速移動距離）となるようプログラムを修正してください。		使用する命令の動作仕様を確認しておき、本異常が発生しないようにプログラムを作成してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	位置指定ギア動作目標速度不足			イベントコード	54470000Hex	
内容	MC_GearInPos（位置指定ギア動作）命令において、従軸の「目標速度」が小さいため、必要な速度に到達しません。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸の動作不可。該当軸の軸動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	MC_GearInPos（位置指定ギア動作）命令において、入力変数「Velocity（目標速度）」の値が（命令起動時の主軸速度×ギア比）より小さい。		該当命令の動作仕様に基づき、（命令起動時の主軸速度×ギア比）より大きくなるように入力変数「Velocity（目標速度）」の値を設定してください。		使用する命令の動作仕様を確認しておき、本異常が発生しないようにプログラムを作成してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	円弧補間始点終点同一			イベントコード	54480000Hex	
内容	MC_MoveCircular2D（2 軸円弧補間）命令において、半径指定方式の指定時に始点と終点が同じ位置です。または、通過点指定方式の指定時に始点と終点と通過点が同じ位置です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸グループ	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸グループの動作不可 該当軸グループの動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸グループ 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	MC_MoveCircular2D（2 軸円弧補間）命令において、半径指定方式が指定され、始点と終点の位置が同一		該当命令の始点と終点の位置が同一の状態で半径指定方式を指定しないようにプログラムを修正してください。		半径指定方式の円弧補間を実行する場合は、始点と終点が同一にならないようにしてください。	
	MC_MoveCircular2D（2 軸円弧補間）命令において、通過点指定方式が指定され、始点と終点と通過点の位置が同一		該当命令の始点と終点と通過点の位置が同一の状態で通過点指定方式を指定しないようにプログラムを修正してください。		通過点指定方式の円弧補間を実行する場合は、始点と終点と通過点が同一にならないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	円弧補間中心点指定位置範囲外			イベントコード	54490000Hex	
内容	MC_MoveCircular2D（2 軸円弧補間）命令において、中心点指定方式の指定時に、中心点の位置指定が許容範囲を超えています。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸グループ	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸グループの動作不可 該当軸グループの動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸グループ 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	MC_MoveCircular2D（2 軸円弧補間）命令において、中心点指定方式が指定され、始点と中心点の距離と、終点と中心点の距離の差が、軸グループ設定の「中心点補正許容率」で指定した許容範囲を超えた。		始点と中心点の距離と、終点と中心点の距離の差が、軸グループ設定の「中心点補正許容率」で指定した許容範囲よりも小さくなるような中心点が設定されるように修正してください。		始点と中心点の距離と、終点と中心点の距離の差が、軸グループ設定の「中心点補正許容率」で指定した許容範囲以下になるようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	カウントモード設定による命令起動異常			イベントコード	544A0000Hex	
内容	カウントモードがロータリモードに設定されている軸に対してロータリモードで使用できない命令を実行しました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸グループ	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸グループの動作不可 該当軸グループの動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸グループ 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	カウントモードがロータリモードに設定されている軸をロータリモードで使用できない命令で使用		該当命令で指定している該当軸のカウントモードの設定をリニアモードに変更してください。		使用する命令が実行できるカウントモードを確認して軸のカウントモードを設定してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	パラメータ選択範囲外			イベントコード	544C0000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「ParameterNumber」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	MC 共通	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令非実行		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_COM.MFaultLvl.Active		BOOL		MC 共通 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	停止方法選択範囲外			イベントコード	544D0000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「StopMode」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸の動作不可。該当軸の軸動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	トリガ入力条件のラッチ ID 選択範囲外			イベントコード	544E0000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「TriggerInput::LatchID」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸の動作不可。該当軸の軸動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	MC 設定書込の設定範囲外			イベントコード	544F0000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「SettingValue」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	MC 共通	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令非実行		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_COM.MFaultLvl.Active		BOOL		MC 共通 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。	
	パラメータ指定と設定値のデータ型が一致していない。		パラメータ指定と設定値のデータ型が一致するように修正してください。		パラメータ指定と設定値のデータ型は一致させてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	トリガ入力条件のモード選択範囲外			イベントコード	54500000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「TriggerInput::Mode」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸の動作不可。該当軸の軸動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	トリガ入力条件のドライブトリガ入力信号選択範囲外			イベントコード	54510000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「TriggerInput::InputDrive」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸の動作不可。該当軸の軸動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	モーション命令再起動不可（軸指定）			イベントコード	54530000Hex	
内容	モーション制御命令の再起動時に変更できない入力変数「Axis」のパラメータを変更しました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令再起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸の動作不可。該当軸の軸動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令再起動時に変更できない入力変数のパラメータを変更した。		該当命令の再起動時に該当入力変数のパラメータが変わらないようにプログラムを修正してください。		使用するモーション制御命令の各入力変数が再起動時に変更可能かをマニュアルで確認し、変更不可能な入力変数では再起動時に入力パラメータが変化しないようにプログラムを作成してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	モーション命令再起動不可（バッファモード選択）			**イベントコード**	54540000Hex	
内容	モーション制御命令の再起動時に変更できない入力変数「BufferMode」のパラメータを変更しました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		**発生源詳細**	軸/軸グループ	**検出タイミング**	命令再起動時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	異常解除	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	発生源詳細が「軸」の場合: 該当軸の動作不可。該当軸の動作中は減速停止 発生源詳細が「軸グループ」の場合: 該当軸グループの動作不可。該当軸グループの動作中は減速停止		

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active	BOOL	軸 軽度フォールト発生中
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active	BOOL	軸グループ 軽度フォールト発生中

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	命令再起動時に変更できない入力変数のパラメータを変更した。	該当命令の再起動時に該当入力変数のパラメータが変わらないようにプログラムを修正してください。	使用するモーション制御命令の各入力変数が再起動時に変更可能かをマニュアルで確認し、変更不可能な入力変数では再起動時に入力パラメータが変化しないようにプログラムを作成してください。

付属情報	なし
注意点／備考	なし

イベント名	モーション命令再起動不可（方向選択）			**イベントコード**	54550000Hex	
内容	モーション制御命令の再起動時に変更できない入力変数「Direction」のパラメータを変更しました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		**発生源詳細**	軸	**検出タイミング**	命令再起動時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	異常解除	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当軸の動作不可。該当軸の軸動作中は減速停止		

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active	BOOL	軸 軽度フォールト発生中

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	命令再起動時に変更できない入力変数のパラメータを変更した。	該当命令の再起動時に該当入力変数のパラメータが変わらないようにプログラムを修正してください。	使用するモーション制御命令の各入力変数が再起動時に変更可能かをマニュアルで確認し、変更不可能な入力変数では再起動時に入力パラメータが変化しないようにプログラムを作成してください。

付属情報	なし
注意点／備考	なし

イベント名	モーション命令再起動不可（繰り返しモード）			イベントコード	54560000Hex	
内容	モーション制御命令の再起動時に変更できない入力変数「Periodic」のパラメータを変更しました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令再起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸の動作不可。該当軸の軸動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令再起動時に変更できない入力変数のパラメータを変更した。		該当命令の再起動時に該当入力変数のパラメータが変わらないようにプログラムを修正してください。		使用するモーション制御命令の各入力変数が再起動時に変更可能かをマニュアルで確認し、変更不可能な入力変数では再起動時に入力パラメータが変化しないようにプログラムを作成してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	モーション命令再起動不可（軸グループ指定）			イベントコード	54570000Hex	
内容	モーション制御命令の再起動時に変更できない入力変数「AxesGroup」のパラメータを変更しました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸グループ	検出タイミング	命令再起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸グループの動作不可 該当軸グループの動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸グループ 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令再起動時に変更できない入力変数のパラメータを変更した。		該当命令の再起動時に該当入力変数のパラメータが変わらないようにプログラムを修正してください。		使用するモーション制御命令の各入力変数が再起動時に変更可能かをマニュアルで確認し、変更不可能な入力変数では再起動時に入力パラメータが変化しないようにプログラムを作成してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	モーション命令再起動不可（躍動設定）			**イベントコード**	54580000Hex	
内容	モーション制御命令の再起動時に変更できない入力変数「Jerk」のパラメータを変更しました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		**発生源詳細**	軸／軸グループ	**検出タイミング**	命令再起動時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	異常解除	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	発生源詳細が「軸」の場合: 該当軸の動作不可。該当軸の動作中は減速停止 発生源詳細が「軸グループ」の場合: 該当軸グループの動作不可。該当軸グループの動作中は減速停止		

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active	BOOL	軸 軽度フォールト発生中
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active	BOOL	軸グループ 軽度フォールト発生中

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	命令再起動時に変更できない入力変数のパラメータを変更した。	該当命令の再起動時に該当入力変数のパラメータが変わらないようにプログラムを修正してください。	使用するモーション制御命令の各入力変数が再起動時に変更可能かをマニュアルで確認し、変更不可能な入力変数では再起動時に入力パラメータが変化しないようにプログラムを作成してください。

付属情報	なし
注意点／備考	なし

イベント名	モーション命令再起動不可（主軸）			**イベントコード**	54590000Hex	
内容	モーション制御命令の再起動時に変更できない入力変数「Master」のパラメータを変更しました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		**発生源詳細**	軸	**検出タイミング**	命令再起動時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	異常解除	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当軸の動作不可。該当軸の軸動作中は減速停止		

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active	BOOL	軸 軽度フォールト発生中

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	命令再起動時に変更できない入力変数のパラメータを変更した。	該当命令の再起動時に該当入力変数のパラメータが変わらないようにプログラムを修正してください。	使用するモーション制御命令の各入力変数が再起動時に変更可能かをマニュアルで確認し、変更不可能な入力変数では再起動時に入力パラメータが変化しないようにプログラムを作成してください。

付属情報	なし
注意点／備考	なし

イベント名	モーション命令再起動不可(MasterOffset)			**イベントコード**	545A0000Hex	
内容	モーション制御命令の再起動時に変更できない入力変数「MasterOffset」のパラメータを変更しました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		**発生源詳細**	軸	**検出タイミング**	命令再起動時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	異常解除	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当軸の動作不可。該当軸の軸動作中は減速停止		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	命令再起動時に変更できない入力変数のパラメータを変更した。		該当命令の再起動時に該当入力変数のパラメータが変わらないようにプログラムを修正してください。		使用するモーション制御命令の各入力変数が再起動時に変更可能かをマニュアルで確認し、変更不可能な入力変数では再起動時に入力パラメータが変化しないようにプログラムを作成してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	モーション命令再起動不可(MasterScaling)			**イベントコード**	545B0000Hex	
内容	モーション制御命令の再起動時に変更できない入力変数「MasterScaling」のパラメータを変更しました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		**発生源詳細**	軸	**検出タイミング**	命令再起動時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	異常解除	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当軸の動作不可。該当軸の軸動作中は減速停止		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	命令再起動時に変更できない入力変数のパラメータを変更した。		該当命令の再起動時に該当入力変数のパラメータが変わらないようにプログラムを修正してください。		使用するモーション制御命令の各入力変数が再起動時に変更可能かをマニュアルで確認し、変更不可能な入力変数では再起動時に入力パラメータが変化しないようにプログラムを作成してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	モーション命令再起動不可(MasterStartDistance)			**イベントコード**	545C0000Hex	
内容	モーション制御命令の再起動時に変更できない入力変数「MasterStartDistance」のパラメータを変更しました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		**発生源詳細**	軸	**検出タイミング**	命令再起動時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	異常解除	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当軸の動作不可。該当軸の軸動作中は減速停止		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	命令再起動時に変更できない入力変数のパラメータを変更した。		該当命令の再起動時に該当入力変数のパラメータが変わらないようにプログラムを修正してください。		使用するモーション制御命令の各入力変数が再起動時に変更可能かをマニュアルで確認し、変更不可能な入力変数では再起動時に入力パラメータが変化しないようにプログラムを作成してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	モーション命令再起動不可(Continuous)			イベントコード	545D0000Hex	
内容	モーション制御命令の再起動時に変更できない入力変数「Continuous」のパラメータを変更しました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令再起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸の動作不可。該当軸の軸動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令再起動時に変更できない入力変数のパラメータを変更した。		該当命令の再起動時に該当入力変数のパラメータが変わらないようにプログラムを修正してください。		使用するモーション制御命令の各入力変数が再起動時に変更可能かをマニュアルで確認し、変更不可能な入力変数では再起動時に入力パラメータが変化しないようにプログラムを作成してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	モーション命令再起動不可(MoveMode)			イベントコード	545E0000Hex	
内容	モーション制御命令の再起動時に変更できない入力変数「MoveMode」のパラメータを変更しました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令再起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸の動作不可。該当軸の軸動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令再起動時に変更できない入力変数のパラメータを変更した。		該当命令の再起動時に該当入力変数のパラメータが変わらないようにプログラムを修正してください。		使用するモーション制御命令の各入力変数が再起動時に変更可能かをマニュアルで確認し、変更不可能な入力変数では再起動時に入力パラメータが変化しないようにプログラムを作成してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	補助軸指定不正			イベントコード	545F0000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「Auxiliary」に指定された軸が存在していません。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当従軸の動作不可。 該当従軸の動作中は該当従軸は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力変数「Auxiliary」に指定された軸が存在しない変数		該当命令で指定されている軸を存在する変数に修正してください。		命令への入力パラメータに変数を指定する場合は存在する変数を指定してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	軸指定不正			イベントコード	54600000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「Axis」に指定された軸が存在していません。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	MC 共通	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令非実行		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_COM.MFaultLvl.Active		BOOL		MC 共通 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力変数「Axis」に指定された軸が存在しない変数		該当命令で指定されている軸を存在する変数に修正してください。		命令への入力パラメータに変数を指定する場合は存在する変数を指定してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	軸グループ指定不正			イベントコード	54610000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「AxesGroup」に指定された軸グループが存在していないか、使用軸グループではありません。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	MC 共通	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令非実行		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_COM.MFaultLvl.Active		BOOL		MC 共通 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力変数「AxesGroup」に指定された軸グループが存在しない変数		該当命令で指定されている軸グループを存在する軸グループ変数に修正してください。		命令への入力パラメータに変数を指定する場合は存在する変数を指定してください。	
	命令の入力変数「AxesGroup」に指定された軸グループが使用軸グループに設定されていない。		該当命令で指定されている軸グループを使用軸グループに設定してください。		入力変数「AxesGroup」に指定する軸グループは使用軸グループに設定してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	主軸指定不正			イベントコード	54620000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「Master」に指定された軸が不正です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	MC 共通／軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当従軸の動作不可 該当従軸の軸動作中は該当従軸は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_COM.MFaultLvl.Active		BOOL		MC 共通 軽度フォールト発生中	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力変数「Master」に指定された軸が存在しない変数		該当命令で指定されている軸を存在する変数に修正してください。		命令への入力パラメータに変数を指定する場合は存在する変数を指定してください。	
	MC_Phasing（主軸相対値位相補正）命令の場合に、入力変数「Master」に指定された軸が同期主軸でない。		MC_Phasing（主軸相対値位相補正）命令の入力変数「Master」に入力されている変数を同期制御命令の主軸に指定されている軸に修正してください。		MC_Phasing（主軸相対値位相補正）命令の入力変数「Master」に入力されている変数は、同期制御命令の主軸に指定されている軸にしてください。	
	主軸と従軸を割り付けているタスクが同一でない。		該当命令の入力変数「Master」と入力変数「Slave」に入力している軸を、同一タスクに割り付けてください。		主軸と従軸には、同一タスクに割り付けられている軸を指定してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	モーション命令再起動不可(SlaveOffset)			イベントコード	54630000Hex	
内容	モーション制御命令の再起動時に変更できない入力変数「SlaveOffset」を変更しました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令再起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸の動作不可。該当軸の軸動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令再起動時に変更できない入力変数のパラメータを変更した。		該当命令の再起動時に該当入力変数のパラメータが変わらないようにプログラムを修正してください。		使用するモーション制御命令の各入力変数が再起動時に変更可能かをマニュアルで確認し、変更不可能な入力変数では再起動時に入力パラメータが変化しないようにプログラムを作成してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	モーション命令再起動不可(SlaveScaling)			イベントコード	54640000Hex	
内容	モーション制御命令の再起動時に変更できない入力変数「SlaveScaling」を変更しました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令再起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸の動作不可。該当軸の軸動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令再起動時に変更できない入力変数のパラメータを変更した。		該当命令の再起動時に該当入力変数のパラメータが変わらないようにプログラムを修正してください。		使用するモーション制御命令の各入力変数が再起動時に変更可能かをマニュアルで確認し、変更不可能な入力変数では再起動時に入力パラメータが変化しないようにプログラムを作成してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	モーション命令再起動不可(StartPosition)			イベントコード	54650000Hex	
内容	モーション制御命令の再起動時に変更できない入力変数「StartPosition」を変更しました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令再起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸の動作不可。該当軸の軸動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令再起動時に変更できない入力変数のパラメータを変更した。		該当命令の再起動時に該当入力変数のパラメータが変わらないようにプログラムを修正してください。		使用するモーション制御命令の各入力変数が再起動時に変更可能かをマニュアルで確認し、変更不可能な入力変数では再起動時に入力パラメータが変化しないようにプログラムを作成してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	原点未確定状態での命令起動異常			イベントコード	54660000Hex	
内容	原点未確定状態で高速原点復帰または補間命令が実行されました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸/軸グループ	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	発生源詳細が「軸」の場合: 該当軸の動作不可。該当軸の動作中は減速停止 発生源詳細が「軸グループ」の場合: 該当軸グループの動作不可。該当軸グループの動作中は減速停止		

システム定義変数	変数名	データ型	名称
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active	BOOL	軸 軽度フォールト発生中
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active	BOOL	軸グループ 軽度フォールト発生中

発生要因とその処置	発生要因（推定原因）	処置対策	再発防止
	原点未確定状態で高速原点復帰が実行された。	原点復帰によって原点を確定してから該当する高速原点復帰を実行してください。	原点復帰により原点確定した状態にしてから高速原点復帰命令を実行してください。
	原点未確定状態を含む構成軸に対して補間命令が実行された。	原点復帰によってすべての構成軸の原点を確定してから該当する補間命令を実行してください。	原点復帰によりすべての構成軸の原点を確定してから補間命令を実行してください。
	原点未確定状態の論理軸を含む軸グループに対して、次のロボット命令が実行された。 • MC_SetKinTransform（キネマティクス変換設定）命令 • MC_MoveTimeAbsolute（時間指定絶対値位置指令）命令 • MC_SyncLinearConveyor（コンベア同期動作開始）命令 • MC_SyncOut（同期動作解除）命令 • MC_GroupMon（軸グループモニタ）命令 • MC_RobotJog（軸グループジョグ送り）命令		

付属情報	付属情報 1: 発生源詳細により異なる。 • 軸の場合: 「0」 • 軸グループの場合: 論理軸番号
注意点／備考	原点復帰実行後でも、「現在位置変更」命令を実行した場合、原点未確定状態になるため、改めて原点復帰の実行により原点確定状態にすることが必要です。

イベント名	モーション命令再起動不可（位置種別）			イベントコード	54670000Hex	
内容	モーション制御命令の再起動時に変更できない入力変数「ReferenceType」を変更しました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令再起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸の動作不可。該当軸の軸動作中は減速停止		

システム定義変数	変数名	データ型	名称
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active	BOOL	軸 軽度フォールト発生中

発生要因とその処置	発生要因（推定原因）	処置対策	再発防止
	命令再起動時に変更できない入力変数のパラメータを変更した。	該当命令の再起動時に該当入力変数のパラメータが変わらないようにプログラムを修正してください。	使用するモーション制御命令の各入力変数が再起動時に変更可能かをマニュアルで確認し、変更不可能な入力変数では再起動時に入力パラメータが変化しないようにプログラムを作成してください。

付属情報	なし
注意点／備考	なし

イベント名	未使用軸指定（主軸）			イベントコード	54680000Hex	
内容	モーション制御命令で指定された主軸が未使用軸です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当従軸の動作不可 該当従軸の動作中は該当従軸は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	モーション制御命令で指定された主軸が未使用軸		該当命令で指定されている主軸を使用軸に修正してください。		モーション制御命令で指定する主軸には使用軸を指定してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	開始位置設定範囲外			イベントコード	54690000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「FirstPosition」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸の動作不可。該当軸の軸動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	終了位置設定範囲外			イベントコード	546A0000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「LastPosition」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸の動作不可。該当軸の軸動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	開始位置／終了位置・大小関係不正（リニアモード）			イベントコード	546B0000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「LastPosition」に指定されたパラメータが入力変数「FirstPosition」に指定されたパラメータよりも小さい値です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸の動作不可。該当軸の軸動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	カウントモードがリニアモードの時、命令の入力パラメータで「LastPosition」の値が「FirstPosition」の値よりも小さい		該当命令で指定されている「LastPosition」の値が「FirstPosition」の値以上となるように修正してください。または、カウントモードをロータリモードに変更してください。		該当命令で指定されている「LastPosition」の値が「FirstPosition」の値以上となるようにプログラムを作成してください。または、該当軸のカウントモードがロータリモードになっていることを確認してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	主軸同期位置設定範囲外			イベントコード	546C0000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「MasterSyncPosition」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当従軸の動作不可 該当従軸の動作中は該当従軸は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	従軸同期位置設定範囲外			イベントコード	546D0000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「SlaveSyncPosition」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸の動作不可。該当軸の軸動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	トリガ入力条件のラッチ ID 重複			**イベントコード**	546E0000Hex	
内容	モーション制御命令で指定されたラッチ ID が複数の命令で重複しています。					
発生源	モーション制御機能モジュール		**発生源詳細**	軸	**検出タイミング**	命令起動時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	異常解除	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当軸の動作不可。該当軸の軸動作中は減速停止		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	MC_TouchProbe（外部ラッチ有効）命令、MC_MoveLink（台形パターンカム）命令、MC_MoveFeed（割り込み定寸位置決め）命令で同じラッチ ID が同時に使用されている。		同じラッチ ID が該当命令と他の命令で同時に使用されないようにプログラムを修正してください。異なるラッチ ID を使用するようにするか、同じラッチ ID を使用する命令を同時に実行しないようにしてください。 なお、MC_Home（原点復帰）命令、または MC_HomeWithParameter（パラメータ指定原点復帰）命令の実行中はラッチ機能 1/2 とも使用中の扱いとなります。		MC_TouchProbe（外部ラッチ有効）命令、MC_MoveLink（台形パターンカム）命令、MC_MoveFeed（割り込み定寸位置決め）命令で同時に同じラッチ ID を使用しないようにしてください。	
	MC_TouchProbe（外部ラッチ有効）命令以外で使用中のラッチを MC_AbortTrigger（外部ラッチ無効）命令で中止しようとした。		外部ラッチ有効命令以外で使用中のラッチを外部ラッチ無効命令で中止しないようにしてください。		外部ラッチ有効命令以外で使用中のラッチは、外部ラッチ無効命令を実行しないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	ラッチ ID を変更する場合、他の命令でそのラッチ ID が同時に使用されていないことを確認してください。					

イベント名	ジャークオーバーライド値範囲外			**イベントコード**	546F0000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「JerkFactor」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		**発生源詳細**	軸/軸グループ	**検出タイミング**	命令起動時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	異常解除	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当軸の動作不可。該当軸の軸動作中は減速停止		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	加減速度オーバーライド値範囲外			イベントコード	54700000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「AccFactor」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸/軸グループ	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸の動作不可。該当軸の軸動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	開始位置方式指定範囲外			イベントコード	54710000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「StartMode」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸の動作不可。該当軸の軸動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	モーション命令再起動不可（開始位置方式）			イベントコード	54720000Hex	
内容	モーション制御命令の再起動時に変更できない入力変数「StartMode」のパラメータを変更しました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令再起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸の動作不可。該当軸の軸動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令再起動時に変更できない入力変数のパラメータを変更した。		該当命令の再起動時に該当入力変数のパラメータが変わらないようにプログラムを修正してください。		使用するモーション制御命令の各入力変数が再起動時に変更可能かをマニュアルで確認し、変更不可能な入力変数では再起動時に入力パラメータが変化しないようにプログラムを作成してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	未使用軸指定（補助軸）			イベントコード	54740000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「Auxiliary」に指定された軸が未使用軸です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当従軸の動作不可 該当従軸の動作中は該当従軸は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力変数「Auxiliary」に指定された軸が未使用軸		該当命令で指定されている軸を使用軸に設定してください。または使用軸を指定するようにパラメータを修正してください。		命令で指定する軸は使用軸にしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	位置指定ギア指定値異常			イベントコード	54750000Hex	
内容	モーション制御命令に入力された速度／加速度／減速度では同期動作できません。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当従軸の動作不可 該当従軸の軸動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令に入力された速度／加速度／減速度では指定された同期の動作を行えない。		MC_GearInPos（位置指定ギア動作）命令の動作仕様に基づき、同期動作可能な設定になるようにプログラムを修正してください。		使用する命令の処理を確認し、同期動作可能な設定になるように設定してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	位置指定ギア主軸速度ゼロ			イベントコード	54760000Hex	
内容	モーション制御命令の起動時に主軸の速度が「0」です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当従軸の動作不可 該当従軸の軸動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の起動時に主軸の速度が「0」		該当命令の起動時に主軸の速度が「0」にならないようにプログラムを修正してください。		命令の実行時に主軸の速度が「0」にならないようにプログラムを作成してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	目標位置設定範囲外			イベントコード	54780000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「Position」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸／軸グループ	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	発生源詳細が「軸」の場合: 該当軸の動作不可。該当軸の動作中は減速停止 発生源詳細が「軸グループ」の場合: 該当軸グループの動作不可。該当軸グループの動作中は減速停止		

システム定義変数	変数名	データ型	名称
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active	BOOL	軸 軽度フォールト発生中
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active	BOOL	軸グループ 軽度フォールト発生中

発生要因とその処置	発生要因（推定原因）	処置対策	再発防止
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外	該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。	命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。
	ロータリモードの軸において、目標位置がリング設定の範囲外	ロータリモードの軸においては、目標位置をリング設定の範囲内になるように修正してください。	ロータリモードの軸においては、目標位置をリング設定の範囲内になるようにしてください。

付属情報	付属情報 1: 発生源詳細により異なる。 • 軸の場合: 「0」 • 軸グループの場合: 該当命令の入力変数「Position」のうち、範囲外となっている要素番号
注意点／備考	なし

イベント名	移動距離範囲外			イベントコード	54790000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「Distance」に指定されたパラメータが範囲外、または「Distance」の値を加算した目標位置が範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸／軸グループ	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	発生源詳細が「軸」の場合: 該当軸の動作不可。該当軸の動作中は減速停止 発生源詳細が「軸グループ」の場合: 該当軸グループの動作不可。該当軸グループの動作中は減速停止		

システム定義変数	変数名	データ型	名称
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active	BOOL	軸 軽度フォールト発生中
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active	BOOL	軸グループ 軽度フォールト発生中

発生要因とその処置	発生要因（推定原因）	処置対策	再発防止
	命令の入力パラメータの絶対値をパルス単位に変換したときに、40 ビットの範囲を超えている。	該当命令の入力変数「Distance」で指定される入力パラメータを移動距離や目標位置が範囲外にならないように修正してください。	命令で移動距離や目標位置が範囲外にならないようにプログラムを作成してください。
	リニアモードの軸において、移動距離を加算した目標位置をパルス単位に変換したときに、符号付き 40 ビットの範囲を超えている。		

付属情報	なし
注意点／備考	なし

イベント名	カムテーブル始点位置設定範囲外			イベントコード	547A0000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「StartPosition」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸の動作不可。該当軸の軸動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	カム動作（主軸追従）開始位置設定範囲外			イベントコード	547B0000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「MasterStartDistance」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸の動作不可。該当軸の軸動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	円弧補間半径指定異常			イベントコード	547C0000Hex	
内容	MC_MoveCircular2D（2 軸円弧補間）命令において、半径指定方式の指定時に指定された半径で円弧の軌跡が作成できません。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸グループ	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸グループの動作不可 該当軸グループの動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸グループ 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	MC_MoveCircular2D（2 軸円弧補間）命令において、半径指定方式が指定され、指定された半径では円弧の軌跡が作成できない。		円弧の軌跡が作成できるように半径を修正してください。		使用する命令の処理を確認し、円弧の軌跡が作成できるような半径を設定してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	円弧補間半径オーバーフロー			イベントコード	547D0000Hex	
内容	MC_MoveCircular2D（2 軸円弧補間）命令において、通過点指定方式／中心点指定方式のときに、円弧の半径が最大値を超えました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸グループ	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸グループの動作不可 該当軸グループの動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸グループ 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	MC_MoveCircular2D（2 軸円弧補間）命令において、通過点指定方式／中心点指定方式のときに、円弧の半径をパルス単位に変換したときに 40 ビットの範囲を超えた。		該当命令を動作仕様に基づき、円弧の半径をパルス単位に変換したときに 40 ビットの範囲を超えないように入力パラメータを修正してください。 通過点指定の場合: 始点、通過点、終点 中心点指定の場合: 始点、終点、中心点		使用する命令の処理を確認し、円弧の半径をパルス単位に変換したときに 40 ビットの範囲を超えないような入力パラメータにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	半径指定方式の場合に半径が最大値を超えたときは、「通過点位置／中心位置／半径指定範囲外」異常が出ます。					

イベント名	円弧軸指定範囲外			イベントコード	547E0000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「CircAxes」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸グループ	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸グループの動作不可 該当軸グループの動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸グループ 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。		該当命令に入力されているパラメータを入力変数の範囲を超えないようにしてください。	
	「CircAxes」に指定された軸が軸グループ設定の構成軸に含まれていない。		「CircAxes」に指定する軸を軸グループ構成に含むように設定を変更してください		「CircAxes」に指定する軸を軸グループ構成に含めておいてください	
	「CircAxes」の 2 軸に同一の軸を指定している。		「CircAxes」に指定する 2 軸が異なる軸になるように修正してください。		「CircAxes」で指定する 2 軸が異なるようにプログラムを作成してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	補助軸／従軸・軸番号非昇順			イベントコード	547F0000Hex	
内容	モーション制御命令で指定された入力変数「Auxiliary」と「Slave」のパラメータの値が昇順に並んでいません。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸の動作不可。該当軸の軸動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力変数「Auxiliary」と「Slave」のパラメータが非昇順		該当命令の「Auxiliary」と「Slave」の入力パラメータに指定する軸番号が昇順になるように修正してください。		「Auxiliary」と「Slave」に指定する軸番号が昇順になるようにプログラムを作成してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	カムテーブルプロパティ更新中データ昇順異常			イベントコード	54800000Hex	
内容	有効データ数計算中に位相が昇順になっていないことが判明しました。または、計算した結果、有効データ数が「0」であることが判明しました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	MC 共通	検出タイミング	命令実行中
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_COM.MFaultLvl.Active		BOOL		MC 共通 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	有効データ数計算中に位相が昇順になっていないことが判明した。		カムデータを位相が昇順になるように修正してください。		カムテーブルデータの位相が昇順になるようにしてください。	
	計算した結果、有効データ数が「0」であることが判明した。		カムテーブルのデータを「0」以外の位相も含むように修正してください。		カムテーブルのデータを「0」以外の位相も含むようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	MC 設定書込の対象範囲外			イベントコード	54810000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「Target」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	MC 共通	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_COM.MFaultLvl.Active		BOOL		MC 共通 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	主軸移動距離指定範囲外			イベントコード	54820000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「MasterDistance」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当従軸の動作不可 該当従軸の軸動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	主軸加速移動距離指定範囲外			イベントコード	54830000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「MasterDistanceInACC」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当従軸の動作不可 該当従軸の軸動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	主軸減速移動距離指定範囲外			イベントコード	54840000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「MasterDistanceInDEC」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当従軸の動作不可 該当従軸の軸動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	実行モード選択範囲外			イベントコード	54870000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「ExecutionMode」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸の動作不可。該当軸の軸動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	軸間偏差許容値範囲外			イベントコード	54880000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「PermittedDeviation」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	MC 共通	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令非実行		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_COM.MFaultLvl.Active		BOOL		MC 共通 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	通過点位置／中心位置／半径指定範囲外			イベントコード	54890000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「AuxPoint」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸グループ	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸グループの動作不可 該当軸グループの動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸グループ 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	通過点指定または中心指定の場合、「AuxPoint」の値をパルス単位に変換したときに、符号付き 40 ビットの範囲を超えている。		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。	
	半径指定の場合、「AuxPoint[0]」の絶対値をパルス単位に変換したときに、40 ビットの範囲を超えている。					
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	終点指定範囲外			イベントコード	548A0000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「EndPoint」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸グループ	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸グループの動作不可 該当軸グループの動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸グループ 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータをパルス単位に変換したときに符号付き 40 ビットの範囲を超えている。		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	従軸移動距離指定範囲外			イベントコード	548B0000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「SlaveDistance」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当従軸の動作不可 該当従軸の軸動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータをパルス単位に変換したときに 40 ビットの範囲を超えている。		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	位相補正量範囲外			イベントコード	548C0000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「PhaseShift」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当従軸の動作不可 該当従軸の軸動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータの絶対値をパルス単位に変換したときに 40 ビットの範囲を超えている。		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	定寸距離範囲外			イベントコード	548D0000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「FeedDistance」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸の動作不可。該当軸の軸動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータの絶対値をパルス単位に変換したときに 40 ビットの範囲を超えている。		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	補助軸／従軸同一			イベントコード	548E0000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「Auxiliary」と「Slave」に指定された軸が同じです。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当従軸の動作不可 該当従軸の軸動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力変数「Auxiliary」と「Slave」のパラメータが同一		該当命令の入力変数「Auxiliary」と「Slave」に指定される軸が異なるようにパラメータを修正してください。		命令の入力変数の補助軸と従軸には異なる軸を指定してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	相対位置選択範囲外			イベントコード	548F0000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「Relative」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸の動作不可。該当軸の軸動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	カムトランジション指定選択範囲外			イベントコード	54900000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「CamTransition」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当従軸の動作不可 該当従軸の軸動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	同期制御解除モード選択範囲外			イベントコード	54910000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「OutMode」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当従軸の動作不可 該当従軸の軸動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	外部ラッチ有効命令実行不可			イベントコード	54920000Hex	
内容	エンコーダ軸に対して、入力変数「StopMode」に「_mcImmediateStop（即停止）」を指定してドライバモードの MC_TouchProbe（外部ラッチ有効）命令を実行しました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸の動作不可。該当軸の軸動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	エンコーダ軸に対して、入力変数「StopMode」に「_mcImmediateStop（即停止）」を指定してドライバモードの MC_TouchProbe（外部ラッチ有効）命令を実行した。		エンコーダ軸に対して「StopMode」に「_mcImmediateStop（即停止）」を指定しないようプログラムを修正してください。		「_mcImmediateStop（即停止）」を指定してドライバモードの外部ラッチ有効命令を実行する場合は、サーボ軸に対し実行するようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	主軸オフセット設定範囲外			イベントコード	54930000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「MasterOffset」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当従軸の動作不可 該当従軸の軸動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータをパルス単位に変換したときに符号付き 40 ビットの範囲を超えている。		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	従軸オフセット設定範囲外			イベントコード	54940000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「SlaveOffset」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当従軸の動作不可 該当従軸の軸動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータをパルス単位に変換したときに符号付き 40 ビットの範囲を超えている。		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	指令現在位置カウント選択範囲外			イベントコード	54950000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「CmdPosMode」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸の動作不可。該当軸の軸動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	主軸ギア比分子範囲外			イベントコード	54960000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「RatioNumeratorMaster」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当従軸の動作不可。該当従軸の軸動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	主軸ギア比分母範囲外			イベントコード	54970000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「RatioDenominatorMaster」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当従軸の動作不可。該当従軸の軸動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	補助軸ギア比分子範囲外			イベントコード	54980000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「RatioNumeratorAuxiliary」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当従軸の動作不可。該当従軸の軸動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	補助軸ギア比分母範囲外			イベントコード	54990000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「RatioDenominatorAuxiliary」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当従軸の動作不可。該当従軸の軸動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	主軸位置種別選択範囲外			イベントコード	549A0000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「ReferenceTypeMaster」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当従軸の動作不可。該当従軸の軸動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	補助軸位置種別選択範囲外			イベントコード	549B0000Hex	
内容	モーション制御命令の入力変数「ReferenceTypeAuxiliary」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当従軸の動作不可。該当従軸の軸動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	目標位置リングカウンタ範囲外			イベントコード	549C0000Hex	
内容	実行された命令の目標位置がリングカウンタの範囲外のため、動作することができません。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸の動作不可。該当軸の軸動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	リングカウンタの範囲に 0 が含まれない設定のときに、高速原点復帰が実行された。		リングカウンタの範囲に 0 が含まれない設定のときは、高速原点復帰を実行することはできません。高速原点復帰を行わないようにプログラムを修正してください。または該当軸のリングカウンタの範囲に 0 が含まれる設定になるよう変更してください。		リングカウンタの範囲に 0 が含まれない設定のときは、高速原点復帰を実行することはできません。高速原点復帰を行わないようにプログラムを作成してください。または該当軸のリングカウンタの範囲に 0 が含まれる設定になるようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	軸グループ構成軸設定範囲外			イベントコード	549D0000Hex *1	
内容	モーション制御命令の入力変数「Axes」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸グループ	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸グループの動作不可。該当軸グループの軸動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸グループ 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。	
	軸グループの構成軸を割り付けているタスクが同一でない。		該当命令の入力変数「Axes」で指定される軸を、すべて同一タスクに割り付けてください。		軸グループの構成軸には、同一タスクに割り付けられている軸を指定してください。	
付属情報	付属情報 1 : 異常の詳細 01Hex: 型指定異常 02Hex: 配列の要素数が構成軸数より小さい 03Hex: 指定した軸番号が重複、指定した軸番号の軸種別が対象外、指定した軸番号が範囲外 04Hex: 指定した軸番号の軸が単軸位置制御軸であるため構成軸に設定できない					
注意点／備考	なし					

*1.　ユニットバージョン Ver.1.01 以降の CPU ユニットで発生するイベントです。

イベント名	軸使用設定範囲外			イベントコード	549E0000Hex *1	
内容	モーション制御命令の入力変数「AxisUse」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	MC 共通／軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_COM.MFaultLvl.Active		BOOL		MC 共通 軽度フォールト発生中	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	使用軸に対する命令の実行で異常が発生した場合は軸の異常となり、未使用軸に対する命令の実行で異常が発生した場合は MC 共通の異常となります。					

*1. ユニットバージョン Ver.1.04 以降の CPU ユニットで発生するイベントです。

イベント名	原点復帰パラメータ設定範囲外			イベントコード	57000000Hex *1	
内容	モーション制御命令の入力変数「HomingParameter」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_COM.MFaultLvl.Active		BOOL		MC 共通 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	付属情報 1: 異常の詳細 1: 原点復帰動作範囲外、2: 原点入力信号範囲外、3: 原点復帰開始方向範囲外、4: 原点検出方向範囲外、5: 正方向限界入力時動作範囲外、6: 負方向限界入力時動作範囲外、7: 原点復帰速度範囲外、8: 原点復帰アプローチ速度範囲外、9: 原点復帰加速度範囲外、10: 原点復帰減速度範囲外、11: 原点復帰ジャーク範囲外、12: 原点入力マスク距離範囲外、13: 原点位置オフセット範囲外、14: 原点復帰押し当て時間範囲外、15: 原点復帰補正値範囲外、16: 原点補正速度範囲外、100: 原点入力マスク距離がパルス単位変換後 40 ビットを超えている、101: 原点入力マスク距離がリング長を超えている、102: 原点復帰補正値がパルス単位変換後 40 ビットを超えている、103: 原点復帰補正値がリング長を超えている、104: 原点位置オフセットがパルス単位変換後 40 ビットを超えている、105: 原点位置オフセットがリング範囲外、106: 原点復帰速度が最高速度を超えている、107: 原点復帰アプローチ速度が最高速度を超えている、108: 原点復帰アプローチ速度≦原点復帰速度となっていない、109: 原点復帰補正速度≦最高速度となっていない、110: 原点復帰加速度が最大加速度を超えている、111: 原点復帰減速度が最大減速度を超えている					
注意点／備考	なし					

*1. ユニットバージョン Ver.1.03 以降の CPU ユニットで発生するイベントです。

イベント名	軸未使用切り替え異常			イベントコード	57020000Hex *1	
内容	停止中でない、または指令速度飽和中の軸に対して MC_ChangeAxisUse（軸使用変更）命令を実行しました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	停止中でない、または指令速度飽和中の軸に対して MC_ChangeAxisUse（軸使用変更）命令を実行した。		異常解除を実行し、軸が停止しているとき、指令速度飽和中でないときに MC_ChangeAxisUse（軸使用変更）命令を実行してください。軸変数の「Status.Disabled」または「Status.Standstill」が TRUE のとき、その軸は停止中です。軸変数の「Details.VelLimit」が TRUE のとき、その軸は指令速度飽和中です。		軸が停止しているとき、指令速度飽和中でないときに MC_ChangeAxisUse（軸使用変更）命令を実行してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

*1. ユニットバージョン Ver.1.04 以降の CPU ユニットで発生するイベントです。

イベント名	軸使用切り替え不可			イベントコード	57030000Hex *1	
内容	使用実軸最大数または使用モーション制御サーボ軸最大数を超えるように MC_ChangeAxisUse（軸使用変更）命令を実行しました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	MC 共通	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_COM.MFaultLvl.Active		BOOL		MC 共通 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	使用実軸最大数を超えるように MC_ChangeAxisUse（軸使用変更）命令を実行した。		使用している CPU ユニットの使用実軸最大数を超えないようにプログラムを修正してください。		使用している CPU ユニットの使用実軸最大数を超えないようにプログラムを作成してください。	
	使用モーション制御サーボ軸最大数を超えるように MC_ChangeAxisUse（軸使用変更）命令を実行した。		使用している CPU ユニットの使用モーション制御サーボ軸最大数を超えないようにプログラムを修正してください。		使用している CPU ユニットの使用モーション制御サーボ軸最大数を超えないようにプログラムを作成してください。	
付属情報	付属情報 1: 異常の発生要因 • 1: 使用実軸最大数を超えた • 2: 使用モーション制御サーボ軸最大数を超えた					
注意点／備考	なし					

*1. ユニットバージョン Ver.1.06 以降の CPU ユニットで発生するイベントです。

イベント名	軸使用切り替え時モーション制御パラメータ設定異常		イベントコード		57200000Hex *1	
内容	使用軸に切り替えた軸のモーション制御パラメータ設定が不正です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	MC 共通	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_COM.MFaultLvl.Active		BOOL		MC 共通 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	MC_ChangeAxisUse（軸使用変更）命令で、未使用軸から使用軸に切り替えた軸のモーション制御パラメータ設定が正しくない。		Sysmac Studio を使用して、異常が発生した軸の［軸使用］を［使用軸］に変更し、異常箇所を確認して修正してください。異常が発生しなければ［未使用軸］に再変更してダウンロードしてください。		［使用軸］の設定で正常に動作することを確認してから、［未使用軸］としてダウンロードしてください。	
	モーション制御パラメータ設定のダウンロード中に電源断した。		Sysmac Studio からモーション制御パラメータ設定をダウンロードしてください。		パラメータ設定の保存中に電源断しないでください。	
	不揮発性メモリの故障、または不揮発性メモリの寿命		上記の処置で本異常が解除されない場合は、CPU ユニットを交換してください。		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

*1. ユニットバージョン Ver.1.04 以降の CPU ユニットで発生するイベントです。

イベント名	軸使用切り替え時必須プロセスデータオブジェクト未設定		イベントコード		57210000Hex *1	
内容	使用軸に切り替えた軸の軸種別の必須オブジェクトが設定されていません。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	MC 共通	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_COM.MFaultLvl.Active		BOOL		MC 共通 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	使用軸に切り替えた軸の軸種別の必須オブジェクトが PDO マッピング設定に設定されていない。		Sysmac Studio の［PDO マッピング設定の編集］で、異常が発生した軸の必須オブジェクトを設定してください。 必須オブジェクトについては、ユーザーズマニュアル モーション制御編の PDO マッピングの記載を参照してください。		［使用軸］の設定で正常に動作することを確認してから、［未使用軸］としてダウンロードしてください。	
	モーション制御パラメータ設定のダウンロード中に電源断した。		Sysmac Studio からモーション制御パラメータ設定をダウンロードしてください。		パラメータ設定の保存中に電源断しないでください。	
	不揮発性メモリの故障、または不揮発性メモリの寿命。		上記の処置で本異常が解除されない場合は、CPU ユニットを交換してください。		なし	
	［軸使用］が［未使用軸（使用軸に切替不可）］に設定されている軸に対して MC_ChangeAxisUse（軸使用変更）命令が実行された。		［軸使用］が［未使用軸（使用軸に切替不可）］に設定されている軸に対して MC_ChangeAxisUse（軸使用変更）命令を実行しないようにプログラムを修正してください。		［軸使用］が［未使用軸（使用軸に切替不可）］に設定されている軸に対して MC_ChangeAxisUse（軸使用変更）命令を実行しないようにプログラムを作成してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

*1. ユニットバージョン Ver.1.04 以降の CPU ユニットで発生するイベントです。

イベント名	モーション命令多重起動不可（主軸）			イベントコード	572F0000Hex *1	
内容	命令多重起動時に変更できない入出力変数「Master」を変更しました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令多重起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令多重起動時に変更できない入出力変数「Master」を変更		該当命令の多重起動時に入出力変数「Master」の値を変更しないようにプログラムを修正してください。		該当命令の多重起動時に入出力変数「Master」の値を変更しないようにプログラムを作成してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

*1. ユニットバージョン Ver.1.06 以降の CPU ユニットで発生するイベントです。

イベント名	モーション命令多重起動不可（位置種別選択）			イベントコード	57300000Hex *1	
内容	命令多重起動時に変更できない入出力変数「ReferenceType」を変更しました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令多重起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令多重起動時に変更できない入出力変数「ReferenceType」を変更		該当命令の多重起動時に入出力変数「ReferenceType」の値を変更しないようにプログラムを修正してください。		該当命令の多重起動時に入出力変数「ReferenceType」の値を変更しないようにプログラムを作成してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

*1. ユニットバージョン Ver.1.06 以降の CPU ユニットで発生するイベントです。

イベント名	軸パラメータ書込不可			イベントコード	573A0000Hex *1	
内容	未使用軸以外の軸に対して該当命令を起動しました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	MC 共通	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_COM.MFaultLvl.Active		BOOL		MC 共通 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	使用軸または未作成軸に対して該当命令を起動した。		MC_ChangeAxisUse（軸使用変更）命令で、対象軸を未使用軸に変更した後に該当命令を起動するようにプログラムを修正してください。		該当命令の起動時に、対象軸が未使用軸となるようにプログラムを作成してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

*1. ユニットバージョン Ver.1.08 以降の CPU ユニットで発生するイベントです。

イベント名	軸パラメータ設定範囲外			**イベントコード**	573B0000Hex *1	
内容	モーション制御命令の入力変数「AxisParameter」に指定されたパラメータが有効範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		**発生源詳細**	MC 共通	**検出タイミング**	命令起動時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	異常解除	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_MC_COM.MFaultLvl.Active		BOOL		MC 共通 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	命令の入力変数「AxisParameter」に指定されたパラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。 範囲を超えているパラメータまたはパラメータ間の不整合事項は付属情報で確認できます。		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。 入力変数の有効範囲は MC_WriteAxisParameter（軸パラメータ書込）命令を参照してください。	
付属情報	付属情報 1: 異常の詳細 • 範囲チェックの詳細コード 0000Hex: 表示単位範囲外、0001Hex: モータ 1 回転のパルス数範囲外、0002Hex: モータ 1 回転の移動量範囲外、0003Hex: ワーク側 1 回転の移動量範囲外、0004Hex: ワーク側ギア比範囲外、0005Hex: モータ側ギア比範囲外、0100Hex: 最高速度範囲外、0101Hex: 起動速度範囲外、0102Hex: ジョグ最高速度範囲外、0103Hex: 最大加速度範囲外、0104Hex: 最大減速度範囲外、0105Hex: 加減速オーバー範囲外、0106Hex: 反転時動作範囲外、0107Hex: 速度警告値範囲外、0108Hex: 加速度警告値範囲外、0109Hex: 減速度警告値範囲外、010AHex: 正方向トルク警告値範囲外、010BHex: 負方向トルク警告値範囲外、010CHex: インポジション幅範囲外、010DHex: インポジションチェック時間範囲外、010EHex: フィードバック速度フィルタ時定数範囲外、010FHex: 原点位置範囲範囲外、0200Hex: 即停止入力停止方法範囲外、0201Hex: 限界入力停止方法範囲外、0202Hex: ドライバエラーリセット監視時間範囲外、0203Hex: 正方向トルク制限上限値範囲外、0204Hex: 負方向トルク制限上限値範囲外、0300Hex: ソフトウェアリミット機能範囲外、0301Hex: 正方向ソフトウェアリミット範囲外、0302Hex: 負方向ソフトウェアリミット範囲外、0303Hex: 位置偏差オーバー値範囲外、0304Hex: 位置偏差警告値範囲外、0400Hex: カウントモード範囲外、0401Hex: リングカウンタ上限設定値範囲外、0402Hex: リングカウンタ下限設定値範囲外、0500Hex: 原点復帰動作範囲外、0501Hex: 原点入力信号範囲外、0502Hex: 原点復帰開始方向範囲外、0503Hex: 原点検出方向範囲外、0504Hex: 正方向限界入力時動作範囲外、0505Hex: 負方向限界入力時動作範囲外、0506Hex: 原点復帰速度範囲外、0507Hex: 原点復帰アプローチ速度範囲外、0508Hex: 原点復帰加速度範囲外、0509Hex: 原点復帰減速度範囲外、050AHex: 原点復帰ジャーク範囲外、050BHex: 原点入力マスク距離範囲外、050CHex: 原点位置オフセット範囲外、050DHex: 原点復帰押し当て時間範囲外、050EHex: 原点復帰補正値範囲外、050FHex: 原点復帰補正速度範囲外 • 整合チェックの詳細コード 1000Hex: ワーク側 1 回転の移動量×ワーク側ギア比／モータ側ギア比の値が 0.000000001～2^{32}-1 の範囲外である、1001Hex: モータ 1 回転のパルス数×モータ側ギア比の値が 40 ビットを超えている、1100Hex: パルス単位変換後の最高速度が上限値を超えている *2、1101Hex: 起動速度が最高速度を超えている、1102Hex: ジョグ最高速度が最高速度を超えている、1103Hex: インポジション幅がパルス単位変換後 40 ビットを超えている、1104Hex: 原点位置範囲がパルス単位変換後 40 ビットを超えている、1300Hex: 正方向ソフトウェアリミットがパルス単位変換後 40 ビットを超えている、1301Hex: 負方向ソフトウェアリミットがパルス単位変換後 40 ビットを超えている、1302Hex: 正方向ソフトウェアリミット＞負方向ソフトウェアリミットとなっていない、1303Hex: 位置偏差オーバー値がパルス単位変換後 40 ビットを超えている、1304Hex: 位置偏差オーバー値≧位置偏差警告値となっていない、1400Hex: リングカウンタ上限設定値がパルス単位変換後 40 ビットを超えている、1401Hex: リングカウンタ下限設定値がパルス単位変換後 40 ビットを超えている、1402Hex: リングカウンタ上限設定値＞リングカウンタ下限設定値となっていない、1403Hex: ｜リングカウンタ上限設定値－リングカウンタ下限設定値｜がパルス単位変換後 2 以上となっていない、1500Hex: 原点復帰速度が最高速度を超えている、1501Hex: 原点復帰アプローチ速度≦原点復帰速度となっていない、1502Hex: 原点復帰加速度が最大加速度を超えている、1503Hex: 原点復帰減速度が最大減速度を超えている、1504Hex: 原点入力マスク距離がパルス単位変換後 40 ビットを超えている、1505Hex: 原点入力マスク距離がリング長を超えている、1506Hex: 原点位置オフセットがパルス単位変換後 40 ビットを超えている、1507Hex: 原点位置オフセットがリング範囲外、1508Hex: 原点復帰補正値の絶対値がパルス単位変換後 40 ビットを超えている、1509Hex: 原点復帰補正値の絶対値がリング長を超えている、150AHex: 原点復帰補正速度≦最高速度となっていない （注）複数の異常が発生している場合でも、表示されるコードはひとつだけです。表示の優先順位は「範囲チェックの詳細コード」→「整合チェックの詳細コード」です。					
注意点／備考	なし					

*1. ユニットバージョン Ver.1.08 以降の CPU ユニットで発生するイベントです。

*2. 最高速度の上限値は、ユニットバージョンが Ver.1.10 以前の場合は 500MHz、Ver.1.11 以降の場合は 2,147,483,647Hz です。

イベント名	カムプロパティ設定範囲外			**イベントコード**	573C0000Hex *1	
内容	モーション制御命令の入力変数「CamProperty」に指定されたパラメータが有効範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		**発生源詳細**	MC 共通	**検出タイミング**	命令起動時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	異常解除	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_MC_COM.MFaultLvl.Active		BOOL		MC 共通 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	命令の入力変数「CamProperty」に指定されたパラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。 範囲を超えているパラメータは付属情報で確認できます。		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	付属情報 1: 異常の詳細 • 0000Hex: 初期速度範囲外 • 0001Hex: 初期加速度範囲外 • 0002Hex: サイクルタイム範囲外					
注意点／備考	なし					

*1. ユニットバージョン Ver.1.08 以降の CPU ユニットで発生するイベントです。

イベント名	カムノード設定範囲外			**イベントコード**	573D0000Hex *1	
内容	モーション制御命令の入力変数「CamNodes」に指定されたパラメータが有効範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		**発生源詳細**	MC 共通	**検出タイミング**	命令起動時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	異常解除	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_MC_COM.MFaultLvl.Active		BOOL		MC 共通 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	命令の入力変数「CamNodes」に指定されたパラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。 範囲を超えているパラメータは付属情報で確認できます。		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	付属情報 1: 異常の詳細 • 0000Hex: 主軸位相範囲外 • 0001Hex: 従軸変位範囲外 • 0002Hex: 曲線形状範囲外 • 0003Hex: 接続速度範囲外 • 0004Hex: 接続加速度範囲外 • 0005Hex: 位相間隔幅範囲外 付属情報 2: 異常となったノードポイントの要素番号					
注意点／備考	なし					

*1. ユニットバージョン Ver.1.08 以降の CPU ユニットで発生するイベントです。

イベント名	カムノード型指定不正			**イベントコード**	573E0000Hex *1	
内容	モーション制御命令の入力変数「CamNodes」に指定されたパラメータが_sMC_CAM_NODE 型の配列変数以外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		**発生源詳細**	MC 共通	**検出タイミング**	命令起動時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	異常解除	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_MC_COM.MFaultLvl.Active		BOOL		MC 共通 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	命令の入力変数「CamNodes」に指定されたパラメータが_sMC_CAM_NODE 型の配列変数以外		該当命令の入力変数に sMC_CAM_NODE 型の配列変数を指定するようにプログラムを修正してください。		該当命令の入力変数に sMC_CAM_NODE 型の配列変数を指定するようにプログラムを作成してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

*1.　ユニットバージョン Ver.1.08 以降の CPU ユニットで発生するイベントです。

イベント名	カムテーブル生成ノード数不足			**イベントコード**	573F0000Hex *1	
内容	モーション制御命令の入力変数「CamNodes」に指定されたパラメータの配列変数で、要素番号 0 の「Phase」の値が「0」です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		**発生源詳細**	MC 共通	**検出タイミング**	命令起動時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	異常解除	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_MC_COM.MFaultLvl.Active		BOOL		MC 共通 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	命令の入力変数「CamNodes」に指定されたパラメータの配列変数で、要素番号 0 の「Phase」（主軸位相）の値が「0」		入力変数「CamNodes」に指定するパラメータの配列変数で、要素番号 0 の「Phase」（主軸位相）の値が「0」以外となるようにプログラムを修正してください。		入力変数「CamNodes」に指定するパラメータの配列変数で、要素番号 0 の「Phase」（主軸位相）の値が「0」以外となるようにプログラムを作成してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

*1.　ユニットバージョン Ver.1.08 以降の CPU ユニットで発生するイベントです。

イベント名	カムノード主軸位相非昇順			**イベントコード**	57400000Hex *1	
内容	モーション制御命令の入力変数「CamNodes」に指定されたパラメータの配列変数で、「Phase」の値が要素番号順に昇順となっていません。					
発生源	モーション制御機能モジュール		**発生源詳細**	MC 共通	**検出タイミング**	命令起動時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	異常解除	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_MC_COM.MFaultLvl.Active		BOOL		MC 共通 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	命令の入力変数「CamNodes」に指定されたパラメータの配列変数で、「Phase」（主軸位相）の値が要素番号順に昇順となっていない。または、有効桁 8 桁め以降の切り捨ての結果、非昇順となった。		入力変数「CamNodes」に指定するパラメータの配列変数で、「Phase」（主軸位相）の値が要素番号順に昇順となるようにプログラムを修正してください。		入力変数「CamNodes」に指定するパラメータの配列変数で、「Phase」（主軸位相）の値が要素番号順に昇順となるようにプログラムを作成してください。	
付属情報	付属情報 1: 異常となったノードポイントの要素番号					
注意点／備考	なし					

*1.　ユニットバージョン Ver.1.08 以降の CPU ユニットで発生するイベントです。

イベント名	カムテーブル生成データ点数過多			イベントコード	57410000Hex *1	
内容	生成するカムデータ数が、モーション制御命令の入力変数「CamTable」で指定したカムデータ変数の配列の要素数を超えています。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	MC 共通	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_COM.MFaultLvl.Active		BOOL		MC 共通 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	生成するカムテーブルのカムデータ数が、命令の入力変数「CamTable」で指定したカムデータ変数の配列の要素数を超えている。		生成するカムテーブルのカムデータ数が、命令の入力変数「CamTable」で指定したカムデータ変数の配列の要素数を超えないようにプログラムを修正してください。 生成するカムテーブルのカムデータ数は MC_GenerateCamTable（カムテーブル生成）命令を参照してください。		生成するカムテーブルのカムデータ数が、命令の入力変数「CamTable」で指定したカムデータ変数の配列の要素数を超えないようにプログラムを作成してください。 生成するカムテーブルのカムデータ数は MC_GenerateCamTable（カムテーブル生成）命令を参照してください。	
付属情報	付属情報 1: 異常となったノードポイントの要素番号					
注意点／備考	なし					

*1.　ユニットバージョン Ver.1.08 以降の CPU ユニットで発生するイベントです。

イベント名	カムテーブル生成変位オーバーフロー			イベントコード	57420000Hex *1	
内容	生成するカムテーブルの「Distance」が REAL 型で表現できる範囲を超えています。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	MC 共通	検出タイミング	命令起動時／命令実行中
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_COM.MFaultLvl.Active		BOOL		MC 共通 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	生成するカムテーブルの「Distance」が REAL 型で表現できる範囲を超えている。		入力変数「CamNodes」の「Curve」（曲線形状）に 3 次曲線または 5 次曲線を指定している場合、「Distance」がオーバーフローしないように「InitVel」（初期速度）、「ConnectingVel」（接続速度）、「ConnectingAcc」（接続加速度）の値を修正してください。 「Distance」の計算方法は MC_GenerateCamTable（カムテーブル生成）命令を参照してください。		入力変数「CamNodes」の「Curve」（曲線形状）に 3 次曲線または 5 次曲線を指定している場合、「Distance」がオーバーフローしないように「InitVel」（初期速度）、「ConnectingVel」（接続速度）、「ConnectingAcc」（接続加速度）の値を指定してください。 「Distance」の計算方法は MC_GenerateCamTable（カムテーブル生成）命令を参照してください。	
付属情報	付属情報 1: 異常となったノードポイントの要素番号					
注意点／備考	なし					

*1.　ユニットバージョン Ver.1.08 以降の CPU ユニットで発生するイベントです。

イベント名	生成中止カムテーブルの使用			イベントコード	57430000Hex *1	
内容	該当命令の入力変数「CamTable」に生成中止されたカムデータ変数が指定されています。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	MC 共通／軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_COM.MFaultLvl.Active		BOOL		MC 共通 軽度フォールト発生中	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	MC_GenerateCamTable（カムテーブル生成）命令の異常で生成中止されたカムデータ変数が、該当命令の入力変数「CamTable」に指定されている。		MC_GenerateCamTable（カムテーブル生成）命令の出力変数「ErrorID」（エラーコード）、「ErrorParameterCode」（パラメータ詳細コード）、「ErrorNodePointIndex」（ノードポイント要素番号）を確認し、正常なカムデータ変数を生成するようにプログラムを修正してください。		MC_GenerateCamTable（カムテーブル生成）命令が正常なカムデータ変数を生成するようにプログラムを作成してください。または、MC_GenerateCamTable（カムテーブル生成）命令が正常に完了した場合だけ、該当命令を起動するようにプログラムを作成してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

*1. ユニットバージョン Ver.1.08 以降の CPU ユニットで発生するイベントです。

イベント名	実行 ID 設定範囲外			イベントコード	57490000Hex *1	
内容	モーション制御命令の入力変数「ExecID」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸の軸動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力変数「ExecID」に指定されたパラメータが入力変数の範囲外		命令の入力変数「ExecID」に指定される入力パラメータが範囲内になるようにプログラムを修正してください。		命令の入力変数「ExecID」に指定される入力パラメータが範囲内になるようにプログラムを作成してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

*1. ユニットバージョン Ver.1.10 以降の CPU ユニットで発生するイベントです。

イベント名	位置オフセット範囲外			イベントコード	574A0000Hex *1	
内容	モーション制御命令の入力変数「OffsetPosition」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸の動作不可。該当軸の動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータをパルス単位に変換したときに符号付き 40 ビットの範囲を超えている。		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

*1. ユニットバージョン Ver.1.10 以降の CPU ユニットで発生するイベントです。

イベント名	PDS 状態遷移指令選択範囲外			イベントコード	574B0000Hex *1	
内容	モーション制御命令の入力変数「TransitionCmd」に指定されたパラメータが範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸の動作不可。該当軸の動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入力パラメータが入力変数の範囲外		該当命令で入力変数の範囲を超えないようにパラメータを修正してください。		命令への入力パラメータが入力変数の範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

*1. ユニットバージョン Ver.1.10 以降の CPU ユニットで発生するイベントです。

イベント名	単軸位置制御軸モーション命令起動不可			イベントコード	574C0000Hex *1	
内容	単軸位置制御軸に対して、実行できない動作命令を実行しました					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸の動作不可。該当軸の動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	単軸位置制御軸に対して、実行できない動作命令を実行した		命令で指定している軸の軸基本設定の制御機能に「0: すべて」を設定してください。 または、軸基本設定の制御機能に「0: すべて」が設定されている軸を指定するようにしてください		同左	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

*1. ユニットバージョン Ver.1.13 以降の CPU ユニットで発生するイベントです。

イベント名	カムモニタモード選択設定範囲外			イベントコード	57510000Hex *1	
内容	モーション制御命令の入力変数「CamMonitorMode」に指定されたカムモニタモード選択が範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸の動作不可。該当軸の動作中は減速停止		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	カムモニタモード選択が設定の範囲外		正しいカムモニタモード選択に修正してください		カムモニタモード選択を正しく設定してください	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

*1. 形 NX102-□□□□の CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.32 以降、および形 NX701-□□00、形 NX1P2-□□□□□□、形 NJ501-□□□□（形 NJ501-□□20 を除く）、形 NJ301-□□□□、形 NJ101-□□00 の CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.21 以降で発生するイベントです。

イベント名	カムモニタ値データ型不一致			**イベントコード**	57520000Hex *1	
内容	モーション制御命令の入出力変数「CamMonitorValue」に指定されたカムモニタ値変数のデータ型がカムモニタモード選択と不一致です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		**発生源詳細**	軸	**検出タイミング**	命令起動時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	異常解除	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当軸の動作不可。該当軸の動作中は減速停止		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	カムモニタ値に指定した変数のデータ型がカムモニタモード選択と不一致		正しいカムモニタ値に指定した変数のデータ型に修正してください		カムモニタ値に指定した変数のデータ型を正しく設定してください	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

*1. 形 NX102-□□□□の CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.32 以降、および形 NX701-□□00、形 NX1P2-□□□□□□、形 NJ501-□□□□（形 NJ501-□□20 を除く）、形 NJ301-□□□□、形 NJ101-□□00 の CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.21 以降で発生するイベントです。

イベント名	目標位置正方向ソフトウェアリミットオーバー			**イベントコード**	64400000Hex	
内容	指定した位置が正方向ソフトウェアリミットの範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		**発生源詳細**	軸／軸グループ	**検出タイミング**	命令起動時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	異常解除	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	発生源詳細が「軸」の場合: 該当軸の動作不可。該当軸の動作中は減速停止 発生源詳細が「軸グループ」の場合: 該当軸グループの動作不可。該当軸グループの動作中は減速停止		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸グループ 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	命令の入力変数「Position」に指定されたパラメータが正方向ソフトウェアリミットの範囲外		該当命令の入力変数「Position」で指定されているパラメータを正方向ソフトウェアリミットの範囲内になるように修正してください。		命令の入力変数「Position」に指定される入力パラメータが正方向ソフトウェアリミットの範囲内になるようにしてください。	
	開始位置が正方向ソフトウェアリミットの範囲外で、ソフトウェアリミットの範囲とは反対の方向への動作を指定した命令を実行		該当命令での移動方向が正方向ソフトウェアリミット範囲内に向かう方向になるようにプログラムを修正してください。		開始位置が正方向ソフトウェアリミット範囲外の場合は、移動方向が正方向ソフトウェアリミット範囲内に向かう方向になるようにプログラムを作成してください。	
	通過点指定されている MC_MoveCircular2D（2 軸円弧補間）命令の入力変数「AuxPoint」に指定されたパラメータが正方向ソフトウェアリミットの範囲外		該当命令の入力変数「AuxPoint」で指定されているパラメータを正方向ソフトウェアリミットの範囲内になるように修正してください。		通過点指定されている MC_MoveCircular2D（2 軸円弧補間）命令の入力変数「AuxPoint」で指定されているパラメータが正方向ソフトウェアリミットの範囲内になるようにしてください。	
付属情報	付属情報 1: 発生源詳細により異なる。 • 軸の場合:「0」 • 軸グループの場合: 論理軸番号					
注意点／備考	なし					

イベント名	目標位置負方向ソフトウェアリミットオーバー			イベントコード	64410000Hex	
内容	指定した位置が負方向ソフトウェアリミットの範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸／軸グループ	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	発生源詳細が「軸」の場合: 該当軸の動作不可の該当軸。動作中は減速停止 発生源詳細が「軸グループ」の場合: 該当軸グループの動作不可。該当軸グループの動作中は減速停止		

システム定義変数	変数名	データ型	名称
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active	BOOL	軸 軽度フォールト発生中
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active	BOOL	軸グループ 軽度フォールト発生中

発生要因とその処置	発生要因（推定原因）	処置対策	再発防止
	命令の入力変数「Position」に指定されたパラメータが負方向ソフトウェアリミットの範囲外	該当命令の入力変数「Position」で指定されているパラメータを負方向ソフトウェアリミットの範囲内になるように修正してください。	命令の入力変数「Position」に指定される入力パラメータが負方向ソフトウェアリミットの範囲内になるようにしてください。
	開始位置が負方向ソフトウェアリミットの範囲外で、ソフトウェアリミットの範囲とは反対の方向への動作を指定した命令を実行	該当命令での移動方向が負方向ソフトウェアリミット範囲内に向かう方向になるようにプログラムを修正してください。	開始位置が負方向ソフトウェアリミット範囲外の場合は、移動方向が負方向ソフトウェアリミット範囲内に向かう方向になるようにプログラムを作成してください。
	通過点指定されている MC_MoveCircular2D（2 軸円弧補間）命令の入力変数「AuxPoint」に指定されたパラメータが負方向ソフトウェアリミットの範囲外	該当命令の入力変数「AuxPoint」で指定されているパラメータを負方向ソフトウェアリミットの範囲内になるように修正してください。	通過点指定されている MC_MoveCircular2D（2 軸円弧補間）命令の入力変数「AuxPoint」で指定されているパラメータが負方向ソフトウェアリミットの範囲内になるようにしてください。

付属情報	付属情報 1: 発生源詳細により異なる。 • 軸の場合: 「0」 • 軸グループの場合: 論理軸番号
注意点／備考	なし

イベント名	指令位置オーバーフロー／アンダーフロー発生中			イベントコード	64420000Hex	
内容	指令位置オーバーフロー／アンダーフロー発生中に、位置決め、オーバーフロー／アンダーフロー方向への命令、または方向を特定できない命令を実行しました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸の動作不可。該当軸の動作中は減速停止		

システム定義変数	変数名	データ型	名称
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active	BOOL	軸 軽度フォールト発生中

発生要因とその処置	発生要因（推定原因）	処置対策	再発防止
	指令位置オーバーフロー／アンダーフロー発生中に以下を行った。 • 位置決めの指令を実行した。 • オーバーフロー／アンダーフロー方向への連続制御指令を実行した。 • 方向を特定できない指令（同期機能、トルク制御）を実行した。	異常解除を実行し、原点復帰あるいは現在位置プリセットにより、オーバーフロー／アンダーフロー状態を解除してください。	オーバーフロー／アンダーフローを発生させないようにしてください。

付属情報	なし
注意点／備考	なし

イベント名	正方向限界入力中			イベントコード	64430000Hex	
内容	正方向限界入力が「ON」の状態で正方向に動作する命令を実行しました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸／軸グループ	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	発生源詳細が「軸」の場合: 該当軸の動作不可 発生源詳細が「軸グループ」の場合: 該当軸グループの動作不可		

システム定義変数	変数名	データ型	名称
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active	BOOL	軸 軽度フォールト発生中
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active	BOOL	軸グループ 軽度フォールト発生中

発生要因とその処置	発生要因（推定原因）	処置対策	再発防止
	正方向限界入力が「ON」の状態で正方向に動作する命令を実行、または正方向限界入力が「ON」の状態で動作方向を指定しない命令を実行。正方向限界入力が「ON」の状態で軸グループ動作命令を実行	異常解除を実行し、負方向への復帰動作を行ってください。軸グループ動作命令の実行中に異常が発生した場合は、異常が発生した軸グループを無効にしたうえで上記復帰動作を行なってください。再度本異常が発生する場合は、正方向限界信号の接続、正方向限界入力の論理設定、起動指令の実行条件を確認し、間違いを修正してください。 論理設定は軸パラメータとスレーブ側の設定の両方を確認してください。	正方向限界信号の接続、正方向限界入力の論理設定、起動命令の実行条件に間違いがないことを確認してください。 論理設定は軸パラメータとスレーブ側の設定の両方を確認してください。

付属情報	付属情報 1: 発生源詳細により異なる。 • 軸の場合: 「0」 • 軸グループの場合: 論理軸番号
注意点／備考	なし

イベント名	負方向限界入力中			イベントコード	64440000Hex	
内容	負方向限界入力が「ON」の状態で負方向に動作する命令を実行しました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸／軸グループ	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	発生源詳細が「軸」の場合: 該当軸の動作不可 発生源詳細が「軸グループ」の場合: 該当軸グループの動作不可		

システム定義変数	変数名	データ型	名称
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active	BOOL	軸 軽度フォールト発生中
	_MC_GRP[*].MFaultLvl.Active	BOOL	軸グループ 軽度フォールト発生中

発生要因とその処置	発生要因（推定原因）	処置対策	再発防止
	負方向限界入力が「ON」の状態で負方向に動作する命令を実行、または負方向限界入力が「ON」の状態で動作方向を指定しない命令を実行。負方向限界入力が「ON」の状態で軸グループ動作命令を実行	異常解除を実行し、正方向への復帰動作を行ってください。軸グループ動作命令の実行中に異常が発生した場合は、異常が発生した軸グループを無効にしたうえで上記復帰動作を行なってください。再度本異常が発生する場合は、負方向限界信号の接続、負方向限界入力の論理設定、起動指令の実行条件を確認し、間違いを修正してください。 論理設定は軸パラメータとスレーブ側の設定の両方を確認してください。	負方向限界信号の接続、負方向限界入力の論理設定、起動命令の実行条件に間違いがないことを確認してください。 論理設定は軸パラメータとスレーブ側の設定の両方を確認してください。

付属情報	付属情報 1: 発生源詳細により異なる。 • 軸の場合: 「0」 • 軸グループの場合: 論理軸番号
注意点／備考	なし

イベント名	サーボ主回路電源オフ状態			イベントコード	74220000Hex	
内容	サーボドライバの主回路電源が「OFF」の状態で、サーボ ON を実行しました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当軸のサーボ「OFF」		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].MFaultLvl.Active		BOOL		軸 軽度フォールト発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	サーボドライバの主回路電源「OFF」状態で、サーボ ON 実行		本異常が発生している軸のサーボドライバの主回路電源を「ON」してからサーボ ON を実行してください。		サーボドライバの主回路電源を「ON」してからサーボ ON を実行してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	フィードバック位置オーバーフロー／アンダーフロー発生中			イベントコード	57220000Hex *1	
内容	フィードバック位置オーバーフロー／アンダーフロー発生中に、実行できない命令を起動しました。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].Obsr.Active		BOOL		軸 監視情報発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	フィードバック位置オーバーフローまたはアンダーフローの発生中に、実行できない命令を起動した。		異常解除を実行し、「現在位置変更」または「原点復帰」により、オーバーフローまたはアンダーフロー状態を解除してください。		オーバーフローまたはアンダーフローが発生しないようにプログラムを作成してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

*1.　ユニットバージョン Ver.1.06 以降の CPU ユニットで発生するイベントです。

イベント名	スイッチ構造体のトラック番号設定範囲外			イベントコード	57230000Hex *1	
内容	モーション制御命令の入出力変数「Switches」に指定した「TrackNumber」の値が範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].Obsr.Active		BOOL		軸 監視情報発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入出力変数に指定した構造体型変数のメンバの値が範囲外		該当命令の入出力変数に指定した構造体型変数のメンバが有効範囲を超えないように値を修正してください。		命令の入出力変数に指定する構造体型変数のメンバの値が有効範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

*1.　ユニットバージョン Ver.1.06 以降の CPU ユニットで発生するイベントです。

イベント名	スイッチ構造体の ON 開始位置設定範囲外			イベントコード	57240000Hex *1	
内容	モーション制御命令の入出力変数「Switches」に指定した「FirstOnPosition」の値が範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].Obsr.Active		BOOL		軸 監視情報発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入出力変数に指定した構造体型変数のメンバの値が範囲外		該当命令の入出力変数に指定した構造体型変数のメンバが有効範囲を超えないように値を修正してください。		命令の入出力変数に指定する構造体型変数のメンバの値が有効範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

*1.　ユニットバージョン Ver.1.06 以降の CPU ユニットで発生するイベントです。

イベント名	スイッチ構造体の ON 終了位置設定範囲外			イベントコード	57250000Hex *1	
内容	モーション制御命令の入出力変数「Switches」に指定した「LastOnPosition」の値が範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].Obsr.Active		BOOL		軸 監視情報発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入出力変数に指定した構造体型変数のメンバの値が範囲外		該当命令の入出力変数に指定した構造体型変数のメンバが有効範囲を超えないように値を修正してください。		命令の入出力変数に指定する構造体型変数のメンバの値が有効範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

*1.　ユニットバージョン Ver.1.06 以降の CPU ユニットで発生するイベントです。

イベント名	スイッチ構造体の方向選択範囲外			イベントコード	57260000Hex *1	
内容	モーション制御命令の入出力変数「Switches」に指定した「AxisDirection」の値が範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].Obsr.Active		BOOL		軸 監視情報発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入出力変数に指定した構造体型変数のメンバの値が範囲外		該当命令の入出力変数に指定した構造体型変数のメンバが有効範囲を超えないように値を修正してください。		命令の入出力変数に指定する構造体型変数のメンバの値が有効範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

*1.　ユニットバージョン Ver.1.06 以降の CPU ユニットで発生するイベントです。

イベント名	スイッチ構造体のスイッチモード選択範囲外			イベントコード	57270000Hex *1	
内容	モーション制御命令の入出力変数「Switches」に指定した「CamSwitchMode」の値が範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].Obsr.Active		BOOL		軸 監視情報発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入出力変数に指定した構造体型変数のメンバの値が範囲外		該当命令の入出力変数に指定した構造体型変数のメンバが有効範囲を超えないように値を修正してください。		命令の入出力変数に指定する構造体型変数のメンバの値が有効範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

*1.　ユニットバージョン Ver.1.06 以降の CPU ユニットで発生するイベントです。

イベント名	スイッチ構造体の ON 時間設定範囲外			イベントコード	57280000Hex *1	
内容	モーション制御命令の入出力変数「Switches」に指定した「Duration」の値が範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].Obsr.Active		BOOL		軸 監視情報発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入出力変数に指定した構造体型変数のメンバの値が範囲外		該当命令の入出力変数に指定した構造体型変数のメンバが有効範囲を超えないように値を修正してください。		命令の入出力変数に指定する構造体型変数のメンバの値が有効範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

*1.　ユニットバージョン Ver.1.06 以降の CPU ユニットで発生するイベントです。

イベント名	トラックオプション構造体の ON 時刻補正設定範囲外			イベントコード	57290000Hex *1	
内容	モーション制御命令の入出力変数「TrackOptions」に指定した「OnCompensation」の値が範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].Obsr.Active		BOOL		軸 監視情報発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入出力変数に指定した構造体型変数のメンバの値が範囲外		該当命令の入出力変数に指定した構造体型変数のメンバが有効範囲を超えないように値を修正してください。		命令の入出力変数に指定する構造体型変数のメンバの値が有効範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

*1.　ユニットバージョン Ver.1.06 以降の CPU ユニットで発生するイベントです。

イベント名	トラックオプション構造体の OFF 時刻補正設定範囲外			イベントコード	572A0000Hex *1	
内容	モーション制御命令の入出力変数「TrackOptions」に指定した「OffCompensation」の値が範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].Obsr.Active		BOOL		軸 監視情報発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入出力変数に指定した構造体型変数のメンバの値が範囲外		該当命令の入出力変数に指定した構造体型変数のメンバが有効範囲を超えないように値を修正してください。		命令の入出力変数に指定する構造体型変数のメンバの値が有効範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

*1. ユニットバージョン Ver.1.06 以降の CPU ユニットで発生するイベントです。

イベント名	スイッチ構造体型変数の配列要素数範囲外			イベントコード	572B0000Hex *1	
内容	モーション制御命令の入出力変数「Switches」に指定した構造体型変数の配列の要素数が範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].Obsr.Active		BOOL		軸 監視情報発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入出力変数に指定した構造体型変数の配列の要素数が範囲外		該当命令の入出力変数に指定した構造体型変数の配列の要素数が範囲を超えないように修正してください。		命令の入出力変数に指定する構造体型変数の配列の要素数が範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

*1. ユニットバージョン Ver.1.06 以降の CPU ユニットで発生するイベントです。

イベント名	出力信号構造体型変数の配列要素数範囲外			イベントコード	572C0000Hex *1	
内容	モーション制御命令の入出力変数「Outputs」に指定した構造体型変数の配列の要素数が範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].Obsr.Active		BOOL		軸 監視情報発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入出力変数に指定した構造体型変数の配列の要素数が範囲外		該当命令の入出力変数に指定した構造体型変数の配列の要素数が範囲を超えないように修正してください。		命令の入出力変数に指定する構造体型変数の配列の要素数が範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

*1. ユニットバージョン Ver.1.06 以降の CPU ユニットで発生するイベントです。

イベント名	トラックオプション構造体型変数の配列要素数範囲外		イベントコード	572D0000Hex *1		
内容	モーション制御命令の入出力変数「TrackOptions」に指定した構造体型変数の配列の要素数が範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].Obsr.Active		BOOL		軸 監視情報発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入出力変数に指定した構造体型変数の配列の要素数が範囲外		該当命令の入出力変数に指定した構造体型変数の配列の要素数が範囲を超えないように修正してください。		命令の入出力変数に指定する構造体型変数の配列の要素数が範囲を超えないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

*1. ユニットバージョン Ver.1.06 以降の CPU ユニットで発生するイベントです。

イベント名	出力信号とトラックオプションの配列要素数不一致		イベントコード	572E0000Hex *1		
内容	モーション制御命令の入出力変数「Outputs」と「TrackOptions」に指定した構造体型変数の配列の要素数が一致していません。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].Obsr.Active		BOOL		軸 監視情報発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入出力変数に指定した出力信号構造体型変数とトラックオプション構造体型変数の配列の要素数が一致していない。		該当命令の入出力変数に指定した出力信号構造体型変数とトラックオプション構造体型変数の配列の要素数が一致するように修正してください。		命令の入出力変数に指定する出力信号構造体型変数とトラックオプション構造体型変数の配列の要素数が一致するようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

*1. ユニットバージョン Ver.1.06 以降の CPU ユニットで発生するイベントです。

イベント名	スイッチ構造体の同一トラック指定数範囲外		イベントコード	57310000Hex *1		
内容	モーション制御命令の入出力変数「Switches」に指定した「TrackNumber」の同一トラック番号の数が範囲外です。					
発生源	モーション制御機能モジュール		発生源詳細	軸	検出タイミング	命令起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_MC_AX[*].Obsr.Active		BOOL		軸 監視情報発生中	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	命令の入出力変数に指定したスイッチ構造体型変数の「TrackNumber」に指定した同一トラック番号の数が 1 トラックに指定可能な個数の範囲外		「TrackNumber」に指定した同一トラック番号の数が 1 トラックに指定可能な個数を超えないように値を修正してください。		「TrackNumber」に指定した同一トラック番号の数が 1 トラックに指定可能な個数を超えないようにしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

*1. ユニットバージョン Ver.1.06 以降の CPU ユニットで発生するイベントです。

1-6 EtherNet/IP 機能モジュール

1-6-1 内蔵 EtherNet/IP 関連

イベント名	通信コントローラ異常			**イベントコード**	04200000Hex	
内容	内蔵 EtherNet/IP ポートの通信コントローラのハードウェア異常を検知しました					
発生源	EtherNet/IP 機能モジュール		**発生源詳細**	通信ポート	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	部分停止フォールト	**復旧方法**	電源再投入	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	EtherNet/IP 通信不可		
LED	**EtherNet/IP NET RUN**		**EtherNet/IP NET ERR**		**EtherNet/IP LINK/ACT**	
	消灯		点灯		−	
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_EIP_LanHwErr		BOOL		通信コントローラ異常	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	通信コントローラのハードウェア故障		CPU ユニットを交換してください		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	システム定義変数_EIP_LanHwErr は一度 TRUE になると、コントローラの電源 OFF→ON 以外では FALSE になりません					

イベント名	MAC アドレス異常			**イベントコード**	14200000Hex	
内容	不揮発性メモリの MAC アドレスが正しく読み出せませんでした					
発生源	EtherNet/IP 機能モジュール		**発生源詳細**	通信ポート	**検出タイミング**	電源投入時／コントローラリセット時
異常の属性	**重要度**	部分停止フォールト	**復旧方法**	電源再投入	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	EtherNet/IP 通信不可		
LED	**EtherNet/IP NET RUN**		**EtherNet/IP NET ERR**		**EtherNet/IP LINK/ACT**	
	消灯		点灯		−	
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_EIP_MacAdrErr		BOOL		MAC アドレス異常	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	不揮発性メモリの故障		CPU ユニットを交換してください		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	システム定義変数_EIP_MacAdrErr は一度 TRUE になると、コントローラの電源 OFF→ON 以外では FALSE になりません					

イベント名	EtherNet/IP 処理異常			**イベントコード**	14220000Hex	
内容	EtherNet/IP 機能モジュールで致命的な異常を検知しました					
発生源	EtherNet/IP 機能モジュール		**発生源詳細**	通信ポート	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	部分停止フォールト	**復旧方法**	電源再投入	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	EtherNet/IP 通信不可		
LED	**EtherNet/IP NET RUN**		**EtherNet/IP NET ERR**		**EtherNet/IP LINK/ACT**	
	消灯		点灯		−	
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	ハードウェア故障		CPU ユニットを交換してください		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	Ethernet 基本設定エラー			**イベントコード**	34210000Hex	
内容	Ethernet の設定異常を検知しました					
発生源	EtherNet/IP 機能モジュール		**発生源詳細**	通信ポート	**検出タイミング**	電源投入時／コントローラリセット時
異常の属性	**重要度**	部分停止フォールト	**復旧方法**	自動復旧／電源再投入／コントローラリセット	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	EtherNet/IP 通信不可		
LED	**EtherNet/IP NET RUN**		**EtherNet/IP NET ERR**		**EtherNet/IP LINK/ACT**	
	消灯		点滅（1s 間隔）		−	
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_EIP_EtnCfgErr		BOOL		Ethernet 基本設定異常	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	設定データ誤り		付属情報から異常要因を特定し、正しい設定内容に修正した後、設定を再度ダウンロードしてください		なし	
	内蔵 EtherNet/IP ポート設定のダウンロード中の電断		メモリオールクリアまたは設定をダウンロードしてください		内蔵 EtherNet/IP ポート設定のダウンロード中はコントローラの電源を OFF しないでください	
	メモリ異常		上記で復旧しない場合は、CPU ユニットを交換してください		なし	
付属情報	付属情報 1：異常の種別 01Hex：不揮発性メモリアクセス異常、02Hex：設定値に矛盾がある 付属情報 2：異常内容の詳細 00Hex：不揮発性メモリアクセス異常、11Hex：通信速度の設定値が不正 12Hex：通信速度未サポート					
注意点／備考	付属情報で、異常発生要因を特定できます					

イベント名	IP アドレス設定異常			イベントコード	34220000Hex	
内容	IP アドレス設定の異常を検知しました					
発生源	EtherNet/IP 機能モジュール		発生源詳細	通信ポート	検出タイミング	電源投入時／コントローラリセット時
異常の属性	重要度	部分停止フォールト	復旧方法	自動復旧（設定のダウンロード後）／電源再投入／コントローラリセット	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	EtherNet/IP 通信不可		
LED	EtherNet/IP NET RUN		EtherNet/IP NET ERR		EtherNet/IP LINK/ACT	
	消灯		点滅（1s 間隔）		−	
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_EIP_IPAdrCfgErr		BOOL		IP アドレス設定異常	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	設定データ誤り		付属情報から異常要因を特定し、正しい設定内容に修正した後、設定を再度ダウンロードしてください		なし	
	内蔵 EtherNet/IP ポート設定のダウンロード中の電断		メモリオールクリアまたは設定を再ダウンロードしてください		内蔵 EtherNet/IP ポート設定のダウンロード中はコントローラの電源を OFF しないでください	
	BOOTP サーバから取得した IP アドレスが不正		BOOTP サーバが本ポートに提供する IP アドレスの設定を NJ シリーズに規定されている範囲に修正してください		BOOTP サーバが本ポートに提供する IP アドレスの設定を NJ シリーズに規定されている範囲に設定してください	
	メモリ異常		上記で復旧しない場合は CPU ユニットを交換してください		なし	
付属情報	付属情報 1：異常の種別 01Hex：不揮発性メモリアクセス異常、02Hex：設定値に矛盾がある 付属情報 2：異常内容の詳細 00Hex：不揮発性メモリアクセス異常 設定値に矛盾がある場合 11Hex：IP アドレス不正、12Hex：サブネットマスク不正、13Hex：デフォルトゲートウェイ不正、14Hex：優先 DNS 不正、15Hex：代替 DNS 不正、16Hex：ドメインネーム不正					
注意点／備考	付属情報で、異常発生要因を特定できます					

イベント名	IP アドレス重複異常			**イベントコード**	84010000Hex	
内容	IP アドレスが重複しています					
発生源	EtherNet/IP 機能モジュール		**発生源詳細**	通信ポート	**検出タイミング**	リンク確立以降常時
異常の属性	**重要度**	部分停止フォールト	**復旧方法**	自動復旧（IP アドレス設定のダウンロード後）／電源再投入／コントローラリセット	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	EtherNet/IP 通信不可。自 IP アドレス宛てのパケットを破棄します		

LED	**EtherNet/IP NET RUN**	**EtherNet/IP NET ERR**	**EtherNet/IP LINK/ACT**
	消灯	点滅（1s 間隔）	－

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	_EIP_IPAdrDupErr	BOOL	IP アドレス重複異常

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	内蔵 EtherNet/IP ポートの IP アドレスが、他ノードの IP アドレスと重複している	次のいずれかの処置をしてください • 他ノードの IP アドレスを確認し、重複しないように IP アドレスの設定を修正する • IP アドレスが重複している他ノードをネットワークから離脱させた後、コントローラを電源再投入またはコントローラリセットしてください	ネットワーク内で、各ノードの IP アドレスが互いに重複しないように割り当ててください

付属情報	付属情報 1：重複した IP アドレス　例：192.168.250.1 の場合⇒C0A8FA01Hex
注意点／備考	設定された IP アドレスで ARP を送信し、ARP 応答があればアドレス重複異常となります

イベント名	BOOTP サーバ接続失敗			**イベントコード**	84020000Hex	
内容	BOOTP サーバとの接続に失敗しました					
発生源	EtherNet/IP 機能モジュール		**発生源詳細**	通信ポート	**検出タイミング**	BOOTP 動作時
異常の属性	**重要度**	部分停止フォールト	**復旧方法**	自動復旧	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	EtherNet/IP 通信不可。 BOOTP サーバから応答があるまで BOOTP サーバへ要求継続。PLC 機能モジュールとのデータ交換動作（リフレッシュ）は継続。 BOOTP サーバにより IP アドレスを設定しようとした EtherNet/IP ポートに IP アドレスは設定されません		

LED	**EtherNet/IP NET RUN**	**EtherNet/IP NET ERR**	**EtherNet/IP LINK/ACT**
	消灯	点滅（1s 間隔）	－

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	_EIP_BootpErr	BOOL	BOOTP サーバ接続異常

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	サーバ設定の誤り	接続先のサーバの設定を修正してください	接続先のサーバの設定が正しいことを確認してください
	サーバダウン	接続先のサーバが正常に稼働しているか確認し、正常に稼働していない場合は正しく稼働させてください	接続先のサーバが正常に稼働していることを確認してください
	通信経路の異常発生	サーバへの通信経路に問題がないかを調査して、問題がある場合には対策を行ってください	なし

付属情報	なし
注意点／備考	なし

イベント名	通信コントローラ異常			イベントコード	04210000Hex *1	
内容	内蔵 EtherNet/IP ポートの通信コントローラのハードウェア異常を検知しました					
発生源	EtherNet/IP 機能モジュール		発生源詳細	通信ポート 1／通信ポート 2	検出タイミング	常時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	電源再投入	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当通信ポートの EtherNet/IP 通信不可		
LED	EtherNet/IP NET RUN		EtherNet/IP NET ERR		EtherNet/IP LINK/ACT	
	消灯		点灯		－	
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_EIP1_LanHwErr		BOOL		通信ポート 1 通信コントローラ異常	
	_EIP2_LanHwErr		BOOL		通信ポート 2 通信コントローラ異常	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	通信コントローラのハードウェア故障		CPU ユニットを交換してください		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	システム定義変数_EIP1_LanHwErr または_EIP2_LanHwErr は一度 TRUE になると、コントローラの電源 OFF→ON 以外では FALSE になりません					

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.10 以降で発生するイベントです。

イベント名	Identity 情報異常			イベントコード	14210000Hex	
内容	不揮発性メモリの CIP Identity 情報が正しく読み出せませんでした					
発生源	CPU ユニットの場合、EtherNet/IP 機能モジュール。X バスユニットの場合、X バス EtherNet/IP 機能モジュール		発生源詳細	CIP *1/CIP1 *2/CIP2 *2/「1～4：X バスユニットの装着位置」と「CIP1 / CIP2」の組み合わせで表示*4	検出タイミング	電源投入時／コントローラリセット時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	電源再投入	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当通信ポートの EtherNet/IP 通信不可		
LED	EtherNet/IP NET RUN		EtherNet/IP NET ERR		EtherNet/IP LINK/ACT	
	－		点灯		－	
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_EIP_IdentityErr *1 *3		BOOL		Identity 情報不正	
	_EIP1_IdentityErr *2 *3		BOOL		CIP 通信 1 Identity 情報不正	
	_EIP2_IdentityErr *2 *3		BOOL		CIP 通信 2 Identity 情報不正	
	EIP_Comm1Status.IdentityErr *4		BOOL		CIP 通信 1 Identity 情報不正	
	EIP_Comm2Status.IdentityErr *4		BOOL		CIP 通信 2 Identity 情報不正	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	不揮発性メモリの故障		CPU ユニットを交換してください		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

*1. NJ シリーズ CPU ユニットの場合です。
*2. NX シリーズ CPU ユニットの場合です。
*3. NX シリーズ EtherNet/IP ユニット以外の場合です。
*4. NX シリーズ EtherNet/IP ユニットの場合です。

イベント名	MAC アドレス異常			**イベントコード**	14230000Hex *1	
内容	不揮発性メモリの MAC アドレスが正しく読み出せませんでした					
発生源	EtherNet/IP 機能モジュール		**発生源詳細**	通信ポート 1／通信ポート 2	**検出タイミング**	電源投入時／コントローラリセット時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	電源再投入	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当通信ポートの EtherNet/IP 通信不可		
LED	**EtherNet/IP NET RUN**		**EtherNet/IP NET ERR**		**EtherNet/IP LINK/ACT**	
	消灯		点灯		−	
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_EIP1_MacAdrErr		BOOL		通信ポート 1 MAC アドレス異常	
	_EIP2_MacAdrErr		BOOL		通信ポート 2 MAC アドレス異常	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	不揮発性メモリの故障		CPU ユニットを交換してください		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	システム定義変数_EIP1_MacAdrErr または_EIP2_MacAdrErr は一度 TRUE になると、コントローラの電源 OFF→ON 以外では FALSE になりません					

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.10 以降で発生するイベントです。

イベント名	タグデータリンク設定エラー			**イベントコード**	34200000Hex	
内容	タグデータリンク通信設定の異常を検知しました					
発生源	CPU ユニットの場合、EtherNet/IP 機能モジュール。X バスユニットの場合、X バス EtherNet/IP 機能モジュール		**発生源詳細**	CIP *1/CIP1 *2/CIP2 *2/「1～4：X バスユニットの装着位置」と「CIP1 / CIP2」の組み合わせで表示*4	**検出タイミング**	電源投入時／コントローラリセット時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	自動復旧（タグデータリンク設定のダウンロード後）／電源再投入／コントローラリセット	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	タグデータリンク通信不可		

LED	**EtherNet/IP NET RUN**	**EtherNet/IP NET ERR**	**EtherNet/IP LINK/ACT**
	点滅（1s 間隔）	点滅（1s 間隔）	－

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	_EIP_TDLinkCfgErr *1 *3	BOOL	タグデータリンク設定異常
	_EIP1_TDLinkCfgErr *2 *3	BOOL	CIP 通信 1 タグデータリンク設定異常
	_EIP2_TDLinkCfgErr *2 *3	BOOL	CIP 通信 2 タグデータリンク設定異常
	EIP_Comm1Status.TDLinkCfgErr *4	BOOL	CIP 通信 1 タグデータリンク設定異常
	EIP_Comm2Status.TDLinkCfgErr *4	BOOL	CIP 通信 2 タグデータリンク設定異常

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	タグデータリンク設定のダウンロード中の電断	下記のいずれかを行ってください • メモリオールクリア • タグデータリンク設定の際ダウンロード • タグデータリンク設定のクリア	タグデータリンク設定のダウンロード中はコントローラの電源を OFF しないでください
	メモリ異常	上記で復旧しない場合は、CPU ユニットを交換してください	なし

付属情報	付属情報 1：異常の種別　01Hex：不揮発性メモリアクセス異常、02Hex：設定値に矛盾がある
注意点／備考	なし

*1. NJ シリーズ CPU ユニットの場合です。
*2. NX シリーズ CPU ユニットの場合です。
*3. NX シリーズ EtherNet/IP ユニット以外の場合です。
*4. NX シリーズ EtherNet/IP ユニットの場合です。

イベント名	IP ルートテーブル設定異常			**イベントコード**	34230000Hex	
内容	IP ルーチング機能設定の異常を検知しました					
発生源	EtherNet/IP 機能モジュール		**発生源詳細**	通信ポート	**検出タイミング**	電源投入時／コントローラリセット時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	自動復旧（設定のダウンロード後）／電源再投入／コントローラリセット	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当 IP ルーチング機能設定を使った通信不可		

LED	**EtherNet/IP NET RUN**	**EtherNet/IP NET ERR**	**EtherNet/IP LINK/ACT**
	－	点滅（1s 間隔）	－
システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	_EIP_IPRTblErr	BOOL	IP ルートテーブル異常
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	設定データ誤り	付属情報から異常要因を特定し、正しい設定内容に修正した後、設定を再度ダウンロードしてください	なし
	内蔵 EtherNet/IP ポート設定のダウンロード中の電断	メモリオールクリアまたは設定を再ダウンロードしてください	内蔵 EtherNet/IP ポート設定のダウンロード中はコントローラの電源を OFF しないでください
	メモリ異常	上記で復旧しない場合は、CPU ユニットを交換してください	なし
付属情報	付属情報 1：異常の種別 01Hex：不揮発性メモリアクセス異常、02Hex：設定値に矛盾がある 付属情報 2：異常内容の詳細 00Hex：不揮発性メモリアクセス異常 設定値に矛盾がある場合 11Hex：IP ルータテーブル設定不正、12Hex：Hosts 設定不正 13Hex：デフォルトゲートウェイ不正、 14Hex：IPForward 設定不正、15Hex：NAT 設定不正、16Hex：PacketFilter 設定不正		
注意点／備考	付属情報で、異常発生要因を特定できます		

イベント名	FTP サーバ設定エラー			イベントコード	34240000Hex	
内容	FTP サーバの設定異常を検知しました					
発生源	EtherNet/IP 機能モジュール		発生源詳細	FTP	検出タイミング	電源投入時／コントローラリセット時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	自動復旧（FTP 設定のダウンロード後）／電源再投入／コントローラリセット	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	FTP 動作不可		
LED	EtherNet/IP NET RUN		EtherNet/IP NET ERR		EtherNet/IP LINK/ACT	
	－		点滅（1s 間隔）		－	
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	設定データ誤り		付属情報から異常要因を特定し、正しい設定内容に修正した後、設定を再度ダウンロードしてください		なし	
	FTP サーバ設定のダウンロード中の電断		メモリオールクリアまたは設定を再ダウンロードしてください		FTP サーバ設定のダウンロード中はコントローラの電源を OFF しないでください	
	メモリ異常		上記で復旧しない場合は、CPU ユニットを交換してください		なし	
付属情報	付属情報 1：異常の種別　01Hex：不揮発性メモリアクセス異常、02Hex：設定値に矛盾がある					
注意点／備考	付属情報で、異常発生要因を特定できます					

イベント名	NTP クライアント設定エラー			イベントコード	34250000Hex	
内容	NTP クライアントの設定異常を検知しました					
発生源	EtherNet/IP 機能モジュール		発生源詳細	NTP	検出タイミング	電源投入時／コントローラリセット時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	自動復旧（NTP 設定のダウンロード後）／電源再投入／コントローラリセット	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	NTP 動作停止		
LED	EtherNet/IP NET RUN		EtherNet/IP NET ERR		EtherNet/IP LINK/ACT	
	－		点滅（1s 間隔）		－	
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	設定データ誤り		付属情報から異常要因を特定し、正しい設定内容に修正した後、設定を再度ダウンロードしてください		なし	
	NTP クライアント設定のダウンロード中の電断		メモリオールクリアまたは設定を再ダウンロードしてください		NTP クライアント設定のダウンロード中はコントローラの電源を OFF しないでください	
	メモリ異常		上記で復旧しない場合は、CPU ユニットを交換してください		なし	
付属情報	付属情報 1：異常の種別　01Hex：不揮発性メモリアクセス異常、02Hex：設定値に矛盾がある					
注意点／備考	付属情報で、異常発生要因を特定できます					

イベント名	SNMP 設定エラー			**イベントコード**	34260000Hex	
内容	SNMP エージェント／トラップの設定異常を検知しました					
発生源	EtherNet/IP 機能モジュール		**発生源詳細**	SNMP	**検出タイミング**	電源投入時／コントローラリセット時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	自動復旧（SNMP 設定のダウンロード後）／電源再投入／コントローラリセット	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	SNMP 動作停止		

LED	**EtherNet/IP NET RUN**	**EtherNet/IP NET ERR**	**EtherNet/IP LINK/ACT**
	－	点滅（1s 間隔）	－
システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	－	－
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	設定データ誤り	付属情報から異常要因を特定し、正しい設定内容に修正した後、設定を再度ダウンロードしてください	なし
	SNMP エージェント／トラップ設定のダウンロード中の電断	メモリオールクリアまたは設定を再ダウンロードしてください	SNMP エージェント／トラップ設定のダウンロード中はコントローラの電源を OFF しないでください
	メモリ異常	上記で復旧しない場合は、CPU ユニットを交換してください	なし
付属情報	付属情報 1：異常の種別 01Hex：不揮発性メモリアクセス異常、02Hex：設定値に矛盾がある 付属情報 2：異常の発生箇所 設定値に矛盾がある場合 01Hex：SNMP エージェント設定、02Hex：SNMP トラップ設定		
注意点／備考	付属情報で、異常発生要因を特定できます		

イベント名	タグ解決異常			イベントコード	34270000Hex	
内容	タグデータリンクに使用しているタグの解決に失敗しました					
発生源	CPU ユニットの場合、EtherNet/IP 機能モジュール。X バスユニットの場合、X バス EtherNet/IP 機能モジュール		発生源詳細	CIP *1/CIP1 *2/CIP2 *2/「1～4：X バスユニットの装着位置」と「CIP1 / CIP2」の組み合わせで表示*4	検出タイミング	電源投入時／コントローラリセット時／Sysmac Studio からの変数変更時／Network Configurator からのデータリンクテーブル変更時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	自動復旧（タグ設定のダウンロード後）	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	タグ解決に失敗したタグのデータリンクは非動作。それ以外のタグのデータリンクは動作		

LED	EtherNet/IP NET RUN	EtherNet/IP NET ERR	EtherNet/IP LINK/ACT
	点滅（1s 間隔）	点滅（1s 間隔）	－

システム定義変数	変数名	データ型	名称
	_EIP_TagAdrErr *1 *3	BOOL	タグ解決異常
	_EIP1_TagAdrErr *2 *3	BOOL	CIP 通信 1 タグ解決異常
	_EIP2_TagAdrErr *2 *3	BOOL	CIP 通信 2 タグ解決異常
	EIP_Comm1Status.TagAdrErr *4	BOOL	CIP 通信 1 タグ解決異常
	EIP_Comm2Status.TagAdrErr *4	BOOL	CIP 通信 2 タグ解決異常

発生要因とその処置	発生要因（推定原因）	処置対策	再発防止
	ネットワーク変数とタグ設定でサイズが異なる	ネットワーク変数に合うようにタグ設定のサイズを修正してください	ネットワーク変数に合うようにタグ設定のサイズを設定してください
	タグデータリンク設定入出力方向と、コントローラの変数の入出力方向が不一致	タグデータリンク設定入出力方向と、コントローラの変数の入出力方向が一致するようにタグ設定またはコントローラ変数の設定を修正してください	タグデータリンク設定入出力方向と、コントローラの変数の入出力方向が一致するようにタグ設定またはコントローラ変数を設定してください
	コントローラにタグ設定に該当するネットワーク変数が存在しない	存在するネットワーク変数をタグに指定するようにタグ設定を修正してください	存在するネットワーク変数をタグに指定するようにタグを設定してください
	タグデータリンクに使用しているコントローラの変数の「ネットワーク公開属性」が［入力］であり、かつコンスタント属性である	「ネットワーク公開属性」が［入力］となっているコントローラ変数のコンスタント属性をはずしてください	「ネットワーク公開属性」が［入力］となっているコントローラの変数にはコンスタント属性をつけないでください

付属情報	なし
注意点／備考	なし

*1. NJ シリーズ CPU ユニットの場合です。
*2. NX シリーズ CPU ユニットの場合です。
*3. NX シリーズ EtherNet/IP ユニット以外の場合です。
*4. NX シリーズ EtherNet/IP ユニットの場合です。

イベント名	Ethernet 基本設定エラー			**イベントコード**	34280000Hex *1	
内容	Ethernet の設定異常を検知しました					
発生源	EtherNet/IP 機能モジュール		**発生源詳細**	通信ポート 1／通信ポート 2	**検出タイミング**	電源投入時／コントローラリセット時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	自動復旧／電源再投入／コントローラリセット	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当通信ポートの EtherNet/IP 通信不可		

LED	**EtherNet/IP NET RUN**	**EtherNet/IP NET ERR**	**EtherNet/IP LINK/ACT**
	消灯	点滅（1s 間隔）	－

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	_EIP1_EtnCfgErr	BOOL	通信ポート 1 Ethernet 基本設定異常
	_EIP2_EtnCfgErr	BOOL	通信ポート 2 Ethernet 基本設定異常

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	設定データ誤り	付属情報から異常要因を特定し、正しい設定内容に修正した後、設定を再度ダウンロードしてください	なし
	内蔵 EtherNet/IP ポート設定のダウンロード中の電断	メモリオールクリアまたは設定をダウンロードしてください	内蔵 EtherNet/IP ポート設定のダウンロード中はコントローラの電源を OFF しないでください
	メモリ異常	上記で復旧しない場合は、CPU ユニットを交換してください	なし

付属情報	付属情報 1：異常の種別 01Hex：不揮発性メモリアクセス異常、02Hex：設定値に矛盾がある 付属情報 2：異常内容の詳細 00Hex：不揮発性メモリアクセス異常、11Hex：通信速度の設定値が不正、12Hex：通信速度未サポート
注意点／備考	付属情報で、異常発生要因を特定できます

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.10 以降で発生するイベントです。

イベント名	IP アドレス設定異常			**イベントコード**	34290000Hex *1	
内容	IP アドレス設定の異常を検知しました					
発生源	EtherNet/IP 機能モジュール		**発生源詳細**	通信ポート 1／通信ポート 2／内部通信ポート 1	**検出タイミング**	電源投入時／コントローラリセット時／ユーザ操作
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	自動復旧（設定のダウンロード後）／電源再投入／コントローラリセット	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当通信ポートの EtherNet/IP 通信不可		

LED	**EtherNet/IP NET RUN**	**EtherNet/IP NET ERR**	**EtherNet/IP LINK/ACT**
	消灯	点滅（1s 間隔）	−
システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	_EIP1_IPAdrCfgErr	BOOL	通信ポート 1 IP アドレス設定異常
	_EIP2_IPAdrCfgErr	BOOL	通信ポート 2 IP アドレス設定異常
	_EIPIn1_IPAdrCfgErr	BOOL	内部通信ポート 1 IP アドレス設定異常
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	設定データ誤り	付属情報から異常要因を特定し、正しい設定内容に修正した後、設定を再度ダウンロードしてください	なし
	内蔵 EtherNet/IP ポート設定のダウンロード中の電断	メモリオールクリアまたは設定を再ダウンロードしてください	内蔵 EtherNet/IP ポート設定のダウンロード中はコントローラの電源を OFF しないでください
	BOOTP サーバから取得した IP アドレスが不正	BOOTP サーバが本ポートに提供する IP アドレスの設定を NX シリーズに規定されている範囲に修正してください	BOOTP サーバが本ポートに提供する IP アドレスの設定を NX シリーズに規定されている範囲に設定してください
	メモリ異常	上記で復旧しない場合は CPU ユニットを交換してください	なし
付属情報	付属情報 1：異常の種別 01Hex：不揮発性メモリアクセス異常、02Hex：設定値に矛盾がある 付属情報 2：異常内容の詳細 00Hex：不揮発性メモリアクセス異常 設定値に矛盾がある場合 11Hex：IP アドレス不正、12Hex：サブネットマスク不正		
注意点／備考	付属情報で、異常発生要因を特定できます		

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.10 以降で発生するイベントです。

イベント名	DNS 設定異常			**イベントコード**	342A0000Hex *1	
内容	DNS 設定、Hosts 設定の異常を検知しました					
発生源	EtherNet/IP 機能モジュール		**発生源詳細**	通信ポート	**検出タイミング**	電源投入時／コントローラリセット時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	自動復旧（設定のダウンロード後）／電源再投入／コントローラリセット	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	EtherNet/IP 通信不可		

LED	**EtherNet/IP NET RUN**	**EtherNet/IP NET ERR**	**EtherNet/IP LINK/ACT**
	消灯	点滅（1s 間隔）	－
システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	_EIP_DNSCfgErr	BOOL	DNS 設定異常
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	設定データ誤り	付属情報から異常要因を特定し、正しい設定内容に修正した後、設定を再度ダウンロードしてください	なし
	内蔵 EtherNet/IP ポート設定のダウンロード中の電断	メモリオールクリアまたは設定を再ダウンロードしてください	内蔵 EtherNet/IP ポート設定のダウンロード中はコントローラの電源を OFF しないでください
	メモリ異常	上記で復旧しない場合は CPU ユニットを交換してください	なし
付属情報	付属情報 1：異常の種別 01Hex：不揮発性メモリアクセス異常、02Hex：設定値に矛盾がある 付属情報 2：異常内容の詳細 00Hex：不揮発性メモリアクセス異常 設定値に矛盾がある場合 14Hex：優先 DNS 不正、15Hex：代替 DNS 不正、16Hex：ドメインネーム不正、17Hex：Hosts 設定不正		
注意点／備考	付属情報で、異常発生要因を特定できます		

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.10 以降で発生するイベントです。

イベント名	LINK 設定未サポート			イベントコード	342B0000Hex	
内容	未サポートの LINK 設定です。LINK 設定 Auto で動作しています。					
発生源	EtherNet/IP 機能モジュール		発生源詳細	通信ポート／通信ポート 1／通信ポート 2	検出タイミング	電源投入時／コントローラリセット時／Sysmac Studio からの同期転送／リストア
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	自動復旧（設定のダウンロード後）	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
LED	EtherNet/IP NET RUN		EtherNet/IP NET ERR		EtherNet/IP LINK/ACT	
	－		点滅（1s 間隔）		－	
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	LINK 設定が Auto 以外の設定を使用できないハードウェアリビジョンの CPU ユニットで、LINK 設定が Auto 以外に設定されている。		SysmacStudio で LINK 設定を Auto に変更して、ダウンロードしてください。		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	CPU ユニット形式、ハードウェアリビジョンにより LINK 設定が Auto 固定となります。詳細は、『NJ/NX シリーズ CPU ユニット内蔵 EtherNet/IP ポート ユーザーズマニュアル(SBCD-377)』の「LINK 設定ダイアログ」を参照してください。					

イベント名	コントローラのメモリ容量不足予告			イベントコード	50010000Hex *1	
内容	EtherCAT スレーブ構成やネットワーク公開情報などのデータ量が CPU ユニットの規定値を超えました。オンラインエディットなどが使用できない可能性があります					
発生源	EtherCAT マスタ機能モジュール／EtherNet/IP 機能モジュール		発生源詳細	マスタ／CIP	検出タイミング	電源投入時／ダウンロード時／オンラインエディット時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	自動復旧	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
LED	EtherNet/IP NET RUN		EtherNet/IP NET ERR		EtherNet/IP LINK/ACT	
	－		－		－	
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	EtherCAT スレーブ構成やネットワーク公開情報などのデータ量が CPU ユニットの規定値を超えた		EtherCAT スレーブで使用する PDO を減らしてください。 ネットワーク変数が使用するデータ型の数や名前の文字列長を短くしてください		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	オンラインエディットなどが使用できない可能性があります					

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.02 以降で発生するイベントです。

イベント名	DNS サーバ接続失敗			**イベントコード**	84030000Hex	
内容	DNS サーバとの接続に失敗しました					
発生源	EtherNet/IP 機能モジュール		**発生源詳細**	通信ポート	**検出タイミング**	DNS 動作時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	自動復旧（DNS 設定のダウンロード後）	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	DNS を使用した通信停止		
LED	**EtherNet/IP NET RUN**		**EtherNet/IP NET ERR**		**EtherNet/IP LINK/ACT**	
	－		点滅（1s 間隔）		－	
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_EIP_DNSSrvErr		BOOL		DNS サーバ接続異常	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	設定データ誤り		接続先のサーバの指定に間違いがある場合には、サーバ指定を修正して再度ダウンロードしてください		接続先のサーバ指定を正しく行ってください	
	サーバダウン		接続先のサーバが正常に稼働しているか確認し、正常に稼動していない場合は正しく稼動させてください		接続先のサーバが正常に稼働していることを確認してください	
	通信経路の異常発生		サーバへの回線上通信経路に問題がないかを調査して、問題がある場合には対策を行ってください		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	NTP サーバ接続失敗			**イベントコード**	84040000Hex	
内容	NTP サーバとの接続に失敗しました					
発生源	EtherNet/IP 機能モジュール		**発生源詳細**	NTP	**検出タイミング**	NTP 動作時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	自動復旧（NTP 設定のダウンロード後）	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	NTP による時刻の取得不可		
LED	**EtherNet/IP NET RUN**		**EtherNet/IP NET ERR**		**EtherNet/IP LINK/ACT**	
	－		点滅（1s 間隔）		－	
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_EIP_NTPSrvErr		BOOL		NTP サーバ接続異常	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	設定データ誤り		接続先のサーバの指定に間違いがある場合には、サーバ指定を修正して再度ダウンロードしてください		接続先のサーバ指定を正しく行ってください	
	サーバダウン		接続先のサーバが正常に稼働しているか確認し、正常に稼動していない場合は正しく稼動させてください		接続先のサーバが正常に稼働していることを確認してください	
	通信経路の異常発生		サーバへの回線上通信経路に問題がないかを調査して、問題がある場合には対策を行ってください		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	処置完了後に「TCP アプリケーション機能の起動」がイベントログに記録されていれば、CPU ユニットが DNS サーバと正常に接続していることが確認できます					

イベント名	タグデータリンクコネクション確立失敗			イベントコード	84070000Hex	
内容	タグデータリンクのコネクションの確立に失敗しました					
発生源	CPU ユニットの場合、EtherNet/IP 機能モジュール。X バスユニットの場合、X バス EtherNet/IP 機能モジュール		発生源詳細	CIP *1/CIP1 *2/CIP2 *2/「1～4：X バスユニットの装着位置」と「CIP1 / CIP2」の組み合わせで表示*4	検出タイミング	タグデータリンクコネクション確立時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	自動復旧	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	コネクションの確立に失敗したコネクションのデータリンクは非動作。それ以外のコネクションのデータリンクは動作		

LED	EtherNet/IP NET RUN	EtherNet/IP NET ERR	EtherNet/IP LINK/ACT
	点滅（1s 間隔）	点滅（1s 間隔）	－

システム定義変数	変数名	データ型	名称
	_EIP_TDLinkOpnErr *1 *3	BOOL	タグデータリンクコネクション確立失敗
	_EIP1_TDLinkOpnErr *2 *3	BOOL	CIP 通信 1 タグデータリンクコネクション確立失敗
	_EIP2_TDLinkOpnErr *2 *3	BOOL	CIP 通信 2 タグデータリンクコネクション確立失敗
	EIP_Comm1Status.TDLinkOpnErr *4	BOOL	CIP 通信 1 タグデータリンクコネクション確立失敗
	EIP_Comm2Status.TDLinkOpnErr *4	BOOL	CIP 通信 2 タグデータリンクコネクション確立失敗

発生要因とその処置	発生要因（推定原因）	処置対策	再発防止
	オリジネータとターゲットのタグデータリンクのコネクション情報が不一致	タグデータリンクのコネクション情報を修正した後、Network Configurator や Sysmac Studio からデバイスパラメータまたはコネクション設定をダウンロードしてください	タグデータリンクを行う前に、オリジネータとターゲット内でのタグデータリンクのコネクション情報を適合させてください
	コネクション数の不足	Class3 メッセージを減らしてください	データリンク、Class3 メッセージの使用数を減らしてください
	ターゲットノードの CIP メッセージ通信停止	正常に CIP メッセージ通信を開始させてください	正常に CIP メッセージ通信を開始させてから、タグデータリンクを行ってください
	CIP Safety コネクションの設定に含まれる NX シリーズ EtherNet/IP ユニットに対し、タグデータリンク通信の設定をした（NX シリーズ EtherNet/IP ユニットの場合）	CIP Safety コネクションの設定に含まれる NX シリーズ EtherNet/IP ユニットに対し、タグデータリンク通信の設定をしないでください（NX シリーズ EtherNet/IP ユニットの場合）	CIP Safety コネクションの設定に含まれる NX シリーズ EtherNet/IP ユニットに対し、タグデータリンク通信の設定をしないでください（NX シリーズ EtherNet/IP ユニットの場合）
	タグデータリンク通信が設定された NX シリーズ EtherNet/IP ユニットを、CIP Safety コネクションの設定に加えた（NX シリーズ EtherNet/IP ユニットの場合）	タグデータリンク通信が設定された NX シリーズ EtherNet/IP ユニットを、CIP Safety コネクションの設定に加えないでください（NX シリーズ EtherNet/IP ユニットの場合）	タグデータリンク通信が設定された NX シリーズ EtherNet/IP ユニットを、CIP Safety コネクションの設定に加えないでください（NX シリーズ EtherNet/IP ユニットの場合）

付属情報	付属情報 1：ターゲットノードの IP アドレス　例：192.168.250.1 の場合⇒C0A8FA01Hex 付属情報 2：コネクションインスタンス No.：0～255 *5 付属情報 3：コネクションステータス　例：General Status 01, Additional Status 0117 の場合⇒010000117Hex *5

注意点／備考	• コネクションステータスにて、詳細原因を調べることができます。 『NJ/NX シリーズ CPU ユニット内蔵 EtherNet/IP ポート ユーザーズマニュアル(SBCD-377)』のコネクションステータスのコード一覧と処置方法を参照してください • 同一ターゲットノードの複数のコネクションで本異常が同時に発生しても、本イベントは 1 つだけしか発生しません。

*1. NJ シリーズ CPU ユニットの場合です。
*2. NX シリーズ CPU ユニットの場合です。
*3. NX シリーズ EtherNet/IP ユニット以外の場合です。
*4. NX シリーズ EtherNet/IP ユニットの場合です。
*5. 付属情報 2 および付属情報 3 は、CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.10 以前にはありません。

イベント名	タグデータリンクタイムアウト			**イベントコード**	84080000Hex	
内容	タグデータリンクでタイムアウトが発生しました					
発生源	CPU ユニットの場合、EtherNet/IP 機能モジュール。X バスユニットの場合、X バス EtherNet/IP 機能モジュール		**発生源詳細**	CIP *1/CIP1 *2/CIP2 *2/「1～4：X バスユニットの装着位置」と「CIP1 / CIP2」の組み合わせで表示*4	**検出タイミング**	タグデータリンク通信開始以降常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	自動復旧	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	対象となるデータリンクコネクションの停止。タグデータリンク異常のターゲットに対して定期的に再コネクション処理を続行		

LED	**EtherNet/IP NET RUN**	**EtherNet/IP NET ERR**	**EtherNet/IP LINK/ACT**
	点滅（1s 間隔）	点滅（1s 間隔）	－

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	_EIP_TDLinkErr *1 *3	BOOL	タグデータリンク通信異常
	_EIP1_TDLinkErr *2 *3	BOOL	CIP 通信 1 タグデータリンク通信異常
	_EIP2_TDLinkErr *2 *3	BOOL	CIP 通信 2 タグデータリンク通信異常
	EIP_Comm1Status.TDLinkErr *4	BOOL	CIP 通信 1 タグデータリンク通信異常
	EIP_Comm2Status.TDLinkErr *4	BOOL	CIP 通信 2 タグデータリンク通信異常

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	ターゲットノードの電源 OFF	ターゲットノードの状態を確認し、正常に起動してください	ターゲットノードが正常に運転していることを確認してから、タグデータリンクを行ってください
	ターゲットノードの通信停止		
	EtherNet/IP の Ethernet ケーブルのコネクタのはずれ	コネクタが正しく嵌合しているかを確認し、再接続してください	コネクタを確実に接続してください
	EtherNet/IP の Ethernet ケーブルの断線	Ethernet ケーブルを交換してください	なし
	EtherNet/IP ポートのリンクオフ	リンクオフの発生要因も含めて「リンクオフ検知」（84060000Hex）を参照してください。	リンクオフの発生要因も含めて「リンクオフ検知」（84060000Hex）を参照してください。
	ターゲットノードの CIP メッセージ通信停止	正常に CIP メッセージ通信を開始させてください	正常に CIP メッセージ通信を開始させてから、タグデータリンクを行ってください
	内蔵 EtherNet/IP ポート設定の Packet Filter 機能が有効の場合に、ターゲットからのパケットが許可されていない*5	内蔵 EtherNet/IP ポート設定の Packet Filter 設定に、ターゲットからのパケットを許可してください	内蔵 EtherNet/IP ポート設定の Packet Filter 設定にターゲットからのパケットが許可されていることを確認してから、タグデータリンクを行ってください
	ターゲットノードおよび経路上の機器の Packet Filter（簡易）機能、Packet Filter 機能で、CIP 通信が許可されていない	ターゲットノードおよび経路上の機器の Packet Filter（簡易）機能、Packet Filter 機能で、CIP 通信を許可してください	ターゲットノードおよび経路上の機器の Packet Filter（簡易）機能、Packet Filter 機能で、CIP 通信が許可されていることを確認してから、タグデータリンクを行ってください
	ネットワーク通信負荷による、経路上でのパケット損失	コネクションタイムアウト値を大きくするか、RPI を大きくしてください。またはネットワーク環境、ネットワーク機器を見直してください。	ネットワーク環境が過負荷にならないようにネットワークを設計してください。
	ノイズ	ノイズが多い場合はノイズ対策を行ってください	ノイズが多い場合はノイズ対策を行ってください

付属情報	付属情報 1：コネクションインスタンス No.：0～255 付属情報 2：ターゲットノードの IP アドレス　例：192.168.250.1 の場合⇒C0A8FA01Hex

注意点／備考	• 以下のケースについては、本異常の対象外 ターゲットとしてコネクションしている場合 • 同一ターゲットノードの複数のコネクションで本異常が同時に発生しても、本イベントは 1 つだけしか発生しません。

*1. NJ シリーズ CPU ユニットの場合です。
*2. NX シリーズ CPU ユニットの場合です。
*3. NX シリーズ EtherNet/IP ユニット以外の場合です。
*4. NX シリーズ EtherNet/IP ユニットの場合です。
*5. 以下の CPU ユニットで発生する要因です。
- 形 NJ シリーズ、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニット：Ver.1.49 以降
- 形 NX502 CPU ユニット：Ver.1.60 以降
- 形 NX701 CPU ユニット：Ver.1.29 以降

イベント名	タグデータリンクコネクション確立タイムアウト			**イベントコード**	84090000Hex *1	
内容	タグデータリンクのコネクション確立時にタイムアウトが発生しました					
発生源	CPU ユニットの場合、EtherNet/IP 機能モジュール。X バスユニットの場合、X バス EtherNet/IP 機能モジュール		**発生源詳細**	CIP *2/CIP1 *3/CIP2 *3/「1～4：X バスユニットの装着位置」と「CIP1 / CIP2」の組み合わせで表示*5	**検出タイミング**	タグデータリンクコネクション確立時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	自動復旧	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	コネクション確立時にタイムアウトが発生したデータリンクは非動作。タイムアウトしたコネクションに対して定期的に再コネクション処理を続行		

LED	**EtherNet/IP NET RUN**	**EtherNet/IP NET ERR**	**EtherNet/IP LINK/ACT**
	点滅（1s 間隔）	点滅（1s 間隔）	－

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	_EIP_TDLinkOpnErr *2 *4	BOOL	タグデータリンクコネクション確立失敗
	_EIP1_TDLinkOpnErr *3 *4	BOOL	CIP 通信 1 タグデータリンクコネクション確立失敗
	_EIP2_TDLinkOpnErr *3 *4	BOOL	CIP 通信 2 タグデータリンクコネクション確立失敗
	EIP_Comm1Status.TDLinkOpnErr *5	BOOL	CIP 通信 1 タグデータリンクコネクション確立失敗
	EIP_Comm2Status.TDLinkOpnErr *5	BOOL	CIP 通信 2 タグデータリンクコネクション確立失敗

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	ターゲットノードの電源 OFF	ターゲットノードの状態を確認し、正常に起動してください	ターゲットノードが正常に運転していることを確認してから、タグデータリンクを行ってください
	ターゲットノードの通信停止		
	ターゲットノード、または内蔵 EtherNet/IP ポートの CIP メッセージ通信停止*6	正常に CIP メッセージ通信を開始させてください	正常に CIP メッセージ通信を開始させてから、タグデータリンクを行ってください
	EtherNet/IP の Ethernet ケーブルのコネクタのはずれ	コネクタが正しく嵌合しているかを確認し、再接続してください	コネクタを確実に接続してください
	EtherNet/IP の Ethernet ケーブルの断線	Ethernet ケーブルを交換してください	なし
	ターゲットノードおよび経路上の機器の Packet Filter（簡易）機能、Packet Filter 機能で、CIP 通信が許可されていない	ターゲットノードおよび経路上の機器の Packet Filter（簡易）機能、Packet Filter 機能で、CIP 通信を許可してください	ターゲットノードおよび経路上の機器の Packet Filter（簡易）機能、Packet Filter 機能で、CIP 通信が許可されていることを確認してから、タグデータリンクを行ってください
	通信経路の異常発生	通信経路に問題がないかを調査して、問題がある場合には対策を行ってください	なし

付属情報	付属情報 1：ターゲットノードの IP アドレス　例：192.168.250.1 の場合⇒C0A8FA01Hex
注意点／備考	• 重要度を監視情報に変更できます。監視情報に変更した場合、LED のうち「EtherNet/IP NET ERR」の表示状態は「－（変化なし）」となり、復旧は不要となります • 以下のケースについては、本異常の対象外 ターゲットとしてコネクションしている場合 スイッチングハブとのリンクオフ検知発生によるコネクション確立タイムアウト • 同一ターゲットノードの複数のコネクションで本異常が同時に発生しても、本イベントは 1 つだけしか発生しません。

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.04 以降で発生するイベントです。
*2. NJ シリーズ CPU ユニットの場合です。
*3. NX シリーズ CPU ユニットの場合です。
*4. NX シリーズ EtherNet/IP ユニット以外の場合です。
*5. NX シリーズ EtherNet/IP ユニットの場合です。

*6. 以下の CPU ユニットで発生する要因です。
- 形 NJ シリーズ、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニット：Ver.1.49 以降
- 形 NX502 CPU ユニット：Ver.1.60 以降
- 形 NX701 CPU ユニット：Ver.1.29 以降

イベント名	IP アドレス重複異常			**イベントコード**	840A0000Hex *1	
内容	IP アドレスが重複しています					
発生源	EtherNet/IP 機能モジュール		**発生源詳細**	通信ポート 1／通信ポート 2／内部通信ポート 1	**検出タイミング**	リンク確立以降常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	自動復旧（IP アドレス設定のダウンロード後）／電源再投入／コントローラリセット	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当通信ポートの EtherNet/IP 通信不可。該当通信ポートの自 IP アドレス宛てのパケットを破棄します		

LED	**EtherNet/IP NET RUN**	**EtherNet/IP NET ERR**	**EtherNet/IP LINK/ACT**
	消灯	点滅（1s 間隔）	－

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	_EIP1_IPAdrDupErr	BOOL	通信ポート 1 IP アドレス重複異常
	_EIP2_IPAdrDupErr	BOOL	通信ポート 2 IP アドレス重複異常
	_EIPIn1_IPAdrDupErr	BOOL	内部通信ポート 1 IP アドレス重複異常

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	内蔵 EtherNet/IP ポートの IP アドレスが、他ノードの IP アドレスと重複している	次のいずれかの処置をしてください • 他ノードの IP アドレスを確認し、重複しないように IP アドレスの設定を修正する • IP アドレスが重複している他ノードをネットワークから離脱させた後、コントローラを電源再投入またはコントローラリセットしてください	ネットワーク内で、各ノードの IP アドレスが互いに重複しないように割り当ててください

付属情報	付属情報 1：重複した IP アドレス　例：192.168.250.1 の場合⇒C0A8FA01Hex
注意点／備考	設定された IP アドレスで ARP を送信し、ARP 応答があればアドレス重複異常となります

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.10 以降で発生するイベントです。

イベント名	BOOTP サーバ接続失敗			**イベントコード**	840B0000Hex *1	
内容	BOOTP サーバとの接続に失敗しました					
発生源	EtherNet/IP 機能モジュール		**発生源詳細**	通信ポート 1／通信ポート 2	**検出タイミング**	BOOTP 動作時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	自動復旧	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当通信ポートの EtherNet/IP 通信不可。 BOOTP サーバから応答があるまで BOOTP サーバへ要求継続。PLC 機能モジュールとのデータ交換動作（リフレッシュ）は継続。 BOOTP サーバにより IP アドレスを設定しようとした EtherNet/IP ポートに IP アドレスは設定されません		
LED	**EtherNet/IP NET RUN**		**EtherNet/IP NET ERR**		**EtherNet/IP LINK/ACT**	
	消灯		点滅（1s 間隔）		−	
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_EIP1_BootpErr		BOOL		通信ポート 1 BOOTP サーバ接続異常	
	_EIP2_BootpErr		BOOL		通信ポート 2 BOOTP サーバ接続異常	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	サーバ設定の誤り		接続先のサーバの設定を修正してください		接続先のサーバの設定が正しいことを確認してください	
	サーバダウン		接続先のサーバが正常に稼働しているか確認し、正常に稼働していない場合は正しく稼働させてください		接続先のサーバが正常に稼働していることを確認してください	
	通信経路の異常発生		サーバへの通信経路に問題がないかを調査して、問題がある場合には対策を行ってください		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.10 以降で発生するイベントです。

イベント名	ユニット許容通信帯域幅オーバー			**イベントコード**	840C0000Hex *1	
内容	内蔵 EtherNet/IP ポートの全ポートの合計で、タグデータリンクおよび CIP Safety 通信*2 のユニット許容通信帯域幅を超えるコネクション設定／確立がされました					
発生源	CPU ユニットの場合、EtherNet/IP 機能モジュール。X バスユニットの場合、X バス EtherNet/IP 機能モジュール		**発生源詳細**	CIP1 /CIP2 /「1～4：X バスユニットの装着位置」と「CIP1 / CIP2」の組み合わせで表示*4	**検出タイミング**	タグデータリンクコネクション確立時／CIP Safety コネクション確立時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	自動復旧（設定のダウンロード後）／電源再投入／コントローラリセット	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	ユニット許容通信帯域幅を超えるタグデータリンクおよび CIP Safety 通信*2 は非動作		

LED	**EtherNet/IP NET RUN**	**EtherNet/IP NET ERR**	**EtherNet/IP LINK/ACT**
	点滅（1s 間隔）	点滅（1s 間隔）	－

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	_EIP_TDLinkOpnErr *3	BOOL	タグデータリンクコネクション確立失敗
	_EIP1_TDLinkOpnErr *3	BOOL	CIP 通信 1 タグデータリンクコネクション確立失敗
	_EIP2_TDLinkOpnErr *3	BOOL	CIP 通信 2 タグデータリンクコネクション確立失敗
	EIP_Comm1Status.TDLinkOpnErr *4	BOOL	CIP 通信 1 タグデータリンクコネクション確立失敗
	EIP_Comm2Status.TDLinkOpnErr *4	BOOL	CIP 通信 2 タグデータリンクコネクション確立失敗

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	内蔵 EtherNet/IP ポートの全ポートで使用するタグデータリンクおよび CIP Safety 通信*2 のパケット転送レートを合計した使用通信帯域幅(PPS)が、ユニット許容通信帯域幅を超える帯域幅でコネクション確立しようとした	内蔵 EtherNet/IP ポートの全ポート PPS を、ユニット許容通信帯域幅内になるようにタグデータリンクおよび CIP Safety 通信*2 のオリジネータノードの設定を変更し、コントローラの電源再投入またはコントローラリセットしてください	内蔵 EtherNet/IP ポートの全ポートの PPS が、ユニット許容通信帯域幅に収まるようにタグデータリンクおよび CIP Safety 通信*2 の設定をしてください

付属情報	なし
注意点／備考	EtherNet/IP ポートのタグデータリンクの帯域使用量(PPS)は、Network Configurator の［Ethernet 情報］タブにより確認できます。 Network Configurator による帯域使用量(PPS)の確認方法は、『NJ/NX シリーズ CPU ユニット内蔵 EtherNet/IP ポート ユーザーズマニュアル(SBCD-377)』の「ネットワークの通信ステータス確認と処置方法」の「［Ethernet 情報］タブ」の項を参照してください。

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.10 以降で発生するイベントです。
*2. CIP Safety 通信に対応した CPU ユニットの場合です。
*3. NX シリーズ EtherNet/IP ユニット以外の場合です。
*4. NX シリーズ EtherNet/IP ユニットの場合です。

イベント名	タグデータリンク タグセット設定数オーバー			イベントコード	840E0000Hex*1	
内容	内蔵 EtherNet/IP ポートの全ポートのタグデータリンクのタグセット合計数が、上限を超えています					
発生源	CPU ユニットの場合、EtherNet/IP 機能モジュール。X バスユニットの場合、X バス EtherNet/IP 機能モジュール		発生源詳細	CIP1 /CIP2 /「1～4：X バスユニットの装着位置」と「CIP1 / CIP2」の組み合わせで表示*3	検出タイミング	電源投入時／コントローラリセット時／Sysmac Studio からのダウンロード時／Network Configurator からのダウンロード時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	自動復旧	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当ポートのタグデータリンク通信が停止		

LED	EtherNet/IP NET RUN	EtherNet/IP NET ERR	EtherNet/IP LINK/ACT
	点滅（1s 間隔）	点滅（1s 間隔）	－

システム定義変数	変数名	データ型	名称
	_EIP_TDLinkCfgErr	BOOL	タグデータリンク設定異常
	_EIP1_TDLinkCfgErr	BOOL	CIP 通信 1 タグデータリンク設定異常
	_EIP2_TDLinkCfgErr	BOOL	CIP 通信 2 タグデータリンク設定異常
	EIP_Comm1Status.TDLinkCfgErr *3	BOOL	CIP 通信 1 タグデータリンク設定異常
	EIP_Comm2Status.TDLinkCfgErr *3	BOOL	CIP 通信 2 タグデータリンク設定異常

発生要因とその処置	発生要因（推定原因）	処置対策	再発防止
	内蔵 EtherNet/IP ポートごとに設定されたタグデータリンクのタグセットの全ポートにおける合計数が、製品が許容する合計数を超えている	内蔵 EtherNet/IP ポートごとに設定されるタグデータリンクのタグセットの全ポートにおける合計数が、製品が許容する合計数以下になるようにタグセットの設定数を変更してください	内蔵 EtherNet/IP ポートごとに設定するタグデータリンクのタグセットの数を変更するときに、全ポートのタグセットの合計数が製品が許容する合計数以下であることを事前に確認してください

付属情報	付属情報 1：該当ポートに設定されているタグセットの数 付属情報 2：製品に設定されているタグセットの合計数 付属情報 3：製品が許容するタグセットの合計数
注意点／備考	なし

*1. 形 NX102 CPU ユニットで発生するイベントです。
*2. NX シリーズ EtherNet/IP ユニット以外の場合です。
*3. NX シリーズ EtherNet/IP ユニットの場合です。

イベント名	変数範囲外アクセス検知			イベントコード	54E00000Hex	
内容	タグデータリンクに使用しているタグ変数に対して、範囲外の値のアクセスを検知しました					
発生源	CPU ユニットの場合、EtherNet/IP 機能モジュール。X バスユニットの場合、X バス EtherNet/IP 機能モジュール		発生源詳細	通信ポート/「CIP1 /CIP2」*1	検出タイミング	変数書込時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
LED	EtherNet/IP NET RUN		EtherNet/IP NET ERR		EtherNet/IP LINK/ACT	
	−		−		−	
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	範囲指定した変数に対して、EtherNet/IP タグデータリンクにて範囲外の値を書き込んだ。 または、列挙型の変数に対して、EtherNet/IP タグデータリンクにて列挙子以外の値を書き込んだ		範囲指定した変数に対して、範囲内の値を書き込むように書き込み値を修正してください。 または、列挙型の変数に対して、列挙子の値を書き込むように書き込み値を修正してください		範囲指定した変数に対して、範囲内の値を書き込むようにしてください。 または、列挙型の変数に対して、列挙子の値を書き込むようにしてください	
付属情報	なし					
注意点／備考	• 範囲外の値、または列挙子以外の値の書き込みは正常終了していません • 範囲内の値、または列挙子の値の書き込みは正常終了しています					

*1. NX シリーズ EtherNet/IP ユニットの場合です。

イベント名	受信バッファフルのためパケット廃棄			イベントコード	84050000Hex	
内容	パケットの破棄が発生しました					
発生源	EtherNet/IP 機能モジュール		発生源詳細	通信ポート*1／通信ポート 1 *2／通信ポート 2 *2	検出タイミング	リンク確立以降
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
LED	EtherNet/IP NET RUN		EtherNet/IP NET ERR		EtherNet/IP LINK/ACT	
	−		−		−	
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	ネットワークの輻輳が発生		ネットワーク上で高負荷が発生しています。ネットワーク上に不要なブロードキャストフレームを送信しているノードが無いか確認し、取り除いてください。その後、ネットワーク統計情報の受信フレーム数が減少していることを確認します		ネットワーク上に不要なブロードキャストフレームを送信しないようにしてください。 Ethernet ケーブルをループ状に接続しないようにしてください	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

*1. NJ シリーズ CPU ユニットの場合です。
*2. NX シリーズ CPU ユニットの場合です。

イベント名	リンクオフ検知			イベントコード	84060000Hex	
内容	Ethernet のリンクオフを検知しました					
発生源	EtherNet/IP 機能モジュール		発生源詳細	通信ポート *1／通信ポート 1 *2／通信ポート 2 *2／内部通信ポート 1	検出タイミング	常時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	EtherNet/IP 通信不可		

LED	EtherNet/IP NET RUN	EtherNet/IP NET ERR	EtherNet/IP LINK/ACT
	－	－	消灯

システム定義変数	変数名	データ型	名称
	なし	－	－

発生要因とその処置	発生要因（推定原因）	処置対策	再発防止
	Ethernet ケーブルの断線、ゆるみ、はずれ	Ethernet ケーブルを確実に接続してください。ケーブルが断線している場合にはケーブルを交換してください	Ethernet ケーブルを確実に接続してください。また、使用するケーブルが断線していないことを確認してください
	スイッチングハブの電源 OFF	スイッチングハブの電源を ON にしてください。 スイッチングハブが故障している場合は、スイッチングハブを交換してください	スイッチングハブの電源を切らないでください
	通信速度不一致	通信相手ノードと同じ通信速度になるように設定を修正してください	通信相手ノードと同じ通信速度の設定を行ってください
	ノイズ	ノイズが多い場合は、ノイズ対策を行ってください	ノイズ対策を行ってください
	以下の操作を行った • Identity オブジェクトのリセットを実行 • Network Configurator や Sysmac Studio から EtherNet/IP に関する設定のダウンロード／メモリオールクリア • EtherNet/IP の再起動	なし。左記の操作を行うと本イベントが発生します	なし。左記の操作を行うと本イベントが発生します

付属情報	なし
注意点／備考	重要度を軽度フォールトに変更できます。軽度フォールトに変更した場合の復旧方法は「自動復旧」となります

*1. NJ シリーズ CPU ユニットの場合です。
*2. NX シリーズ CPU ユニットの場合です。

イベント名	DHCP サーバ接続失敗			**イベントコード**	840F0000Hex	
内容	DHCP サーバとの接続に失敗しました					
発生源	EtherNet/IP 機能モジュール		**発生源詳細**	通信ポート 1 ／ 通信ポート 2	**検出タイミング**	DHCP 動作時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	自動復旧	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当通信ポートの EtherNet/IP 通信不可。 DHCP サーバから応答があるまで DHCP サーバへ要求継続。PLC 機能モジュールとのデータ交換動作（リフレッシュ）は継続。 DHCP サーバにより IP アドレスを設定しようとした EtherNet/IP ポートに IP アドレスは設定されません		

LED	**EtherNet/IP NET RUN**	**EtherNet/IP NET ERR**	**EtherNet/IP LINK/ACT**
	消灯	点滅（1s 間隔）	－

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	_EIP1_DhcpErr	BOOL	通信ポート 1 DHCP サーバ接続異常
	_EIP2_DhcpErr	BOOL	通信ポート 2 DHCP サーバ接続異常

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	サーバ設定の誤り	接続先のサーバの設定を修正してください	接続先のサーバの設定が正しいことを確認してください
	サーバダウン	接続先のサーバが正常に稼働しているか確認し、正常に稼働していない場合は正しく稼働させてください	接続先のサーバが正常に稼働していることを確認してください
	通信経路の異常発生	サーバへの通信経路に問題がないかを調査して、問題がある場合には対策を行ってください	なし

付属情報	なし
注意点／備考	なし

イベント名	セキュアソケット通信ログ保存失敗			イベントコード	940F0000Hex*1	
内容	セキュアソケット通信ログの SD メモリカードへの保存に失敗しました					
発生源	EtherNet/IP 機能モジュール		発生源詳細	通信ポート	検出タイミング	セキュアソケット通信ログが有効でログを保存できなかった時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
LED	EtherNet/IP NET RUN		EtherNet/IP NET ERR		EtherNet/IP LINK/ACT	
	−		−		−	
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	SD メモリカードが未装着		SD メモリカードを装着してください		SD メモリカードを装着してください	
	SD メモリカードが種別不正		SD または SDHC の SD メモリカードに交換してください		SD または SDHC の SD メモリカードを使用してください	
	SD メモリカードのフォーマット不正		SD メモリカードを Sysmac Studio でフォーマットしてください		フォーマットされた SD メモリカードを使用してください。 また、SD BUSY LED 点灯中に SD メモリカードを抜いたり電源断をしたりしないでください	
	SD メモリカードがライトプロテクトされている		SD メモリカードのライトプロテクトを解除してください		SD メモリカードのライトプロテクトは解除した状態で使用してください	
	SD メモリカードの容量不足		十分な空き容量のある SD メモリカードに交換してください		十分な空き容量のある SD メモリカードを使用してください	
	SD メモリカードの故障		SD メモリカードを交換してください		SD BUSY LED 点灯中に SD メモリカードを抜いたり電源断をしたりしないでください。 また、書込回数制限にもとづき定期的に SD メモリカードを交換してください。 また、SD PWR LED 点灯中に SD メモリカードを抜かないでください	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

*1. 以下の CPU ユニットで発生するイベントです。
- 形 NX102-□□00、形 NX1P2-□□□□□□：Ver.1.46 以降
- 形 NX102-□□20：Ver.1.37 以降
- 形 NX502-1□□□：Ver.1.60 以降

イベント名	タグデータリンク操作（ダウンロード開始）			イベントコード	94010000Hex	
内容	タグデータリンク設定の変更が開始されました					
発生源	CPU ユニットの場合、EtherNet/IP 機能モジュール。X バスユニットの場合、X バス EtherNet/IP 機能モジュール		発生源詳細	CIP *1/CIP1 *2/CIP2 *2/「1～4：X バスユニットの装着位置」と「CIP1 / CIP2」の組み合わせで表示*3	検出タイミング	ユーザ操作時
異常の属性	重要度	一般情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	アクセス
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		

LED	EtherNet/IP NET RUN	EtherNet/IP NET ERR	EtherNet/IP LINK/ACT
	点滅（1s 周隔）	－	－

システム定義変数	変数名	データ型	名称
	なし	－	－

発生要因とその処置	発生要因（推定原因）	処置対策	再発防止
	タグデータリンク設定の変更が開始された	－	－

付属情報	付属情報 1：コントローラステータス　01Hex：プログラムモード、02Hex：運転モード
注意点／備考	なし

*1. NJ シリーズ CPU ユニットの場合です。
*2. NX シリーズ CPU ユニットの場合です。
*3. NX シリーズ EtherNet/IP ユニットの場合です。

イベント名	タグデータリンク操作（ダウンロード完了）			イベントコード	94020000Hex	
内容	タグデータリンク設定の変更が完了しました					
発生源	CPU ユニットの場合、EtherNet/IP 機能モジュール。X バスユニットの場合、X バス EtherNet/IP 機能モジュール		発生源詳細	CIP *1/CIP1 *2/CIP2 *2/「1～4：X バスユニットの装着位置」と「CIP1 / CIP2」の組み合わせで表示*3	検出タイミング	ユーザ操作時
異常の属性	重要度	一般情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	アクセス
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		

LED	EtherNet/IP NET RUN	EtherNet/IP NET ERR	EtherNet/IP LINK/ACT
	点滅（1s 周隔）	－	－

システム定義変数	変数名	データ型	名称
	なし	－	－

発生要因とその処置	発生要因（推定原因）	処置対策	再発防止
	タグデータリンク設定の変更が完了した	－	－

付属情報	付属情報 1：コントローラステータス　01Hex：プログラムモード、02Hex：運転モード
注意点／備考	なし

*1. NJ シリーズ CPU ユニットの場合です。
*2. NX シリーズ CPU ユニットの場合です。
*3. NX シリーズ EtherNet/IP ユニットの場合です。

イベント名	タグデータリンク操作（起動停止）			**イベントコード**	94030000Hex	
内容	Network Configurator や Sysmac Studio、専用命令、またはシステム定義変数の操作により、タグデータリンクの起動停止の操作が行われました。または、Network Configurator や Sysmac Studio により、データリンクテーブルをダウンロードしました					
発生源	CPU ユニットの場合、EtherNet/IP 機能モジュール。X バスユニットの場合、X バス EtherNet/IP 機能モジュール		**発生源詳細**	CIP *1/CIP1 *2/CIP2 *2/「1～4：X バスユニットの装着位置」と「CIP1 / CIP2」の組み合わせで表示*4	**検出タイミング**	ユーザ操作時
異常の属性	**重要度**	一般情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	アクセス
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
LED	**EtherNet/IP NET RUN**		**EtherNet/IP NET ERR**		**EtherNet/IP LINK/ACT**	
	点滅（1s 間隔）		－		－	
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_EIP_TDLinkStopCmd *1 *3		BOOL		タグデータリンク通信停止スイッチ	
	_EIP1_TDLinkStopCmd *2 *3		BOOL		CIP 通信 1 タグデータリンク通信停止スイッチ	
	_EIP2_TDLinkStopCmd *2 *3		BOOL		CIP 通信 2 タグデータリンク通信停止スイッチ	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	Network Configurator や Sysmac Studio、専用命令、またはシステム定義変数の操作により、タグデータリンクの起動停止の操作が行われた		－		－	
付属情報	付属情報 1： コントローラステータス　01Hex：プログラムモード、02Hex：運転モード 付属情報 2： 操作方法 01Hex： Network Configurator や Sysmac Studio による操作、02Hex：システム定義変数による操作、03Hex：専用命令による操作 付属情報 3： • 付属情報 2 が 03Hex の場合 ターゲットノードの IP アドレス • 付属情報 2 が 03Hex 以外の場合 0					
注意点／備考	なし					

*1. NJ シリーズ CPU ユニットの場合です。
*2. NX シリーズ CPU ユニットの場合です。
*3. NX シリーズ EtherNet/IP ユニット以外の場合です。
*4. NX シリーズ EtherNet/IP ユニットの場合です。

イベント名	タグデータリンク操作（起動開始）			**イベントコード**	94040000Hex	
内容	Network Configurator や Sysmac Studio、専用命令、またはシステム定義変数の操作により、タグデータリンクの起動開始の操作が行われました。または、Network Configurator や Sysmac Studio により、データリンクテーブルをダウンロードしました					
発生源	CPU ユニットの場合、EtherNet/IP 機能モジュール。X バスユニットの場合、X バス EtherNet/IP 機能モジュール		**発生源詳細**	CIP *1/CIP1 *2/CIP2 *2/「1～4：X バスユニットの装着位置」と「CIP1 / CIP2」の組み合わせで表示*4	**検出タイミング**	ユーザ操作時
異常の属性	**重要度**	一般情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	アクセス
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		

LED	**EtherNet/IP NET RUN**	**EtherNet/IP NET ERR**	**EtherNet/IP LINK/ACT**
	点滅（1s 間隔）	－	－

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	_EIP_TDLinkStartCmd *1 *3	BOOL	タグデータリンク通信開始スイッチ
	_EIP1_TDLinkStartCmd *2 *3	BOOL	CIP 通信 1 タグデータリンク通信開始スイッチ
	_EIP2_TDLinkStartCmd *2 *3	BOOL	CIP 通信 2 タグデータリンク通信開始スイッチ

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	Network Configurator や Sysmac Studio、専用命令、またはシステム定義変数の操作により、タグデータリンクの起動開始の操作が行われた	－	－

付属情報	付属情報 1： コントローラステータス　01Hex：プログラムモード、02Hex：運転モード 付属情報 2： 操作方法 01Hex： Network Configurator や Sysmac Studio による操作、02Hex：システム定義変数による操作、03Hex：専用命令による操作 付属情報 3： • 付属情報 2 が 03Hex の場合 ターゲットノードの IP アドレス • 付属情報 2 が 03Hex 以外の場合 0
注意点／備考	なし

*1. NJ シリーズ CPU ユニットの場合です。
*2. NX シリーズ CPU ユニットの場合です。
*3. NX シリーズ EtherNet/IP ユニット以外の場合です。
*4. NX シリーズ EtherNet/IP ユニットの場合です。

イベント名	リンクオン検知			イベントコード	94050000Hex	
内容	Ethernet のリンク確立を検知しました					
発生源	EtherNet/IP 機能モジュール		発生源詳細	通信ポート *1／通信ポート 1 *2／通信ポート 2 *2／内部通信ポート 1	検出タイミング	リンク確立時
異常の属性	重要度	一般情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
LED	EtherNet/IP NET RUN		EtherNet/IP NET ERR		EtherNet/IP LINK/ACT	
	−		−		点灯	
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	Ethernet のリンク確立を検知した		−		−	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

*1. NJ シリーズ CPU ユニットの場合です。
*2. NX シリーズ CPU ユニットの場合です。

イベント名	通信ポートリスタート			イベントコード	94060000Hex	
内容	内蔵 EtherNet/IP ポートのリスタートが行われました					
発生源	EtherNet/IP 機能モジュール		発生源詳細	通信ポート *1／通信ポート 1 *2／通信ポート 2 *2／内部通信ポート 1	検出タイミング	ユーザ操作時
異常の属性	重要度	一般情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	アクセス
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
LED	EtherNet/IP NET RUN		EtherNet/IP NET ERR		EtherNet/IP LINK/ACT	
	−		−		−	
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	内蔵 EtherNet/IP ポートのリスタートが行われた		−		−	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

*1. NJ シリーズ CPU ユニットの場合です。
*2. NX シリーズ CPU ユニットの場合です。

イベント名	全タグデータリンク通信開始			イベントコード	94070000Hex	
内容	すべてのノードとのタグデータリンクコネクションが正常に確立しました					
発生源	CPU ユニットの場合、EtherNet/IP 機能モジュール。X バスユニットの場合、X バス EtherNet/IP 機能モジュール		発生源詳細	CIP *1/CIP1 *2/CIP2 *2/「1～4：X バスユニットの装着位置」と「CIP1 / CIP2」の組み合わせで表示*4	検出タイミング	タグデータリンクコネクション確立時
異常の属性	重要度	一般情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		

LED	EtherNet/IP NET RUN	EtherNet/IP NET ERR	EtherNet/IP LINK/ACT
	点灯	－	－

システム定義変数	変数名	データ型	名称
	_EIP_TDLinkAllRunSta *1 *3	BOOL	全タグデータリンク通信中
	_EIP1_TDLinkAllRunSta *2 *3	BOOL	CIP 通信 1 全タグデータリンク通信中
	_EIP2_TDLinkAllRunSta *2 *3	BOOL	CIP 通信 2 全タグデータリンク通信中
	EIP_Comm1Status.TDLinkAllRunSta *4	BOOL	CIP 通信 1 全タグデータリンク通信中
	EIP_Comm2Status.TDLinkAllRunSta *4	BOOL	CIP 通信 2 全タグデータリンク通信中

発生要因とその処置	発生要因（推定原因）	処置対策	再発防止
	すべてのターゲットノードとのタグデータリンクコネクションが正常に確立した	－	－

付属情報	なし
注意点／備考	なし

*1. NJ シリーズ CPU ユニットの場合です。
*2. NX シリーズ CPU ユニットの場合です。
*3. NX シリーズ EtherNet/IP ユニット以外の場合です。
*4. NX シリーズ EtherNet/IP ユニットの場合です。

イベント名	IP アドレス決定			イベントコード	94080000Hex	
内容	正しく IP アドレスが決定し、Ethernet 通信動作を開始できる状態になりました					
発生源	EtherNet/IP 機能モジュール		発生源詳細	通信ポート *1／通信ポート 1 *2／通信ポート 2 *2／内部通信ポート 1	検出タイミング	電源投入時／コントローラリセット時
異常の属性	重要度	一般情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
LED	EtherNet/IP NET RUN		EtherNet/IP NET ERR		EtherNet/IP LINK/ACT	
	点灯		−		−	
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	正しく IP アドレスが決定し、Ethernet 通信動作を開始できる状態になった		−		−	
付属情報	付属情報 1：IP アドレス　例：192.168.250.1 の場合⇒C0A8FA01Hex					
注意点／備考	なし					

*1.　NJ シリーズ CPU ユニットの場合です。
*2.　NX シリーズ CPU ユニットの場合です。

イベント名	BOOTP クライアント起動			イベントコード	94090000Hex	
内容	BOOTP クライアントが IP アドレス取得のリクエストを開始しました					
発生源	EtherNet/IP 機能モジュール		発生源詳細	通信ポート *1／通信ポート 1 *2／通信ポート 2 *2	検出タイミング	電源投入時／コントローラリセット時
異常の属性	重要度	一般情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
LED	EtherNet/IP NET RUN		EtherNet/IP NET ERR		EtherNet/IP LINK/ACT	
	−		−		−	
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	BOOTP クライアントが IP アドレス取得のリクエストを開始した		−		−	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

*1.　NJ シリーズ CPU ユニットの場合です。
*2.　NX シリーズ CPU ユニットの場合です。

イベント名	FTP サーバ起動			**イベントコード**	940A0000Hex	
内容	FTP サーバが正常に稼働を開始しました					
発生源	EtherNet/IP 機能モジュール		**発生源詳細**	FTP	**検出タイミング**	電源投入時／コントローラリセット時
異常の属性	**重要度**	一般情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
LED	**EtherNet/IP NET RUN**		**EtherNet/IP NET ERR**		**EtherNet/IP LINK/ACT**	
	－		－		－	
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	FTP サーバが正常に稼働を開始した		－		－	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	NTP クライアント起動			**イベントコード**	940B0000Hex	
内容	NTP クライアントが正常に起動し、NTP サーバへ時刻取得の要求を開始しました					
発生源	EtherNet/IP 機能モジュール		**発生源詳細**	NTP	**検出タイミング**	電源投入時／コントローラリセット時
異常の属性	**重要度**	一般情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
LED	**EtherNet/IP NET RUN**		**EtherNet/IP NET ERR**		**EtherNet/IP LINK/ACT**	
	－		－		－	
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	NTP クライアントが正常に起動し、NTP サーバへ時刻取得の要求を開始した		－		－	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	SNMP エージェント起動			**イベントコード**	940C0000Hex	
内容	SNMP エージェントが正常に稼働を開始しました					
発生源	EtherNet/IP 機能モジュール		**発生源詳細**	SNMP	**検出タイミング**	電源投入時／コントローラリセット時
異常の属性	**重要度**	一般情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
LED	**EtherNet/IP NET RUN**		**EtherNet/IP NET ERR**		**EtherNet/IP LINK/ACT**	
	－		－		－	
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	SNMP エージェントが正常に稼働を開始した		－		－	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	セキュアソケット通信ログの開始/停止			イベントコード	940E0000Hex*1	
内容	セキュアソケット通信ログが開始または停止しました					
発生源	EtherNet/IP 機能モジュール		発生源詳細	通信ポート	検出タイミング	電源投入時／コントローラリセット時／セキュアソケット設定コマンドによる設定変更
異常の属性	重要度	一般情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
LED	EtherNet/IP NET RUN		EtherNet/IP NET ERR		EtherNet/IP LINK/ACT	
	－		－		－	
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	セキュアソケット通信ログが開始または停止した		－		－	
付属情報	付属情報 1：00Hex：セキュアソケット通信ログの停止、01Hex：セキュアソケット通信ログの開始					
注意点／備考	なし					

*1. 以下の CPU ユニットで発生するイベントです。
- 形 NX102-□□00、形 NX1P2-□□□□□□：Ver.1.46 以降
- 形 NX102-□□20：Ver.1.37 以降
- 形 NX502-1□□□：Ver.1.60 以降

イベント名	セキュアソケット設定へのアクセス			イベントコード	94100000Hex*1	
内容	セキュアソケット設定コマンドからの設定変更、読み出しがありました					
発生源	EtherNet/IP 機能モジュール		発生源詳細	通信ポート	検出タイミング	セキュアソケット設定コマンドによる設定変更または読み出し
異常の属性	重要度	一般情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	アクセス
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
LED	EtherNet/IP NET RUN		EtherNet/IP NET ERR		EtherNet/IP LINK/ACT	
	－		－		－	
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	セキュアソケット設定コマンドからの設定変更、読み出しがありました		－		－	
付属情報	付属情報 1：00Hex：セキュアソケット設定読み出し、01Hex：セキュアソケット設定書き込み、02Hex： セキュアソケット設定削除 付属情報 2：00Hex：セッション設定へのアクセス、01Hex： セキュアソケット通信ログ設定へのアクセス 付属情報 3： • 付属情報 2 が 00Hex の場合 アクセス対象のセッション ID 0～29：（形 NX102 および形 NX1P2 以外の場合）、0～59：（形 NX102 および形 NX1P2 の場合） • 付属情報 1 が 01Hex かつ付属情報 2 が 01Hex の場合 セキュアソケット通信ログ設定　00Hex：無効、01Hex:有効					
注意点／備考	なし					

*1. 以下の CPU ユニットで発生するイベントです。
- 形 NX102-□□00、形 NX1P2-□□□□□□：Ver.1.46 以降かつ Ver.1.48 以前
- 形 NX102-□□20：Ver.1.37 以降
- 形 NX502-1□□□：Ver.1.60 以降

イベント名	セキュアソケット設定へのアクセス			**イベントコード**	94110000Hex*1	
内容	セキュアソケット設定の変更、読み出しがありました					
発生源	EtherNet/IP 機能モジュール		**発生源詳細**	通信ポート	**検出タイミング**	セキュアソケット設定の変更または読み出し
異常の属性	**重要度**	一般情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	アクセス
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
LED	**EtherNet/IP NET RUN**		**EtherNet/IP NET ERR**		**EtherNet/IP LINK/ACT**	
	－		－		－	
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	セキュアソケット設定の変更、読み出しが実行された		－		－	
付属情報	付属情報 1：接続方法 • 1：USB 直接接続 • 2：Ethernet 直接接続 • 3：USB リモート接続または Ethernet HUB 接続 付属情報 2：付属情報 1 が 2 か 3 の場合、接続元の IP アドレス。Proxy 経由の場合、Proxy の IP アドレス					
注意点／備考	なし					
アクセスログのユーザ名	ユーザ認証機能を使用している場合　：ユーザ名 ユーザ認証機能を使用していない場合：NULL					

*1. 以下の CPU ユニットで発生するイベントです。
- 形 NX102-□□00、形 NX1P2-□□□□□□、形 NX102-□□20：Ver.1.49 以降
- 形 NX502-1□□□：Ver.1.60 以降

イベント名	セキュアソケット設定の変更または読み出し			**イベントコード**	94120000Hex*1	
内容	セキュアソケット設定の変更、読み出しがありました					
発生源	EtherNet/IP 機能モジュール		**発生源詳細**	通信ポート	**検出タイミング**	セキュアソケット設定の変更または読み出し
異常の属性	**重要度**	一般情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
LED	**EtherNet/IP NET RUN**		**EtherNet/IP NET ERR**		**EtherNet/IP LINK/ACT**	
	－		－		－	
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	セキュアソケット設定の変更、読み出しが実行された		－		－	
付属情報	付属情報 1：00Hex：セキュアソケット設定読み出し、01Hex：セキュアソケット設定書き込み、02Hex： セキュアソケット設定削除 付属情報 2：00Hex：セッション設定へのアクセス、01Hex： セキュアソケット通信ログ設定へのアクセス 付属情報 3： • 付属情報 2 が 00Hex の場合 アクセス対象のセッション ID 0～59、255: セキュアソケット設定の初期化実行時 • 付属情報 1 が 01Hex かつ付属情報 2 が 01Hex の場合 セキュアソケット通信ログ設定　00Hex：無効、01Hex:有効					
注意点／備考	なし					

*1. 以下の CPU ユニットで発生するイベントです。
- 形 NX102-□□00、形 NX1P2-□□□□□□、形 NX102-□□20：Ver.1.49 以降
- 形 NX502-1□□□：Ver.1.60 以降

イベント名	IP アドレス変更			**イベントコード**	94130000Hex*1	
内容	IP アドレスが変更されました					
発生源	EtherNet/IP 機能モジュール		**発生源詳細**	通信ポート 1／通信ポート 2	**検出タイミング**	IP アドレス決定時に前回 IP アドレスからの変化があったとき
異常の属性	**重要度**	一般情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
LED	**EtherNet/IP NET RUN**		**EtherNet/IP NET ERR**		**EtherNet/IP LINK/ACT**	
	－		－		－	
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	IP アドレスが変更された		－		－	
付属情報	付属情報 1：変更後 IP アドレス （例）192.168.250.1					
注意点／備考	なし					

*1. 以下の CPU ユニットで発生するイベントです。
- 形 NJ シリーズ、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニット：Ver.1.49 以降
- 形 NX502 CPU ユニット：Ver.1.60 以降
- 形 NX701 CPU ユニット：Ver.1.29 以降

イベント名	SNMP 設定変更			**イベントコード**	94140000Hex*1	
内容	SNMP 設定が変更されました					
発生源	EtherNet/IP 機能モジュール		**発生源詳細**	SNMP	**検出タイミング**	SNMP 設定が変更されたとき
異常の属性	**重要度**	一般情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
LED	**EtherNet/IP NET RUN**		**EtherNet/IP NET ERR**		**EtherNet/IP LINK/ACT**	
	－		－		－	
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	SNMP 設定が変更された		－		－	
付属情報	付属情報 1：SNMP サービス変更内容 • 1： SNMP サービスを有効化 • 2： SNMP サービスを無効化 • 3： SNMP サービス設定を変更 • 4： 変更なし（1、2、3 以外） 付属情報 2：受付認証 1 変更内容 • 1： 受付認証 1 を有効化 • 2： 受付認証 1 を無効化 • 3： 受付認証 1 設定を変更 • 4： 変更なし（1、2、3 以外） 付属情報 3：受付認証 2 変更内容 • 1： 受付認証 2 を有効化 • 2： 受付認証 2 を無効化 • 3： 受付認証 2 設定を変更 • 4： 変更なし（1、2、3 以外）					
注意点／備考	なし					

*1. 以下の CPU ユニットで発生するイベントです。
- 形 NJ シリーズ、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニット：Ver.1.49 以降
- 形 NX502 CPU ユニット：Ver.1.60 以降
- 形 NX701 CPU ユニット：Ver.1.29 以降

イベント名	サブネットマスク変更			イベントコード	94150000Hex*1	
内容	サブネットマスクが変更されました					
発生源	EtherNet/IP 機能モジュール		発生源詳細	通信ポート 1／通信ポート 2	検出タイミング	IP アドレス決定時に前回サブネットマスクからの変化があったとき
異常の属性	重要度	一般情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
LED	EtherNet/IP NET RUN		EtherNet/IP NET ERR		EtherNet/IP LINK/ACT	
	－		－		－	
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	サブネットマスクが変更された		－		－	
付属情報	付属情報 1：変更後サブネットマスク （例）255.255.255.0					
注意点／備考	なし					

*1. 以下の CPU ユニットで発生するイベントです。
- 形 NJ シリーズ、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニット：Ver.1.49 以降
- 形 NX502 CPU ユニット：Ver.1.60 以降
- 形 NX701 CPU ユニット：Ver.1.29 以降

イベント名	通信ポートリスタート			イベントコード	96450000Hex	
内容	EtherNet/IP ポートのリスタートが行われました					
発生源	CPU ユニットの場合、EtherNet/IP 機能モジュール。X バスユニットの場合、X バス EtherNet/IP 機能モジュール		発生源詳細	CIP1 /CIP2 /「1～4：X バスユニットの装着位置」と「CIP1 / CIP2」の組み合わせで表示*1	検出タイミング	ユーザ操作時
異常の属性	重要度	一般情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	アクセス
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
LED	EtherNet/IP NET RUN		EtherNet/IP NET ERR		EtherNet/IP LINK/ACT	
	－		－		－	
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	EtherNet/IP ポートのリスタートが行われた		－		－	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

*1. NX シリーズ EtherNet/IP ユニットの場合です。

1-7 EtherCAT マスタ機能モジュール

1-7-1 異常の説明 内蔵 EtherCAT ポート関連

イベント名	通信コントローラ異常			**イベントコード**	04400000Hex	
内容	起動時に通信コントローラの異常を検出しました					
発生源	EtherCAT マスタ機能モジュール		**発生源詳細**	通信ポート	**検出タイミング**	電源投入時／コントローラリセット時
異常の属性	**重要度**	部分停止フォールト	**復旧方法**	電源再投入／コントローラリセット	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	〈マスタ〉 初期化状態のまま待機 〈スレーブ〉 メッセージ通信、およびプロセスデータ通信不可		
LED	**EtherCAT NET RUN**		**EtherCAT NET ERR**		**EtherCAT LINK/ACT**	
	－		点灯		－	
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_EC_LanHwErr		BOOL		通信コントローラ異常	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	通信コントローラの故障		コントローラリセットしてください。再発する場合は、CPU ユニットを交換してください		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	MAC アドレス異常			**イベントコード**	14400000Hex *1	
内容	MAC アドレスが不正です					
発生源	EtherCAT マスタ機能モジュール		**発生源詳細**	通信ポート	**検出タイミング**	電源投入時／コントローラリセット時
異常の属性	**重要度**	部分停止フォールト	**復旧方法**	電源再投入／コントローラリセット	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	〈マスタ〉 初期化状態のまま待機 〈スレーブ〉 メッセージ通信およびプロセスデータ通信不可		
LED	**EtherCAT NET RUN**		**EtherCAT NET ERR**		**EtherCAT LINK/ACT**	
	－		点灯		－	
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_EC_MacAdrErr		BOOL		MAC アドレス異常	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	CPU ユニットの故障		CPU ユニットを交換してください		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

*1. 設定ユニットバージョン Ver.1.40 未満の場合に発生するイベントです。

イベント名	パラメータ転送未実行			**イベントコード**	34420000Hex *1	
内容	スレーブ／ユニットのパラメータが転送されていません					
発生源	EtherCAT マスタ機能モジュール		**発生源詳細**	マスタ	**検出タイミング**	電源投入時／コントローラリセット時／運転モード変更時
異常の属性	**重要度**	部分停止フォールト	**復旧方法**	電源再投入／コントローラリセット	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	〈マスタ〉 プレオペレーショナル状態のまま待機 〈スレーブ〉 メッセージ通信可能。プロセスデータ通信不可		

LED	**EtherCAT NET RUN**	**EtherCAT NET ERR**	**EtherCAT LINK/ACT**
	－	点滅（1s 間隔）	－
システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	－	－
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	スレーブ／ユニットのパラメータがダウンロードされていない	Sysmac Studio でスレーブ／ユニットのパラメータをダウンロード後、電源再投入またはコントローラリセットをしてください	コントローラのリセットが必要なダウンロードを実施した場合には、Sysmac Studio のメッセージの表示内容に従い、ダウンロードを完了させてください
付属情報	なし		
注意点／備考	なし		

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.40 以降で発生するイベントです。

イベント名	EtherCAT 処理異常			**イベントコード**	44010000Hex	
内容	EtherCAT マスタ機能モジュールで致命的な異常を検知しました					
発生源	EtherCAT マスタ機能モジュール		**発生源詳細**	マスタ	**検出タイミング**	電源投入時／コントローラリセット／通信中
異常の属性	**重要度**	部分停止フォールト	**復旧方法**	電源再投入／コントローラリセット	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	〈マスタ〉 EtherCAT マスタ機能停止 〈スレーブ〉 メッセージ通信およびプロセスデータ通信を停止。通信中の場合、通信異常が発生し、異常処理はスレーブ設定に従います 異常が発生し、異常処理はスレーブ設定に従います		

LED	**EtherCAT NET RUN**	**EtherCAT NET ERR**	**EtherCAT LINK/ACT**
	－	点灯	－

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	－	－

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	ソフトウェアにエラーが発生した	Sysmac Studio で Sysmac コントローラログを取得の上、当社営業または代理店にお問い合わせください。Sysmac コントローラログの取得方法は、『Sysmac Studio Version 1 オペレーションマニュアル(SBCA-470)』を参照してください	なし

付属情報	付属情報 1：システム情報 付属情報 2：システム情報 付属情報 3：システム情報 付属情報 4：システム情報
注意点／備考	なし

イベント名	リンクオフ異常			**イベントコード**	84200000Hex	
内容	マスタリンクオフが発生しました					
発生源	EtherCAT マスタ機能モジュール		**発生源詳細**	通信ポート	**検出タイミング**	電源投入時／コントローラリセット時／通信中
異常の属性	**重要度**	部分停止フォールト	**復旧方法**	異常解除	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	〈マスタ〉 初期化状態のまま待機。初期化状態でない場合は、初期化状態に遷移します。本異常に起因する他の通信異常は異常検知しません 〈スレーブ〉 メッセージ通信およびプロセスデータ通信を停止。通信中の場合、通信異常が発生し、異常処理はスレーブ設定に従います		

LED	**EtherCAT NET RUN**	**EtherCAT NET ERR**	**EtherCAT LINK/ACT**
	消灯	点滅（1s 間隔）	−

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	_EC_LinkOffErr	BOOL	リンクオフ異常
	_EC_LinkStatus	BOOL	リンクステータス

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	マスタと先頭スレーブ間の Ethernet ケーブル未接続	マスタと先頭スレーブ間の Ethernet ケーブルを接続してください	Ethernet ケーブルが接続されていることを確認してください
	先頭スレーブの電源が投入されていない	先頭スレーブの電源を投入してください	先頭スレーブの電源が投入されていることを確認してください
	マスタと先頭スレーブ間の Ethernet ケーブルのコネクタのはずれ	Ethernet ケーブルのコネクタを接続してください	• Ethernet ケーブルのコネクタが、カチッと音がして固定されるまで確実に接続してください • Ethernet ケーブルのコネクタが、確実に嵌合していることを確認してください
	マスタと先頭スレーブ間に推奨外の Ethernet ケーブルの使用	推奨の Ethernet ケーブルに交換してください	推奨の Ethernet ケーブルを使用してください
	マスタと先頭スレーブ間の Ethernet ケーブルの断線	Ethernet ケーブルを交換してください	Ethernet ケーブルを配線する前に、ケーブルテスタなどを使用し、断線がないことを確認してください。配線に対する注意事項については、『NJ/NX シリーズ CPU ユニット内蔵 EtherCAT ポート ユーザーズマニュアル(SBCD-376)』の「EtherCAT ネットワークの配線」を参照してください
	マスタと先頭スレーブ間の Ethernet ケーブルのコネクタの接触不良、または部品不良	Ethernet ケーブルを交換してください	なし
	先頭スレーブのハードウェア故障	先頭スレーブの電源を再投入し、再発する場合は、スレーブを交換してください	なし
	「EtherCAT フレーム受信なし異常」(842E0000Hex)が発生している[*1]	「EtherCAT フレーム受信なし異常」(842E0000Hex)の処置対策を行ってください	「EtherCAT フレーム受信なし異常」(842E0000Hex)の再発防止を行ってください
	汎用 Ethernet ハブまたはリピータハブが接続されている	汎用 Ethernet ハブまたはリピータハブを取り除いて、EtherCAT 専用分岐スレーブを接続してください	汎用 Ethernet ハブおよびリピータハブを接続しないでください。分岐トポロジまたはリングトポロジを構成したい場合は、EtherCAT 専用分岐スレーブを使用してください

付属情報	なし

注意点／備考	汎用 Ethernet ハブまたはリピータハブが接続されていると、ネットワークの誤動作を防ぐために EtherCAT マスタが EtherCAT 通信を停止し、本異常が発生することがあります。

*1. Sysmac Studio のトラブルシュート機能または表示器のトラブルシュータ機能を使用して確認してください。

イベント名	EtherCAT フレーム受信なし異常			**イベントコード**	842E0000Hex *1	
内容	送信した EtherCAT フレームを受信できませんでした					
発生源	EtherCAT マスタ機能モジュール		**発生源詳細**	マスタ／スレーブ	**検出タイミング**	電源投入時／コントローラリセット時／通信中 *2／ECAT マスタへのケーブル接続時
異常の属性	**重要度**	部分停止フォールト	**復旧方法**	異常解除*3	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	〈マスタ〉 初期化状態のまま待機、または初期化状態でない場合は、すべてのスレーブを初期化状態に遷移させます 〈スレーブ〉 メッセージ通信およびプロセスデータ通信を停止。通信中の場合、通信異常が発生し、異常処理はスレーブ設定に従います		

LED	**EtherCAT NET RUN**	**EtherCAT NET ERR**	**EtherCAT LINK/ACT**
	－	点滅（1s 間隔）	点滅
システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	－	－

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	以下の 1)～10)のいずれかが発生	付属情報を確認し、異常箇所の特定、および処置対策を行ってください。リングトポロジ内の 2 箇所で本異常が発生している場合は、リング終点ポート以外の箇所に対し、処置対策を行ってください。ノードアドレスの設定を行っていないなどの要因により付属情報で異常箇所の特定ができない場合は、スレーブやケーブルに異常がないかをひとつひとつ確認してください	
	1)EtherCAT スレーブでないデバイスが接続されている	EtherCAT スレーブでないデバイスを取り外してください	EtherCAT スレーブ以外のデバイスを、EtherCAT のネットワークに接続していないこと確認してください
	2)EtherCAT スレーブ間、または EtherCAT マスタと EtherCAT スレーブ間が、OUT ポート同士で接続されている	付属情報 3 で示すスレーブ／マスタの該当ポートに接続している Ethernet ケーブルの配線を修正してください	Ethernet ケーブルの配線に間違いがないことを確認してください
	3)EtherCAT マスタと EtherCAT スレーブ間の Ethernet ケーブルのコネクタがはずれかかっている	Ethernet ケーブルのコネクタを接続してください	• Ethernet ケーブルのコネクタが、カチッと音がして固定されるまで確実に接続してください • Ethernet ケーブルのコネクタが、確実に嵌合していることを確認してください
	4)EtherCAT マスタと EtherCAT スレーブ間の Ethernet ケーブルのコネクタの接触不良、または部品不良	Ethernet ケーブルを交換してください	なし

	5)ケーブル総延長の設定値で算出した伝送遅延時間が、実際の伝送遅延時間より短い	［ケーブル総延長］を大きい値に変更し、コントローラに再設定してください。 または、［伝送遅延時間］を実測した値で変更し、コントローラに再設定してください。［伝送遅延時間］を実測した値で設定する方法は、『NJ/NX シリーズ CPU ユニット 内蔵 EtherCAT ポート ユーザーズマニュアル(SBCD-376)』の「実測による伝送遅延時間の設定」を参照してください	処置対策と同じ
	6)ネットワーク構成に他社製 EtherCAT スレーブが含まれる、または推奨以外の Ethernet ケーブルを意図的に使用		
	7)ネットワーク構成が、伝送遅延時間を設定したときのネットワーク構成から変更されたことにより、伝送遅延時間が増加		
	8)EtherCAT スレーブのハードウェア故障	該当スレーブの電源を再投入し、再発する場合は、スレーブを交換してください	なし
	9)EtherCAT マスタのハードウェア故障	CPU ユニットの電源を再投入し、再発する場合は、CPU ユニットを交換してください	なし
	10)「不正な配線検知」(843C0000Hex)が発生している *4	「不正な配線検知」(843C0000Hex)の処置対策を行ってください	「不正な配線検知」(843C0000Hex)の再発防止を行ってください
付属情報	付属情報 1：異常発生箇所診断結果 • 0: 異常発生箇所特定不可 （注）1 • 1: 異常発生箇所特定 （注）1 • 2: 異常発生箇所特定中 （注）1 （注）2 （注）1. Sysmac Studio の EtherCAT 関連機能、および EtherCAT 通信命令は実行できません （注）2. 付属情報 1 が 0 または 1 である本イベントが登録されるまでは、CPU ユニットのメモリオールクリアおよびプロジェクトのダウンロードは実行できません 付属情報 2：異常発生箇所（付属情報 1 の値が 1 の場合だけ）（注）3 • 0: マスタ • 0 以外: スレーブのノードアドレス 付属情報 3：異常発生箇所詳細（付属情報 1 の値が 1 の場合だけ）（注）3 • 付属情報 2 がマスタの場合、ポート名は 0 と出力されます • 付属情報 2 がスレーブのノードアドレスの場合、サポートツールで表示されるポート名が出力されます。ただし、ネットワーク構成情報と該当スレーブの実機が照合一致しない場合は、ポート名のデフォルト値として PortA, PortB, PortC, PortD のいずれかの名称が出力されます。 • 付属情報 1 の値が 1 以外の場合、ポート名は 0 と出力されます （注）3. 実ネットワーク上にリングトポロジがある場合は、異常発生箇所を正しく表示できない場合があります。付属情報 2 および 3 に表示された異常発生箇所に問題がない場合は、リング終点ポートのケーブルを一旦取り外したのち、コントローラの電源再投入またはコントローラリセットを実行し、発生したイベントに対する処置対策を実施してください。 付属情報 4：システム情報		
注意点／備考	• 設定ユニットバージョン Ver.1.42 未満の場合、実ネットワーク構成上にリングトポロジが存在するときは、異常発生箇所を特定できません。リング終点ポートのケーブルを取り外したのち、コントローラの電源再投入またはコントローラリセットを実行し、本異常を再度発生させて異常箇所を特定してください。 設定ユニットバージョン Ver.1.42 以降の場合、リングトポロジ内の 2 箇所で本異常が発生しているときは、リング終点ポート以外の箇所に対し、処置対策を行ってください。 • 付属情報 1 が 2 となるのは、設定ユニットバージョン Ver.1.40 以降だけです。		

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.11 以降で発生するイベントです。
*2. 設定ユニットバージョン Ver.1.40 以降の場合に検出します。
*3. 設定ユニットバージョン Ver.1.40 以降では、電源再投入が必要な場合があります。
*4. Sysmac Studio のトラブルシュート機能または表示器のトラブルシュータ機能を使用して確認してください。

<table>
<tr><td>イベント名</td><td colspan="2">スレーブノードアドレス重複</td><td>イベントコード</td><td colspan="2">24200000Hex</td></tr>
<tr><td>内容</td><td colspan="5">重複したスレーブノードアドレスを検知しました</td></tr>
<tr><td>発生源</td><td colspan="2">EtherCAT マスタ機能モジュール</td><td>発生源詳細</td><td>スレーブ</td><td>検出タイミング</td><td>電源投入時／コントローラリセット時／通信中</td></tr>
<tr><td>異常の属性</td><td>重要度</td><td>軽度フォールト</td><td>復旧方法</td><td>異常解除</td><td>ログカテゴリ</td><td>システム</td></tr>
<tr><td>発生の影響</td><td>ユーザプログラム</td><td>継続</td><td>動作</td><td colspan="3">〈マスタ〉
【マスタ起動時検出した場合】
通信停止。初期化状態のまま待機します

【縮退運転設定を「縮退する」に設定し、かつ、運転中に検出した場合】
正常に動作していたスレーブの動作は継続運転します。
追加されたアドレス重複異常に該当するスレーブ以降のスレーブを初期化状態に抑止

【縮退運転設定を「停止する」に設定し、かつ、運転中に検出した場合】
設定ユニットバージョン Ver1.40 未満の場合：
正常に動作していたスレーブの動作をプレオペレーショナル状態に遷移させます。追加されたアドレス重複異常に該当するスレーブ以降のスレーブを、初期化状態に抑止

設定ユニットバージョン Ver1.40 以降の場合：
正常に動作していたスレーブの動作をセーフオペレーショナル状態に遷移させます。追加されたアドレス重複異常に該当するスレーブ以降のスレーブを、初期化状態に抑止

〈スレーブ〉
エラーなし。
追加された重複異常スレーブとその後続のスレーブはメッセージ通信、およびプロセスデータ通信不可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">LED</td><td colspan="2">EtherCAT NET RUN</td><td colspan="2">EtherCAT NET ERR</td><td colspan="2">EtherCAT LINK/ACT</td></tr>
<tr><td colspan="2">－</td><td colspan="2">点滅（1s 間隔）</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td rowspan="2">システム定義変数</td><td colspan="2">変数名</td><td colspan="2">データ型</td><td colspan="2">名称</td></tr>
<tr><td colspan="2">_EC_SlavAdrDupErr</td><td colspan="2">BOOL</td><td colspan="2">スレーブノードアドレス重複異常</td></tr>
<tr><td rowspan="2">発生要因とその処置</td><td colspan="2">発生要因（推定原因）</td><td colspan="2">処置対策</td><td colspan="2">再発防止</td></tr>
<tr><td colspan="2">複数のスレーブに同じノードアドレスが設定されている</td><td colspan="2">スレーブのノードアドレススイッチ／ノードアドレス設定値を確認し、重複しないように変更してください</td><td colspan="2">スレーブのノードアドレスが重複しないように設定してください</td></tr>
<tr><td>付属情報</td><td colspan="6">なし</td></tr>
<tr><td>注意点／備考</td><td colspan="6">スレーブノードアドレスが設定された状態でないと、スレーブは使用できません</td></tr>
</table>

イベント名	ネットワーク構成情報異常			イベントコード	34400000Hex	
内容	ネットワーク構成情報の異常を検知しました					
発生源	EtherCAT マスタ機能モジュール		発生源詳細	マスタ	検出タイミング	電源投入時／コントローラリセット時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	自動復旧	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	〈マスタ〉 初期化状態のまま待機 〈スレーブ〉 メッセージ通信、およびプロセスデータ通信不可		
LED	EtherCAT NET RUN		EtherCAT NET ERR		EtherCAT LINK/ACT	
	－		点滅（1s 間隔）		－	
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_EC_NetCfgErr		BOOL		ネットワーク構成情報異常	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	ネットワーク構成情報のダウンロード中またはリストア中に、コントローラを電断または Sysmac Studio との通信を切断した		メモリオールクリアを実行後、再度マスタへネットワーク構成情報をダウンロードまたはリストアしてください		ネットワーク構成情報のダウンロード中またはリストア中は、コントローラを電断および Sysmac Studio との通信を切断しないでください	
付属情報	付属情報 1：異常の詳細　0001Hex: パラメータ不正、0014Hex: ファイルオープンエラー					
注意点／備考	なし					

イベント名	EtherCAT 通信周期設定異常			イベントコード	34410000Hex *1	
内容	通信周期の設定値でプロセスデータ通信ができません					
発生源	EtherCAT マスタ機能モジュール		発生源詳細	マスタ	検出タイミング	通信開始時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	自動復旧	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	〈マスタ〉 初期化状態のまま待機 〈スレーブ〉 メッセージ通信、およびプロセスデータ通信不可		
LED	EtherCAT NET RUN		EtherCAT NET ERR		EtherCAT LINK/ACT	
	－		点滅（1s 間隔）		－	
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_EC_CycleExceeded		BOOL		EtherCAT 通信周期設定異常	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	実際に接続されている構成の伝搬遅延時間が、ユーザ設定のケーブル長により算出された伝搬遅延時間より、大きかった		ケーブル長の設定値を実構成と合うように設定してください		ケーブル長の設定値を実構成と合うように設定してください	
	設定されたタスク周期（通信周期）が、小さかった		シミュレータを活用し、通信可能なタスク周期（通信周期）を設定してください		シミュレータを活用し、通信可能なタスク周期（通信周期）を設定してください	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.10 以降かつ設定ユニットバージョン Ver.1.40 未満で発生するイベントです。

<table>
<tr><td>イベント名</td><td colspan="2">ネットワーク構成異常</td><td>イベントコード</td><td colspan="2">84210000Hex *1</td></tr>
<tr><td>内容</td><td colspan="5">EtherCAT のネットワーク構成が不正です</td></tr>
<tr><td>発生源</td><td colspan="2">EtherCAT マスタ機能モジュール</td><td>発生源詳細</td><td>検出タイミング</td><td>電源投入時／コントローラリセット時／通信中</td></tr>
<tr><td>異常の属性</td><td>重要度</td><td>軽度フォールト</td><td>復旧方法</td><td>異常解除</td><td>ログカテゴリ</td><td>システム</td></tr>
<tr><td>発生の影響</td><td>ユーザプログラム</td><td>継続</td><td>動作</td><td colspan="2">「注意点／備考欄」を参照</td></tr>
<tr><td>LED</td><td colspan="2">EtherCAT NET RUN</td><td colspan="2">EtherCAT NET ERR</td><td>EtherCAT LINK/ACT</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">－</td><td colspan="2">点滅（1s 間隔）</td><td>－</td></tr>
<tr><td>システム定義変数</td><td colspan="2">変数名</td><td colspan="2">データ型</td><td>名称</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">_EC_NetTopologyErr</td><td colspan="2">BOOL</td><td>ネットワーク構成異常</td></tr>
<tr><td>発生要因とその処置</td><td colspan="2">発生要因（推定原因）</td><td colspan="2">処置対策</td><td>再発防止</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">スレーブの OUT ポート同士が接続されている</td><td colspan="2" rowspan="2">Ethernet ケーブルの配線を修正してください</td><td rowspan="2">Ethernet ケーブルの配線に間違いがないことを確認してください</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">マスタとスレーブがスレーブの OUT ポートで接続されている</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">EtherCAT マスタに接続できる最大スレーブ数を超えるスレーブが接続されている</td><td colspan="2">不要なスレーブを取外して接続可能な台数以下にしてください</td><td>EtherCAT ネットワーク上に最大スレーブ数を超えるスレーブを接続していないことを確認してください</td></tr>
<tr><td>付属情報</td><td colspan="5">異常の詳細　0000Hex:スレーブ台数オーバー、0001Hex:OUT ポート同士の接続</td></tr>
<tr><td>注意点／備考</td><td colspan="5">動作
〈マスタ〉
• 縮退運転設定を「縮退する」に設定し、かつ電源投入時またはコントローラリセット時に検出し、付属情報の異常の詳細が 0000Hex である場合：
先頭から最大スレーブ数までのスレーブはオペレーショナル状態に遷移し、継続動作。最大スレーブ数を超える台数以降は初期化状態に抑止し通信停止
• 縮退運転設定を「停止する」に設定し、かつ電源投入時またはコントローラリセット時に検出し、付属情報の異常の詳細が 0000Hex である場合：
先頭から最大スレーブ数までのスレーブはプレオペレーショナル状態に遷移し、メッセージ通信のみ可能。最大スレーブ数を超える台数以降は初期化状態に抑止し通信停止
• 電源投入時またはコントローラリセット時に検出し、付属情報の異常の詳細が 0001Hex である場合：
すべてのスレーブを初期化状態で抑止し、通信停止
• 縮退運転設定を「縮退する」に設定し、かつ通信中に検出し、付属情報の異常の詳細が 0000Hex である場合：
先頭から最大スレーブ数までのスレーブはオペレーショナル状態に遷移し、継続動作。最大スレーブ数を超える台数以降は初期化状態に抑止し通信停止
• 縮退運転設定を「停止する」に設定し、かつ通信中に検出し、付属情報の異常の詳細が 0000Hex である場合：
先頭から最大スレーブ数までのスレーブはプレオペレーショナル状態に遷移し通信停止。最大スレーブ数を超える台数以降は初期化状態に抑止し通信停止
• 縮退運転設定を「縮退する」に設定し、かつ、通信中に検出し、付属情報の異常の詳細が 0001Hex である場合：
正常に動作していたスレーブの動作は継続して運転。ただし DC によるスレーブ間同期を実行している場合、スレーブで同期異常を検出する可能性あり
〈スレーブ〉
• エラーなし
• 縮退運転設定を「縮退する」に設定し、かつ電源投入時またはコントローラリセット時に検出し、付属情報の異常の詳細が 0000Hex である場合：
先頭から最大スレーブ数までのスレーブはオペレーショナル状態で、メッセージ通信、およびプロセスデータ通信可能。最大スレーブ数を超える台数以降は初期化状態で、メッセージ通信、およびプロセス通信不可
• 縮退運転設定を「停止する」に設定し、かつ電源投入時またはコントローラリセット時に検出し、付属情報の異常の詳細が 0000Hex である場合：
先頭から最大スレーブ数までのスレーブはプレオペレーショナル状態で、メッセージ通信可能、プロセスデータ通信不可。最大スレーブ数を超える台数以降は初期化状態で、メッセージ通信、およびプロセス通信不可
• 電源投入時またはコントローラリセット時に検出し、付属情報の異常の詳細が 0001Hex である場合：
すべてのスレーブは初期化状態で、メッセージ通信、およびプロセスデータ通信不可</td></tr>
</table>

	• 縮退運転設定を「縮退する」に設定し、かつ通信中に検出し、付属情報の異常の詳細が 0000Hex である場合： 異常が発生したスレーブより前のスレーブはオペレーショナル状態で、メッセージ通信、およびプロセスデータ通信可能。異常が発生したスレーブ以降は初期化状態で、メッセージ通信、およびプロセスデータ通信不可 • 縮退運転設定を「停止する」に設定し、かつ通信中に検出し、付属情報の異常の詳細が 0000Hex である場合： プレオペレーショナル状態のスレーブはメッセージ通信可能、プロセスデータ通信不可。初期化状態のスレーブはメッセージ通信、およびプロセスデータ通信不可 • 縮退運転を「縮退する」に設定し、かつ通信中に検出し、付属情報の異常の詳細が 0001Hex である場合： 正常に動作していたスレーブはプロセスデータ通信可能。ただし DC によるスレーブ間同期を実行し、スレーブで同期異常を検出した場合は入力リフレッシュのみ有効。メッセージ通信可能
	分岐スレーブなど、1 機器で複数ノードと扱うスレーブが存在するため、スレーブの数ではなくスレーブノードアドレスの数が制約となります。 また、最大スレーブ数のスレーブが接続されている状態でリング接続をした場合、「0000Hex:スレーブ台数オーバー」として異常検知します

*1. 設定ユニットバージョン Ver.1.40 未満の場合に発生するイベントです。

イベント名	ネットワーク構成照合異常			**イベントコード**	84220000Hex *1	
内容	ネットワーク構成情報に存在するスレーブが接続されていません。または、ネットワーク構成情報に存在しないスレーブが接続されています					
発生源	EtherCAT マスタ機能モジュール		**発生源詳細**	マスタ／スレーブ	**検出タイミング**	電源投入時／コントローラリセット時／通信中
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	異常解除	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	【縮退運転設定を「縮退する」に設定している場合】 〈マスタ〉 ネットワーク構成情報と照合一致するスレーブをオペレーショナル状態に遷移させます。ネットワーク構成情報と照合一致しないスレーブ以降のスレーブは初期化状態に抑止 〈スレーブ〉 スレーブ通信状態による 【縮退運転設定を「停止する」に設定している場合】 〈マスタ〉 ネットワーク構成情報と照合一致するスレーブをプレオペレーショナル状態に遷移させます。ネットワーク構成情報と照合一致しないスレーブ以降のスレーブは初期化状態に抑止 〈スレーブ〉 スレーブ通信状態による		

LED	**EtherCAT NET RUN**	**EtherCAT NET ERR**	**EtherCAT LINK/ACT**
	―	点滅（1s 間隔）	―

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	_EC_NetCfgCmpErr	BOOL	ネットワーク構成照合異常
	【照合不一致の場合】 _EC_CommErrTbl	ARRAY [1..n] OF BOOL *2	通信異常スレーブテーブル

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	ネットワーク構成情報で指定されているスレーブが接続されていない	ネットワーク構成情報で指定されているスレーブを接続してください。または、Sysmac Studio を接続して、該当スレーブを削除したネットワーク構成情報をマスタに設定・保存してください	実際に接続される構成のネットワーク構成情報をマスタに設定･保存してください
	ノードアドレス不一致	スレーブノードアドレス設定をネットワーク構成情報と一致させてください	
	ネットワーク構成情報で指定されているスレーブとは別のスレーブが接続されている	ネットワーク構成情報で指定されているスレーブを接続してください。または、Sysmac Studio を接続して、該当スレーブを正しいスレーブに変更したネットワーク構成情報をマスタに設定･保存してください	
	ネットワーク構成情報で指定されていないスレーブが接続されている	ネットワーク構成情報で指定されていないスレーブをネットワークから取り外してください。または、Sysmac Studio を接続して、該当スレーブを追加したネットワーク構成情報をマスタに設定･保存してください	

	Sysmac Studio の［スレーブノードアドレス書込み］を実行した後に、スレーブのノードアドレス設定用のハードウェアスイッチを「0」以外に変更した	ハードウェアスイッチで設定した値を使用する場合は、異常解除を実行してください。異常解除すると、ハードウェアスイッチと Sysmac Studio で書き込んだ値がスレーブ側で不一致となり「スレーブアプリケーション異常（84280000Hex）」が発生するため、再度、異常解除を実行してください。 スレーブ離脱中またはスレーブ無効中に本異常が発生した場合で、スレーブ再加入またはスレーブ有効とするときは、異常解除を実行した後に、スレーブ再加入またはスレーブ有効とする操作を実行してください。操作を実行すると、「スレーブアプリケーション異常（84280000Hex）」が発生するため、再度、異常解除を実行し、スレーブ再加入またはスレーブ有効とする操作を実行してください。 Sysmac Studio の［スレーブノードアドレス書込み］で設定した値を使用する場合は、ハードウェアスイッチを「0」に設定しスレーブ側の電源を再投入してください	ハードウェアスイッチで設定した値を使用する場合は、異常解除を実行してください。異常解除すると、ハードウェアスイッチと Sysmac Studio で書き込んだ値がスレーブ側で不一致となり「スレーブアプリケーション異常（84280000Hex）」が発生するため、再度、異常解除を実行してください。 スレーブ離脱中またはスレーブ無効中に本異常が発生した場合で、スレーブ再加入またはスレーブ有効とするときは、異常解除を実行した後に、スレーブ再加入またはスレーブ有効とする操作を実行してください。操作を実行すると、「スレーブアプリケーション異常（84280000Hex）」が発生するため、再度、異常解除を実行し、スレーブ再加入またはスレーブ有効とする操作を実行してください。 Sysmac Studio の［スレーブノードアドレス書込み］で設定した値を使用する場合は、ハードウェアスイッチを「0」に設定しスレーブ側の電源を再投入してください
	スレーブ―スレーブ間の Ethernet ケーブルの断線	上記の要因でない場合は、Ethernet ケーブルの断線箇所を確認しケーブルを交換してください	なし
付属情報	なし		
注意点／備考	ネットワーク構成の照合オプションで照合チェックの項目を追加している場合は、それらの項目についても一致しているかを確認してください		

*1. 設定ユニットバージョン Ver.1.40 未満の場合に発生するイベントです。
*2. n は NX シリーズ CPU ユニットでは 512、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニットおよび NJ シリーズ CPU ユニットでは 192 です。

イベント名	スレーブ初期化異常			**イベントコード**	84230000Hex *1	
内容	スレーブの初期化に失敗しました					
発生源	EtherCAT マスタ機能モジュール		**発生源詳細**	マスタ／スレーブ	**検出タイミング**	電源投入時／コントローラリセット時／異常解除時／全停止フォールトレベルのコントローラ異常発生時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	異常解除	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	【縮退運転設定を「縮退する」に設定している場合】 〈マスタ〉 • 初期化→プレオペレーショナル状態遷移に失敗したとき： 異常発生スレーブは初期化状態で通信停止。トポロジで異常発生したスレーブまでのスレーブはオペレーショナル状態に遷移し、継続動作 • プレオペレーショナル以降の状態遷移に失敗したとき： 該当の異常スレーブのみ状態遷移を停止。その他の正常スレーブはオペレーショナル状態まで遷移させて、継続運転 〈スレーブ〉 スレーブ通信状態によります 【縮退運転設定を「停止する」に設定している場合】 〈マスタ〉 • 初期化→プレオペレーショナル状態遷移に失敗したとき： すべてのスレーブを初期化状態に遷移させて、通信停止 • プレオペレーショナル以降の状態遷移に失敗したとき： すべてのスレーブをプレオペレーショナル状態に遷移させて、通信停止 〈スレーブ〉 スレーブ通信状態によります		

LED	**EtherCAT NET RUN**	**EtherCAT NET ERR**	**EtherCAT LINK/ACT**
	－	点滅（1s 間隔）	－

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	_EC_SlavInitErr	BOOL	スレーブ初期化異常
	_EC_CommErrTbl	ARRAY [1..n] OF BOOL *2	通信異常スレーブテーブル

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	EtherCAT マスタの処理に異常が発生した	Sysmac Studio を接続して、マスタへネットワーク構成情報を再設定･再保存してください。本異常が再発する場合は、スレーブの同期設定、PDO マッピング情報に間違いがないかを確認し、間違いがある場合は修正してください	スレーブの同期設定、PDO マッピング情報を正しく設定し、マスタへネットワーク構成情報を設定･保存してください
	EtherCAT スレーブで初期化異常が発生した	Sysmac Studio の EtherCAT ネットワーク構成で[モジュール構成情報送信方法]を設定できるスレーブと表示されていても、設定できない場合があります。この場合は、[モジュール構成情報送信方法]を[送信しない]にして、再度同期してください。 または、該当の EtherCAT スレーブを電源再投入してください。本異常が再発する場合は EtherCAT スレーブを交換してください	なし

	EtherCAT カプラユニットで初期化異常が発生した	Sysmac Studio を EtherCAT カプラユニットの USB ポートに接続して異常の詳細情報を確認し、各異常に応じた処置対処を行ってください	なし
	全停止フォールトレベルのコントローラ異常が発生した	全停止フォールトレベルのコントローラ異常が発生すると、プロセスデータ通信が停止します。この際に「スレーブアプリケーション異常(84280000Hex)」が発生すると、本イベントも発生します。 全停止フォールトレベルのコントローラ異常に対して、処置対策を行ってください	全停止フォールトレベルのコントローラ異常に対して、再発防止を行ってください
	ケーブル総延長の設定値で算出した伝送遅延時間が、実際の伝送遅延時間より短い	[ケーブル総延長] を大きい値に変更し、コントローラに再設定してください。ケーブル長の合計が 1000m 以下の場合は、[ケーブル総延長] に初期値(1000m)を設定してください。	処置対策と同じ
	Ethernet ケーブルの断線、または指定外のケーブルを使用	システムを最初に稼働させたときから、または、ある時から常に本異常が発生するようになった場合は左記の要因が考えられます。 Sysmac Studio の診断・統計情報を使用して EtherCAT の通信状態を確認してください。 マスタとスレーブ間の Ethernet ケーブルが断線している場合、または指定外のケーブルを使用している場合は、ケーブルを交換してください。また、コネクタが正しく嵌合しているかを確認、コネクタを再接続してください。汎用 Ethernet ハブが接続されている場合は EtherCAT 専用分岐スレーブに交換してください。CPU ユニットや EtherCAT スレーブが故障している場合は交換してください	断線がないこと、および指定のケーブルを使用していることを確認してください
	Ethernet ケーブルのコネクタのはずれ、接触不良、または部品不良		Ethernet ケーブルのコネクタが確実に嵌合していることを確認してください
	汎用 Ethernet ハブが接続されている		EtherCAT ネットワークを分岐する場合は、EtherCAT 専用分岐スレーブを使用してください
	マスタの故障		なし
	スレーブの故障		なし
	ノイズ	本異常が不定期に発生する場合はノイズ対策を行ってください	ノイズ対策を行ってください
付属情報	付属情報 1：システム情報 1 付属情報 2：システム情報 2 付属情報 3：システム情報 3 付属情報 4：システム情報 4		
注意点／備考	なし		

*1. 設定ユニットバージョン Ver.1.40 未満の場合に発生するイベントです。
*2. n は NX シリーズ CPU ユニットでは 512、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニットおよび NJ シリーズ CPU ユニットでは 192 です。

イベント名	スレーブアプリケーション異常			イベントコード	84280000Hex *1	
内容	スレーブアプリケーション異常が発生しました					
発生源	EtherCAT マスタ機能モジュール		発生源詳細	スレーブ	検出タイミング	通信中
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	【縮退運転設定を「縮退する」に設定している場合】 〈マスタ〉 スレーブの通信状態は操作せず、運転を継続。AL ステータス異常が発生したスレーブも状態は操作しない 〈スレーブ〉 エラー発生。異常発生スレーブの状態遷移挙動にしたがいます 【縮退運転設定を「停止する」に設定している場合】 〈マスタ〉 AL ステータス異常発生時にすべてのスレーブをプレオペレーショナル状態に遷移させます 〈スレーブ〉 エラー発生。すべてのスレーブはプレオペレーショナル状態に遷移		

LED	EtherCAT NET RUN	EtherCAT NET ERR	EtherCAT LINK/ACT
	−	点滅（1s 間隔）	−

システム定義変数	変数名	データ型	名称
	_EC_SlavAppErr	BOOL	スレーブアプリケーション異常
	_EC_CommErrTbl	ARRAY [1..n] OF BOOL *2	通信異常スレーブテーブル

発生要因とその処置	発生要因（推定原因）	処置対策	再発防止
	スレーブの AL ステータスレジスタでエラーを検知した	アプリケーション異常が発生した EtherCAT スレーブの異常をスレーブのマニュアルなどに記載の回復手順にしたがい解除してください	なし

付属情報	付属情報 1：異常を検知したスレーブの AL ステータスコード
注意点／備考	なし

*1. 設定ユニットバージョン Ver.1.40 未満の場合に発生するイベントです。
*2. n は NX シリーズ CPU ユニットでは 512、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニットおよび NJ シリーズ CPU ユニットでは 192 です。

イベント名	プロセスデータ送信異常			**イベントコード**	84290000Hex	
内容	プロセスデータの送信に失敗しました					
発生源	EtherCAT マスタ機能モジュール		**発生源詳細**	マスタ	**検出タイミング**	通信中
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	異常解除	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	【縮退運転設定を「縮退する」に設定している場合】 〈マスタ〉 運転を継続 〈スレーブ〉 同期スレーブに異常が発生する可能性があります。異常処理はスレーブ設定に従います 【縮退運転設定を「停止する」に設定している場合】 設定ユニットバージョン Ver.1.40 未満の場合： 〈マスタ〉 すべてのスレーブをプレオペレーショナル状態に遷移させます 〈スレーブ〉 同期スレーブに異常が発生する可能性があります。異常処理はスレーブ設定に従います 設定ユニットバージョン Ver.1.40 以降の場合： 〈マスタ〉 すべてのスレーブをセーフオペレーショナル状態に遷移させます 〈スレーブ〉 同期スレーブに異常が発生する可能性があります。異常処理はスレーブ設定に従います		

LED	**EtherCAT NET RUN**	**EtherCAT NET ERR**	**EtherCAT LINK/ACT**
	－	点滅（1s 間隔）	－
システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	_EC_PDSendErr	BOOL	プロセスデータ送信異常
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	EtherCAT 通信周期内に EtherCAT フレームが送信できなかった（付属情報 1 が 0000Hex の場合）	Sysmac Studio を接続しプライマリ定周期タスクまたは定周期タスク（実行優先度 5）のタスク周期設定を大きな値に変更し、EtherCAT マスタにネットワーク構成情報を設定・保存してください	十分な処理時間が確保できる、プライマリ定周期タスクまたは定周期タスク（実行優先度 5）のタスク周期を設定してください。 必要な EtherCAT 通信周期はシミュレータで確認してください
	フレーム送信ジッタオーバーが発生した（付属情報 1 が 0001Hex の場合）		

付属情報	付属情報 1：異常の詳細 • 0000Hex: フレーム生成処理が送信タイミングに間に合わなかった • 0001Hex: フレーム送信ジッタオーバーが発生した 付属情報 2：システム情報
注意点／備考	なし

イベント名	プロセスデータ受信タイムアウト			**イベントコード**	842B0000Hex	
内容	プロセスデータの受信がタイムアウトしました					
発生源	EtherCAT マスタ機能モジュール		**発生源詳細**	マスタ	**検出タイミング**	通信中
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	異常解除	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	【縮退運転設定を「縮退する」に設定している場合】 〈マスタ〉 運転を継続 〈スレーブ〉 異常が発生する可能性があります。異常処理はスレーブ設定に従います 【縮退運転設定を「停止する」に設定している場合】 設定ユニットバージョン Ver.1.40 未満の場合： 〈マスタ〉 すべてのスレーブをプレオペレーショナル状態に遷移させます 〈スレーブ〉 プロセスデータ通信を停止し、出力処理はスレーブ設定に従います 設定ユニットバージョン Ver.1.40 以降の場合： 〈マスタ〉 すべてのスレーブをセーフオペレーショナル状態に遷移させます 〈スレーブ〉 出力のプロセスデータ通信を停止し、出力処理はスレーブ設定に従います		

LED	**EtherCAT NET RUN**	**EtherCAT NET ERR**	**EtherCAT LINK/ACT**
	–	点滅（1s 間隔）	–

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	_EC_PDTimeoutErr	BOOL	プロセスデータ受信タイムアウト異常

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	以下の 1)～11)のいずれかが発生。 診断・統計情報にて、以下の項目を確認してください。 • マスタ診断・統計情報の CRC エラーフレーム受信数 • マスタ診断・統計情報のフレーム受信タイムアウト回数 • スレーブ診断・統計情報のエラーフレーム受信数 以下の場合は、1)の要因が考えられます。 • マスタ診断・統計情報の CRC エラーフレーム受信数がカウントされている 以下の場合は、2)～6)の要因が考えられます。 • マスタ診断・統計情報の CRC エラーフレーム受信数がカウントされていない • マスタ診断・統計情報のフレーム受信タイムアウト回数がカウントされている • スレーブ診断・統計情報のエラーフレーム受信数の取得に失敗する		

	1)ノイズ	ノイズ源に対し、適切なノイズ対策を行ってください。対策後、マスタ診断・統計情報の CRC エラーフレーム数がカウントされていないことを確認してください。 ノイズに対する対処方法については、各ユニットのユーザーズマニュアルなどを参照してください	マスタ診断・統計情報で CRC エラーフレーム数がカウントされ続ける場合は、スレーブ診断・統計情報を確認しながら、ノイズ源を取り除くかノイズ対策を行ってください。 ノイズによる影響が除去しきれなくても、イベント通知をしない場合は、［プロセスデータ受信タイムアウト回数］を増やしてください
	2)汎用 Ethernet ハブが接続されている	EtherCAT 専用分岐スレーブに交換してください	EtherCAT ネットワークを分岐する場合は、EtherCAT 専用分岐スレーブを使用してください
	3)推奨外の Ethernet ケーブルを使用	推奨の Ethernet ケーブルに交換してください	推奨の Ethernet ケーブルを使用してください
	4)Ethernet ケーブルのコネクタのはずれ	Ethernet ケーブルのコネクタを接続してください	• Ethernet ケーブルのコネクタが、カチッと音がして固定されるまで確実に接続してください • Ethernet ケーブルのコネクタが、確実に嵌合していることを確認してください
	5)Ethernet ケーブルの断線	Ethernet ケーブルを交換してください	Ethernet ケーブルを配線する前に、ケーブルテスタなどを使用し、断線がないことを確認してください。配線に対する注意事項については、『NJ/NX シリーズ CPU ユニット内蔵 EtherCAT ポート ユーザーズマニュアル(SBCD-376)』の「EtherCAT ネットワークの配線」を参照してください
	6)Ethernet ケーブルのコネクタの接触不良、または部品不良	Ethernet ケーブルを交換してください	なし
	7)ケーブル総延長の設定値で算出した伝送遅延時間が、実際の伝送遅延時間より短い	［ケーブル総延長］を大きい値に変更し、コントローラに再設定してください。 または、［伝送遅延時間］を実測した値で変更し、コントローラに再設定してください。［伝送遅延時間］を実測した値で設定する方法は、『NJ/NX シリーズ CPU ユニット内蔵 EtherCAT ポート ユーザーズマニュアル(SBCD-376)』の「実測による伝送遅延時間の設定」を参照してください	処置対策と同じ
	8)ネットワーク構成に他社製 EtherCAT スレーブが含まれる、または推奨以外の Ethernet ケーブルを意図的に使用		
	9)ネットワーク構成が、伝送遅延時間を設定したときのネットワーク構成から変更されたことにより、伝送遅延時間が増加		
	10)CPU ユニットのタスク周期が短い	Sysmac Studio を接続しプライマリ定周期タスクまたは定周期タスク（実行優先度 5）のタスク周期設定を大きな値に変更し、EtherCAT マスタにネットワーク構成情報を設定・保存してください	十分な処理時間が確保できる、プライマリ定周期タスクまたは定周期タスク（実行優先度 5）のタスク周期を設定してください。 必要な EtherCAT 通信周期はシミュレータで確認してください
	11)リングトポロジに対応していないスレーブを含むリングトポロジ上で、リング断線が発生した	リングトポロジ上には、リングトポロジに対応したスレーブを配置してください	処置対策と同じ
付属情報	付属情報 1：異常の詳細 • 0001Hex:プライマリ定周期タスクで発生 • 0002Hex:定周期タスク（実行優先度 5）で発生		
注意点／備考	本異常は、「PDO 通信連続タイムアウト検出回数」で設定した回数分、連続してプロセスデータ通信用のフレームのタイムアウトが発生した場合に登録されます		

イベント名	プロセスデータ通信異常			**イベントコード**	842C0000Hex *1	
内容	プロセスデータの通信で異常が発生しました					
発生源	EtherCAT マスタ機能モジュール		**発生源詳細**	スレーブ	**検出タイミング**	通信中
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	異常解除	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	【縮退運転設定を「縮退する」に設定している場合】 〈マスタ〉 運転を継続 〈スレーブ〉 エラー発生。オペレーショナル状態継続。スレーブで PDI ウォッチドッグ異常が発生した場合は、該当スレーブを初期化状態に遷移 【縮退運転設定を「停止する」に設定している場合】 〈マスタ〉 すべてのスレーブをプレオペレーショナル状態に遷移させます 〈スレーブ〉 エラー発生。停止運転時は、すべてのスレーブをプレオペレーショナル状態に遷移。スレーブで PDI ウォッチドッグ異常が発生した場合は、該当スレーブを初期化状態に遷移		

LED	**EtherCAT NET RUN**	**EtherCAT NET ERR**	**EtherCAT LINK/ACT**
	−	点滅（1s 間隔）	−

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	_EC_PDCommErr	BOOL	プロセスデータ通信異常
	_EC_CommErrTbl	ARRAY [1..n] OF BOOL *2	通信異常スレーブテーブル
	_EC_PDActive	BOOL	プロセスデータ通信ステータス

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	「離脱」操作または「無効」操作なしに、スレーブが不在となった • スレーブの電源 OFF • Ethernet ケーブルの取り外し	• 「離脱」操作または「無効」操作を行ってからスレーブの電源を OFF してください • 「離脱」操作または「無効」操作を行ってから Ethernet ケーブルを取り外してください	処置対策と同じ
	「離脱」操作または「無効」操作なしに、スレーブが不在となった • Ethernet ケーブルのコネクタのはずれ、接触不良、または部品不良 • Ethernet ケーブルの断線 • 指定外のケーブルを使用	システムを最初に稼働させたときから、または、ある時から常に本異常が発生するようになった場合は左記の要因が考えられます。 Sysmac Studio の診断・統計情報を使用して EtherCAT の通信状態を確認してください。 Ethernet ケーブルが断線している場合、または指定外のケーブルを使用している場合は、ケーブルを交換してください。また、コネクタが正しく嵌合しているかを確認、コネクタを再接続してください。	• Ethernet ケーブルのコネクタが確実に嵌合していることを確認してください • Ethernet ケーブルに断線がないことを確認してください • 指定のケーブルを使用していることを確認してください
	スレーブの故障	上記の処置を行っても本異常が再発する場合はスレーブを交換してください	なし

付属情報	付属情報 1：異常の詳細 • 0001Hex: スレーブ WDT 異常（スレーブの故障） • 0002Hex: スレーブ離脱（「離脱」操作または「無効」操作なしに、スレーブが不在となった）
注意点／備考	なし

*1. 設定ユニットバージョン Ver.1.40 未満の場合に発生するイベントです。
*2. n は NX シリーズ CPU ユニットでは 512、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニットおよび NJ シリーズ CPU ユニットでは 192 です。

イベント名	プロセスデータ入力値無効異常			**イベントコード**	842F0000Hex *1	
内容	EtherCAT マスタがオペレーショナル状態のときに、プロセスデータ通信を正常に行えず、入力データ無効である状態が一定期間継続しました					
発生源	EtherCAT マスタ機能モジュール		**発生源詳細**	マスタ	**検出タイミング**	通信中
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	異常解除	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	【縮退運転設定を「縮退する」に設定している場合】 〈マスタ〉 運転を継続 〈スレーブ〉 プロセスデータ通信を継続 【縮退運転設定を「停止する」に設定している場合】 設定ユニットバージョン Ver.1.40 未満の場合： 〈マスタ〉 すべてのスレーブをプレオペレーショナル状態に遷移させます 〈スレーブ〉 プロセスデータ通信を停止し、スレーブ側の出力処理はスレーブ設定に従います 設定ユニットバージョン Ver.1.40 以降の場合： 〈マスタ〉 すべてのスレーブをセーフオペレーショナル状態に遷移させます 〈スレーブ〉 出力のプロセスデータ通信を停止し、出力処理はスレーブ設定に従います		

LED	**EtherCAT NET RUN**	**EtherCAT NET ERR**	**EtherCAT LINK/ACT**
	－	点滅（1s 間隔）	－

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	_EC_IndataInvalidErr	BOOL	プロセスデータ入力値無効異常
	_EC_InDataInvalid	BOOL	入力データ無効
	_EC_InData1Invalid	BOOL	入力データ 1 無効
	_EC_InData2Invalid	BOOL	入力データ 2 無効

発生要因とその処置	発生要因（推定原因）	処置対策	再発防止
	以下の 1)～5)のいずれかが発生		
	1)Ethernet ケーブルのコネクタがはずれかかっている	Ethernet ケーブルのコネクタがカチッと音がして固定されるまで確実に接続してください	• Ethernet ケーブルのコネクタが、カチッと音がして固定されるまで確実に接続してください • Ethernet ケーブルのコネクタが、確実に嵌合していることを確認してください
	2)Ethernet ケーブルが断線しかかっている	Ethernet ケーブルを交換してください	Ethernet ケーブルを配線する前に、ケーブルテスタなどを使用し、断線がないことを確認してください。配線に対する注意事項については、『NJ/NX シリーズ CPU ユニット内蔵 EtherCAT ポート ユーザーズマニュアル(SBCD-376)』の「EtherCAT ネットワークの配線」を参照してください
	3)Ethernet ケーブルのコネクタの接触不良、または部品不良	Ethernet ケーブルを交換してください	なし
	4)EtherCAT スレーブのハードウェア故障	故障している EtherCAT スレーブの特定するため、ネットワークからスレーブをひとつひとつ切り離しながら、システム定義変数「_EC_InDataInvalid」（入力データ無効）、「_EC_InData1Invalid」（入力データ 1 無効）、「_EC_InData2Invalid」（入力データ 2 無効）が FALSE になるまで実施してください。TRUE から FALSE になったときに、切り離ししたスレーブは故障しているため、そのスレーブを交換してください	なし
	5)ノイズ	スレーブ診断・統計情報のエラーフレーム受信数を確認してください。カウントした箇所でノイズを受けていると考えられます。ノイズを受けていると考えられる箇所に対し、適切なノイズ対策を行ってください。対策後、スレーブ診断・統計情報のエラーフレーム受信数がカウントされていないことを確認してください	マスタ診断・統計情報でエラーフレーム受信数がカウントされ続けている場合は、スレーブの診断・統計情報を確認しながら、ノイズ源を取り除くかノイズ対策を行ってください
付属情報	付属情報 1：異常の詳細 • 0001Hex: プライマリ定周期タスクで発生 • 0002Hex: 定周期タスク（実行優先度 5）で発生		
注意点／備考	なし		

*1.　CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.13 以降で発生するイベントです。

イベント名	スレーブ状態遷移失敗			**イベントコード**	84300001Hex *1	
内容	スレーブの状態遷移に失敗しました					
発生源	EtherCAT マスタ機能モジュール		**発生源詳細**	スレーブ	**検出タイミング**	電源投入時／コントローラリセット時／異常解除時／通信中
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	異常解除	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	【縮退運転設定を「縮退する」に設定している場合】 〈マスタ〉 該当の異常スレーブだけ状態遷移を停止。正常スレーブはオペレーショナル状態まで遷移させて、運転を継続 〈スレーブ〉 スレーブ通信状態によります 【縮退運転設定を「停止する」に設定している場合】 〈マスタ〉 • 初期化→プレオペレーショナル状態遷移に失敗したとき： すべてのスレーブを初期化状態に遷移させます • プレオペレーショナル→セーフオペレーショナル状態遷移に失敗したとき： すべてのスレーブをプレオペレーショナル状態に遷移させます • セーフオペレーショナル→オペレーショナル状態遷移に失敗したとき： すべてのスレーブをセーフオペレーショナル状態に遷移させます 〈スレーブ〉 スレーブ通信状態によります		

LED	**EtherCAT NET RUN**	**EtherCAT NET ERR**	**EtherCAT LINK/ACT**
	－	点滅（1s 間隔）	－

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	_EC_SlavInitErr	BOOL	スレーブ初期化異常
	_EC_CommErrTbl	ARRAY [1..n] OF BOOL *2	通信異常スレーブテーブル

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	以下の 1）～4）が発生。付属情報 1、または付属情報 4 を確認して要因を特定してください		

	1)EtherCAT スレーブの状態遷移中にスレーブに異常が発生した（付属情報 1 が 0002Hex または 0003Hex の場合）	以下の異常の発生により、状態遷移が失敗した可能性があります。発生しているイベントの要因を取り除いてください。 • スレーブの不正な切り離し検知 • スレーブ PDI WDT 異常検知 • スレーブ AL ステータス異常検知 • リンクオフ異常 全停止フォールトレベルのコントローラ異常が発生している場合、プロセスデータ通信が停止するため、「スレーブ AL ステータス異常検知」とともに、本異常が発生する可能性があります。全停止フォールトレベルのコントローラ異常に対して、処置対策を行ってください。上記の発生中の異常がない場合は、SysmacStudio で Sysmac コントローラログを取得の上、当社営業または代理店にお問い合わせください。Sysmac コントローラログの取得方法は、『Sysmac Studio Version 1 オペレーションマニュアル(SBCA-470)』を参照してください	「スレーブの不正な切り離し検知」、または「スレーブ PDI WDT 異常検知」のイベントを参照し、再発防止を行ってください。 また、以下を実行中にスレーブの切り離しを行わないでください。 • 異常解除 • 離脱指示 • 再加入指示 • 無効指示 • 有効指示 • リスタート • 離脱、または無効スレーブが加入した後に、システム定義変数「_EC_MBXSlavTbl」（メッセージ通信可能スレーブテーブル)が TRUE になるまで 全停止フォールトレベルのコントローラ異常に対して、再発防止を行ってください
		スレーブの故障により、状態遷移が失敗した可能性があります。上記の処置を行っても本異常が再発する場合はスレーブを交換してください	なし
	2)以下のいずれかの要因により、状態遷移タイムアウトが発生（付属情報 1 が 0001Hex の場合）		
	2-1)推奨外の Ethernet ケーブルを使用	推奨の Ethernet ケーブルに交換してください	推奨の Ethernet ケーブルを使用してください
	2-2)Ethernet ケーブルのコネクタのはずれ	Ethernet ケーブルのコネクタを接続してください	• Ethernet ケーブルのコネクタが、カチッと音がして固定されるまで確実に接続してください • Ethernet ケーブルのコネクタが、確実に嵌合していることを確認してください
	2-3)Ethernet ケーブルの断線	Ethernet ケーブルを交換してください	Ethernet ケーブルを配線する前に、ケーブルテスタなどを使用し、断線がないことを確認してください。配線に対する注意事項については、『NJ/NX シリーズ CPU ユニット内蔵 EtherCAT ポート ユーザーズマニュアル(SBCD-376)』の「EtherCAT ネットワークの配線」を参照してください
	2-4)Ethernet ケーブルのコネクタの接触不良、または部品不良	Ethernet ケーブルを交換してください	なし
	2-5)汎用 Ethernet ハブが接続されている	指定の EtherCAT 専用分岐スレーブに交換してください	EtherCAT ネットワークを分岐する場合は、EtherCAT 専用分岐スレーブを使用してください

	2-6)ノイズ	ノイズ源に対し、適切なノイズ対策を行ってください。対策後、スレーブ診断・統計情報の CRC エラーフレーム数がカウントされていないことを確認してください。 ノイズに対する対処方法については、各ユニットのユーザーズマニュアルなどを参照してください	運転開始前に、スレーブ診断・統計情報を使用し、ノイズ源を特定してください。適切なノイズ対策を実施してください
	2-7)EtherCAT マスタ、または EtherCAT スレーブの故障	CPU ユニット、またはスレーブの故障により、状態遷移タイムアウトが発生した可能性があります。上記の処置を行っても本異常が再発する場合は、CPU ユニット、またはスレーブを交換してください	なし
	3)EtherCAT スレーブの状態遷移中に EtherCAT マスタが送信するメッセージ通信に対して、スレーブがエラーレスポンスを返信 (付属情報 1 が 0004Hex の場合)	付属情報 3 のアボートコードを確認してください。エラーレスポンスを返すスレーブのユーザーズマニュアルを参照し、アボートコードを確認して、処置対策を行ってください 以下は、よくあるアボートコードの処置対策の一例です。 • Sysmac Studio を接続して、マスタへネットワーク構成情報を再設定･再保存してください。本異常が再発する場合は、スレーブの同期設定、PDO マッピング情報に間違いがないかを確認し、間違いがある場合は修正してください 発生要因（推定原因）の 1）2）4）の処置対策を実施しても本異常が発生する場合は、Sysmac コントローラログを取得の上、当社営業または代理店にお問い合わせください。Sysmac コントローラログの取得方法は、『Sysmac Studio Version 1 オペレーションマニュアル (SBCA-470)』を参照してください	エラーレスポンスを返すスレーブのユーザーズマニュアルを参照し、再発防止を行ってください 処置対策例を実施した場合、スレーブの同期設定、PDO マッピング情報を正しく設定し、マスタへネットワーク構成情報を設定･保存してください。
	4)MDP 対応スレーブで、［モジュール構成情報送信方法］を［送信する］と設定した場合に、プレオペレーショナルからセーフオペレーショナルへの遷移に失敗した (付属情報 4 が以下のいずれかの場合 • 00010004Hex • 00010008Hex • 00020004Hex • 00020008Hex)	Sysmac Studio の EtherCAT ネットワーク構成で［モジュール構成情報送信方法］を設定できるスレーブと表示されていても、設定できない場合があります。この場合は、［モジュール構成情報送信方法］を［送信しない］にして、再度同期してください。 再同期後も本異常が発生する場合は、付属情報 1 を確認して、処置対策を行ってください	なし

付属情報	付属情報 1：異常の詳細 • 0001Hex: 状態遷移タイムアウト • 0002Hex: スレーブ応答なし • 0003Hex: スレーブ状態遷移拒否 • 0004Hex: SDO 通信レスポンスエラー 付属情報 2：SDO 通信のアクセス先オブジェクト（付属情報 1 が 0004Hex の場合だけ有効） • 上位 16 ビット：CoE のインデックス • 下位 16 ビット：CoE のサブインデックス 付属情報 3：アボートコード（付属情報 1 が 0004Hex の場合だけ有効） 付属情報 4：遷移元および遷移先の状態 • 上位 16 ビット：遷移元の状態 • 下位 16 ビット：遷移先の状態 16 ビットで表示される状態 0001：初期化状態 0002：プレオペレーショナル状態 0004：セーフオペレーショナル状態 0008：オペレーショナル状態
注意点／備考	なし

*1. 設定ユニットバージョン Ver.1.40 以降の場合に発生するイベントです。
*2. n は形 NX701 CPU ユニットでは 512、形 NX502 CPU ユニットでは 256、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニットおよび NJ シリーズ CPU ユニットでは 192 です。

イベント名	スレーブの不正な切り離し検知			イベントコード	84310002Hex *1	
内容	スレーブが不正に切り離されました					
発生源	EtherCAT マスタ機能モジュール		発生源詳細	スレーブ	検出タイミング	通信中
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	【縮退運転設定を「縮退する」に設定している場合】 〈マスタ〉 運転を継続 〈スレーブ〉 切り離されたスレーブと、そのスレーブにディジーチェーンで接続されているスレーブは異常発生し、異常処理はスレーブ設定に従います。それ以外のスレーブはプロセスデータ通信を継続します 【縮退運転設定を「停止する」に設定している場合】 〈マスタ〉 すべてのスレーブをセーフオペレーショナル状態に遷移させます 〈スレーブ〉 すべてのスレーブは出力のプロセスデータ通信を停止し、出力処理はスレーブ設定に従います。切り離されたスレーブとその後続にディジーチェーンで接続されているスレーブは通信異常が発生し、異常処理はスレーブ設定に従います		

LED	EtherCAT NET RUN	EtherCAT NET ERR	EtherCAT LINK/ACT
	－	点滅（1s 間隔）	－

システム定義変数	変数名	データ型	名称
	_EC_PDCommErr	BOOL	プロセスデータ通信異常
	_EC_CommErrTbl	ARRAY [1..n] OF BOOL *2	通信異常スレーブテーブル
	_EC_PDActive	BOOL	プロセスデータ通信ステータス

発生要因とその処置	発生要因（推定原因）	処置対策	再発防止
	以下の 1)～7)のいずれかの要因が発生。 ただし、下記のいずれかに該当するスレーブは除く • 離脱指定したスレーブ • 無効指定したスレーブ		
	1)スレーブの電源が OFF された、または Ethernet ケーブルを抜いた	Ethernet ケーブルが配線されているかを確認し、未接続の配線を接続してください。または、スレーブの電源が入っているかを確認し、電源を再投入してください	スレーブの電源 OFF、または Ethernet ケーブルを取り外してスレーブをネットワークから切り離す場合は、切り離すスレーブへ離脱指定、または切り離すスレーブと、そのスレーブにディジーチェーンで接続されているスレーブへ無効指定を行ってから、実施してください。
	2)スレーブ間の Ethernet ケーブルのコネクタのはずれ	Ethernet ケーブルのコネクタを接続してください	• Ethernet ケーブルのコネクタが、カチッと音がして固定されるまで確実に接続してください • Ethernet ケーブルのコネクタが、確実に嵌合していることを確認してください
	3)推奨外の Ethernet ケーブルを使用	推奨の Ethernet ケーブルに交換してください	推奨の Ethernet ケーブルを使用してください

	4)Ethernet ケーブルの断線	Ethernet ケーブルを交換してください	Ethernet ケーブルを配線する前に、ケーブルテスタなどを使用し、断線がないことを確認してください。配線に対する注意事項については、『NJ/NX シリーズ CPU ユニット内蔵 EtherCAT ポート ユーザーズマニュアル(SBCD-376)』の「EtherCAT ネットワークの配線」を参照してください
	5)Ethernet ケーブルのコネクタの接触不良、または部品不良	Ethernet ケーブルを交換してください	なし
	6)リングトポロジ内のスレーブの配線誤り	リングトポロジ内の配線誤りにより、マスタからスレーブが認識されていません。発生源詳細のスレーブの配線を修正してください。 それでも解決しない場合は、実ネットワーク構成上のリング終点ポートのケーブルを一旦取り外し、異常解除を実行した後、発生したイベントの処置対策を実施してください。 また、Sysmac Studio の比較・マージ機能を使用することで、より効率よく処置対策を実施できます	Ethernet ケーブルの配線に間違いがないことを確認してください
	7)動作中にスレーブノードアドレスが変更された	該当スレーブの実機のスレーブノードアドレスとネットワーク構成情報のノードアドレスを一致させてください。実機の構成が正しく、ネットワーク構成情報が誤っている場合は、ネットワーク構成情報のノードアドレスを見直してください	動作中にスレーブノードアドレスを変更しないでください
付属情報	なし		
注意点／備考	• 本異常が発生したスレーブをネットワークに接続後、接続したスレーブの「_EC_EntrySlavTbl[]」（ネットワーク加入スレーブテーブル）の値が TRUE になる前に異常解除を実行すると、「ネットワーク構成照合異常（スレーブ不在）」が発生します • 一時的にケーブル冗長状態が解除されているときにリングトポロジ上で発生要因の 1)～5)が発生した場合も、本異常が発生します。		

*1. 設定ユニットバージョン Ver.1.40 以降の場合に発生するイベントです。
*2. n は形 NX701 CPU ユニットでは 512、形 NX502 CPU ユニットでは 256、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニットおよび NJ シリーズ CPU ユニットでは 192 です。

イベント名	ネットワーク構成照合異常（スレーブ誤接続）			**イベントコード**	84320003Hex *1	
内容	ネットワーク構成情報に存在しないスレーブが接続されています					
発生源	EtherCAT マスタ機能モジュール		**発生源詳細**	マスタ／スレーブ	**検出タイミング**	電源投入時／コントローラリセット時／通信中
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	異常解除*2	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	【縮退運転設定を「縮退する」に設定している場合】 電源投入時/コントローラリセット時： 〈マスタ〉 運転を継続 〈スレーブ〉 ネットワーク構成情報と照合一致するスレーブは、メッセージ通信およびプロセスデータ通信を開始。 ネットワーク構成情報と照合一致しないスレーブは、メッセージ通信およびプロセスデータ通信を停止 通信中： 〈マスタ〉 運転を継続 〈スレーブ〉 ネットワーク構成情報と照合一致するスレーブは、メッセージ通信およびプロセスデータ通信を継続。 ネットワーク構成情報と照合一致しないスレーブは、メッセージ通信およびプロセスデータ通信を停止 【縮退運転設定を「停止する」に設定している場合】 電源投入時/コントローラリセット時： 〈マスタ〉 初期化状態のまま待機 〈スレーブ〉 メッセージ通信およびプロセスデータ通信不可 通信中： 〈マスタ〉 すべてのスレーブをセーフオペレーショナル状態に遷移させます 〈スレーブ〉 ネットワーク構成情報と照合一致するスレーブは、出力のプロセスデータ通信を停止し、出力処理はスレーブ設定に従います。 ネットワーク構成情報と照合一致しないスレーブは、メッセージ通信およびプロセスデータ通信を停止		

LED	**EtherCAT NET RUN**	**EtherCAT NET ERR**	**EtherCAT LINK/ACT**
	－	点滅（1s 間隔）	－

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	_EC_NetCfgCmpErr （付属情報 1 が 0001Hex の場合）	BOOL	ネットワーク構成照合異常
	_EC_NetTopologyErr （付属情報 1 が 0002Hex の場合）	BOOL	ネットワーク構成異常

発生要因とその処置	発生要因（推定原因）	処置対策	再発防止
	1)ネットワーク構成情報に存在しないスレーブを接続 （付属情報 1 が 0001Hex の場合）	発生源詳細のスレーブに接続されているスレーブに着目し、ネットワーク構成情報にない EtherCAT スレーブを取り除いてください	Sysmac Studio 上のネットワーク構成情報と実ネットワーク構成が一致していることを、比較・マージ、またはネットワーク構成情報で確認してください
	2)スレーブ最大接続数を超えた （付属情報 1 が 0002Hex の場合）	ネットワーク構成情報にない EtherCAT スレーブを取り除いてください	Sysmac Studio 上のネットワーク構成情報と実ネットワーク構成が一致していることを、ネットワーク構成情報で確認してください
	3)リングトポロジ内のスレーブの配線誤り	発生源詳細のスレーブの配線を確認してください。 それでも解決しない場合は、リング終点ポートのケーブルを一旦取り外し、発生したイベントに対する処置対策を実施してください。 また、Sysmac Studio の比較・マージ機能を使用することで、より効率よく処置対策を実施できます	Ethernet ケーブルの配線に間違いがないことを確認してください
付属情報	付属情報 1：異常の詳細 • 0001Hex: ネットワーク構成情報にないスレーブが接続された • 0002Hex: スレーブ最大接続数を超えた 付属情報 2：ネットワーク構成情報にないスレーブが接続されているポート名（付属情報 1 が 0001Hex のとき） 付属情報 3：システム情報		
注意点／備考	なし		

*1.　設定ユニットバージョン Ver.1.40 以降の場合に発生するイベントです。
*2.　電源再投入が必要な場合があります。

イベント名	ネットワーク構成照合異常（スレーブ不一致）			イベントコード	84330004Hex *1	
内容	ネットワーク構成情報と実ネットワーク構成で、スレーブが一致していません					
発生源	EtherCAT マスタ機能モジュール		発生源詳細	スレーブ	検出タイミング	電源投入時／コントローラリセット時／通信中
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	【縮退運転設定を「縮退する」に設定している場合】 電源投入時/コントローラリセット時： 〈マスタ〉 運転を開始 〈スレーブ〉 ネットワーク構成情報と照合一致するスレーブは、メッセージ通信およびプロセスデータ通信を開始。 ネットワーク構成情報と照合一致しないスレーブは、メッセージ通信およびプロセスデータ通信を停止 通信中： 〈マスタ〉 運転を継続 〈スレーブ〉 ネットワーク構成情報と照合一致するスレーブは、メッセージ通信およびプロセスデータ通信を継続。 ネットワーク構成情報と照合一致しないスレーブは、メッセージ通信およびプロセスデータ通信を停止 【縮退運転設定を「停止する」に設定している場合】 電源投入時/コントローラリセット時： 〈マスタ〉 初期化状態のまま待機 〈スレーブ〉 メッセージ通信およびプロセスデータ通信を停止 通信中： 〈マスタ〉 すべてのスレーブをセーフオペレーショナル状態に遷移させます 〈スレーブ〉 ネットワーク構成情報と照合一致するスレーブは、出力のプロセスデータ通信を停止し、出力処理はスレーブ設定に従います。 ネットワーク構成情報と照合一致しないスレーブは、メッセージ通信およびプロセスデータ通信を停止			
LED	EtherCAT NET RUN		EtherCAT NET ERR		EtherCAT LINK/ACT	
	－		点滅（1s 間隔）		－	
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_EC_NetCfgCmpErr		BOOL		ネットワーク構成照合異常	
	_EC_CommErrTbl		ARRAY [1..n] OF BOOL *2		通信異常スレーブテーブル	

発生要因とその処置	発生要因（推定原因）	処置対策	再発防止
	1)ノードアドレスが不一致 （付属情報 1 が 0004Hex の場合）	該当 EtherCAT スレーブのノードアドレスを、ネットワーク構成情報と一致するように変更してください	Sysmac Studio 上のネットワーク構成情報と実ネットワーク構成が一致していることを、比較・マージ、またはネットワーク構成情報で確認してください
	2)ネットワーク構成情報と異なるスレーブが接続されている （付属情報 1 が 0004Hex 以外の場合）	不一致している項目を確認のうえ、実機とネットワーク構成情報が一致するように変更してください。 なお、リビジョンやシリアル番号の照合が不要な場合や完全一致する必要がない場合は、リビジョンチェック基準やシリアル番号チェック基準の設定値を見直してください	Sysmac Studio 上のネットワーク構成情報と実ネットワーク構成が一致していることを、比較・マージ、またはネットワーク構成情報で確認してください
	3)リングトポロジ内のスレーブの配線誤り	発生源詳細のスレーブの配線を確認してください。 それでも解決しない場合は、リング終点ポートのケーブルを一旦取り外し、発生したイベントに対する処置対策を実施してください。 また、Sysmac Studio の比較・マージ機能を使用することで、より効率よく処置対策を実施できます	Ethernet ケーブルの配線に間違いがないことを確認してください
付属情報	付属情報 1：不一致と判断した項目 0000Hex: ベンダー ID 0001Hex: プロダクトコード 0002Hex: リビジョン 0003Hex: シリアル番号 0004Hex: スレーブノードアドレス		
注意点／備考	なし		

*1. 設定ユニットバージョン Ver.1.40 以降の場合に発生するイベントです。
*2. n は形 NX701 CPU ユニットでは 512、形 NX502 CPU ユニットでは 256、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニットおよび NJ シリーズ CPU ユニットでは 192 です。

イベント名	スレーブ PDI WDT 異常検知			**イベントコード**	84340000Hex *1	
内容	スレーブの PDI WDT 異常を検知しました					
発生源	EtherCAT マスタ機能モジュール		**発生源詳細**	スレーブ	**検出タイミング**	電源投入時／コントローラリセット時／通信中
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	異常解除	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	【縮退運転設定を「縮退する」に設定している場合】 〈マスタ〉 運転を継続 〈スレーブ〉 PDI WDT 異常が発生したスレーブは、メッセージ通信およびプロセスデータ通信を停止 【縮退運転設定を「停止する」に設定している場合】 〈マスタ〉 すべてのスレーブをセーフオペレーショナル状態に遷移させます 〈スレーブ〉 PDI WDT 異常が発生したスレーブは、メッセージ通信およびプロセスデータ通信を停止。 PDI WDT 異常が発生していないスレーブは、出力のプロセスデータ通信を停止し、出力処理はスレーブ設定に従います		

LED	**EtherCAT NET RUN**	**EtherCAT NET ERR**	**EtherCAT LINK/ACT**
	－	点滅（1s 間隔）	－

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	_EC_PDCommErr	BOOL	プロセスデータ通信異常
	_EC_CommErrTbl	ARRAY [1..n] OF BOOL *2	通信異常スレーブテーブル
	_EC_PDActive	BOOL	プロセスデータ通信ステータス

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	以下の 1）～2）のいずれかが発生		
	1)EtherCAT スレーブの故障	スレーブの電源を再投入してください。再発する場合はスレーブを交換してください	なし
	2)スレーブからの応答なし（他社製スレーブの場合のみ）	スレーブの電源を再投入してください。再発する場合はスレーブメーカにお問い合わせください	なし

付属情報	なし
注意点／備考	なし

*1. 設定ユニットバージョン Ver.1.40 以降の場合に発生するイベントです。
*2. n は形 NX701 CPU ユニットでは 512、形 NX502 CPU ユニットでは 256、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニットおよび NJ シリーズ CPU ユニットでは 192 です。

イベント名	スレーブ AL ステータス異常検知			イベントコード	84360000Hex *1	
内容	EtherCAT スレーブからの AL ステータス異常を検知しました					
発生源	EtherCAT マスタ機能モジュール		発生源詳細	スレーブ	検出タイミング	電源投入時／コントローラリセット時／通信中
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	【縮退運転設定を「縮退する」に設定している場合】 〈マスタ〉 運転を継続 〈スレーブ〉 AL ステータス異常が発生したスレーブは、AL ステータスに応じて状態遷移します 【縮退運転設定を「停止する」に設定している場合】 〈マスタ〉 すべてのスレーブをセーフオペレーショナル状態に遷移させます 〈スレーブ〉 AL ステータス異常が発生したスレーブは、AL ステータスに応じて状態遷移します。 AL ステータス異常が発生していないスレーブは、出力のプロセスデータ通信を停止し、出力処理はスレーブ設定に従います		

LED	EtherCAT NET RUN	EtherCAT NET ERR	EtherCAT LINK/ACT
	－	点滅（1s 間隔）	－

システム定義変数	変数名	データ型	名称
	_EC_SlavAppErr	BOOL	スレーブアプリケーション異常
	_EC_CommErrTbl	ARRAY [1..n] OF BOOL *2	通信異常スレーブテーブル

発生要因とその処置	発生要因（推定原因）	処置対策	再発防止
	EtherCAT スレーブ側での異常発生により、EtherCAT スレーブから EtherCAT マスタへ AL ステータスコードが通知された	付属情報 1 を参照し、異常が発生したスレーブの AL ステータスコードを確認してください。スレーブのマニュアルを参照し、該当コードの異常要因を取り除き、異常解除を実行してください	スレーブのマニュアルを参照し、再発防止を行ってください

付属情報	付属情報 1：AL ステータスコード 付属情報 2：システム情報 付属情報 3：システム情報 付属情報 4：システム情報
注意点／備考	なし

*1. 設定ユニットバージョン Ver.1.40 以降の場合に発生するイベントです。
*2. n は形 NX701 CPU ユニットでは 512、形 NX502 CPU ユニットでは 256、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニットおよび NJ シリーズ CPU ユニットでは 192 です。

イベント名	時刻同期補正失敗			**イベントコード**	84370000Hex *1	
内容	スレーブとの時刻同期に失敗しました					
発生源	EtherCAT マスタ機能モジュール		**発生源詳細**	マスタ	**検出タイミング**	電源投入時／コントローラリセット時／通信中
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	異常解除	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	【縮退運転設定を「縮退する」に設定している場合】 〈マスタ〉 運転を継続 〈スレーブ〉 スレーブ側で異常が発生する可能性があります。スレーブ側の異常処理はスレーブ設定に従います 【縮退運転設定を「停止する」に設定している場合】 〈マスタ〉 すべてのスレーブをセーフオペレーショナル状態に遷移させます 〈スレーブ〉 出力のプロセスデータ通信を停止し、出力処理はスレーブ設定に従います		

LED	**EtherCAT NET RUN**	**EtherCAT NET ERR**	**EtherCAT LINK/ACT**
	－	点滅（1s 間隔）	－
システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	－	－
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	状態遷移中にネットワーク構成が変化した	「スレーブの不正な切り離し検知」の処置対策を実施してください	なし
	EtherCAT スレーブの故障	スレーブの電源を再投入してください。再発する場合はスレーブを交換してください	なし
	ノイズ	スレーブ診断・統計情報のエラーフレーム受信数を確認してください。カウントした箇所でノイズを受けていると考えられます。ノイズを受けていると考えられる箇所に対し、適切なノイズ対策を行ってください。対策後、スレーブ診断・統計情報のエラーフレーム受信数がカウントされていないことを確認してください	マスタ診断・統計情報でエラーフレーム受信数がカウントされ続けている場合は、スレーブの診断・統計情報を確認しながら、ノイズ源を取り除くかノイズ対策を行ってください
付属情報	なし		
注意点／備考	なし		

*1.　設定ユニットバージョン Ver.1.40 以降の場合に発生するイベントです。

イベント名	ネットワーク構成照合異常（スレーブ不在）			**イベントコード**	84380000Hex *1	
内容	ネットワーク構成情報に存在するスレーブが接続されていません					
発生源	EtherCAT マスタ機能モジュール		**発生源詳細**	スレーブ	**検出タイミング**	電源投入時／コントローラリセット時／通信中
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	異常解除	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	【縮退運転設定を「縮退する」に設定している場合】 電源投入時/コントローラリセット時： 〈マスタ〉 運転を開始 〈スレーブ〉 ネットワーク構成情報と照合一致するスレーブは、メッセージ通信およびプロセスデータ通信を開始。 ネットワーク構成情報と照合一致しないスレーブは、メッセージ通信およびプロセスデータ通信を停止 通信中： 〈マスタ〉 運転を継続 〈スレーブ〉 ネットワーク構成情報と照合一致するスレーブは、メッセージ通信およびプロセスデータ通信を継続。 ネットワーク構成情報と照合一致しないスレーブは、メッセージ通信およびプロセスデータ通信を停止 【縮退運転設定を「停止する」に設定している場合】 電源投入時/コントローラリセット時： 〈マスタ〉 初期化状態のまま待機 〈スレーブ〉 メッセージ通信、およびプロセスデータ通信不可 通信中： 〈マスタ〉 すべてのスレーブをセーフオペレーショナル状態に遷移させます 〈スレーブ〉 ネットワーク構成情報と照合一致するスレーブは、出力のプロセスデータ通信を停止し、出力処理はスレーブ設定に従います。 ネットワーク構成情報と照合一致しないスレーブは、メッセージ通信およびプロセスデータ通信を停止		

LED	**EtherCAT NET RUN**	**EtherCAT NET ERR**	**EtherCAT LINK/ACT**
	－	点滅（1s 間隔）	－

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	_EC_NetCfgCmpErr	BOOL	ネットワーク構成照合異常
	_EC_CommErrTbl	ARRAY [1..n] OF BOOL *2	通信異常スレーブテーブル

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	1)スレーブの電源が投入されていない	スレーブの電源を投入してください	スレーブの電源が投入されていることを確認してください
	2)スレーブ間の Ethernet ケーブルのコネクタのはずれ	Ethernet ケーブルのコネクタを接続してください	• Ethernet ケーブルのコネクタが、カチッと音がして固定されるまで確実に接続してください • Ethernet ケーブルのコネクタが、確実に嵌合していることを確認してください
	3)リンク確立が遅い、スレーブの電源起動時間が長すぎることにより、全スレーブ加入待ち時間を超過した	全スレーブ加入待ち時間を十分長く設定してください	処置対策と同じ
	4)スレーブを接続している Ethernet ケーブルが推奨外のものを使用	推奨の Ethernet ケーブルに交換してください	推奨の Ethernet ケーブルを使用してください

	5)スレーブ間の Ethernet ケーブルの断線	Ethernet ケーブルを交換してください	Ethernet ケーブルを配線する前に、ケーブルテスタなどを使用し、断線がないことを確認してください。配線に対する注意事項については、『NJ/NX シリーズ CPU ユニット内蔵 EtherCAT ポート ユーザーズマニュアル(SBCD-376)』の「EtherCAT ネットワークの配線」を参照してください
	6)スレーブを接続している Ethernet ケーブルのコネクタの接触不良、または部品不良	Ethernet ケーブルを交換してください	なし
	7)リングトポロジ内のスレーブの配線誤り	リングトポロジ内の配線誤りにより、マスタからスレーブが認識されていません。発生源詳細のスレーブの配線を修正してください。 それでも解決しない場合は、実ネットワーク構成上のリング終点ポートのケーブルを一旦取り外し、異常解除を実行した後、発生したイベントの処置対策を実施してください。 また、Sysmac Studio の比較・マージ機能を使用することで、より効率よく処置対策を実施できます	Ethernet ケーブルの配線に間違いがないことを確認してください
	8)スレーブのハードウェア故障	該当スレーブの電源を再投入し、再発する場合は、スレーブを交換してください	なし
付属情報	なし		
注意点／備考	本異常が発生したスレーブをネットワークに接続後、接続したスレーブの「_EC_EntrySlavTbl[]」(ネットワーク加入スレーブテーブル) の値が TRUE になる前に異常解除を実行すると、「ネットワーク構成照合異常 (スレーブ不在)」が発生します		

*1. 設定ユニットバージョン Ver.1.40 以降の場合に発生するイベントです。
*2. n は形 NX701 CPU ユニットでは 512、形 NX502 CPU ユニットでは 256、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニットおよび NJ シリーズ CPU ユニットでは 192 です。

イベント名	ネットワーク構成照合異常（リング誤配線）			イベントコード	843A0000Hex *1	
内容	ネットワーク構成情報で設定されていないリングトポロジが、実ネットワーク上に構成されています					
発生源	EtherCAT マスタ機能モジュール		発生源詳細	マスタ	検出タイミング	電源投入時／コントローラリセット時／通信中
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	【縮退運転設定を「縮退する」に設定している場合】 電源投入時/コントローラリセット時： 〈マスタ〉 運転を開始 〈スレーブ〉 ネットワーク構成情報と照合一致するスレーブは、メッセージ通信およびプロセスデータ通信を開始 ネットワーク構成情報と照合一致しないスレーブは、メッセージ通信およびプロセスデータ通信を停止 通信中： 〈マスタ〉 運転を継続 〈スレーブ〉 ネットワーク構成情報と照合一致するスレーブは、メッセージ通信およびプロセスデータ通信を継続 ネットワーク構成情報と照合一致しないスレーブは、メッセージ通信およびプロセスデータ通信を停止 【縮退運転設定を「停止する」に設定している場合】 電源投入時/コントローラリセット時： 〈マスタ〉 初期化状態のまま待機 〈スレーブ〉 メッセージ通信およびプロセスデータ通信を停止 通信中： 〈マスタ〉 すべてのスレーブをセーフオペレーショナル状態に遷移させます。 〈スレーブ〉 プロセスデータ通信を停止 ネットワーク構成情報と照合一致するスレーブは、出力のプロセスデータ通信を停止し、出力処理はスレーブ設定に従います ネットワーク構成情報と照合一致しないスレーブは、メッセージ通信およびプロセスデータ通信を停止		
LED	EtherCAT NET RUN		EtherCAT NET ERR		EtherCAT LINK/ACT	
	－		点滅（1s 間隔）		－	
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	

発生要因とその処置	発生要因（推定原因）	処置対策	再発防止
	以下の 1)～2)のいずれかの要因が発生	以下の処置対策を行ってください。また、リングトポロジに関するイベントへの対処方法については、『NJ/NX シリーズ トラブルシューティングマニュアル (SBCA-469)』の付録の「イベントによる EtherCAT リングトポロジの配線修正」も参照してください 効率よく処置対策を実施するために、リング終点ポートのケーブルを一旦取り外し、発生したイベントに対する処置対策を実施してください。Sysmac Studio の比較・マージ機能も使用することで、より効率よく処置対策を実施できます	
	1)ネットワーク構成情報でリングトポロジを設定せずに、実ネットワーク上にリングトポロジを構成している（付属情報 1 が 0 の場合）	実ネットワーク構成上のリングトポロジの箇所に、ネットワーク構成情報上でリングトポロジを設定してください	Sysmac Studio 上のネットワーク構成情報と実ネットワーク構成が一致していることを、比較・マージ、またはネットワーク構成情報で確認してください
	2)ネットワーク構成情報とは異なる箇所に、リングトポロジが構成されている（付属情報 1 が 0 以外の場合）	実ネットワーク上のリングトポロジを解消したのち、ネットワーク構成情報で設定した位置にリングトポロジを構成してください	上記と同じ
付属情報	付属情報 1：異常発生箇所 • 0: ネットワーク構成情報にリングトポロジが設定されていない • 0 以外: ネットワーク構成情報上のリング起点スレーブのノードアドレス 付属情報 2：ネットワーク構成情報上のリング始点ポート名とリング終点ポート名（付属情報 1 が 0 以外の場合）		
注意点／備考	なし		

*1.　設定ユニットバージョン Ver.1.40 以降の場合に発生するイベントです。

イベント名	不正な配線検知			**イベントコード**	843C0000Hex *1	
内容	EtherCAT ネットワークの配線が不正です					
発生源	EtherCAT マスタ機能モジュール		**発生源詳細**	マスタ	**検出タイミング**	電源投入時／コントローラリセット時／通信中
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	異常解除*2	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	【縮退運転設定を「縮退する」に設定している場合】 電源投入時/コントローラリセット時： 〈マスタ〉 初期化状態のまま待機 〈スレーブ〉 メッセージ通信およびプロセスデータ通信を停止 通信中： 〈マスタ〉 運転を継続 〈スレーブ〉 メッセージ通信およびプロセスデータ通信を停止する場合があります 【縮退運転設定を「停止する」に設定している場合】 電源投入時／コントローラリセット時： 〈マスタ〉 初期化状態のまま待機 〈スレーブ〉 メッセージ通信およびプロセスデータ通信を停止 通信中： 〈マスタ〉 すべてのスレーブをセーフオペレーショナル状態に遷移させます 〈スレーブ〉 出力のプロセスデータ通信を停止します。出力処理はスレーブ設定に従います。 メッセージ通信および入力のプロセスデータ通信が不可となる場合があります		

LED	**EtherCAT NET RUN**	**EtherCAT NET ERR**	**EtherCAT LINK/ACT**
	－	点滅（1s 間隔）	－

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	_EC_NetTopologyErr	BOOL	ネットワーク構成異常

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	1)IN ポート同士または OUT ポート同士が接続されている	IN ポート同士および OUT ポート同士の接続がないことを確認してください	Ethernet ケーブルの配線に間違いがないことを確認してください
	2)2 つ以上のリングトポロジが構成されている	付属情報 1, 2 以外にリングトポロジが配線されていないことを確認してください	
	3)リング始点ポートとリング終点ポートの組み合わせが不正	付属情報 1, 2 のとおりにリングトポロジが配線されていることを確認してください	
	4)リング始点ポートとリング終点ポートの配線が入れ替わっている	付属情報 1, 2 のとおりにリングトポロジが配線されていることを確認してください	
	5)リングトポロジ上の分岐スレーブの配線が誤っている	リングトポロジ上にある分岐スレーブにおいて、リングトポロジの幹線となる配線が IN ポートと最終ポートを使用していることを確認してください	
	6)ネットワーク構成情報に存在しないリングトポロジが、実ネットワーク上に存在する	ネットワーク構成情報と一致するように、実ネットワーク構成を修正してください	

付属情報	付属情報 1：ネットワーク構成情報上のリング起点スレーブのノードアドレス。ネットワーク構成情報にケーブル冗長化設定がされていない場合は 0 付属情報 2：ネットワーク構成情報上のリング始点ポート名とリング終点ポート名（ネットワーク構成情報にケーブル冗長化設定がされている場合） 付属情報 3：設定ユニットバージョンにより異なる • Ver.1.42 未満の場合：システム情報 • Ver.1.42 以降の場合： 配線に誤りがあるスレーブのノードアドレス（注）1 配線に誤りがあるスレーブが特定不可の場合は 0 （注）1. 実ネットワーク構成上にリングトポロジが存在するときは、誤りがあるスレーブのノードアドレスを正しく表示できないことがあります。付属情報 3 で異常箇所の特定ができない場合や、付属情報 3 のスレーブに誤りがない場合は、スレーブやケーブルに異常がないかをひとつひとつ確認してください。それでも異常箇所の特定が出来ない場合は、リング終点ポートのケーブルを一旦取り外し、発生したイベントに対する処置対策を実施してください
注意点／備考	なし

*1. 設定ユニットバージョン Ver.1.40 以降の場合に発生するイベントです。
*2. 電源再投入が必要な場合があります。

イベント名	電源再投入待ち			**イベントコード**	94520000Hex *1	
内容	異常からの復旧のためにコントローラの電源再投入またはコントローラリセットが必要な状態になりました					
発生源	EtherCAT マスタ機能モジュール		**発生源詳細**	マスタ	**検出タイミング**	*2
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	電源再投入／コントローラリセット	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	*2		
LED	**EtherCAT NET RUN**		**EtherCAT NET ERR**		**EtherCAT LINK/ACT**	
	－		点滅（1s 間隔）		－	
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	復旧のために電源再投入またはコントローラリセットが必要なイベントが発生した		本イベントのきっかけとなったイベントの処置対策を実施したのち、電源再投入またはコントローラリセットを実施してください。本イベントの発生中は、EtherCAT マスタ機能モジュールの発生中異常は異常解除できません		本イベントのきっかけとなったイベントの再発防止を実施してください	
付属情報	付属情報 1：本イベントのきっかけとなったイベントのイベントコード					
注意点／備考	なし					

*1. 設定ユニットバージョン Ver.1.40 以降の場合に発生するイベントです。
*2. 本イベントのきっかけとなったイベントに従います。

イベント名	バックアップ実行失敗（EtherCAT スレーブ）（Ver.1.03 以降かつ設定ユニットバージョン Ver.1.40 未満）*1			**イベントコード**	102F0000Hex *1	
内容	EtherCAT スレーブのバックアップが異常終了しました					
発生源	EtherCAT マスタ機能モジュール		**発生源詳細**	マスタ	**検出タイミング**	バックアップ実行中
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
LED	**EtherCAT NET RUN**		**EtherCAT NET ERR**		**EtherCAT LINK/ACT**	
	－		－		－	
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	EtherCAT マスタースレーブ間の接続が確立されていない（リンクオフ中）	EtherCAT マスタ-スレーブ間の配線を確実に行ってください	EtherCAT マスタ-スレーブ間を確実に配線して接続を確立した状態でバックアップを行ってください
	異常発生により EtherCAT マスタ状態が不正である	Sysmac Studio または表示器のトラブルシュート画面で発生している異常を確認し、EtherCAT に関連する異常を取り除いてください	EtherCAT に関連する異常が発生していない状態でバックアップを行ってください
	EtherCAT のネットワーク構成情報と実際のネットワーク構成が一致していない	ネットワーク構成情報と実際のネットワーク構成が一致するようにしてください	ネットワーク構成情報と実際のネットワーク構成が一致している状態でバックアップを行ってください
	EtherCAT スレーブへのリクエストに失敗した	ケーブルの接続を確実に行ってください。ノイズのある環境ではノイズ対策を行ってください。改善されない場合は EtherCAT スレーブを交換してください	ケーブルの接続を確実に行ってください。ノイズのある環境ではノイズ対策を行ってください
	EtherCAT マスタが他の処理を実行中で、一時的に処理をできない状態である	再度バックアップを実行してください	なし
	EtherCAT スレーブの初期化処理に失敗した	離脱中スレーブを再加入させてください。また、Sysmac Studio または表示器のトラブルシュート画面で、スレーブ初期化異常、スレーブアプリケーション異常、プロセスデータ通信異常の発生を確認して発生している異常を取り除いてください	離脱中スレーブがない状態、EtherCAT スレーブがネットワークに加入している状態でバックアップを行ってください。また、プロセスデータ通信異常が発生していない状態でバックアップを行ってください
	EtherCAT スレーブからのバックアップパラメータの取得に失敗した	ESI ファイルの誤りの可能性があります。バックアップパラメータとして設定可能になっているパラメータが、実際に取得可能かスレーブメーカに問い合わせてください。取得可能な場合は EtherCAT スレーブの不良です。EtherCAT スレーブを交換してください	なし
	オムロン製通信カプラユニット、または NX ユニットとの通信に失敗した	ケーブルの接続を確実に行ってください。NX ユニットを確実に取り付けてください。ノイズのある環境ではノイズ対策を行ってください。改善されない場合は通信カプラユニット、または NX ユニットを交換してください	ケーブルの接続を確実に行ってください。NX ユニットの取り付けを確実に行ってください。ノイズのある環境ではノイズ対策を行ってください

付属情報	付属情報 1：異常の詳細（発生要因の記載順に対応しています） • 0001Hex :リンクオフ中 • 0002Hex :マスタ状態不正 • 0003Hex :構成情報とのネットワーク構成不一致 • 0004Hex :スレーブへのリクエスト失敗 • 0005Hex :マスタが一時的に処理をできない状態 • 0006Hex :スレーブ初期化異常、または離脱指令中スレーブあり • 0007Hex :バックアップデータ取得失敗 • 000BHex :オムロン製通信カプラユニットでの異常 付属情報 2：異常の発生箇所 • 0:マスタ • 1 以上:スレーブ（ノードアドレス） 付属情報 3：異常の発生箇所詳細（付属情報 1 が「000BHex」の場合だけ） • 0:通信カプラユニット • 1～63:NX ユニットの NX ユニット番号 付属情報 4：オムロン製通信カプラユニットでの異常の要因（付属情報 1 が「000BHex」の場合だけ） • 2:通信カプラユニット、または NX ユニットとの通信に失敗
注意点／備考	なし

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.03 以降かつ設定ユニットバージョン Ver.1.40 未満の場合に発生するイベントです。設定ユニットバージョン Ver.1.40 以降の場合は、10460001Hex のイベントコードを参照してください。

*2. n は形 NX701 CPU ユニットでは 512、形 NX502 CPU ユニットでは 256、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニットおよび NJ シリーズ CPU ユニットでは 192 です。

イベント名	リストア実行失敗（EtherCAT スレーブ）（Ver.1.03 以降かつ設定ユニットバージョン Ver.1.40 未満）*1			**イベントコード**	10300000Hex *1	
内容	EtherCAT スレーブのリストアが異常終了しました					
発生源	EtherCAT マスタ機能モジュール		**発生源詳細**	マスタ	**検出タイミング**	リストア実行中
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		

LED	**EtherCAT NET RUN**	**EtherCAT NET ERR**	**EtherCAT LINK/ACT**
	－	－	－
システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	－	－

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	EtherCAT マスタースレーブ間の接続が確立されていない（リンクオフ中）	EtherCAT マスタ-スレーブ間の配線を確実に行ってください	EtherCAT マスタ-スレーブ間を確実に配線して接続を確立した状態でリストアを行ってください
	EtherCAT マスタ-スレーブ間を確実に配線して接続を確立した状態でリストアを行ってください	Sysmac Studio または表示器のトラブルシュート画面で発生している異常を確認し、EtherCAT に関連する異常を取り除いてください	EtherCAT に関連する異常が発生していない状態でリストアを行ってください
	EtherCAT のネットワーク構成情報と実際のネットワーク構成が一致していない	ネットワーク構成情報と実際のネットワーク構成が一致するようにしてください。バックアップ時のリビジョンチェック基準を「チェックなし」に設定した場合でも、スレーブのリビジョンをバックアップ時と同等またはそれ以上としてください。シリアル番号チェック基準を「チェックなし」に設定してバックアップしてください。シリアル番号チェック基準を「設定値=実機」としてスレーブを交換する場合は、リストア機能を使わずに、Sysmac Studio でネットワーク構成を変更し、ダウンロード、およびスレーブパラメータの転送を行ってください。また、ノードアドレスをハードウェアスイッチで設定している場合は、バックアップ時と同じ設定としてください	ネットワーク構成情報と実際のネットワーク構成が一致している状態でリストアを行ってください
	EtherCAT スレーブへのリクエストに失敗した（付属情報 1 が 0004Hex の場合）	ケーブルの接続を確実に行ってください。ノイズのある環境ではノイズ対策を行ってください。 改善されない場合は、Sysmac Studio のリストア機能で EtherCAT スレーブを対象外としてリストアを実行してください。この場合、EtherCAT スレーブにバックアップパラメータがリストアされません。リストア実行後に、Sysmac Studio から同期機能を使用して EtherCAT スレーブへパラメータ転送してください。 さらに改善されない場合は EtherCAT スレーブを交換してください	ケーブルの接続を確実に行ってください。ノイズのある環境ではノイズ対策を行ってください
	EtherCAT マスタが他の処理を実行中で、一時的に処理をできない状態である	再度リストアを実行してください	なし

	EtherCAT スレーブの初期化処理に失敗した	Sysmac Studio または表示器のトラブルシュート画面で、スレーブ初期化異常、スレーブアプリケーション異常、プロセスデータ通信異常の発生を確認して発生している異常を取り除いてください	プロセスデータ通信異常が発生していない状態でリストアを行ってください
	MX2／RX シリーズ インバータへのバックアップパラメータの書き込みに失敗した（CPU ユニットのユニットバージョンが Ver.1.10 以前の場合のみ）	Sysmac Studio のインバータパラメータの転送[パソコン→ドライブ]機能を使って、パラメータをインバータに書き込んでください	インバータの制約により、リストアが行えない場合があります。 その場合は、Sysmac Studio のインバータパラメータの転送[パソコン→ドライブ]機能を使って、パラメータをインバータに書き込んでください
	EtherCAT スレーブへのバックアップパラメータの書き込みに失敗した	ESI ファイルの誤りの可能性があります。バックアップパラメータとして設定可能になっているパラメータが、実際に書き込み可能かスレーブメーカに問い合わせてください。書き込み可能な場合はスレーブの不良です。スレーブを交換してください	なし
	バックアップデータ不正を検知した	SD メモリカードを Sysmac Studio でフォーマットし、バックアップファイルを格納してください	SD BUSY LED 点灯中に SD メモリカードを抜いたり電源断をしたりしないでください。また、書込回数制限にもとづき定期的に SD メモリカードを交換してください
	バックアップ時の EtherCAT のネットワーク構成と実際のネットワーク構成が一致していない	バックアップ時の EtherCAT のネットワーク構成と実際のネットワーク構成が一致するようにしてください	バックアップ時の EtherCAT のネットワーク構成と実際のネットワーク構成が一致している状態でリストアしてください
	オムロン製通信カプラユニットで異常が発生した。 異常の要因は以下 • 通信カプラユニットで、バックアップファイルの読み出しに失敗した（付属情報 4 が 1 の場合） • 通信カプラユニット、または NX ユニットとの通信に失敗した(付属情報 4 が 2 の場合) • 通信カプラユニットで、バックアップ時の NX ユニットのユニット構成と実際の NX ユニットのユニット構成が一致していない（付属情報 4 が 3 の場合）	• 再度バックアップを実行してください（付属情報 4 が 1 の場合） • ケーブルの接続を確実に行ってください。NX ユニットを確実に取り付けてください。ノイズのある環境ではノイズ対策を行ってください。改善されない場合は通信カプラユニット、または NX ユニットを交換してください（付属情報 4 が 2 の場合） • バックアップ時の NX ユニットのユニット構成と実際の NX ユニットのユニット構成が一致するようにしてください(付属情報 4 が 2 または 3 の場合） • 通信カプラユニットのハードウェアスイッチをバックアップ時の状態と一致するようにしてください（付属情報 4 が 3 の場合）	• Sysmac Studio でフォーマットされた SD メモリカードを使用し、バックアップファイルを格納しておいてください。また、SD BUSY LED 点灯中に SD カードを抜いたり電源断をしたりしないでください（付属情報 4 が 1 の場合） • ケーブルの接続を確実に行ってください。NX ユニットの取り付けを確実に行ってください。ノイズのある環境ではノイズ対策を行ってください（付属情報 4 が 2 の場合） • NX ユニットのユニット構成と実際の NX ユニットのユニット構成が一致している状態でリストアを行ってください(付属情報 4 が 2 または 3 の場合） • 通信カプラユニットのハードウェアスイッチがバックアップ時と一致している状態でリストアを行ってください（付属情報 4 が 3 の場合）

付属情報	付属情報 1：異常の詳細（発生要因の記載順に対応しています） • 0001Hex :リンクオフ中 • 0002Hex :マスタ状態不正 • 0003Hex :構成情報とのネットワーク構成不一致 • 0004Hex :スレーブへのリクエスト失敗 • 0005Hex :マスタが一時的に処理をできない状態 • 0006Hex :スレーブ初期化異常 • 0007Hex :バックアップデータ書き込み失敗 • 0008Hex :バックアップデータ不正 • 0009Hex :バックアップ時とのネットワーク構成不一致 • 000AHex :サービス未サポート • 000BHex :オムロン製通信カプラユニットでの異常 付属情報 2：異常の発生箇所 • 0:マスタ • 1 以上:スレーブ（ノードアドレス） 付属情報 3：異常の発生箇所詳細（付属情報 1 が「000BHex」の場合だけ） • 0:通信カプラユニット • 1～63:NX ユニットの NX ユニット番号 付属情報 4：オムロン製通信カプラユニットでの異常の要因（付属情報 1 が「000BHex」の場合だけ） • 1:バックアップファイルの読み出しに失敗 • 2:通信カプラユニット、または NX ユニットとの通信に失敗 • 3:バックアップ時とのユニット構成不一致
注意点／備考	なし

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.03 以降かつ設定ユニットバージョン Ver.1.40 未満の場合に発生するイベントです。設定ユニットバージョン Ver.1.40 以降の場合は、10460001Hex のイベントコードを参照してください。

イベント名	バックアップ実行失敗（EtherCAT スレーブ）（設定ユニットバージョン Ver.1.40 以降）*1			**イベントコード**	10460001Hex*1	
内容	EtherCAT スレーブのバックアップが異常終了しました					
発生源	EtherCAT マスタ機能モジュール		**発生源詳細**	マスタ	**検出タイミング**	バックアップ実行中
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	−	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
LED	**EtherCAT NET RUN**		**EtherCAT NET ERR**		**EtherCAT LINK/ACT**	
	−		−		−	
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	以下の 1)〜5)のいずれかの要因が発生。付属情報 1 を確認して要因を特定してください					
	1)EtherCAT マスタがバックアップ開始できない（付属情報 1 が 0002Hex の場合）		通信ポートまたはマスタのイベントの発生により、バックアップができない状態にあります。発生源詳細が通信ポートまたはマスタのイベントを参照し、要因の特定、および処置対策を行ってください		発生したイベントを参照し、再発防止を行ってください	
	2)EtherCAT スレーブへのバックアップパラメータの取得に失敗した（付属情報 1 が 0007Hex の場合）		バックアップパラメータとして設定可能になっているパラメータが、スレーブのバックアップパラメータ編集画面で表示される順番通り、全て取得可能かスレーブメーカにお問い合わせください。 バックアップパラメータ編集画面で、パラメータの取得に順番がある場合は並べ替えて、取得できないパラメータがある場合は削除してください		処置対策と同じ	
	3)EtherCAT スレーブへのリクエストに失敗した（付属情報 1 が 0004Hex の場合）		a. マスタ、スレーブ、オムロン製通信カプラユニット、NX ユニットで発生しているイベントにより、バックアップパラメータの取得に失敗しました。発生しているイベントを参照し、発生要因の特定および処置対策を行ってください b. コネクタの接触不良、ケーブルの接続不良、ノイズなどにより、バックアップパラメータの取得に失敗した可能性があります。スレーブ診断・統計情報のエラーフレーム受信数を確認してください。カウントアップする場合は、カウントアップした箇所でコネクタの接触不良、ケーブルの接続不良、ノイズなどが発生している可能性があるため、スレーブ診断・統計情報を確認しながら、コネクタやケーブルの接触を見直す、ノイズ源を取り除くなどの対策を行ってください		a. 発生した異常のイベントを参照し、再発防止を行ってください b. スレーブ診断・統計情報でエラーフレーム受信数がカウントアップしていないことを確認してください。カウントアップする場合は、スレーブ診断・統計情報を確認しながら、コネクタやケーブルの接触を見直す、ノイズ源を取り除くなどの対策を行ってください	
	4)オムロン製通信カプラユニット、または NX ユニットとの通信に失敗した（付属情報 1 の値が 000BHex の場合）					
	5)離脱中のスレーブに対してバックアップを実行した（付属情報 1 が 0006Hex の場合）		離脱中のスレーブを再加入させてください		離脱中スレーブがない状態でバックアップを実行してください	

付属情報	付属情報 1：異常の詳細 • 0002Hex:マスタ状態不正 • 0004Hex:スレーブへのリクエスト失敗 • 0006Hex:離脱指令中スレーブあり • 0007Hex:バックアップデータ取得失敗 • 000BHex:オムロン製通信カプラユニットでの異常 付属情報 2：異常の発生箇所 • 0:マスタ • 0 以外:スレーブ（ノードアドレス） 付属情報 3：異常の発生箇所詳細 • 付属情報 1 が「000BHex」の場合 0:オムロン製通信カプラユニット 0 以外:NX ユニットの NX ユニット番号 • 付属情報 1 が「0007Hex」の場合、CoE のインデックス、サブインデックス 付属情報 4：異常の要因 • 付属情報 1 が「000BHex」の場合 2:通信カプラユニット、または NX ユニットとの通信に失敗 • 付属情報 1 が「0007Hex」の場合、アボートコード
注意点／備考	なし

*1. 設定ユニットバージョン Ver.1.40 以降の場合に発生するイベントです。CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.03 以降かつ設定ユニットバージョン Ver.1.40 未満の場合は、102F0000Hex のイベントコードを参照してください。
*2. n は形 NX701 CPU ユニットでは 512、形 NX502 CPU ユニットでは 256、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニットおよび NJ シリーズ CPU ユニットでは 192 です。

イベント名	リストア実行失敗（EtherCAT スレーブ） （設定ユニットバージョン Ver.1.40 以降）*1			**イベントコード**	10470002Hex *1	
内容	EtherCAT スレーブのリストアが異常終了しました					
発生源	EtherCAT マスタ機能モジュール		**発生源詳細**	マスタ	**検出タイミング**	リストア実行中
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		

LED	**EtherCAT NET RUN**	**EtherCAT NET ERR**	**EtherCAT LINK/ACT**
	－	－	－
システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	－	－
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	以下の 1）～6）のいずれかが発生。付属情報 1 を確認して要因を特定してください		
	1)EtherCAT マスタがリストア開始できない （付属情報 1 が 0002Hex の場合）	EtherCAT 機能モジュールで発生している他のイベントが原因で、リストアを開始できません。他に発生しているイベントを確認し、要因の特定、および処置対策を行ってください	発生したイベントを参照し、再発防止を行ったうえで、リストアを実行してください
	2)バックアップ時の EtherCAT のネットワーク構成と実際のネットワーク構成が一致していない （付属情報 1 が 0009Hex の場合）	以下のイベントが発生している場合は、発生しているイベントを参照し、発生要因の特定、および処置対策を行ってください • リンクオフ異常 • ネットワーク構成照合異常（スレーブ不在） • ネットワーク構成照合異常（スレーブ不一致） • ネットワーク構成照合異常（スレーブ誤接続） • ネットワーク構成照合異常（リング誤配線） • スレーブの不正な切り離し検知 • 不正な配線検知 • リング断線検知	バックアップ時の EtherCAT のネットワーク構成と実際のネットワーク構成が一致している状態でリストアしてください
	3)EtherCAT スレーブへのバックアップパラメータの書き込みに失敗した （付属情報 1 が 0007Hex の場合）	バックアップパラメータとして設定可能になっているパラメータが、スレーブのバックアップパラメータ編集画面で表示される順番通り、すべて書き込み可能かスレーブメーカにお問い合わせください。 バックアップパラメータ編集画面で、パラメータの書き込みに順番がある場合は並べ替えて、書き込みできないパラメータがある場合は削除してください	なし
	4)EtherCAT スレーブへのリクエストに失敗した （付属情報 1 が 0004Hex の場合）	a. EtherCAT スレーブに発生している異常のイベントを参照し、発生要因の特定、および処置対策を行ってください b. スレーブ診断・統計情報のエラーフレーム受信数を確認してください。カウントアップした箇所で、ケーブルの接続不良、コネクタの接触不良、ノイズなどが発生していないか確認して対策を行ってください	a. 発生した異常のイベントを参照し、再発防止を行ってください b. マスタ／スレーブ診断・統計情報でエラーフレーム受信数がカウントアップしていないことを確認してください。カウントアップする場合は、ケーブルの接続不良、コネクタの接触不良、ノイズなどが発生していないか確認して対策を行ってください

	5)バックアップデータ不正を検知した （付属情報 1 が 0008Hex の場合）	バックアップファイルを再作成してください。 SD メモリカードの場合で、バックアップファイルの再作成に失敗する場合は、Sysmac Studio でフォーマットし、バックアップファイルを格納してください	SD BUSY LED 点灯中に SD メモリカードを抜いたり電源断をしたりしないでください。また、書込回数制限にもとづき定期的に SD メモリカードを交換してください
	6)オムロン製通信カプラユニットで異常が発生した。 （付属情報 1 が 000BHex の場合） 異常の要因は以下 • 通信カプラユニットで、バックアップファイルの読み出しに失敗した（付属情報 4 が 1 の場合） • 通信カプラユニット、または NX ユニットとの通信に失敗した（付属情報 4 が 2 の場合） • 通信カプラユニットで、バックアップ時の NX ユニットのユニット構成と実際の NX ユニットのユニット構成が一致していない（付属情報 4 が 3 の場合）	• 付属情報 4 が 1 の場合 再度バックアップを実行してください • 付属情報 4 が 2 の場合 a) マスタまたは通信カプラユニットで発生したイベントにより、通信カプラユニットと通信できない状態です。発生しているイベントを参照し、発生要因の特定、および処置対策を行ってください b) NX ユニットを確実に取り付けてください。 c) スレーブ診断・統計情報のエラーフレーム受信数を確認してください。カウントアップした箇所で、ケーブルの接続不良、コネクタの接触不良、ノイズなどが発生していないか確認して対策を行ってください d) バックアップ時の NX ユニットのユニット構成と実際の NX ユニットのユニット構成が一致するようにしてください a)～d)で改善されない場合は通信カプラユニット、または NX ユニットを交換してください • 付属情報 4 が 3 の場合 a) バックアップ時の NX ユニットのユニット構成と実際の NX ユニットのユニット構成が一致するようにしてください b) 通信カプラユニットのハードウェアスイッチをバックアップ時の状態と一致するようにしてください	• 付属情報 4 が 1 の場合 a) バックアップファイルを編集しないでください b) Sysmac Studio でフォーマットされた SD メモリカードを使用し、バックアップファイルを格納しておいてください。また、SD BUSY LED 点灯中に SD カードを抜いたり電源断をしたりしないでください • 付属情報 4 が 2 の場合 a) マスタまたは通信カプラユニットで発生したイベントの要因に対する再発防止を行ってください b) NX ユニットを確実に取り付けてください c) 上記 4)の（b)を参照してください • 付属情報 4 が 3 の場合 通信カプラユニットのハードウェアスイッチがバックアップ時と一致している状態でリストアを行ってください

付属情報	付属情報 1:異常の詳細 • 0002Hex :リストア開始失敗 • 0004Hex :スレーブへのリクエスト失敗 • 0007Hex :バックアップデータ書き込み失敗 • 0008Hex :バックアップデータ不正 • 0009Hex :バックアップ時とのネットワーク構成不一致 • 000BHex :オムロン製通信カプラユニットでの異常 付属情報 2:異常の発生箇所 • 0:マスタ • 0 以外:スレーブ（ノードアドレス） 付属情報 3:異常の発生箇所詳細 • 付属情報 1 が「000BHex」の場合 0:オムロン製通信カプラユニット 0 以外:NX ユニットの NX ユニット番号 • 付属情報 1 が「0007Hex」の場合、CoE のインデックス、サブインデックス 付属情報 4:異常の要因 • 付属情報 1 が「000BHex」の場合 1:バックアップファイルの読み出しに失敗 2:通信カプラユニット、または NX ユニットとの通信に失敗 3:バックアップ時とのユニット構成不一致 • 付属情報 1 が「0007Hex」の場合、アボートコード
注意点／備考	なし

*1. 設定ユニットバージョン Ver.1.40 以降の場合に発生するイベントです。CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.03 以降かつ設定ユニットバージョン Ver.1.40 未満の場合は、10300000Hex のイベントコードを参照してください。

イベント名	エマージェンシー・メッセージ検知			**イベントコード**	64200000Hex	
内容	エマージェンシー・メッセージを検知しました					
発生源	EtherCAT マスタ機能モジュール		**発生源詳細**	スレーブ	**検出タイミング**	通信中
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	—	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	〈スレーブ〉 エラー発生。その他の動作への影響なし		
LED	**EtherCAT NET RUN**		**EtherCAT NET ERR**		**EtherCAT LINK/ACT**	
	—		—		—	
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_EC_SlavEmergErr		BOOL		エマージェンシー・メッセージ検知	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	スレーブからエマージェンシー・メッセージを受信した		付属情報 1 を参照し、異常が発生したスレーブのエマージェンシーコードを確認してください。スレーブのマニュアルを参照し、該当コードの異常要因を取り除き、異常解除を実行してください		スレーブのマニュアルを参照し、再発防止を行ってください	
付属情報	付属情報 1：スレーブエマージェンシーコード 付属情報 2：スレーブエラーレジスタオブジェクトの値 付属情報 3：スレーブエマージェンシーデータ。下位 5 バイトのみ有効					
注意点／備考	なし					

イベント名	EtherCAT メッセージ異常			イベントコード	842D0000Hex *1	
内容	スレーブとのメッセージ通信で異常を検知しました					
発生源	EtherCAT マスタ機能モジュール		発生源詳細	マスタ	検出タイミング	通信中
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	—	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	〈スレーブ〉 エラー発生。その他の動作への影響なし		
LED	EtherCAT NET RUN		EtherCAT NET ERR		EtherCAT LINK/ACT	
	—		—		—	
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_EC_MsgErr		BOOL		EtherCAT メッセージ異常	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	付属情報を参照して確認してください		該当するメッセージプロトコルに対応しているスレーブに対してメッセージ処理を行うようにしてください。付属情報で確認した異常詳細内容で示される異常のメッセージを特定し、メッセージを修正してください		スレーブの仕様に合わせたメッセージを使用してください。 またメッセージの宛先に間違いがないことを確認してください	
付属情報	付属情報 1：異常詳細 • 1 バイト目： 00Hex : Error メッセージ受信、02Hex : 不正または未サポートメッセージ廃棄、04Hex : 宛先不正メッセージ廃棄 • 2 バイト目： [送信] 00Hex : Error、01Hex : VoE（AoE）、02Hex : EoE、03Hex : CoE、04Hex : FoE、05Hex : SoE、0FHex : VoE [受信] 80Hex : Error、81Hex : VoE（AoE）、82Hex : EoE、83Hex : CoE、84Hex : FoE、85Hex : SoE、8FHex : VoE 付属情報 2：送信元ノードアドレス。マスタの場合は 0 付属情報 3：送信先ノードアドレス。マスタの場合は 0 付属情報 4：Error サービスデータ。付属情報 1 の 2 バイト目が 00Hex または 80Hex の場合のみ有効					
注意点／備考	なし					

*1. 設定ユニットバージョン Ver.1.40 未満の場合に発生するイベントです。

イベント名	不正メールボックス受信			イベントコード	84350000Hex *1	
内容	スレーブから不正なメールボックスを受信しました					
発生源	EtherCAT マスタ機能モジュール		発生源詳細	スレーブ	検出タイミング	通信中
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	異常解除	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	動作への影響なし		
LED	EtherCAT NET RUN		EtherCAT NET ERR		EtherCAT LINK/ACT	
	—		—		—	
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_EC_MsgErr		BOOL		EtherCAT メッセージ異常	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	スレーブから宛先不正のメッセージを受信 （付属情報 1 が 0002Hex の場合）		メッセージの送信先がネットワーク構成情報に存在する EtherCAT スレーブであるかを確認してください。ネットワーク構成情報に存在する EtherCAT スレーブ宛てにメッセージを送信してください		メッセージの送信先が、ネットワーク構成情報に存在する EtherCAT スレーブであることを確認してください	
付属情報	付属情報 1:異常の詳細 • 0002Hex: 宛先不正のメッセージを受信 • 0002Hex 以外: システム情報 付属情報 2:送信元スレーブノードアドレス 付属情報 3:送信先スレーブノードアドレス（マスタの場合は 0） 付属情報 4:システム情報					
注意点／備考	なし					

*1. 設定ユニットバージョン Ver.1.40 以降の場合に発生するイベントです。

イベント名	リング断線検知			**イベントコード**	84390000Hex *1	
内容	リング断線状態であることを検知しました					
発生源	EtherCAT マスタ機能モジュール		**発生源詳細**	マスタ	**検出タイミング**	電源投入時／コントローラリセット時／通信中
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	〈マスタ〉 運転を継続 〈スレーブ〉 プロセスデータ通信を継続		
LED	**EtherCAT NET RUN**		**EtherCAT NET ERR**		**EtherCAT LINK/ACT**	
	－		－		－	
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_EC_RingBreaking		BOOL		リング断線中	
	_EC_RingBreakNodeAdr		UINT		リング断線直前スレーブノードアドレス	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	リングトポロジ上で、以下の 1)～5)のいずれかの要因が発生		付属情報 1 のスレーブと、リングトポロジ上のその次のスレーブとの間のケーブルにおいて、以下の処置対策を行ってください また、リングトポロジに関するイベントへの対処方法については、『NJ/NX シリーズ トラブルシューティングマニュアル (SBCA-469)』の付録の「イベントによる EtherCAT リングトポロジの配線修正」も参照してください			
	1)Ethernet ケーブルを抜いた		ケーブルを接続してください		なし	
	2)スレーブ間の Ethernet ケーブルのコネクタのはずれ		コネクタを接続してください		• Ethernet のコネクタが、カチッと音がして固定されるまで確実に接続してください • Ethernet のコネクタが確実に嵌合していることを確認してください	
	3)推奨外の Ethernet ケーブルを使用		推奨の Ethernet ケーブルに交換してください		推奨のケーブルを使用してください	
	4)スレーブ間の Ethernet ケーブルの断線		Ethernet ケーブルを交換してください		Ethernet ケーブルを配線する前に、ケーブルテスタなどを使用し、断線がないことを確認してください。配線に対する注意事項については、『NJ/NX シリーズ CPU ユニット内蔵 EtherCAT ポート ユーザーズマニュアル(SBCD-376)』の「EtherCAT ネットワークの配線」を確認してください	
	5)Ethernet ケーブルのコネクタの接触不良、または部品不良		Ethernet ケーブルを交換してください		なし	
付属情報	付属情報 1：断線箇所手前のスレーブノードアドレス					
注意点／備考	なし					

*1.　設定ユニットバージョン Ver.1.40 以降の場合に発生するイベントです。

イベント名	スレーブ離脱			**イベントコード**	94400000Hex	
内容	スレーブが「離脱」指示により離脱状態となりました					
発生源	EtherCAT マスタ機能モジュール		**発生源詳細**	スレーブ	**検出タイミング**	通信中のスレーブ離脱指示時
異常の属性	**重要度**	一般情報	**復旧方法**	−	**ログカテゴリ**	アクセス
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	設定ユニットバージョン Ver.1.40 未満の場合: 〈マスタ〉 該当スレーブを初期化状態に遷移させます。 〈スレーブ〉 メッセージ通信およびプロセスデータ通信不可 設定ユニットバージョン Ver.1.40 以降の場合: 〈マスタ〉 該当スレーブをプレオペレーショナル状態に遷移させます。 〈スレーブ〉 メッセージ通信可能。プロセスデータ通信不可		
LED	**EtherCAT NET RUN**		**EtherCAT NET ERR**		**EtherCAT LINK/ACT**	
	−		−		−	
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_EC_DisconnSlavTbl		ARRAY [1..n] OF BOOL *1		離脱指令中スレーブテーブル	
	_EC_PDSlavTbl		ARRAY [1..n] OF BOOL *1		プロセスデータ通信中スレーブテーブル	
	_EC_MBXSlavTbl		ARRAY [1..n] OF BOOL *1		メッセージ通信可能スレーブテーブル	
	_EC_PDActive		BOOL		プロセスデータ通信ステータス	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	Sysmac Studio からスレーブの「離脱」操作を行った		−		−	
	EC_DisconnectSlave 命令が実行された		−		−	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

*1. n は形 NX701 CPU ユニットでは 512、形 NX502 CPU ユニットでは 256、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニットおよび NJ シリーズ CPU ユニットでは 192 です。

イベント名	スレーブ再加入			イベントコード	94410000Hex	
内容	スレーブが「再加入」指示により離脱状態を解除されました					
発生源	EtherCAT マスタ機能モジュール		発生源詳細	スレーブ	検出タイミング	通信中のスレーブ再加入指示時
異常の属性	重要度	一般情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	アクセス
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	〈マスタ〉 該当スレーブをオペレーショナル状態に遷移させます 〈スレーブ〉 メッセージ通信、およびプロセスデータ通信可能		
LED	EtherCAT NET RUN		EtherCAT NET ERR		EtherCAT LINK/ACT	
	−		−		−	
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_EC_DisconnSlavTbl		ARRAY [1..n] OF BOOL *1		離脱指令中スレーブテーブル	
	_EC_PDSlavTbl		ARRAY [1..n] OF BOOL *1		プロセスデータ通信中スレーブテーブル	
	_EC_MBXSlavTbl		ARRAY [1..n] OF BOOL *1		メッセージ通信可能スレーブテーブル	
	_EC_PDActive		BOOL		プロセスデータ通信ステータス	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	Sysmac Studio からスレーブの「再加入」操作を行った		−		−	
	EC_ConnectSlave 命令が実行された		−		−	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

*1. n は形 NX701 CPU ユニットでは 512、形 NX502 CPU ユニットでは 256、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニットおよび NJ シリーズ CPU ユニットでは 192 です。

イベント名	異常解除			イベントコード	94430000Hex	
内容	発生中の異常の解除指示がされました					
発生源	EtherCAT マスタ機能モジュール		発生源詳細	マスタ	検出タイミング	異常解除指示時
異常の属性	重要度	一般情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	アクセス
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	〈マスタ〉 現在発生中の異常をいったん解除し、再度ネットワークの照合を実施。異常を再検知しなかった場合は、通信停止中のスレーブをオペレーショナル状態に遷移させます 〈スレーブ〉 異常が発生していたスレーブはメッセージ通信、およびプロセスデータ通信可能。		
LED	EtherCAT NET RUN		EtherCAT NET ERR		EtherCAT LINK/ACT	
	−		—		−	
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_EC_PDSlavTbl		ARRAY [1..n] OF BOOL *1		プロセスデータ通信中スレーブテーブル	
	_EC_MBXSlavTbl		ARRAY [1..n] OF BOOL *1		メッセージ通信可能スレーブテーブル	
	_EC_CommErrTbl		ARRAY [1..n] OF BOOL *1		通信異常スレーブテーブル	
	_EC_PDActive		BOOL		プロセスデータ通信ステータス	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	Sysmac Studio から「異常解除」操作を行った		−		−	
	ResetECError 命令が実行された		−		−	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

*1. n は形 NX701 CPU ユニットでは 512、形 NX502 CPU ユニットでは 256、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニットおよび NJ シリーズ CPU ユニットでは 192 です。

イベント名	スレーブ無効化			イベントコード	94440000Hex *1	
内容	EtherCAT スレーブを無効にしました					
発生源	EtherCAT マスタ機能モジュール		発生源詳細	スレーブ	検出タイミング	切替命令実行時
異常の属性	重要度	一般情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	アクセス
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	〈マスタ〉 該当スレーブをプレオペレーショナル状態に遷移させます 〈スレーブ〉 メッセージ通信可能。プロセスデータ通信不可		
LED	EtherCAT NET RUN		EtherCAT NET ERR		EtherCAT LINK/ACT	
	－		—		－	
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_EC_PDSlavTbl		ARRAY [1..n] OF BOOL *2		プロセスデータ通信中スレーブテーブル	
	_EC_DisableSlavTbl		ARRAY [1..n] OF BOOL *2		無効設定スレーブテーブル	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	EC_ChangeEnableSetting 命令が実行された		－		－	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.04 以降で発生するイベントです。
*2. n は形 NX701 CPU ユニットでは 512、形 NX502 CPU ユニットでは 256、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニットおよび NJ シリーズ CPU ユニットでは 192 です。

イベント名	スレーブ有効化			イベントコード	94450000Hex *1	
内容	EtherCAT スレーブを有効にしました					
発生源	EtherCAT マスタ機能モジュール		発生源詳細	スレーブ	検出タイミング	切替命令実行時
異常の属性	重要度	一般情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	アクセス
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	〈マスタ〉 該当スレーブを再度オペレーショナル状態に遷移させます 〈スレーブ〉 メッセージ通信、およびプロセスデータ通信可能		
LED	EtherCAT NET RUN		EtherCAT NET ERR		EtherCAT LINK/ACT	
	－		—		－	
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_EC_PDSlavTbl		ARRAY [1..n] OF BOOL *2		プロセスデータ通信中スレーブテーブル	
	_EC_DisableSlavTbl		ARRAY [1..n] OF BOOL *2		無効設定スレーブテーブル	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	EC_ChangeEnableSetting 命令が実行された		－		－	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.04 以降で発生するイベントです。
*2. n は形 NX701 CPU ユニットでは 512、形 NX502 CPU ユニットでは 256、形 NX102、形 NX1P2 CPU ユニットおよび NJ シリーズ CPU ユニットでは 192 です。

イベント名	EtherCAT 診断・統計情報ログ機能開始			**イベントコード**	94500000Hex *1	
内容	EtherCAT 診断・統計情報ログ機能を開始しました					
発生源	EtherCAT マスタ機能モジュール		**発生源詳細**	マスタ	**検出タイミング**	EtherCAT 診断・統計情報ログ機能の開始時
異常の属性	**重要度**	一般情報	**復旧方法**	−	**ログカテゴリ**	アクセス
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	EtherCAT スレーブへの非同期通信の応答時間が長くなります		
LED	**EtherCAT NET RUN**		**EtherCAT NET ERR**		**EtherCAT LINK/ACT**	
	−		—		−	
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_EC_StatisticsLogEnable		BOOL		診断統計情報ログ許可	
	_EC_StatisticsLogBusy		BOOL		診断統計情報ログ実行状態フラグ	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	システム定義変数「_EC_StatisticsLogEnable」の値が FALSE から TRUE に変化した		−		−	
付属情報	付属情報 1：診断・統計情報ログ機能における SD カードへの自動保存周期 • 0: ワンショットモード • 0 以外: 周期（sec）					
注意点／備考	なし					

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.11 以降で発生するイベントです。

イベント名	EtherCAT 診断・統計情報ログ機能終了			**イベントコード**	94510000Hex *1	
内容	EtherCAT 診断・統計情報ログ機能を終了しました					
発生源	EtherCAT マスタ機能モジュール		**発生源詳細**	マスタ	**検出タイミング**	EtherCAT 診断・統計情報ログ機能の終了時
異常の属性	**重要度**	一般情報	**復旧方法**	−	**ログカテゴリ**	アクセス
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
LED	**EtherCAT NET RUN**		**EtherCAT NET ERR**		**EtherCAT LINK/ACT**	
	−		—		−	
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_EC_StatisticsLogEnable		BOOL		診断統計情報ログ許可	
	_EC_StatisticsLogBusy		BOOL		診断統計情報ログ実行状態フラグ	
	_EC_StatisticsLogErr		BOOL		診断統計情報ログ異常終了フラグ	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	EtherCAT 診断・統計情報ログ機能の終了要因が発生した		−		−	
付属情報	付属情報 1：診断・統計情報ログ機能における SD カードへの自動保存周期 • 0: ワンショットモード • 0 以外: 周期（sec） 付属情報 2：EtherCAT 診断・統計情報ログ機能の終了要因 • 1: システム定義変数「_EC_StatisticsLogEnable」の値が TRUE から FALSE に変化した • 2: ログファイルに 1000 レコード目を保存した • 3: SD メモリカードの空き容量が不足し、ログファイルにレコードを追加できない • 4: SD メモリカードがライトプロテクトされている • 5: SD メモリカードを認識できない • 6: 同期（ダウンロード）またはメモリオールクリアの実行 • 7: 診断・統計情報ログ機能における SD カードへの自動保存周期に不正な値を指定した • 8: マスタ診断・統計情報命令（EC_GetMasterStatistics,EC_ClearMasterStatistics）、またはスレーブ診断・統計情報命令（EC_GetSlaveStatistics,EC_ClearSlaveStatistics）を実行中に、診断・統計情報ログ機能を実行した					
注意点／備考	なし					

*1. CPU ユニットのユニットバージョン Ver.1.11 以降で発生するイベントです。

1-8 OPC UA 機能

1-8-1 OPC UA サーバ機能関連

イベント名	実行ログ保存失敗			**イベントコード**	15000000Hex	
内容	実行ログの SD メモリカードへの保存に失敗しました。					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	OPC UA サーバ機能	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト		**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	自動復旧				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	−	−

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	SD メモリカードが未装着。	SD メモリカードを装着してください。	SD メモリカードを装着してください。
	SD メモリカードが種別不正。	SD または SDHC の SD メモリカードに交換してください。	SD または SDHC の SD メモリカードを使用してください。
	SD メモリカードのフォーマット不正。	SD メモリカードを Sysmac Studio でフォーマットしてください。	フォーマットされた SD メモリカードを使用してください。 また、SD BUSY LED 点灯中に SD メモリカードを抜いたり電源断をしたりしないでください。
	SD メモリカードがライトプロテクトされている。	SD メモリカードのライトプロテクトを解除してください。	SD メモリカードのライトプロテクトは解除した状態で使用してください。
	SD メモリカードの容量不足。	十分な空き容量のある SD メモリカードに交換してください。	十分な空き容量のある SD メモリカードに交換してください。
	SD メモリカードの故障。	SD メモリカードを交換してください。	SD BUSY LED 点灯中に SD メモリカードを抜いたり電源断をしたりしないでください。 また、書込回数制限にもとづき定期的に SD メモリカードを交換してください。 また、SD PWR LED 点灯中に SD メモリカードを抜かないでください。

付属情報	付属情報 1：異常の詳細 • 0001Hex：SD メモリカード未装着 • 0002Hex：SD メモリカードの故障、フォーマット不正、種別不正 • 0003Hex：SD メモリカードがライトプロテクトされている • 0005Hex：SD メモリカードの容量不足 • 0302Hex：SD その他の原因による SD メモリカードへのファイルの保存失敗、SD メモリカードの故障
注意点／備考	なし

イベント名	OPC UA サーバ設定異常			**イベントコード**	35D00000Hex	
内容	OPC UA サーバ設定が不正です。					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	OPC UA サーバ機能	**検出タイミング**	ダウンロード時／電源投入時／コントローラリセット時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト		**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	自動復旧				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	• OPC UA サーバ機能を開始できません。 • OPC UA サーバ機能の稼働状態は「異常停止中」となります。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		—		—	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	• OPC UA サーバ設定転送中にコントローラを電断した。 • メモリオールクリア中にコントローラを電断した。 • リストア中にコントローラを電断したため OPC UA サーバ設定が不正。		Sysmac Studio から OPC UA サーバ設定を再転送してください。		なし	
	TCP ポート No.の重複		ソケット通信命令、FTP サーバ設定のポート No.と重複している場合、ポート番号が重複しないように設定してください。		ソケット通信命令、FTP サーバ設定のポート No.と重複している場合、ポート No.が重複しないように設定してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	サーバ証明書有効期限切れ			**イベントコード**	35D10000Hex	
内容	サーバ証明書が有効期限を過ぎました。					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	OPC UA サーバ機能	**検出タイミング**	ダウンロード時／電源投入時／コントローラリセット時／ 定期的（24 時間毎）
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト		**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	自動復旧				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		—		—	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	サーバ証明書に設定されている有効期限が過ぎた。		サーバ証明書を再生成してください。		サーバ証明書の有効期限を検討してください。	
付属情報	付属情報 1：サーバ証明書の有効期限 • "YYYY-MM-DD HH:MM:SS"					
注意点／備考	本イベントは、電源再投入またはコントローラリセットをするか、サーバ証明書が再生成されるまで、重複しては登録されません。					

イベント名	OPC UA システム処理異常			**イベントコード**	44180000Hex	
内容	OPC UA サーバ機能で致命的な異常を検出しました。					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	OPC UA サーバ機能	**検出タイミング**	―
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト		**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	―				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		―		―	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	ソフトウェアにエラーが発生した。		電源再投入またはコントローラリセットをしてください。		―	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	サーバ証明書不一致			**イベントコード**	15020000Hex	
内容	CPU ユニット内蔵 EtherNet/IP ポートの IP アドレスとサーバ証明書の IP アドレスが不一致です。					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	OPC UA サーバ機能	**検出タイミング**	電源投入時／コントローラリセット時／ダウンロード時／定期的（24 時間毎）
異常の属性	**重要度**	監視情報		**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	―				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		―		―	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	OPC UA サーバ機能を使用する設定のときに、CPU ユニット内蔵 EtherNet/IP ポートの IP アドレスを変更した。 • ChangeIPAdr（IP アドレス変更）命令で CPU ユニット内蔵 EtherNet/IP ポートの IP アドレス変更命令で IP アドレスを変更した。 • CPU ユニット内蔵 EtherNet/IP ポートの IP アドレス設定方法が「BOOTP サーバから取得」の場合、電源投入時に IP アドレスが変更された。 • CPU ユニット内蔵 EtherNet/IP ポートの IP アドレスが異なる値に設定されているプロジェクトを CPU ユニットにダウンロードした。		CPU ユニット内蔵 EtherNet/IP ポートの IP アドレスを元の設定に戻す、またはサーバ証明書を再生成してください。		CPU ユニット内蔵 EtherNet/IP ポートの IP アドレスを変更した後は、サーバ証明書の再生成をしてください。	
付属情報	付属情報 1：サーバ証明書の IP アドレス					
注意点／備考	本イベントは、電源再投入またはコントローラリセットをするか、サーバ証明書が再生成されるまで、重複しては登録されません。					

イベント名	サーバ証明書有効期限切れ予告			イベントコード	35D20000Hex	
内容	サーバ証明書が有効期限に近づきました。					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	OPC UA サーバ機能	検出タイミング	電源投入時／コントローラリセット時／定期的（24 時間毎）
異常の属性	重要度	監視情報		ログカテゴリ	システム	
	復旧方法	－				
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	サーバ証明書に設定されている有効期限が近づいた。		サーバ証明書を再生成してください。		サーバ証明書の有効期限を検討してください。	
付属情報	付属情報 1：サーバ証明書の有効期限 • "YYYY-MM-DD HH:MM:SS"					
注意点／備考	本イベントは、電源再投入またはコントローラリセットをするか、サーバ証明書が再生成されるまで、重複しては登録されません。					

イベント名	公開変数数オーバー			イベントコード	35D30000Hex	
内容	OPC UA サーバ機能の構築で、OPC UA クライアントに公開可能な変数の数の上限値を超えました。					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	OPC UA サーバ機能	検出タイミング	電源投入時／コントローラリセット時／リストア時／ダウンロード時／オンラインエディット時
異常の属性	重要度	監視情報		ログカテゴリ	システム	
	復旧方法	－				
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	OPC UA サーバ機能がアドレス空間を構築するとき、OPC UA の変数の数が上限値を超えた。		ネットワーク公開属性のグローバル変数の数を OPC UA クライアントに公開可能な上限値以下にしてください。		ネットワーク公開属性のグローバル変数の数を OPC UA に公開可能な上限値以下にしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	OPC UA サーバ設定が「使用しない」となっている場合、または OPC UA サーバ機能に対応していないプロジェクトを使用している場合は、本イベントは、発生しません。					

イベント名	未サポートのデータ型		**イベントコード**	35D40000Hex	
内容	OPC UA サーバ機能の構築で、ネットワーク公開属のグローバル変数に OPC UA クライアントには公開できないデータ型の変数がありました。				
発生源	PLC 機能モジュール	**発生源詳細**	OPC UA サーバ機能	**検出タイミング**	電源投入時／コントローラリセット時／リストア時／ダウンロード時／オンラインエディット時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	－			
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし	

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	－	－

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	ネットワーク公開属性を持つグローバル変数に OPC UA サーバで未サポートのデータ型があった。未サポートのデータ型は以下のとおり。 • 多次元配列指定された構造体 • 多次元配列をメンバとして含む構造体 • ネスト数が制限値を超えている構造体 • 共用体 • 配列の開始番号が 0 でない変数（例.Array[2..5]） • サイズが制限値を超えている変数 • 要素数が制限値を超えている配列 • メンバ数が制限値を超えている構造体	以下のデータ型のグローバル変数をネットワーク公開属性なしにしてください。 • 多次元配列指定された構造体 • 多次元配列をメンバとして含む構造体 • ネスト数が制限値を超えている構造体 • 共用体 • 配列の開始番号が 0 でない変数（例.Array[2..5]） • サイズが制限値を超えている変数 • 要素数が制限値を超えている配列 • メンバ数が制限値を超えている構造体	以下のデータ型のグローバル変数をネットワーク公開属性なしにしてください。 • 多次元配列指定された構造体 • 多次元配列をメンバとして含む構造体 • ネスト数が制限値を超えている構造体 • 共用体 • 配列の開始番号が 0 でない変数（例.Array[2..5]） • サイズが制限値を超えている変数 • 要素数が制限値を超えている配列 • メンバ数が制限値を超えている構造体

付属情報	付属情報 1：異常の詳細 • ビット 00:多次元配列指定された構造体 • ビット 01:多次元配列をメンバとして含む構造体 • ビット 02:ネスト数が制限値を超えている構造体 • ビット 03:共用体 • ビット 04:配列の開始番号が 0 でない変数（例.Array[2..5]） • ビット 05:サイズが制限値を超えている変数 • ビット 06:要素数が制限値を超えている配列 • ビット 07:メンバ数が制限値を超えている構造体
注意点／備考	なし

イベント名	公開バリュー属性数オーバー			イベントコード	35D50000Hex	
内容	OPC UA サーバ機能の構築で、OPC UA クライアントに公開するバリュー属性数の上限値を超えました。					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	OPC UA サーバ機能	検出タイミング	電源投入時／コントローラリセット時／リストア時／ダウンロード時／オンラインエディット時
異常の属性	重要度	監視情報		ログカテゴリ	システム	
	復旧方法	－				
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	OPC UA サーバ機能がアドレス空間を構築するとき、OPC UA のバリュー属性数が上限値を超えた。		ネットワーク公開属性のグローバル変数の数またはデータ型を確認し、バリュー属性数の上限値以下にしてください。		ネットワーク公開属性のグローバル変数の数またはデータ型を確認し、バリュー属性数の上限値以下にしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	構造体定義数オーバー			イベントコード	35D60000Hex	
内容	OPC UA サーバの構築で、OPC UA クライアントに公開する変数の構造体定義数の上限値を超えました。					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	OPC UA サーバ機能	検出タイミング	電源投入時／コントローラリセット時／リストア時／ダウンロード時／オンラインエディット時
異常の属性	重要度	監視情報		ログカテゴリ	システム	
	復旧方法	－				
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	OPC UA がアドレス空間を構築するとき、公開する変数の構造体定義数が上限値を超えた。		ネットワーク公開属性のグローバル変数のデータ型を確認し、構造体定義数を上限値以下にしてください。		ネットワーク公開属性のグローバル変数のデータ型を確認し、構造体定義数を上限値以下にしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	OPC UA クライアント接続拒否			**イベントコード**	85600000Hex	
内容	OPC UA クライアントからの接続要求を拒否しました。					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	OPC UA サーバ機能	**検出タイミング**	OPC UA クライアントからの接続要求時
異常の属性	**重要度**	監視情報		**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	－				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	OPC UA クライアントが接続できません。		

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	－	－
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	ユーザ認証情報が誤っている。	正しいユーザ名、パスワードを使用してください。	OPC UA クライアントに正しいユーザ名、パスワードを設定してください。
	クライアント証明書が不正。	CPU ユニットに登録しているクライアント証明書が正しいものであることを確認してください。	CPU ユニットに正しいクライアント証明書を登録してください。
		OPC UA クライアントが使用するクライアント証明書を正しいものにしてください。	OPC UA クライアントに正しいクライアント証明書を登録してください。
	クライアント証明書が拒否した証明書リストに登録されている。	クライアント証明書を信頼した証明書リストに登録してから再接続してください。	接続を許可するクライアントのクライアント証明書を信頼した証明書リストに登録してください。
	CA 証明書がクライアント認証または発行者認証の信頼した証明書リストに登録されていない。	CA 証明書をクライアント認証または発行者認証の信頼した証明書リストに登録してから再接続してください。	CA 証明書をクライアント認証または発行者認証の信頼した証明書リストに登録してください。
	最大接続可能セッション数を超えている。	最大接続可能セッション数以下でご使用ください。	最大接続可セッション数以下になるように構成を見直してください。

付属情報	付属情報 1：接続拒否理由 • 01Hex：ユーザ認証情報不正 • 02Hex：信頼できない証明書 • 04Hex：最大接続可能セッション数を超えている 付属情報 2：詳細情報 • 付属情報 1 が 01Hex のとき：ユーザ名
注意点／備考	なし

イベント名	OPC UA サーバ開始			**イベントコード**	95D00000Hex	
内容	OPC UA サーバを開始しました。					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	OPC UA サーバ機能	**検出タイミング**	OPC UA サーバ機能開始時
異常の属性	**重要度**	一般情報		**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	－				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	OPC UA サーバを開始した。		なし		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	OPC UA サーバ停止			**イベントコード**	95D10000Hex	
内容	OPC UA サーバを停止しました。					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	OPC UA サーバ機能	**検出タイミング**	OPC_Shutdown（OPC UA シャットダウン）命令を実行時／Sysmac Studio から OPC UA サーバ機能のシャットダウンを実行時
異常の属性	**重要度**	一般情報		**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	－				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	OPC UA サーバ機能を停止します。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	OPC UA サーバ機能を停止した。		なし		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	• 電源 OFF による OPC UA サーバ機能停止時は、本イベントは登録されません。 • OPC UA サーバ機能を開始するには、電源再投入またはコントローラリセットをしてください。					

イベント名	サーバ証明書生成			イベントコード	95D20000Hex	
内容	サーバ証明書が生成されました。 • サーバ証明書がないときにサーバ証明書を自動生成します。 • サーバ証明書の再生成を行うとサーバ証明書を作成します。					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	OPC UA サーバ機能	検出タイミング	サーバ証明書生成時
異常の属性	重要度	一般情報		ログカテゴリ	システム	
	復旧方法	－				
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	サーバ証明書が生成された。		なし		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	クライアント証明書の破棄			イベントコード	95D30000Hex	
内容	受信したクライアント証明書を破棄しました。					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	OPC UA サーバ機能	検出タイミング	OPC UA クライアントからの接続要求時
異常の属性	重要度	一般情報		ログカテゴリ	システム	
	復旧方法	－				
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	拒否した証明書リストに登録可能なクライアント証明書の最大数を超えた。		拒否した証明書リストに登録されているクライアント証明書を削除してください。		不要なクライアント証明書を拒否した証明書リストから削除してください。	
付属情報	付属情報 1：破棄されたクライアント証明書の IP アドレス					
注意点／備考	なし					

イベント名	OPC UA サーバ証明書およびセキュリティプロファイルのクリア			**イベントコード**	95D40000Hex	
内容	OPC UA サーバ証明書、セキュリティプロファイルを削除しました。					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	OPC UA サーバ機能	**検出タイミング**	ダウンロード時／リストア時／メモリオールクリアを指定チェックの上実行時
異常の属性	**重要度**	一般情報		**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	－				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	• OPC UA サーバ機能を搭載していないユニットバージョンの CPU ユニットで作成したバックアップファイルを使用してリストアを実行した。 • OPC UA サーバ機能を搭載していないユニットバージョンのプロジェクトをダウンロードした。 • メモリオールクリアを「OPC UA サーバ証明書、セキュリティプロファイルをクリアする」をチェックして実施した。		－		－	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

1-8-2 OPC UA 命令関連

以下の OPC UA 命令で発生する異常（イベント）の一覧を示します。イベントコードの下位 4 けたが命令のエラーコードを表します。

OPC UA 命令	名称
OPCUA_Shutdown	OPC UA サーバ機能のシャットダウン

イベント名	OPC UA サーバ終了／終了処理中			**イベントコード**	54015000Hex	
内容	OPC UA サーバ機能が既に終了しています、または、終了処理中です。					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	OPC UA サーバ機能	**検出タイミング**	命令実行時
異常の属性	**重要度**	監視情報		**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	－				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当命令を仕様どおりに終了。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	• OPC UA サーバ機能が終了している状態で OPCUA_Shutdown（OPC UA 機能のシャットダウン）命令を実行した。 • OPC UA サーバ機能の終了処理を実行中に OPCUA_Shutdown（OPC UA 機能のシャットダウン）命令を実行した。		コントローラの電源を再投入し、OPC UA サーバ機能を開始してから、該当命令を実行してください。		OPCUA_Shutdown（OPC UA 機能のシャットダウン）命令実行後は、再度該当命令は実行しないようにユーザプログラムを作成してください。または、Sysmac Studio でシャットダウンを指示した後は、該当命令は実行しないようにユーザプログラムを作成してください。	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります。					

イベント名	OPC UA サーバ初期処理中			**イベントコード**	54015001Hex	
内容	OPC UA サーバが初期処理中のため実行できませんでした。					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	OPC UA サーバ機能	**検出タイミング**	命令実行時
異常の属性	**重要度**	監視情報		**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	－				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当命令を仕様どおりに終了。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	OPC UA サーバ機能の初期処理中に OPCUA_Shutdown（OPC UA 機能のシャットダウン）命令を実行しました。		該当命令を再度実行してください。		該当命令を再度実行してください。	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります。					

イベント名	OPC UA サーバ未起動			**イベントコード**	54015002Hex	
内容	OPC UA サーバ機能が起動していないため、実行できませんでした。					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	OPC UA サーバ機能	**検出タイミング**	命令実行時
異常の属性	**重要度**	監視情報		**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	－				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当命令を仕様どおりに終了。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	OPC UA サーバ機能の設定が「使用しない」となっているときに該当命令を実行した。		OPC UA サーバ機能の設定を「使用する」に変更し、コントローラの電源を再投入してから該当命令を実行してください。		OPC UA サーバ機能の設定を「使用する」に変更し、コントローラの電源を再投入してから該当命令を実行してください。	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード（ErrorIDEx）がある命令は、拡張エラーコード（ErrorIDEx）。拡張エラーコード（ErrorIDEx）がない命令は、0x00000000					
注意点／備考	異常発生後にプログラムを変更した場合は、付属情報が正しく表示されない可能性があります。					

1-9 DB 接続サービス機能

以下の形式の CPU ユニットでだけ発生するイベントです。

- 形 NX701-□□20
- 形 NX102-□□20
- 形 NJ501-□□20
- 形 NJ101-□□20

1-9-1 DB 接続サービス関連

イベント名	スプール破壊			**イベントコード**	14D00000Hex	
内容	スプールが破壊されています					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	DB 接続サービス	**検出タイミング**	DB 接続サービス開始時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	異常解除	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		―		―	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	ユーザアプリケーションからのスプールへの不正な書込み		スプールの保存先エリアに、ユーザアプリケーションから書込みをしていないか確認してください		スプールの保存先エリアに、ユーザアプリケーションから書込みをしないでください	
	［DB 接続サービス設定］の［運転時のサービス開始］を［使用する］から［使用しない］に変更し、再度［使用する］に変更した（NX502 CPU ユニットの場合）		DB 接続サービスの起動時に前回の DB 接続稼働時のスプール設定、およびスプールを破壊しました。DB 接続サービスのサービス開始設定と DB コネクション設定が意図どおりであることを確認してください（NX502 CPU ユニットの場合）		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	実行ログ保存失敗			**イベントコード**	14D20000Hex	
内容	実行ログの SD メモリカードへの保存に失敗しました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	DB 接続サービス	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	異常解除	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		―		―	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	SD メモリカードが未装着		SD メモリカードを装着してください		SD メモリカードを装着してください	
	SD メモリカードが種別不正		SD または SDHC の SD メモリカードに交換してください		SD または SDHC の SD メモリカードを使用してください	
	SD メモリカードのフォーマット不正		SD メモリカードを Sysmac Studio でフォーマットしてください		フォーマットされた SD メモリカードを使用してください。 また、SD BUSY LED 点灯中に SD メモリカードを抜いたり電源断をしたりしないでください	
	SD メモリカードがライトプロテクトされている		SD メモリカードのライトプロテクトを解除してください		SD メモリカードのライトプロテクトは解除した状態で使用してください	
	SD メモリカードの容量不足		十分な空き容量のある SD メモリカードに交換してください		十分な空き容量のある SD メモリカードに交換してください	
	SD メモリカードの故障		SD メモリカードを交換してください		SD BUSY LED 点灯中に SD メモリカードを抜いたり電源断をしたりしないでください。 SD PWR LED 点灯中に SD メモリカードを抜かないでください。 また、書込回数制限にもとづき定期的に SD メモリカードを交換してください	
付属情報	付属情報 1：異常の詳細 0001Hex:SD メモリカード未装着 0002Hex:SD メモリカードの故障、フォーマット不正、種別不正 0003Hex:SD メモリカードがライトプロテクトされている 0302Hex:SD メモリカードの容量不足、または、その他の原因による SD メモリカードへのファイルの保存失敗、SD メモリカードの故障					
注意点／備考	重要度を監視情報に変更できます。					

イベント名	SQL 実行失敗ログ保存失敗			**イベントコード**	14D30000Hex	
内容	SQL 実行失敗ログの SD メモリカードへの保存に失敗しました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	DB 接続サービス	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	異常解除	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	−	−
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	SD メモリカードが未装着	SD メモリカードを装着してください	SD メモリカードを装着してください
	SD メモリカードが種別不正	SD または SDHC の SD メモリカードに交換してください	SD または SDHC の SD メモリカードを使用してください
	SD メモリカードのフォーマット不正	SD メモリカードを Sysmac Studio でフォーマットしてください	フォーマットされた SD メモリカードを使用してください。 また、SD BUSY LED 点灯中に SD メモリカードを抜いたり電源断をしたりしないでください
	SD メモリカードがライトプロテクトされている	SD メモリカードのライトプロテクトを解除してください	SD メモリカードのライトプロテクトは解除した状態で使用してください
	SD メモリカードの容量不足	十分な空き容量のある SD メモリカードに交換してください	十分な空き容量のある SD メモリカードに交換してください
	SD メモリカードの故障	SD メモリカードを交換してください	SD BUSY LED 点灯中に SD メモリカードを抜いたり電源断をしたりしないでください。 SD PWR LED 点灯中に SD メモリカードを抜かないでください。 また、書込回数制限にもとづき定期的に SD メモリカードを交換してください

付属情報	付属情報 1：異常の詳細 0001Hex:SD メモリカード未装着 0002Hex:SD メモリカードの故障、フォーマット不正、種別不正 0003Hex:SD メモリカードがライトプロテクトされている 0302Hex:SD メモリカードの容量不足、または、その他の原因による SD メモリカードへのファイルの保存失敗、SD メモリカードの故障
注意点／備考	重要度を監視情報に変更できます。

イベント名	DB 接続設定エラー			**イベントコード**	35300000Hex	
内容	DB 接続設定が不正です					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	DB 接続サービス	**検出タイミング**	ダウンロード時／電源投入時／コントローラリセット時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	自動復旧	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	DB 接続サービスを開始できません。 DB 接続サービスの稼働状態は“異常停止中”となります		

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	_DBC_Status	_sDBC_STATUS	DB 接続サービスステータス
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	DB 接続設定のダウンロード中にコントローラを電断した	Sysmac Studio から DB 接続設定を再転送してください	ユーザプログラムまたはコントローラ構成・設定のダウンロード中にコントローラを電断しないでください
	メモリオールクリア中にコントローラを電断したため DB 接続設定が不正		メモリオールクリア中にコントローラを電断しないでください
	リストア中にコントローラを電断したため DB 接続設定が不正		リストア中にコントローラを電断しないでください
	不揮発性メモリの故障	上記の処置を行っても本異常が頻発する場合は、CPU ユニットを交換してください	なし
付属情報	なし		
注意点／備考	なし		

イベント名	DB サーバ証明書エラー			イベントコード	35310000Hex	
内容	DB サーバ証明書のフォーマットが不正です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	DB 接続サービス	検出タイミング	ダウンロード時／電源投入時／コントローラリセット時／リストア時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	DB 接続設定を再転送後、DB 接続サービスを開始する	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	DB 接続サービスを開始できません。 DB 接続サービスの稼働状態は“異常停止中”となります		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_DBC_Status		_sDBC_STATUS		DB 接続サービスステータス	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	フォーマット(X.509)が不正な DB サーバ証明書をダウンロードした		正しいフォーマットの DB サーバ証明書を設定して Sysmac Studio から DB 接続設定を再転送してください			
	DB 接続設定のダウンロード中にコントローラを電断した		Sysmac Studio から DB 接続設定を再転送してください		ユーザプログラムまたはコントローラ構成・設定のダウンロード中にコントローラを電断しないでください	
	メモリオールクリア中にコントローラを電断したため DB 接続設定が不正				メモリオールクリア中にコントローラを電断しないでください	
	リストア中にコントローラを電断したため DB 接続設定が不正				リストア中にコントローラを電断しないでください	
	不揮発性メモリの故障		上記の処置を行っても本異常が頻発する場合は、CPU ユニットを交換してください		なし	
付属情報	付属情報 1：DB サーバ証明書ファイル名					
注意点／備考	なし					

イベント名	DB 接続システム処理異常			イベントコード	441C0000Hex	
内容	DB 接続サービスで致命的な異常を検知しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	DB 接続サービス	検出タイミング	－
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	電源再投入	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	ソフトウェアエラーが発生した		電源再投入		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	DB コネクション異常切断			**イベントコード**	85100000Hex	
内容	DB コネクションが異常切断しました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	DB 接続サービス	**検出タイミング**	DB 接続命令実行時、および、スプール再送時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	自動復旧	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	_DBC_Status	_sDBC_STATUS	DB 接続サービスステータス

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	サーバの電源 OFF	サーバの状態を確認し、正常に起動してください	サーバの状態を確認し、正常に起動してください
	サーバの DB の停止		
	Ethernet ケーブルのコネクタのはずれ	コネクタが正しく嵌合しているかを確認し、再接続してください	コネクタを確実に接続してください
	Ethernet ケーブルの断線	Ethernet ケーブルを交換してください	なし
	ノイズ	ノイズが多い場合はノイズ対策を行ってください	ノイズが多い場合はノイズ対策を行ってください

付属情報	付属情報 1：DB コネクション名
注意点／備考	なし

イベント名	DB 接続サービス開始			イベントコード	95300000Hex	
内容	DB 接続サービスを開始しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	DB 接続サービス	検出タイミング	DB 接続サービス開始時
異常の属性	重要度	一般情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_DBC_Status		_sDBC_STATUS		DB 接続サービスステータス	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	DB 接続サービスの開始に成功した		－		－	
付属情報	付属情報 1：開始理由 01Hex：DB_ControlService 命令実行、または、Sysmac Studio による操作 02Hex：コントローラの動作モード変更（プログラム→運転）					
注意点／備考	なし					

イベント名	DB 接続サービス停止			イベントコード	95310000Hex	
内容	DB 接続サービスを停止しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	DB 接続サービス	検出タイミング	DB 接続サービス停止時
異常の属性	重要度	一般情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_DBC_Status		_sDBC_STATUS		DB 接続サービスステータス	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	DB 接続サービスを停止した		－		－	
付属情報	付属情報 1：停止理由 01Hex：DB_ControlService 命令実行、または、Sysmac Studio による操作 02Hex：コントローラの動作モード変更（運転→プログラム） 03Hex：同期（ダウンロード）／メモリオールクリア／リストアの実行 04Hex：全停止フォールトレベルのコントローラ異常発生					
注意点／備考	なし					

イベント名	DB 接続サービス終了			イベントコード	95320000Hex	
内容	DB 接続サービスを終了しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	DB 接続サービス	検出タイミング	DB 接続サービス終了時
異常の属性	重要度	一般情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_DBC_Status		_sDBC_STATUS		DB 接続サービスステータス	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	DB 接続サービスを終了した		－		－	
付属情報	付属情報 1：終了理由 01Hex：DB_Shutdown 命令実行、または、Sysmac Studio による操作					
注意点／備考	なし					

イベント名	スプールクリア			イベントコード	95330000Hex	
内容	スプールに保留した SQL 文をクリアしました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	DB 接続サービス	検出タイミング	スプールデータクリア時
異常の属性	重要度	一般情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	スプールに保留した SQL 文をクリアした		－		－	
付属情報	付属情報 1：DB コネクション名 スプールが DB コネクションに関係なくすべてクリアされた場合は、"-" 付属情報 2：クリア理由 01Hex：DB_ControlSpool 命令実行、または、Sysmac Studio による操作 02Hex：設定したクリア条件に一致 03Hex：自動的にクリアされる条件に一致					
注意点／備考	なし					

イベント名	DB 接続サービス操作（開始）			イベントコード	95340000Hex	
内容	DB 接続サービスの開始操作をしました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	DB 接続サービス	検出タイミング	DB 接続サービス開始操作時
異常の属性	重要度	一般情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	アクセス
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	_DBC_Status		_sDBC_STATUS		DB 接続サービスステータス	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	SysmacStudio を使用して DB 接続サービスの開始操作をした		－		－	
付属情報	付属情報 1：接続方法 1：USB 直接接続 2：Ethernet 直接接続 3：USB リモート接続または EthernetHUB 接続 付属情報 2：（付属情報 1 が 2 か 3 のときのみ） 接続元の IP アドレス。Proxy 経由の場合は、Proxy の IP アドレス					
注意点／備考	なし					

イベント名	DB 接続サービス操作（停止）			**イベントコード**	95350000Hex	
内容	DB 接続サービスの停止操作をしました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	DB 接続サービス	**検出タイミング**	DB 接続サービス停止操作時
異常の属性	**重要度**	一般情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	アクセス
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_DBC_Status		_sDBC_STATUS		DB 接続サービスステータス	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	SysmacStudio を使用して DB 接続サービスの停止操作をした		－		－	
付属情報	付属情報 1：接続方法 1：USB 直接接続 2：Ethernet 直接接続 3：USB リモート接続または EthernetHUB 接続 付属情報 2：（付属情報 1 が 2 か 3 のときのみ） 接続元の IP アドレス。Proxy 経由の場合は、Proxy の IP アドレス					
注意点／備考	なし					

イベント名	DB 接続サービス操作（終了）			**イベントコード**	95360000Hex	
内容	DB 接続サービスの終了操作をしました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	DB 接続サービス	**検出タイミング**	DB 接続サービス終了操作時
異常の属性	**重要度**	一般情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	アクセス
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_DBC_Status		_sDBC_STATUS		DB 接続サービスステータス	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	SysmacStudio を使用して DB 接続サービスの終了操作をした		－		－	
付属情報	付属情報 1：接続方法 1：USB 直接接続 2：Ethernet 直接接続 3：USB リモート接続または EthernetHUB 接続 付属情報 2：（付属情報 1 が 2 か 3 のときのみ） 接続元の IP アドレス。Proxy 経由の場合は、Proxy の IP アドレス					
注意点／備考	なし					

イベント名	スプールクリア操作			**イベントコード**	95370000Hex	
内容	スプールに保留した SQL 文のクリア操作をしました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	DB 接続サービス	**検出タイミング**	スプールクリア操作時
異常の属性	**重要度**	一般情報	**復旧方法**	−	**ログカテゴリ**	アクセス
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	SysmacStudio を使用してスプールに保留した SQL 文のクリア操作をした。		−		−	
付属情報	付属情報 1：接続方法 1：USB 直接接続 2：Ethernet 直接接続 3：USB リモート接続または EthernetHUB 接続 付属情報 2：（付属情報 1 が 2 か 3 のときのみ） 接続元の IP アドレス。Proxy 経由の場合は、Proxy の IP アドレス					
注意点／備考	なし					

イベント名	稼働ログのクリア操作			**イベントコード**	95380000Hex	
内容	稼働ログのクリア操作をしました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	DB 接続サービス	**検出タイミング**	稼働ログのクリア操作時
異常の属性	**重要度**	一般情報	**復旧方法**	−	**ログカテゴリ**	アクセス
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	SysmacStudio を使用して稼働ログのクリア操作をした		−		−	
付属情報	付属情報 1：接続方法 1：USB 直接接続 2：Ethernet 直接接続 3：USB リモート接続または EthernetHUB 接続 付属情報 2：（付属情報 1 が 2 か 3 のときのみ） 接続元の IP アドレス。Proxy 経由の場合は、Proxy の IP アドレス					
注意点／備考	なし					

イベント名	デバッグログ操作（開始）			イベントコード	95390000Hex	
内容	デバッグログの開始操作をしました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	DB 接続サービス	検出タイミング	デバッグログの開始操作時
異常の属性	重要度	一般情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	アクセス
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	SysmacStudio を使用してデバッグログの開始操作をした		－		－	
付属情報	付属情報 1：接続方法 1：USB 直接接続 2：Ethernet 直接接続 3：USB リモート接続または EthernetHUB 接続 付属情報 2：（付属情報 1 が 2 か 3 のときのみ） 接続元の IP アドレス。Proxy 経由の場合は、Proxy の IP アドレス					
注意点／備考	なし					

イベント名	デバッグログ操作（停止）			イベントコード	953A0000Hex	
内容	デバッグログの停止操作をしました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	DB 接続サービス	検出タイミング	デバッグログの停止操作時
異常の属性	重要度	一般情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	アクセス
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	SysmacStudio を使用してデバッグログの停止操作をした		－		－	
付属情報	付属情報 1：接続方法 1：USB 直接接続 2：Ethernet 直接接続 3：USB リモート接続または EthernetHUB 接続 付属情報 2：（付属情報 1 が 2 か 3 のときのみ） 接続元の IP アドレス。Proxy 経由の場合は、Proxy の IP アドレス					
注意点／備考	なし					

1-9-2 DB 接続命令関連

イベント名	DB 接続サービス未開始			**イベントコード**	54013000Hex	
内容	DB 接続サービスが開始していません					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	命令	**検出タイミング**	命令実行時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	−	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	該当命令を実行する前に、DB 接続サービスの開始指示をしていない		DB 接続サービスを開始してください。または、該当命令が DB 接続サービス動作中に実行するようにユーザプログラムを修正してください		該当命令が DB 接続サービス動作中に実行するようにユーザプログラムを作成してください	
	該当命令を実行する前に、DB 接続サービスの停止指示をした					
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード(ErrorIDEx)					
注意点／備考	なし					

イベント名	DB 接続サービス動作モード変更失敗			**イベントコード**	54013001Hex	
内容	DB 接続サービスの動作モードを変更できませんでした					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	命令	**検出タイミング**	命令実行時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	“稼働モード”で動作中に、該当命令で“テストモード”への動作モード変更を実行した		DB 接続サービスを停止してから、該当命令を実行してください。または、該当命令が DB 接続サービスの状態が“アイドル”のときに実行するようにユーザプログラムを修正してください。		該当命令が DB 接続サービスの状態が“アイドル”のときに実行するようにユーザプログラムを作成してください	
	“テストモード”で動作中に、該当命令で“稼働モード”への動作モード変更を実行した					
	DB 接続サービスが停止処理中に、DB 接続サービスの開始を指示した		しばらくしてから、該当命令を実行してください。		DB_Insert 命令、DB_Update 命令、DB_Select 命令、DB_Delete 命令が実行中の間は、DB 接続サービスの停止を指示しても、DB 接続サービスは停止処理中となります。 DB 接続サービスの停止は、DB_Insert 命令、DB_Update 命令、DB_Select 命令、DB_Delete 命令の実行が完了してから、指示してください。	
	DB 接続サービスの停止処理中に、DB 接続サービスのシャットダウンを指示した					
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード(ErrorIDEx)					
注意点／備考	なし					

イベント名	DB 接続サービス終了／終了処理中			イベントコード	54013002Hex	
内容	DB 接続サービスが既に終了しています、または、終了処理中です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		

システム定義変数	変数名	データ型	名称
	なし	－	－

発生要因とその処置	発生要因（推定原因）	処置対策	再発防止
	DB 接続サービスが終了している状態で該当命令を実行した	コントローラの電源を再投入し、DB 接続サービスを開始してから、該当命令を実行してください	DB_Shutdown 命令実行後は、該当命令は実行しないようにユーザプログラムを作成してください。または、Sysmac Studio でシャットダウンを指示した後は、該当命令は実行しないようにユーザプログラムを作成してください。
	DB 接続サービスの終了処理を実行中に該当命令を実行した		

付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード(ErrorIDEx)
注意点／備考	なし

イベント名	DB コネクション名不正			イベントコード	54013003Hex	
内容	指定した DB コネクション名が DB コネクション設定に設定されていません					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		

システム定義変数	変数名	データ型	名称
	なし	－	－

発生要因とその処置	発生要因（推定原因）	処置対策	再発防止
	該当命令の入力変数「DBConnectionName」に指定した DB コネクション名が誤っている	該当命令の入力変数「DBConnectionName」に正しい DB コネクション名を指定してください	該当命令の入力変数「DBConnectionName」の DB コネクション名が正しく指定されていることを確認してください
	DB コネクション設定の DB コネクション名が誤っている	DB コネクション設定に正しい DB コネクション名を指定してください	DB コネクション設定の DB コネクション名が正しく設定されていることを確認してください

付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード(ErrorIDEx)
注意点／備考	なし

イベント名	DB コネクション接続拒否			イベントコード	54013004Hex	
内容	DB が接続を拒否しました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	DB コネクション設定で設定したユーザ名、または、パスワードが間違っている		DB コネクション設定に正しいユーザ名、パスワードを入力してください		DB コネクション設定に正しいユーザ名、パスワードを入力してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード(ErrorIDEx)					
注意点／備考	なし					

イベント名	DB コネクション接続失敗			イベントコード	54013005Hex	
内容	DB に接続できませんでした					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	指定した IP アドレス、または、指定したホスト名のサーバが存在しない		DB コネクション設定に正しい IP アドレス、または、ホスト名を入力してください		DB コネクション設定に正しい IP アドレス、または、ホスト名を入力してください	
	サーバの電源 OFF		サーバの状態を確認し、正常に起動してください		サーバの状態を確認し、正常に起動してください	
	サーバの DB の停止					
	Ethernet ケーブルのコネクタのはずれ		コネクタが正しく嵌合しているかを確認し、再接続してください		コネクタを確実に接続してください	
	Ethernet ケーブルの断線		Ethernet ケーブルを交換してください		なし	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード(ErrorIDEx)					
注意点／備考	なし					

イベント名	DB コネクション既接続			イベントコード	54013006Hex	
内容	同一の DB コネクション名で既に DB コネクションを接続しています					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	同一の DB コネクション名で既に DB コネクションを接続している状態で、該当命令を実行した		該当命令が DB コネクションが未接続状態で実行するようにユーザプログラムを修正してください		該当命令が DB コネクションが未接続状態で実行するようにユーザプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード(ErrorIDEx)					
注意点／備考	なし					

イベント名	DB コネクション接続数超過			イベントコード	54013007Hex	
内容	同時に接続可能な DB コネクション数を超えています					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	同時に接続可能な DB コネクション数が最大の状態で、該当命令を実行した		同時に接続可能な DB コネクション数の最大を超えない範囲で DB コネクションを接続するようにユーザプログラムを修正してください		同時に接続可能な DB コネクション数の最大を超えない範囲で DB コネクションを接続するようにユーザプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード(ErrorIDEx)					
注意点／備考	なし					

イベント名	DB コネクション不正			イベントコード	54013008Hex	
内容	指定した DB コネクションが不正、または、既に DB コネクションが未接続です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	該当命令の入力変数「DBConnection」に指定した DB コネクションが誤っている		該当命令の入力変数「DBConnection」に正しい DB コネクションを指定してください		該当命令の入力変数「DBConnection」に正しい DB コネクションが指定されていることを確認してください	
	該当命令の入力変数「DBConnection」に指定した DB コネクションが未接続である		DB_Connect 命令で DB コネクションを接続してから、該当命令を実行するようにユーザプログラムを修正してください		DB_Connect 命令で DB コネクションを接続してから、該当命令を実行するようにユーザプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード(ErrorIDEx)					
注意点／備考	なし					

イベント名	DB マップ変数不正			イベントコード	54013009Hex	
内容	指定した DB マップ変数が不正です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	DB マップ変数として、メンバに派生データ型を含む構造体型の変数を指定した		DB マップ変数で使用する構造体型のメンバは、基本データ型を指定してください		DB マップ変数として指定する変数のデータ型を確認してから、ユーザプログラムを作成してください	
	DB マップ変数として構造体型以外の変数を指定した		DB マップ変数は構造体型の変数を指定してください			
	INSERT 用、UPDATE 用の DB マップ変数として構造体配列変数を指定した		INSERT 用、UPDATE 用の DB マップ変数は、構造体変数を指定してください			
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード(ErrorIDEx)					
注意点／備考	なし					

<table>
<tr><td>イベント名</td><td colspan="2">DB マップ変数未登録</td><td>イベントコード</td><td colspan="2">5401300AHex</td></tr>
<tr><td>内容</td><td colspan="5">指定した DB マップ変数は登録されていません</td></tr>
<tr><td>発生源</td><td colspan="2">PLC 機能モジュール</td><td>発生源詳細</td><td>命令</td><td>検出タイミング</td><td>命令実行時</td></tr>
<tr><td>異常の属性</td><td>重要度</td><td>監視情報</td><td>復旧方法</td><td>－</td><td>ログカテゴリ</td><td>システム</td></tr>
<tr><td>発生の影響</td><td>ユーザプログラム</td><td>継続</td><td>動作</td><td colspan="3">該当命令を仕様どおりに終了</td></tr>
<tr><td>システム定義変数</td><td colspan="2">変数名</td><td colspan="2">データ型</td><td colspan="2">名称</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">なし</td><td colspan="2">－</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>発生要因とその処置</td><td colspan="2">発生要因（推定原因）</td><td colspan="2">処置対策</td><td colspan="2">再発防止</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">DB_CreateMapping 命令で DB マップ変数を作成していない</td><td colspan="2">DB_CreateMapping 命令で DB マップ変数を作成してから、該当命令を実行するようにユーザプログラムを修正してください</td><td colspan="2">DB_CreateMapping 命令で DB マップ変数を作成してから、該当命令を実行するようにユーザプログラムを作成してください</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">DB マップ変数として登録した変数でない変数を「MapVar」に指定した</td><td colspan="2" rowspan="2">該当命令の入力パラメータを確認し、ユーザプログラムを修正してください</td><td colspan="2" rowspan="2">該当命令の入力パラメータには、DB_CreateMapping 命令で指定した DB コネクション、および、DB_CreateMapping 命令で作成した DB マップ変数を指定してください</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">DB_CreateMapping 命令実行時に指定した DB コネクションと異なる DB コネクションを、該当命令で指定した</td></tr>
<tr><td>付属情報</td><td colspan="6">付属情報 1：異常の発生箇所
付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号
付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし
付属情報 4：拡張エラーコード(ErrorIDEx)</td></tr>
<tr><td>注意点／備考</td><td colspan="6">なし</td></tr>
</table>

イベント名	SQL 実行エラー			**イベントコード**	5401300BHex	
内容	実行した SQL 文が DB でエラーになりました					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	命令	**検出タイミング**	命令実行時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当命令を仕様どおりに終了		

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	－	－
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	DB マップ変数の構造体のメンバ名と同じ名前のカラムが存在しない	DB マップ変数の構造体のメンバ名とカラムの名称が合っているかを確認してください	DB マップ変数の構造体のメンバ名とカラムの名称が合っているかを確認してください
	DB_CreateMapping 命令で指定したテーブルが DB に存在しない	DB_CreateMapping 命令で指定したテーブル名が正しいかを確認してください	DB_CreateMapping 命令で指定したテーブル名が正しいかを確認してください
	DB マップ変数の構造体のメンバの値が、カラムのデータ型に変換できない	DB マップ変数の構造体のメンバのデータ型と、カラムのデータ型が変換可能なデータ型かを確認してください	DB マップ変数の構造体のメンバのデータ型と、カラムのデータ型が変換可能なデータ型かを確認してください
	カラムの値を、DB マップ変数の構造体のメンバのデータ型に変換できない	DB マップ変数の構造体のメンバのデータ型と、カラムのデータ型が変換可能なデータ型かを確認してください。または、マッピングされているカラムの値が NULL でないことを確認してください。	DB マップ変数の構造体のメンバのデータ型と、カラムのデータ型が変換可能なデータ型かを確認してください。または、値が NULL となるカラムをマッピングしないよう構造体のメンバを定義してください。
	DB マップ変数の構造体のメンバの値が、カラムのデータ型の範囲を超えている	DB マップ変数の構造体のメンバの値を確認してください	DB マップ変数の構造体のメンバの値がカラムのデータ型の範囲内になるようにユーザプログラムを作成してください
	抽出条件で指定したカラムが DB のレコードに存在しない（DB_Select 命令、DB_Update 命令、DB_Delete 命令）	抽出条件で指定したカラム名が正しいかを確認してください。または、抽出条件の構文が正しいかを確認してください	抽出条件で指定したカラム名が正しいかを確認してください。または、抽出条件の構文が正しいかを確認してください。
	抽出条件の構文の誤り（DB_Select 命令、DB_Update 命令、DB_Delete 命令）		
	ソート条件で指定したカラムが DB のレコードに存在しない（DB_Select 命令）	ソート条件で指定したカラム名が正しいかを確認してください。または、ソート条件の構文が正しいかを確認してください	ソート条件で指定したカラム名が正しいかを確認してください。または、ソート条件の構文が正しいかを確認してください。
	ソート条件の構文の誤り（DB_Select 命令）		
	テーブルへのアクセス権限がない	テーブルのアクセス権限を確認してください	テーブルのアクセス権限を確認してください
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード(ErrorIDEx)					
注意点／備考	なし					

イベント名	スプール容量超過			**イベントコード**	5401300CHex	
内容	スプールの最大容量を超えたため SQL 文を保留できませんでした					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	命令	**検出タイミング**	命令実行時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当命令を仕様どおりに終了		

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	－	－

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	ネットワーク障害などにより DB に接続できない状態が続いている	ネットワーク障害を取り除いてください	DB_GetConnectionStatus 命令でスプール使用率を参照し、スプール使用率が一定量を超えた場合、DB_INSERT 命令、および、DB_UPDATE 命令は実行しないように、ユーザプログラムで制御してください。 または、 DB_GetConnectionStatus 命令で DB コネクション状態を参照し、“接続中”に遷移した場合、DB_ControlSpool 命令でスプールに保留した SQL 文を再送してください
	スプールに保留した SQL 文の再送処理を実行していない（スプールの再送設定が“手動再送”のとき）	DB コネクションが再接続した状態で DB_ControlSpool 命令でスプールに保留した SQL 文を再送してください	DB_GetConnectionStatus 命令で DB コネクション状態を参照し、“接続中”に遷移した場合、DB_ControlSpool 命令でスプールに保留した SQL 文を再送してください

付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード(ErrorIDEx)
注意点／備考	なし

イベント名	抽出条件不正			**イベントコード**	5401300EHex	
内容	入力した抽出条件が不正です					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	命令	**検出タイミング**	命令実行時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	入力変数「Where」に NULL 文字（16#00）だけの文字列を指定した		入力変数「Where」に抽出条件を表す文字列を指定してください		入力変数「Where」に抽出条件を表す文字列を指定してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード(ErrorIDEx)					
注意点／備考	なし					

イベント名	ログコード範囲外			**イベントコード**	54013010Hex	
内容	入力したログコードの値が有効範囲外です					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	命令	**検出タイミング**	命令実行時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	ログコードに 0～9999 以外を指定した		ログコードが 0～9999 の範囲になるようにユーザプログラムを修正してください		ログコードが 0～9999 の範囲になるようにユーザプログラムを作成してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード(ErrorIDEx)					
注意点／備考	なし					

イベント名	DB コネクション異常切断発生中			**イベントコード**	54013011Hex	
内容	DB コネクションが異常切断しているため実行できませんでした					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	命令	**検出タイミング**	命令実行時
異常の属性	**重要度**	命令実行時	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	サーバの電源 OFF		サーバの状態を確認し、正常に起動してください		サーバの状態を確認し、正常に起動してください	
	サーバの DB の停止					
	Ethernet ケーブルのコネクタのはずれ		コネクタが正しく嵌合しているかを確認し、再接続してください		コネクタを確実に接続してください	
	Ethernet ケーブルの断線		Ethernet ケーブルを交換してください		なし	
	ノイズ		ノイズが多い場合はノイズ対策を行ってください		ノイズが多い場合はノイズ対策を行ってください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード(ErrorIDEx)					
注意点／備考	なし					

イベント名	DB 接続命令実行タイムアウト			**イベントコード**	54013012Hex	
内容	指定した命令実行タイムアウト時間内に命令が終了しませんでした					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	命令	**検出タイミング**	命令実行時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	サーバの電源 OFF		サーバの状態を確認し、正常に起動してください		サーバの状態を確認し、正常に起動してください	
	Ethernet ケーブルのコネクタのはずれ		コネクタが正しく嵌合しているかを確認し、再接続してください		コネクタを確実に接続してください	
	Ethernet ケーブルの断線		Ethernet ケーブルを交換してください		なし	
	サーバの処理時間が長い		デバッグログでサーバの応答時間を確認し、適切なタイムアウト時間に変更してください		デバッグログでサーバの応答時間を確認し、適切なタイムアウト時間を指定してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード(ErrorIDEx)					
注意点／備考	なし					

イベント名	DB 接続サービス異常停止中			**イベントコード**	54013013Hex	
内容	DB 接続サービスが異常停止中のため実行できませんでした					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	命令	**検出タイミング**	命令実行時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	DB 接続設定が壊れている		Sysmac Studio の同期機能で DB 接続設定を再転送してください		DB 接続設定のダウンロード中のコントローラを電断しないでください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード(ErrorIDEx)					
注意点／備考	なし					

イベント名	スプールデータあり			**イベントコード**	54013014Hex	
内容	既にスプールに保留した SQL 文が存在します					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	命令	**検出タイミング**	命令実行時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	既にスプールに保留した SQL 文が存在する状態で、DB_Insert 命令、DB_Update 命令を実行した		なし		なし	
	既にスプールに保留した SQL 文が存在する状態で、DB_Select 命令、DB_Delete 命令を実行した		スプールに保留されている SQL 文の再送処理が完了してから、再度命令を実行してください		スプールに SQL 文が保留されていない状態で、該当命令を実行してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード(ErrorIDEx)					
注意点／備考	なし					

イベント名	DB 接続サービス初期処理中			**イベントコード**	54013015Hex	
内容	DB 接続サービスが初期処理中のため実行できませんでした					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	命令	**検出タイミング**	命令実行時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	_DBC_Status		_sDBC_STATUS		DB 接続サービスステータス	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	DB 接続サービスの初期処理中に該当命令を実行した		DB 接続サービスの動作状態が動作中、または、アイドルになってから該当命令を実行してください		システム定義変数「_DBC_Status」で、DB 接続サービスの動作状態を確認してから命令を実行してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード(ErrorIDEx)					
注意点／備考	なし					

イベント名	DB 処理中			**イベントコード**	54013016Hex	
内容	サーバ側 DB が処理中のため実行できませんでした					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	命令	**検出タイミング**	命令実行時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	−	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	前回実行した命令で DB 接続命令実行タイムアウトが発生したが、サーバ側 DB の処理が完了していない状態で該当命令を実行した		ユーザプログラムから該当命令を再実行してください。ただし、DB_Insert 命令、または、DB_Update 命令の実行で、かつ、スプール機能を有効にしている場合は、SQL 文はスプールに保留されますので、該当命令を再実行する必要はありません。		サーバ側 DB の処理時間の試算を行い、DB 接続命令の実行タイミングを適切な頻度に調整してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード(ErrorIDEx)					
注意点／備考	なし					

イベント名	稼働ログ無効			**イベントコード**	54013017Hex	
内容	指定した稼働ログが無効のためログを記録できませんでした					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	命令	**検出タイミング**	命令実行時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	−	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	入力変数「LogType」で実行ログを指定したが、実行ログが無効である		DB 接続サービス設定で実行ログを有効にしてください		実行ログを有効にした状態で命令を実行してください	
	入力変数「LogType」でデバッグログを指定したが、デバッグログが記録停止中である		DB_ControlService 命令でデバッグログの記録を開始してください。または、Sysmac Studio からデバッグログの記録を開始してください		デバッグログの記録を開始した状態で命令を実行してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード(ErrorIDEx)					
注意点／備考	なし					

イベント名	プロシージャハンドル不正			イベントコード	54013018Hex	
内容	指定したプロシージャハンドルが不正です					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	該当命令の入力変数「ProcHandle」に指定したプロシージャハンドルが誤っている		該当命令の入力変数「ProcHandle」に正しいプロシージャハンドルを指定してください		該当命令の入力変数「ProcHandle」に正しいプロシージャハンドルが指定されていることを確認してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード(ErrorIDEx)					
注意点／備考	なし					

イベント名	対象外データベース種別への命令実行			イベントコード	54013019Hex	
内容	本命令の対象となっていないデータベース種別を指定して命令が実行されました					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	−	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	DB コネクション設定で設定したデータベース種別が該当命令ではサポート対象外		DB コネクション設定で設定したデータベース種別をサポートしているデータベース種別に修正してください		DB コネクション設定で設定したデータベース種別がサポートしているデータベース種別であることを確認してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード(ErrorIDEx)					
注意点／備考	なし					

イベント名	ストアドプロシージャ名不正			イベントコード	5401301AHex	
内容	指定したストアドプロシージャ名が存在しません					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	該当命令の入力変数「ProcName」で指定された名前のストアドプロシージャがサーバ側 DB に存在しない （注）指定したストアドプロシージャ名が DB 上に見つからない場合も含みます。ストアドプロシージャが存在する場合でも、ストアドプロシージャへのアクセス権限がないなどの理由により、DB 接続サービスがストアドプロシージャ名を見つけられないことがあります		該当命令の入力変数「ProcName」に存在するストアドプロシージャ名を指定してください		該当命令の入力変数「ProcName」に存在するストアドプロシージャ名が指定されていることを確認してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード(ErrorIDEx)					
注意点／備考	なし					

イベント名	ストアドプロシージャ引数不正			イベントコード	5401301BHex	
内容	ストアドプロシージャの引数とアタッチした引数の情報が一致しません					
発生源	PLC 機能モジュール		発生源詳細	命令	検出タイミング	命令実行時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	－	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	該当命令の入力変数「ArgIn」、「ArgOut」、「ArgInOut」とサーバ側 DB から取得するストアドプロシージャの引数情報の名前、数、型が一致しない		該当命令の入力変数「ArgIn」、「ArgOut」、「ArgInOut」とサーバ側 DB のストアドプロシージャの引数の名前、数、型を一致させてください		該当命令の入力変数「ArgIn」、「ArgOut」、「ArgInOut」とサーバ側 DB のストアドプロシージャの引数の名前、数、型が一致することを確認してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード(ErrorIDEx)					
注意点／備考	なし					

イベント名	ストアドプロシージャ結果セットカラム数不正			**イベントコード**	5401301CHex	
内容	ストアドプロシージャの結果セットのカラム数が格納先の構造体型変数のメンバ数と一致しません					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	命令	**検出タイミング**	命令実行時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	該当命令により取得された結果セットのカラム数と格納先の構造体型変数のメンバ数が一致しない		該当命令により取得された結果セットのカラム数と格納先の構造体型変数のメンバ数を一致させてください		該当命令により取得された結果セットのカラム数と格納先の構造体型変数のメンバ数が一致することを確認してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード(ErrorIDEx)					
注意点／備考	なし					

イベント名	ストアドプロシージャ実行時不正			**イベントコード**	5401301DHex	
内容	ストアドプロシージャ実行時にエラーが発生しました。付属情報 4 を参考にトラブルシュートを行ってください。					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	命令	**検出タイミング**	命令実行時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	付属情報 4 およびマニュアルを参考に発生要因を確認ください		付属情報 4 およびマニュアルを参考に発生要因に該当しないように修正を行ってください		付属情報 4 およびマニュアルを参考に発生要因に該当しないことを確認してください	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード(ErrorIDEx)					
注意点／備考	なし					

イベント名	DB 接続サービス未起動			**イベントコード**	5401301EHex	
内容	DB 接続サービスが［使用しない］設定です					
発生源	PLC 機能モジュール		**発生源詳細**	命令	**検出タイミング**	命令実行時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	－	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当命令を仕様どおりに終了		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	DB 接続サービスを［使用しない］設定で該当命令を実行した		DB 接続サービスを開始してください		－	
付属情報	付属情報 1：異常の発生箇所 付属情報 2：異常の発生箇所詳細　回路番号。プログラムセクションの場合はセクション先頭からの回路番号。ST の場合は行番号 付属情報 3：異常が発生した命令の命令名、命令インスタンス名。候補が複数ある場合は複数表示。特定できない場合は表示なし 付属情報 4：拡張エラーコード(ErrorIDEx)					
注意点／備考	なし					

2

NX ユニットのイベント

2-1 NX シリーズデジタル I/O ユニット 2-2
2-1-1 デジタル I/O ユニット関連 2-2
2-2 NX シリーズアナログ I/O ユニット 2-10
2-2-1 アナログ I/O ユニット関連 2-10
2-2-2 温度入力ユニット関連 2-31
2-2-3 ヒータ断線検知ユニット関連 2-44
2-2-4 高速アナログ入力ユニット関連 2-55
2-3 NX シリーズシステムユニット 2-73
2-3-1 システムユニット関連 2-73
2-4 NX シリーズ位置インタフェースユニット 2-75
2-4-1 位置インタフェースユニット関連 2-75
2-5 NX シリーズコミュニケーションインタフェースユニット 2-88
2-5-1 コミュニケーションインタフェースユニット関連 2-88
2-6 NX シリーズセーフティ CPU ユニット 2-98
2-6-1 システム異常 2-98
2-6-2 通信機能に関する異常 2-99
2-6-3 プログラム実行機能に関する動作継続異常 2-107
2-6-4 プログラム実行機能に関する動作停止異常 2-116
2-6-5 設定に関する異常 2-118
2-6-6 その他の異常 2-121
2-6-7 ユーザアクセスに関するログ 2-122
2-6-8 リストア機能に関する異常 2-123
2-7 NX シリーズセーフティ I/O ユニット 2-129
2-7-1 システム異常 2-129
2-7-2 通信機能に関する異常 2-130
2-7-3 セーフティ入出力機能に関する異常 2-135
2-7-4 その他の異常 2-142
2-7-5 ユーザアクセスに関するログ 2-142
2-8 NX シリーズロードセル入力ユニット 2-144
2-8-1 ロードセル入力ユニット関連 2-144
2-9 NX シリーズ IO-Link マスタユニット 2-158
2-9-1 IO-Link マスタユニット関連 2-158

2-1 NX シリーズデジタル I/O ユニット

以下の形式のユニットで発生するイベントです。
- 形 NX-ID□□□□
- 形 NX-OC□□□□
- 形 NX-OD□□□□

2-1-1 デジタル I/O ユニット関連

ここでは、デジタル I/O ユニットで発生する異常の内容について説明します。

イベント名	不揮発性メモリハードウェア異常			**イベントコード**	00200000Hex	
内容	不揮発性メモリが異常です。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	NX ユニットの電源投入時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト		**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	【CPU ユニットの NX バスの場合】 ユニット電源の再投入または NX バスのリスタート 【通信カプラユニットの場合】 ユニット電源の再投入またはスレーブターミナルのリスタート コントローラで異常検出する場合は、コントローラの全異常解除をさらに実行				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当 NX ユニットの I/O リフレッシュ停止。該当 NX ユニットへのメッセージ不可。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		―		―	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	不揮発性メモリの故障。		【CPU ユニットの NX バスの場合】 ユニット電源の再投入、または NX バスのリスタートをしてください。上記の処置を行っても本異常が再発する場合は、該当する NX ユニットを交換してください。 【通信カプラユニットの場合】 ユニット電源の再投入、またはスレーブターミナルのリスタートをしてください。上記の処置を行っても本異常が再発する場合は、該当する NX ユニットを交換してください。		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

<table>
<tr><td>イベント名</td><td colspan="3">マスタ保存制御パラメータ異常</td><td>イベントコード</td><td colspan="2">10410000Hex</td></tr>
<tr><td>内容</td><td colspan="6">マスタ保存の制御パラメータに異常が発生しています。</td></tr>
<tr><td>発生源</td><td colspan="2">サポートソフトの接続先とシステム構成に依存</td><td>発生源詳細</td><td>NX ユニット</td><td>検出タイミング</td><td>NX ユニットの電源投入時</td></tr>
<tr><td rowspan="2">異常の属性</td><td>重要度</td><td colspan="2">軽度フォールト</td><td>ログカテゴリ</td><td colspan="2">システム</td></tr>
<tr><td>復旧方法</td><td colspan="5">【CPU ユニットの NX バスの場合】
【縮退運転設定が「停止する」の場合】
NX ユニットのリスタートののち、NX バス機能モジュールの異常解除
【縮退運転設定が「縮退する」の場合】
NX ユニットのリスタートののち、NX ユニットの異常解除
【通信カプラユニットの場合】
【縮退運転設定が「停止する」の場合】
コントローラで異常検出する場合は、NX ユニットのリスタートののち、コントローラの全異常解除
コントローラで異常検出しない場合は、NX ユニットのリスタートののち、通信カプラユニットの異常解除
【縮退運転設定が「縮退する」の場合】
NX ユニットのリスタートののち、通信カプラユニットの異常解除</td></tr>
<tr><td>発生の影響</td><td>ユーザプログラム</td><td>継続</td><td>動作</td><td colspan="3">該当 NX ユニットの I/O リフレッシュ停止。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">システム定義変数</td><td colspan="2">変数名</td><td colspan="2">データ型</td><td colspan="2">名称</td></tr>
<tr><td colspan="2">なし</td><td colspan="2">－</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td rowspan="5">発生要因とその処置</td><td colspan="2">発生要因（推定原因）</td><td colspan="2">処置対策</td><td colspan="2">再発防止</td></tr>
<tr><td colspan="6">【CPU ユニットの NX バスの場合】</td></tr>
<tr><td colspan="2">ユニット動作設定の書き込み中に CPU ユニットを電断した。または CPU ユニットの不揮発性メモリのうち、該当する NX ユニットのユニット動作設定を保存しているエリアが異常。</td><td colspan="2">NX ユニットのユニット動作設定を再度ダウンロードしてください。上記の処置を行っても本異常が再発する場合は、CPU ユニットを交換してください。</td><td colspan="2">NX ユニットへのユニット動作設定の転送中やメッセージによる NX ユニットのパラメータ保存の実行中に、CPU ユニットを電断しないでください。</td></tr>
<tr><td colspan="6">【通信カプラユニットの場合】</td></tr>
<tr><td colspan="2">ユニット動作設定の書き込み中に通信カプラユニットを電断した。または通信カプラユニットの不揮発性メモリのうち、該当する NX ユニットのユニット動作設定を保存しているエリアが異常。</td><td colspan="2">NX ユニットのユニット動作設定を再度ダウンロードしてください。上記の処置を行っても本異常が再発する場合は、通信カプラユニットを交換してください。</td><td colspan="2">サポートソフトによる NX ユニットへのユニット動作設定の転送中やメッセージによる NX ユニットのパラメータ保存の実行中に、通信カプラユニットを電断しないでください。</td></tr>
<tr><td>付属情報</td><td colspan="6">なし</td></tr>
<tr><td>注意点／備考</td><td colspan="6">なし</td></tr>
</table>

イベント名	NX ユニット I/O 通信異常		**イベントコード**	80200000Hex	
内容	NX ユニットで I/O 通信異常が発生しました。				
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存	**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	【CPU ユニットの NX バスの場合】 【縮退運転設定が「停止する」の場合】 NX バス機能モジュールの異常解除 【縮退運転設定が「縮退する」の場合】 NX ユニットの異常解除 【通信カプラユニットの場合】 【縮退運転設定が「停止する」の場合】 コントローラで異常検出する場合は、コントローラの全異常解除 コントローラで異常検出しない場合は、通信カプラユニットと NX ユニットの異常解除 【縮退運転設定が「縮退する」の場合】 通信カプラユニットと NX ユニットの異常解除			
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	NX ユニットの運転は継続。 入力データ:入力値の更新を停止。 出力データ:「負荷遮断時の出力設定」に従います。	

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	−	−

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	【CPU ユニットの NX バスの場合】		
	CPU ユニットで NX バス通信を正常に行えない異常が発生した。	CPU ユニットで発生している異常を確認し、処置対策を行ってください。	CPU ユニットで発生している異常の再発防止を行ってください。
	NX ユニットの取りつけが不確実。	NX ユニット、エンドカバーを確実に取り付け、エンドプレートで固定してください。	NX ユニット、エンドカバーを確実に取り付け、エンドプレートで固定してください。
	ユニット電源の電源ケーブルが抜けている。または、ユニット電源から NX ユニットへの配線が間違っている。	ユニット電源から NX ユニットへの配線を確実に行ってください。	ユニット電源から NX ユニットへの配線を確実に行ってください。
	ユニット電源の電源ケーブルが断線している。	ユニット電源と NX ユニットの間の電源ケーブルが断線している場合は、電源ケーブルを交換してください。	なし
	ユニット電源の電圧が仕様範囲外、またはユニット電源の電源容量が不足している。	電源供給の設計方法に従い、電源供給システム構成を正しく構築してください。	電源供給の設計方法に従い、電源供給システム構成を正しく構築してください。
	NX ユニットのハードウェアの異常。	上記の処置を行っても本異常が再発する場合は NX ユニットを交換してください。	なし

発生要因とその処置	【通信カプラユニットの場合】		
	通信カプラユニットで NX バス通信を正常に行えない異常が発生した。	通信カプラユニットで発生している異常を確認し、処置対策を行ってください。	通信カプラユニットで発生している異常の再発防止を行ってください。
	NX ユニットの取り付けが不確実。	NX ユニット、エンドカバーを確実に取り付け、エンドプレートで固定してください。	NX ユニット、エンドカバーを確実に取り付け、エンドプレートで固定してください。
	ユニット電源の電源ケーブルが抜けている。または、ユニット電源から NX ユニットへの配線が間違っている。	ユニット電源から NX ユニットへの配線を確実に行ってください。	ユニット電源から NX ユニットへの配線を確実に行ってください。
	ユニット電源の電源ケーブルが断線している。	ユニット電源と NX ユニットの間の電源ケーブルが断線している場合は、電源ケーブルを交換してください。	なし
	ユニット電源の電圧が仕様範囲外である。または、ユニット電源の電源容量が不足している。	電源供給の設計方法に従い、電源供給システム構成を正しく構築してください。	電源供給の設計方法に従い、電源供給システム構成を正しく構築してください。
	NX ユニットのハードウェアの異常。	上記の処置を行っても本異常が再発する場合は NX ユニットを交換してください。	なし
付属情報	なし		
注意点／備考	なし		

イベント名	NX ユニット出力同期異常		**イベントコード**	80210000Hex	
内容	NX ユニットで出力同期異常が発生しました。				
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存	**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	【CPU ユニットの NX バスの場合】 NX バス機能モジュールの異常解除 【通信カプラユニットの場合】 コントローラの全異常解除			
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	NX ユニットの運転は継続。 入力データ:入力値の更新を停止。 出力データ:「負荷遮断時の出力設定」に従います。	

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	−	−

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	【CPU ユニットの NX バスの場合】		
	CPU ユニットで異常が発生しているため、NX バス上の I/O リフレッシュが正しく行われていない。	CPU ユニットで発生している異常を確認し、処置対策を行ってください。	CPU ユニットで発生している異常の再発防止を行ってください。
	【通信カプラユニットの場合】		
	通信カプラユニットに接続している通信ケーブルの断線、接続不良。	通信ケーブルを交換、または確実に配線してください。	通信ケーブルを確実に配線してください。
	通信ケーブルへのノイズ。	動作に問題が発生しない範囲で、通信カプラユニットにおける通信異常の連続検出回数(Consecutive Communications Error Detection Count)を適切な値に変更してください。 ノイズが多い場合は、ノイズ対策を行ってください。	ノイズ対策を行ってください。 ノイズ対策については、各ユニットのユーザーズマニュアルなどを参照してください。

付属情報	なし
注意点／備考	なし

イベント名	NX ユニット時刻同期はずれ異常		**イベントコード**	80240000Hex	
内容	NX ユニットの時刻情報に異常が発生しました。				
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存	**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	【CPU ユニットの NX バスの場合】 ユニット電源の再投入 【通信カプラユニットの場合】 ユニット電源の再投入ののち、コントローラの全異常解除			
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	NX ユニットの運転は継続。 入力データ:入力値の更新を停止。 出力データ:「負荷遮断時の出力設定」に従います。	

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	−	−

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	【CPU ユニットの NX バスの場合】		
	NX ユニットのハードウェア異常。	特定の NX ユニットだけで本異常が発生している場合は、該当する NX ユニットを交換してください。	なし
	CPU ユニットのハードウェア異常。	CPU ユニットに装着された NX ユニットのすべてで、本異常が発生している場合は、CPU ユニットを交換してください。	なし
	【通信カプラユニットの場合】		
	NX ユニットのハードウェア異常。	特定の NX ユニットだけで本異常が発生している場合は、該当する NX ユニットを交換してください。	なし
	EtherCAT カプラユニットのハードウェア異常。	通信カプラユニットに装着された NX ユニットのすべてで、本異常が発生している場合は、通信カプラユニットを交換してください。	なし

付属情報	なし
注意点／備考	なし

イベント名	過去時刻指定			**イベントコード**	70010000Hex	
内容	時刻指定出力方式の I/O リフレッシュ使用時に、指定時刻として過去時刻が指定されました。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	監視情報		**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	NX ユニットの異常解除				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	過去時刻が指定されたときの出力値は出力されません。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		―		―	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	【CPU ユニットの NX バスの場合】					
	ユーザプログラムの誤りにより、指定時刻が過去時刻になっている。		ユーザプログラムから指定する指定時刻が過去時刻にならないように、ユーザプログラムを修正してください。		ユーザプログラムから指定する指定時刻が過去時刻になっていないことを、ユーザプログラム内でチェックしてください。	
	CPU ユニットでタスク周期オーバーが発生している。		CPU ユニットのタスク周期オーバー発生時の処置対策を行ってください。		CPU ユニットのタスク周期オーバー発生時の再発防止を行ってください。	
	【通信カプラユニットの場合】					
	ユーザプログラムの誤りにより、指定時刻が過去時刻になっている。		過去時刻にならないように、ユーザプログラムを修正してください。指定時刻が過去時刻になっていないにもかかわらず再発する場合は、指定時刻をさらに延長してください。		ユーザプログラムから指定する指定時刻が過去時刻になっていないことを、ユーザプログラム内でチェックしてください。指定時刻が過去時刻になっていないにもかかわらず再発する場合は、指定時刻をさらに長くしてください。	
	CPU ユニットでタスク周期オーバーが発生している。		CPU ユニットのタスク周期オーバー発生時の処置対策を行ってください。		CPU ユニットのタスク周期オーバー発生時の再発防止を行ってください。	
	通信同期異常などの通信異常により、NX ユニットへの I/O データの到達が遅延した。		通信カプラユニットの通信同期異常発生時の処置対策を参照し、異常が発生しないようにしてください。		通信カプラユニットの通信同期異常発生時の再発防止を行ってください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	イベントログのクリア			**イベントコード**	90400000Hex	
内容	イベントログをクリアしました。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	ユーザからの指示時
異常の属性	**重要度**	一般情報		**ログカテゴリ**	アクセス	
	復旧方法	−				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	ユーザがイベントログをクリアした。		−		−	
付属情報	付属情報 1:クリア対象 1:システムイベントログをクリア 2:アクセスイベントログをクリア					
注意点／備考	なし					

2-2 NX シリーズアナログ I/O ユニット

以下の形式のユニットで発生するイベントです。
- 形 NX-AD□□□□
- 形 NX-DA□□□□
- 形 NX-TS□□□□
- 形 NX-HB□□□□

2-2-1 アナログ I/O ユニット関連

ここでは、アナログ入力ユニットとアナログ出力ユニットで発生する異常の内容について説明します。

イベント名	不揮発性メモリハードウェア異常			**イベントコード**	00200000Hex	
内容	不揮発性メモリが異常です。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	NX ユニットの電源投入時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト		**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	【CPU ユニットの NX バスの場合】 ユニット電源の再投入または NX バスのリスタート 【通信カプラユニットの場合】 ユニット電源の再投入またはスレーブターミナルのリスタート コントローラで異常検出する場合は、コントローラの全異常解除をさらに実行				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当 NX ユニットの I/O リフレッシュ停止。該当 NX ユニットへのメッセージ不可。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		―		―	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	不揮発性メモリの故障。		【CPU ユニットの NX バスの場合】 ユニット電源の再投入、または NX バスのリスタートをしてください。上記の処置を行っても本異常が再発する場合は、該当する NX ユニットを交換してください。 【通信カプラユニットの場合】 ユニット電源の再投入、またはスレーブターミナルのリスタートをしてください。上記の処置を行っても本異常が再発する場合は、該当する NX ユニットを交換してください。		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	アナログユニット校正値パラメータ異常			**イベントコード**	10400000Hex	
内容	アナログユニット校正値データ異常が発生しています。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	NX ユニットの電源投入時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト		**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	【CPU ユニットの NX バスの場合】 【縮退運転設定が「停止する」の場合】 NX ユニットのリスタートののち、NX バス機能モジュールの異常解除 【縮退運転設定が「縮退する」の場合】 NX ユニットのリスタート 【通信カプラユニットの場合】 【縮退運転設定が「停止する」の場合】 NX ユニットのリスタート コントローラで異常検出する場合は、コントローラの全異常解除をさらに実行 【縮退運転設定が「縮退する」の場合】 NX ユニットのリスタート				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当 NX ユニットの I/O リフレッシュ停止。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		―		―	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	アナログユニット校正値の書き込み中に NX ユニットを電断、またはサポートソフトとの通信を切断した。		アナログユニット校正値を再度書き込みしてください。		アナログユニット校正値の書き込み中に NX ユニットを電断したり、サポートソフトとの通信を切断したりしないでください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

<table>
<tr><td>イベント名</td><td colspan="2">マスタ保存制御パラメータ異常</td><td>イベントコード</td><td colspan="2">10410000Hex</td></tr>
<tr><td>内容</td><td colspan="5">マスタ保存の制御パラメータに異常が発生しています。</td></tr>
<tr><td>発生源</td><td>サポートソフトの接続先とシステム構成に依存</td><td>発生源詳細</td><td>NX ユニット</td><td>検出タイミング</td><td>NX ユニットの電源投入時</td></tr>
<tr><td rowspan="2">異常の属性</td><td>重要度</td><td colspan="2">軽度フォールト</td><td>ログカテゴリ</td><td>システム</td></tr>
<tr><td>復旧方法</td><td colspan="4">【CPU ユニットの NX バスの場合】
【縮退運転設定が「停止する」の場合】
NX ユニットのリスタートののち、NX バス機能モジュールの異常解除
【縮退運転設定が「縮退する」の場合】
NX ユニットのリスタートののち、NX ユニットの異常解除
【通信カプラユニットの場合】
【縮退運転設定が「停止する」の場合】
コントローラで異常検出する場合は、NX ユニットのリスタートののち、コントローラの全異常解除
コントローラで異常検出しない場合は、NX ユニットのリスタートののち、通信カプラユニットの異常解除
【縮退運転設定が「縮退する」の場合】
NX ユニットのリスタートののち、通信カプラユニットの異常解除</td></tr>
<tr><td>発生の影響</td><td>ユーザプログラム</td><td>継続</td><td>動作</td><td colspan="2">該当 NX ユニットの I/O リフレッシュ停止。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">システム定義変数</td><td colspan="2">変数名</td><td colspan="2">データ型</td><td>名称</td></tr>
<tr><td colspan="2">なし</td><td colspan="2">－</td><td>－</td></tr>
<tr><td rowspan="5">発生要因とその処置</td><td colspan="2">発生要因（推定原因）</td><td colspan="2">処置対策</td><td>再発防止</td></tr>
<tr><td colspan="5">【CPU ユニットの NX バスの場合】</td></tr>
<tr><td colspan="2">ユニット動作設定の書き込み中に CPU ユニットを電断した。または CPU ユニットの不揮発性メモリのうち、該当する NX ユニットのユニット動作設定を保存しているエリアが異常。</td><td colspan="2">NX ユニットのユニット動作設定を再度ダウンロードしてください。上記の処置を行っても本異常が再発する場合は、CPU ユニットを交換してください。</td><td>NX ユニットへのユニット動作設定の転送中やメッセージによる NX ユニットのパラメータ保存の実行中に、CPU ユニットを電断しないでください。</td></tr>
<tr><td colspan="5">【通信カプラユニットの場合】</td></tr>
<tr><td colspan="2">ユニット動作設定の書き込み中に通信カプラユニットを電断した。または通信カプラユニットの不揮発性メモリのうち、該当する NX ユニットのユニット動作設定を保存しているエリアが異常。</td><td colspan="2">NX ユニットのユニット動作設定を再度ダウンロードしてください。上記の処置を行っても本異常が再発する場合は、通信カプラユニットを交換してください。</td><td>サポートソフトによる NX ユニットへのユニット動作設定の転送中やメッセージによる NX ユニットのパラメータ保存の実行中に、通信カプラユニットを電断しないでください。</td></tr>
<tr><td>付属情報</td><td colspan="5">なし</td></tr>
<tr><td>注意点／備考</td><td colspan="5">なし</td></tr>
</table>

イベント名	ユニット校正値パリティエラー			イベントコード	14C00000Hex	
内容	ユニット内のユーザ校正値データに異常が発生しました。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		発生源詳細	NX ユニット	検出タイミング	常時
異常の属性	重要度	軽度フォールト		ログカテゴリ	システム	
	復旧方法	【CPU ユニットの NX バスの場合】 NX バスのリスタート 【通信カプラユニットの場合】 スレーブターミナルのリスタート				
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	NX ユニットの運転は継続。 入力データ:入力値の更新を停止。 出力データ:「負荷遮断時の出力設定」に従います。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	校正値データの異常を検出した。		NX ユニットを電源再投入してください。電源再投入しても本異常が再発する場合は NX ユニットを交換してください。		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	ユニット断線検知(Ch1)			イベントコード	65030000Hex	
内容	入力 Ch1 の断線を検知しました。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		発生源詳細	NX ユニット	検出タイミング	常時
異常の属性	重要度	軽度フォールト		ログカテゴリ	システム	
	復旧方法	NX ユニットの異常解除				
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	変換値は 32767 となります。 運転は継続し、断線回復時に変換値は正常に戻ります。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	入力配線の断線。		入力の配線が断線していないか確認し、断線している場合は、ケーブルを交換してください。		使用する配線が断線していないことを確認してください。	
	入力配線の外れ。		入力の配線が確実に接続されているかを確認し、接続不良の場合は再接続してください。		配線が確実に接続されていることを確認してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	重要度を監視情報に変更できます。					

イベント名	ユニット断線検知(Ch2)			**イベントコード**	65040000Hex
内容	入力 Ch2 の断線を検知しました。				
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング** 常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト		**ログカテゴリ**	システム
	復旧方法	NX ユニットの異常解除			
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	変換値は 32767 となります。 運転は継続し、断線回復時に変換値は正常に戻ります。	
システム定義変数	**変数名**		**データ型**	**名称**	
	なし		―	―	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**	**再発防止**	
	入力配線の断線。		入力の配線が断線していないか確認し、断線している場合は、ケーブルを交換してください。	使用する配線が断線していないことを確認してください。	
	入力配線の外れ。		入力の配線が確実に接続されているかを確認し、接続不良の場合は再接続してください。	配線が確実に接続されていることを確認してください。	
付属情報	なし				
注意点／備考	重要度を監視情報に変更できます。				

イベント名	ユニット断線検知(Ch3)			**イベントコード**	65050000Hex
内容	入力 Ch3 の断線を検知しました。				
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング** 常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト		**ログカテゴリ**	システム
	復旧方法	NX ユニットの異常解除			
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	変換値は 32767 となります。 運転は継続し、断線回復時に変換値は正常に戻ります。	
システム定義変数	**変数名**		**データ型**	**名称**	
	なし		―	―	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**	**再発防止**	
	入力配線の断線。		入力の配線が断線していないか確認し、断線している場合は、ケーブルを交換してください。	使用する配線が断線していないことを確認してください。	
	入力配線の外れ。		入力の配線が確実に接続されているかを確認し、接続不良の場合は再接続してください。	配線が確実に接続されていることを確認してください。	
付属情報	なし				
注意点／備考	重要度を監視情報に変更できます。				

イベント名	ユニット断線検知(Ch4)			イベントコード	65060000Hex	
内容	入力 Ch4 の断線を検知しました。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		発生源詳細	NX ユニット	検出タイミング	常時
異常の属性	重要度	軽度フォールト		ログカテゴリ	システム	
	復旧方法	NX ユニットの異常解除				
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	変換値は 32767 となります。 運転は継続し、断線回復時に変換値は正常に戻ります。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	入力配線の断線。		入力の配線が断線していないか確認し、断線している場合は、ケーブルを交換してください。		使用する配線が断線していないことを確認してください。	
	入力配線の外れ。		入力の配線が確実に接続されているかを確認し、接続不良の場合は再接続してください。		配線が確実に接続されていることを確認してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	重要度を監視情報に変更できます。					

イベント名	ユニット断線検知(Ch5)			イベントコード	65070000Hex	
内容	入力 Ch5 の断線を検知しました。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		発生源詳細	NX ユニット	検出タイミング	常時
異常の属性	重要度	軽度フォールト		ログカテゴリ	システム	
	復旧方法	NX ユニットの異常解除				
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	変換値は 32767 となります。 運転は継続し、断線回復時に変換値は正常に戻ります。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	入力配線の断線。		入力の配線が断線していないか確認し、断線している場合は、ケーブルを交換してください。		使用する配線が断線していないことを確認してください。	
	入力配線の外れ。		入力の配線が確実に接続されているかを確認し、接続不良の場合は再接続してください。		配線が確実に接続されていることを確認してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	重要度を監視情報に変更できます。					

イベント名	ユニット断線検知(Ch6)		**イベントコード**	65080000Hex	
内容	入力 Ch6 の断線を検知しました。				
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存	**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	NX ユニットの異常解除			
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	変換値は 32767 となります。 運転は継続し、断線回復時に変換値は正常に戻ります。	
システム定義変数	**変数名**		**データ型**	**名称**	
	なし		―	―	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**	**再発防止**	
	入力配線の断線。		入力の配線が断線していないか確認し、断線している場合は、ケーブルを交換してください。	使用する配線が断線していないことを確認してください。	
	入力配線の外れ。		入力の配線が確実に接続されているかを確認し、接続不良の場合は再接続してください。	配線が確実に接続されていることを確認してください。	
付属情報	なし				
注意点／備考	重要度を監視情報に変更できます。				

イベント名	ユニット断線検知(Ch7)		**イベントコード**	65090000Hex	
内容	入力 Ch7 の断線を検知しました。				
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存	**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	NX ユニットの異常解除			
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	変換値は 32767 となります。 運転は継続し、断線回復時に変換値は正常に戻ります。	
システム定義変数	**変数名**		**データ型**	**名称**	
	なし		―	―	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**	**再発防止**	
	入力配線の断線。		入力の配線が断線していないか確認し、断線している場合は、ケーブルを交換してください。	使用する配線が断線していないことを確認してください。	
	入力配線の外れ。		入力の配線が確実に接続されているかを確認し、接続不良の場合は再接続してください。	配線が確実に接続されていることを確認してください。	
付属情報	なし				
注意点／備考	重要度を監視情報に変更できます。				

イベント名	ユニット断線検知(Ch8)			**イベントコード**	650A0000Hex	
内容	入力 Ch8 の断線を検知しました。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト		**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	NX ユニットの異常解除				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	変換値は 32767 となります。 運転は継続し、断線回復時に変換値は正常に戻ります。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	入力配線の断線。		入力の配線が断線していないか確認し、断線している場合は、ケーブルを交換してください。		使用する配線が断線していないことを確認してください。	
	入力配線の外れ。		入力の配線が確実に接続されているかを確認し、接続不良の場合は再接続してください。		配線が確実に接続されていることを確認してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	重要度を監視情報に変更できます。					

イベント名	NX ユニット I/O 通信異常		**イベントコード**	80200000Hex	
内容	NX ユニットで I/O 通信異常が発生しました。				
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存	**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	【CPU ユニットの NX バスの場合】 【縮退運転設定が「停止する」の場合】 NX バス機能モジュールの異常解除 【縮退運転設定が「縮退する」の場合】 NX ユニットの異常解除 【通信カプラユニットの場合】 【縮退運転設定が「停止する」の場合】 コントローラで異常検出する場合は、コントローラの全異常解除 コントローラで異常検出しない場合は、通信カプラユニットと NX ユニットの異常解除 【縮退運転設定が「縮退する」の場合】 通信カプラユニットと NX ユニットの異常解除			
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	NX ユニットの運転は継続。 入力データ:入力値の更新を停止。 出力データ:「負荷遮断時の出力設定」に従います。	

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	−	−

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	【CPU ユニットの NX バスの場合】		
	CPU ユニットで NX バス通信を正常に行えない異常が発生した。	CPU ユニットで発生している異常を確認し、処置対策を行ってください。	CPU ユニットで発生している異常の再発防止を行ってください。
	NX ユニットの取りつけが不確実。	NX ユニット、エンドカバーを確実に取り付け、エンドプレートで固定してください。	NX ユニット、エンドカバーを確実に取り付け、エンドプレートで固定してください。
	ユニット電源の電源ケーブルが抜けている。または、ユニット電源から NX ユニットへの配線が間違っている。	ユニット電源から NX ユニットへの配線を確実に行ってください。	ユニット電源から NX ユニットへの配線を確実に行ってください。
	ユニット電源の電源ケーブルが断線している。	ユニット電源と NX ユニットの間の電源ケーブルが断線している場合は、電源ケーブルを交換してください。	なし
	ユニット電源の電圧が仕様範囲外、またはユニット電源の電源容量が不足している。	電源供給の設計方法に従い、電源供給システム構成を正しく構築してください。	電源供給の設計方法に従い、電源供給システム構成を正しく構築してください。
	NX ユニットのハードウェアの異常。	上記の処置を行っても本異常が再発する場合は NX ユニットを交換してください。	なし

発生要因とその処置	【通信カプラユニットの場合】		
	通信カプラユニットで NX バス通信を正常に行えない異常が発生した。	通信カプラユニットで発生している異常を確認し、処置対策を行ってください。	通信カプラユニットで発生している異常の再発防止を行ってください。
	NX ユニットの取り付けが不確実。	NX ユニット、エンドカバーを確実に取り付け、エンドプレートで固定してください。	NX ユニット、エンドカバーを確実に取り付け、エンドプレートで固定してください。
	ユニット電源の電源ケーブルが抜けている。または、ユニット電源から NX ユニットへの配線が間違っている。	ユニット電源から NX ユニットへの配線を確実に行ってください。	ユニット電源から NX ユニットへの配線を確実に行ってください。
	ユニット電源の電源ケーブルが断線している。	ユニット電源と NX ユニットの間の電源ケーブルが断線している場合は、電源ケーブルを交換してください。	なし
	ユニット電源の電圧が仕様範囲外である。または、ユニット電源の電源容量が不足している。	電源供給の設計方法に従い、電源供給システム構成を正しく構築してください。	電源供給の設計方法に従い、電源供給システム構成を正しく構築してください。
	NX ユニットのハードウェアの異常。	上記の処置を行っても本異常が再発する場合は NX ユニットを交換してください。	なし
付属情報	なし		
注意点／備考	なし		

イベント名	NX ユニット出力同期異常		**イベントコード**	80210000Hex	
内容	NX ユニットで出力同期異常が発生しました。				
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存	**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	【CPU ユニットの NX バスの場合】 NX バス機能モジュールの異常解除 【通信カプラユニットの場合】 コントローラの全異常解除			
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	NX ユニットの運転は継続。 入力データ:入力値の更新を停止。 出力データ:「負荷遮断時の出力設定」に従います。	

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	−	−

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	【CPU ユニットの NX バスの場合】		
	CPU ユニットで異常が発生しているため、NX バス上の I/O リフレッシュが正しく行われていない。	CPU ユニットで発生している異常を確認し、処置対策を行ってください。	CPU ユニットで発生している異常の再発防止を行ってください。
	【通信カプラユニットの場合】		
	通信カプラユニットに接続している通信ケーブルの断線、接続不良。	通信ケーブルを交換、または確実に配線してください。	通信ケーブルを確実に配線してください。
	通信ケーブルへのノイズ。	動作に問題が発生しない範囲で、通信カプラユニットにおける通信異常の連続検出回数(Consecutive Communications Error Detection Count)を適切な値に変更してください。 ノイズが多い場合は、ノイズ対策を行ってください。	ノイズ対策を行ってください。 ノイズ対策については、各ユニットのユーザーズマニュアルなどを参照してください。

付属情報	なし
注意点／備考	なし

イベント名	NX ユニット時刻同期はずれ異常			**イベントコード**	80240000Hex	
内容	NX ユニットの時刻情報に異常が発生しました。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト		**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	【CPU ユニットの NX バスの場合】 ユニット電源の再投入 【通信カプラユニットの場合】 ユニット電源の再投入ののち、コントローラの全異常解除				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	NX ユニットの運転は継続。 入力データ:入力値の更新を停止。 出力データ:「負荷遮断時の出力設定」に従います。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		―		―	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	【CPU ユニットの NX バスの場合】					
	NX ユニットのハードウェア異常。		特定の NX ユニットだけで本異常が発生している場合は、該当する NX ユニットを交換してください。		なし	
	CPU ユニットのハードウェア異常。		CPU ユニットに装着された NX ユニットのすべてで、本異常が発生している場合は、CPU ユニットを交換してください。		なし	
	【通信カプラユニットの場合】					
	NX ユニットのハードウェア異常。		特定の NX ユニットだけで本異常が発生している場合は、該当する NX ユニットを交換してください。		なし	
	EtherCAT カプラユニットのハードウェア異常。		通信カプラユニットに装着された NX ユニットのすべてで、本異常が発生している場合は、通信カプラユニットを交換してください。		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	ユニットオーバーレンジ(Ch1)		**イベントコード**	64F00000Hex	
内容	入力 Ch1 のアナログ入力データが入力レンジの上限値を上回りました。または、出力 Ch1 のアナログ出力データが出力レンジの上限値を上回りました。				
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存	**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	NX ユニットの異常解除			
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	入力オーバーレンジの場合、変換値は入力レンジの上限値となります。出力オーバーレンジの場合、アナログ出力は出力レンジの上限値となります。	
システム定義変数	**変数名**		**データ型**	**名称**	
	なし		―	―	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**	**再発防止**	
	アナログ入力データが入力レンジの上限値を上回った。または、アナログ出力データが出力レンジの上限値を上回った。		入力または出力レンジの上限値を上回った原因を調査し、適切な処置を行ってください。	入力または出力レンジの上限値を上回った原因を調査し、適切な再発防止を行ってください。	
付属情報	なし				
注意点／備考	重要度を軽度フォールトに変更できます。				

イベント名	ユニットオーバーレンジ(Ch2)		**イベントコード**	64F10000Hex	
内容	入力 Ch2 のアナログ入力データが入力レンジの上限値を上回りました。または、出力 Ch2 のアナログ出力データが出力レンジの上限値を上回りました。				
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存	**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	NX ユニットの異常解除			
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	入力オーバーレンジの場合、変換値は入力レンジの上限値となります。出力オーバーレンジの場合、アナログ出力は出力レンジの上限値となります。	
システム定義変数	**変数名**		**データ型**	**名称**	
	なし		―	―	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**	**再発防止**	
	アナログ入力データが入力レンジの上限値を上回った。または、アナログ出力データが出力レンジの上限値を上回った。		入力または出力レンジの上限値を上回った原因を調査し、適切な処置を行ってください。	入力または出力レンジの上限値を上回った原因を調査し、適切な再発防止を行ってください。	
付属情報	なし				
注意点／備考	重要度を軽度フォールトに変更できます。				

イベント名	ユニットオーバーレンジ(Ch3)			**イベントコード**	64F20000Hex	
内容	入力 Ch3 のアナログ入力データが入力レンジの上限値を上回りました。または、出力 Ch3 のアナログ出力データが出力レンジの上限値を上回りました。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	監視情報		**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	NX ユニットの異常解除				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	入力オーバーレンジの場合、変換値は入力レンジの上限値となります。出力オーバーレンジの場合、アナログ出力は出力レンジの上限値となります。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		―		―	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	アナログ入力データが入力レンジの上限値を上回った。または、アナログ出力データが出力レンジの上限値を上回った。		入力または出力レンジの上限値を上回った原因を調査し、適切な処置を行ってください。		入力または出力レンジの上限値を上回った原因を調査し、適切な再発防止を行ってください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	重要度を軽度フォールトに変更できます。					

イベント名	ユニットオーバーレンジ(Ch4)			**イベントコード**	64F30000Hex	
内容	入力 Ch4 のアナログ入力データが入力レンジの上限値を上回りました。または、出力 Ch4 のアナログ出力データが出力レンジの上限値を上回りました。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	監視情報		**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	NX ユニットの異常解除				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	入力オーバーレンジの場合、変換値は入力レンジの上限値となります。出力オーバーレンジの場合、アナログ出力は出力レンジの上限値となります。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		―		―	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	アナログ入力データが入力レンジの上限値を上回った。または、アナログ出力データが出力レンジの上限値を上回った。		入力または出力レンジの上限値を上回った原因を調査し、適切な処置を行ってください。		入力または出力レンジの上限値を上回った原因を調査し、適切な再発防止を行ってください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	重要度を軽度フォールトに変更できます。					

イベント名	ユニットオーバーレンジ(Ch5)		**イベントコード**	64F40000Hex	
内容	入力 Ch5 のアナログ入力データが入力レンジの上限値を上回りました。または、出力 Ch5 のアナログ出力データが出力レンジの上限値を上回りました。				
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存	**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	NX ユニットの異常解除			
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	入力オーバーレンジの場合、変換値は入力レンジの上限値となります。出力オーバーレンジの場合、アナログ出力は出力レンジの上限値となります。	
システム定義変数	**変数名**		**データ型**	**名称**	
	なし		―	―	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**	**再発防止**	
	アナログ入力データが入力レンジの上限値を上回った。または、アナログ出力データが出力レンジの上限値を上回った。		入力または出力レンジの上限値を上回った原因を調査し、適切な処置を行ってください。	入力または出力レンジの上限値を上回った原因を調査し、適切な再発防止を行ってください。	
付属情報	なし				
注意点／備考	重要度を軽度フォールトに変更できます。				

イベント名	ユニットオーバーレンジ(Ch6)		**イベントコード**	64F50000Hex	
内容	入力 Ch6 のアナログ入力データが入力レンジの上限値を上回りました。または、出力 Ch6 のアナログ出力データが出力レンジの上限値を上回りました。				
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存	**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	NX ユニットの異常解除			
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	入力オーバーレンジの場合、変換値は入力レンジの上限値となります。出力オーバーレンジの場合、アナログ出力は出力レンジの上限値となります。	
システム定義変数	**変数名**		**データ型**	**名称**	
	なし		―	―	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**	**再発防止**	
	アナログ入力データが入力レンジの上限値を上回った。または、アナログ出力データが出力レンジの上限値を上回った。		入力または出力レンジの上限値を上回った原因を調査し、適切な処置を行ってください。	入力または出力レンジの上限値を上回った原因を調査し、適切な再発防止を行ってください。	
付属情報	なし				
注意点／備考	重要度を軽度フォールトに変更できます。				

イベント名	ユニットオーバーレンジ(Ch7)			**イベントコード**	64F60000Hex	
内容	入力 Ch7 のアナログ入力データが入力レンジの上限値を上回りました。または、出力 Ch7 のアナログ出力データが出力レンジの上限値を上回りました。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	監視情報		**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	NX ユニットの異常解除				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	入力オーバーレンジの場合、変換値は入力レンジの上限値となります。出力オーバーレンジの場合、アナログ出力は出力レンジの上限値となります。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		―		―	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	アナログ入力データが入力レンジの上限値を上回った。または、アナログ出力データが出力レンジの上限値を上回った。		入力または出力レンジの上限値を上回った原因を調査し、適切な処置を行ってください。		入力または出力レンジの上限値を上回った原因を調査し、適切な再発防止を行ってください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	重要度を軽度フォールトに変更できます。					

イベント名	ユニットオーバーレンジ(Ch8)			**イベントコード**	64F70000Hex	
内容	入力 Ch8 のアナログ入力データが入力レンジの上限値を上回りました。または、出力 Ch8 のアナログ出力データが出力レンジの上限値を上回りました。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	監視情報		**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	NX ユニットの異常解除				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	入力オーバーレンジの場合、変換値は入力レンジの上限値となります。出力オーバーレンジの場合、アナログ出力は出力レンジの上限値となります。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		―		―	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	アナログ入力データが入力レンジの上限値を上回った。または、アナログ出力データが出力レンジの上限値を上回った。		入力または出力レンジの上限値を上回った原因を調査し、適切な処置を行ってください。		入力または出力レンジの上限値を上回った原因を調査し、適切な再発防止を行ってください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	重要度を軽度フォールトに変更できます。					

イベント名	ユニットアンダーレンジ(Ch1)			イベントコード	64F80000Hex	
内容	入力 Ch1 のアナログ入力データが入力レンジの下限値を下回りました。または、出力 Ch1 のアナログ出力データが出力レンジの下限値を下回りました。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		発生源詳細	NX ユニット	検出タイミング	常時
異常の属性	重要度	監視情報		ログカテゴリ	システム	
	復旧方法	NX ユニットの異常解除				
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	入力アンダーレンジの場合、変換値は入力レンジの下限値となります。出力アンダーレンジの場合、アナログ出力は出力レンジの下限値となります。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		―		―	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	アナログ入力データが入力レンジの下限値を下回った。または、アナログ出力データが出力レンジの下限値を下回った。		入力または出力レンジの下限値を下回った原因を調査し、適切な処置を行ってください。		入力または出力レンジの下限値を下回った原因を調査し、適切な再発防止を行ってください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	重要度を軽度フォールトに変更できます。					

イベント名	ユニットアンダーレンジ(Ch2)			イベントコード	64F90000Hex	
内容	入力 Ch2 のアナログ入力データが入力レンジの下限値を下回りました。または、出力 Ch2 のアナログ出力データが出力レンジの下限値を下回りました。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		発生源詳細	NX ユニット	検出タイミング	常時
異常の属性	重要度	監視情報		ログカテゴリ	システム	
	復旧方法	NX ユニットの異常解除				
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	入力アンダーレンジの場合、変換値は入力レンジの下限値となります。出力アンダーレンジの場合、アナログ出力は出力レンジの下限値となります。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		―		―	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	アナログ入力データが入力レンジの下限値を下回った。または、アナログ出力データが出力レンジの下限値を下回った。		入力または出力レンジの下限値を下回った原因を調査し、適切な処置を行ってください。		入力または出力レンジの下限値を下回った原因を調査し、適切な再発防止を行ってください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	重要度を軽度フォールトに変更できます。					

イベント名	ユニットアンダーレンジ(Ch3)			**イベントコード**	64FA0000Hex	
内容	入力 Ch3 のアナログ入力データが入力レンジの下限値を下回りました。または、出力 Ch3 のアナログ出力データが出力レンジの下限値を下回りました。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	監視情報		**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	NX ユニットの異常解除				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	入力アンダーレンジの場合、変換値は入力レンジの下限値となります。出力アンダーレンジの場合、アナログ出力は出力レンジの下限値となります。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		―		―	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	アナログ入力データが入力レンジの下限値を下回った。または、アナログ出力データが出力レンジの下限値を下回った。		入力または出力レンジの下限値を下回った原因を調査し、適切な処置を行ってください。		入力または出力レンジの下限値を下回った原因を調査し、適切な再発防止を行ってください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	重要度を軽度フォールトに変更できます。					

イベント名	ユニットアンダーレンジ(Ch4)			**イベントコード**	64FB0000Hex	
内容	入力 Ch4 のアナログ入力データが入力レンジの下限値を下回りました。または、出力 Ch4 のアナログ出力データが出力レンジの下限値を下回りました。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	監視情報		**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	NX ユニットの異常解除				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	入力アンダーレンジの場合、変換値は入力レンジの下限値となります。出力アンダーレンジの場合、アナログ出力は出力レンジの下限値となります。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		―		―	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	アナログ入力データが入力レンジの下限値を下回った。または、アナログ出力データが出力レンジの下限値を下回った。		入力または出力レンジの下限値を下回った原因を調査し、適切な処置を行ってください。		入力または出力レンジの下限値を下回った原因を調査し、適切な再発防止を行ってください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	重要度を軽度フォールトに変更できます。					

イベント名	ユニットアンダーレンジ(Ch5)			イベントコード	64FC0000Hex	
内容	入力 Ch5 のアナログ入力データが入力レンジの下限値を下回りました。または、出力 Ch5 のアナログ出力データが出力レンジの下限値を下回りました。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		発生源詳細	NX ユニット	検出タイミング	常時
異常の属性	重要度	監視情報		ログカテゴリ	システム	
	復旧方法	NX ユニットの異常解除				
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	入力アンダーレンジの場合、変換値は入力レンジの下限値となります。出力アンダーレンジの場合、アナログ出力は出力レンジの下限値となります。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		―		―	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	アナログ入力データが入力レンジの下限値を下回った。または、アナログ出力データが出力レンジの下限値を下回った。		入力または出力レンジの下限値を下回った原因を調査し、適切な処置を行ってください。		入力または出力レンジの下限値を下回った原因を調査し、適切な再発防止を行ってください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	重要度を軽度フォールトに変更できます。					

イベント名	ユニットアンダーレンジ(Ch6)			イベントコード	64FD0000Hex	
内容	入力 Ch6 のアナログ入力データが入力レンジの下限値を下回りました。または、出力 Ch6 のアナログ出力データが出力レンジの下限値を下回りました。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		発生源詳細	NX ユニット	検出タイミング	常時
異常の属性	重要度	監視情報		ログカテゴリ	システム	
	復旧方法	NX ユニットの異常解除				
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	入力アンダーレンジの場合、変換値は入力レンジの下限値となります。出力アンダーレンジの場合、アナログ出力は出力レンジの下限値となります。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		―		―	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	アナログ入力データが入力レンジの下限値を下回った。または、アナログ出力データが出力レンジの下限値を下回った。		入力または出力レンジの下限値を下回った原因を調査し、適切な処置を行ってください。		入力または出力レンジの下限値を下回った原因を調査し、適切な再発防止を行ってください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	重要度を軽度フォールトに変更できます。					

イベント名	ユニットアンダーレンジ(Ch7)			**イベントコード**	64FE0000Hex	
内容	入力 Ch7 のアナログ入力データが入力レンジの下限値を下回りました。または、出力 Ch7 のアナログ出力データが出力レンジの下限値を下回りました。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	監視情報		**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	NX ユニットの異常解除				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	入力アンダーレンジの場合、変換値は入力レンジの下限値となります。出力アンダーレンジの場合、アナログ出力は出力レンジの下限値となります。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		―		―	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	アナログ入力データが入力レンジの下限値を下回った。または、アナログ出力データが出力レンジの下限値を下回った。		入力または出力レンジの下限値を下回った原因を調査し、適切な処置を行ってください。		入力または出力レンジの下限値を下回った原因を調査し、適切な再発防止を行ってください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	重要度を軽度フォールトに変更できます。					

イベント名	ユニットアンダーレンジ(Ch8)			**イベントコード**	64FF0000Hex	
内容	入力 Ch8 のアナログ入力データが入力レンジの下限値を下回りました。または、出力 Ch8 のアナログ出力データが出力レンジの下限値を下回りました。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	監視情報		**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	NX ユニットの異常解除				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	入力アンダーレンジの場合、変換値は入力レンジの下限値となります。出力アンダーレンジの場合、アナログ出力は出力レンジの下限値となります。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		―		―	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	アナログ入力データが入力レンジの下限値を下回った。または、アナログ出力データが出力レンジの下限値を下回った。		入力または出力レンジの下限値を下回った原因を調査し、適切な処置を行ってください。		入力または出力レンジの下限値を下回った原因を調査し、適切な再発防止を行ってください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	重要度を軽度フォールトに変更できます。					

イベント名	イベントログのクリア		**イベントコード**	90400000Hex	
内容	イベントログをクリアしました。				
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存	**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	ユーザからの指示時
異常の属性	**重要度**	一般情報	**ログカテゴリ**	アクセス	
	復旧方法	−			
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし。	

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	−	−
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	ユーザがイベントログをクリアした。	−	−
付属情報	付属情報 1:クリア対象 1:システムイベントログをクリア 2:アクセスイベントログをクリア		
注意点／備考	なし		

2-2-2　温度入力ユニット関連

ここでは、温度入力ユニットで発生する異常の内容について説明します。
通信コントロールユニットに NX ユニットを接続している場合は、以下の【CPU ユニットの NX バスの場合】の説明のうち、「CPU ユニット」を「通信コントロールユニット」に読み替えてください。

イベント名	不揮発性メモリハードウェア異常			**イベントコード**	00200000Hex	
内容	不揮発性メモリが異常です。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	NX ユニットの電源投入時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト		**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	【CPU ユニットの NX バスの場合】 ユニット電源の再投入または NX バスのリスタート 【通信カプラユニットの場合】 ユニット電源の再投入またはスレーブターミナルのリスタート コントローラで異常検出する場合は、コントローラの全異常解除をさらに実行				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当 NX ユニットの I/O リフレッシュ停止。該当 NX ユニットへのメッセージ不可。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	不揮発性メモリの故障。		【CPU ユニットの NX バスの場合】 ユニット電源の再投入、または NX バスのリスタートをしてください。上記の処置を行っても本異常が再発する場合は、該当する NX ユニットを交換してください。 【通信カプラユニットの場合】 ユニット電源の再投入、またはスレーブターミナルのリスタートをしてください。上記の処置を行っても本異常が再発する場合は、該当する NX ユニットを交換してください。		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	AD コンバータ異常		**イベントコード**	05100000Hex	
内容	AD コンバータが異常です。				
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存	**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	NX ユニットのリスタート			
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	測定値は、32767（INT 型の場合）または 2147483647（DINT 型の場合）、1.0E+10（REAL 型の場合）となります。	

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	−	−
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	ノイズ。	NX ユニットを電源再投入し、本異常が解除されるか確認してください。 本異常が頻発する場合は、ノイズ侵入経路を調査し、ノイズ対策を実施してください。	ノイズ対策を行ってください。
	AD コンバータの故障。	NX ユニットを電源再投入しても本異常が解除されない場合は NX ユニットを交換してください。	なし
付属情報	付属情報 1: 異常の発生チャネル 0001Hex: Ch1 0010Hex: Ch2 0100Hex: Ch3 1000Hex: Ch4 複数のチャネルで同時に発生した場合の値は、それらの合計値となります。 たとえば Ch1～4 すべてで同時に発生した場合は、1111Hex となります。		
注意点／備考	なし		

イベント名	冷接点センサ異常			**イベントコード**	05110000Hex	
内容	冷接点センサに断線が発生しているため温度変換できません。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト		**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	NX ユニットの異常解除				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	要因除去前の動作: 測定値は、32767（INT 型の場合）または 2147483647（DINT 型の場合）、1.0E+10（REAL 型の場合）となります。 要因除去後の動作: 断線回復時に測定値は正常に戻ります。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	冷接点センサの接続不良。		冷接点センサ（端子台）の接続を確認し、接続不良の場合は接続し直してください。		冷接点センサ（端子台）が正しく接続されていることを確認してください。	
	冷接点センサの故障。		NX ユニットを交換してください。		なし	
付属情報	付属情報 1: 異常の発生チャネル 0001Hex: Ch1 0010Hex: Ch2 0100Hex: Ch3 1000Hex: Ch4 複数のチャネルで同時に発生した場合の値は、それらの合計値となります。 たとえば Ch1～4 すべてで同時に発生した場合は、1111Hex となります。					
注意点／備考	重要度を監視情報に変更できます。					

<table>
<tr><td>イベント名</td><td colspan="2">マスタ保存制御パラメータ異常</td><td>イベントコード</td><td colspan="2">10410000Hex</td></tr>
<tr><td>内容</td><td colspan="5">マスタ保存の制御パラメータに異常が発生しています。</td></tr>
<tr><td>発生源</td><td>サポートソフトの接続先とシステム構成に依存</td><td>発生源詳細</td><td>NX ユニット</td><td>検出タイミング</td><td>NX ユニットの電源投入時</td></tr>
<tr><td rowspan="2">異常の属性</td><td>重要度</td><td colspan="2">軽度フォールト</td><td>ログカテゴリ</td><td>システム</td></tr>
<tr><td>復旧方法</td><td colspan="4">【CPU ユニットの NX バスの場合】
【縮退運転設定が「停止する」の場合】
NX ユニットのリスタートののち、NX バス機能モジュールの異常解除
【縮退運転設定が「縮退する」の場合】
NX ユニットのリスタートののち、NX ユニットの異常解除
【通信カプラユニットの場合】
【縮退運転設定が「停止する」の場合】
コントローラで異常検出する場合は、NX ユニットのリスタートののち、コントローラの全異常解除
コントローラで異常検出しない場合は、NX ユニットのリスタートののち、通信カプラユニットの異常解除
【縮退運転設定が「縮退する」の場合】
NX ユニットのリスタートののち、通信カプラユニットの異常解除</td></tr>
<tr><td>発生の影響</td><td>ユーザプログラム</td><td>継続</td><td>動作</td><td colspan="2">該当 NX ユニットの I/O リフレッシュ停止。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">システム定義変数</td><td colspan="2">変数名</td><td colspan="2">データ型</td><td>名称</td></tr>
<tr><td colspan="2">なし</td><td colspan="2">－</td><td>－</td></tr>
<tr><td rowspan="5">発生要因とその処置</td><td colspan="2">発生要因（推定原因）</td><td colspan="2">処置対策</td><td>再発防止</td></tr>
<tr><td colspan="5">【CPU ユニットの NX バスの場合】</td></tr>
<tr><td colspan="2">ユニット動作設定の書き込み中に CPU ユニットを電断した。または CPU ユニットの不揮発性メモリのうち、該当する NX ユニットのユニット動作設定を保存しているエリアが異常。</td><td colspan="2">NX ユニットのユニット動作設定を再度ダウンロードしてください。上記の処置を行っても本異常が再発する場合は、CPU ユニットを交換してください。</td><td>NX ユニットへのユニット動作設定の転送中やメッセージによる NX ユニットのパラメータ保存の実行中に、CPU ユニットを電断しないでください。</td></tr>
<tr><td colspan="5">【通信カプラユニットの場合】</td></tr>
<tr><td colspan="2">ユニット動作設定の書き込み中に通信カプラユニットを電断した。または通信カプラユニットの不揮発性メモリのうち、該当する NX ユニットのユニット動作設定を保存しているエリアが異常。</td><td colspan="2">NX ユニットのユニット動作設定を再度ダウンロードしてください。上記の処置を行っても本異常が再発する場合は、通信カプラユニットを交換してください。</td><td>サポートソフトによる NX ユニットへのユニット動作設定の転送中やメッセージによる NX ユニットのパラメータ保存の実行中に、通信カプラユニットを電断しないでください。</td></tr>
<tr><td>付属情報</td><td colspan="5">なし</td></tr>
<tr><td>注意点／備考</td><td colspan="5">なし</td></tr>
</table>

イベント名	NX ユニット処理異常			**イベントコード**	40200000Hex	
内容	NX ユニットで致命的な異常を検出しました。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト		**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	【CPU ユニットの NX バスの場合】 NX ユニットの電源再投入ののち、NX バス機能モジュールの異常解除 【通信カプラユニットの場合】 NX ユニットの電源再投入ののち、通信カプラユニットの異常解除				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当 NX ユニットの I/O リフレッシュ停止。該当 NX ユニットへのメッセージ不可。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	ソフトウェアにエラーが発生した。		【CPU ユニットの NX バスの場合】 ユニット電源の再投入、NX ユニットのリスタートまたは NX バスのリスタートをしてください。上記の処置を行っても本異常が再発する場合は、当社営業または代理店にお問い合わせください。 【通信カプラユニットの場合】 ユニット電源の再投入、NX ユニットのリスタートまたはスレーブターミナルのリスタートをしてください。上記の処置を行っても本異常が再発する場合は、当社営業または代理店にお問い合わせください。		なし	
付属情報	付属情報 1：システム情報 付属情報 2：システム情報 付属情報 3：システム情報 付属情報 4：システム情報					
注意点／備考	なし					

イベント名	センサ断線異常		**イベントコード**	65100000Hex	
内容	温度センサの断線を検出しました。				
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存	**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	NX ユニットの異常解除			
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	要因除去前の動作: 測定値は、32767（INT 型の場合）または 2147483647（DINT 型の場合）、1.0E+10（REAL 型の場合）となります。 要因除去後の動作: 断線回復時に測定値は正常に戻ります。	

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	−	−

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	温度センサの破損、断線。	温度センサが破損、断線していないか確認し、破損、断線している場合は、交換してください。	使用する温度センサが破損、断線していないことを確認してください。
	未使用チャネルの無効化設定忘れ。	使用しないチャネルの［Ch 有効／無効］を「False」に設定してください。	使用しないチャネルの［Ch 有効／無効］を「False」に設定してください。
	温度センサの配線が誤っている。	温度センサとの接続箇所や極性を確認し、誤っている場合は、正しく配線してください。	温度センサとの接続箇所や極性を確認し、正しく配線されていることを確認してください。

付属情報	付属情報 1: 異常の発生チャネル 0001Hex: Ch1 0010Hex: Ch2 0100Hex: Ch3 1000Hex: Ch4 複数のチャネルで同時に発生した場合の値は、それらの合計値となります。 たとえば Ch1～4 すべてで同時に発生した場合は、1111Hex となります。
注意点／備考	重要度を監視情報に変更できます。

イベント名	NX ユニット I/O 通信異常		**イベントコード**	80200000Hex	
内容	NX ユニットで I/O 通信異常が発生しました。				
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存	**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	【CPU ユニットの NX バスの場合】 【縮退運転設定が「停止する」の場合】 NX バス機能モジュールの異常解除 【縮退運転設定が「縮退する」の場合】 NX ユニットの異常解除 【通信カプラユニットの場合】 【縮退運転設定が「停止する」の場合】 コントローラで異常検出する場合は、コントローラの全異常解除 コントローラで異常検出しない場合は、通信カプラユニットと NX ユニットの異常解除 【縮退運転設定が「縮退する」の場合】 通信カプラユニットと NX ユニットの異常解除			
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	NX ユニットの運転は継続。 入力データ: 入力値の更新を停止。	
システム定義変数	**変数名**		**データ型**	**名称**	
	なし		–	–	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**	**再発防止**	
	【CPU ユニットの NX バスの場合】				
	CPU ユニットで NX バス通信を正常に行えない異常が発生した。		CPU ユニットで発生している異常を確認し、処置対策を行ってください。	CPU ユニットで発生している異常の再発防止を行ってください。	
	NX ユニットの取りつけが不確実。		NX ユニット、エンドカバーを確実に取り付け、エンドプレートで固定してください。	NX ユニット、エンドカバーを確実に取り付け、エンドプレートで固定してください。	
	ユニット電源の電源ケーブルが抜けている。または、ユニット電源から NX ユニットへの配線が間違っている。		ユニット電源から NX ユニットへの配線を確実に行ってください。	ユニット電源から NX ユニットへの配線を確実に行ってください。	
	ユニット電源の電源ケーブルが断線している。		ユニット電源と NX ユニットの間の電源ケーブルが断線している場合は、電源ケーブルを交換してください。	なし	
	ユニット電源の電圧が仕様範囲外、またはユニット電源の電源容量が不足している。		電源供給の設計方法に従い、電源供給システム構成を正しく構築してください。	電源供給の設計方法に従い、電源供給システム構成を正しく構築してください。	
	NX ユニットのハードウェアの異常。		上記の処置を行っても本異常が再発する場合は NX ユニットを交換してください。	なし	

発生要因とその処置	【通信カプラユニットの場合】		
	通信カプラユニットで NX バス通信を正常に行えない異常が発生した。	通信カプラユニットで発生している異常を確認し、処置対策を行ってください。	通信カプラユニットで発生している異常の再発防止を行ってください。
	NX ユニットの取り付けが不確実。	NX ユニット、エンドカバーを確実に取り付け、エンドプレートで固定してください。	NX ユニット、エンドカバーを確実に取り付け、エンドプレートで固定してください。
	ユニット電源の電源ケーブルが抜けている。または、ユニット電源から NX ユニットへの配線が間違っている。	ユニット電源から NX ユニットへの配線を確実に行ってください。	ユニット電源から NX ユニットへの配線を確実に行ってください。
	ユニット電源の電源ケーブルが断線している。	ユニット電源と NX ユニットの間の電源ケーブルが断線している場合は、電源ケーブルを交換してください。	なし
	ユニット電源の電圧が仕様範囲外である。または、ユニット電源の電源容量が不足している。	電源供給の設計方法に従い、電源供給システム構成を正しく構築してください。	電源供給の設計方法に従い、電源供給システム構成を正しく構築してください。
	NX ユニットのハードウェアの異常。	上記の処置を行っても本異常が再発する場合は NX ユニットを交換してください。	なし
付属情報	なし		
注意点／備考	なし		

イベント名	NX ユニット時刻同期はずれ異常			**イベントコード**	80240000Hex	
内容	NX ユニットの時刻情報に異常が発生しました。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト		**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	【CPU ユニットの NX バスの場合】 ユニット電源の再投入 【通信カプラユニットの場合】 ユニット電源の再投入ののち、コントローラの全異常解除				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	NX ユニットの運転は継続。 入力データ: 入力値の更新を停止。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	【CPU ユニットの NX バスの場合】					
	NX ユニットのハードウェア異常。		特定の NX ユニットだけで本異常が発生している場合は、該当する NX ユニットを交換してください。		なし	
	CPU ユニットのハードウェア異常。		CPU ユニットに装着された本異常が発生する NX ユニットのすべてで、本異常が発生している場合は、CPU ユニットを交換してください。		なし	
	【通信カプラユニットの場合】					
	NX ユニットのハードウェア異常。		特定の NX ユニットだけで本異常が発生している場合は、該当する NX ユニットを交換してください。		なし	
	EtherCAT カプラユニットのハードウェア異常。		通信カプラユニットに装着された本異常が発生する NX ユニットのすべてで、本異常が発生している場合は、通信カプラユニットを交換してください。		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

<table>
<tr><td>イベント名</td><td colspan="2">測定値オーバーレンジ</td><td>イベントコード</td><td colspan="2">65110000Hex</td></tr>
<tr><td>内容</td><td colspan="5">測定温度が温度変換可能範囲の上限値を上回りました。</td></tr>
<tr><td>発生源</td><td>サポートソフトの接続先とシステム構成に依存</td><td>発生源詳細</td><td>NX ユニット</td><td>検出タイミング</td><td>常時</td></tr>
<tr><td rowspan="2">異常の属性</td><td>重要度</td><td colspan="2">監視情報</td><td>ログカテゴリ</td><td>システム</td></tr>
<tr><td>復旧方法</td><td colspan="4">NX ユニットの異常解除</td></tr>
<tr><td>発生の影響</td><td>ユーザプログラム</td><td>継続</td><td>動作</td><td colspan="2">要因除去前の動作: 測定値は温度変換可能範囲の上限値となります。
要因除去後の動作: 測定値は正常に戻ります。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">システム定義変数</td><td colspan="2">変数名</td><td colspan="2">データ型</td><td>名称</td></tr>
<tr><td colspan="2">なし</td><td colspan="2">－</td><td>－</td></tr>
<tr><td rowspan="6">発生要因とその処置</td><td colspan="2">発生要因（推定原因）</td><td colspan="2">処置対策</td><td>再発防止</td></tr>
<tr><td colspan="2">センサの断線。</td><td colspan="2" rowspan="5">温度変換可能範囲の上限値を上回った原因を調査し、適切な処置を行ってください。</td><td rowspan="5">温度変換可能範囲の上限値を上回った原因を調査し、適切な再発防止を行ってください。</td></tr>
<tr><td colspan="2">センサまたは補償導線の配線ミス。</td></tr>
<tr><td colspan="2">センサと入力種別が一致していない。</td></tr>
<tr><td colspan="2">測定したい温度に対し、入力種別のレンジが狭い。</td></tr>
<tr><td colspan="2">未使用 ch の無効化設定忘れ。</td></tr>
<tr><td>付属情報</td><td colspan="5">付属情報 1: 異常の発生チャネル
0001Hex: Ch1
0010Hex: Ch2
0100Hex: Ch3
1000Hex: Ch4
複数のチャネルで同時に発生した場合の値は、それらの合計値となります。
たとえば Ch1～4 すべてで同時に発生した場合は、1111Hex となります。</td></tr>
<tr><td>注意点／備考</td><td colspan="5">重要度を軽度フォールトに変更できます。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>イベント名</td><td colspan="3">測定値アンダーレンジ</td><td>イベントコード</td><td colspan="2">65120000Hex</td></tr>
<tr><td>内容</td><td colspan="6">測定温度が温度変換可能範囲の下限値を下回りました。</td></tr>
<tr><td>発生源</td><td colspan="2">サポートソフトの接続先とシステム構成に依存</td><td>発生源詳細</td><td>NX ユニット</td><td>検出タイミング</td><td>常時</td></tr>
<tr><td rowspan="2">異常の属性</td><td>重要度</td><td colspan="2">監視情報</td><td>ログカテゴリ</td><td colspan="2">システム</td></tr>
<tr><td>復旧方法</td><td colspan="5">NX ユニットの異常解除</td></tr>
<tr><td>発生の影響</td><td>ユーザプログラム</td><td>継続</td><td>動作</td><td colspan="3">要因除去前の動作: 測定値は温度変換可能範囲の下限値となります。
要因除去後の動作: 測定値は正常に戻ります。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">システム定義変数</td><td colspan="2">変数名</td><td colspan="2">データ型</td><td colspan="2">名称</td></tr>
<tr><td colspan="2">なし</td><td colspan="2">－</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td rowspan="4">発生要因とその処置</td><td colspan="2">発生要因（推定原因）</td><td colspan="2">処置対策</td><td colspan="2">再発防止</td></tr>
<tr><td colspan="2">センサまたは補償導線の配線ミス。</td><td colspan="2" rowspan="3">温度変換可能範囲の下限値を下回った原因を調査し、適切な処置を行ってください。</td><td colspan="2" rowspan="3">温度変換可能範囲の下限値を下回った原因を調査し、適切な再発防止を行ってください。</td></tr>
<tr><td colspan="2">センサと入力種別が一致していない。</td></tr>
<tr><td colspan="2">測定したい温度に対し、入力種別のレンジが狭い。</td></tr>
<tr><td>付属情報</td><td colspan="6">付属情報 1: 異常の発生チャネル
0001Hex: Ch1
0010Hex: Ch2
0100Hex: Ch3
1000Hex: Ch4
複数のチャネルで同時に発生した場合の値は、それらの合計値となります。
たとえば Ch1～4 すべてで同時に発生した場合は、1111Hex となります。</td></tr>
<tr><td>注意点／備考</td><td colspan="6">重要度を軽度フォールトに変更できます。</td></tr>
</table>

イベント名	NX メッセージ通信異常		**イベントコード**	80220000Hex	
内容	メッセージ通信で異常を検知し、メッセージフレームを破棄しました。				
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存	**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	NX メッセージ通信中
異常の属性	**重要度**	監視情報	**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	−			
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし。	

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	−	−
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	【CPU ユニットの NX バスの場合】		
	メッセージ通信の負荷が高い。	NX メッセージを送信する命令の使用頻度を減らしてください。	NX メッセージを送信する命令の使用頻度を減らしてください。
	【通信カプラユニットの場合】		
	メッセージ通信の負荷が高い。	NX メッセージを送信する命令の使用頻度を減らしてください。	NX メッセージを送信する命令の使用頻度を減らしてください。
	通信ケーブルのはずれ、断線。 付属情報 2 が「0:NX バス」の場合は、本要因はありません。	通信ケーブルを確実に接続してください。	通信ケーブルを確実に接続してください。
	メッセージ通信実行中に以下を実行することで、メッセージ通信の切断が発生。 • サポートソフトによるパラメータの転送 • バックアップデータのリストア(EtherCAT スレーブターミナルで本異常が発生した場合) • EtherCAT スレーブの離脱（EtherCAT スレーブターミナルで本異常が発生した場合）	−	−
付属情報	付属情報 1:システム情報 付属情報 2:異常が発生した通信の種類 0: NX バス 1: EtherCAT 2: シリアル通信(USB) 3: EtherNet/IP 65535: ユニット内部（ルーチング処理）		
注意点／備考	なし		

イベント名	イベントログのクリア			**イベントコード**	90400000Hex	
内容	イベントログをクリアしました。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	ユーザからの指示時
異常の属性	**重要度**	一般情報		**ログカテゴリ**	アクセス	
	復旧方法	−				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	ユーザがイベントログをクリアした。		−		−	
付属情報	付属情報 1:クリア対象 1: システムイベントログをクリア 2: アクセスイベントログをクリア					
注意点／備考	なし					

2-2-3　ヒータ断線検知ユニット関連

ここでは、ヒータ断線検知ユニットで発生する異常の内容について説明します。

イベント名	不揮発性メモリハードウェア異常			**イベントコード**	00200000Hex	
内容	不揮発性メモリが異常です。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	NX ユニットの電源投入時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト		**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	【CPU ユニットの NX バスの場合】 ユニット電源の再投入または NX バスのリスタート 【通信カプラユニットの場合】 ユニット電源の再投入またはスレーブターミナルのリスタート コントローラで異常検出する場合は、コントローラの全異常解除をさらに実行				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当 NX ユニットの I/O リフレッシュ停止。該当 NX ユニットへのメッセージ不可。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		―		―	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	不揮発性メモリの故障。		【CPU ユニットの NX バスの場合】 ユニット電源の再投入、または NX バスのリスタートをしてください。上記の処置を行っても本異常が再発する場合は、該当する NX ユニットを交換してください。 【通信カプラユニットの場合】 ユニット電源の再投入、またはスレーブターミナルのリスタートをしてください。上記の処置を行っても本異常が再発する場合は、該当する NX ユニットを交換してください。		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	AD コンバータ異常			**イベントコード**	05100000Hex	
内容	AD コンバータが異常です。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト		**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	NX ユニットのリスタート				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	測定値は、65535（UINT 型の場合）または 1.0E+10（REAL 型の場合）となります。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	ノイズ。		NX ユニットを電源再投入し、本異常が解除されるか確認してください。 本異常が頻発する場合は、ノイズ侵入経路を調査し、ノイズ対策を実施してください。		ノイズ対策を行ってください。	
	AD コンバータの故障。		NX ユニットを電源再投入しても本異常が解除されない場合は NX ユニットを交換してください。		なし	
付属情報	付属情報 1: 異常の発生チャネル 0001Hex: Ch1 0010Hex: Ch2 0100Hex: Ch3 1000Hex: Ch4 複数のチャネルで同時に発生した場合の値は、それらの合計値となります。 たとえば Ch1～4 すべてで同時に発生した場合は、1111Hex となります。					
注意点／備考	なし					

<table>
<tr><td>イベント名</td><td colspan="2">マスタ保存制御パラメータ異常</td><td>イベントコード</td><td colspan="2">10410000Hex</td></tr>
<tr><td>内容</td><td colspan="5">マスタ保存の制御パラメータに異常が発生しています。</td></tr>
<tr><td>発生源</td><td>サポートソフトの接続先とシステム構成に依存</td><td>発生源詳細</td><td>NX ユニット</td><td>検出タイミング</td><td>NX ユニットの電源投入時</td></tr>
<tr><td rowspan="2">異常の属性</td><td>重要度</td><td colspan="2">軽度フォールト</td><td>ログカテゴリ</td><td>システム</td></tr>
<tr><td>復旧方法</td><td colspan="4">【CPU ユニットの NX バスの場合】
【縮退運転設定が「停止する」の場合】
NX ユニットのリスタートののち、NX バス機能モジュールの異常解除
【縮退運転設定が「縮退する」の場合】
NX ユニットのリスタートののち、NX ユニットの異常解除
【通信カプラユニットの場合】
【縮退運転設定が「停止する」の場合】
コントローラで異常検出する場合は、NX ユニットのリスタートののち、コントローラの全異常解除
コントローラで異常検出しない場合は、NX ユニットのリスタートののち、通信カプラユニットの異常解除
【縮退運転設定が「縮退する」の場合】
NX ユニットのリスタートののち、通信カプラユニットの異常解除</td></tr>
<tr><td>発生の影響</td><td>ユーザプログラム</td><td>継続</td><td>動作</td><td colspan="2">該当 NX ユニットの I/O リフレッシュ停止。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">システム定義変数</td><td colspan="2">変数名</td><td colspan="2">データ型</td><td>名称</td></tr>
<tr><td colspan="2">なし</td><td colspan="2">－</td><td>－</td></tr>
<tr><td rowspan="5">発生要因とその処置</td><td colspan="2">発生要因（推定原因）</td><td colspan="2">処置対策</td><td>再発防止</td></tr>
<tr><td colspan="5">【CPU ユニットの NX バスの場合】</td></tr>
<tr><td colspan="2">ユニット動作設定の書き込み中に CPU ユニットを電断した。または CPU ユニットの不揮発性メモリのうち、該当する NX ユニットのユニット動作設定を保存しているエリアが異常。</td><td colspan="2">NX ユニットのユニット動作設定を再度ダウンロードしてください。上記の処置を行っても本異常が再発する場合は、CPU ユニットを交換してください。</td><td>NX ユニットへのユニット動作設定の転送中やメッセージによる NX ユニットのパラメータ保存の実行中に、CPU ユニットを電断しないでください。</td></tr>
<tr><td colspan="5">【通信カプラユニットの場合】</td></tr>
<tr><td colspan="2">ユニット動作設定の書き込み中に通信カプラユニットを電断した。または通信カプラユニットの不揮発性メモリのうち、該当する NX ユニットのユニット動作設定を保存しているエリアが異常。</td><td colspan="2">NX ユニットのユニット動作設定を再度ダウンロードしてください。上記の処置を行っても本異常が再発する場合は、通信カプラユニットを交換してください。</td><td>サポートソフトによる NX ユニットへのユニット動作設定の転送中やメッセージによる NX ユニットのパラメータ保存の実行中に、通信カプラユニットを電断しないでください。</td></tr>
<tr><td>付属情報</td><td colspan="5">なし</td></tr>
<tr><td>注意点／備考</td><td colspan="5">なし</td></tr>
</table>

イベント名	NX ユニット処理異常			**イベントコード**	40200000Hex	
内容	NX ユニットで致命的な異常を検出しました。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト		**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	【CPU ユニットの NX バスの場合】 NX ユニットの電源再投入ののち、NX バス機能モジュールの異常解除 【通信カプラユニットの場合】 NX ユニットの電源再投入ののち、通信カプラユニットの異常解除				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当 NX ユニットの I/O リフレッシュ停止。該当 NX ユニットへのメッセージ不可。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	ソフトウェアにエラーが発生した。		【CPU ユニットの NX バスの場合】 ユニット電源の再投入、NX ユニットのリスタートまたは NX バスのリスタートをしてください。上記の処置を行っても本異常が再発する場合は、当社営業または代理店にお問い合わせください。 【通信カプラユニットの場合】 ユニット電源の再投入、NX ユニットのリスタートまたはスレーブターミナルのリスタートをしてください。上記の処置を行っても本異常が再発する場合は、当社営業または代理店にお問い合わせください。		なし	
付属情報	付属情報 1：システム情報 付属情報 2：システム情報 付属情報 3：システム情報 付属情報 4：システム情報					
注意点／備考	なし					

イベント名	ヒータ断線検知		**イベントコード**	652C0000Hex	
内容	ヒータ断線を検知しました				
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存	**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	NX ユニットの異常解除			
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	運転は継続。	

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	−	−
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	ヒータの断線、破損。	ヒータが断線、破損していないかを確認してください。断線、破損している場合は、交換してください。	ヒータが断線、破損した原因を調査し、適切な再発防止をおこなってください。
	ヒータ断線検知電流の設定値が大きすぎる。	ヒータ断線検知電流を適切な値に設定してください。	ヒータ断線検知電流を適切な値に設定してください。
	ヒータ断線検知ユニットで本異常が発生している場合、CT 割付設定で、未使用の CT 入力を制御出力に割り付けている。	未使用の CT 入力の CT 割付設定を「使用しない」に設定してください。	未使用の CT 入力の CT 割付設定を「使用しない」に設定してください。
	温度調節ユニットで本異常が発生している場合、未使用チャネルの無効化設定忘れ。	使用しないチャネルの［Ch 有効／無効］を「False」に設定してください。	使用しないチャネルの［Ch 有効／無効］を「False」に設定してください。

付属情報	付属情報 1:異常が発生した CT 入力 0001Hex: CT1 0010Hex: CT2 0100Hex: CT3 1000Hex: CT4 複数の CT 入力で同時に発生した場合の値は、それらの合計値となります。 たとえば CT1～4 すべてで同時に発生した場合は、1111Hex となります。
注意点／備考	重要度を監視情報に変更できます。

イベント名	SSR 故障検知			**イベントコード**	652D0000Hex	
内容	SSR 故障を検知しました					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト		**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	NX ユニットの異常解除				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	運転は継続。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		―		―	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	SSR の短絡、破損。		SSR が短絡、破損していないかを確認してください。短絡、破損している場合は、交換してください。		SSR が短絡、破損した原因を調査し、適切な再発防止を行ってください。	
	SSR 故障検知電流の設定値が小さすぎる。		SSR 故障検知電流を適切な値に設定してください。		SSR 故障検知電流を適切な値に設定してください。	
	ヒータ断線検知ユニットで本異常が発生している場合、CT 割付設定で、未使用の CT 入力を制御出力に割り付けている。		未使用の CT 入力の CT 割付設定を「使用しない」に設定してください。		未使用の CT 入力の CT 割付設定を「使用しない」に設定してください。	
	温度調節ユニットで本異常が発生している場合、未使用チャネルの無効化設定忘れ。		使用しないチャネルの［Ch 有効／無効］を「False」に設定してください。		使用しないチャネルの［Ch 有効／無効］を「False」に設定してください。	
付属情報	付属情報 1:異常が発生した CT 入力 0001Hex: CT1 0010Hex: CT2 0100Hex: CT3 1000Hex: CT4 複数の CT 入力で同時に発生した場合の値は、それらの合計値となります。 たとえば CT1～4 すべてで同時に発生した場合は、1111Hex となります。					
注意点／備考	重要度を監視情報に変更できます。					

イベント名	NX ユニット I/O 通信異常		**イベントコード**	80200000Hex	
内容	NX ユニットで I/O 通信異常が発生しました。				
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存	**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	【CPU ユニットの NX バスの場合】 【縮退運転設定が「停止する」の場合】 NX バス機能モジュールの異常解除 【縮退運転設定が「縮退する」の場合】 NX ユニットの異常解除 【通信カプラユニットの場合】 【縮退運転設定が「停止する」の場合】 コントローラで異常検出する場合は、コントローラの全異常解除 コントローラで異常検出しない場合は、通信カプラユニットと NX ユニットの異常解除 【縮退運転設定が「縮退する」の場合】 通信カプラユニットと NX ユニットの異常解除			
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	NX ユニットの運転は継続。 入力データ: 入力値の更新を停止。	

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	―	―

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	【CPU ユニットの NX バスの場合】		
	CPU ユニットで NX バス通信を正常に行えない異常が発生した。	CPU ユニットで発生している異常を確認し、処置対策を行ってください。	CPU ユニットで発生している異常の再発防止を行ってください。
	NX ユニットの取りつけが不確実。	NX ユニット、エンドカバーを確実に取り付け、エンドプレートで固定してください。	NX ユニット、エンドカバーを確実に取り付け、エンドプレートで固定してください。
	ユニット電源の電源ケーブルが抜けている。または、ユニット電源から NX ユニットへの配線が間違っている。	ユニット電源から NX ユニットへの配線を確実に行ってください。	ユニット電源から NX ユニットへの配線を確実に行ってください。
	ユニット電源の電源ケーブルが断線している。	ユニット電源と NX ユニットの間の電源ケーブルが断線している場合は、電源ケーブルを交換してください。	なし
	ユニット電源の電圧が仕様範囲外、またはユニット電源の電源容量が不足している。	電源供給の設計方法に従い、電源供給システム構成を正しく構築してください。	電源供給の設計方法に従い、電源供給システム構成を正しく構築してください。
	NX ユニットのハードウェアの異常。	上記の処置を行っても本異常が再発する場合は NX ユニットを交換してください。	なし

発生要因とその処置	【通信カプラユニットの場合】		
	通信カプラユニットで NX バス通信を正常に行えない異常が発生した。	通信カプラユニットで発生している異常を確認し、処置対策を行ってください。	通信カプラユニットで発生している異常の再発防止を行ってください。
	NX ユニットの取り付けが不確実。	NX ユニット、エンドカバーを確実に取り付け、エンドプレートで固定してください。	NX ユニット、エンドカバーを確実に取り付け、エンドプレートで固定してください。
	ユニット電源の電源ケーブルが抜けている。または、ユニット電源から NX ユニットへの配線が間違っている。	ユニット電源から NX ユニットへの配線を確実に行ってください。	ユニット電源から NX ユニットへの配線を確実に行ってください。
	ユニット電源の電源ケーブルが断線している。	ユニット電源と NX ユニットの間の電源ケーブルが断線している場合は、電源ケーブルを交換してください。	なし
	ユニット電源の電圧が仕様範囲外である。または、ユニット電源の電源容量が不足している。	電源供給の設計方法に従い、電源供給システム構成を正しく構築してください。	電源供給の設計方法に従い、電源供給システム構成を正しく構築してください。
	NX ユニットのハードウェアの異常。	上記の処置を行っても本異常が再発する場合は NX ユニットを交換してください。	なし
付属情報	なし		
注意点／備考	なし		

<table>
<tr><td>イベント名</td><td colspan="2">NX ユニット時刻同期はずれ異常</td><td>イベントコード</td><td colspan="2">80240000Hex</td></tr>
<tr><td>内容</td><td colspan="5">NX ユニットの時刻情報に異常が発生しました。</td></tr>
<tr><td>発生源</td><td>サポートソフトの接続先とシステム構成に依存</td><td>発生源詳細</td><td>NX ユニット</td><td>検出タイミング</td><td>常時</td></tr>
<tr><td rowspan="2">異常の属性</td><td>重要度</td><td colspan="2">軽度フォールト</td><td>ログカテゴリ</td><td>システム</td></tr>
<tr><td>復旧方法</td><td colspan="4">【CPU ユニットの NX バスの場合】
ユニット電源の再投入
【通信カプラユニットの場合】
ユニット電源の再投入ののち、コントローラの全異常解除</td></tr>
<tr><td>発生の影響</td><td>ユーザプログラム</td><td>継続</td><td>動作</td><td colspan="2">NX ユニットの運転は継続。
入力データ: 入力値の更新を停止。
出力データ:「負荷遮断時の出力設定」に従います。</td></tr>
<tr><td>システム定義変数</td><td>変数名</td><td colspan="2">データ型</td><td colspan="2">名称</td></tr>
<tr><td></td><td>なし</td><td colspan="2">－</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td rowspan="8">発生要因とその処置</td><td>発生要因（推定原因）</td><td colspan="2">処置対策</td><td colspan="2">再発防止</td></tr>
<tr><td colspan="5">【CPU ユニットの NX バスの場合】</td></tr>
<tr><td>NX ユニットのハードウェア異常。</td><td colspan="2">特定の NX ユニットだけで本異常が発生している場合は、該当する NX ユニットを交換してください。</td><td colspan="2">なし</td></tr>
<tr><td>CPU ユニットのハードウェア異常。</td><td colspan="2">CPU ユニットに装着された本異常が発生する NX ユニットのすべてで、本異常が発生している場合は、CPU ユニットを交換してください。</td><td colspan="2">なし</td></tr>
<tr><td colspan="5">【通信カプラユニットの場合】</td></tr>
<tr><td>NX ユニットのハードウェア異常。</td><td colspan="2">特定の NX ユニットだけで本異常が発生している場合は、該当する NX ユニットを交換してください。</td><td colspan="2">なし</td></tr>
<tr><td>EtherCAT カプラユニットのハードウェア異常。</td><td colspan="2">通信カプラユニットに装着された本異常が発生する NX ユニットのすべてで、本異常が発生している場合は、通信カプラユニットを交換してください。</td><td colspan="2">なし</td></tr>
<tr><td>付属情報</td><td colspan="5">なし</td></tr>
<tr><td>注意点／備考</td><td colspan="5">なし</td></tr>
</table>

イベント名	NX メッセージ通信異常			**イベントコード**	80220000Hex	
内容	メッセージ通信で異常を検知し、メッセージフレームを破棄しました。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	NX メッセージ通信中
異常の属性	**重要度**	監視情報		**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	−				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	【CPU ユニットの NX バスの場合】					
	メッセージ通信の負荷が高い。		NX メッセージを送信する命令の使用頻度を減らしてください。		NX メッセージを送信する命令の使用頻度を減らしてください。	
	【通信カプラユニットの場合】					
	メッセージ通信の負荷が高い。		NX メッセージを送信する命令の使用頻度を減らしてください。		NX メッセージを送信する命令の使用頻度を減らしてください。	
	通信ケーブルのはずれ、断線。 付属情報 2 が「0:NX バス」の場合は、本要因はありません。		通信ケーブルを確実に接続してください。		通信ケーブルを確実に接続してください。	
	メッセージ通信実行中に以下を実行することで、メッセージ通信の切断が発生。 • サポートソフトによるパラメータの転送 • バックアップデータのリストア(EtherCAT スレーブターミナルで本異常が発生した場合) • EtherCAT スレーブの離脱(EtherCAT スレーブターミナルで本異常が発生した場合)		−		−	
付属情報	付属情報 1:システム情報 付属情報 2:異常が発生した通信の種類 0: NX バス 1: EtherCAT 2: シリアル通信(USB) 3: EtherNet/IP 65535: ユニット内部（ルーチング処理）					
注意点／備考	なし					

イベント名	イベントログのクリア		**イベントコード**	90400000Hex	
内容	イベントログをクリアしました。				
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存	**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	ユーザからの指示時
異常の属性	**重要度**	一般情報	**ログカテゴリ**	アクセス	
	復旧方法	−			
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし。	

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	−	−
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	ユーザがイベントログをクリアした。	−	−
付属情報	付属情報 1:クリア対象 1: システムイベントログをクリア 2: アクセスイベントログをクリア		
注意点／備考	なし		

2-2-4　高速アナログ入力ユニット関連

ここでは、高速アナログ入力ユニットで発生する異常の内容について説明します。

イベント名	不揮発性メモリハードウェア異常			**イベントコード**	00200000Hex	
内容	不揮発性メモリが異常です。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	NX ユニットの電源投入時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト		**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	【CPU ユニットの NX バスの場合】 ユニット電源の再投入または NX バスのリスタート 【通信カプラユニットの場合】 ユニット電源の再投入またはスレーブターミナルのリスタート コントローラで異常検出する場合は、コントローラの全異常解除をさらに実行				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当 NX ユニットの I/O リフレッシュ停止。該当 NX ユニットへのメッセージ不可。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
	発生要因（推定原因）		**処置対策**		**再発防止**	
	不揮発性メモリの故障。		【CPU ユニットの NX バスの場合】 ユニット電源の再投入、または NX バスのリスタートをしてください。上記の処置を行っても本異常が再発する場合は、該当する NX ユニットを交換してください。 【通信カプラユニットの場合】 ユニット電源の再投入、またはスレーブターミナルのリスタートをしてください。上記の処置を行っても本異常が再発する場合は、該当する NX ユニットを交換してください。		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	アナログユニット校正値パラメータ異常		**イベントコード**	10400000Hex	
内容	アナログユニット校正値データ異常が発生しています。				
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存	**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	NX ユニットの電源投入時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	【CPU ユニットの NX バスの場合】 【縮退運転設定が「停止する」の場合】 NX ユニットのリスタートののち、NX バス機能モジュールの異常解除 【縮退運転設定が「縮退する」の場合】 NX ユニットのリスタート			
		【通信カプラユニットの場合】 【縮退運転設定が「停止する」の場合】 NX ユニットのリスタート コントローラで異常検出する場合は、コントローラの全異常解除をさらに実行 【縮退運転設定が「縮退する」の場合】 NX ユニットのリスタート			
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当 NX ユニットの I/O リフレッシュ停止。	

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	−	−
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	アナログユニット校正値の書き込み中に NX ユニットを電断、またはサポートソフトとの通信を切断した。	アナログユニット校正値を再度書き込みしてください。	アナログユニット校正値の書き込み中に NX ユニットを電断したり、サポートソフトとの通信を切断したりしないでください。
付属情報	なし		
注意点／備考	なし		

<table>
<tr><td>イベント名</td><td colspan="3">マスタ保存制御パラメータ異常</td><td>イベントコード</td><td colspan="2">10410000Hex</td></tr>
<tr><td>内容</td><td colspan="6">マスタ保存の制御パラメータに異常が発生しています。</td></tr>
<tr><td>発生源</td><td colspan="2">サポートソフトの接続先とシステム構成に依存</td><td>発生源詳細</td><td>NX ユニット</td><td>検出タイミング</td><td>NX ユニットの電源投入時</td></tr>
<tr><td rowspan="3">異常の属性</td><td>重要度</td><td colspan="2">軽度フォールト</td><td>ログカテゴリ</td><td colspan="2">システム</td></tr>
<tr><td>復旧方法</td><td colspan="5">【CPU ユニットの NX バスの場合】
【縮退運転設定が「停止する」の場合】
NX ユニットのリスタートののち、NX バス機能モジュールの異常解除
【縮退運転設定が「縮退する」の場合】
NX ユニットのリスタートののち、NX ユニットの異常解除</td></tr>
<tr><td colspan="5">【通信カプラユニットの場合】
【縮退運転設定が「停止する」の場合】
コントローラで異常検出する場合は、NX ユニットのリスタートののち、コントローラの全異常解除
コントローラで異常検出しない場合は、NX ユニットのリスタートののち、通信カプラユニットの異常解除
【縮退運転設定が「縮退する」の場合】
NX ユニットのリスタートののち、通信カプラユニットの異常解除</td></tr>
<tr><td>発生の影響</td><td>ユーザプログラム</td><td>継続</td><td>動作</td><td colspan="3">該当 NX ユニットの I/O リフレッシュ停止。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">システム定義変数</td><td colspan="2">変数名</td><td colspan="2">データ型</td><td colspan="2">名称</td></tr>
<tr><td colspan="2">なし</td><td colspan="2">－</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td rowspan="4">発生要因とその処置</td><td colspan="2">発生要因（推定原因）</td><td colspan="2">処置対策</td><td colspan="2">再発防止</td></tr>
<tr><td colspan="6">【CPU ユニットの NX バスの場合】</td></tr>
<tr><td colspan="2">ユニット動作設定の書き込み中に CPU ユニットを電断した。または CPU ユニットの不揮発性メモリのうち、該当する NX ユニットのユニット動作設定を保存しているエリアが異常。</td><td colspan="2">NX ユニットのユニット動作設定を再度ダウンロードしてください。上記の処置を行っても本異常が再発する場合は、CPU ユニットを交換してください。</td><td colspan="2">NX ユニットへのユニット動作設定の転送中やメッセージによる NX ユニットのパラメータ保存の実行中に、CPU ユニットを電断しないでください。</td></tr>
<tr><td colspan="6">【通信カプラユニットの場合】</td></tr>
<tr><td colspan="2">ユニット動作設定の書き込み中に通信カプラユニットを電断した。または通信カプラユニットの不揮発性メモリのうち、該当する NX ユニットのユニット動作設定を保存しているエリアが異常。</td><td colspan="2">NX ユニットのユニット動作設定を再度ダウンロードしてください。上記の処置を行っても本異常が再発する場合は、通信カプラユニットを交換してください。</td><td colspan="2">サポートソフトによる NX ユニットへのユニット動作設定の転送中やメッセージによる NX ユニットのパラメータ保存の実行中に、通信カプラユニットを電断しないでください。</td></tr>
<tr><td>付属情報</td><td colspan="6">なし</td></tr>
<tr><td>注意点／備考</td><td colspan="6">なし</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>イベント名</td><td colspan="3">ユニット校正値異常</td><td>イベントコード</td><td colspan="2">10440000Hex</td></tr>
<tr><td>内容</td><td colspan="6">ユニット校正値を保存しているエリアが異常です。</td></tr>
<tr><td>発生源</td><td colspan="2">サポートソフトの接続先とシステム構成に依存</td><td>発生源詳細</td><td>NX ユニット</td><td>検出タイミング</td><td>NX ユニットの電源投入時</td></tr>
<tr><td rowspan="2">異常の属性</td><td>重要度</td><td colspan="2">軽度フォールト</td><td>ログカテゴリ</td><td colspan="2">システム</td></tr>
<tr><td>復旧方法</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td>発生の影響</td><td>ユーザプログラム</td><td>継続</td><td>動作</td><td colspan="3">NX ユニットの運転は継続。
入力データ:入力値の更新を停止。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">システム定義変数</td><td colspan="2">変数名</td><td colspan="2">データ型</td><td colspan="2">名称</td></tr>
<tr><td colspan="2">なし</td><td colspan="2">－</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td rowspan="2">発生要因とその処置</td><td colspan="2">発生要因（推定原因）</td><td colspan="2">処置対策</td><td colspan="2">再発防止</td></tr>
<tr><td colspan="2">不揮発性メモリのうち、ユニット校正値を保存しているエリアが異常。</td><td colspan="2">NX ユニットを電源再投入し、本異常が解除されるか確認してください。
上記の処置を行っても本異常が再発する場合は NX ユニットを交換してください。</td><td colspan="2">なし</td></tr>
<tr><td>付属情報</td><td colspan="6">なし</td></tr>
<tr><td>注意点／備考</td><td colspan="6">なし</td></tr>
</table>

イベント名	I/O 割付設定異常			**イベントコード**	30070000Hex	
内容	I/O 割付が正しく設定されていません。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト		**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	【CPU ユニットの NX バスの場合】 NX バスのリスタート 【通信カプラユニットの場合】 スレーブターミナルのリスタート				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当 NX ユニットの I/O リフレッシュ停止。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	【CPU ユニットの NX バスの場合】					
	I/O 割付設定にて、以下のユニット動作設定項目の内容に応じた I/O エントリが設定されていません。 • Ch□ サンプリング数設定 • Ch□ 有効／無効		Ch□ サンプリング数設定および Ch□ 有効／無効の設定後、I/O エントリの更新を実行してください。サポートソフトの I/O 割付設定の編集画面で、I/O エントリの更新を実行することで、必要な I/O エントリが自動的に設定されます。設定後、ユニット動作設定と I/O 割付設定を再度ダウンロードしてください。		Ch□ サンプリング数設定および Ch□ 有効／無効の設定後、I/O エントリの更新を実行してください。サポートソフトの I/O 割付設定の編集画面で、I/O エントリの更新を実行することで、必要な I/O エントリが自動的に設定されます。	
	【通信カプラユニットの場合】					
	I/O 割付設定にて、以下のユニット動作設定項目の内容に応じた I/O エントリが設定されていません。 • Ch□ サンプリング数設定 • Ch□ 有効／無効		Ch□ サンプリング数設定および Ch□ 有効／無効の設定後、I/O エントリの更新を実行してください。サポートソフトの I/O 割付設定の編集画面で、I/O エントリの更新を実行することで、必要な I/O エントリが自動的に設定されます。設定後、ユニット動作設定と I/O 割付設定を再度ダウンロードしてください。		Ch□ サンプリング数設定および Ch□ 有効／無効の設定後、I/O エントリの更新を実行してください。サポートソフトの I/O 割付設定の編集画面で、I/O エントリの更新を実行することで、必要な I/O エントリが自動的に設定されます。	
	サンプリング数設定が 1 以外で、EtherCAT カプラユニットの DC 有効設定を無効にした。		EtherCAT カプラユニットの DC 有効設定を有効(DC for synchronization)または有効(DC with priority in cycle time)に設定し、スレーブターミナルのパラメータ設定を再度ダウンロードしてください。		高速アナログ入力ユニットは、入出力同期リフレッシュ方式固定となります。そのため、EtherCAT カプラユニットの DC 有効設定は、有効(DC for synchronization)または有効(DC with priority in cycle time)で使用してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

<table>
<tr><td>イベント名</td><td colspan="2">サンプリング数設定異常</td><td>イベントコード</td><td colspan="2">38970000Hex</td></tr>
<tr><td>内容</td><td colspan="5">サンプリング周期が、ユニットの変換時間の下限値未満となっています。サンプリング数が正しく設定されていません。</td></tr>
<tr><td>発生源</td><td colspan="2">サポートソフトの接続先とシステム構成に依存</td><td>発生源詳細</td><td>NX ユニット</td><td>検出タイミング</td><td>常時</td></tr>
<tr><td rowspan="2">異常の属性</td><td>重要度</td><td colspan="2">軽度フォールト</td><td>ログカテゴリ</td><td colspan="2">システム</td></tr>
<tr><td>復旧方法</td><td colspan="5">【CPU ユニットの NX バスの場合】
NX バスのリスタート
【通信カプラユニットの場合】
スレーブターミナルのリスタート</td></tr>
<tr><td>発生の影響</td><td>ユーザプログラム</td><td>継続</td><td>動作</td><td colspan="3">該当 NX ユニットの I/O リフレッシュ停止。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">システム定義変数</td><td colspan="2">変数名</td><td colspan="2">データ型</td><td colspan="2">名称</td></tr>
<tr><td colspan="2">なし</td><td colspan="2">－</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td rowspan="2">発生要因とその処置</td><td colspan="2">発生要因（推定原因）</td><td colspan="2">処置対策</td><td colspan="2">再発防止</td></tr>
<tr><td colspan="2">サンプリング周期が、ユニットの変換時間の下限値未満となっています。</td><td colspan="2">サンプリング周期が、ユニットの変換時間の下限値以上となるように、以下の設定を見直してください。
• 異常が発生している Ch のサンプリング数
• 割り付けた定周期タスクのタスク周期

サンプリング数を設定し直した場合は、I/O 割付設定も設定し直してください。設定後、ユニット動作設定と I/O 割付設定を再度ダウンロードしてください。
割り付けた定周期タスクのタスク周期を設定し直した場合は、コントローラへタスク設定を再度ダウンロードしてください。</td><td colspan="2">サンプリング周期が、ユニットの変換時間の下限値以上となるようにしてください。</td></tr>
<tr><td>付属情報</td><td colspan="5">付属情報 1: 異常の発生チャネル
0001Hex: Ch1
0010Hex: Ch2
0100Hex: Ch3
1000Hex: Ch4
複数のチャネルで同時に発生した場合の値は、それらの合計値となります。
たとえば Ch1～4 すべてで同時に発生した場合は、1111Hex となります。</td></tr>
<tr><td>注意点／備考</td><td colspan="5">なし</td></tr>
</table>

イベント名	NX ユニット処理異常			**イベントコード**	40200000Hex	
内容	NX ユニットで致命的な異常を検出しました。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト		**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	【CPU ユニットの NX バスの場合】 • NX ユニットの電源再投入ののち、NX バス機能モジュールの異常解除 【通信カプラユニットの場合】 • NX ユニットの電源再投入ののち、通信カプラユニットの異常解除				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当 NX ユニットの I/O リフレッシュ停止。該当 NX ユニットへのメッセージ不可。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		–		–	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	ソフトウェアにエラーが発生した。		【CPU ユニットの NX バスの場合】 ユニット電源の再投入、NX ユニットのリスタートまたは NX バスのリスタートをしてください。上記の処置を行っても本異常が再発する場合は、当社営業または代理店にお問い合わせください。 【通信カプラユニットの場合】 ユニット電源の再投入、NX ユニットのリスタートまたはスレーブターミナルのリスタートをしてください。上記の処置を行っても本異常が再発する場合は、当社営業または代理店にお問い合わせください。		なし	
付属情報	付属情報 1: システム情報 付属情報 2: システム情報 付属情報 3: システム情報 付属情報 4: システム情報					
注意点／備考	なし					

イベント名	ユニット断線検知(Ch1)		**イベントコード**	65030000Hex	
内容	入力 Ch1 の断線を検知しました。				
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存	**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	NX ユニットの異常解除			
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	変換値は 32767 となります。 運転は継続し、断線回復時に変換値は正常に戻ります。	
システム定義変数	**変数名**		**データ型**	**名称**	
	なし		−	−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**	**再発防止**	
	入力配線の断線。		入力の配線が断線していないか確認し、断線している場合は、ケーブルを交換してください。	使用する配線が断線していないことを確認してください。	
	入力配線の外れ。		入力の配線が確実に接続されているかを確認し、接続不良の場合は再接続してください。	配線が確実に接続されていることを確認してください。	
付属情報	なし				
注意点／備考	重要度を監視情報に変更できます。				

イベント名	ユニット断線検知(Ch2)		**イベントコード**	65040000Hex	
内容	入力 Ch2 の断線を検知しました。				
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存	**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	NX ユニットの異常解除			
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	変換値は 32767 となります。 運転は継続し、断線回復時に変換値は正常に戻ります。	
システム定義変数	**変数名**		**データ型**	**名称**	
	なし		−	−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**	**再発防止**	
	入力配線の断線。		入力の配線が断線していないか確認し、断線している場合は、ケーブルを交換してください。	使用する配線が断線していないことを確認してください。	
	入力配線の外れ。		入力の配線が確実に接続されているかを確認し、接続不良の場合は再接続してください。	配線が確実に接続されていることを確認してください。	
付属情報	なし				
注意点／備考	重要度を監視情報に変更できます。				

イベント名	ユニット断線検知(Ch3)			**イベントコード**	65050000Hex	
内容	入力 Ch3 の断線を検知しました。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト		**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	NX ユニットの異常解除				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	変換値は 32767 となります。 運転は継続し、断線回復時に変換値は正常に戻ります。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		–		–	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	入力配線の断線。		入力の配線が断線していないか確認し、断線している場合は、ケーブルを交換してください。		使用する配線が断線していないことを確認してください。	
	入力配線の外れ。		入力の配線が確実に接続されているかを確認し、接続不良の場合は再接続してください。		配線が確実に接続されていることを確認してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	重要度を監視情報に変更できます。					

イベント名	ユニット断線検知(Ch4)			**イベントコード**	65060000Hex	
内容	入力 Ch4 の断線を検知しました。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト		**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	NX ユニットの異常解除				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	変換値は 32767 となります。 運転は継続し、断線回復時に変換値は正常に戻ります。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		–		–	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	入力配線の断線。		入力の配線が断線していないか確認し、断線している場合は、ケーブルを交換してください。		使用する配線が断線していないことを確認してください。	
	入力配線の外れ。		入力の配線が確実に接続されているかを確認し、接続不良の場合は再接続してください。		配線が確実に接続されていることを確認してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	重要度を監視情報に変更できます。					

イベント名	NX ユニット I/O 通信異常		**イベントコード**	80200000Hex	
内容	NX ユニットで I/O 通信異常が発生しました。				
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存	**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	【CPU ユニットの NX バスの場合】 【縮退運転設定が「停止する」の場合】 NX バス機能モジュールの異常解除 【縮退運転設定が「縮退する」の場合】 NX ユニットの異常解除			
		【通信カプラユニットの場合】 【縮退運転設定が「停止する」の場合】 コントローラで異常検出する場合は、コントローラの全異常解除 コントローラで異常検出しない場合は、通信カプラユニットと NX ユニットの異常解除 【縮退運転設定が「縮退する」の場合】 通信カプラユニットと NX ユニットの異常解除			
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	NX ユニットの運転は継続。 入力データ:入力値の更新を停止。 出力データ:「負荷遮断時の出力設定」に従います。	

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	−	−

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	【CPU ユニットの NX バスの場合】		
	CPU ユニットで NX バス通信を正常に行えない異常が発生した。	CPU ユニットで発生している異常を確認し、処置対策を行ってください。	CPU ユニットで発生している異常の再発防止を行ってください。
	NX ユニットの取り付けが不確実。	NX ユニット、エンドカバーを確実に取り付け、エンドプレートで固定してください。	NX ユニット、エンドカバーを確実に取り付け、エンドプレートで固定してください。
	ユニット電源の電源ケーブルが抜けている。または、ユニット電源から NX ユニットへの配線が間違っている。	ユニット電源から NX ユニットへの配線を確実に行ってください。	ユニット電源から NX ユニットへの配線を確実に行ってください。
	ユニット電源の電源ケーブルが断線している。	ユニット電源と NX ユニットの間の電源ケーブルが断線している場合は、電源ケーブルを交換してください。	なし
	ユニット電源の電圧が仕様範囲外、またはユニット電源の電源容量が不足している。	電源供給の設計方法に従い、電源供給システム構成を正しく構築してください。	電源供給の設計方法に従い、電源供給システム構成を正しく構築してください。
	NX ユニットのハードウェアの異常。	上記の処置を行っても本異常が再発する場合は NX ユニットを交換してください。	なし
発生要因とその処置	【通信カプラユニットの場合】		
	通信カプラユニットで NX バス通信を正常に行えない異常が発生した。	通信カプラユニットで発生している異常を確認し、処置対策を行ってください。	通信カプラユニットで発生している異常の再発防止を行ってください。
	NX ユニットの取り付けが不確実。	NX ユニット、エンドカバーを確実に取り付け、エンドプレートで固定してください。	NX ユニット、エンドカバーを確実に取り付け、エンドプレートで固定してください。
	ユニット電源の電源ケーブルが抜けている。または、ユニット電源から NX ユニットへの配線が間違っている。	ユニット電源から NX ユニットへの配線を確実に行ってください。	ユニット電源から NX ユニットへの配線を確実に行ってください。

	ユニット電源の電源ケーブルが断線している。	ユニット電源と NX ユニットの間の電源ケーブルが断線している場合は、電源ケーブルを交換してください。	なし
	ユニット電源の電圧が仕様範囲外である。または、ユニット電源の電源容量が不足している。	電源供給の設計方法に従い、電源供給システム構成を正しく構築してください。	電源供給の設計方法に従い、電源供給システム構成を正しく構築してください。
	NX ユニットのハードウェアの異常。	上記の処置を行っても本異常が再発する場合は NX ユニットを交換してください。	なし
付属情報	なし		
注意点／備考	なし		

イベント名	NX ユニット出力同期異常			**イベントコード**	80210000Hex	
内容	NX ユニットで出力同期異常が発生しました。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト		**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	【CPU ユニットの NX バスの場合】 NX バス機能モジュールの異常解除 【通信カプラユニットの場合】 コントローラの全異常解除				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	NX ユニットの運転は継続。 入力データ:入力値の更新を停止。 出力データ:「負荷遮断時の出力設定」に従います。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		―		―	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	【CPU ユニットの NX バスの場合】					
	CPU ユニットで異常が発生しているため、NX バス上の I/O リフレッシュが正しく行われていない。		CPU ユニットで発生している異常を確認し、処置対策を行ってください。		CPU ユニットで発生している異常の再発防止を行ってください。	
	【通信カプラユニットの場合】					
	通信カプラユニットに接続している通信ケーブルの断線、接続不良。		通信ケーブルを交換、または確実に配線してください。		通信ケーブルを確実に配線してください。	
	通信ケーブルへのノイズ。		動作に問題が発生しない範囲で、通信カプラユニットにおける通信異常の連続検出回数(Consecutive Communications Error Detection Count)を適切な値に変更してください。 ノイズが多い場合は、ノイズ対策を行ってください。		ノイズ対策を行ってください。 ノイズ対策については、各ユニットのユーザーズマニュアルなどを参照してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	NX ユニット時刻同期はずれ異常		**イベントコード**	80240000Hex	
内容	NX ユニットの時刻情報に異常が発生しました。				
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存	**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	【CPU ユニットの NX バスの場合】 ユニット電源の再投入 【通信カプラユニットの場合】 ユニット電源の再投入ののち、コントローラの全異常解除			
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	NX ユニットの運転は継続。 入力データ:入力値の更新を停止。 出力データ:「負荷遮断時の出力設定」に従います。	

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	−	−

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	【CPU ユニットの NX バスの場合】		
	NX ユニットのハードウェア異常。	特定の NX ユニットだけで本異常が発生している場合は、該当する NX ユニットを交換してください。	なし
	CPU ユニットのハードウェア異常。	CPU ユニットに装着された本異常が発生する NX ユニットのすべてで、本異常が発生している場合は、CPU ユニットを交換してください。	なし
	【通信カプラユニットの場合】		
	NX ユニットのハードウェア異常。	特定の NX ユニットだけで本異常が発生している場合は、該当する NX ユニットを交換してください。	なし
	EtherCAT カプラユニットのハードウェア異常。	通信カプラユニットに装着された本異常が発生する NX ユニットのすべてで、本異常が発生している場合は、通信カプラユニットを交換してください。	なし

付属情報	なし
注意点／備考	なし

イベント名	ユニットオーバーレンジ(Ch1)			イベントコード	64F00000Hex	
内容	入力 Ch1 のアナログ入力データが入力レンジの上限値を上回りました。または、出力 Ch1 のアナログ出力データが出力レンジの上限値を上回りました。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		発生源詳細	NX ユニット	検出タイミング	常時
異常の属性	重要度	監視情報		ログカテゴリ	システム	
	復旧方法	NX ユニットの異常解除				
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	入力オーバーレンジの場合、変換値は入力レンジの上限値となります。出力オーバーレンジの場合、アナログ出力は出力レンジの上限値となります。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		―		―	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	アナログ入力データが入力レンジの上限値を上回った。または、アナログ出力データが出力レンジの上限値を上回った。		入力または出力レンジの上限値を上回った原因を調査し、適切な処置を行ってください。		入力または出力レンジの上限値を上回った原因を調査し、適切な再発防止を行ってください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	重要度を軽度フォールトに変更できます。					

イベント名	ユニットオーバーレンジ(Ch2)			イベントコード	64F10000Hex	
内容	入力 Ch2 のアナログ入力データが入力レンジの上限値を上回りました。または、出力 Ch2 のアナログ出力データが出力レンジの上限値を上回りました。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		発生源詳細	NX ユニット	検出タイミング	常時
異常の属性	重要度	監視情報		ログカテゴリ	システム	
	復旧方法	NX ユニットの異常解除				
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	入力オーバーレンジの場合、変換値は入力レンジの上限値となります。出力オーバーレンジの場合、アナログ出力は出力レンジの上限値となります。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		―		―	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	アナログ入力データが入力レンジの上限値を上回った。または、アナログ出力データが出力レンジの上限値を上回った。		入力または出力レンジの上限値を上回った原因を調査し、適切な処置を行ってください。		入力または出力レンジの上限値を上回った原因を調査し、適切な再発防止を行ってください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	重要度を軽度フォールトに変更できます。					

イベント名	ユニットオーバーレンジ(Ch3)			イベントコード	64F20000Hex	
内容	入力 Ch3 のアナログ入力データが入力レンジの上限値を上回りました。または、出力 Ch3 のアナログ出力データが出力レンジの上限値を上回りました。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		発生源詳細	NX ユニット	検出タイミング	常時
異常の属性	重要度	監視情報		ログカテゴリ	システム	
	復旧方法	NX ユニットの異常解除				
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	入力オーバーレンジの場合、変換値は入力レンジの上限値となります。出力オーバーレンジの場合、アナログ出力は出力レンジの上限値となります。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		―		―	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	アナログ入力データが入力レンジの上限値を上回った。または、アナログ出力データが出力レンジの上限値を上回った。		入力または出力レンジの上限値を上回った原因を調査し、適切な処置を行ってください。		入力または出力レンジの上限値を上回った原因を調査し、適切な再発防止を行ってください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	重要度を軽度フォールトに変更できます。					

イベント名	ユニットオーバーレンジ(Ch4)			イベントコード	64F30000Hex	
内容	入力 Ch4 のアナログ入力データが入力レンジの上限値を上回りました。または、出力 Ch4 のアナログ出力データが出力レンジの上限値を上回りました。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		発生源詳細	NX ユニット	検出タイミング	常時
異常の属性	重要度	監視情報		ログカテゴリ	システム	
	復旧方法	NX ユニットの異常解除				
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	入力オーバーレンジの場合、変換値は入力レンジの上限値となります。出力オーバーレンジの場合、アナログ出力は出力レンジの上限値となります。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		―		―	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	アナログ入力データが入力レンジの上限値を上回った。または、アナログ出力データが出力レンジの上限値を上回った。		入力または出力レンジの上限値を上回った原因を調査し、適切な処置を行ってください。		入力または出力レンジの上限値を上回った原因を調査し、適切な再発防止を行ってください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	重要度を軽度フォールトに変更できます。					

イベント名	ユニットアンダーレンジ(Ch1)			イベントコード	64F80000Hex	
内容	入力 Ch1 のアナログ入力データが入力レンジの下限値を下回りました。または、出力 Ch1 のアナログ出力データが出力レンジの下限値を下回りました。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		発生源詳細	NX ユニット	検出タイミング	常時
異常の属性	重要度	監視情報		ログカテゴリ	システム	
	復旧方法	NX ユニットの異常解除				
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	入力アンダーレンジの場合、変換値は入力レンジの下限値となります。出力アンダーレンジの場合、アナログ出力は出力レンジの下限値となります。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		―		―	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	アナログ入力データが入力レンジの下限値を下回った。または、アナログ出力データが出力レンジの下限値を下回った。		入力または出力レンジの下限値を下回った原因を調査し、適切な処置を行ってください。		入力または出力レンジの下限値を下回った原因を調査し、適切な再発防止を行ってください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	重要度を軽度フォールトに変更できます。					

イベント名	ユニットアンダーレンジ(Ch2)			イベントコード	64F90000Hex	
内容	入力 Ch2 のアナログ入力データが入力レンジの下限値を下回りました。または、出力 Ch2 のアナログ出力データが出力レンジの下限値を下回りました。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		発生源詳細	NX ユニット	検出タイミング	常時
異常の属性	重要度	監視情報		ログカテゴリ	システム	
	復旧方法	NX ユニットの異常解除				
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	入力アンダーレンジの場合、変換値は入力レンジの下限値となります。出力アンダーレンジの場合、アナログ出力は出力レンジの下限値となります。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		―		―	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	アナログ入力データが入力レンジの下限値を下回った。または、アナログ出力データが出力レンジの下限値を下回った。		入力または出力レンジの下限値を下回った原因を調査し、適切な処置を行ってください。		入力または出力レンジの下限値を下回った原因を調査し、適切な再発防止を行ってください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	重要度を軽度フォールトに変更できます。					

イベント名	ユニットアンダーレンジ(Ch3)			イベントコード	64FA0000Hex	
内容	入力 Ch3 のアナログ入力データが入力レンジの下限値を下回りました。または、出力 Ch3 のアナログ出力データが出力レンジの下限値を下回りました。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		発生源詳細	NX ユニット	検出タイミング	常時
異常の属性	重要度	監視情報		ログカテゴリ	システム	
	復旧方法	NX ユニットの異常解除				
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	入力アンダーレンジの場合、変換値は入力レンジの下限値となります。出力アンダーレンジの場合、アナログ出力は出力レンジの下限値となります。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		―		―	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	アナログ入力データが入力レンジの下限値を下回った。または、アナログ出力データが出力レンジの下限値を下回った。		入力または出力レンジの下限値を下回った原因を調査し、適切な処置を行ってください。		入力または出力レンジの下限値を下回った原因を調査し、適切な再発防止を行ってください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	重要度を軽度フォールトに変更できます。					

イベント名	ユニットアンダーレンジ(Ch4)			イベントコード	64FB0000Hex	
内容	入力 Ch4 のアナログ入力データが入力レンジの下限値を下回りました。または、出力 Ch4 のアナログ出力データが出力レンジの下限値を下回りました。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		発生源詳細	NX ユニット	検出タイミング	常時
異常の属性	重要度	監視情報		ログカテゴリ	システム	
	復旧方法	NX ユニットの異常解除				
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	入力アンダーレンジの場合、変換値は入力レンジの下限値となります。出力アンダーレンジの場合、アナログ出力は出力レンジの下限値となります。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		―		―	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	アナログ入力データが入力レンジの下限値を下回った。または、アナログ出力データが出力レンジの下限値を下回った。		入力または出力レンジの下限値を下回った原因を調査し、適切な処置を行ってください。		入力または出力レンジの下限値を下回った原因を調査し、適切な再発防止を行ってください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	重要度を軽度フォールトに変更できます。					

イベント名	NX メッセージ通信異常			**イベントコード**	80220000Hex	
内容	メッセージ通信で異常を検知し、メッセージフレームを破棄しました。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	NX メッセージ通信中
異常の属性	**重要度**	監視情報		**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	−				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	【CPU ユニットの NX バスの場合】					
	メッセージ通信の負荷が高い。		NX メッセージを送信する命令の使用頻度を減らしてください。		NX メッセージを送信する命令の使用頻度を減らしてください。	
	【通信カプラユニットの場合】					
	メッセージ通信の負荷が高い。		NX メッセージを送信する命令の使用頻度を減らしてください。		NX メッセージを送信する命令の使用頻度を減らしてください。	
	通信ケーブルのはずれ、断線。 付属情報 2 が「0: NX バス」の場合は、本要因はありません。		通信ケーブルを確実に接続してください。		通信ケーブルを確実に接続してください。	
	メッセージ通信実行中に以下を実行することで、メッセージ通信の切断が発生。 • サポートソフトによるパラメータの転送 • バックアップデータのリストア（EtherCAT スレーブターミナルで本異常が発生した場合） • EtherCAT スレーブの離脱（EtherCAT スレーブターミナルで本異常が発生した場合）		−		−	
付属情報	付属情報 1: システム情報 付属情報 2: 異常が発生した通信の種類 0: NX バス 1: EtherCAT 2: シリアル通信(USB) 3: EtherNet/IP 65535: ユニット内部（ルーチング処理）					
注意点／備考	なし					

イベント名	イベントログのクリア		**イベントコード**	90400000Hex	
内容	イベントログをクリアしました。				
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存	**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	ユーザからの指示時
異常の属性	**重要度**	一般情報	**ログカテゴリ**	アクセス	
	復旧方法	−			
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし。	
システム定義変数	**変数名**		**データ型**	**名称**	
	なし		−	−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**	**再発防止**	
	ユーザがイベントログをクリアした。		−	−	
付属情報	付属情報 1:クリア対象 • 1:システムイベントログをクリア • 2:アクセスイベントログをクリア				
注意点／備考	なし				

2-3 NX シリーズシステムユニット

以下の形式のユニットで発生するイベントです。
- 形 NX-PD1□□□
- 形 NX-PF0□□□
- 形 NX-PC0□□□
- 形 NX-TBX01

2-3-1 システムユニット関連

ここでは、システムユニットで発生する異常の内容について説明します。

イベント名	不揮発性メモリハードウェア異常			**イベントコード**	00200000Hex	
内容	不揮発性メモリが異常です。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	NX ユニットの電源投入時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト		**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	【CPU ユニットの NX バスの場合】 ユニット電源の再投入または NX バスのリスタート 【通信カプラユニットの場合】 ユニット電源の再投入またはスレーブターミナルのリスタート コントローラで異常検出する場合は、コントローラの全異常解除をさらに実行				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当 NX ユニットの I/O リフレッシュ停止。該当 NX ユニットへのメッセージ不可。		

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	−	−
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	不揮発性メモリの故障。	【CPU ユニットの NX バスの場合】 ユニット電源の再投入、または NX バスのリスタートをしてください。上記の処置を行っても本異常が再発する場合は、該当する NX ユニットを交換してください。 【通信カプラユニットの場合】 ユニット電源の再投入、またはスレーブターミナルのリスタートをしてください。上記の処置を行っても本異常が再発する場合は、該当する NX ユニットを交換してください。	なし
付属情報	なし		
注意点／備考	なし		

イベント名	イベントログのクリア		**イベントコード**	90400000Hex	
内容	イベントログをクリアしました。				
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存	**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	ユーザからの指示時
異常の属性	**重要度**	一般情報	**ログカテゴリ**	アクセス	
	復旧方法	−			
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし。	

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	−	−
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	ユーザがイベントログをクリアした。	−	−
付属情報	付属情報 1:クリア対象 1:システムイベントログをクリア 2:アクセスイベントログをクリア		
注意点／備考	なし		

2-4 NX シリーズ位置インタフェースユニット

以下の形式のユニットで発生するイベントです。
- 形 NX-EC0□□□
- 形 NX-ECS□□□
- 形 NX-PG0□□□

2-4-1 位置インタフェースユニット関連

イベント名	不揮発性メモリハードウェア異常			**イベントコード**	00200000Hex	
内容	不揮発性メモリが異常です。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	NX ユニットの電源投入時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト		**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	【CPU ユニットの NX バスの場合】 ユニット電源の再投入または NX バスのリスタート 【通信カプラユニットの場合】 ユニット電源の再投入またはスレーブターミナルのリスタート コントローラで異常検出する場合は、コントローラの全異常解除をさらに実行				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	不揮発性メモリへの書き込み不可。		

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	−	−

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	不揮発性メモリの故障。	【CPU ユニットの NX バスの場合】 ユニット電源の再投入、または NX バスのリスタートをしてください。上記の処置を行っても本異常が再発する場合は、該当する NX ユニットを交換してください。 【通信カプラユニットの場合】 ユニット電源の再投入、またはスレーブターミナルのリスタートをしてください。上記の処置を行っても本異常が再発する場合は、該当する NX ユニットを交換してください。	なし

付属情報	なし
注意点／備考	なし

<table>
<tr><td>イベント名</td><td colspan="2">マスタ保存制御パラメータ異常</td><td>イベントコード</td><td colspan="2">10410000Hex</td></tr>
<tr><td>内容</td><td colspan="5">マスタ保存の制御パラメータに異常が発生しています。</td></tr>
<tr><td>発生源</td><td>サポートソフトの接続先とシステム構成に依存</td><td>発生源詳細</td><td>NX ユニット</td><td>検出タイミング</td><td>NX ユニットの電源投入時</td></tr>
<tr><td rowspan="2">異常の属性</td><td>重要度</td><td colspan="2">軽度フォールト</td><td>ログカテゴリ</td><td>システム</td></tr>
<tr><td>復旧方法</td><td colspan="4">【CPU ユニットの NX バスの場合】
【縮退運転設定が「停止する」の場合】
NX ユニットのリスタートののち、NX バス機能モジュールの異常解除
【縮退運転設定が「縮退する」の場合】
NX ユニットのリスタートののち、NX ユニットの異常解除
【通信カプラユニットの場合】
【縮退運転設定が「停止する」の場合】
コントローラで異常検出する場合は、NX ユニットのリスタートののち、コントローラの全異常解除
コントローラで異常検出しない場合は、NX ユニットのリスタートののち、通信カプラユニットの異常解除
【縮退運転設定が「縮退する」の場合】
NX ユニットのリスタートののち、通信カプラユニットの異常解除</td></tr>
<tr><td>発生の影響</td><td>ユーザプログラム</td><td>継続</td><td>動作</td><td colspan="2">該当 NX ユニットの I/O リフレッシュ停止。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">システム定義変数</td><td colspan="2">変数名</td><td colspan="2">データ型</td><td>名称</td></tr>
<tr><td colspan="2">なし</td><td colspan="2">－</td><td>－</td></tr>
<tr><td rowspan="5">発生要因とその処置</td><td colspan="2">発生要因（推定原因）</td><td colspan="2">処置対策</td><td>再発防止</td></tr>
<tr><td colspan="5">【CPU ユニットの NX バスの場合】</td></tr>
<tr><td colspan="2">ユニット動作設定の書き込み中に CPU ユニットを電断した。または CPU ユニットの不揮発性メモリのうち、該当する NX ユニットのユニット動作設定を保存しているエリアが異常。</td><td colspan="2">NX ユニットのユニット動作設定を再度ダウンロードしてください。上記の処置を行っても本異常が再発する場合は、CPU ユニットを交換してください。</td><td>NX ユニットへのユニット動作設定の転送中やメッセージによる NX ユニットのパラメータ保存の実行中に、CPU ユニットを電断しないでください。</td></tr>
<tr><td colspan="5">【通信カプラユニットの場合】</td></tr>
<tr><td colspan="2">ユニット動作設定の書き込み中に通信カプラユニットを電断した。または通信カプラユニットの不揮発性メモリのうち、該当する NX ユニットのユニット動作設定を保存しているエリアが異常。</td><td colspan="2">NX ユニットのユニット動作設定を再度ダウンロードしてください。上記の処置を行っても本異常が再発する場合は、通信カプラユニットを交換してください。</td><td>サポートソフトによる NX ユニットへのユニット動作設定の転送中やメッセージによる NX ユニットのパラメータ保存の実行中に、通信カプラユニットを電断しないでください。</td></tr>
<tr><td>付属情報</td><td colspan="5">なし</td></tr>
<tr><td>注意点／備考</td><td colspan="5">なし</td></tr>
</table>

イベント名	外部入力設定不正			**イベントコード**	35100000Hex	
内容	外部入力の設定が不正です。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	NX ユニットの電源投入時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト		**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	NX ユニットのリスタート				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	外部入力機能は無効。 リセット／外部入力ステータスの「Ch□外部入力有効状態」ビットが FALSE になります。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	汎用入力以外の 1 つの機能が、外部入力 I0～I2 に複数設定されている。		汎用入力以外の機能では、1 つの機能を複数の外部入力に設定しないでください。		汎用入力以外の機能では、1 つの機能を複数の外部入力に設定しないでください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	SSI データ設定不正			**イベントコード**	35110000Hex	
内容	SSI データ設定が不正です。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	NX ユニットの電源投入時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト		**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	NX ユニットのリスタート				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	現在値データは 0 になる。 SSI ステータスの「Ch□SSI 通信有効/無効」ビットが FALSE になります。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	「有効データ長」+「ビットシフト数」が 32 を超えている。		SSI データの設定に間違いがないかを確認し、間違いがある場合は修正してください。		SSI データの設定に正しいデータを設定してください。	
	「マルチターンデータ長」+「シングルターンデータ長」+「ステータスデータ長」が 32 を超えている。					
	各 SSI データの「開始ビット位置」+「データ長」が「有効データ長」を超えている。					
	「エンコーダ分解能」が「シングルターンデータ長」で表せる範囲を超えている。		分解能の設定に間違いがないかを確認し、間違いがある場合は修正してください。		分解能の設定に正しいデータを設定してください。	
付属情報	付属情報 1:異常の発生チャネル 1:Ch1 2:Ch2					
注意点／備考	なし					

イベント名	NX ユニット処理異常		**イベントコード**	40200000Hex	
内容	NX ユニットで致命的な異常を検出しました。				
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存	**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	【CPU ユニットの NX バスの場合】 NX ユニットの電源再投入ののち、NX バス機能モジュールの異常解除 【通信カプラユニットの場合】 NX ユニットの電源再投入ののち、通信カプラユニットの異常解除			
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当 NX ユニットの I/O リフレッシュ停止。該当 NX ユニットへのメッセージ不可。	

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	−	−

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	ソフトウェアにエラーが発生した。	【CPU ユニットの NX バスの場合】 ユニット電源の再投入、NX ユニットのリスタートまたは NX バスのリスタートをしてください。上記の処置を行っても本異常が再発する場合は、当社営業または代理店にお問い合わせください。 【通信カプラユニットの場合】 ユニット電源の再投入、NX ユニットのリスタートまたはスレーブターミナルのリスタートをしてください。上記の処置を行っても本異常が再発する場合は、当社営業または代理店にお問い合わせください。	なし

付属情報	付属情報 1：システム情報 付属情報 2：システム情報 付属情報 3：システム情報 付属情報 4：システム情報
注意点／備考	なし

イベント名	同期指令不正			**イベントコード**	743D0000Hex	
内容	同期リフレッシュによる目標位置データの更新失敗が規定回数を超えて連続発生しました。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト		**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	NX ユニットの異常解除				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	NX ユニットの運転は継続。 出力データ：パルス出力は「負荷遮断時の出力設定」に従います。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	【CPU ユニットの NX バスの場合】					
	ノイズ。		動作に問題が発生しない範囲で、「同期指令補間回数」を適切な値に変更してください。 ノイズが多い場合は、ノイズ対策を行ってください。		ノイズが多い場合は、ノイズ対策を行ってください。	
	【通信カプラユニットの場合】					
	通信カプラユニットを接続している通信ケーブルの断線、接続不良。		通信ケーブルを交換、または確実に配線してください。		通信ケーブルを確実に配線してください。	
	ノイズ。		動作に問題が発生しない範囲で、「同期指令補間回数」を適切な値に変更してください。 ノイズが多い場合は、ノイズ対策を行ってください。		ノイズが多い場合は、ノイズ対策を行ってください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	重要度を監視情報に変更できます。					

イベント名	位置偏差不正		**イベントコード**	743E0000Hex	
内容	指令位置と現在位置の差が 30 ビット以上になりました。				
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存	**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	NX ユニットの異常解除			
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	NX ユニットの運転は継続。 出力データ：パルス出力は「負荷遮断時の出力設定」に従います。	

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	−	−

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	最高速度（最高速度を設定できる形式の場合はその設定値）を超える指令を与え続けられたため、最高速度で制限される実際のパルス出力との偏差が累積した。	最高速度（最高速度を設定できる形式の場合はその設定値）を超えないように、プログラムまたはモーション制御機能モジュールの電子ギア比を修正してください。	最高速度（最高速度を設定できる形式の場合はその設定値）を超えないようにプログラムまたはモーション制御機能モジュールの電子ギア比を設定してください。
	速度連続パルス出力方式において、指令位置に対応しない指令速度を指定されたため、更新される指令位置に対して実際に出力されるパルス数が累積した。 モーション制御機能モジュールを使用する場合は、指令速度は自動計算されるため、本要因は発生しません。	指令位置に応じた指令速度を与えるようにプログラムを修正してください。	指令位置に応じた指令速度を与えるようにプログラムを作成してください。またはモーション制御機能モジュールを使用してください。

付属情報	付属情報 1:異常の発生チャネル 1:Ch1 2:Ch2 3:Ch3 4:Ch4
注意点／備考	なし

イベント名	不正状態遷移			**イベントコード**	743F0000Hex	
内容	パルス出力ユニットの動作状態がサーボ ON のときに、EtherCAT マスタまたは EtherCAT カプラユニットから、通信状態の変更指示が実行されました。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト		**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	NX ユニットの異常解除				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	NX ユニットの運転は継続。 入力データ:変更後の通信状態に応じた動作となります。 出力データ：外部出力は OFF。パルス出力は「負荷遮断時の出力設定」に従います。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		―		―	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	サーボ ON(Operation Enabled)状態で、通信マスタから現在の通信状態を変更する通信コマンドが与えられた。		不正に通信状態を変更することがないようにプログラムを修正してください。または通信状態を変更する前に、サーボ ON 状態を解除するようなインタロック回路をプログラムに追加してください。		不正に通信状態を変更することがないようにプログラムを作成してください。または通信状態を変更する前に、サーボ ON 状態を解除するようなインタロック回路を含むプログラムを作成してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

<table>
<tr><td>イベント名</td><td colspan="2">NX ユニット I/O 通信異常</td><td>イベントコード</td><td colspan="2">80200000Hex</td></tr>
<tr><td>内容</td><td colspan="5">NX ユニットで I/O 通信異常が発生しました。</td></tr>
<tr><td>発生源</td><td>サポートソフトの接続先とシステム構成に依存</td><td>発生源詳細</td><td>NX ユニット</td><td>検出タイミング</td><td>常時</td></tr>
<tr><td rowspan="2">異常の属性</td><td>重要度</td><td colspan="2">軽度フォールト</td><td>ログカテゴリ</td><td>システム</td></tr>
<tr><td>復旧方法</td><td colspan="4">【CPU ユニットの NX バスの場合】
【縮退運転設定が「停止する」の場合】
NX バス機能モジュールの異常解除
【縮退運転設定が「縮退する」の場合】
NX ユニットの異常解除
【通信カプラユニットの場合】
【縮退運転設定が「停止する」の場合】
コントローラで異常検出する場合は、コントローラの全異常解除
コントローラで異常検出しない場合は、通信カプラユニットと NX ユニットの異常解除
【縮退運転設定が「縮退する」の場合】
通信カプラユニットと NX ユニットの異常解除</td></tr>
<tr><td>発生の影響</td><td>ユーザプログラム</td><td>継続</td><td>動作</td><td colspan="2">NX ユニットの運転は継続。
入力データ:入力値の更新を停止。
出力データ：外部出力は OFF、パルス出力は「負荷遮断時の出力設定」に従います。</td></tr>
<tr><td>システム定義変数</td><td colspan="2">変数名</td><td colspan="2">データ型</td><td>名称</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">なし</td><td colspan="2">－</td><td>－</td></tr>
<tr><td rowspan="8">発生要因とその処置</td><td colspan="2">発生要因（推定原因）</td><td colspan="2">処置対策</td><td>再発防止</td></tr>
<tr><td colspan="5">【CPU ユニットの NX バスの場合】</td></tr>
<tr><td colspan="2">CPU ユニットで NX バス通信を正常に行えない異常が発生した。</td><td colspan="2">CPU ユニットで発生している異常を確認し、処置対策を行ってください。</td><td>CPU ユニットで発生している異常の再発防止を行ってください。</td></tr>
<tr><td colspan="2">NX ユニットの取りつけが不確実。</td><td colspan="2">NX ユニット、エンドカバーを確実に取り付け、エンドプレートで固定してください。</td><td>NX ユニット、エンドカバーを確実に取り付け、エンドプレートで固定してください。</td></tr>
<tr><td colspan="2">ユニット電源の電源ケーブルが抜けている。または、ユニット電源から NX ユニットへの配線が間違っている。</td><td colspan="2">ユニット電源から NX ユニットへの配線を確実に行ってください。</td><td>ユニット電源から NX ユニットへの配線を確実に行ってください。</td></tr>
<tr><td colspan="2">ユニット電源の電源ケーブルが断線している。</td><td colspan="2">ユニット電源と NX ユニットの間の電源ケーブルが断線している場合は、電源ケーブルを交換してください。</td><td>なし</td></tr>
<tr><td colspan="2">ユニット電源の電圧が仕様範囲外、またはユニット電源の電源容量が不足している。</td><td colspan="2">電源供給の設計方法に従い、電源供給システム構成を正しく構築してください。</td><td>電源供給の設計方法に従い、電源供給システム構成を正しく構築してください。</td></tr>
<tr><td colspan="2">NX ユニットのハードウェアの異常。</td><td colspan="2">上記の処置を行っても本異常が再発する場合は NX ユニットを交換してください。</td><td>なし</td></tr>
</table>

発生要因とその処置	【通信カプラユニットの場合】		
	通信カプラユニットで NX バス通信を正常に行えない異常が発生した。	通信カプラユニットで発生している異常を確認し、処置対策を行ってください。	通信カプラユニットで発生している異常の再発防止を行ってください。
	NX ユニットの取り付けが不確実。	NX ユニット、エンドカバーを確実に取り付け、エンドプレートで固定してください。	NX ユニット、エンドカバーを確実に取り付け、エンドプレートで固定してください。
	ユニット電源の電源ケーブルが抜けている。または、ユニット電源から NX ユニットへの配線が間違っている。	ユニット電源から NX ユニットへの配線を確実に行ってください。	ユニット電源から NX ユニットへの配線を確実に行ってください。
	ユニット電源の電源ケーブルが断線している。	ユニット電源と NX ユニットの間の電源ケーブルが断線している場合は、電源ケーブルを交換してください。	なし
	ユニット電源の電圧が仕様範囲外である。または、ユニット電源の電源容量が不足している。	電源供給の設計方法に従い、電源供給システム構成を正しく構築してください。	電源供給の設計方法に従い、電源供給システム構成を正しく構築してください。
	NX ユニットのハードウェアの異常。	上記の処置を行っても本異常が再発する場合は NX ユニットを交換してください。	なし
付属情報	なし		
注意点／備考	なし		

イベント名	NX ユニット出力同期異常		**イベントコード**	80210000Hex	
内容	NX ユニットで出力同期異常が発生しました。				
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存	**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	【CPU ユニットの NX バスの場合】 NX バス機能モジュールの異常解除 【通信カプラユニットの場合】 コントローラの全異常解除			
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	NX ユニットの運転は継続。 入力データ:入力値の更新を停止。 出力データ：外部出力は OFF、パルス出力は「負荷遮断時の出力設定」に従います。	

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	−	−

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	【CPU ユニットの NX バスの場合】		
	CPU ユニットで異常が発生しているため、NX バス上の I/O リフレッシュが正しく行われていない。	CPU ユニットで発生している異常を確認し、処置対策を行ってください。	CPU ユニットで発生している異常の再発防止を行ってください。
	【通信カプラユニットの場合】		
	通信カプラユニットに接続している通信ケーブルの断線、接続不良。	通信ケーブルを交換、または確実に配線してください。	通信ケーブルを確実に配線してください。
	通信ケーブルへのノイズ。	動作に問題が発生しない範囲で、通信カプラユニットにおける通信異常の連続検出回数(Consecutive Communications Error Detection Count)を適切な値に変更してください。 ノイズが多い場合は、ノイズ対策を行ってください。	ノイズ対策を行ってください。 ノイズ対策については、各ユニットのユーザーズマニュアルなどを参照してください。

付属情報	なし
注意点／備考	なし

イベント名	NX ユニット時刻同期はずれ異常		**イベントコード**	80240000Hex	
内容	NX ユニットの時刻情報に異常が発生しました。				
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存	**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	【CPU ユニットの NX バスの場合】 ユニット電源の再投入 【通信カプラユニットの場合】 ユニット電源の再投入ののち、コントローラの全異常解除			
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	NX ユニットの運転は継続。 入力データ:入力値の更新を停止。 出力データ：外部出力は OFF、パルス出力は「負荷遮断時の出力設定」に従います。	

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	−	−

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	【CPU ユニットの NX バスの場合】		
	NX ユニットのハードウェア異常。	特定の NX ユニットだけで本異常が発生している場合は、該当する NX ユニットを交換してください。	なし
	CPU ユニットのハードウェア異常。	CPU ユニットに装着された本異常が発生する NX ユニットのすべてで、本異常が発生している場合は、CPU ユニットを交換してください。	なし
	【通信カプラユニットの場合】		
	NX ユニットのハードウェア異常。	特定の NX ユニットだけで本異常が発生している場合は、該当する NX ユニットを交換してください。	なし
	EtherCAT カプラユニットのハードウェア異常。	通信カプラユニットに装着された本異常が発生する NX ユニットのすべてで、本異常が発生している場合は、通信カプラユニットを交換してください。	なし

付属情報	なし
注意点／備考	なし

イベント名	NX メッセージ通信異常		**イベントコード**	80220000Hex	
内容	メッセージ通信で異常を検知し、メッセージフレームを破棄しました。				
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存	**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	NX メッセージ通信中
異常の属性	**重要度**	監視情報	**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	−			
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし。	

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	−	−
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	【CPU ユニットの NX バスの場合】		
	メッセージ通信の負荷が高い。	NX メッセージを送信する命令の使用頻度を減らしてください。	NX メッセージを送信する命令の使用頻度を減らしてください。
	【通信カプラユニットの場合】		
	メッセージ通信の負荷が高い。	NX メッセージを送信する命令の使用頻度を減らしてください。	NX メッセージを送信する命令の使用頻度を減らしてください。
	通信ケーブルのはずれ、断線。 付属情報 2 が「0:NX バス」の場合は、本要因はありません。	通信ケーブルを確実に接続してください。	通信ケーブルを確実に接続してください。
	メッセージ通信実行中に以下を実行することで、メッセージ通信の切断が発生。 • サポートソフトによるパラメータの転送 • バックアップデータのリストア(EtherCAT スレーブターミナルで本異常が発生した場合) • EtherCAT スレーブの離脱(EtherCAT スレーブターミナルで本異常が発生した場合)	−	−
付属情報	付属情報 1:システム情報 付属情報 2:異常が発生した通信の種類 0: NX バス 1: EtherCAT 2: シリアル通信(USB) 3: EtherNet/IP 65535: ユニット内部（ルーチング処理）		
注意点／備考	なし		

イベント名	SSI 通信異常			**イベントコード**	84D00000Hex	
内容	SSI 通信に異常が発生しました。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	監視情報		**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	NX ユニットのリスタート				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	現在値データは直前の値が保持され、データは更新されません。 SSI ステータスの「Ch□SSI 通信エラー発生状態」ビットがが TRUE になります。 本ビットは、次に正常に SSI 通信が実行されると FALSE になります。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		―		―	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	SSI データ設定が、接続機器の SSI 通信設定と一致していない。		SSI データ設定と接続機器の SSI 通信設定を一致させてください。		SSI データ設定と接続機器の SSI 通信設定を一致させてください。	
	NX ユニットと接続機器の配線が間違っている、または断線している。		NX ユニットと接続機器が正しく配線されていることを確認し、問題があれば修正してください。		NX ユニットと接続機器が正しく配線されていることを確認してください。	
	ノイズ。		ノイズが多い場合は、ノイズ対策を行ってください。		ノイズが多い場合は、ノイズ対策を行ってください。	
付属情報	付属情報 1:異常の発生チャネル 1:Ch1 2:Ch2 付属情報 2:異常の詳細 1:通信準備未完了 2:フレームエラー 3:パリティエラー 4:通信タイムアウト 5:範囲外位置変化					
注意点／備考	重要度を軽度フォールトに変更できます。軽度フォールトに変更した場合の復旧方法は“NX ユニットの異常解除”です。					

イベント名	イベントログのクリア			**イベントコード**	90400000Hex	
内容	イベントログをクリアしました。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	ユーザからの指示時
異常の属性	**重要度**	一般情報		**ログカテゴリ**	アクセス	
	復旧方法	―				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		―		―	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	ユーザがイベントログをクリアした。		―		―	
付属情報	付属情報 1:クリア対象 1: システムイベントログをクリア 2: アクセスイベントログをクリア					
注意点／備考	なし					

2-5 NX シリーズコミュニケーションインタフェースユニット

以下の形式のユニットで発生するイベントです。
・ 形 NX-CIF□□□

2-5-1 コミュニケーションインタフェースユニット関連

イベント名	不揮発性メモリハードウェア異常			**イベントコード**	00200000Hex	
内容	不揮発性メモリが異常です。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	NX ユニットの電源投入時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト		**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	【CPU ユニットの NX バスの場合】 ユニット電源の再投入または NX バスのリスタート 【通信カプラユニットの場合】 ユニット電源の再投入またはスレーブターミナルのリスタート コントローラで異常検出する場合は、コントローラの全異常解除をさらに実行				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	不揮発性メモリへの書き込み不可。		

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	−	−

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	不揮発性メモリの故障。	【CPU ユニットの NX バスの場合】 ユニット電源の再投入、または NX バスのリスタートをしてください。上記の処置を行っても本異常が再発する場合は、該当する NX ユニットを交換してください。 【通信カプラユニットの場合】 ユニット電源の再投入、またはスレーブターミナルのリスタートをしてください。上記の処置を行っても本異常が再発する場合は、該当する NX ユニットを交換してください。	なし

付属情報	なし
注意点／備考	なし

イベント名	マスタ保存制御パラメータ異常		**イベントコード**	10410000Hex	
内容	マスタ保存の制御パラメータに異常が発生しています。				
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存	**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	NX ユニットの電源投入時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	【CPU ユニットの NX バスの場合】 【縮退運転設定が「停止する」の場合】 NX ユニットのリスタートののち、NX バス機能モジュールの異常解除 【縮退運転設定が「縮退する」の場合】 NX ユニットのリスタートののち、NX ユニットの異常解除 【通信カプラユニットの場合】 【縮退運転設定が「停止する」の場合】 コントローラで異常検出する場合は、NX ユニットのリスタートののち、コントローラの全異常解除 コントローラで異常検出しない場合は、NX ユニットのリスタートののち、通信カプラユニットの異常解除 【縮退運転設定が「縮退する」の場合】 NX ユニットのリスタートののち、通信カプラユニットの異常解除			
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当 NX ユニットの I/O リフレッシュ停止。	

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	−	−

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	【CPU ユニットの NX バスの場合】		
	ユニット動作設定の書き込み中に CPU ユニットを電断した。または CPU ユニットの不揮発性メモリのうち、該当する NX ユニットのユニット動作設定を保存しているエリアが異常。	NX ユニットのユニット動作設定を再度ダウンロードしてください。上記の処置を行っても本異常が再発する場合は、CPU ユニットを交換してください。	NX ユニットへのユニット動作設定の転送中やメッセージによる NX ユニットのパラメータ保存の実行中に、CPU ユニットを電断しないでください。
	【通信カプラユニットの場合】		
	ユニット動作設定の書き込み中に通信カプラユニットを電断した。または通信カプラユニットの不揮発性メモリのうち、該当する NX ユニットのユニット動作設定を保存しているエリアが異常。	NX ユニットのユニット動作設定を再度ダウンロードしてください。上記の処置を行っても本異常が再発する場合は、通信カプラユニットを交換してください。	サポートソフトによる NX ユニットへのユニット動作設定の転送中やメッセージによる NX ユニットのパラメータ保存の実行中に、通信カプラユニットを電断しないでください。

付属情報	なし
注意点／備考	なし

イベント名	NX ユニット処理異常		**イベントコード**	40200000Hex	
内容	NX ユニットで致命的な異常を検出しました。				
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存	**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	【CPU ユニットの NX バスの場合】 NX ユニットの電源再投入ののち、NX バス機能モジュールの異常解除 【通信カプラユニットの場合】 NX ユニットの電源再投入ののち、通信カプラユニットの異常解除			
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当 NX ユニットの I/O リフレッシュ停止。該当 NX ユニットへのメッセージ不可。	

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	−	−
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	ソフトウェアにエラーが発生した。	【CPU ユニットの NX バスの場合】 ユニット電源の再投入、NX ユニットのリスタートまたは NX バスのリスタートをしてください。上記の処置を行っても本異常が再発する場合は、当社営業または代理店にお問い合わせください。 【通信カプラユニットの場合】 ユニット電源の再投入、NX ユニットのリスタートまたはスレーブターミナルのリスタートをしてください。上記の処置を行っても本異常が再発する場合は、当社営業または代理店にお問い合わせください。	なし

付属情報	付属情報 1：システム情報 付属情報 2：システム情報 付属情報 3：システム情報 付属情報 4：システム情報
注意点／備考	なし

イベント名	NX ユニット I/O 通信異常		**イベントコード**	80200000Hex	
内容	NX ユニットで I/O 通信異常が発生しました。				
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存	**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	【CPU ユニットの NX バスの場合】 【縮退運転設定が「停止する」の場合】 NX バス機能モジュールの異常解除 【縮退運転設定が「縮退する」の場合】 NX ユニットの異常解除 【通信カプラユニットの場合】 【縮退運転設定が「停止する」の場合】 コントローラで異常検出する場合は、コントローラの全異常解除 コントローラで異常検出しない場合は、通信カプラユニットと NX ユニットの異常解除 【縮退運転設定が「縮退する」の場合】 通信カプラユニットと NX ユニットの異常解除			
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	NX ユニットの運転は継続。 入力データ:入力を停止。 出力データ：出力を停止。	

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	－	－

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	【CPU ユニットの NX バスの場合】		
	CPU ユニットで NX バス通信を正常に行えない異常が発生した。	CPU ユニットで発生している異常を確認し、処置対策を行ってください。	CPU ユニットで発生している異常の再発防止を行ってください。
	NX ユニットの取りつけが不確実。	NX ユニット、エンドカバーを確実に取り付け、エンドプレートで固定してください。	NX ユニット、エンドカバーを確実に取り付け、エンドプレートで固定してください。
	ユニット電源の電源ケーブルが抜けている。または、ユニット電源から NX ユニットへの配線が間違っている。	ユニット電源から NX ユニットへの配線を確実に行ってください。	ユニット電源から NX ユニットへの配線を確実に行ってください。
	ユニット電源の電源ケーブルが断線している。	ユニット電源と NX ユニットの間の電源ケーブルが断線している場合は、電源ケーブルを交換してください。	なし
	ユニット電源の電圧が仕様範囲外、またはユニット電源の電源容量が不足している。	電源供給の設計方法に従い、電源供給システム構成を正しく構築してください。	電源供給の設計方法に従い、電源供給システム構成を正しく構築してください。
	NX ユニットのハードウェアの異常。	上記の処置を行っても本異常が再発する場合は NX ユニットを交換してください。	なし

発生要因とその処置	【通信カプラユニットの場合】		
	通信カプラユニットで NX バス通信を正常に行えない異常が発生した。	通信カプラユニットで発生している異常を確認し、処置対策を行ってください。	通信カプラユニットで発生している異常の再発防止を行ってください。
	NX ユニットの取り付けが不確実。	NX ユニット、エンドカバーを確実に取り付け、エンドプレートで固定してください。	NX ユニット、エンドカバーを確実に取り付け、エンドプレートで固定してください。
	ユニット電源の電源ケーブルが抜けている。または、ユニット電源から NX ユニットへの配線が間違っている。	ユニット電源から NX ユニットへの配線を確実に行ってください。	ユニット電源から NX ユニットへの配線を確実に行ってください。
	ユニット電源の電源ケーブルが断線している。	ユニット電源と NX ユニットの間の電源ケーブルが断線している場合は、電源ケーブルを交換してください。	なし
	ユニット電源の電圧が仕様範囲外である。または、ユニット電源の電源容量が不足している。	電源供給の設計方法に従い、電源供給システム構成を正しく構築してください。	電源供給の設計方法に従い、電源供給システム構成を正しく構築してください。
	NX ユニットのハードウェアの異常。	上記の処置を行っても本異常が再発する場合は NX ユニットを交換してください。	なし
付属情報	なし		
注意点／備考	なし		

イベント名	NX ユニット時刻同期はずれ異常		**イベントコード**	80240000Hex	
内容	NX ユニットの時刻情報に異常が発生しました。				
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存	**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	【CPU ユニットの NX バスの場合】 ユニット電源の再投入 【通信カプラユニットの場合】 ユニット電源の再投入ののち、コントローラの全異常解除			
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	NX ユニットの運転は継続。 入力データ:入力を停止。 出力データ：出力を停止。	

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	−	−

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	【CPU ユニットの NX バスの場合】		
	NX ユニットのハードウェア異常。	特定の NX ユニットだけで本異常が発生している場合は、該当する NX ユニットを交換してください。	なし
	CPU ユニットのハードウェア異常。	CPU ユニットに装着された本異常が発生する NX ユニットのすべてで、本異常が発生している場合は、CPU ユニットを交換してください。	なし
	【通信カプラユニットの場合】		
	NX ユニットのハードウェア異常。	特定の NX ユニットだけで本異常が発生している場合は、該当する NX ユニットを交換してください。	なし
	EtherCAT カプラユニットのハードウェア異常。	通信カプラユニットに装着された本異常が発生する NX ユニットのすべてで、本異常が発生している場合は、通信カプラユニットを交換してください。	なし

付属情報	なし
注意点／備考	なし

イベント名	内部バッファフルによるデータ廃棄		**イベントコード**	85400000Hex	
内容	内部バッファがフル状態になりました。データは破棄されました。				
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存	**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	NX ユニットの異常解除			
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	NX ユニットの運転は継続。 受信データ内部バッファフルの場合、受信データを破棄。 送信データ内部バッファフルの場合、送信データを破棄。	
システム定義変数	**変数名**		**データ型**	**名称**	
	なし		―	―	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**	**再発防止**	
	受信データ内部バッファフルの場合は、コントローラが受信データの刈り取りに間に合っていない。 送信データ内部バッファフルの場合は、送信データが大きすぎる、または送信要求が多すぎる。		シリアル機器との送受信量を減らすか、I/O 割付設定で I/O データサイズを増やしてください。	シリアル機器との送受信量を減らすか、I/O 割付設定で I/O データサイズを増やしてください。	
付属情報	付属情報 1:異常が発生したポート 0001Hex:ポート 1 0010Hex:ポート 2 付属情報 2:異常が発生したバッファ 0001Hex:送信データ内部バッファ 0010Hex:受信データ内部バッファ				
注意点／備考	重要度を監視情報に変更できます。				

イベント名	NX メッセージ通信異常			**イベントコード**	80220000Hex	
内容	メッセージ通信で異常を検知し、メッセージフレームを破棄しました。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	NX メッセージ通信中
異常の属性	**重要度**	監視情報		**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	－				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	【CPU ユニットの NX バスの場合】					
	メッセージ通信の負荷が高い。		NX メッセージを送信する命令の使用頻度を減らしてください。		NX メッセージを送信する命令の使用頻度を減らしてください。	
	【通信カプラユニットの場合】					
	メッセージ通信の負荷が高い。		NX メッセージを送信する命令の使用頻度を減らしてください。		NX メッセージを送信する命令の使用頻度を減らしてください。	
	通信ケーブルのはずれ、断線。 付属情報 2 が「0:NX バス」の場合は、本要因はありません。		通信ケーブルを確実に接続してください。		通信ケーブルを確実に接続してください。	
	メッセージ通信実行中に以下を実行することで、メッセージ通信の切断が発生。 • サポートソフトによるパラメータの転送 • バックアップデータのリストア(EtherCAT スレーブターミナルで本異常が発生した場合) • EtherCAT スレーブの離脱(EtherCAT スレーブターミナルで本異常が発生した場合)		－		－	
付属情報	付属情報 1:システム情報 付属情報 2:異常が発生した通信の種類 0: NX バス 1: EtherCAT 2: シリアル通信(USB) 3: EtherNet/IP 65535: ユニット内部（ルーチング処理）					
注意点／備考	なし					

イベント名	パリティエラー			イベントコード	85410000Hex	
内容	パリティエラーが発生しました。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		発生源詳細	NX ユニット	検出タイミング	常時
異常の属性	重要度	監視情報		ログカテゴリ	システム	
	復旧方法	－				
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	NX ユニットの運転は継続。受信データは正しくない可能性あり。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	通信設定、伝送速度の設定が相手デバイスと合っていない。		通信設定、伝送速度の設定を相手デバイスと合わせてください。		通信設定、伝送速度の設定を相手デバイスと合わせてください。	
	ノイズ。		ノイズ対策を行ってください。		ノイズ対策を行ってください。	
付属情報	付属情報 1:異常が発生したポート 0001Hex:ポート 1 0010Hex:ポート 2					
注意点／備考	重要度を軽度フォールトに変更できます。軽度フォールトに変更した場合の復旧方法は“NX ユニットの異常解除”です。					

イベント名	フレーミングエラー			イベントコード	85420000Hex	
内容	フレーミングエラーが発生しました。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		発生源詳細	NX ユニット	検出タイミング	常時
異常の属性	重要度	監視情報		ログカテゴリ	システム	
	復旧方法	－				
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	NX ユニットの運転は継続。受信データは正しくない可能性あり。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		－		－	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	通信設定、伝送速度の設定が相手デバイスと合っていない。		通信設定、伝送速度の設定を相手デバイスと合わせてください。		通信設定、伝送速度の設定を相手デバイスと合わせてください。	
	ノイズ。		ノイズ対策を行ってください。		ノイズ対策を行ってください。	
付属情報	付属情報 1:異常が発生したポート 0001Hex:ポート 1 0010Hex:ポート 2					
注意点／備考	重要度を軽度フォールトに変更できます。軽度フォールトに変更した場合の復旧方法は“NX ユニットの異常解除”です。					

イベント名	オーバーランエラー			**イベントコード**	85430000Hex	
内容	オーバーランエラーが発生しました。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	監視情報		**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	−				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	NX ユニットの運転は継続。受信データは正しくない可能性あり。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	伝送速度が速すぎるため、受信処理中に次のデータを受信した。		伝送速度を小さくしてください。		伝送速度を小さくしてください。	
付属情報	付属情報 1:異常が発生したポート 0001Hex:ポート 1 0010Hex:ポート 2					
注意点／備考	重要度を軽度フォールトに変更できます。軽度フォールトに変更した場合の復旧方法は“NX ユニットの異常解除”です。					

イベント名	イベントログのクリア			**イベントコード**	90400000Hex	
内容	イベントログをクリアしました。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	ユーザからの指示時
異常の属性	**重要度**	一般情報		**ログカテゴリ**	アクセス	
	復旧方法	−				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	ユーザがイベントログをクリアした。		−		−	
付属情報	付属情報 1:クリア対象 1: システムイベントログをクリア 2: アクセスイベントログをクリア					
注意点／備考	なし					

2-6 NX シリーズセーフティ CPU ユニット

以下の形式のユニットで発生するイベントです。
・ 形 NX-SL□□□□

2-6-1 システム異常

イベント名	システム異常			**イベントコード**	05200000Hex	
内容	ハードウェアの自己診断によりハードウェア異常を検出しました。					
発生源	Sysmac Studio の接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	該当ユニットの電源再投入	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当ユニットは動作を停止し、入出力データをセーフティ状態に遷移させます。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		なし		なし	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	ハードウェアの故障。 ソフトエラーや過度なノイズなどの一過性要因によるメモリ異常。		電源を再投入し、再発する場合はユニットを交換してください。		電源再投入で正常に動作を再開できる場合は、ユニット周辺で過度なノイズが発生している可能性がありますので、ノイズ対策を検討してください。	
付属情報	付属情報 1: システム情報（ステータスコード） 付属情報 2: システム情報（ステータスコード） 付属情報 3: システム情報（ステータスコード） 付属情報 4: システム情報（ステータスコード）					
注意点／備考	なし					

2-6-2　通信機能に関する異常

イベント名	FSoE マスタコネクション確立異常			**イベントコード**	35200001Hex	
内容	FSoE スレーブとの FSoE 通信確立に失敗しました。					
発生源	Sysmac Studio の接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	デバッグモード停止中／デバッグモード運転中／運転モード
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	異常要因の除去により自動で復旧	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当ユニットは運転を継続しますが、異常を検出したセーフティコネクションの入出力データはセーフティ状態を維持します。		

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	なし	なし
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	FSoE 通信設定不正や FSoE スレーブの状態不正など。	FSoE スレーブで発生中の異常を参照して処置を行ってください。	FSoE スレーブで発生中の異常を参照して再発防止策を行ってください。
	FSoE 通信対象の FSoE スレーブが接続されていない。	FSoE スレーブが正しく接続されていることを確認してください。	通信対象の全ての FSoE スレーブが接続されている状態でセーフティ CPU ユニットがデバッグモード停止中／デバッグモード運転中／運転モードとなるようにしてください。
	NX ユニットの装着設定が無効に設定されている FSoE スレーブが FSoE 通信対象になっている。	NX ユニットの装着設定を無効に設定した FSoE スレーブは FSoE 通信の通信対象の設定を無効としてください。その設定をセーフティ CPU ユニットに転送してください。	NX ユニットの装着設定を無効に設定した FSoE スレーブは FSoE 通信の通信対象の設定を無効としてください。
	通信対象の FSoE スレーブのバージョンが、設定より古い	プロジェクトの FSoE スレーブのバージョンを通信対象の FSoE スレーブのバージョンに変更し、再度セーフティ CPU ユニットに転送してください。または、通信対象の FSoE スレーブを設定されたバージョンよりも新しいユニットに交換してください。	プロジェクトの FSoE スレーブのバージョンと、通信対象の FSoE スレーブのバージョンの整合性を保ってください。

付属情報	なし
注意点／備考	異常検出後、該当ユニットは FSoE コネクションの入出力データをセーフティ状態に維持しますが、異常要因が除去されると、自動で FSoE 通信を復旧させます。

イベント名	NX ユニット I/O 通信異常		**イベントコード**	80200000Hex	
内容	NX バスマスタと NX ユニットの間で I/O 通信異常が発生しました。				
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存	**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	【CPU ユニットの NX バスの場合】 【縮退運転設定が「停止する」の場合】 NX バス機能モジュールの異常解除 【縮退運転設定が「縮退する」の場合】 NX ユニットの異常解除 【通信カプラユニットの場合】 【縮退運転設定が「停止する」の場合】 コントローラで異常検出する場合は、コントローラの全異常解除 コントローラで異常検出しない場合は、通信カプラユニットと NX ユニットの異常解除 【縮退運転設定が「縮退する」の場合】 通信カプラユニットと NX ユニットの異常解除			
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	NX ユニットの運転は継続。 入力データ:入力値の更新を停止。 出力データ:「負荷遮断時の出力設定」に従います。	

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	−	−

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	【CPU ユニットの NX バスの場合】		
	CPU ユニットで NX バス通信を正常に行えない異常が発生した。	CPU ユニットで発生している異常を確認し、処置対策を行ってください。	CPU ユニットで発生している異常の再発防止を行ってください。
	NX ユニットの取りつけが不確実。	NX ユニット、エンドカバーを確実に取り付け、エンドプレートで固定してください。	NX ユニット、エンドカバーを確実に取り付け、エンドプレートで固定してください。
	ユニット電源の電源ケーブルが抜けている。または、ユニット電源から NX ユニットへの配線が間違っている。	ユニット電源から NX ユニットへの配線を確実に行ってください。	ユニット電源から NX ユニットへの配線を確実に行ってください。
	ユニット電源の電源ケーブルが断線している。	ユニット電源と NX ユニットの間の電源ケーブルが断線している場合は、電源ケーブルを交換してください。	なし
	ユニット電源の電圧が仕様範囲外、またはユニット電源の電源容量が不足している。	電源供給の設計方法に従い、電源供給システム構成を正しく構築してください。	電源供給の設計方法に従い、電源供給システム構成を正しく構築してください。
	NX ユニットのハードウェアの異常。	上記の処置を行っても本異常が再発する場合は NX ユニットを交換してください。	なし

発生要因とその処置	【通信カプラユニットの場合】		
	通信カプラユニットで NX バス通信を正常に行えない異常が発生した。	通信カプラユニットで発生している異常を確認し、処置対策を行ってください。	通信カプラユニットで発生している異常の再発防止を行ってください。
	NX ユニットの取り付けが不確実。	NX ユニット、エンドカバーを確実に取り付け、エンドプレートで固定してください。	NX ユニット、エンドカバーを確実に取り付け、エンドプレートで固定してください。
	ユニット電源の電源ケーブルが抜けている。または、ユニット電源から NX ユニットへの配線が間違っている。	ユニット電源から NX ユニットへの配線を確実に行ってください。	ユニット電源から NX ユニットへの配線を確実に行ってください。
	ユニット電源の電源ケーブルが断線している。	ユニット電源と NX ユニットの間の電源ケーブルが断線している場合は、電源ケーブルを交換してください。	なし
	ユニット電源の電圧が仕様範囲外である。または、ユニット電源の電源容量が不足している。	電源供給の設計方法に従い、電源供給システム構成を正しく構築してください。	電源供給の設計方法に従い、電源供給システム構成を正しく構築してください。
	NX ユニットのハードウェアの異常。	上記の処置を行っても本異常が再発する場合は NX ユニットを交換してください。	なし
付属情報	なし		
注意点／備考	なし		

イベント名	FSoE マスタコネクションタイムアウト			**イベントコード**	80300001Hex	
内容	FSoE スレーブとの FSoE 通信で通信タイムアウトが発生しました。					
発生源	Sysmac Studio の接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	デバッグモード停止中／デバッグモード運転中／運転モード
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	異常要因の除去により自動で復旧	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当ユニットは運転を継続しますが、異常を検出したセーフティコネクションの入出力データはセーフティ状態を維持します。		

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	なし	なし
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	設定不正。セーフティタスク周期が小さすぎる値に設定されている。	セーフティタスク周期を長くして、セーフティ CPU ユニットへ設定を転送してください。	あらかじめ、処置対策の内容を考慮してシステム構成・設定を行ってください。
	過度なノイズが発生した。	ノイズ対策を実行してください。	過度なノイズが要因の場合、ノイズ対策を検討してください。
	セーフティ CPU ユニット、あるいは FSoE スレーブが FSoE 通信を継続できない状態に遷移した。	セーフティ CPU ユニット、あるいは FSoE スレーブの状態を確認してください。	セーフティ CPU ユニット、あるいは FSoE スレーブの発生要因とその処置を参照してください。
	本ユニットが接続されている NX バスマスタに何らかの異常や状態変更が発生し、プロセスデータ通信が正しく実行されなかった。	本ユニットが接続されている NX バスマスタの状態を確認してください。	あらかじめ、処置対策の内容を考慮してシステム構成・設定を行ってください。
付属情報	なし		
注意点／備考	異常検出後、該当ユニットは FSoE コネクションの入出力データをセーフティ状態に維持しますが、異常要因が除去されると、自動で FSoE 通信を復旧させます。		

イベント名	CIP Safety オリジネータコネクション確立異常			**イベントコード**	80310000Hex	
内容	CIP Safety オリジネータコネクションの確立に失敗しました。					
発生源	Sysmac Studio の接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	デバッグモード停止中／デバッグモード運転中／運転モード
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	異常要因の除去により自動で復旧	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当ユニットは運転を継続しますが、異常を検出したセーフティコネクションの入出力データはセーフティ状態を維持します。		

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	なし	なし
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	ターゲットノードが異なる。	ターゲットノードが正しいか確認してください。	あらかじめ、処置対策の内容を考慮してシステム構成・設定を行ってください。
	ターゲットノードがコンフィグレーションされていない。	ターゲットノードがコンフィグレーションされているか確認してください。	
	ターゲットノードの状態が不正。	ターゲットノードがコネクションを受け付けできる状態か確認してください。	
	EtherNet/IP ポート設定の CIP メッセージサーバが［使用しない］に設定されている。	EtherNet/IP ポート設定の CIP メッセージサーバが［使用する］に設定されているか確認してください。	
	CIP セーフティ通信に関わる NX シリーズ CPU ユニットと NX シリーズ EtherNet/IP ユニットの設定と、セーフティ CPU ユニットの設定が一致していない。	Sysmac Studio の同期画面で、X バスユニットの設定（CIP Safety コネクションの設定）の転送を有効にして、ダウンロードしているか確認してください。	
	CIP Safety コネクションの設定に含まれる NX シリーズ EtherNet/IP ユニットに対し、タグデータリンク通信の設定をした。	CIP Safety コネクションの設定に含まれる NX シリーズ EtherNet/IP ユニットに対し、タグデータリンク通信の設定をしないでください。	
	タグデータリンク通信が設定された NX シリーズ EtherNet/IP ユニットを、CIP Safety コネクションの設定に加えた。	タグデータリンク通信が設定された NX シリーズ EtherNet/IP ユニットを、CIP Safety コネクションの設定に加えないでください。	
	内蔵 EtherNet/IP ポート設定の CIP Safety 通信が［使用しない］に設定されている。	内蔵 EtherNet/IP ポート設定の CIP Safety 通信が［使用する］に設定されているか確認してください。	

付属情報	付属情報 1:　ターゲットノードの IP アドレス 例: 192.168.250.1 の場合、C0A8FA01Hex
	付属情報 2:　CIP 仕様で定義された General Status
	付属情報 3:　CIP 仕様で定義された Extended Status
注意点／備考	なし

イベント名	CIP Safety オリジネータコネクションタイムアウト			**イベントコード**	80320000Hex	
内容	CIP Safety オリジネータコネクションでタイムアウトが発生しました。					
発生源	Sysmac Studio の接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	デバッグモード停止中／デバッグモード運転中／運転モード
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	異常要因の除去により自動で復旧	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当ユニットは運転を継続しますが、異常を検出したセーフティコネクションの入出力データはセーフティ状態を維持します。		

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	なし	なし
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	通信ケーブルのはずれ、断線。	通信ケーブルを確実に接続してください。	あらかじめ、処置対策の内容を考慮してシステム構成・設定を行ってください。
	ターゲットノードがコネクションを受け付けられない状態に遷移した。	ターゲットノードがコネクションを受け付けできる状態か確認してください。	
	通信設定のタイムアウト値が小さすぎる値に設定されている。	通信設定のタイムアウト値を大きくし、設定を転送してください。	
	ターゲットノードの CIP メッセージ通信停止。	ターゲットノードの CIP メッセージ通信が開始しているか確認してください。	
	EtherNet/IP ポート設定の Packet Filter 機能が有効の場合に、ターゲットノードからの CIP Safety パケットが許可されていない。	EtherNet/IP ポート設定の Packet Filter 設定に、ターゲットノードからの CIP Safety パケットを許可してください。	
	ターゲットノードおよび経路上の機器の、Packet Filter（簡易）機能、Packet Filter 機能で CIP Safety パケットが許可されていない。	ターゲットノードおよび経路上の機器の、Packet Filter（簡易）機能、Packet Filter 機能で CIP Safety パケットを許可してください。	
	過度なノイズが発生した。	ノイズ対策を実施してください。	

付属情報	付属情報 1:　ターゲットノードの IP アドレス 例: 192.168.250.1 の場合、C0A8FA01Hex
注意点／備考	なし

イベント名	CIP Safety ターゲット不在			**イベントコード**	80330000Hex	
内容	ターゲットノードが不在です。					
発生源	Sysmac Studio の接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	デバッグモード停止中／デバッグモード運転中／運転モード
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	異常要因の除去により自動で復旧	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当ユニットは運転を継続しますが、異常を検出したセーフティコネクションの入出力データはセーフティ状態を維持します。		

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	なし	なし
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	通信ケーブルのはずれ、断線。	通信ケーブルを確実に接続してください。	あらかじめ、処置対策の内容を考慮してシステム構成・設定を行ってください。
	ターゲットノードの状態がコネクションを受け付けられない状態に遷移した。	ターゲットノードがコネクションを受け付けできる状態か確認してください。	
	通信設定のタイムアウト値が小さすぎる値に設定されている。	通信設定のタイムアウト値を大きくし、設定を転送してください。	
	ターゲットノードの CIP メッセージ通信停止。	ターゲットノードの CIP メッセージ通信が開始しているか確認してください。	
	ターゲットノードおよび経路上の機器の、Packet Filter（簡易）機能、Packet Filter 機能でオリジネータノードからの CIP Safety パケットが許可されていない。	ターゲットノードおよび経路上の機器の、Packet Filter（簡易）機能、Packet Filter 機能でオリジネータノードからの CIP Safety パケットを許可してください。	
	過度なノイズが発生した。	ノイズ対策を実施してください。	
付属情報	付属情報 1:	ターゲットノードの IP アドレス 例: 192.168.250.1 の場合、C0A8FA01Hex	
	付属情報 2:	CIP 仕様で定義された General Status	
	付属情報 3:	CIP 仕様で定義された Extended Status	
注意点／備考	なし		

イベント名	CIP Safety ターゲットコネクションタイムアウト			**イベントコード**	80340000Hex	
内容	CIP Safety ターゲットコネクションでタイムアウトが発生しました。					
発生源	Sysmac Studio の接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	デバッグモード停止中／デバッグモード運転中／運転モード
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	異常要因の除去により自動で復旧	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当ユニットは運転を継続しますが、異常を検出したセーフティコネクションの入出力データはセーフティ状態を維持します。		

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	なし	なし
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	通信ケーブルのはずれ、断線。	通信ケーブルを確実に接続してください。	あらかじめ、処置対策の内容を考慮してシステム構成・設定を行ってください。
	オリジネータデバイスがコネクションを受け付けられない状態に遷移した。	オリジネータデバイスがコネクションを受け付けできる状態か確認してください。	
	通信設定のタイムアウト値が小さすぎる値に設定されている。	通信設定のタイムアウト値を大きくし、設定を転送してください。	
	EtherNet/IP ポート設定および経路上の機器の、Packet Filter（簡易）機能、Packet Filter 機能でオリジネータノードからの CIP Safety パケットが許可されていない。	EtherNet/IP ポート設定および経路上の機器の、Packet Filter（簡易）機能、Packet Filter 機能でオリジネータノードからの CIP Safety パケットを許可してください。	
	オリジネータノードの CIP メッセージサーバが、［使用しない］に設定されている。	オリジネータノードの CIP メッセージサーバを、［使用する］に設定してください。	
	オリジネータノードの Packet Filter 機能が有効の場合に、ターゲットノードからの CIP Safety パケットが許可されていない。	オリジネータノードの PacketFilter 設定に、ターゲットノードからの CIP Safety パケットを許可してください。	
	過度なノイズが発生した。	ノイズ対策を実施してください。	
	内蔵 EtherNet/IP ポート設定の CIP Safety 通信が［使用しない］に設定されている。	内蔵 EtherNet/IP ポート設定の CIP Safety 通信が［使用する］に設定されているか確認してください。	

付属情報	付属情報 1: Assembly インスタンス No 0300Hex: Input Assembly 1 0301Hex: Input Assembly 2 0302Hex: Input Assembly 3 03A0Hex: Output Assembly 1
注意点／備考	なし

イベント名	NX バス I/O 通信停止			**イベントコード**	84F00000Hex	
内容	NX バスマスタと NX ユニットの間における I/O 通信に何らかの異常が発生しました。					
発生源	Sysmac Studio の接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	NX バスマスタおよび NX ユニットの電源再投入	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	NX ユニットの運転は継続します。 • 入力データ: 更新を停止するためセーフティプロセスデータ通信は異常となります。スタンダードプロセスデータ（ステータス、公開変数）の値は更新されません。 • 出力データ: 0 を出力するためセーフティプロセスデータ通信は異常となります。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		なし		なし	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	NX バスマスタ、あるいは NX ユニットのハードウェアの異常。		NX ユニットを電源再投入しても本異常が再発する場合は NX バスマスタ、あるいは NX ユニットを交換してください。		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

2-6-3　プログラム実行機能に関する動作継続異常

イベント名	SF_Antivalent 異常			**イベントコード**	74A00000Hex	
内容	セーフティファンクションブロック実行異常が検出されました。					
発生源	Sysmac Studio の接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	デバッグモード運転中／運転モード
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	処置対策の実行	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当ユニットは運転を継続します。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		なし		なし	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	『NX シリーズ セーフティコントロールユニット コマンドリファレンスマニュアル(SGFM-711)』にて、付属情報 1 の DiagCode を参照してください。		付属情報 1 の DiagCode に該当する原因に対して処置を実行してください。		あらかじめ、処置対策の内容を考慮してプログラミングしてください。	
付属情報	付属情報 1: DiagCode					
注意点／備考	なし					

イベント名	SF_EDM 異常			イベントコード	74A10000Hex	
内容	セーフティファンクションブロック実行異常が検出されました。					
発生源	Sysmac Studio の接続先とシステム構成に依存		発生源詳細	NX ユニット	検出タイミング	デバッグモード運転中／運転モード
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	処置対策の実行	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当ユニットは運転を継続します。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		なし		なし	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	『NX シリーズ セーフティコントロールユニット コマンドリファレンスマニュアル(SGFM-711)』にて、付属情報 1 の DiagCode を参照してください。		付属情報 1 の DiagCode に該当する原因に対して処置を実行してください。		あらかじめ、処置対策の内容を考慮してプログラミングしてください。	
付属情報	付属情報 1: DiagCode					
注意点／備考	なし					

イベント名	SF_EmergencyStop 異常			イベントコード	74A20000Hex	
内容	セーフティファンクションブロック実行異常が検出されました。					
発生源	Sysmac Studio の接続先とシステム構成に依存		発生源詳細	NX ユニット	検出タイミング	デバッグモード運転中／運転モード
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	処置対策の実行	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当ユニットは運転を継続します。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		なし		なし	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	『NX シリーズ セーフティコントロールユニット コマンドリファレンスマニュアル(SGFM-711)』にて、付属情報 1 の DiagCode を参照してください。		付属情報 1 の DiagCode に該当する原因に対して処置を実行してください。		あらかじめ、処置対策の内容を考慮してプログラミングしてください。	
付属情報	付属情報 1: DiagCode					
注意点／備考	なし					

イベント名	SF_EnableSwitch 異常			イベントコード	74A30000Hex	
内容	セーフティファンクションブロック実行異常が検出されました。					
発生源	Sysmac Studio の接続先とシステム構成に依存		発生源詳細	NX ユニット	検出タイミング	デバッグモード運転中／運転モード
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	処置対策の実行	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当ユニットは運転を継続します。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		なし		なし	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	『NX シリーズ セーフティコントロールユニット コマンドリファレンスマニュアル(SGFM-711)』にて、付属情報 1 の DiagCode を参照してください。		付属情報 1 の DiagCode に該当する原因に対して処置を実行してください。		あらかじめ、処置対策の内容を考慮してプログラミングしてください。	
付属情報	付属情報 1: DiagCode					
注意点／備考	なし					

イベント名	SF_Equivalent 異常			イベントコード	74A40000Hex	
内容	セーフティファンクションブロック実行異常が検出されました。					
発生源	Sysmac Studio の接続先とシステム構成に依存		発生源詳細	NX ユニット	検出タイミング	デバッグモード運転中／運転モード
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	処置対策の実行	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当ユニットは運転を継続します。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		なし		なし	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	『NX シリーズ セーフティコントロールユニット コマンドリファレンスマニュアル(SGFM-711)』にて、付属情報 1 の DiagCode を参照してください。		付属情報 1 の DiagCode に該当する原因に対して処置を実行してください。		あらかじめ、処置対策の内容を考慮してプログラミングしてください。	
付属情報	付属情報 1: DiagCode					
注意点／備考	なし					

イベント名	SF_ESPE 異常			イベントコード	74A50000Hex	
内容	セーフティファンクションブロック実行異常が検出されました。					
発生源	Sysmac Studio の接続先とシステム構成に依存		発生源詳細	NX ユニット	検出タイミング	デバッグモード運転中／運転モード
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	処置対策の実行	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当ユニットは運転を継続します。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		なし		なし	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	『NX シリーズ セーフティコントロールユニット コマンドリファレンスマニュアル(SGFM-711)』にて、付属情報 1 の DiagCode を参照してください。		付属情報 1 の DiagCode に該当する原因に対して処置を実行してください。		あらかじめ、処置対策の内容を考慮してプログラミングしてください。	
付属情報	付属情報 1: DiagCode					
注意点／備考	なし					

イベント名	SF_GuardLocking 異常			イベントコード	74A60000Hex	
内容	セーフティファンクションブロック実行異常が検出されました。					
発生源	Sysmac Studio の接続先とシステム構成に依存		発生源詳細	NX ユニット	検出タイミング	デバッグモード運転中／運転モード
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	処置対策の実行	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当ユニットは運転を継続します。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		なし		なし	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	『NX シリーズ セーフティコントロールユニット コマンドリファレンスマニュアル(SGFM-711)』にて、付属情報 1 の DiagCode を参照してください。		付属情報 1 の DiagCode に該当する原因に対して処置を実行してください。		あらかじめ、処置対策の内容を考慮してプログラミングしてください。	
付属情報	付属情報 1: DiagCode					
注意点／備考	なし					

イベント名	SF_GuardMonitoring 異常			イベントコード	74A70000Hex	
内容	セーフティファンクションブロック実行異常が検出されました。					
発生源	Sysmac Studio の接続先とシステム構成に依存		発生源詳細	NX ユニット	検出タイミング	デバッグモード運転中／運転モード
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	処置対策の実行	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当ユニットは運転を継続します。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		なし		なし	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	『NX シリーズ セーフティコントロールユニット コマンドリファレンスマニュアル(SGFM-711)』にて、付属情報 1 の DiagCode を参照してください。		付属情報 1 の DiagCode に該当する原因に対して処置を実行してください。		あらかじめ、処置対策の内容を考慮してプログラミングしてください。	
付属情報	付属情報 1: DiagCode					
注意点／備考	なし					

イベント名	SF_ModeSelector 異常			イベントコード	74A80000Hex	
内容	セーフティファンクションブロック実行異常が検出されました。					
発生源	Sysmac Studio の接続先とシステム構成に依存		発生源詳細	NX ユニット	検出タイミング	デバッグモード運転中／運転モード
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	処置対策の実行	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当ユニットは運転を継続します。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		なし		なし	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	『NX シリーズ セーフティコントロールユニット コマンドリファレンスマニュアル(SGFM-711)』にて、付属情報 1 の DiagCode を参照してください。		付属情報 1 の DiagCode に該当する原因に対して処置を実行してください。		あらかじめ、処置対策の内容を考慮してプログラミングしてください。	
付属情報	付属情報 1: DiagCode					
注意点／備考	なし					

イベント名	SF_MutingPar 異常			イベントコード	74A90000Hex	
内容	セーフティファンクションブロック実行異常が検出されました。					
発生源	Sysmac Studio の接続先とシステム構成に依存		発生源詳細	NX ユニット	検出タイミング	デバッグモード運転中／運転モード
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	処置対策の実行	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当ユニットは運転を継続します。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		なし		なし	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	『NX シリーズ セーフティコントロールユニット コマンドリファレンスマニュアル(SGFM-711)』にて、付属情報 1 の DiagCode を参照してください。		付属情報 1 の DiagCode に該当する原因に対して処置を実行してください。		あらかじめ、処置対策の内容を考慮してプログラミングしてください。	
付属情報	付属情報 1: DiagCode					
注意点／備考	なし					

イベント名	SF_MutingPar_2Sensor 異常			イベントコード	74AA0000Hex	
内容	セーフティファンクションブロック実行異常が検出されました。					
発生源	Sysmac Studio の接続先とシステム構成に依存		発生源詳細	NX ユニット	検出タイミング	デバッグモード運転中／運転モード
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	処置対策の実行	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当ユニットは運転を継続します。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		なし		なし	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	『NX シリーズ セーフティコントロールユニット コマンドリファレンスマニュアル(SGFM-711)』にて、付属情報 1 の DiagCode を参照してください。		付属情報 1 の DiagCode に該当する原因に対して処置を実行してください。		あらかじめ、処置対策の内容を考慮してプログラミングしてください。	
付属情報	付属情報 1: DiagCode					
注意点／備考	なし					

イベント名	SF_MutingSeq 異常			イベントコード	74AB0000Hex	
内容	セーフティファンクションブロック実行異常が検出されました。					
発生源	Sysmac Studio の接続先とシステム構成に依存		発生源詳細	NX ユニット	検出タイミング	デバッグモード運転中／運転モード
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	処置対策の実行	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当ユニットは運転を継続します。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		なし		なし	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	『NX シリーズ セーフティコントロールユニット コマンドリファレンスマニュアル(SGFM-711)』にて、付属情報 1 の DiagCode を参照してください。		付属情報 1 の DiagCode に該当する原因に対して処置を実行してください。		あらかじめ、処置対策の内容を考慮してプログラミングしてください。	
付属情報	付属情報 1: DiagCode					
注意点／備考	なし					

イベント名	SF_OutControl 異常			イベントコード	74AC0000Hex	
内容	セーフティファンクションブロック実行異常が検出されました。					
発生源	Sysmac Studio の接続先とシステム構成に依存		発生源詳細	NX ユニット	検出タイミング	デバッグモード運転中／運転モード
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	処置対策の実行	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当ユニットは運転を継続します。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		なし		なし	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	『NX シリーズ セーフティコントロールユニット コマンドリファレンスマニュアル(SGFM-711)』にて、付属情報 1 の DiagCode を参照してください。		付属情報 1 の DiagCode に該当する原因に対して処置を実行してください。		あらかじめ、処置対策の内容を考慮してプログラミングしてください。	
付属情報	付属情報 1: DiagCode					
注意点／備考	なし					

イベント名	SF_SafetyRequest 異常			イベントコード	74AD0000Hex	
内容	セーフティファンクションブロック実行異常が検出されました。					
発生源	Sysmac Studio の接続先とシステム構成に依存		発生源詳細	NX ユニット	検出タイミング	デバッグモード運転中／運転モード
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	処置対策の実行	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当ユニットは運転を継続します。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		なし		なし	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	『NX シリーズ セーフティコントロールユニット コマンドリファレンスマニュアル(SGFM-711)』にて、付属情報 1 の DiagCode を参照してください。		付属情報 1 の DiagCode に該当する原因に対して処置を実行してください。		あらかじめ、処置対策の内容を考慮してプログラミングしてください。	
付属情報	付属情報 1: DiagCode					
注意点／備考	なし					

イベント名	SF_TestableSafetySensor 異常			イベントコード	74AE0000Hex	
内容	セーフティファンクションブロック実行異常が検出されました。					
発生源	Sysmac Studio の接続先とシステム構成に依存		発生源詳細	NX ユニット	検出タイミング	デバッグモード運転中／運転モード
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	処置対策の実行	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当ユニットは運転を継続します。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		なし		なし	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	『NX シリーズ セーフティコントロールユニット コマンドリファレンスマニュアル(SGFM-711)』にて、付属情報 1 の DiagCode を参照してください。		付属情報 1 の DiagCode に該当する原因に対して処置を実行してください。		あらかじめ、処置対策の内容を考慮してプログラミングしてください。	
付属情報	付属情報 1: DiagCode					
注意点／備考	なし					

イベント名	SF_TwoHandControlTypeII 異常			イベントコード	74AF0000Hex	
内容	セーフティファンクションブロック実行異常が検出されました。					
発生源	Sysmac Studio の接続先とシステム構成に依存		発生源詳細	NX ユニット	検出タイミング	デバッグモード運転中／運転モード
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	処置対策の実行	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当ユニットは運転を継続します。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		なし		なし	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	『NX シリーズ セーフティコントロールユニット コマンドリファレンスマニュアル(SGFM-711)』にて、付属情報 1 の DiagCode を参照してください。		付属情報 1 の DiagCode に該当する原因に対して処置を実行してください。		あらかじめ、処置対策の内容を考慮してプログラミングしてください。	
付属情報	付属情報 1: DiagCode					
注意点／備考	なし					

イベント名	SF_TwoHandControlTypeIII 異常			イベントコード	74B00000Hex	
内容	セーフティファンクションブロック実行異常が検出されました。					
発生源	Sysmac Studio の接続先とシステム構成に依存		発生源詳細	NX ユニット	検出タイミング	デバッグモード運転中／運転モード
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	処置対策の実行	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当ユニットは運転を継続します。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		なし		なし	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	『NX シリーズ セーフティコントロールユニット コマンドリファレンスマニュアル(SGFM-711)』にて、付属情報 1 の DiagCode を参照してください。		付属情報 1 の DiagCode に該当する原因に対して処置を実行してください。		あらかじめ、処置対策の内容を考慮してプログラミングしてください。	
付属情報	付属情報 1: DiagCode					
注意点／備考	なし					

2-6-4　プログラム実行機能に関する動作停止異常

イベント名	ゼロ除算			**イベントコード**	55000000Hex	
内容	ゼロ除算が検出されました。					
発生源	Sysmac Studio の接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	デバッグモード運転中／運転モード
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	自動復旧	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当ユニットは、NX バス通信を実行しますが、ユーザプログラムの実行が停止します（入出力データとも 0 固定）。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		なし		なし	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	除数が 0。		除数が 0 とならないようにしてください。 本ユニットの動作モードによって、以下を実行してください。 • 運転モード: プログラムモードに遷移させ、修正したユーザプログラムを転送してください。 • デバッグモード運転中: プログラムモードに遷移させ、修正したユーザプログラムを転送してください。		あらかじめ、処置対策の内容を考慮してプログラミングしてください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	該当ユニットは、NX バス通信を実行しますが、ユーザプログラムの実行が停止します（入出力データとも 0 固定）。					

イベント名	キャスト異常			**イベントコード**	55010000Hex	
内容	キャストの異常が検出されました。					
発生源	Sysmac Studio の接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	デバッグモード運転中／運転モード
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	自動復旧	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当ユニットは、NX バス通信を実行しますが、ユーザプログラムの実行が停止します（入出力データとも 0 固定）。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		なし		なし	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	受け側の変数の取りうる値の範囲外の値を入力した。		受け側の変数の取りうる数値の範囲を超えないようにしてください。 本ユニットの動作モードによって、以下を実行してください。 • 運転モード: プログラムモードに遷移させ、修正したユーザプログラムを転送してください。 • デバッグモード運転中: プログラムモードに遷移させ、修正したユーザプログラムを転送してください。		あらかじめ、処置対策の内容を考慮してプログラミングしてください。	
付属情報	付属情報 1: 異常の詳細 0x01000ADF: 符号ありデータ型と符号なしデータ型間の変換に失敗 0x01000AE0: 変換後の型の正数の上限を超過 0x01000AE1: 変換後の型の負数の上限を超過					
注意点／備考	該当ユニットは、NX バス通信を実行しますが、ユーザプログラムの実行が停止します（入出力データとも 0 固定）。					

イベント名	MUX 異常			**イベントコード**	55020000Hex	
内容	MUX 命令の異常が検出されました。					
発生源	Sysmac Studio の接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	デバッグモード運転中／運転モード
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	自動復旧	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当ユニットは、NX バス通信を実行しますが、ユーザプログラムの実行が停止します（入出力データとも 0 固定）。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		なし		なし	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	MUX 命令の選択入力(K)の値が不正。		MUX 命令の選択入力(K)の値を範囲内にしてください。 本ユニットの動作モードによって、以下を実行してください。 • 運転モード: プログラムモードに遷移させ、修正したユーザプログラムを転送してください。 • デバッグモード運転中: プログラムモードに遷移させ、修正したユーザプログラムを転送してください。		あらかじめ、処置対策の内容を考慮してプログラミングしてください。	
付属情報	付属情報 1: 0x01000ADD: 選択入力(K)の値が負 0x01000ADE: 選択入力(K)の値が選択範囲の上限を超過					
注意点／備考	該当ユニットは、NX バス通信を実行しますが、ユーザプログラムの実行が停止します（入出力データとも 0 固定）。					

2-6-5 設定に関する異常

イベント名	NX バス通信設定の読み出し異常			**イベントコード**	10500000Hex	
内容	不揮発性メモリに保存されている NX バス通信設定に異常が発生しています。					
発生源	Sysmac Studio の接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	電源投入時／リスタート時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	転送により復旧	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当ユニットは I/O リフレッシュを停止します。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		なし		なし	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	不揮発性メモリのハードウェア故障。		セーフティ CPU ユニットへ、構成情報を再度転送してください。 再発する場合はユニットを交換してください。		なし	
	不揮発性メモリへの保存中の電断。				Sysmac Studio からのパラメータ転送中に電断を行わないでください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	セーフティアプリケーションデータの読み出し異常			**イベントコード**	10510000Hex	
内容	不揮発性メモリに保存されているセーフティアプリケーションデータに異常が発生しています。					
発生源	Sysmac Studio の接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	電源投入時／リスタート時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	転送により復旧	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当ユニットはセーフティプログラムの運転を行わず、プログラムモードで動作します。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		なし		なし	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	不揮発性メモリのハードウェア故障。		セーフティ CPU ユニットへ、セーフティアプリケーションデータを再度転送してください。		なし	
	不揮発性メモリへの保存中の電断。				Sysmac Studio からのパラメータ転送中に電断を行わないでください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	NX バス通信設定とセーフティアプリケーションデータの不整合			**イベントコード**	10520000Hex	
内容	不揮発性メモリに保存されているセーフティアプリケーションデータに異常が発生しています。					
発生源	Sysmac Studio の接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	都度
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	転送により復旧	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当ユニットは、NX バス通信を実行しますが、セーフティプログラムとの間のリフレッシュを停止します（入出力データとも 0 固定）。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		なし		なし	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	セーフティ CPU ユニットへ転送した NX バス通信設定とセーフティアプリケーションデータの不整合。		セーフティ CPU ユニットへ、スレーブターミナル構成情報とセーフティアプリケーションデータを再度転送してください。		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	不揮発性メモリアクセス異常			イベントコード	10530000Hex	
内容	不揮発性メモリの読み書きに失敗しました。					
発生源	Sysmac Studio の接続先とシステム構成に依存		発生源詳細	NX ユニット	検出タイミング	NX ユニットの電源投入時 動作モード変更時 NX ユニットメモリオールクリア実行時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	該当ユニットのメモリオールクリア	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当ユニットは運転を継続します。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		—		—	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	不揮発性メモリの故障。		メモリオールクリアを実行し、設定を再度ダウンロードしてください。再発する場合はユニットを交換してください。		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	ディップスイッチ設定不正			イベントコード	24AA0000Hex	
内容	ディップスイッチ設定が不正です。					
発生源	Sysmac Studio の接続先とシステム構成に依存		発生源詳細	NX ユニット	検出タイミング	起動時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	—	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	—		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		なし		なし	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	ディップスイッチ設定を不正な値に変更した。		ディップスイッチ設定を確認し、正しい値に設定しなおしてください。		ディップスイッチ設定を変更する場合は、変更後のディップスイッチ設定が正しいことを確認してください。	
付属情報	付属情報 1:　　ディップスイッチ設定値					
注意点／備考	なし					

2-6-6　その他の異常

イベント名	NX メッセージ通信異常			**イベントコード**	80220000Hex	
内容	NX ユニット宛のメッセージ通信で異常を検知し、メッセージフレームを破棄しました。					
発生源	Sysmac Studio の接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	NX メッセージ通信中
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	—	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		なし		なし	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	メッセージ通信の負荷が高い。		NX メッセージを送信する命令の使用頻度を減らしてください。メッセージを送信する命令は、『NJ/NX シリーズ コマンドリファレンスマニュアル 基本編 (SBCA-468)』の付録を参照してください。		NX メッセージを送信する命令の使用頻度を減らしてください。	
	通信ケーブルのはずれ、断線。付属情報 2 が「0: NX バス」の場合は、本要因はありません。		通信ケーブルを確実に接続してください。		通信ケーブルを確実に接続してください。	
	Sysmac Studio の「同期」機能、リストア、または EtherCAT スレーブの離脱を実行したことによるメッセージ通信の切断。		—		—	
付属情報	付属情報 1:	システム情報				
	付属情報 2:	異常が発生した通信の種類 0: NX バス 1: EtherCAT 2: シリアル通信(USB) 65535: ユニット内部（ルーチング処理）				
注意点／備考	なし					

イベント名	Sysmac Studio との通信接続タイムアウト			**イベントコード**	951E0000Hex	
内容	Sysmac Studio とセーフティ CPU ユニットとの接続が通信タイムアウトしました。					
発生源	Sysmac Studio の接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	都度
異常の属性	**重要度**	一般情報	**復旧方法**	—	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当ユニットがデバッグモードで動作中の場合、自動的にプログラムモードに遷移します。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		なし		なし	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	通信ケーブルの切断。		セーフティ CPU ユニットがデバッグモードで動作中は、Sysmac Studio との通信を切断しないでください。		あらかじめ、処置対策の内容を考慮してデバッグを行ってください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	メモリオールクリアの受付拒否			イベントコード	951F0000Hex	
内容	メモリオールクリアの受付を拒否しました。					
発生源	Sysmac Studio の接続先とシステム構成に依存		発生源詳細	NX ユニット	検出タイミング	ユーザからの指示（転送）時
異常の属性	重要度	一般情報	復旧方法	—	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	—		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		なし		なし	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	コントローラメモリオールクリアまたはスレーブターミナルメモリオールクリアを実行した。		本ユニットを個別に指定してメモリオールクリアを実行してください。		本ユニットを個別に指定してメモリオールクリアを実行してください。	
付属情報	付属情報 1: コントローラメモリオールクリア、または、スレーブターミナルメモリオールクリアを実行した。					
注意点／備考	本ユニットのメモリオールクリアは、コントローラメモリオールクリア、または、スレーブターミナルメモリオールクリアではできません。					

2-6-7　ユーザアクセスに関するログ

イベント名	イベントログのクリア			イベントコード	90400000Hex	
内容	イベントログをクリアしました。					
発生源	Sysmac Studio の接続先とシステム構成に依存		発生源詳細	NX ユニット	検出タイミング	ユーザからの指示時
異常の属性	重要度	一般情報	復旧方法	—	ログカテゴリ	アクセス
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	影響なし		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		なし		なし	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	ユーザがイベントログをクリアした。		—		—	
付属情報	付属情報 1:　クリア対象 1: システムイベントログをクリア 2: アクセスイベントログをクリア					
注意点／備考	なし					

イベント名	メモリオールクリア			イベントコード	90430000Hex	
内容	ユニットの設定をクリアしました。					
発生源	Sysmac Studio の接続先とシステム構成に依存		発生源詳細	NX ユニット	検出タイミング	ユーザからの指示時
異常の属性	重要度	一般情報	復旧方法	—	ログカテゴリ	アクセス
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	ユニットの設定がクリアされます。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		なし		なし	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	メモリオールクリアを実行した。		—		—	
付属情報	付属情報 1:	メモリオールクリアを実行した NX ユニット番号				
	付属情報 2:	実行結果 0: 成功 1: ハードウェア異常 2: 初期化失敗 3: 初期化不可				
注意点／備考	メモリオールクリアの実行結果は付属情報を参照してください。					

2-6-8　リストア機能に関する異常

イベント名	セーフティユニットリストア開始失敗（SD メモリカードアクセス失敗）			イベントコード	35250000Hex	
内容	セーフティユニットリストア開始時に SD メモリカードアクセスに失敗しました。					
発生源	Sysmac Studio の接続先とシステム構成に依存		発生源詳細	NX ユニット	検出タイミング	ユーザからのセーフティユニットリストア指示時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	—	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	—		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		なし		なし	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	SD メモリカードが未装着。		SD メモリカードを装着してください。		SD メモリカードを装着してください。	
	SD メモリカードが種別不正。		SD または SDHC の SD メモリカードに交換してください。		SD または SDHC の SD メモリカードを使用してください。	
	SD メモリカードのフォーマット不正。		SD メモリカードを Sysmac Studio でフォーマットしてください。		フォーマットされた SD メモリカードを使用してください。	
	SD メモリカードの故障		上記の要因でない場合は、SD メモリカードを交換してください。		SD BUSY LED 点灯中に SD メモリカードを抜いたり電源断をしたりしないでください。また、書込回数制限にもとづき定期的に SD メモリカードを交換してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	セーフティユニットリストア開始失敗（セーフティユニットリストアファイル読み込み失敗）		イベントコード	35260000Hex	
内容	セーフティユニットリストアファイルの読み込みに失敗しました。				
発生源	Sysmac Studio の接続先とシステム構成に依存		発生源詳細	NX ユニット	検出タイミング	ユーザからのセーフティユニットリストア指示時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	—	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	—		

システム定義変数	変数名	データ型	名称
	なし	なし	なし

発生要因とその処置	発生要因（推定原因）	処置対策	再発防止
	セーフティユニットリストアファイルが指定フォルダに格納されていない。	指定フォルダに再度セーフティユニットリストアファイルを格納してください。	フォーマットされた SD メモリカードを使用し、指定フォルダにセーフティユニットリストアファイルを格納しておいてください。セーフティユニットリストアファイルを編集しないでください。 また、SD BUSY LED 点灯中に SD メモリカードを抜いたり電源断をしたりしないでください。
	セーフティユニットリストアファイルが壊れている。	再度セーフティユニットリストアファイルを作成してください。	

付属情報	なし
注意点／備考	なし

イベント名	セーフティユニットリストア開始失敗（形式不一致）		イベントコード	35270000Hex	
内容	セーフティユニットリストアの実行前チェックで形式不一致を検出しました。				
発生源	Sysmac Studio の接続先とシステム構成に依存		発生源詳細	NX ユニット	検出タイミング	ユーザからのセーフティユニットリストア指示時
異常の属性	重要度	監視情報	復旧方法	—	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	—		

システム定義変数	変数名	データ型	名称
	なし	なし	なし

発生要因とその処置	発生要因（推定原因）	処置対策	再発防止
	誤ったユニットに対してセーフティユニットリストアを実行した。	転送先が意図したユニットであることを確認のうえ、電源再投入し、再度セーフティユニットリストアを実行してください。	転送先が意図したユニットであることを確認してから、セーフティユニットリストアを開始してください。
	誤ったセーフティユニットリストアファイルを使用した。	セーフティ CPU ユニットの前面 LED の表示にて、SD メモリカードに格納されているセーフティユニットリストアファイルのセーフティ署名を確認してください。 セーフティ署名が意図したものであることを確認のうえ、電源再投入し、再度セーフティユニットリストアを実行してください。	セーフティ CPU ユニットの前面 LED の表示にて、SD メモリカードに格納されているセーフティユニットリストアファイルのセーフティ署名が意図したものであることを確認してから、セーフティユニットリストアを開始してください。

付属情報	なし
注意点／備考	なし

イベント名	セーフティユニットリストア開始失敗（バージョン不一致）		**イベントコード**	35280000Hex		
内容	セーフティユニットリストアの実行前チェックでユニットバージョン不一致を検出しました。					
発生源	Sysmac Studio の接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	ユーザからのセーフティユニットリストア指示時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	—	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	—		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		なし		なし	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	互換性のないユニットに対してセーフティユニットリストアを実行した。		転送先が互換性のあるユニットであることを確認のうえ、電源再投入し、再度セーフティユニットリストアを実行してください。		転送先が互換性のあるユニットであることを確認してから、セーフティユニットリストアを開始してください。	
	誤ったセーフティユニットリストアファイルを使用した。		セーフティ CPU ユニットの前面 LED の表示にて、SD メモリカードに格納されているセーフティユニットリストアファイルのセーフティ署名を確認してください。 セーフティ署名が意図したものであることを確認のうえ、電源再投入し、再度セーフティユニットリストアを実行してください。		セーフティ CPU ユニットの前面 LED の表示にて、SD メモリカードに格納されているセーフティユニットリストアファイルのセーフティ署名が意図したものであることを確認してから、セーフティユニットリストアを開始してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	セーフティユニットリストア開始失敗（ノード名不一致）			**イベントコード**	35290000Hex	
内容	セーフティユニットリストアの実行前チェックでノード名不一致を検出しました。					
発生源	Sysmac Studio の接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	ユーザからのセーフティユニットリストア指示時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	—	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	—		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		なし		なし	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	誤ったユニットに対してセーフティユニットリストアを実行した。		転送先が意図したユニットであることを確認のうえ、電源再投入し、再度セーフティユニットリストアを実行してください。		転送先が意図したユニットであることを確認してから、セーフティユニットリストアを開始してください。	
	誤ったセーフティユニットリストアファイルを使用した。		セーフティ CPU ユニットの前面 LED の表示にて、SD メモリカードに格納されているセーフティユニットリストアファイルのセーフティ署名を確認してください。 セーフティ署名が意図したものであることを確認のうえ、電源再投入し、再度セーフティユニットリストアを実行してください。		セーフティ CPU ユニットの前面 LED の表示にて、SD メモリカードに格納されているセーフティユニットリストアファイルのセーフティ署名が意図したものであることを確認してから、セーフティユニットリストアを開始してください。	
	セーフティユニットリストアファイル生成時に設定したノード名が誤っている。		セーフティユニットリストアファイルに正しいノード名を設定してください。		ノード名入力時に、入力したノード名が正しいことを目視で確認してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	セーフティユニットリストア開始失敗（セーフティパスワード不一致）			**イベントコード**	352A0000Hex	
内容	セーフティユニットリストアの実行前チェックでセーフティパスワード不一致を検出しました。					
発生源	Sysmac Studio の接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	ユーザからのセーフティユニットリストア指示時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	—	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	—		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		なし		なし	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	誤ったユニットに対してセーフティユニットリストアを実行した。		転送先が意図したユニットであることを確認のうえ、電源再投入し、再度セーフティユニットリストアを実行してください。		転送先が意図したユニットであることを確認してから、セーフティユニットリストアを開始してください。	
	誤ったセーフティユニットリストアファイルを使用した。		セーフティ CPU ユニットの前面 LED の表示にて、SD メモリカードに格納されているセーフティユニットリストアファイルのセーフティ署名を確認してください。 セーフティ署名が意図したものであることを確認のうえ、電源再投入し、再度セーフティユニットリストアを実行してください。		セーフティ CPU ユニットの前面 LED の表示にて、SD メモリカードに格納されているセーフティユニットリストアファイルのセーフティ署名が意図したものであることを確認してから、セーフティユニットリストアを開始してください。	
	セーフティユニットリストアファイル生成時に設定したセーフティパスワードが誤っている。		セーフティユニットリストアファイルに正しいセーフティパスワードを設定してください。		セーフティパスワード入力時に、正しいパスワードを設定してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	セーフティユニットリストア実行失敗			**イベントコード**	352B0000Hex	
内容	セーフティユニットリストアが異常終了しました。					
発生源	Sysmac Studio の接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	ユーザからのセーフティユニットリストア指示時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	—	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	—		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		なし		なし	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	セーフティユニットリストア実行中に SD メモリカードが抜き取られた。		セーフティユニットリストアファイルが格納された SD メモリカードを装着のうえ、電源再投入し、再度セーフティユニットリストアを実行してください。		セーフティユニットリストア実行中に SD メモリカードを抜き取らないでください。	
	セーフティユニットリストア実行中にサポートツールや FTP クライアントから SD メモリカードへの読み書きが行われた。		正しいセーフティユニットリストアファイルを SD メモリカードの指定フォルダに格納したうえ、電源再投入し、再度セーフティユニットリストアを実行してください。		セーフティユニットリストア実行中にサポートツールや FTP クライアントから、SD メモリカードへの読み書きを行わないでください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

2-7 NX シリーズセーフティ I/O ユニット

以下の形式のユニットで発生するイベントです。
- 形 NX-SI□□□□
- 形 NX-SO□□□□

2-7-1 システム異常

イベント名	システム異常			**イベントコード**	05200000Hex	
内容	ハードウェアの自己診断によりハードウェア異常を検出しました。					
発生源	Sysmac Studio の接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	該当ユニットの電源再投入	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当ユニットは動作を停止し、入出力データをセーフティ状態に遷移させます。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		なし		なし	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	ハードウェアの故障。		電源を再投入し、再発する場合はユニットを交換してください。		電源再投入で正常に動作を再開できる場合は、ユニット周辺で過度なノイズが発生している可能性がありますので、ノイズ対策を検討してください。	
	ソフトエラーや過度なノイズなどの一過性要因によるメモリ異常。					
付属情報	付属情報 1: システム情報（ステータスコード） 付属情報 2: システム情報（ステータスコード） 付属情報 3: システム情報（ステータスコード） 付属情報 4: システム情報（ステータスコード）					
注意点／備考	なし					

2-7-2　通信機能に関する異常

イベント名	セーフティプロセスデータ通信確立異常（ユニットパラメータ不正）			**イベントコード**	35210000Hex	
内容	セーフティ CPU ユニットとのセーフティプロセスデータ通信確立に失敗しました。					
発生源	Sysmac Studio の接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	セーフティプロセスデータ通信確立時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	異常要因除去後、セーフティ CPU ユニットからの通信確立要求により復旧	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当ユニットは動作を停止し、入出力データをセーフティ状態に遷移させます。		

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	なし	なし

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	形式やセーフティ入出力端子設定が不正。	セーフティ入出力端子設定の設定内容を確認し、誤りがある場合は修正した後、セーフティ CPU ユニットへ設定を転送してください。	あらかじめ処置対策の内容を考慮して設定をしてください。
		セーフティ I/O ユニットの形式が一致しているか確認してください。	

付属情報	なし
注意点／備考	なし

イベント名	セーフティプロセスデータ通信確立異常（FSoE Slave Address 不正）			イベントコード	35230000Hex	
内容	FSoE Slave Address 不正により、セーフティ CPU ユニットとのセーフティプロセスデータ通信確立に失敗しました。					
発生源	Sysmac Studio の接続先とシステム構成に依存		発生源詳細	NX ユニット	検出タイミング	セーフティプロセスデータ通信確立時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常要因除去後、セーフティ CPU ユニットからの通信確立要求により復旧	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当ユニットは動作を停止し、入出力データをセーフティ状態に遷移させます。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		なし		なし	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	セーフティプロセスデータ通信設定のうち、FSoE Slave Address 値の設定がユニットと不一致。		本ユニットのメモリオールクリアを実行してください。		他のシステムでセーフティプロセスデータ通信を確立したことがあるセーフティ I/O ユニットを再利用する場合は、あらかじめメモリオールクリアを実行してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	セーフティプロセスデータ通信確立異常（フレーム不正）			イベントコード	35240000Hex	
内容	不正なフレーム受信により、セーフティ CPU ユニットとのセーフティプロセスデータ通信確立に失敗しました。					
発生源	Sysmac Studio の接続先とシステム構成に依存		発生源詳細	NX ユニット	検出タイミング	セーフティプロセスデータ通信確立時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常要因除去後、セーフティ CPU ユニットからの通信確立要求により復旧	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当ユニットは動作を停止し、入出力データをセーフティ状態に遷移させます。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		なし		なし	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	不正なセーフティプロセスデータ通信確立フレームを受信。		セーフティ CPU ユニットやセーフティ I/O ユニットのシステム構成および形式が一致しているか確認してください。		あらかじめ、処置対策の内容を考慮してシステム構成・設定を行ってください。	
	過度なノイズが発生した。		ノイズ対策を実行してください。		過度なノイズが要因の場合、ノイズ対策を検討してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	NX ユニット I/O 通信異常		**イベントコード**	80200000Hex	
内容	NX バスマスタと NX ユニットの間で I/O 通信異常が発生しました。				
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存	**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	【CPU ユニットの NX バスの場合】 【縮退運転設定が「停止する」の場合】 NX バス機能モジュールの異常解除 【縮退運転設定が「縮退する」の場合】 NX ユニットの異常解除 【通信カプラユニットの場合】 【縮退運転設定が「停止する」の場合】 コントローラで異常検出する場合は、コントローラの全異常解除 コントローラで異常検出しない場合は、通信カプラユニットと NX ユニットの異常解除 【縮退運転設定が「縮退する」の場合】 通信カプラユニットと NX ユニットの異常解除			
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	NX ユニットの運転は継続。 入力データ:入力値の更新を停止。 出力データ:「負荷遮断時の出力設定」に従います。	

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	−	−

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	【CPU ユニットの NX バスの場合】		
	CPU ユニットで NX バス通信を正常に行えない異常が発生した。	CPU ユニットで発生している異常を確認し、処置対策を行ってください。	CPU ユニットで発生している異常の再発防止を行ってください。
	NX ユニットの取りつけが不確実。	NX ユニット、エンドカバーを確実に取り付け、エンドプレートで固定してください。	NX ユニット、エンドカバーを確実に取り付け、エンドプレートで固定してください。
	ユニット電源の電源ケーブルが抜けている。または、ユニット電源から NX ユニットへの配線が間違っている。	ユニット電源から NX ユニットへの配線を確実に行ってください。	ユニット電源から NX ユニットへの配線を確実に行ってください。
	ユニット電源の電源ケーブルが断線している。	ユニット電源と NX ユニットの間の電源ケーブルが断線している場合は、電源ケーブルを交換してください。	なし
	ユニット電源の電圧が仕様範囲外、またはユニット電源の電源容量が不足している。	電源供給の設計方法に従い、電源供給システム構成を正しく構築してください。	電源供給の設計方法に従い、電源供給システム構成を正しく構築してください。
	NX ユニットのハードウェアの異常。	上記の処置を行っても本異常が再発する場合は NX ユニットを交換してください。	なし

発生要因とその処置	【通信カプラユニットの場合】		
	通信カプラユニットで NX バス通信を正常に行えない異常が発生した。	通信カプラユニットで発生している異常を確認し、処置対策を行ってください。	通信カプラユニットで発生している異常の再発防止を行ってください。
	NX ユニットの取り付けが不確実。	NX ユニット、エンドカバーを確実に取り付け、エンドプレートで固定してください。	NX ユニット、エンドカバーを確実に取り付け、エンドプレートで固定してください。
	ユニット電源の電源ケーブルが抜けている。または、ユニット電源から NX ユニットへの配線が間違っている。	ユニット電源から NX ユニットへの配線を確実に行ってください。	ユニット電源から NX ユニットへの配線を確実に行ってください。
	ユニット電源の電源ケーブルが断線している。	ユニット電源と NX ユニットの間の電源ケーブルが断線している場合は、電源ケーブルを交換してください。	なし
	ユニット電源の電圧が仕様範囲外である。または、ユニット電源の電源容量が不足している。	電源供給の設計方法に従い、電源供給システム構成を正しく構築してください。	電源供給の設計方法に従い、電源供給システム構成を正しく構築してください。
	NX ユニットのハードウェアの異常。	上記の処置を行っても本異常が再発する場合は NX ユニットを交換してください。	なし
付属情報	なし		
注意点／備考	なし		

イベント名	セーフティプロセスデータ通信タイムアウト			**イベントコード**	80300000Hex	
内容	セーフティコントロールユニットとのセーフティプロセスデータ通信で通信タイムアウトが発生しました。					
発生源	Sysmac Studio の接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	セーフティプロセスデータ通信確立時および通信中
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	異常要因除去後、セーフティ CPU ユニットからの通信確立要求により復旧	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当ユニットは運転を継続します。異常を検出したセーフティコネクションの入出力データはセーフティ状態を維持します。		

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	なし	なし
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	設定不正。セーフティタスク周期が小さすぎる値に設定されている。	セーフティタスク周期を長くして、セーフティ CPU ユニットへ設定を転送してください。	あらかじめ、処置対策の内容を考慮してシステム構成・設定を行ってください。
	過度なノイズが発生した。	ノイズ対策を実行してください。	過度なノイズが要因の場合、ノイズ対策を検討してください。
	セーフティ CPU ユニット、あるいはセーフティスレーブがセーフティプロセスデータ通信を継続できない状態に遷移した。	セーフティ CPU ユニット、あるいはセーフティスレーブの状態を確認してください。	セーフティ CPU ユニット、あるいはセーフティスレーブの発生要因とその処置を参照してください。
	本ユニットが接続されている NX バスマスタに何らかの異常や状態変更が発生し、プロセスデータ通信が正しく実行されなかった。	本ユニットが接続されている NX バスマスタの状態を確認してください。	あらかじめ、処置対策の内容を考慮してシステム構成・設定を行ってください。
付属情報	なし		
注意点／備考	なし		

イベント名	NX バス I/O 通信停止			イベントコード	84F10000Hex	
内容	NX バスマスタと NX ユニットの間における I/O 通信に何らかの異常が発生しました。					
発生源	Sysmac Studio の接続先とシステム構成に依存		発生源詳細	NX ユニット	検出タイミング	常時
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	NX バスマスタおよび NX ユニットの電源再投入	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	NX ユニットの運転は継続します。 • 入力データ: 更新を停止するためセーフティプロセスデータ通信は異常となります。スタンダードプロセスデータ（ステータス）の値は更新されません。 • 出力データ: 0 を出力するためセーフティプロセスデータ通信は異常となります。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		なし		なし	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	NX バスマスタ、あるいは NX ユニットのハードウェアの異常。		NX ユニットを電源再投入しても本異常が再発する場合は NX バスマスタ、あるいは NX ユニットを交換してください。		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

2-7-3　セーフティ入出力機能に関する異常

イベント名	セーフティ入力端子内部回路異常			イベントコード	05210000Hex	
内容	セーフティ入力端子内部回路の故障を検知しました。					
発生源	Sysmac Studio の接続先とシステム構成に依存		発生源詳細	NX ユニット	検出タイミング	リフレッシュ中
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	該当ユニットの電源再投入	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	電源が再投入されるまで、該当セーフティ入力端子はセーフティ状態に維持されます。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		なし		なし	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	セーフティ入力端子内部回路の故障。		電源を再投入し、再発する場合はユニットを交換してください。		電源再投入で正常に動作を再開できる場合は、ユニット周辺で過度なノイズが発生している可能性がありますので、ノイズ対策を検討してください。	
	過度なノイズなどの一過性要因によるメモリ異常または信号異常。					
付属情報	付属情報 1: 端子番号					
注意点／備考	なし					

イベント名	テスト出力端子内部回路異常			イベントコード	05220000Hex	
内容	テスト出力端子内部回路の故障を検知しました。					
発生源	Sysmac Studio の接続先とシステム構成に依存		発生源詳細	NX ユニット	検出タイミング	リフレッシュ中
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	該当ユニットの電源再投入	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	電源が再投入されるまで、該当テスト出力端子はセーフティ状態に維持されます。また、該当テスト出力端子をテストソースとして使用しているセーフティ入力端子には、イベント「セーフティ入力端子外部接続機器異常(65220000Hex)」が発生します。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		なし		なし	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	テスト出力端子内部回路の故障。		電源を再投入し、再発する場合はユニットを交換してください。		電源再投入で正常に動作を再開できる場合は、ユニット周辺で過度なノイズが発生している可能性がありますので、ノイズ対策を検討してください。	
	過度なノイズなどの一過性要因によるメモリ異常または信号異常。					
付属情報	付属情報 1: 端子番号					
注意点／備考	なし					

イベント名	セーフティ出力端子内部回路異常			イベントコード	05230000Hex	
内容	セーフティ出力端子内部回路の故障を検知しました。					
発生源	Sysmac Studio の接続先とシステム構成に依存		発生源詳細	NX ユニット	検出タイミング	リフレッシュ中
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	該当ユニットの電源再投入	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	電源が再投入されるまで、該当セーフティ出力端子はセーフティ状態に維持されます。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		なし		なし	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	セーフティ出力端子内部回路の故障。		電源を再投入し、再発する場合はユニットを交換してください。		電源再投入で正常に動作を再開できる場合は、ユニット周辺で過度なノイズが発生している可能性がありますので、ノイズ対策を検討してください。	
	過度なノイズなどの一過性要因によるメモリ異常または信号異常。					
付属情報	付属情報 1: 端子番号					
注意点／備考	なし					

イベント名	入出力電源電圧異常			**イベントコード**	65200000Hex	
内容	入出力電源電圧不正を検出しました。					
発生源	Sysmac Studio の接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	リフレッシュ中
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**復旧方法**	異常要因の除去により復旧	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当ユニットは運転を継続しますが、入出力データはセーフティ状態を維持します。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		なし		なし	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	入力電源または出力電源が正しく供給されていない。		以下を確認のうえ、定格にあった電源を供給してください。 • 電源電圧が仕様の範囲内か • 配線に誤り、断線がないか • セーフティ出力端子に 24V が印加されていないか、または電源（+側）に接触していないか 電圧を測定し正常である場合、ユニットの故障が考えられます。その場合はユニットを交換してください。		あらかじめ処置対策の内容を考慮して設計してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	電源遮断テスト異常			イベントコード	65210000Hex	
内容	出力電源遮断テストで異常を検出しました。					
発生源	Sysmac Studio の接続先とシステム構成に依存		発生源詳細	NX ユニット	検出タイミング	リフレッシュ中
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常要因の除去後、以下のいずれかにより復旧 • I/O 電源の OFF • セーフティプロセスデータ通信の停止	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	該当ユニットは運転を継続しますが、入出力データはセーフティ状態を維持します。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		なし		なし	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	配線異常、もしくはハードウェア故障。		以下を確認のうえ、定格にあった電源を供給してください。 • 電源電圧が仕様の範囲内か • 配線に誤り、断線がないか • セーフティ出力端子に 24V が印加されていないか、または電源（+側）に接触していないか 電圧を測定し正常である場合、ユニットの故障が考えられます。その場合はユニットを交換してください。		あらかじめ処置対策の内容を考慮して設計してください。	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	セーフティ入力端子外部接続機器異常			イベントコード	65220000Hex	
内容	セーフティ入力端子のテストパルス評価機能において異常を検知しました。					
発生源	Sysmac Studio の接続先とシステム構成に依存		発生源詳細	NX ユニット	検出タイミング	リフレッシュ中
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常要因の除去後、セーフティ入力端子をインアクティブにすることで復旧	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	異常が解除されるまで、該当セーフティ入力端子はセーフティ状態に維持されます。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		なし		なし	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	入力信号線に電源（+側）が接触。		外部配線を確認してください。		あらかじめ処置対策の内容を考慮して設定・配線をしてください。	
	入力信号線間の短絡。					
	外部接続機器の故障。		外部接続機器を交換してください。			
	該当セーフティ入力端子と組み合わせて使用しているテスト出力端子で異常が発生した。		テスト出力端子で発生している異常を確認し処置対策を行ってください。		テスト出力端子で発生している異常の再発防止を行ってください。	
付属情報	付属情報 1: 端子番号					
注意点／備考	なし					

イベント名	セーフティ入力端子デュアルチャネル監視異常			イベントコード	65230000Hex	
内容	セーフティ入力端子のデュアルチャネル評価機能において異常を検知しました。					
発生源	Sysmac Studio の接続先とシステム構成に依存		発生源詳細	NX ユニット	検出タイミング	リフレッシュ中
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常要因の除去後、セーフティ入力端子をインアクティブにすることで復旧	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	異常が解除されるまで、該当セーフティ入力端子はセーフティ状態に維持されます。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		なし		なし	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	入力信号線の地絡、断線。		外部配線を確認してください。		あらかじめ処置対策の内容を考慮して設定・配線をしてください。	
	接続機器の故障。		外部接続機器を交換してください。			
	デュアルチャネル監視時間の設定値不正。		デュアルチャネル監視時間を見直してください。改善されない場合は、入力フィルタ機能により、オンディレー／オフディレーを設定してください。			
	セーフティ扉などの外部入力機器からの入力信号にチャタリングが発生。					
	該当セーフティ入力端子と組み合わせて使用しているテスト出力端子で異常が発生した。		テスト出力端子で発生している異常を確認し処置対策を行ってください。		テスト出力端子で発生している異常の再発防止を行ってください。	
付属情報	付属情報 1: 端子番号					
注意点／備考	なし					

イベント名	テスト出力端子過電流異常			イベントコード	65240000Hex	
内容	テスト出力端子で過電流を検知しました。					
発生源	Sysmac Studio の接続先とシステム構成に依存		発生源詳細	NX ユニット	検出タイミング	リフレッシュ中
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常要因の除去後、セーフティ入力端子をインアクティブにすることで復旧	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	異常が解除されるまで、該当テスト出力端子をテストソースとして使用しているセーフティ入力端子はセーフティ状態に維持されます。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		なし		なし	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	出力信号線の地絡。		外部配線を確認してください。		あらかじめ処置対策の内容を考慮して設定・配線をしてください。	
	外部接続機器の故障。		外部接続機器を交換してください。			
付属情報	付属情報 1: 端子番号					
注意点／備考	なし					

イベント名	テスト出力端子出力 ON 固着異常			イベントコード	65250000Hex	
内容	テスト出力端子で ON 固着を検知しました。					
発生源	Sysmac Studio の接続先とシステム構成に依存		発生源詳細	NX ユニット	検出タイミング	リフレッシュ中
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常要因の除去後、セーフティ入力端子をインアクティブにすることで復旧	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	異常が解除されるまで、該当テスト出力端子をテストソースとして使用しているセーフティ入力端子はセーフティ状態に維持されます。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		なし		なし	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	出力信号線に電源（+側）が接触。		外部配線を確認してください。		あらかじめ処置対策の内容を考慮して設定・配線をしてください。	
	内部回路の故障。		電源を再投入し、再発する場合はユニットを交換してください。		電源再投入で正常に動作を再開できる場合は、ユニット周辺で過度なノイズが発生している可能性がありますので、ノイズ対策を検討してください。	
	ソフトエラーや過度なノイズなどの一過性要因によるメモリ異常または信号異常。					
付属情報	付属情報 1: 端子番号					
注意点／備考	なし					

イベント名	セーフティ出力端子地絡異常			イベントコード	65270000Hex	
内容	セーフティ出力端子において地絡を検知しました。					
発生源	Sysmac Studio の接続先とシステム構成に依存		発生源詳細	NX ユニット	検出タイミング	リフレッシュ中
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常要因の除去後、セーフティ出力端子をインアクティブにすることで復旧	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	異常が解除されるまで、該当セーフティ出力端子はセーフティ状態に維持されます。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		なし		なし	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	出力信号線の地絡。		外部配線を確認してください。		あらかじめ処置対策の内容を考慮して設定・配線をしてください。	
付属情報	付属情報 1: 端子番号					
注意点／備考	なし					

イベント名	セーフティ出力端子出力 ON 固着異常			イベントコード	65280000Hex	
内容	セーフティ出力端子において ON 固着を検知しました。					
発生源	Sysmac Studio の接続先とシステム構成に依存		発生源詳細	NX ユニット	検出タイミング	リフレッシュ中
異常の属性	重要度	軽度フォールト	復旧方法	異常要因の除去後、セーフティ出力端子をインアクティブにすることで復旧	ログカテゴリ	システム
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	異常が解除されるまで、該当セーフティ出力端子はセーフティ状態に維持されます。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		なし		なし	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	出力信号線に電源（+側）が接触。		外部配線を確認してください。		あらかじめ処置対策の内容を考慮して設定・配線をしてください。	
	出力電源が仕様範囲外。		出力電源を確認してください。			
	内部回路の故障。		電源を再投入し、再発する場合はユニットを交換してください。		電源再投入で正常に動作を再開できる場合は、ユニット周辺で過度なノイズが発生している可能性がありますので、ノイズ対策を検討してください。	
	ソフトエラーや過度なノイズなどの一過性要因によるメモリ異常または信号異常。					
付属情報	付属情報 1: 端子番号					
注意点／備考	なし					

2-7-4 その他の異常

イベント名	NX メッセージ通信異常			**イベントコード**	80220000Hex	
内容	NX ユニット宛のメッセージ通信で異常を検知し、メッセージフレームを破棄しました。					
発生源	Sysmac Studio の接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	NX メッセージ通信中
異常の属性	**重要度**	監視情報	**復旧方法**	—	**ログカテゴリ**	システム
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		なし		なし	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	メッセージ通信の負荷が高い。		NX メッセージを送信する命令の使用頻度を減らしてください。 メッセージを送信する命令は、『NJ/NX シリーズ コマンドリファレンスマニュアル 基本編 (SBCA-468)』の付録を参照してください。		NX メッセージを送信する命令の使用頻度を減らしてください。	
	通信ケーブルのはずれ、断線。付属情報 2 が「0: NX バス」の場合は、本要因はありません。		通信ケーブルを確実に接続してください。		通信ケーブルを確実に接続してください。	
	Sysmac Studio の「同期」機能、リストア、または EtherCAT スレーブの離脱を実行したことによるメッセージ通信の切断。		—		—	
付属情報	付属情報 1:	システム情報				
	付属情報 2:	異常が発生した通信の種類 0: NX バス 1: EtherCAT 2: シリアル通信(USB) 65535: ユニット内部（ルーチング処理）				
注意点／備考	なし					

2-7-5 ユーザアクセスに関するログ

イベント名	イベントログのクリア			**イベントコード**	90400000Hex	
内容	イベントログをクリアしました。					
発生源	Sysmac Studio の接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	ユーザからの指示時
異常の属性	**重要度**	一般情報	**復旧方法**	—	**ログカテゴリ**	アクセス
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		なし		なし	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	ユーザがイベントログをクリアした。		—		—	
付属情報	付属情報 1:	クリア対象 1: システムイベントログをクリア 2: アクセスイベントログをクリア				
注意点／備考	なし					

イベント名	メモリオールクリア			**イベントコード**	90430000Hex	
内容	ユニットの設定をクリアしました。					
発生源	Sysmac Studio の接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	ユーザからの指示時
異常の属性	**重要度**	一般情報	**復旧方法**	—	**ログカテゴリ**	アクセス
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	ユニットの設定がクリアされます。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		なし		なし	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	メモリオールクリアを実行した。		—		—	
付属情報	付属情報 1:　メモリオールクリアを実行した NX ユニット番号 付属情報 2:　実行結果 0: 成功 1: ハードウェア異常 2: 初期化失敗 3: 初期化不可					
注意点／備考	メモリオールクリアの実行結果は付属情報を参照してください。					

2-8 NX シリーズロードセル入力ユニット

以下の形式のユニットで発生するイベントです。
- 形 NX-RS□□□□

2-8-1 ロードセル入力ユニット関連

イベント名	不揮発性メモリハードウェア異常			**イベントコード**	00200000Hex	
内容	不揮発性メモリが異常です。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	NX ユニットの電源投入時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト		**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	【CPU ユニットの NX バスの場合】 ユニット電源の再投入または NX バスのリスタート 【通信カプラユニットの場合】 ユニット電源の再投入またはスレーブターミナルのリスタート コントローラで異常検出する場合は、コントローラの全異常解除をさらに実行				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当 NX ユニットの I/O リフレッシュ停止。該当 NX ユニットへのメッセージ不可。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		–		–	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	不揮発性メモリの故障。		【CPU ユニットの NX バスの場合】 ユニット電源の再投入、または NX バスのリスタートをしてください。上記の処置を行っても本異常が再発する場合は、該当する NX ユニットを交換してください。 【通信カプラユニットの場合】 ユニット電源の再投入、またはスレーブターミナルのリスタートをしてください。上記の処置を行っても本異常が再発する場合は、該当する NX ユニットを交換してください。		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	AD 変換異常			**イベントコード**	05120000Hex	
内容	AD コンバータで AD 変換が行われませんでした。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト		**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	NX ユニットのリスタート				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	総重量値／荷重測定値、正味重量値およびピークホールド値は、2147483647（DINT 型の場合）または 3.402823e+38（REAL 型の場合）となります。ボトムホールド値は、−2147483647（DINT 型の場合）または−3.402823e+38（REAL 型の場合）となります。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	EXC+ 端子と EXC- 端子が短絡		EXC+と EXC-の短絡を取り除いた後、NX ユニットを電源再投入し、本異常が解除されるか確認してください。		なし	
	ノイズ		NX ユニットを電源再投入し、本異常が解除されるか確認してください。 本異常が頻発する場合は、ノイズ侵入経路を調査し、ノイズ対策を行ってください。		ノイズ対策を行ってください。	
	D コンバータの故障		EXC+端子と EXC-端子が短絡していない、かつ NX ユニットを電源再投入しても本異常が解除されない場合は、NX ユニットを交換してください。		なし	
付属情報	付属情報 1:異常の発生チャネル 0001Hex:Ch1					
注意点／備考	なし					

<table>
<tr><td>イベント名</td><td colspan="2">マスタ保存制御パラメータ異常</td><td>イベントコード</td><td colspan="2">10410000Hex</td></tr>
<tr><td>内容</td><td colspan="5">マスタ保存の制御パラメータに異常が発生しています。</td></tr>
<tr><td>発生源</td><td>サポートソフトの接続先とシステム構成に依存</td><td>発生源詳細</td><td>NX ユニット</td><td>検出タイミング</td><td>NX ユニットの電源投入時</td></tr>
<tr><td rowspan="2">異常の属性</td><td>重要度</td><td colspan="2">軽度フォールト</td><td>ログカテゴリ</td><td>システム</td></tr>
<tr><td>復旧方法</td><td colspan="4">【CPU ユニットの NX バスの場合】
【縮退運転設定が「停止する」の場合】
NX ユニットのリスタートののち、NX バス機能モジュールの異常解除
【縮退運転設定が「縮退する」の場合】
NX ユニットのリスタートののち、NX ユニットの異常解除
【通信カプラユニットの場合】
【縮退運転設定が「停止する」の場合】
コントローラで異常検出する場合は、NX ユニットのリスタートののち、コントローラの全異常解除
コントローラで異常検出しない場合は、NX ユニットのリスタートののち、通信カプラユニットの異常解除
【縮退運転設定が「縮退する」の場合】
NX ユニットのリスタートののち、通信カプラユニットの異常解除</td></tr>
<tr><td>発生の影響</td><td>ユーザプログラム</td><td>継続</td><td>動作</td><td colspan="2">該当 NX ユニットの I/O リフレッシュ停止。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">システム定義変数</td><td colspan="2">変数名</td><td colspan="2">データ型</td><td>名称</td></tr>
<tr><td colspan="2">なし</td><td colspan="2">－</td><td>－</td></tr>
<tr><td rowspan="5">発生要因とその処置</td><td colspan="2">発生要因（推定原因）</td><td colspan="2">処置対策</td><td>再発防止</td></tr>
<tr><td colspan="5">【CPU ユニットの NX バスの場合】</td></tr>
<tr><td colspan="2">ユニット動作設定の書き込み中に CPU ユニットを電断した。または CPU ユニットの不揮発性メモリのうち、該当する NX ユニットのユニット動作設定を保存しているエリアが異常。</td><td colspan="2">NX ユニットのユニット動作設定を再度ダウンロードしてください。上記の処置を行っても本異常が再発する場合は、CPU ユニットを交換してください。</td><td>NX ユニットへのユニット動作設定の転送中やメッセージによる NX ユニットのパラメータ保存の実行中に、CPU ユニットを電断しないでください。</td></tr>
<tr><td colspan="5">【通信カプラユニットの場合】</td></tr>
<tr><td colspan="2">ユニット動作設定の書き込み中に通信カプラユニットを電断した。または通信カプラユニットの不揮発性メモリのうち、該当する NX ユニットのユニット動作設定を保存しているエリアが異常。</td><td colspan="2">NX ユニットのユニット動作設定を再度ダウンロードしてください。上記の処置を行っても本異常が再発する場合は、通信カプラユニットを交換してください。</td><td>サポートソフトによる NX ユニットへのユニット動作設定の転送中やメッセージによる NX ユニットのパラメータ保存の実行中に、通信カプラユニットを電断しないでください。</td></tr>
<tr><td>付属情報</td><td colspan="5">なし</td></tr>
<tr><td>注意点／備考</td><td colspan="5">なし</td></tr>
</table>

イベント名	ユニット校正値異常			イベントコード	10440000Hex	
内容	ユニット校正値を保存しているエリアが異常です。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		発生源詳細	NX ユニット	検出タイミング	NX ユニットの電源投入時
異常の属性	重要度	軽度フォールト		ログカテゴリ	システム	
	復旧方法	−				
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	総重量値／荷重測定値、正味重量値およびピークホールド値は、2147483647（DINT 型の場合）または 3.402823e+38（REAL 型の場合）となります。ボトムホールド値は、−2147483647（DINT 型の場合）または−3.402823e+38（REAL 型の場合）となります。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	不揮発性メモリのうち、ユニット校正値を保存しているエリアが異常。		NX ユニットを電源再投入し、本異常が解除されるか確認してください。 上記の処置を行っても本異常が再発する場合は NX ユニットを交換してください。		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	実負荷校正値異常			イベントコード	10450000Hex	
内容	実負荷校正値を保存しているエリアが異常です。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		発生源詳細	NX ユニット	検出タイミング	NX ユニットの電源投入時
異常の属性	重要度	軽度フォールト		ログカテゴリ	システム	
	復旧方法	実負荷校正を行ってから NX ユニットを電源再投入				
発生の影響	ユーザプログラム	継続	動作	総重量値／荷重測定値、正味重量値およびピークホールド値は、2147483647（DINT 型の場合）または 3.402823e+38（REAL 型の場合）となります。ボトムホールド値は、−2147483647（DINT 型の場合）または−3.402823e+38（REAL 型の場合）となります。		
システム定義変数	変数名		データ型		名称	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	発生要因（推定原因）		処置対策		再発防止	
	不揮発性メモリのうち、実負荷校正値を保存しているエリアが異常		実負荷校正を行ってから NX ユニットを電源再投入し、本異常が解除されるか確認してください。 上記の処置を行っても本異常が再発する場合は NX ユニットを交換してください。		実負荷校正の実行中に NX ユニットを電断しないでください。	
付属情報	付属情報 1:異常の発生チャネル 0001Hex:Ch1					
注意点／備考	なし					

<table>
<tr><td>イベント名</td><td colspan="3">NX ユニット処理異常</td><td>イベントコード</td><td colspan="2">40200000Hex</td></tr>
<tr><td>内容</td><td colspan="6">NX ユニットで致命的な異常を検出しました。</td></tr>
<tr><td>発生源</td><td colspan="2">サポートソフトの接続先とシステム構成に依存</td><td>発生源詳細</td><td>NX ユニット</td><td>検出タイミング</td><td>常時</td></tr>
<tr><td rowspan="2">異常の属性</td><td>重要度</td><td colspan="2">軽度フォールト</td><td>ログカテゴリ</td><td colspan="2">システム</td></tr>
<tr><td>復旧方法</td><td colspan="5">【CPU ユニットの NX バスの場合】
NX ユニットの電源再投入ののち、NX バス機能モジュールの異常解除
【通信カプラユニットの場合】
NX ユニットの電源再投入ののち、通信カプラユニットの異常解除</td></tr>
<tr><td>発生の影響</td><td>ユーザプログラム</td><td>継続</td><td>動作</td><td colspan="3">該当 NX ユニットの I/O リフレッシュ停止。該当 NX ユニットへのメッセージ不可。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">システム定義変数</td><td colspan="2">変数名</td><td colspan="2">データ型</td><td colspan="2">名称</td></tr>
<tr><td colspan="2">なし</td><td colspan="2">－</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td rowspan="2">発生要因とその処置</td><td colspan="2">発生要因（推定原因）</td><td colspan="2">処置対策</td><td colspan="2">再発防止</td></tr>
<tr><td colspan="2">ソフトウェアにエラーが発生した。</td><td colspan="2">【CPU ユニットの NX バスの場合】
ユニット電源の再投入、NX ユニットのリスタートまたは NX バスのリスタートをしてください。上記の処置を行っても本異常が再発する場合は、当社営業または代理店にお問い合わせください。
【通信カプラユニットの場合】
ユニット電源の再投入、NX ユニットのリスタートまたはスレーブターミナルのリスタートをしてください。上記の処置を行っても本異常が再発する場合は、当社営業または代理店にお問い合わせください。</td><td colspan="2">なし</td></tr>
<tr><td>付属情報</td><td colspan="6">付属情報 1：システム情報
付属情報 2：システム情報
付属情報 3：システム情報
付属情報 4：システム情報</td></tr>
<tr><td>注意点／備考</td><td colspan="6">なし</td></tr>
</table>

イベント名	センサ断線異常			**イベントコード**	65130000Hex	
内容	ロードセルとの配線の断線を検出しました。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	センサ断線診断実行時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト		**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	NX ユニットの異常解除				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	センサ断線診断実行中では、センサ断線異常の発生の有無にかかわらず、各測定値は以下になります。 • 総重量値／荷重測定値、正味重量値およびピークホールド値は、2147483647（DINT 型の場合）または 3.402823e+38（REAL 型の場合）となります。 • ボトムホールド値は、−2147483647（DINT 型の 場合）または−3.402823e+38（REAL 型の場合）となります。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	ロードセルとの配線が未接続		未接続の配線がないか確認し、未接続の配線がある場合は接続して ください。		なし	
	ロードセルとの配線が断線		配線が断線していないか確認し、断線している場合はロードセルとの接続ケーブルを交換してください。		断線が発生した原因を調査し、適切な再発防止を行ってください。	
	入力信号が入力変換範囲を超えている。		ロードセルの定格出力を確認してください。定格出力がロードセル入力ユニットの入力レンジの範囲を超えている場合は、定格出力が入力レンジの範囲となるロードセルに交換してください。		定格出力がロードセル入力ユニットの入力レンジの範囲となるロー ドセルを使用してください。	
			ロードセルの定格容量とロードセルに加わる負荷を確認してください。定格容量を超える負荷が加わっている場合は、定格容量を超える負荷が加わらないようにして ください。		ロードセルに定格容量を超える負荷を加えないでください。	
	ロードセルの故障		ロードセルが故障していないか確認し、故障している場合はロードセルを交換してください。		なし	
付属情報	付属情報 1:異常の発生チャネル 0001Hex:Ch1					
注意点／備考	なし					

<table>
<tr><td>イベント名</td><td colspan="2">NX ユニット I/O 通信異常</td><td>イベントコード</td><td colspan="2">80200000Hex</td></tr>
<tr><td>内容</td><td colspan="5">NX ユニットで I/O 通信異常が発生しました。</td></tr>
<tr><td>発生源</td><td>サポートソフトの接続先とシステム構成に依存</td><td>発生源詳細</td><td>NX ユニット</td><td>検出タイミング</td><td>常時</td></tr>
<tr><td rowspan="2">異常の属性</td><td>重要度</td><td colspan="2">軽度フォールト</td><td>ログカテゴリ</td><td>システム</td></tr>
<tr><td>復旧方法</td><td colspan="4">【CPU ユニットの NX バスの場合】
【縮退運転設定が「停止する」の場合】
NX バス機能モジュールの異常解除
【縮退運転設定が「縮退する」の場合】
NX ユニットの異常解除
【通信カプラユニットの場合】
【縮退運転設定が「停止する」の場合】
コントローラで異常検出する場合は、コントローラの全異常解除
コントローラで異常検出しない場合は、通信カプラユニットと NX ユニットの異常解除
【縮退運転設定が「縮退する」の場合】
通信カプラユニットと NX ユニットの異常解除</td></tr>
<tr><td>発生の影響</td><td>ユーザプログラム</td><td>継続</td><td>動作</td><td colspan="2">NX ユニットの運転は継続。
入力データ: 入力値の更新を停止。
出力データ： 「負荷遮断時の出力設定」に従います。</td></tr>
<tr><td>システム定義変数</td><td colspan="2">変数名</td><td colspan="2">データ型</td><td>名称</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">なし</td><td colspan="2">－</td><td>－</td></tr>
<tr><td rowspan="8">発生要因とその処置</td><td colspan="2">発生要因（推定原因）</td><td colspan="2">処置対策</td><td>再発防止</td></tr>
<tr><td colspan="5">【CPU ユニットの NX バスの場合】</td></tr>
<tr><td colspan="2">CPU ユニットで NX バス通信を正常に行えない異常が発生した。</td><td colspan="2">CPU ユニットで発生している異常を確認し、処置対策を行ってください。</td><td>CPU ユニットで発生している異常の再発防止を行ってください。</td></tr>
<tr><td colspan="2">NX ユニットの取りつけが不確実。</td><td colspan="2">NX ユニット、エンドカバーを確実に取り付け、エンドプレートで固定してください。</td><td>NX ユニット、エンドカバーを確実に取り付け、エンドプレートで固定してください。</td></tr>
<tr><td colspan="2">ユニット電源の電源ケーブルが抜けている。または、ユニット電源から NX ユニットへの配線が間違っている。</td><td colspan="2">ユニット電源から NX ユニットへの配線を確実に行ってください。</td><td>ユニット電源から NX ユニットへの配線を確実に行ってください。</td></tr>
<tr><td colspan="2">ユニット電源の電源ケーブルが断線している。</td><td colspan="2">ユニット電源と NX ユニットの間の電源ケーブルが断線している場合は、電源ケーブルを交換してください。</td><td>なし</td></tr>
<tr><td colspan="2">ユニット電源の電圧が仕様範囲外、またはユニット電源の電源容量が不足している。</td><td colspan="2">電源供給の設計方法に従い、電源供給システム構成を正しく構築してください。</td><td>電源供給の設計方法に従い、電源供給システム構成を正しく構築してください。</td></tr>
<tr><td colspan="2">NX ユニットのハードウェアの異常。</td><td colspan="2">上記の処置を行っても本異常が再発する場合は NX ユニットを交換してください。</td><td>なし</td></tr>
</table>

発生要因とその処置	【通信カプラユニットの場合】		
	通信カプラユニットで NX バス通信を正常に行えない異常が発生した。	通信カプラユニットで発生している異常を確認し、処置対策を行ってください。	通信カプラユニットで発生している異常の再発防止を行ってください。
	NX ユニットの取り付けが不確実。	NX ユニット、エンドカバーを確実に取り付け、エンドプレートで固定してください。	NX ユニット、エンドカバーを確実に取り付け、エンドプレートで固定してください。
	ユニット電源の電源ケーブルが抜けている。または、ユニット電源から NX ユニットへの配線が間違っている。	ユニット電源から NX ユニットへの配線を確実に行ってください。	ユニット電源から NX ユニットへの配線を確実に行ってください。
	ユニット電源の電源ケーブルが断線している。	ユニット電源と NX ユニットの間の電源ケーブルが断線している場合は、電源ケーブルを交換してください。	なし
	ユニット電源の電圧が仕様範囲外である。または、ユニット電源の電源容量が不足している。	電源供給の設計方法に従い、電源供給システム構成を正しく構築してください。	電源供給の設計方法に従い、電源供給システム構成を正しく構築してください。
	NX ユニットのハードウェアの異常。	上記の処置を行っても本異常が再発する場合は NX ユニットを交換してください。	なし
付属情報	なし		
注意点／備考	なし		

<table>
<tr><td>イベント名</td><td colspan="2">NX ユニット出力同期異常</td><td>イベントコード</td><td colspan="2">80210000Hex</td></tr>
<tr><td>内容</td><td colspan="5">NX ユニットで出力同期異常が発生しました。</td></tr>
<tr><td>発生源</td><td>サポートソフトの接続先とシステム構成に依存</td><td>発生源詳細</td><td>NX ユニット</td><td>検出タイミング</td><td>常時</td></tr>
<tr><td rowspan="2">異常の属性</td><td>重要度</td><td colspan="2">軽度フォールト</td><td>ログカテゴリ</td><td>システム</td></tr>
<tr><td>復旧方法</td><td colspan="4">【CPU ユニットの NX バスの場合】
NX バス機能モジュールの異常解除
【通信カプラユニットの場合】
コントローラの全異常解除</td></tr>
<tr><td>発生の影響</td><td>ユーザプログラム</td><td>継続</td><td>動作</td><td colspan="2">NX ユニットの運転は継続。
入力データ: 入力値の更新を停止。
出力データ： 「負荷遮断時の出力設定」に従います。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">システム定義変数</td><td colspan="2">変数名</td><td colspan="2">データ型</td><td>名称</td></tr>
<tr><td colspan="2">なし</td><td colspan="2">−</td><td>−</td></tr>
<tr><td rowspan="6">発生要因とその処置</td><td>発生要因（推定原因）</td><td colspan="2">処置対策</td><td colspan="2">再発防止</td></tr>
<tr><td colspan="5">【CPU ユニットの NX バスの場合】</td></tr>
<tr><td>CPU ユニットで異常が発生しているため、NX バス上の I/O リフレッシュが正しく行われていない。</td><td colspan="2">CPU ユニットで発生している異常を確認し、処置対策を行ってください。</td><td colspan="2">CPU ユニットで発生している異常の再発防止を行ってください。</td></tr>
<tr><td colspan="5">【通信カプラユニットの場合】</td></tr>
<tr><td>通信カプラユニットに接続している通信ケーブルの断線、接続不良。</td><td colspan="2">通信ケーブルを交換、または確実に配線してください。</td><td colspan="2">通信ケーブルを確実に配線してください。</td></tr>
<tr><td>通信ケーブルへのノイズ。</td><td colspan="2">動作に問題が発生しない範囲で、通信カプラユニットにおける通信異常の連続検出回数(Consecutive Communications Error Detection Count)を適切な値に変更してください。
ノイズが多い場合は、ノイズ対策を行ってください。</td><td colspan="2">ノイズ対策を行ってください。
ノイズ対策については、各ユニットのユーザーズマニュアルなどを参照してください。</td></tr>
<tr><td>付属情報</td><td colspan="5">なし</td></tr>
<tr><td>注意点／備考</td><td colspan="5">なし</td></tr>
</table>

イベント名	NX ユニット時刻同期はずれ異常			**イベントコード**	80240000Hex	
内容	NX ユニットの時刻情報に異常が発生しました。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト		**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	【CPU ユニットの NX バスの場合】 ユニット電源の再投入 【通信カプラユニットの場合】 ユニット電源の再投入ののち、コントローラの全異常解除				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	NX ユニットの運転は継続。 入力データ: 入力値の更新を停止。 出力データ:「負荷遮断時の出力設定」に従います。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		―		―	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	【CPU ユニットの NX バスの場合】					
	NX ユニットのハードウェア異常。		特定の NX ユニットだけで本異常が発生している場合は、該当する NX ユニットを交換してください。		なし	
	CPU ユニットのハードウェア異常。		CPU ユニットに装着された本異常が発生する NX ユニットのすべてで、本異常が発生している場合は、CPU ユニットを交換してください。		なし	
	【通信カプラユニットの場合】					
	NX ユニットのハードウェア異常。		特定の NX ユニットだけで本異常が発生している場合は、該当する NX ユニットを交換してください。		なし	
	EtherCAT カプラユニットのハードウェア異常。		通信カプラユニットに装着された本異常が発生する NX ユニットのすべてで、本異常が発生している場合は、通信カプラユニットを交換してください。		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	オーバーレンジ			**イベントコード**	65140000Hex	
内容	ロードセルからの入力信号が入力変換範囲の上限値を上回りました。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	監視情報		**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	NX ユニットの異常解除				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	総重量値／荷重測定値、正味重量値およびピークホールド値は、2147483647（DINT 型の場合）または 3.402823e+38（REAL 型の場合）となります。ボトムホールド値は、−2147483647（DINT 型の場合）または−3.402823e+38（REAL 型の場合）となります。		

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	−	−

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	ロードセルとの配線が未接続	未接続の配線がないか確認し、未接続の配線がある場合は接続して ください。	なし
	ロードセルとの配線が断線	配線が断線していないか確認し、断線している場合はロードセルとの接続ケーブルを交換してください。	断線が発生した原因を調査し、適切な再発防止を行ってください。
	EXC+端子と EXC-端子が短絡	EXC+端子と EXC-端子が短絡していないか確認し、短絡している場合は、短絡を取り除いてください。短絡を取り除いた後、NX ユニットを電源再投入し、本異常が解除されるか確認してください。	なし
	ロードセルの故障	ロードセルが故障していないか確認し、故障している場合はロードセルを交換してください。	なし
	定格出力がロードセル入力ユニットの入力レンジの範囲を超えるロードセルを使用している。	ロードセルの定格出力を確認してください。定格出力がロードセル入力ユニットの入力レンジの範囲を超えている場合は、定格出力が入力レンジの範囲となるロードセルに交換してください。	定格出力がロードセル入力ユニットの入力レンジの範囲となるロードセルを使用してください。
	ロードセルに定格容量を超える負荷が加わっている。	ロードセルの定格容量とロードセルに加わる負荷を確認してください。定格容量を超える負荷が加わっている場合は、定格容量を超える負荷が加わらないようにしてください。	ロードセルに定格容量を超える負荷を加えないでください。
	ノイズ	本異常が頻発する場合は、ノイズ侵入経路を調査し、ノイズ対策を行ってください。	ノイズ対策を行ってください。

付属情報	付属情報 1:異常の発生チャネル 0001Hex:Ch1
注意点／備考	重要度を軽度フォールトに変更できます。

イベント名	アンダーレンジ			**イベントコード**	65150000Hex	
内容	ロードセルからの入力信号が入力変換範囲の下限値を下回りました。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	監視情報		**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	NX ユニットの異常解除				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	総重量値／荷重測定値、正味重量値およびピークホールド値は、2147483647（DINT 型の場合）または 3.402823e+38（REAL 型の場合）となります。ボトムホールド値は、−2147483647（DINT 型の場合）または−3.402823e+38（REAL 型の場合）となります。		

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	−	−

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	ロードセルとの配線が未接続	未接続の配線がないか確認し、未接続の配線がある場合は接続して ください。	なし
	ロードセルとの配線が断線	配線が断線していないか確認し、断線している場合はロードセルとの接続ケーブルを交換してください。	断線が発生した原因を調査し、適切な再発防止を行ってください。
	EXC+端子と EXC-端子が短絡	EXC+端子と EXC-端子が短絡していないか確認し、短絡している場合は、短絡を取り除いてください。短絡を取り除いた後、NX ユニットを電源再投入し、本異常が解除されるか確認してください。	なし
	ロードセルの故障	ロードセルが故障していないか確認し、故障している場合はロードセルを交換してください。	なし
	定格出力がロードセル入力ユニットの入力レンジの範囲を超えるロードセルを使用している。	ロードセルの定格出力を確認してください。定格出力がロードセル入力ユニットの入力レンジの範囲を超えている場合は、定格出力が入力レンジの範囲となるロードセルに交換してください。	定格出力がロードセル入力ユニットの入力レンジの範囲となるロードセルを使用してください。
	ロードセルに定格容量を超える負荷が加わっている。	ロードセルの定格容量とロードセルに加わる負荷を確認してください。定格容量を超える負荷が加わっている場合は、定格容量を超える負荷が加わらないようにしてください。	ロードセルに定格容量を超える負荷を加えないでください。
	ノイズ	本異常が頻発する場合は、ノイズ侵入経路を調査し、ノイズ対策を行ってください。	ノイズ対策を行ってください。

付属情報	付属情報 1:異常の発生チャネル 0001Hex:Ch1
注意点／備考	重要度を軽度フォールトに変更できます。

イベント名	NX メッセージ通信異常		**イベントコード**	80220000Hex	
内容	メッセージ通信で異常を検知し、メッセージフレームを破棄しました。				
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存	**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	NX メッセージ通信中
異常の属性	**重要度**	監視情報	**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	−			
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし。	

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	−	−
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	【CPU ユニットの NX バスの場合】		
	メッセージ通信の負荷が高い。	NX メッセージを送信する命令の使用頻度を減らしてください。	NX メッセージを送信する命令の使用頻度を減らしてください。
	【通信カプラユニットの場合】		
	メッセージ通信の負荷が高い。	NX メッセージを送信する命令の使用頻度を減らしてください。	NX メッセージを送信する命令の使用頻度を減らしてください。
	通信ケーブルのはずれ、断線。 付属情報 2 が「0:NX バス」の場合は、本要因はありません。	通信ケーブルを確実に接続してください。	通信ケーブルを確実に接続してください。
	メッセージ通信実行中に以下を実行することで、メッセージ通信の切断が発生。 • サポートソフトによるパラメータの転送 • バックアップデータのリストア(EtherCAT スレーブターミナルで本異常が発生した場合) • EtherCAT スレーブの離脱(EtherCAT スレーブターミナルで本異常が発生した場合)	−	−
付属情報	付属情報 1:システム情報 付属情報 2:異常が発生した通信の種類 0: NX バス 1: EtherCAT 2: シリアル通信(USB) 3: EtherNet/IP 65535: ユニット内部（ルーチング処理）		
注意点／備考	なし		

イベント名	イベントログのクリア			**イベントコード**	90400000Hex	
内容	イベントログをクリアしました。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	ユーザからの指示時
異常の属性	**重要度**	一般情報		**ログカテゴリ**	アクセス	
	復旧方法	−				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	ユーザがイベントログをクリアした。		−		−	
付属情報	付属情報 1:クリア対象 1: システムイベントログをクリア 2: アクセスイベントログをクリア					
注意点／備考	なし					

2-9 NX シリーズ IO-Link マスタユニット

以下の形式のユニットで発生するイベントです。
- 形 NX-ILM□□□□

2-9-1 IO-Link マスタユニット関連

イベント名	不揮発性メモリハードウェア異常			**イベントコード**	00200000Hex	
内容	不揮発性メモリが異常です。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	NX ユニットの電源投入時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト		**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	【CPU ユニットの NX バスの場合】 ユニット電源の再投入または NX バスのリスタート 【通信カプラユニットの場合】 ユニット電源の再投入またはスレーブターミナルのリスタート コントローラで異常検出する場合は、コントローラの全異常解除をさらに実行				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	不揮発性メモリへの書き込み不可		

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	−	−

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	不揮発性メモリの故障。	【CPU ユニットの NX バスの場合】 ユニット電源の再投入、または NX バスのリスタートをしてください。上記の処置を行っても本異常が再発する場合は、該当する NX ユニットを交換してください。 【通信カプラユニットの場合】 ユニット電源の再投入、またはスレーブターミナルのリスタートをしてください。上記の処置を行っても本異常が再発する場合は、該当する NX ユニットを交換してください。	なし

付属情報	なし
注意点／備考	なし

イベント名	マスタ保存制御パラメータ異常		**イベントコード**	10410000Hex	
内容	マスタ保存の制御パラメータに異常が発生しています。				
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存	**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	NX ユニットの電源投入時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	【CPU ユニットの NX バスの場合】 【縮退運転設定が「停止する」の場合】 NX ユニットのリスタートののち、NX バス機能モジュールの異常解除 【縮退運転設定が「縮退する」の場合】 NX ユニットのリスタートののち、NX ユニットの異常解除 【通信カプラユニットの場合】 【縮退運転設定が「停止する」の場合】 コントローラで異常検出する場合は、NX ユニットのリスタートののち、コントローラの全異常解除 コントローラで異常検出しない場合は、NX ユニットのリスタートののち、通信カプラユニットの異常解除 【縮退運転設定が「縮退する」の場合】 NX ユニットのリスタートののち、通信カプラユニットの異常解除			
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当 NX ユニットの I/O リフレッシュ停止。	

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	－	－

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	【CPU ユニットの NX バスの場合】		
	ユニット動作設定の書き込み中に CPU ユニットを電断した。または CPU ユニットの不揮発性メモリのうち、該当する NX ユニットのユニット動作設定を保存しているエリアが異常。	NX ユニットのユニット動作設定を再度ダウンロードしてください。上記の処置を行っても本異常が再発する場合は、CPU ユニットを交換してください。	NX ユニットへのユニット動作設定の転送中やメッセージによる NX ユニットのパラメータ保存の実行中に、CPU ユニットを電断しないでください。
	【通信カプラユニットの場合】		
	ユニット動作設定の書き込み中に通信カプラユニットを電断した。または通信カプラユニットの不揮発性メモリのうち、該当する NX ユニットのユニット動作設定を保存しているエリアが異常。	NX ユニットのユニット動作設定を再度ダウンロードしてください。上記の処置を行っても本異常が再発する場合は、通信カプラユニットを交換してください。	サポートソフトによる NX ユニットへのユニット動作設定の転送中やメッセージによる NX ユニットのパラメータ保存の実行中に、通信カプラユニットを電断しないでください。

付属情報	なし
注意点／備考	なし

イベント名	NX ユニット処理異常		**イベントコード**	40200000Hex	
内容	NX ユニットで致命的な異常を検出しました。				
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存	**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	【CPU ユニットの NX バスの場合】 NX ユニットの電源再投入ののち、NX バス機能モジュールの異常解除 【通信カプラユニットの場合】 NX ユニットの電源再投入ののち、通信カプラユニットの異常解除			
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	該当 NX ユニットの I/O リフレッシュ停止。該当 NX ユニットへのメッセージ不可。	

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	−	−

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	ソフトウェアにエラーが発生した。	【CPU ユニットの NX バスの場合】 ユニット電源の再投入、NX ユニットのリスタートまたは NX バスのリスタートをしてください。上記の処置を行っても本異常が再発する場合は、当社営業または代理店にお問い合わせください。 【通信カプラユニットの場合】 ユニット電源の再投入、NX ユニットのリスタートまたはスレーブターミナルのリスタートをしてください。上記の処置を行っても本異常が再発する場合は、当社営業または代理店にお問い合わせください。	なし

付属情報	付属情報 1：システム情報 付属情報 2：システム情報 付属情報 3：システム情報 付属情報 4：システム情報
注意点／備考	なし

イベント名	NX ユニット I/O 通信異常		**イベントコード**	80200000Hex	
内容	NX ユニットで I/O 通信異常が発生しました。				
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存	**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	【CPU ユニットの NX バスの場合】 【縮退運転設定が「停止する」の場合】 NX バス機能モジュールの異常解除 【縮退運転設定が「縮退する」の場合】 NX ユニットの異常解除 【通信カプラユニットの場合】 【縮退運転設定が「停止する」の場合】 コントローラで異常検出する場合は、コントローラの全異常解除 コントローラで異常検出しない場合は、通信カプラユニットと NX ユニットの異常解除 【縮退運転設定が「縮退する」の場合】 通信カプラユニットと NX ユニットの異常解除			
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	NX ユニットの運転は継続。 入力データ: 入力値の更新を停止。 出力データ：「負荷遮断時の出力設定」に従います。	

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	−	−

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	【CPU ユニットの NX バスの場合】		
	CPU ユニットで NX バス通信を正常に行えない異常が発生した。	CPU ユニットで発生している異常を確認し、処置対策を行ってください。	CPU ユニットで発生している異常の再発防止を行ってください。
	NX ユニットの取りつけが不確実。	NX ユニット、エンドカバーを確実に取り付け、エンドプレートで固定してください。	NX ユニット、エンドカバーを確実に取り付け、エンドプレートで固定してください。
	ユニット電源の電源ケーブルが抜けている。または、ユニット電源から NX ユニットへの配線が間違っている。	ユニット電源から NX ユニットへの配線を確実に行ってください。	ユニット電源から NX ユニットへの配線を確実に行ってください。
	ユニット電源の電源ケーブルが断線している。	ユニット電源と NX ユニットの間の電源ケーブルが断線している場合は、電源ケーブルを交換してください。	なし
	ユニット電源の電圧が仕様範囲外、またはユニット電源の電源容量が不足している。	電源供給の設計方法に従い、電源供給システム構成を正しく構築してください。	電源供給の設計方法に従い、電源供給システム構成を正しく構築してください。
	NX ユニットのハードウェアの異常。	上記の処置を行っても本異常が再発する場合は NX ユニットを交換してください。	なし

発生要因とその処置	【通信カプラユニットの場合】		
	通信カプラユニットで NX バス通信を正常に行えない異常が発生した。	通信カプラユニットで発生している異常を確認し、処置対策を行ってください。	通信カプラユニットで発生している異常の再発防止を行ってください。
	NX ユニットの取り付けが不確実。	NX ユニット、エンドカバーを確実に取り付け、エンドプレートで固定してください。	NX ユニット、エンドカバーを確実に取り付け、エンドプレートで固定してください。
	ユニット電源の電源ケーブルが抜けている。または、ユニット電源から NX ユニットへの配線が間違っている。	ユニット電源から NX ユニットへの配線を確実に行ってください。	ユニット電源から NX ユニットへの配線を確実に行ってください。
	ユニット電源の電源ケーブルが断線している。	ユニット電源と NX ユニットの間の電源ケーブルが断線している場合は、電源ケーブルを交換してください。	なし
	ユニット電源の電圧が仕様範囲外である。または、ユニット電源の電源容量が不足している。	電源供給の設計方法に従い、電源供給システム構成を正しく構築してください。	電源供給の設計方法に従い、電源供給システム構成を正しく構築してください。
	NX ユニットのハードウェアの異常。	上記の処置を行っても本異常が再発する場合は NX ユニットを交換してください。	なし
付属情報	なし		
注意点／備考	なし		

イベント名	NX ユニット時刻同期はずれ異常		**イベントコード**	80240000Hex	
内容	NX ユニットの時刻情報に異常が発生しました。				
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存	**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト	**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	【CPU ユニットの NX バスの場合】 ユニット電源の再投入 【通信カプラユニットの場合】 ユニット電源の再投入ののち、コントローラの全異常解除			
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	NX ユニットの運転は継続。 入力データ: 入力値の更新を停止。 出力データ：「負荷遮断時の出力設定」に従います。	

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	−	−

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	【CPU ユニットの NX バスの場合】		
	NX ユニットのハードウェア異常。	特定の NX ユニットだけで本異常が発生している場合は、該当する NX ユニットを交換してください。	なし
	CPU ユニットのハードウェア異常。	CPU ユニットに装着された本異常が発生する NX ユニットのすべてで、本異常が発生している場合は、CPU ユニットを交換してください。	なし
	【通信カプラユニットの場合】		
	NX ユニットのハードウェア異常。	特定の NX ユニットだけで本異常が発生している場合は、該当する NX ユニットを交換してください。	なし
	EtherCAT カプラユニットのハードウェア異常。	通信カプラユニットに装着された本異常が発生する NX ユニットのすべてで、本異常が発生している場合は、通信カプラユニットを交換してください。	なし

付属情報	なし
注意点／備考	なし

イベント名	デバイス構成照合異常			**イベントコード**	848F0000Hex	
内容	IO-Link マスタのポートに登録された IO-Link デバイスと異なるデバイスが接続された。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	IO-Link デバイス接続時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト		**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	NX ユニットの異常解除				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	運転は継続します。 異常ポートでは、IO-Link デバイスとのサイクリック通信が正しく行われていません。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		–		–	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	IO-Link マスタのポートに登録された IO-Link デバイスと異なるデバイスが接続された。		IO-Link マスタのポートに登録している IO-Link デバイスを接続してください。		IO-Link マスタのポートに登録している IO-Link デバイスを接続してください。	
付属情報	付属情報 1: 異常が発生したポート 0001Hex: ポート 1 で発生 0002Hex: ポート 2 で発生 0003Hex: ポート 3 で発生 0004Hex: ポート 4 で発生					
注意点／備考	なし					

イベント名	I/O ケーブル短絡			**イベントコード**	84970000Hex	
内容	IO-Link マスタとデバイス間のケーブルが短絡しました。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト		**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	NX ユニットの異常解除				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	運転は継続します。 異常ポートでは、IO-Link デバイスとのサイクリック通信が正しく行われていません。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		–		–	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	I/O ケーブルの短絡が発生した。		I/O ケーブルが、短絡していないか確認してください。短絡している場合はケーブルを交換してください。		なし	
	IO-Link デバイスの故障。		IO-Link デバイスを交換してください。		なし	
付属情報	付属情報 1: 異常が発生したポート 0001Hex: ポート 1 で発生 0002Hex: ポート 2 で発生 0003Hex: ポート 3 で発生 0004Hex: ポート 4 で発生					
注意点／備考	なし					

イベント名	IO-Link 通信モジュール処理異常			**イベントコード**	849A0000Hex	
内容	IO-Link 通信モジュールでハードウェア故障が発生しました。					
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存		**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	軽度フォールト		**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	NX ユニットの電源再投入				
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	運転は継続します。 IO-Link デバイスからの受信データは正しくない可能性があります。		
システム定義変数	**変数名**		**データ型**		**名称**	
	なし		−		−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**		**再発防止**	
	ハードウェアの故障が発生しています。		ユニットの電源を再投入しても本異常が解除されない場合は NX ユニットを交換してください。		なし	
付属情報	なし					
注意点／備考	なし					

イベント名	NX メッセージ通信異常		**イベントコード**	80220000Hex	
内容	メッセージ通信で異常を検知し、メッセージフレームを破棄しました。				
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存	**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	NX メッセージ通信中
異常の属性	**重要度**	監視情報	**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	−			
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし。	

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	−	−

発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	【CPU ユニットの NX バスの場合】		
	メッセージ通信の負荷が高い。	NX メッセージを送信する命令の使用頻度を減らしてください。	NX メッセージを送信する命令の使用頻度を減らしてください。
	【通信カプラユニットの場合】		
	メッセージ通信の負荷が高い。	NX メッセージを送信する命令の使用頻度を減らしてください。	NX メッセージを送信する命令の使用頻度を減らしてください。
	通信ケーブルのはずれ、断線。 付属情報 2 が「0:NX バス」の場合は、本要因はありません。	通信ケーブルを確実に接続してください。	通信ケーブルを確実に接続してください。
	メッセージ通信実行中に以下を実行することで、メッセージ通信の切断が発生。 • サポートソフトによるパラメータの転送 • バックアップデータのリストア(EtherCAT スレーブターミナルで本異常が発生した場合) • EtherCAT スレーブの離脱(EtherCAT スレーブターミナルで本異常が発生した場合)	−	−

付属情報	付属情報 1:システム情報 付属情報 2:異常が発生した通信の種類 0: NX バス 1: EtherCAT 2: シリアル通信(USB) 3: EtherNet/IP 65535: ユニット内部（ルーチング処理）
注意点／備考	なし

イベント名	デバイスイベント（エラーレベル）		**イベントコード**	848C0000Hex	
内容	IO-Link デバイスでエラーレベルのイベントが発生しました。				
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存	**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	異常解除。復旧できない場合は、IO-Link デバイスが異常を継続しているため、NX ユニットのリスタートをしてください。			
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	運転は継続します。 IO-Link デバイスからの受信データは正しくない可能性があります	

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	−	−
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	CX-ConfiguratorFDT を使用し、IO-Link デバイスの IO-Link イベントコードを確認してください。	IO-Link デバイスの IO-Link イベントコードから対策を確認してください。	IO-Link デバイスの IO-Link イベントコードから再発防止策を確認してください。
付属情報	付属情報 1: 異常が発生したポート 0001Hex: ポート 1 で発生 0002Hex: ポート 2 で発生 0003Hex: ポート 3 で発生 0004Hex: ポート 4 で発生		
注意点／備考	なし		

イベント名	IO-Link 通信異常		**イベントコード**	848D0000Hex	
内容	デバイスとの IO-Link 通信で異常が発生しました。				
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存	**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	NX ユニットの異常解除			
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	運転は継続します。 IO-Link デバイスからの受信データは正しくない可能性があります。	

システム定義変数	**変数名**	**データ型**	**名称**
	なし	−	−
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**	**処置対策**	**再発防止**
	I/O ケーブルの断線が発生した。または IO-Link デバイスがポートから離脱している。	I/O ケーブルが、断線していないか確認してください。断線している場合はケーブルを交換してください。 または、IO-Link デバイスをポートに接続してください。	なし
	IO-Link デバイスの故障。	IO-Link デバイスを交換してください。	なし
	ノイズの影響を受けている。	ノイズ対策を行ってください。	ノイズ対策を行ってください。
付属情報	付属情報 1: 異常が発生したポート 0001Hex: ポート 1 で発生 0002Hex: ポート 2 で発生 0003Hex: ポート 3 で発生 0004Hex: ポート 4 で発生		
注意点／備考	なし		

イベント名	デバイスイベント（ワーニングレベル）		**イベントコード**	84990000Hex	
内容	IO-Link デバイスでワーニングレベルのイベントが発生しました。				
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存	**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	監視情報	**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	異常解除。復旧できない場合は、IO-Link デバイスが異常を継続しているため、NX ユニットのリスタートをしてください。			
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	運転は継続します。 IO-Link デバイスからの受信データは正しくない可能性があります。	
システム定義変数	**変数名**		**データ型**	**名称**	
	なし		―	―	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**	**再発防止**	
	CX-ConfiguratorFDT を使用し、IO-Link デバイスの IO-Link イベントコードを確認してください。		IO-Link デバイスの IO-Link イベントコードから対策を確認してください。	IO-Link デバイスの IO-Link イベントコードから再発防止策を確認してください。	
付属情報	付属情報 1: 異常が発生したポート 0001Hex: ポート 1 で発生 0002Hex: ポート 2 で発生 0003Hex: ポート 3 で発生 0004Hex: ポート 4 で発生				
注意点／備考	なし				

イベント名	IO-Link デバイス構成情報作成		**イベントコード**	84950000Hex	
内容	IO-Link デバイスの構成情報を作成しました。				
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存	**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	一般情報	**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	―			
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし	
システム定義変数	**変数名**		**データ型**	**名称**	
	なし		―	―	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**	**再発防止**	
	IO-Link デバイスの構成情報を作成した。		―	―	
付属情報	なし				
注意点／備考	なし				

イベント名	I/O 電源 ON 検知		**イベントコード**	84980000Hex	
内容	I/O 電源の投入を複数回検知しました。				
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存	**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	常時
異常の属性	**重要度**	一般情報	**ログカテゴリ**	システム	
	復旧方法	−			
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし。	
システム定義変数	**変数名**		**データ型**	**名称**	
	なし		−	−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**	**再発防止**	
	I/O 電源の投入を複数回検知しました。I/O 電源が不安定な可能性があります。		−	−	
付属情報	なし				
注意点／備考	なし				

イベント名	イベントログのクリア		**イベントコード**	90400000Hex	
内容	イベントログをクリアしました。				
発生源	サポートソフトの接続先とシステム構成に依存	**発生源詳細**	NX ユニット	**検出タイミング**	ユーザからの指示時
異常の属性	**重要度**	一般情報	**ログカテゴリ**	アクセス	
	復旧方法	−			
発生の影響	**ユーザプログラム**	継続	**動作**	影響なし。	
システム定義変数	**変数名**		**データ型**	**名称**	
	なし		−	−	
発生要因とその処置	**発生要因（推定原因）**		**処置対策**	**再発防止**	
	ユーザがイベントログをクリアした。		−	−	
付属情報	付属情報 1:クリア対象 1: システムイベントログをクリア 2: アクセスイベントログをクリア				
注意点／備考	なし				

オムロン株式会社 インダストリアルオートメーションビジネスカンパニー

製品に関するお問い合わせ先

お客様相談室

フリー通話 **0120-919-066**（クイック　オムロン）

携帯電話の場合、

055-982-5015（有料）をご利用ください。

受付時間：9:00～17:00（土・日・12/31～1/3を除く）

オムロンFAクイックチャット

www.fa.omron.co.jp/contact/tech/chat/

技術相談員にチャットでお問い合わせいただけます。（I-Webメンバーズ限定）

受付時間：平日9:00～12:00 / 13:00～17:00（土日祝日・年末年始・当社休業日を除く）

※受付時間、営業日は変更の可能性がございます。最新情報はリンク先をご確認ください。

その他のお問い合わせ：納期・価格・サンプル・仕様書は貴社のお取引先、または貴社担当オムロン販売員にご相談ください。オムロン制御機器販売店やオムロン販売拠点は、Webページでご案内しています。

オムロン制御機器の最新情報をご覧いただけます。緊急時のご購入にもご利用ください。 **www.fa.omron.co.jp**

本誌には主に機種のご選定に必要な内容を掲載しており、ご使用上の注意事項等を掲載していない製品も含まれています。
本誌に注意事項等の掲載のない製品につきましては、ユーザーズマニュアル掲載のご使用上の注意事項等、ご使用の際に必要な内容を必ずお読みください。

- ●本誌に記載の標準価格はあくまで参考であり、確定されたユーザ購入価格を表示したものではありません。本誌に記載の標準価格には消費税が含まれておりません。
- ●本誌にオープン価格の記載がある商品については、標準価格を決めていません。
- ●本誌に記載されているアプリケーション事例は参考用ですので、ご採用に際しては機器・装置の機能や安全性をご確認の上、ご使用ください。
- ●本誌に記載のない条件や環境での使用、および原子力制御・鉄道・航空・車両・燃焼装置・医療機器・娯楽機械・安全機器、その他人命や財産に大きな影響が予測されるなど、特に安全性が要求される用途に使用される際には、当社の意図した特別な商品用途の場合や特別の合意がある場合を除き、当社は当社商品に対して一切保証をいたしません。
- ●本製品の内、外国為替及び外国貿易法に定める輸出許可、承認対象貨物（又は技術）に該当するものを輸出（又は非居住者に提供）する場合は同法に基づく輸出許可、承認（又は役務取引許可）が必要です。
- ●規格認証/適合対象機種などの最新情報につきましては、当社Webサイト（www.fa.omron.co.jp）の「規格認証/適合」をご覧ください。

オムロン商品のご用命は

カタログ番号 SBCA-489B　2024年7月現在

©OMRON Corporation 2021-2024 All Rights Reserved.
お断りなく仕様などを変更することがありますのでご了承ください